科目名	法学の基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	孟　慶廉	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法学を学ぶための基礎知識・基本技法を習得する。		
授業の目的及び概要	法学部で学んでいくために必要となる基本的な知識を学習します。身に着けた知識を用いて、憲法、刑法、民法の入門書を自力で読んでいけることを目標とします。 また、法学部で学んでいく際に必要となる、法的三段論法の技法を中心に、基本的な法解釈・法適用について身に着けることも目標とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①法学の基礎的（ベーシック）な用語・概念を他者にわかりやすく説明することができる。 ②法律科目の授業についていくために必要なツール（六法など）を使うことができる。 ③憲法、刑法、民法の基本的な概念を理解し、それぞれの科目で自主的・主体的に学修を進めることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストは採点したうえで講評を行い、講義内で解説等を実施する。また、希望者には得点を開示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ポケット六法 令和８年版，森田・小泉・石川編，有斐閣，2025 年 ②条文の読み方 第 2 版，法制執務・法令用語研究会，有斐閣，2021 年	ISBN	①978-4641009264 ②978-4641126268
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	40
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	
	法学は、日常生活になじみのない専門用語が沢山出てきます。学生諸君は、初めは戸惑うかもしれませんが、この科目の学修は、法学の学修や社会生活において必ず役に立ちます。ですから、まず、授業には出席してください。それから、予習・復習をしてください。あせらずに、やってください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、法律学の世界 （法的三段論法、法解釈）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間

第２回	対面	民事裁判制度、刑事裁判制度 （三審制、最高裁、判例検索方法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第３回	対面	立法過程、法形式、法の適用範囲 （二院制、内閣法制局、法律用語の基本）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	憲法①　違憲審査制、法の支配 （最高法規性、自然権、法律上の争訟）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第５回	対面	憲法②　三権分立 （国民主権、司法権、大津事件）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第６回	対面	憲法③　事例 （警察予備隊、砂川事件、統治行為論）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第７回	対面	刑法①　犯罪論、死刑制度 （応報刑、一般予防、罪刑法定主義）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第８回	対面	刑法②　刑事法の判断プロセス （構成要件該当性、違法性、責任）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第９回	対面	刑法③　事例 （殺人罪と傷害致死罪）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１０回	対面	中間テスト①	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１１回	対面	民法①　民法の基礎概念 （権利能力、物、私的自治の原則、契約自由の原則）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１２回	対面	民法②　物権法・債権法の基礎 （所有権絶対の原則、物権法定主義、債権の相対性）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１３回	対面	民法③　不法行為、事例 （過失責任主義、一般法・特別法、PL 法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１４回	対面	中間テスト②	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間

科目名	法学の基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法学を学ぶための基礎知識・基本技法を習得する。		
授業の目的及び概要	法学部で学んでいくために必要となる基本的な知識を学習します。身に着けた知識を用いて、憲法、刑法、民法の入門書を自力で読んでいけることを目標とします。 また、法学部で学んでいく際に必要となる、法的三段論法の技法を中心に、基本的な法解釈・法適用について身に着けることも目標とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①法学の基礎的（ベーシック）な用語・概念を他者にわかりやすく説明することができる。 ②法律科目の授業についていくために必要なツール（六法など）を使うことができる。 ③憲法、刑法、民法の基本的な概念を理解し、それぞれの科目で自主的・主体的に学修を進めることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストは採点したうえで講評を行い、講義内で解説等を実施する。また、希望者には得点を開示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ポケット六法 令和８年版，森田・小泉・石川編，有斐閣，2025 年 ②条文の読み方 第 2 版，法制執務・法令用語研究会，有斐閣，2021 年	ISBN	①978-4641009264 ②978-4641126268
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	40
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	
	法学は、日常生活になじみのない専門用語が沢山出てきます。学生諸君は、初めは戸惑うかもしれませんが、この科目の学修は、法学の学修や社会生活において必ず役に立ちます。ですから、まず、授業には出席してください。それから、予習・復習をしてください。あせらずに、やってください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、法律学の世界 （法的三段論法、法解釈）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間

第２回	対面	民事裁判制度、刑事裁判制度 （三審制、最高裁、判例検索方法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第３回	対面	立法過程、法形式、法の適用範囲 （二院制、内閣法制局、法律用語の基本）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	憲法①　違憲審査制、法の支配 （最高法規性、自然権、法律上の争訟）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第５回	対面	憲法②　三権分立 （国民主権、司法権、大津事件）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第６回	対面	憲法③　事例 （警察予備隊、砂川事件、統治行為論）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第７回	対面	刑法①　犯罪論、死刑制度 （応報刑、一般予防、罪刑法定主義）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第８回	対面	刑法②　刑事法の判断プロセス （構成要件該当性、違法性、責任）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第９回	対面	刑法③　事例 （殺人罪と傷害致死罪）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１０回	対面	中間テスト①	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１１回	対面	民法①　民法の基礎概念 （権利能力、物、私的自治の原則、契約自由の原則）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１２回	対面	民法②　物権法・債権法の基礎 （所有権絶対の原則、物権法定主義、債権の相対性）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１３回	対面	民法③　不法行為、事例 （過失責任主義、一般法・特別法、PL 法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１４回	対面	中間テスト②	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間

科目名	法学の基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	杉本　拓海	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法学を学ぶための基礎知識・基本技法を習得する。		
授業の目的及び概要	法学部で学んでいくために必要となる基本的な知識を学習します。身に着けた知識を用いて、憲法、刑法、民法の入門書を自力で読んでいけることを目標とします。 また、法学部で学んでいく際に必要となる、法的三段論法の技法を中心に、基本的な法解釈・法適用について身に着けることも目標とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①法学の基礎的（ベーシック）な用語・概念を他者にわかりやすく説明することができる。 ②法律科目の授業についていくために必要なツール（六法など）を使うことができる。 ③憲法、刑法、民法の基本的な概念を理解し、それぞれの科目で自主的・主体的に学修を進めることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストは採点したうえで講評を行い、講義内で解説等を実施する。また、希望者には得点を開示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ポケット六法 令和８年版，森田・小泉・石川編，有斐閣，2025 年 ②条文の読み方 第 2 版，法制執務・法令用語研究会，有斐閣，2021 年	ISBN	①978-4641009264 ②978-4641126268
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	40
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	
	法学は、日常生活になじみのない専門用語が沢山出てきます。学生諸君は、初めは戸惑うかもしれませんが、この科目の学修は、法学の学修や社会生活において必ず役に立ちます。ですから、まず、授業には出席してください。それから、予習・復習をしてください。あせらずに、やってください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、法律学の世界 （法的三段論法、法解釈）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間

第２回	対面	民事裁判制度、刑事裁判制度 （三審制、最高裁、判例検索方法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第３回	対面	立法過程、法形式、法の適用範囲 （二院制、内閣法制局、法律用語の基本）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	憲法①　違憲審査制、法の支配 （最高法規性、自然権、法律上の争訟）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第５回	対面	憲法②　三権分立 （国民主権、司法権、大津事件）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第６回	対面	憲法③　事例 （警察予備隊、砂川事件、統治行為論）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第７回	対面	刑法①　犯罪論、死刑制度 （応報刑、一般予防、罪刑法定主義）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第８回	対面	刑法②　刑事法の判断プロセス （構成要件該当性、違法性、責任）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第９回	対面	刑法③　事例 （殺人罪と傷害致死罪）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１０回	対面	中間テスト①	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１１回	対面	民法①　民法の基礎概念 （権利能力、物、私的自治の原則、契約自由の原則）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１２回	対面	民法②　物権法・債権法の基礎 （所有権絶対の原則、物権法定主義、債権の相対性）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１３回	対面	民法③　不法行為、事例 （過失責任主義、一般法・特別法、PL 法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１４回	対面	中間テスト②	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間

科目名	法学の基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	孟　慶廉	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法学を学ぶための基礎知識・基本技法を習得する。		
授業の目的及び概要	法学部で学んでいくために必要となる基本的な知識を学習します。身に着けた知識を用いて、憲法、刑法、民法の入門書を自力で読んでいけることを目標とします。 また、法学部で学んでいく際に必要となる、法的三段論法の技法を中心に、基本的な法解釈・法適用について身に着けることも目標とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①法学の基礎的（ベーシック）な用語・概念を他者にわかりやすく説明することができる。 ②法律科目の授業についていくために必要なツール（六法など）を使うことができる。 ③憲法、刑法、民法の基本的な概念を理解し、それぞれの科目で自主的・主体的に学修を進めることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストは採点したうえで講評を行い、講義内で解説等を実施する。また、希望者には得点を開示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①ポケット六法 令和８年版，森田・小泉・石川編，有斐閣，2025 年 ②条文の読み方 第 2 版，法制執務・法令用語研究会，有斐閣，2021 年	ISBN	①978-4641009264 ②978-4641126268
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	40
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	法学は、日常生活になじみのない専門用語が沢山出てきます。学生諸君は、初めは戸惑うかもしれませんが、この科目の学修は、法学の学修や社会生活において必ず役に立ちます。ですから、まず、授業には出席してください。それから、予習・復習をしてください。あせらずに、やってください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	ガイダンス、法律学の世界 （法的三段論法、法解釈）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間

第２回	オンデマンド	民事裁判制度、刑事裁判制度 （三審制、最高裁、判例検索方法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第３回	オンデマンド	立法過程、法形式、法の適用範囲 （二院制、内閣法制局、法律用語の基本）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第４回	オンデマンド	憲法①　違憲審査制、法の支配 （最高法規性、自然権、法律上の争訟）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第５回	オンデマンド	憲法②　三権分立 （国民主権、司法権、大津事件）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第６回	オンデマンド	憲法③　事例 （警察予備隊、砂川事件、統治行為論）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第７回	オンデマンド	刑法①　犯罪論、死刑制度 （応報刑、一般予防、罪刑法定主義）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第８回	オンデマンド	刑法②　刑事法の判断プロセス （構成要件該当性、違法性、責任）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第９回	オンデマンド	刑法③　事例 （殺人罪と傷害致死罪）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１０回	オンデマンド	中間テスト①	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１１回	オンデマンド	民法①　民法の基礎概念 （権利能力、物、私的自治の原則、契約自由の原則）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１２回	オンデマンド	民法②　物権法・債権法の基礎 （所有権絶対の原則、物権法定主義、債権の相対性）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１３回	オンデマンド	民法③　不法行為、事例 （過失責任主義、一般法・特別法、PL 法）	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１４回	オンデマンド	中間テスト②	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ	①予習；配布資料を事前に読んで疑問点を確認すること（2 時間）。 ②復習；講義資料を確認し要点を確認すること（2 時間）。	4 時間

科目名	政治学入門	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	山口　治男	配当年次	12
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政治の仕組みを理論的な基礎と具体的な社会から学ぶ		
授業の目的及び概要	日々耳にするニュースからは、日本や世界の政治に関する多くの情報が流れてきます。しかし、多くの問題が起きているにも関わらず、なぜ社会や政治の問題は解決しないのでしょうか？私たちは今、本当に自分たちが望む社会や国の形を作れているでしょうか？ 　この講義では、それらの疑問について自分の頭で考え自分の意見を持てるように、これからの社会で生きていくための基礎知識としての政治学を学びます。そのために現代の様々な時事問題を取り上げつつ、具体的な社会に即して政治について考えられるようになることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1.政治学という観点から、日本の社会や政治についての基礎知識を身につける。 2.日本でいま起きている事柄についての知識を深め、自分自身の意見を持ち、論述できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中および前後の質問を積極的に受け付けることで、講義内容への理解を深めるとともに、関心に合わせて議論を広げられるようにしていく。また、そこで議論した内容については適宜教室全体へフィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない。予復習のための参考文献は、講義内容に応じて毎回の講義で指示する。	ISBN	なし
参考書	毎回の講義で、当日の講義内容をより深く学ぶための参考文献を数冊指示する。全体としての参考文献としては以下を指定する。 『はじめての政治学』，佐藤史郎編，法律文化社，2021 年	ISBN	9784589041425

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	日々触れるニュースは、「なんとなく大事」だと思っていても、実際にそれがどのような問題を持っているのか、自分にどう関係しているのかが分かりにくいものも多いです。 それらを自分の目で見て、自分の頭で考えられるようにしていきましょう。興味を持ったテーマについては、その日のテーマと関連していないように思えても、積極的に質問してみてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	講義の概要と導入	事前学習として、シラバスをよく読み講義の方向性について把握しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。授業後に、政治概念の一般的な定義とこの講義での定義の違いを区別し、まとめておく。	4 時間
第２回	対面	政治における権力と自由の関係性を学ぶ	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。権力とは何かを学術的に説明し、その実例について調べ考察を加える。	4 時間
第３回	対面	政治における透明性について学ぶ	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。権力と政治の関係について整理し、なぜ透明性が重要なのかを理解し記述できるようにする。	4 時間
第４回	対面	立憲主義について学ぶ	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。政治について考える上でなぜ憲法が重要なのかを前回の権力との関連で理解し、まとめる。	4 時間
第５回	対面	立憲主義の具体的事例の考察	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。現代の日本の問題に対して前回の立憲主義の意義と問題点を整理し考察する。	4 時間
第６回	対面	日本の安全保障と政治の関係について学ぶ	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。現在の日本の安全保障に関して具体的な問題をニュースから読み取り、自分の考えを持つ。	4 時間
第７回	対面	日本の安全と世界の安全保障について学ぶ	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。国際関係の中で日本が置かれている安全保障環境について前回の内容を踏まえて考察を加える。	4 時間
第８回	対面	三権分立について学ぶ	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。日本の政治の基本的な仕組みである三権分立について、その意義を政治という観点から理解し論述できるようにする	4 時間
第９回	対面	行政の仕組みについて学ぶ	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。行政と政治の関係の理解を深め、その具体的事例について考察する。	4 時間
第１０回	対面	立法の仕組みについて学ぶ	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。立法の重要性を政治という観点から理解し、その現状についてニュースを通じて考察する。	4 時間
第１１回	対面	政党政治について学ぶ	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習と	4 時間

			して、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。政党の仕組みの基礎を理解し、その意義と問題点についてまとめる。	
第１２回	対面	政治意識と政治文化について学ぶ	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。政治意識と政治文化の区別を踏まえ、日本特有の政治文化について考察を加える。	4 時間
第１３回	対面	メディアと政治の関係について学ぶ	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。前回の政治文化についての理解を踏まえ、日本においてメディアが果たす役割の考察を深める。	4 時間
第１４回	対面	日本の政治と、私たちの政治を考える	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。これまでの講義内容全体を踏まえ、入り口であった「政治」の意味について理解を深め、日本の実例を通じて論理的に考察しレポートにまとめる。	4 時間
第１５回	オンデマンド	レポートに向けたまとめと補足	事前学習として、これまでの具体的事例のポイントについてまとめた上で自身が関心のある事例について候補を考えておく。事後学習として、アカデミック・ライティングの大原則をしっかりと復習し、準備を進めてる。また、考察の前提となる教科書的な政治の仕組みについての基礎を固めておく。	4 時間

科目名	経済学入門	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	木下　英雄	配当年次	12
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	初めて経済学を学ぶ学生を対象に，経済学の基礎を説明する。		
授業の目的及び概要	本講義は，法学部生の皆さんに，「経済」の現象に関心を持ってもらうことを目的としています。また，経済学を学ぶために必要な基本的な知識をつけることも目的としています。経済学の基礎を学びながら，私たちの身の回りで起きている問題について考えていきます。また，講義内容の理解を深めるために問題演習を実施します。		
履修条件・留意点	期末試験の問題の 60%以上は、Learning Portal のテスト欄との類似問題を出す予定です。 残りは、「国民生活の改善のためには、どのような経済政策が望ましいか、現在の政府は、どのような政策を行っていて、それは、どのような観点からは望ましい政策で、国民生活改善と言う観点から見て望ましい経済政策と言えるかどうか」と言う点に関する問題を出す可能性が大きくなるでしょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この科目の目標は，以下の通り設定しています。 （1）経済学で用いられる基礎用語について理解し，説明することができる。 （2）市場メカニズムの働きとその限界について説明することができる。 （3）授業で紹介した経済現象や経済問題について，自身の意見を述べることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	問題演習については，Learning Portal のテスト欄で解答・解説を公開します。 期末試験については，Learning Portal で解答・解説を公開します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	アクティブ・ラーニングで学ぶ日本の経済，根岸毅宏・中泉真樹編著，東洋経済新報社，2021 年	ISBN	9784492315347
参考書	①ろけっとぽっぽー＆ホッホー博士と学ぶミクロ経済学入門 「市場」ってなんだろう？，竹内建蔵，有斐閣，2021 年 ②ミクロ経済学の基礎（ベーシック+），小川 光・家森信善，中央経済社，2016 年 ③マクロ経済学の基礎（ベーシック+）第 2 版，家森信善，中央経済社，2021 年	ISBN	①9784641165908 ②9784502179518 ③9784502371318

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	国民生活の改善のためには、どのような経済政策が望ましいか、現在の政府は、どのような政策を行っていて、それは、どのような観点からは望ましい政策で、国民生活改善と言う観点から見て望ましい経済政策と言えるかどうかよく考えてみましょう。 2001 年にノーベル経済学賞を受賞し、世界で最も多くの経済学教科書を出版しているスティグ

	リッツは、「経済学者の見解は、人により異なる。それは自然科学と同様、政策のもたらす結果など、認識の相違によるものもあるが、他の社会科学とも同様だが、自然科学と異なり、価値観の相違によることも多い」と述べています。価値観は、社会においてどのような地位、立場に置かれているかによって異なります。テレビでよく出演する経済学者のうちの多くはどのような立場の人たちの代弁をしているか、よく考えることは大変重要です。一番大切なことは、経済政策について経済学者の言うことをそのまま信じるのではなく、自分の頭で、自分、あるいは国民大多数の利益にとって望ましい政策はどのような政策か、自分の頭でよく考えることです。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：授業の概要や到達目標についてのガイダンスを行います。また，経済とは何かについて説明します。	【予習】：シラバスと講義資料を事前に読んで，基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第 1 章と授業で配布した資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	4 時間
第２回	対面	市場経済（需要と供給，市場メカニズム）について学びます。	【予習】：テキスト第 2 章を事前に読んで，基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第 2 章と授業で配布した資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	4 時間
第３回	対面	市場経済の長所（市場の重要性）と短所（「市場の失敗」）について学びます。	【予習】：テキスト第 3 章を事前に読んで，基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第 3 章と授業で配布した資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	4 時間
第４回	対面	経済の大きさを測る GDP について学びます。	【予習】：テキスト第 4 章を事前に読んで，基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第 4 章と授業で配布した資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	4 時間
第５回	対面	GDP がどのようにして決まるのかを学びます。	【予習】：テキスト第 5 章を事前に読んで，基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第 5 章と授業で配布した資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	4 時間
第６回	対面	企業の役割について学びます。	【予習】：テキスト第 6 章を事前に読んで，基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第 6 章と授業で配布した資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	4 時間
第７回	対面	前半のまとめと中間テストを行います。	【予習】:テキスト第 1 章から第 6 章を事前に読んで，基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第 1 章から第 6 章と授業で配布した資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	4 時間
第８回	対面	会計の役割について学びます。	【予習】：テキスト第 7 章を事前に読んで，基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第 7 章と授業で配布した資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	4 時間
第９回	対面	雇用について市場経済の仕組みから学びます。	【予習】：テキスト第 8 章を事前に読んで，基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第 8 章と授業で配布した資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	4 時間
第１０回	対面	日本的雇用慣行の特徴と問題点について学びます。	【予習】：テキスト第 9 章を事前に読んで，基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第 9 章と授業で配布した資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	4 時間
第１１回	対面	貨幣の役割と金融の基本的な仕組みについて学びます。	【予習】:テキスト第 10 章を事前に読んで，基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第 10 章を授業で配布した資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	4 時間
第１２回	対面	日本銀行の基本的な業務と金融政策について学びます。	【予習】:テキスト第 11 章を事前に読んで，基本的な内容について予習してください。	4 時間

			【復習】：テキスト第 11 章と授業で配布した資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	
第１３回	対面	政府の役割と財政の基礎について学びます。	【予習】：テキスト第 12 章を事前に読んで，基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第 12 章と授業で配布した資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	4 時間
第１４回	対面	輸出･輸入の役割と為替相場について学びます。	【予習】：テキスト第 13 章を事前に読んで，基本的な内容について予習してください。 【復習】：テキスト第 13 章と授業で配布した資料を読み直し，授業内容の復習をしてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	講義内容のまとめ	【予習】：これまでのテキストおよび配布資料を読んで理解できなかったところをまとめておいてください。 【復習】：授業で示されたポイントを中心に，定期試験に備えて総復習を行ってください。	4 時間

科目名	戦後法制史	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉原　裕樹	配当年次	12
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法判例を通じて見る戦後日本法制史		
授業の目的及び概要	実定法科目にて判例を取り扱う場合、抽象的な法解釈論の部分に重点が置かれることが多い。その半面、判例のうち、事実関係（いわゆる立法事実を含む。以下同じ）それ自体について立ち入った検討をすることは、授業時間の制約上、容易ではない。 しかし、判例のなかには、その時代の社会・政治・経済について、重要な判示をしているものも少なくない。特に憲法判例は、学生運動・労働組合活動などの社会的事象、自衛隊や安全保障をめぐる政治的事象、独占的企業の成長と地域経済の衰退などの経済的事象などに関して、重要な判示を含むことが少なくない。 そこで本科目では、戦後日本の憲法判例のうち、その時代の社会・政治・経済を色濃く反映し、これらに関する重要な判示を含むものを取り上げ、その分析を通じて、戦後日本法制史を読み解く。 本科目では、講義形式と双方向・多方向型授業とを併用する。本科目では、毎回、受講生が判例を予習していることを前提として、担当教員が受講生に対し、判例の内容（その時代の社会・政治・経済に関する部分など）について質問する。 本科目は受講生が、戦後日本の憲法判例にあらわれた、社会・政治・経済等に関する時代的背景を理解したうえで、理解した内容を的確に表現できるようになることを目指す。		
履修条件・留意点	「憲法Ⅰ＜憲法概論＞」の授業と教科書の内容を十分に理解し、「憲法Ⅰ＜憲法概論＞」の単位を取得済みであることを前提とする。 また、できるかぎり、「憲法 II（人権）＜憲法学Ⅰ＞」を履修するか、授業外での自修等により、「憲法 II（人権）＜憲法学Ⅰ＞」の内容を理解していることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	戦後日本の憲法判例にあらわれた、社会・政治・経済等に関する時代的背景を理解している。【ＤＰ１】【ＤＰ２】 そのうえで、理解した内容を的確に、口頭で説明し、文章として筆記することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向型・多方向型のやりとりにより、受講生の理解と考察を深める。 定期試験実施後、その講評等を提供する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない。	ISBN	指定しない。
参考書	①「戦後憲法学」の群像，鈴木敦ほか編，弘文堂，2021 年 ②日本国憲法のお誕生，江橋崇，有斐閣，2020 年 ③概説日本法制史（第２版），出口雄一ほか編著，弘文堂，2023 年 ④日本法史から何がみえるか，高谷知佳ほか編著，有斐閣，2018 年 ⑤戦後法制改革と占領管理体制，出口雄一，慶應義塾大学出版会，2017 年 ①は、戦後日本における憲法学説の展開を、東大学派・	ISBN	①9784335358180 ②9784641227965 ③9784335359545 ④9784641125971 ⑤9784766424331

	京大学派・保守派憲法学などの潮流ごとに論ずるものである。 ②は、日本国憲法の制定過程だけでなく、それが日本社会においてどのように受けとめられたかを、豊富な史料とともに紹介するものである。 ③・④は、戦後法制史に限らず、日本法制史全体を概観する概説書である。 ⑤は、戦後初期の日本法制史を取り扱う研究書である。専門性が高いが、特に発展的な学修を志望する学生は挑戦していただきたい。		

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	本科目では、毎回、受講生が判例を予習していることを前提として、担当教員が受講生に対し、判例の内容（その時代の社会・政治・経済に関する部分など）について質問する。そのため、受講生は毎回、十分な予習が必要である。 受講人数・受講生の学修状況等に応じて、中間試験・中間レポートなどを実施する場合がある。実施した場合、成績評価に反映する。詳細は授業中に説明する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	宗教とテロリズムの戦後日本法制史 最一小決平成 8 年（1996 年）1 月 30 日民集 50 巻 1 号 199 頁 （オウム真理教解散命令事件） https://www.courts.go.jp/hanrei/55883/detail2/index.html	左記判例を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第２回	対面	戦前の軍国主義に向き合う戦後日本法制史 最二小判平成 23 年（2011 年）5 月 30 日民集 65 巻 4 号 1780 頁 （君が代訴訟） https://www.courts.go.jp/hanrei/81351/detail2/index.html	左記判例を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第３回	対面	貧困と福祉国家の戦後日本法制史 最大判昭和 42 年（1967 年）5 月 24 日民集 21 巻 5 号 1043 頁 （朝日訴訟） https://www.courts.go.jp/hanrei/54970/detail2/index.html	左記判例を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第４回	対面	学問上の論争と社会との関係をめぐる戦後日本法制史 最大判令和 3 年（2021 年）2 月 24 日民集 75 巻 2 号 29 頁 （孔子廟訴訟） https://www.courts.go.jp/hanrei/90039/detail2/index.html	左記判例を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第５回	対面	公害・環境問題をめぐる戦後日本法制史 最大判昭和 56 年（1981 年）12 月 16 日民	左記判例を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間

		集 35 巻 10 号 1369 頁 （大阪空港訴訟） https://www.courts.go.jp/hanrei/54227/detail2/index.html		
第６回	対面	戦後憲法（学）の闇 最大判令和 6 年（2024 年）7 月 3 日民集 78 巻 3 号 382 頁 （優生保護法訴訟） https://www.courts.go.jp/hanrei/93159/detail2/index.html	左記判例を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第７回	対面	教育と政治の戦後日本法制史１ 最大判昭和 51 年（1976 年）5 月 21 日刑集 30 巻 5 号 615 頁 （旭川学テ事件） https://www.courts.go.jp/hanrei/57016/detail2/index.html	左記判例を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第８回	対面	教育と政治の戦後日本法制史２ 最三小判平成 5 年（1993 年）3 月 16 日民集 47 巻 5 号 3483 頁 （教科書裁判〔第１次〕） https://www.courts.go.jp/hanrei/56358/detail2/index.html	左記判例を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第９回	対面	企業と政治の戦後日本法制史 最大判昭和 48 年（1973 年）12 月 12 日民集 27 巻 11 号 1536 頁 （三菱樹脂事件） https://www.courts.go.jp/hanrei/51931/detail2/index.html	左記判例を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１０回	対面	権力分立と権力集中をめぐる戦後日本法制史 最大判平成 7 年（1995 年）2 月 22 日刑集 49 巻 2 号 1 頁 （ロッキード事件〔丸紅ルート〕） https://www.courts.go.jp/hanrei/50355/detail2/index.html	左記判例を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１１回	対面	安全保障をめぐる戦後日本法制史１ 最大判昭和 34 年（1959 年）12 月 16 日刑集 13 巻 13 号 3225 頁 （砂川事件） https://www.courts.go.jp/hanrei/55816/detail2/index.html	左記判例を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１２回	対面	安全保障をめぐる戦後日本法制史２ 最大判昭和 27 年（1952 年）10 月 8 日民集 6 巻 9 号 783 頁 （警察予備隊違憲訴訟） https://www.courts.go.jp/hanrei/57366/detail2/index.html	左記判例を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１３回	対面	国際化・科学技術の発展をめぐる戦後日本法制史 最大判平成 17 年（2005 年）9 月 14 日民集 59 巻 7 号 2087 頁 （在外日本国民選挙権訴訟） https://www.courts.go.jp/hanrei/52338/detail2/index.html	左記判例を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１４回	対面	裁判制度の戦後日本法制史 最大判平成 23 年（2011 年）11 月 16 日刑集 65 巻 8 号 1285 頁	左記判例を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間

		（裁判員制度合憲判決） https://www.courts.go.jp/hanrei/81769/detail2/index.html		
第１５回	オンデマンド	定期試験（期末試験）に向けた総括	これまでの授業内容の復習、定期試験（期末試験）に向けた学修	4 時間

科目名	戦後法制史	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	謝　政徳	配当年次	12
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	日本現代法体制の成立と展開		
授業の目的及び概要	本講義では、現代法体制の成立と展開について概観します。具体的には、重要と思われれる現代の諸制度について、戦後改革期において現代法体制の出発点である戦前の法がどのように改正されたかを踏まえて、その成立と展開過程を考察します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本近現代法史に関する基礎的な知識を修得するとともに、現代社会と法との関係を多面的にとらえる思考を身につけることができます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを不定期に実施し、受講者の授業に対する疑問や意見を確認します。これに対して授業中で説明します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。授業は、事前に「ラーニングポータル」にアップするレジュメに基づいて行います。授業を受ける前に、必ず入手し、事前に熟読しておいてください。	ISBN	当該なし
参考書	①『日本現代法史論』山中永之佑編（法律文化社、2010 年） ②『日本近現代法史・資料年表［第 2 版］』藤田正・吉井蒼生夫他（信山社、2015 年）	ISBN	①9784589032393 ②9784797223460

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	法の形成・展開の歴史を学ぶことは、現代日本法が前提とする法理念の理解を深めることに役立ちます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	現代法史体制の概観（授業ガイダンスを含む）	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第２回	対面	統治機構の再編と官僚制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。	4 時間

			「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	
第３回	対面	日本国憲法の制定について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第４回	対面	地方自治法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第５回	対面	学校・教育法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第６回	対面	刑法と治安法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第７回	対面	司法制度と司法改革について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第８回	対面	訴訟法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第９回	対面	土地法制について	授業前に、講義資料をよく読み、授業内容について確認・理解してから授業に参加して下さい。 授業後に、講義資料のなかで問われた問題について、授業内容を踏まえて復習して下さい。	4 時間
第１０回	対面	家族法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	労働法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１２回	対面	環境法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	社会保障法制について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	日本人の法意識論について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	全体のまとめと定期試験に向けた勉強の仕方について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	川浪　隆之	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学４年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2）インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3）情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4）キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5）プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6）ワープロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7）表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講　基礎と実践」　岩田順敬、宮崎裕　学術図書出版　2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。４年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	1）ガイダンス 2）本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1)：Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス（Microsoft/Office365）等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第２回	対面	1）学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2)：学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365（Outlook、OneDrive 等）、情報検索と図書館蔵書検索 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第３回	対面	1）学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3)： 2）Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定してたタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第４回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第５回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第６回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第７回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　1 回目 教科書　第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第８回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　2 回目 教科書　第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第 5 講の操作を復習しておくと良い。	
第９回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　3 回目 教科書　第 6 講	○事前学修 ・テキストの第 6 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 6 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１０回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 7 講	○事前学修 ・テキストの第 7 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 7 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１１回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 8 講	○事前学修 ・テキストの第 8 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 8 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１２回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 9 講	○事前学修 ・テキストの第 9 を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 9 の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１３回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4 時間
第１４回	対面	オンデマンド講義（ELSI の基礎知識） ・テキストの第 10~13 講を事前に確認しておくと良い。 課題を仕上げて提出	○事前学修 ・テキストの第 10~13 講を事前に確認しておくとよい。 ○事後学修 ・すべての問題に正答できるようにする。わからないところがあれば、担当教員に teams などを用いて質問する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1）総合演習課題 2）情報モラル＆情報セキュリティ課題の提出 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	宮崎　裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学４年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2）インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3）情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4）キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5）プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6）ワープロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7）表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講　基礎と実践」　岩田順敬、宮崎裕　学術図書出版　2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。４年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	1）ガイダンス 2）本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1)：Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス（Microsoft/Office365）等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第２回	対面	1）学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2)：学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365（Outlook、OneDrive 等）、情報検索と図書館蔵書検索 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第３回	対面	1）学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3)： 2）Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定してたタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第４回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第５回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第６回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第７回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　1 回目 教科書　第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第８回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　2 回目 教科書　第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第 5 講の操作を復習しておくと良い。	
第９回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　3 回目 教科書　第 6 講	○事前学修 ・テキストの第 6 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 6 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１０回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 7 講	○事前学修 ・テキストの第 7 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 7 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１１回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 8 講	○事前学修 ・テキストの第 8 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 8 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１２回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 9 講	○事前学修 ・テキストの第 9 を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 9 の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１３回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4 時間
第１４回	対面	オンデマンド講義（ELSI の基礎知識） ・テキストの第 10~13 講を事前に確認しておくと良い。 課題を仕上げて提出	○事前学修 ・テキストの第 10~13 講を事前に確認しておくとよい。 ○事後学修 ・すべての問題に正答できるようにする。わからないところがあれば、担当教員に teams などを用いて質問する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1）総合演習課題 2）情報モラル＆情報セキュリティ課題の提出 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	川浪　隆之	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学４年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2）インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3）情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4）キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5）プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6）ワープロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7）表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講　基礎と実践」　岩田順敬、宮崎裕　学術図書出版　2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	30
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。４年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	1）ガイダンス 2）本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1)：Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス（Microsoft/Office365）等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第２回	対面	1）学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2)：学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365（Outlook、OneDrive 等）、情報検索と図書館蔵書検索 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第３回	対面	1）学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3)： 2）Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定してたタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第４回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第５回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第６回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第７回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　1 回目 教科書　第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第８回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　2 回目 教科書　第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第 5 講の操作を復習しておくと良い。	
第９回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　3 回目 教科書　第 6 講	○事前学修 ・テキストの第 6 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 6 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１０回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 7 講	○事前学修 ・テキストの第 7 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 7 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１１回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 8 講	○事前学修 ・テキストの第 8 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 8 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１２回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 9 講	○事前学修 ・テキストの第 9 を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 9 の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１３回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4 時間
第１４回	対面	オンデマンド講義（ELSI の基礎知識） ・テキストの第 10~13 講を事前に確認しておくと良い。 課題を仕上げて提出	○事前学修 ・テキストの第 10~13 講を事前に確認しておくとよい。 ○事後学修 ・すべての問題に正答できるようにする。わからないところがあれば、担当教員に teams などを用いて質問する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	1）総合演習課題 2）情報モラル＆情報セキュリティ課題の提出 3）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	宮崎　裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学４年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2）インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3）情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4）キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5）プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6）ワープロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7）表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講　基礎と実践」　岩田順敬、宮崎裕　学術図書出版　2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。４年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	1）ガイダンス 2）本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1)：Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス（Microsoft/Office365）等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第２回	対面	1）学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2)：学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365（Outlook、OneDrive 等）、情報検索と図書館蔵書検索 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第３回	対面	1）学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3)： 2）Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定してたタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第４回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第５回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第６回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第７回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　1 回目 教科書　第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第８回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　2 回目 教科書　第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第 5 講の操作を復習しておくと良い。	
第９回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　3 回目 教科書　第 6 講	○事前学修 ・テキストの第 6 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 6 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１０回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 7 講	○事前学修 ・テキストの第 7 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 7 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１１回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 8 講	○事前学修 ・テキストの第 8 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 8 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１２回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 9 講	○事前学修 ・テキストの第 9 を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 9 の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１３回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4 時間
第１４回	対面	1）設定テーマについてレポート提出 2）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4 時間
第１５回	オンデマンド	プレゼンテーション実習のための資料作成	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを作成するための資料を集めておくこと	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宮崎　裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学４年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2）インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3）情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4）キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5）プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6）ワープロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7）表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講　基礎と実践」　岩田順敬、宮崎裕　学術図書出版　2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。４年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	1）ガイダンス 2）本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1)：Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス（Microsoft/Office365）等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第２回	対面	1）学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2)：学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365（Outlook、OneDrive 等）、情報検索と図書館蔵書検索 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第３回	対面	1）学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3)： 2）Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定してたタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第４回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第５回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第６回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第７回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　1 回目 教科書　第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第８回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　2 回目 教科書　第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第 5 講の操作を復習しておくと良い。	
第９回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　3 回目 教科書　第 6 講	○事前学修 ・テキストの第 6 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 6 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１０回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 7 講	○事前学修 ・テキストの第 7 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 7 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１１回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 8 講	○事前学修 ・テキストの第 8 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 8 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１２回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 9 講	○事前学修 ・テキストの第 9 を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 9 の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１３回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4 時間
第１４回	対面	1）設定テーマについてレポート提出 2）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4 時間
第１５回	オンデマンド	プレゼンテーション実習のための資料作成	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを作成するための資料を集めておくこと	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩見　真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学４年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2）インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3）情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4）キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5）プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6）ワープロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7）表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講　基礎と実践」　岩田順敬、宮崎裕　学術図書出版　2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。４年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	1）ガイダンス 2）本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1)：Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス（Microsoft/Office365）等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第２回	対面	1）学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2)：学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365（Outlook、OneDrive 等）、情報検索と図書館蔵書検索 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第３回	対面	1）学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3)： 2）Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定してたタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第４回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第５回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第６回	対面	Word を使った文書の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第７回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　1 回目 教科書　第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第８回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　2 回目 教科書　第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第 5 講の操作を復習しておくと良い。	
第９回	対面	Excel を使った表計算（全 3 回）　3 回目 教科書　第 6 講	○事前学修 ・テキストの第 6 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 6 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１０回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 7 講	○事前学修 ・テキストの第 7 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 7 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１１回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 8 講	○事前学修 ・テキストの第 8 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 8 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１２回	対面	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 9 講	○事前学修 ・テキストの第 9 を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 9 の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１３回	対面	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4 時間
第１４回	対面	1）設定テーマについてレポート提出 2）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4 時間
第１５回	オンデマンド	プレゼンテーション実習のための資料作成	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを作成するための資料を集めておくこと	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩見　真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学４年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2）インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3）情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4）キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5）プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6）ワープロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7）表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講　基礎と実践」　岩田順敬、宮崎裕　学術図書出版　2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。４年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	1）ガイダンス 2）本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1)：Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス（Microsoft/Office365）等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第２回	オンデマンド	1）学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2)：学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365（Outlook、OneDrive 等）、情報検索と図書館蔵書検索 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第３回	オンデマンド	1）学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3)： 2）Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定してたタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第４回	オンデマンド	Word を使った文書の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第５回	オンデマンド	Word を使った文書の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第６回	オンデマンド	Word を使った文書の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第７回	オンデマンド	Excel を使った表計算（全 3 回）　1 回目 教科書　第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第８回	オンデマンド	Excel を使った表計算（全 3 回）　2 回目 教科書　第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第 5 講の操作を復習しておくと良い。	
第９回	オンデマンド	Excel を使った表計算（全 3 回）　3 回目 教科書　第 6 講	○事前学修 ・テキストの第 6 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 6 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１０回	オンデマンド	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 7 講	○事前学修 ・テキストの第 7 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 7 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１１回	オンデマンド	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 8 講	○事前学修 ・テキストの第 8 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 8 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１２回	オンデマンド	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 9 講	○事前学修 ・テキストの第 9 を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 9 の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１３回	オンデマンド	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4 時間
第１４回	オンデマンド	1）設定テーマについてレポート提出 2）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4 時間
第１５回	オンデマンド	プレゼンテーション実習のための資料作成	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを作成するための資料を集めておくこと	4 時間

科目名	情報処理基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩見　真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	情報処理と ICT に関する基礎的な知識・スキルを習得し、情報リテラシー（情報活用能力）を養う。		
授業の目的及び概要	・本科目は、情報処理と ICT（情報通信技術）に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得を目的とする。これら能力は、これからの大学生活を送る上で基本となる「汎用的技能」であり、卒業後の仕事でも必須となる「就業力」といえる。例えば、大学では、特定のテーマについて調査し、レポートを作成後、プレゼンテーションを実施する。また、現代の情報化社会にあっては、あらゆる場面で ICT が利用され、利活用することが求められる。 ・本科目では、PC の基本操作に慣れるとともに、大学生活やビジネス現場で最も使われているワープロ、表計算、プレゼンテーション等の基本ソフトの「使い方」（操作知識とスキル）の基礎を修得する。また、本学の教学システム、関連した SNS（Social Networking Services）・クラウドサービス・メールサービスの利活用、図書館情報システム・インターネットを使った情報の検索方法、コンピュータ、情報通信ネットワーク、情報モラル・情報セキュリティ（IT パスポート出題内容）についても学修する。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・本科目の到達目標は、大学４年間及び入社時に最低限必要となる ICT（情報通信技術）・情報処理に関する基礎的な知識とスキル、情報リテラシー（情報活用能力）の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）PC を操作し、本学の教学システム、関連した SNS やクラウドサービスを適切に利用できる。 2）インターネットを使った適切な情報検索（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等を含む）ができる。 3）情報化社会の特性を踏まえ、情報モラル・情報セキュリティ・個人情報・著作権等について説明できる。 4）キーボードを使って文字入力ができる（5 分間で日本語 300 文字以上）。 5）プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を用いて簡易なスライド資料の作成ができる。 6）ワープロソフト（Word）を用いて簡易な文書作成ができる。 7）表計算ソフト（Excel）を用いて、情報を分析評価・整理等するために簡易な集計表やグラフの作成ができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	「情報リテラシー13 講　基礎と実践」　岩田順敬、宮崎裕　学術図書出版　2026	ISBN	978-4-7806-1424-4
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	毎回の授業に出席し課題に取り組めば、PC、タイピング、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト等に関する基本的な操作スキルを身につけることができる。これらスキルの修得には一定の時間と量が必要となる。４年間の大学生活だけでなく卒業後の仕事においても必須のスキルとなるため、集中して取り組むこと。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	1）ガイダンス 2）本学の情報通信機器及び教学システムの概要や基本操作 ・本学 ICT 環境(1)：Learning Portal、Universal Passport、クラウドサービス（Microsoft/Office365）等 ・Windows の操作(1) ・情報セキュリティ・パスワード変更 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・全 15 回のシラバスをすべて読んで授業計画を確認して下さい。 ・学内システムのパスワードをどのようにするかについて決めてきてください（パスワードは半角英数字記号を利用します）。 ○事後学修 ・以後、本学の教学システムに毎日ログインし、学内の連絡事項を確認してください。 ・自宅 PC から本学の教学システムにアクセスし授業資料をダウンロードし閲覧してください。	4 時間
第２回	オンデマンド	1）学内システムの基本操作 ・Windows の操作(2) ・本学 ICT 環境(2)：学修ポートフォリオ、クラウドサービス/SNS Microsoft/Office 365（Outlook、OneDrive 等）、情報検索と図書館蔵書検索 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・Learning Portal にログインできるようにする。 ○事後学修 ・microsoft365 にログインできるようにする。	4 時間
第３回	オンデマンド	1）学内システムの基本操作 ・本学 ICT 環境(3)： 2）Windows の操作(3)・タイピングの基礎 ・Windows の基本操作 ・日本語入力・タイピングの基礎 ・作成ファイルのアップロード 第 1～3 回講義（学内システムの設定など）では授業資料を配布する。	○事前学修 ・第 4 回目授業開始までに必ずテキストを購入しておくこと。 ○事後学修 ・授業内で指定してたタイピング課題を作成し、学内システムを通じて提出すること。	4 時間
第４回	オンデマンド	Word を使った文書の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 1 講	○事前学修 ・テキストの第 1 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 1 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第５回	オンデマンド	Word を使った文書の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 2 講	○事前学修 ・テキストの第 2 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 2 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第６回	オンデマンド	Word を使った文書の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 3 講	○事前学修 ・テキストの第 3 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 3 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第７回	オンデマンド	Excel を使った表計算（全 3 回）　1 回目 教科書　第 4 講	○事前学修 ・テキストの第 4 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 4 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第８回	オンデマンド	Excel を使った表計算（全 3 回）　2 回目 教科書　第 5 講	○事前学修 ・テキストの第 5 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修	4 時間

			・テキストの第 5 講の操作を復習しておくと良い。	
第９回	オンデマンド	Excel を使った表計算（全 3 回）　3 回目 教科書　第 6 講	○事前学修 ・テキストの第 6 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 6 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１０回	オンデマンド	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　1 回目 教科書　第 7 講	○事前学修 ・テキストの第 7 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 7 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１１回	オンデマンド	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　2 回目 教科書　第 8 講	○事前学修 ・テキストの第 8 講を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 8 講の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１２回	オンデマンド	PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成（全 3 回）　3 回目 教科書　第 9 講	○事前学修 ・テキストの第 9 を事前に確認しておくと良い。 ○事後学修 ・テキストの第 9 の操作を復習しておくと良い。	4 時間
第１３回	オンデマンド	プレゼンテーション実習	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを仕上げておくこと	4 時間
第１４回	オンデマンド	1）設定テーマについてレポート提出 2）タイピングスコアの提出	○事前学修 ・テキストを使って操作を確認しておくこと ○事後学修 ・総合演習課題(3)を完成させ提出しておくこと	4 時間
第１５回	オンデマンド	プレゼンテーション実習のための資料作成	○事前学修 ・発表に使うプレゼンテーションファイルを作成するための資料を集めておくこと	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宮崎　裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・ＡＩへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・ＡＩを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・ＡＩに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2）データを読み、説明し、扱うことができる。 3）データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4）企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版　AI データサイエンスリテラシー入門，吉岡剛志，技術評論社，2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組めば、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・ガイダンス 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理(※以降、ELSI&S：Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる) ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第２回	対面	ELSI&S テスト 第１章　1-2　社会で活用されているデータ①、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第３回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ②、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第４回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第５回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術①、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第６回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術②、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第７回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場①、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場②、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１０回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1①、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１１回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、	4 時間

		事項　3-1②、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第１２回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	〇事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１３回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１４回	対面	総合演習（最終課題）	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	川浪　隆之	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・ＡＩへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・ＡＩを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・ＡＩに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2）データを読み、説明し、扱うことができる。 3）データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4）企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版　AI データサイエンスリテラシー入門，吉岡剛志，技術評論社，2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組めば、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・ガイダンス 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理(※以降、ELSI&S：Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる) ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第２回	対面	ELSI&S テスト 第１章　1-2　社会で活用されているデータ①、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第３回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ②、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第４回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第５回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術①、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第６回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術②、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第７回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場①、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場②、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１０回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1①、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１１回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、	4 時間

		事項　3-1②、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第１２回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	〇事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１３回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１４回	対面	総合演習（最終課題）	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宮崎　裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・ＡＩへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・ＡＩを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・ＡＩに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2）データを読み、説明し、扱うことができる。 3）データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4）企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版　AI データサイエンスリテラシー入門，吉岡剛志，技術評論社，2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組めば、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・ガイダンス 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理(※以降、ELSI&S：Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる) ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第２回	対面	ELSI&S テスト 第１章　1-2　社会で活用されているデータ①、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第３回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ②、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第４回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第５回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術①、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第６回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術②、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第７回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場①、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場②、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１０回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1①、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１１回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、	4 時間

		事項　3-1②、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第１２回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	〇事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１３回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１４回	対面	総合演習（最終課題）	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	川浪　隆之	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・ＡＩへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・ＡＩを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・ＡＩに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2）データを読み、説明し、扱うことができる。 3）データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4）企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版　AI データサイエンスリテラシー入門，吉岡剛志，技術評論社，2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組めば、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・ガイダンス 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理(※以降、ELSI&S：Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる) ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第２回	対面	ELSI&S テスト 第１章　1-2　社会で活用されているデータ①、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第３回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ②、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第４回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第５回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術①、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第６回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術②、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第７回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場①、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場②、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１０回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1①、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１１回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、	4 時間

		事項　3-1②、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第１２回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	〇事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１３回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１４回	対面	総合演習（最終課題）	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	宮崎　裕	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・ＡＩへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・ＡＩを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・ＡＩに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2）データを読み、説明し、扱うことができる。 3）データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4）企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版　AI データサイエンスリテラシー入門，吉岡剛志，技術評論社，2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組めば、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・ガイダンス 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理(※以降、ELSI&S：Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる) ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第２回	対面	ELSI&S テスト 第１章　1-2　社会で活用されているデータ①、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第３回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ②、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第４回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第５回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術①、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第６回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術②、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第７回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場①、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場②、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１０回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1①、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１１回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、	4 時間

		事項　3-1②、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第１２回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	〇事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１３回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１４回	対面	総合演習（最終課題）	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩見　真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・ＡＩへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・ＡＩを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・ＡＩに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2）データを読み、説明し、扱うことができる。 3）データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4）企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版　AI データサイエンスリテラシー入門，吉岡剛志，技術評論社，2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組めば、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・ガイダンス 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理(※以降、ELSI&S：Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる) ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第２回	対面	ELSI&S テスト 第１章　1-2　社会で活用されているデータ①、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第３回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ②、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第４回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第５回	対面	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術①、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第６回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術②、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第７回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場①、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場②、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	対面	ELSI&S テスト 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１０回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1①、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１１回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、	4 時間

		事項　3-1②、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第１２回	対面	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	〇事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１３回	対面	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１４回	対面	総合演習（最終課題）	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩見　真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・ＡＩへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・ＡＩを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・ＡＩに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2）データを読み、説明し、扱うことができる。 3）データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4）企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版　AI データサイエンスリテラシー入門，吉岡剛志，技術評論社，2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組めば、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	・ガイダンス 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理(※以降、ELSI&S：Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる) ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第２回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第１章　1-2　社会で活用されているデータ①、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第３回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ②、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第４回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第５回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術①、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第６回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術②、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第７回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場①、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場②、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１０回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1①、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１１回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、	4 時間

		事項　3-1②、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第１２回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	〇事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１３回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１４回	オンデマンド	総合演習（最終課題）	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4 時間

科目名	データサイエンス基礎	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩見　真希	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」のモデルカリキュラムに準拠し、表計算ソフトを用いたデータ処理や統計解析の基礎を学修する。		
授業の目的及び概要	・本科目は、学生の数理・データサイエンス・ＡＩへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・ＡＩを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とします。 ・数理・データサイエンス・AI に関するリテラシーは、Society 5.0 の実現や SDGs を達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・データや AI に関する法的性質を知り、現代ビジネスの諸課題に取り組み、社会で活躍できる力を育成する上でも数理・データサイエンス・AI に関する基礎的知識やスキルは必須の能力と言えます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AI に関する能力の修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組みます。また、社会における実課題や実データを活用する実践的な学修のため、企業等から提供される実課題や実データを活用します。 ・また、情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理（IT パスポート出題内容）についても学修します。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠しています。		
履修条件・留意点	パソコンを毎回持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・ＡＩに関する能力の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。 1）社会で起きている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI の活用領域、データ・AI 利活用の現場、データ・AI 利活用の最新動向について説明できる。 2）データを読み、説明し、扱うことができる。 3）データ・AI を扱う上での留意事項及びデータを守る上での留意事項、情報倫理・情報セキュリティなど情報の取扱いに係る法規・倫理について説明できる。 4）企業等から提供される実データを活用して、実データを処理・分析し実課題の解決に資する報告資料を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・PC を用いた実技を実施するため、適宜学生の質問等に回答する。 ・教学システムを利用したテストを実施した場合には、受験後、採点結果等をフィードバックする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	改訂新版　AI データサイエンスリテラシー入門，吉岡剛志，技術評論社，2024 年	ISBN	9784297144098
参考書	ー	ISBN	ー

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	30
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	・毎回の授業に出席し、課題に取り組めば、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）」に関する知識や技能を身につける事が可能です。 ・欠席した場合は LearningPortal を確認し、課題がある場合は提出しておきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	・ガイダンス 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化 ・情報倫理・情報セキュリティなど、情報の取扱いに係る法規・倫理(※以降、ELSI&S：Ethical, Legal and Social Issues & Security と略記を用いる) ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を事前に読んでおきましょう。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-1　社会で起きている変化を復習しておきましょう。	4 時間
第２回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第１章　1-2　社会で活用されているデータ①、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作 ・モデルカリキュラムとの対応：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	○事前学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-1　Excel の基本的な操作を復習してください。	4 時間
第３回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ②、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-2　社会で活用されているデータ、第２章　データリテラシー　2-2　時系列データの可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第４回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-3　データ・AI の活用領域、第２章　データリテラシー　2-3　平均の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第５回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術①、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・デ	ELSI&S テスト ○事前学修 第１章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第２章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化とその可視化を事前に読んでください。 ○事後学修	4 時間

		ータを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-4　標準偏差の算出とその可視化を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第６回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術②、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-4　データ・AI 利活用のための技術、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第７回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場①、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-5　大量のデータを扱う方法を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第８回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場②、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図① モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　社会におけるデータ・AI 利活用　1-5　データ・AI 利活用の現場、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第９回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図② モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を事前に読んでください。 ○事後学修 第 1 章　1-6　データ・AI 利活用の最新動向、第 2 章　データリテラシー　2-6　基本統計量の算出と箱ひげ図を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１０回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1①、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成 モデルカリキュラムとの対応：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を事前に読んでください。 ○事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-7　度数分布表とヒストグラムの作成を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１１回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意	○事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、	4 時間

		事項　3-1②、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出 モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で活用されているデータ、データを説明する・データを読む・データを扱う・データ・AI の活用領域	第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を事前に読んでください。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-1、第 2 章　データリテラシー　2-8　散布図の作成と相関係数の算出を復習してください。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	
第１２回	オンデマンド	ELSI&S テスト 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計 ・モデルカリキュラムとの対応（追加資料含む）：社会で起きている変化、データ・AI 利活用の現場、データ・AI の活用領域・データ・AI を扱う上での留意事項	〇事前学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を事前に読んでおきましょう。 〇事後学修 第 3 章　データ・AI 利活用における留意事項　3-2　データを守る上での留意事項、第 2 章　データリテラシー　2-9　定性データの扱い方とクロス集計を復習しておきましょう。 出題された課題を完成させ提出して下さい。	4 時間
第１３回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(1)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１４回	オンデマンド	総合演習（最終課題）	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・企業等から提供される実データを用いた処理・分析と報告書の作成(2)	〇事前学修 テキスト全体を復習しておきましょう。 〇事後学修 出題された課題を完成させ提出してください。	4 時間

科目名	法思想史	開講年度	2026 年度春学期
担当者	竹村　和也	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	様々な法思想を手掛かりにして、法のあり方について考えること		
授業の目的及び概要	この授業では、法についての思索を学びます。法について思索を行ってきた代表的な哲学者たちが、彼らが直面していた社会的・法的な課題を背景として「法とは何か」、「なぜ法に従わなければならないのか」などの問題について、どのような答えを見出してきたのか、について学ぶことになります。なお、法についての思想を学ぶことは、現代の日本の法を理解するためにも必要です。なぜなら現代の日本の法は西洋の法に基盤を置いているのであって、さらに西洋の法を支える法理論は法思想が結晶したものだと考えることもできるからです。		
履修条件・留意点	特に履修上の要件はありません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	過去の思想家の思想には時代的な限界があるのは当然のことですが、我々が学ぶのは一定の普遍性を獲得した思想家の思想であり、これらの思想には現在我々が抱えている諸問題の解答への手がかりが含まれていると考えてよいでしょう。この授業の目的は、学生が、まずは法思想についての基礎的な知識を得たうえで、様々な法思想を手掛かりにして、今日の法のあり方について改めて思索し、各人なりの法のあるべき姿を見つけることです。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で課した小レポートについて授業で講評します。さらに、優秀なレポートについては、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。授業ではパワーポイントを利用し、そのスライドを Learning Portal に毎回配布します。印刷した文献を配布することもあります。	ISBN	なし
参考書	よくわかる法哲学・法思想，深田三徳・濱真一郎，　ネルヴァ書房，2015 年 その他は、最初の授業で説明します。	ISBN	9784623073962

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	10
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	40
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	40
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
法思想史は、法哲学の歴史であり、法思想史・法哲学とも基礎法学の一分野です。基礎法学は、解釈学の内側から法を見るのではなく、その外側から法を見る学問であり、実定法に縛られない学問ですから、実定法解釈に飽き足りない学生（あるいは）実定法解釈にあまり関心がない学生）にも興味をそそられる学問ではないかと思います。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	イントロダクション：授業の進め方、授業での約束、法思想史の概略の説明	復習：シラバスを読み直し、講義で得た内容を確認すること 予習：Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと。	2 時間
第２回	対面	ギリシャの法思想：ソフィスト・ソクラテス・プラトン・アリストテレスの法思想	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第３回	対面	ギリシャ後期の法思想：ストア派の法思想	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第４回	対面	大陸法の起源とローマ法：英米法との比較における大陸法の起源としてのローマ法	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第５回	対面	前の授業を映像で確認する。	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めると同時に、レポートを作成すること 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第６回	対面	中世キリスト教の法思想：アウグスティヌスとトマス・アクィナス 中世後期の法思想と近世への橋渡し：グロチウス・サラマンカ学派	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4.5 時間
第７回	対面	中間段階での試験	復習：中間段階での試験の内容について、資料などを参照し、理解を深めるとともに、レポートを作成すること 予習：次週に行われる中間段階でのテストに向け、これまでの授業内容を改めて確認しておくこと	4.5 時間
第８回	対面	近世・近代の法思想(イングランド啓蒙思想)：トマス・ホッブスとジョン・ロック	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第９回	対面	近世・近代の法思想(フランス啓蒙思想)：モンテスキューとルソー	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第１０回	対面	近世・近代の法思想(ドイツ啓蒙思想)：カントとヘーゲル	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第１１回	対面	歴史法学・スコットランド啓蒙思想：ドイツ・イングランド・スコットランドの歴史法学	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第１２回	対面	イングランドの法実証主義：ベンサムとオースティン	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第１３回	対面	ドイツの法実証主義と裁判官の役割：概念法学とその批判者たち	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第１４回	対面	現代の法思想(法の概念と裁判官の役割について)	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲	4 時間

			載する授業資料を事前に読んでおくこと	
第１５回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの授業時に実施した小テスト、中間段階での試験について復習し、定期試験に向けて授業内容を改めて確認しておくこと	5 時間

科目名	日本法制史	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	大場　史朗	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	日本における近代刑事法制の成立と展開		
授業の目的及び概要	本講義は、日本における近代刑事法制の成立と発展の過程を、歴史的な視点から理解することを目的とする。とりわけ、明治期における西洋法の受容と法典整備にはじまり、各種の治安刑法の制定やその後の変化を経て、日本国憲法のもとの現行の刑法・刑事訴訟法等に至るまでの流れを学ぶ。 講義では、日本における犯罪・刑罰のあり方や刑事手続の仕組み等が、各時代の社会状況や価値観等とどのように関わりながら形成されてきたのかに注目する。		
履修条件・留意点	履修条件は特にないが、定期試験（レポート試験）としてフィールドワーク・レポートを課すので、フィールドワークのために一定のコストがかかる。また、本講義は「日本法制史」という名称であるが、近代刑事法制史を中心に取り扱う。私法法制史は一切扱わないので、十分留意すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 日本における近代刑事法制の成立と発展の過程を通じて、自由・平等・適正手続といった価値原理に基づく法制度の意義を理解し、その内容と主要な制度の変遷を説明できる。 【ＤＰ１対応】 2. 犯罪・刑罰および刑事手続の仕組みが、各時代の社会状況や価値観とどのように関係してきたのかを理解し、その背景を法的な観点から考察することができる。 【ＤＰ２対応】 3. 各時代の刑事法制の内容および変遷を整理し、現代社会における刑事司法の課題について自らの考えを適切に表現することができる。 【ＤＰ３・４対応】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各授業回の質問等に対しては、そのうち重要と思われるものを取り上げ、毎回フィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しない。授業中にレジュメ・資料を配布する。	ISBN	当該なし
参考書	①日本近代法史講義，伊藤孝夫，有斐閣，2023 年 ②日本法制史，浅古 弘ほか編，青林書院，2010 年	ISBN	①9784641126398 ②9784417015178

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	70
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この授業は「授業への積極的な参加度・取組み」として、ごく短時間の小テスト等をほぼ毎回実施する。「定期試験（レポート試験）」は、日本の刑事法制に関する史跡等を調査等するフィールドワーク・レポートを課す。なお、秋学期の授業開講までに授業内容等を若干変更するこ

	とがある。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 日本近代法体制の概観、古代・律令法制における刑事法制の概要	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第２回	対面	公家法・中世法・戦国法における刑事法の概要	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第３回	対面	近世法における刑事法の概要	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第４回	対面	明治期における刑事法制（1） 初期の刑罰法規と近世との連続性	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第５回	対面	明治期における刑事法制（2） 近代刑事司法制度の成り立ち、旧刑法および治罪法の制定等	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第６回	対面	明治期における刑事法制（3） 近代刑事司法制度の成り立ち、旧々刑事訴訟法および現行刑法の制定等	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第７回	対面	大正期における刑事法制 旧刑事訴訟法、旧少年法および陪審法の制定等	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第８回	対面	昭和期における刑事法制（1） 治安維持法下における刑事法制：治安維持法および思想犯保護観察法等	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第９回	対面	昭和期における刑事法制（2） 戦時法制の整備：国防保安法および戦時刑事特別法等	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１０回	対面	昭和期における刑事法制（3） 戦後の刑事司法改革、占領下の法制度、日本国憲法の制定とその周辺	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	昭和期における刑事法制（4） 戦前との連続性、戦後における刑法等の改正	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１２回	対面	植民地の刑事法制	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	治安と福祉（1） ハンセン病患者に対する法制	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間

第１４回	対面	治安と福祉（2） 精神障害者等に対する法制	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	全体のまとめと定期試験について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間

科目名	日本法制史	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	謝　政徳	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	日本近代体制の成立と展開		
授業の目的及び概要	近代の日本は、西欧型近代法を継受することによって近代化を成し遂げたとともに、台湾、朝鮮、樺太などの地域を含めた帝国日本でした。 本講義では、このような立場で日本近代法制史について概観します。具体的には、近代的な諸法典が制定された明治期を中心に、日本近代法体制の成立と展開過程について考察します。また、植民地台湾と朝鮮で展開された法制度について、日本経由の西欧近代法がどのような影響を与えたかについても言及します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本近代法史に関する基礎的な知識を修得するとともに、近代日本と東アジア諸国との関係を考察する思考力を身につけることを目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを不定期に実施し、受講者の授業に対する疑問や意見を確認します。これに対して授業中で説明します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。授業は、事前に「ラーニングポータル」にアップするレジュメに基づいて行います。授業を受ける前に、必ず入手し、事前に熟読しておいてください。	ISBN	当該なし
参考書	①『よくわかる日本法制史』岩谷十郎ほか編著（ミネルヴァ書房、2025 年） ②『日本近現代法史・資料年表〔第 2 版〕』藤田正・吉田蒼生夫ほか（信山社，2015 年）	ISBN	①9784623096190 ②9784797223460

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	
	明治維新以降の法の形成・展開の歴史を学ぶことは、現代日本法が前提とする法理念の理解を深めることに役立ちます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	日本近代法体制の概観（授業ガイダンスを含む）	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノ	4 時間

			ートに整理しておくこと。	
第２回	対面	明治国家機構の形成について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第３回	対面	司法制度の創設と確立について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第４回	対面	憲法史１ー立憲制への模索について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第５回	対面	憲法史２ー明治憲法の制定について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第６回	対面	憲法史３ー明治立憲制の確立について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第７回	対面	憲法史４ー立憲制の展開について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第８回	対面	刑法史１ー旧刑法・治罪法の制定について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第９回	対面	刑法史２ー明治 40 年刑法の制定について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１０回	対面	民法史１ー近代法秩序の形成について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	民法史２ー法典編纂・法典論争について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１２回	対面	民法史３ー明治民法の成立と展開について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	植民地法制１ー明治立憲制の確立と植民地について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	植民地法制２ー「外地」の統治制度について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	全体のまとめと定期試験に向けた勉強の仕方について	「予習」レジュメおよび参考書の関連箇所を読み、疑問点などを明確にしておくこと。 「復習」レジュメなどを参照しながら、講義内容をノートに整理しておくこと。	4 時間

科目名	法哲学	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	竹村　和也	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法哲学の重要問題について論じること		
授業の目的及び概要	この講義は，法哲学の重要問題について論じることを目的としています。法哲学は、法理学ないし法理論とも呼ばれていますが、今日の法が抱えている基本的問題について哲学的にアプローチする学問です。「哲学的にアプローチする」こととは、ここでは「様々な角度から掘り下げて議論すること」と理解しておきます。 　さて、実定法学は、講学上、定まった順序で定まったテーマについて論じられますが、法哲学にもある程度定まったテーマがあります。具体的には、(1) 法とは何か、(2) 法の実現すべき価値は何か、および (3) 正しい法解釈は存在するか、といった問題です。 　本講義ではこれらの問題を扱いますが、法哲学は法について議論することである以上、授業へのとても積極的な参加を求めます。議論に関心のある学生の参加を歓迎します。		
履修条件・留意点	本講義を履修する上で，履修を終えておくべき科目や，履修済みまたは平行して履修すべき科目はありません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	学生が、今日の法が抱えている基本的問題について掘り下げて思索し，より良き解答をみつけることができるようにすること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	「授業の目的及び概要」で説明しているように、授業に積極的に参加し、議論する対話的な授業を試みます。 また、授業期間中の小テスト、レポート課題については、特に出来の良いものを例として、授業内で講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	よくわかる法哲学・法思想，深田三徳・濱真一郎，　ネルヴァ書房，2015 年 その他は、最初の授業で説明します。	ISBN	9784623073962

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	30
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	法哲学は基礎法学の一分野です。基礎法学は、法をその内側から見るのではなく、その外側から見る学問であり、実定法に縛られない学問です。ですから、実定法解釈に飽き足りない学生（あるいは）実定法解釈にあまり関心がない学生）にも興味をそそられる学問ではないかと思います。ただし、授業への積極的な参加を求めます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	はじめに：授業の進め方、授業での約束、席順の決定、法哲学の概略の説明	復習：シラバスとガイダンス資料を読み直し、講義で得た内容を確認すること 予習：Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと。	1 時間
第２回	対面	正義について	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第３回	対面	功利主義（ベンサムの功利主義）	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第４回	対面	功利主義（功利主義の問題点）	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと）	4 時間
第５回	対面	自由の問題（J・S・ミル）	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第６回	対面	リバタリアニズム	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	5 時間
第７回	対面	振り返りと小テスト	復習：小テストの内容について、資料などを参照し、改めてレポートを作成すること 予習：中間段階でのテストに向け、これまでの授業内容を改めて確認しておくこと	5 時間
第８回	対面	平等の問題	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第９回	対面	リベラリズム	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第１０回	対面	コミュニタリアニズム	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第１１回	対面	グローバル・ジャスティス	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第１２回	対面	法とは何か（悪法も法か）	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第１３回	対面	法とは何か（H. L. A. ハートと R. ドゥオーキン）	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲載する授業資料を事前に読んでおくこと	4 時間
第１４回	対面	司法的裁量論（ハートとドゥオーキン）	復習：授業で配布した資料の内容を復習し理解を深めておくこと 予習：配布した資料、または Learning Portal に掲	5 時間

			載する授業資料を事前に読んでおくこと	
第１５回	オンデマンド	全体の理解の確認	復習：授業で行ったテストの内容について、資料などを参照し、改めてレポートを作成すること 予習：次週に行われるテストに向け、これまでの授業内容を改めて確認しておくこと	4 時間

科目名	西洋法制史	開講年度	2026 年度春学期
担当者	小宮山　直子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	ヨーロッパおける「法」「裁判」の歴史		
授業の目的及び概要	西洋法制史では、中世から近代にいたる西洋社会の歴史過程を踏まえつつ、ヨーロッパにおける「法」「裁判」の展開を学びます。特に日本近代法の成立に大きな影響を与えたドイツ・フランス法の考察に焦点をあてます。フランス革命を歴史的転換として、その前と後の「法」「裁判」の変容・継続性およびフランス的なる特徴も検討します。全体としてフランスを中心に扱いますが、後半は、ドイツにおける法と裁判について、フランスとの比較の視点からも検討します。これまで皆さんが習得してきた法の知識を歴史的視点から考察することができます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ヨーロッパ法の歴史について基礎的な知識を習得し、さらに歴史的視点から現代法を考察する基礎力を身につけることを目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 適宜配布資料を用います。	ISBN	なし
参考書	①概説西洋法制史，山内進、他，ミネルヴァ書房，2004 年 ②法制史入門，岩村等・三成賢次・三成美保，ナカニシヤ出版，2000 年 ③ローマ法とヨーロッパ，ピーター・スタイン，ミネルバ書房，2003 年 その他の参考書については、授業の中で適宜紹介します。	ISBN	①9784623040643 ②9784888483155 ③9784623038053

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	28
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	17
	【定期試験】レポート試験	55
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	

この科目の受講にあたって	この授業は日本近・現代法史の学びにも役立ちます。ヨーロッパ史に関するの教養も深まります。 欧米の社会問題を扱った映画なども視聴しましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	はじめに： 講義のテーマと課題	【予習】参考書（『法制史入門』、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第２回	対面	ヨーロッパ中世の社会と法（１）： ローマ法の復活、ローマ法と教会法	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第３回	対面	ヨーロッパ中世の社会と法（２）： 伝統的裁判、新しい形式の裁判	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第４回	対面	フランス・アンシャンレジーム期の社会と法（１）： 王権の伸長、法統一の試み	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第５回	対面	フランス・アンシャンレジーム期の社会と法（２）： 近世の裁判、魔女裁判	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第６回	対面	イギリス法史（概説）： イギリスにおける陪審制度の展開	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第７回	対面	フランス革命と法（１）： フランス革命の概要、フランス人権宣言、刑法典、革命期の市民をめぐる議論	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第８回	対面	フランス革命と法（２） 革命期の裁判制度の改革、陪審制度の導入	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第９回	対面	フランス革命と法（３） フランス民法典の成立過程 中間復習テスト	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第１０回	対面	フランス民法典： 1804 年成立のフランス民法典の特徴、フランス民法典における家族像、妻の法的地位	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第１１回	対面	ドイツ法典論争： 19 世紀はじめ、ドイツ法典論争及び歴史法学派	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第１２回	対面	近代市民社会と法（１）：19 世紀フランスの社会と法	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおく	4 時間

		フランスにおける都市問題及び労働者問題から 19 世紀の社会問題を考える	こと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	
第１３回	対面	近代市民社会と法（２）ドイツ民法典：19 世紀ドイツの変遷、ドイツ民法典の成立過程・特徴	今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。 参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。	4 時間
第１４回	対面	20 世紀： ドイツ・フランス 20 世紀前半の社会と法、及び戦後の家族法改革	【予習】参考書（『法制史入門』）、及び授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	全体のまとめと復習を行う。	【復習】これまでのレジュメ・資料・年表などを見直して、全体を流れを把握した上で、重要事項をもう一度確認し、さらに各回の重要テーマを自分の言葉で論じられるよう整理する。	5 時間

科目名	法社会学	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	竹村　和也	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法専門職による法の運用と日本の法運用の特徴		
授業の目的及び概要	法曹を含む法の専門家＝法専門職にはそれぞれ異なった職務や役割があります。法専門職はいかにしてその職務を担っているのか、法の運用にあたっていかなる影響を与えているのか、さらに日本の紛争解決の仕組みにはどのような特徴があるのか、などについて講義します。 憲法や民法、刑法など、いわゆる実定法学では法の解釈を学ぶことになりますが、実際に解釈学説が選択される場合には、学説の優劣だけでなく、例えば法の担い手のイデオロギーが反映される場合もあるでしょう。本授業によって、学説にとどまらない、実際の紛争解決のあり方をまなぶことになるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	実際の紛争解決について、法専門職が果たす役割や影響を概ね説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で課した小レポートについて授業で講評します。さらに、優秀なレポートについては、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。授業ではパワーポイントを利用し、そのスライドを Learning Portal に毎回配布します。印刷した文献を配布することもあります。	ISBN	なし
参考書	何冊か挙げておきますが、残りは授業で説明します。 ①日本司法の逆説―最高裁事務総局の「裁判しない裁判官」たち，西川伸一，五月書房，2005 年 ②日本の最高裁を解剖する，ディヴィッド・S・ロー.現代人文社，2013 年 ③名もない顔もない司法―日本の裁判は変わるのか，ダニエル・H・フット，NTT 出版，2007 年 ④司法官僚，新藤宗幸,岩波新書，2009 年 ⑤憲法学から見る最高裁判所裁判官：70 年の軌跡，渡辺康彦・木下智史・尾形健，日本評論社，2017 年 ⑥日本の最高裁判所―判決と人・制度の考察，市川・大久保・斎藤・渡辺，日本評論社，2016 年 ⑦現代日本の司法 「司法制度改革」以降の人と制度，市川・大久保・斎藤・渡辺，日本評論社，2020 年	ISBN	①9784772704298 ②9784877985516 ③9784757141698 ④9784004312000 ⑤9784535522633 ⑥9784535520929 ⑦9784535524743

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	法社会学は、解釈学の内側から法を見るのではなく、その外側から法を見る学問であり、実定法に縛られない学問ですから、実定法解釈に飽き足りない学生には興味をそそられる学問ではないかと思います。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の説明、授業についての約束の確認、法社会学の概略についての説明	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第２回	対面	刑事事件を解決するプロセス①（捜査）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	刑事事件を解決するプロセス②（刑事裁判）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	刑事事件を解決するプロセス③（刑の執行）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	民事事件を解決するプロセス①（裁判外の紛争解決手続き）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第６回	対面	民事事件を解決するプロセス②（民事裁判）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成（2 時間程度）	4 時間
第７回	対面	裁判所・裁判官について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	裁判所の仕組み・裁判官の職務	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	裁判官のキャリア・司法官僚	復習：授業で指示された小レポートの作成（2 時間程度） 予習：次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	司法官僚と司法統制について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第１１回	対面	前回の講義内容について映像で補う（「揺れる評決」）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度）	4 時間

			予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	
第１２回	対面	最高裁判所の司法哲学	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	検察庁の仕組みと検察官について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	リーガル・プロフェッションとしての弁護士とその職務、法律隣接専門職種について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業全体の内容について改めて確認し、不十分もしくは不確かな個所についてはすること（2 時間程度）	4 時間

科目名	法社会学	開講年度	2026 年度春学期
担当者	竹村　和也	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法専門職による法の運用と日本の法運用の特徴		
授業の目的及び概要	法曹を含む法の専門家＝法専門職にはそれぞれ異なった職務や役割があります。法専門職はいかにしてその職務を担っているのか、法の運用にあたっていかなる影響を与えているのか、さらに日本の紛争解決の仕組みにはどのような特徴があるのか、などについて講義します。 憲法や民法、刑法など、いわゆる実定法学では法の解釈を学ぶことになりますが、実際に解釈学説が選択される場合には、学説の優劣だけでなく、例えば法の担い手のイデオロギーが反映される場合もあるでしょう。本授業によって、学説にとどまらない、実際の紛争解決のあり方をまなぶことになるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	実際の紛争解決について、法専門職が果たす役割や影響を概ね説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業で課した小レポートについて授業で講評します。さらに、優秀なレポートについては、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。授業ではパワーポイントを利用し、そのスライドを Learning Portal に毎回配布します。印刷した文献を配布することもあります。	ISBN	なし
参考書	何冊か挙げておきますが、残りは授業で説明します。 ①日本司法の逆説―最高裁事務総局の「裁判しない裁判官」たち，西川伸一，五月書房，2005 年 ②日本の最高裁を解剖する，ディヴィッド・S・ロー．現代人文社，2013 年 ③名もない顔もない司法―日本の裁判は変わるのか，ダニエル・H・フット，NTT 出版，2007 年 ④司法官僚，新藤宗幸，岩波新書，2009 年 ⑤憲法学から見る最高裁判所裁判官：70 年の軌跡，渡辺康彦・木下智史・尾形健，日本評論社，2017 年 ⑥日本の最高裁判所―判決と人・制度の考察，市川・大久保・斎藤・渡辺，日本評論社，2016 年 ⑦現代日本の司法 「司法制度改革」以降の人と制度，市川・大久保・斎藤・渡辺，日本評論社，2020 年	ISBN	①9784772704298 ②9784877985516 ③9784757141698 ④9784004312000 ⑤9784535522633 ⑥9784535520929 ⑦9784535524743

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	法社会学は、解釈学の内側から法を見るのではなく、その外側から法を見る学問であり、実定法に縛られない学問ですから、実定法解釈に飽き足りない学生には興味をそそられる学問ではないかと思います。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の説明、授業についての約束の確認、法社会学の概略についての説明	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第２回	対面	刑事事件を解決するプロセス①（捜査）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第３回	対面	刑事事件を解決するプロセス②（刑事裁判）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第４回	対面	刑事事件を解決するプロセス③（刑の執行）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成（2 時間程度）	4 時間
第５回	対面	民事事件を解決するプロセス①（裁判外の紛争解決手続き）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第６回	対面	民事事件を解決するプロセス②（民事裁判）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成（2 時間程度）	4 時間
第７回	対面	裁判所・裁判官について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第８回	対面	裁判所の仕組み・裁判官の職務	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第９回	対面	裁判官のキャリア・司法官僚	復習：授業で指示された小レポートの作成（2 時間程度） 予習：次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第１０回	対面	司法官僚と司法統制について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第１１回	対面	前回の講義内容について映像で補う（「揺れる評決」）	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度）	4 時間

			予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	
第１２回	対面	最高裁判所の司法哲学	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第１３回	対面	検察庁の仕組みと検察官について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第１４回	対面	リーガル・プロフェッションとしての弁護士とその職務、法律隣接専門職種について	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業で指示された小レポートの作成・次回の授業で扱うテーマについて、授業での指示に従って予め調べておくこと（2 時間程度）	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ	復習：授業において配布した文献を読んで復習すること（2 時間程度） 予習：授業全体の内容について改めて確認し、不十分もしくは不確かな個所についてはすること（2 時間程度）	4 時間

科目名	憲法Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉原　裕樹	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法の基礎		
授業の目的及び概要	憲法学の全体を概観する。 講義形式と双方向型・多方向型授業とを併用する。 本科目は受講生が、憲法学の基本的な知識を理解したうえで、理解した内容を的確に表現できるようになることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	憲法学の基本的な知識（特に、憲法の代表的な判例・学説の知識）を理解している。【ＤＰ１】【ＤＰ２】 そのうえで、理解した内容を的確に、口頭で説明し、文章として筆記することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向型・多方向型授業により、受講生の理解を確認する。 定期試験実施後、その講評等を提供する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①憲法（第８版），芦部信喜（高橋和之補訂），岩波書店，2023 年 ②2026 年法学検定試験問題集ベーシック＜基礎＞コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2026 年	ISBN	①9784000616072 ②未定
参考書	①憲法（第３版），渋谷秀樹，有斐閣，2017 年 ②憲法（第８版），辻村みよ子，日本評論社，2025 年 ③日本国憲法論（第２版），佐藤幸治，成文堂，2020 年 法曹志望者など、より進んだ学修を希望する受講生には、上記のうちいずれか１つを学修することを勧める。	ISBN	①9784641227231 ②9784535529038 ③9784792306724

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	10
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	80
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	中間試験は、授業中に対面で行うことを予定している。中間試験の内容・実施方法は、2025 年度までとは異なるものとする予定である。中間試験の詳細は、授業中に説明する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション、憲法とは何か	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第２回	対面	憲法の基本原理（立憲主義・民主主義・国民主権など）	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第３回	対面	基本的人権とは何か、法の下の平等１	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第４回	対面	法の下の平等２、表現の自由１	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第５回	対面	表現の自由２	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第６回	対面	信教の自由・政教分離１	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第７回	対面	信教の自由・政教分離２、学問の自由、その他の精神的自由権	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第８回	対面	幸福追求権、自己決定権、プライバシー権	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第９回	対面	経済的自由権、生存権	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１０回	対面	その他の基本的人権	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１１回	対面	平和主義、日本国憲法制定史	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１２回	対面	参政権、国会	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１３回	対面	内閣（議院内閣制を含む）	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１４回	対面	裁判所、憲法訴訟	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	定期試験（期末試験）に向けた総括	これまでの授業内容の復習、定期試験（期末試験）に向けた学修	4 時間

科目名	憲法Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉原　裕樹	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法の基礎		
授業の目的及び概要	憲法学の全体を概観する。 講義形式と双方向型・多方向型授業とを併用する。 本科目は受講生が、憲法学の基本的な知識を理解したうえで、理解した内容を的確に表現できるようになることを目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	憲法学の基本的な知識（特に、憲法の代表的な判例・学説の知識）を理解している。【ＤＰ１】【ＤＰ２】 そのうえで、理解した内容を的確に、口頭で説明し、文章として筆記することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向型・多方向型授業により、受講生の理解を確認する。 定期試験実施後、その講評等を提供する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①憲法（第８版），芦部信喜（高橋和之補訂），岩波書店，2023 年 ②2026 年法学検定試験問題集ベーシック＜基礎＞コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2026 年	ISBN	①9784000616072 ②未定
参考書	①憲法（第３版），渋谷秀樹，有斐閣，2017 年 ②憲法（第８版），辻村みよ子，日本評論社，2025 年 ③日本国憲法論（第２版），佐藤幸治，成文堂，2020 年 法曹志望者など、より進んだ学修を希望する受講生には、上記のうちいずれか１つを学修することを勧める。	ISBN	①9784641227231 ②9784535529038 ③9784792306724

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	10
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	80
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	中間試験は、授業中に対面で行うことを予定している。中間試験の内容・実施方法は、2025 年度までとは異なるものとする予定である。中間試験の詳細は、授業中に説明する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション、憲法とは何か	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第２回	対面	憲法の基本原理（立憲主義・民主主義・国民主権など）	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第３回	対面	基本的人権とは何か、法の下の平等１	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第４回	対面	法の下の平等２、表現の自由１	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第５回	対面	表現の自由２	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第６回	対面	信教の自由・政教分離１	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第７回	対面	信教の自由・政教分離２、学問の自由、その他の精神的自由権	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第８回	対面	幸福追求権、自己決定権、プライバシー権	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第９回	対面	経済的自由権、生存権	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１０回	対面	その他の基本的人権	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１１回	対面	平和主義、日本国憲法制定史	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１２回	対面	参政権、国会	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１３回	対面	内閣（議院内閣制を含む）	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１４回	対面	裁判所、憲法訴訟	テキスト①ないし参考書のうちいずれかにて、左記の範囲を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	定期試験（期末試験）に向けた総括	これまでの授業内容の復習、定期試験（期末試験）に向けた学修	4 時間

科目名	憲法Ⅰ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	渡邉　康行	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法の基礎		
授業の目的及び概要	憲法学の全体を概観する。 講義形式と双方向型・多方向型授業を併用する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	憲法学の基本的な知識（特に、憲法に関する代表的な判例・学説の知識）が身についている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向型・多方向型授業により、受講生の理解と考察を深める。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	2025 年法学検定試験問題集ベーシック＜基礎＞コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2025 年 ただし授業時までに新しい版が公刊される予定である。	ISBN	9784785731045
参考書	①憲法（第８版），芦部信喜（高橋和之補訂），岩波書店，2023 年 ②憲法判例百選１・２（第８版），長谷部恭男ほか編，有斐閣，2025 年 ③憲法１　基本権（第２版），渡辺康行ほか，日本評論社，2023 年 ④憲法２　総論・統治（第２版），渡辺康行ほか，日本評論社，2025 年 上記①は、代表的な憲法の教科書なので、手元に用意することを強く勧める。 より進んだ学修を希望する受講生には、①と並行して、判例教材として②、および授業担当者による③④を学修することを勧める。	ISBN	①　9784000616072 ②　9784641213449 、9784641213456 ③　9784535527119 ④　9784535528260

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	20
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	授業時には、『ポケット六法』（有斐閣）など、適宜の六法を持参すること。 中間試験は、第８回授業時に対面で行うことを予定している。ただし、授業の進行状況等により、変更が生ずる場合がある。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	導入、憲法総論１ 憲法の基本原理（立憲主義・民主主義・国民主権など）	芦部『憲法』第１章・第３章の予習。芦部『憲法』以外の概説書を使用している学生は、当該箇所に相応する部分を読んでおく（以下でも同じであるため、この後はこの記述を省略する）。さらに事前に配布するレジュメに目を通す。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第２回	対面	憲法総論２ 平和主義、憲法の歴史	芦部『憲法』第２章・第４章の予習。さらに事前に配布するレジュメに目を通す。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第３回	対面	基本的人権１ 基本的人権の原理、表現の自由１	芦部『憲法』第５章・第６章・第９章の予習。さらに事前に配布するレジュメに目を通す。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第４回	対面	基本的人権２ 表現の自由２	芦部『憲法』第９章の予習。さらに事前に配布するレジュメに目を通す。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第５回	対面	基本的人権３ 信教の自由・政教分離、精神的自由権	芦部『憲法』第８章の予習。さらに事前に配布するレジュメに目を通す。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第６回	対面	基本的人権４ 法の下の平等	芦部『憲法』第７章の予習。さらに事前に配布するレジュメに目を通す。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第７回	対面	基本的人権５ 包括的基本権（プライバシー権・自己決定権など）	芦部『憲法』第７章の予習。さらに事前に配布するレジュメに目を通す。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第８回	対面	基本的人権６ 経済的自由権、社会権	芦部『憲法』第 10 章・第 13 章の予習。さらに事前に配布するレジュメに目を通す。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第９回	対面	基本的人権７ これまでに取り扱った以外の人権（国務請求権など）	芦部『憲法』第 11 章・第 12 章の予習。さらに事前に配布するレジュメに目を通す。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第１０回	対面	基本的人権８、統治機構１ 参政権、国会１	芦部『憲法』第 12 章・第 14 章の予習。さらに事前に配布するレジュメに目を通す。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第１１回	対面	統治機構２ 国会２、内閣１	芦部『憲法』第 14 章・第 15 章の予習。さらに事前に配布するレジュメに目を通す。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第１２回	対面	統治機構３ 内閣２、地方自治	芦部『憲法』第 15 章・第 17 章の予習。さらに事前に配布するレジュメに目を通す。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第１３回	対面	統治機構４ 裁判所１	芦部『憲法』第 16 章の予習。さらに事前に配布するレジュメに目を通す。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第１４回	対面	統治機構５ 裁判所２、憲法訴訟	芦部『憲法』第 16 章・第 18 章の予習。さらに事前に配布するレジュメに目を通す。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第１５回	オンデマンド	期末試験に向けての総括	これまでの授業内容の復習、期末試験に向けた学修	4 時間

科目名	憲法Ⅱ（人権）	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉原　裕樹	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	基本的人権の発展的学修		
授業の目的及び概要	憲法学のうち基本的人権について、発展的な学説・判例を学修する。基本的人権の網羅的な解説をするというよりも、重要なトピックに焦点を当てて検討する。 講義形式と双方向・多方向型授業とを併用する。 受講生の学修状況等によっては、各回の授業計画の順序など、授業計画に変更が生ずる場合がある。 本科目は受講生が、憲法学のうち基本的人権の発展的内容を十分に理解したうえで、理解した内容を的確に表現できるようになることを目指す。		
履修条件・留意点	本科目は、「憲法Ⅰ＜憲法概論＞」（以下、単に「憲法Ⅰ」という）の内容全体を十分に修得したうえで、憲法の発展的な学修を希望する学生を対象とする。そのため、まだ憲法Ⅰの単位を取得していない学生は、原則として、本科目を受講することはできない。 また、憲法Ⅰの成績評価が「可」であった学生は、憲法Ⅰの「内容全体を『十分に』修得した」とはいいがたいため、憲法Ⅰの履修後ただちに本科目を受講することは勧められない。そのような学生には、本科目よりも先に、憲法に関する入門的科目（共通教育科目を含む）や特修講座（Ｓコース）などで、憲法Ⅰに相当する内容を十分に修得したあとで、本科目を受講することを勧める。 憲法Ⅰの成績評価が「優」以上であった学生は、基本的には、本科目を問題なく受講できると思われる。 本科目では、双方向・多方向型のやりとりにて、教員が受講生を指名して質問を発する。質問の内容には、憲法Ⅰで説明した内容も含まれる。そのような質問に確実に答えられるように、憲法Ⅰの内容も、しっかりと復習しておいてほしい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	憲法学のうち基本的人権の内容について、発展的な学説・判例を含め、十分に理解している。【ＤＰ１】【ＤＰ２】 そのうえで、理解した内容を的確に、口頭で説明し、文章として筆記することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向・多方向型授業により、受講生の理解と考察を深める。 定期試験実施後、その講評等を提供する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない。 参考書のうちいずれか１つを教科書として用意し、予習・復習に活用すること。	ISBN	指定しない。
参考書	①憲法（第３版），渋谷秀樹，有斐閣，2017 年 ②憲法（第８版），辻村みよ子，日本評論社，2025 年 ③日本国憲法論（第２版），佐藤幸治，成文堂，2020 年 ④憲法１　基本権（第２版），渡辺康行ほか，日本評論社，2023 年	ISBN	①9784641227231 ②9784535529038 ③9784792306724 ④9784535527119
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	80
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	受講生の学修状況等に応じて、授業期間中に、中間試験・中間レポートを実施する可能性がある。これらを実施した場合、成績評価に反映する。詳細は授業中に説明する。 定期試験の内容は、長文論述問題を中心とする（論述すべき分量は、憲法Ⅰの定期試験よりも相当長い）。定期試験問題の事前予告はしない。持込みは、法学部指定六法のみ認めるか、あるいは一切認めない。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	表現の自由１	参考書のいずれかにて、表現の自由の箇所（全体）を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第２回	対面	表現の自由２	参考書のいずれかにて、表現の自由の箇所を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第３回	対面	法の下の平等１	参考書のいずれかにて、法の下の平等の箇所（全体）を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第４回	対面	法の下の平等２	参考書のいずれかにて、法の下の平等の箇所を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第５回	対面	法の下の平等３	参考書のいずれかにて、法の下の平等の箇所を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第６回	対面	政教分離１、信教の自由	参考書のいずれかにて、政教分離、信教の自由の箇所（全体）を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第７回	対面	政教分離２	参考書のいずれかにて、政教分離の箇所を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第８回	対面	政教分離３、思想・良心の自由、学問の自由	参考書のいずれかにて、政教分離、思想・良心の自由、学問の自由の箇所を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第９回	対面	個人の尊厳、幸福追求権、自己決定権	参考書のいずれかにて、個人の尊厳、幸福追求権、自己決定権の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１０回	対面	プライバシー権	参考書のいずれかにて、プライバシー権の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１１回	対面	経済的自由権	参考書のいずれかにて、経済的自由権の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間

第１２回	対面	生存権	参考書のいずれかにて、生存権の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１３回	対面	人権享有主体性、外国人の人権	参考書のいずれかにて、人権享有主体性、外国人の人権の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１４回	対面	人権の私人間効力	参考書のいずれかにて、人権の私人間効力の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	定期試験（期末試験）に向けた総括	これまでの授業内容の復習、定期試験（期末試験）に向けた学修	4 時間

科目名	憲法Ⅱ（人権）	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	上本　翔大	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法上の権利（人権論）		
授業の目的及び概要	この講義では、憲法学のうち、「憲法上の権利（人権論）」について扱います。憲法上の権利とは何か、日本国憲法はどのような権利を保障しているのか、異なる人権が衝突した場合にどのように調整するのかといった論点について、学説や判例に触れながら学修することがこの講義の目的です。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①憲法上の権利（人権論）についての基本的な考え方や基礎的な知識を習得している。 ②それらを基にして、具体的な紛争の解決を構想できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	随時、電子メールで質問を受け付けます。また、授業終了後に教室で質問を受け付けます。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に解答を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。担当者作成のレジュメを用いて授業を行います。	ISBN	なし。
参考書	※参考書は購入必須ではありません。講義内容について分からないことがあれば、適宜参照するようにしてください。 ※※シラバス作成後、版が改まっている可能性もあります。その場合には、最新のものを参考書としてください。 ①憲法Ⅱ・人権（第２版）、新井誠ほか、日本評論社、2021 年 ②憲法Ⅰ・基本権（第２版）、渡辺康行ほか、日本評論社、2023 年 ③憲法Ⅱ・人権（第３版）、毛利透ほか、有斐閣、2022 年 ④憲法判例百選Ⅰ（第８版）、長谷部恭男ほか編、有斐閣、2025 年 ⑤判例プラクティス憲法（第３版）、宍戸常寿＝曽我部真裕編著、信山社、2022 年	ISBN	①9784535806894 ②9784535527119 ③9784641179516 ④9784641115453 ⑤9784797226744

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	40
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	60
	その他（%）	
	その他の内容	

この科目の受講にあたって	中間試験日は目安です。「表現の自由」が終了後に実施します。 出席回数が、出席可能回数の三分の二に満たない場合、単位を認定しません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	受講ガイダンス、憲法の全体像、人権論の学習方法	予習では事前に配布するレジュメに目を通し、復習では前掲の参考書を活用しながら講義の内容を振り返ってください。	4 時間
第２回	対面	人権の分類、公共の福祉と人権、違憲審査の方法	同上。	4 時間
第３回	対面	人権の分類、公共の福祉と人権、違憲審査の方法（続き）	同上。	4 時間
第４回	対面	表現の自由	同上。	4 時間
第５回	対面	表現の自由（続き）	同上。	4 時間
第６回	対面	表現の自由（続き）	同上。	4 時間
第７回	対面	中間試験	同上。	4 時間
第８回	対面	平等原則	同上。	4 時間
第９回	対面	平等原則（続き）	同上。	4 時間
第１０回	対面	職業の自由	同上。	4 時間
第１１回	対面	職業の自由（続き）	同上。	4 時間
第１２回	対面	職業の自由（続き）	同上。	4 時間
第１３回	対面	思想良心の自由	同上。	4 時間
第１４回	対面	政教分離	同上。	4 時間
第１５回	オンデマンド	期末試験に向けての総括	期末試験に向けて講義内容を復習してください。	4 時間

科目名	憲法Ⅱ（人権）	開講年度	2026 年度春学期
担当者	上本　翔大	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法上の権利（人権論）		
授業の目的及び概要	この講義では、憲法学のうち、「憲法上の権利（人権論）」について扱います。憲法上の権利とは何か、日本国憲法はどのような権利を保障しているのか、異なる人権が衝突した場合にどのように調整するのかといった論点について、学説や判例に触れながら学修することがこの講義の目的です。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①憲法上の権利（人権論）についての基本的な考え方や基礎的な知識を習得している。 ②それらを基にして、具体的な紛争の解決を構想できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	随時、電子メールで質問を受け付けます。また、授業終了後に教室で質問を受け付けます。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に解答を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。担当者作成のレジュメを用いて授業を行います。	ISBN	なし。
参考書	※参考書は購入必須ではありません。講義内容について分からないことがあれば、適宜参照するようにしてください。 ※※シラバス作成後、版が改まっている可能性もあります。その場合には、最新のものを参考書としてください。 ①憲法Ⅱ・人権（第２版）、新井誠ほか、日本評論社、2021 年 ②憲法Ⅰ・基本権（第２版）、渡辺康行ほか、日本評論社、2023 年 ③憲法Ⅱ・人権（第３版）、毛利透ほか、有斐閣、2022 年 ④憲法判例百選Ⅰ（第８版）、長谷部恭男ほか編、有斐閣、2025 年 ⑤判例プラクティス憲法（第３版）、宍戸常寿＝曽我部真裕編著、信山社、2022 年	ISBN	①9784535806894 ②9784535527119 ③9784641179516 ④9784641115453 ⑤9784797226744

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	40
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	60
	その他（%）	
	その他の内容	

この科目の受講にあたって	中間試験日は目安です。「表現の自由」が終了後に実施します。 出席回数が、出席可能回数の三分の二に満たない場合、単位を認定しません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	受講ガイダンス、憲法の全体像、人権論の学習方法	予習では事前に配布するレジュメに目を通し、復習では前掲の参考書を活用しながら講義の内容を振り返ってください。	4 時間
第２回	対面	人権の分類、公共の福祉と人権、違憲審査の方法	同上。	4 時間
第３回	対面	人権の分類、公共の福祉と人権、違憲審査の方法（続き）	同上。	4 時間
第４回	対面	表現の自由	同上。	4 時間
第５回	対面	表現の自由（続き）	同上。	4 時間
第６回	対面	表現の自由（続き）	同上。	4 時間
第７回	対面	中間試験	同上。	4 時間
第８回	対面	平等原則	同上。	4 時間
第９回	対面	平等原則（続き）	同上。	4 時間
第１０回	対面	職業の自由	同上。	4 時間
第１１回	対面	職業の自由（続き）	同上。	4 時間
第１２回	対面	職業の自由（続き）	同上。	4 時間
第１３回	対面	思想良心の自由	同上。	4 時間
第１４回	対面	政教分離	同上。	4 時間
第１５回	オンデマンド	期末試験に向けての総括	期末試験に向けて講義内容を復習してください。	4 時間

科目名	憲法Ⅱ（人権）	開講年度	2026 年度春学期
担当者	森　征樹	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代の人権問題について考える		
授業の目的及び概要	本講義では憲法学の人権分野につき、現代の様々な人権問題に触れながら、「人権とは何か」、「人権は制限されざるを得ない場合があるのか、それはどのような場合か」、また「それを誰がどのような手続きで判断するのか」について学修する。 受講生諸君には、特に、マイノリティー（＝社会的少数者：セクシャルマイノリティーや障がい者、外国人、貧困層など）の人権を保障するためには、どうすればよいのかについて考えを巡らせてほしい。		
履修条件・留意点	「憲法Ⅰ」で学んだ内容を復習しておくことが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．現代社会で生じている様々な人権問題について解決策を見出せるようになること。 ２．自分自身の問題として人権問題を受け止め、自分の考えを持てるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	こちらが提示する質問に答える形のコメントカードを提出してもらう際に、任意の質問も受けつける。コメントカードに書いてもらったことについては、翌週の講義時に取り上げ、質問への回答や補足説明を行う。 レジュメや資料は、Web（Learning Portal 等）上にもアップする予定である。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『18 歳から考える人権〔第２版〕』宍戸常寿編、法律文化社、2020 年。	ISBN	9784589041173
参考書	『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第８版〕』長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿・小島慎司編、有斐閣、2025 年。 その他、テキストの巻末に記載されている「参考文献案内」を参照のこと。	ISBN	9784641213449 9784641213456

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	
	新聞記事やニュースを通じて、日々生じている人権問題・裁判についてアンテナをはり、関心を持つようにしてほしい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス／授業の進め方など	テキスト「プロローグ」（２～７頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間

第２回	対面	人権とは何か／人権を考えるための基礎知識	テキスト「第１章」（８～１３頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第３回	対面	人権享有主体／外国人の人権	テキスト「第２章」（１４～１９頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第４回	対面	幸福追求権／髪型の自由	テキスト「第３章」（２０～２５頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	法の下の平等／平等侵害の審査方法	テキスト「第４章」（２６～３１頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第６回	対面	思想・良心の自由	テキスト「第５章」（３２～３７頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第７回	対面	信教の自由／政教分離	テキスト「第６章」（３８～４３頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第８回	対面	表現の自由／ヘイトスピーチ	テキスト「第７章」（４４～４９頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第９回	対面	職業選択の自由／規制目的二分論	テキスト「第８章」（５０～５５頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第１０回	対面	学問の自由／大学の自治	テキスト「第９章」（５６～６１頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	生存権	テキスト「第１０章」（６２～６７頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第１２回	対面	教育を受ける権利	テキスト「第１１章」（６８～７３頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	勤労の権利／労働基本権	テキスト「第１２章」（７４～７９頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	財産権	テキスト「第１３章」（８０～８５頁）を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ	講義で扱ったテキストの箇所を、今一度読み返し、理解できていないところを事前に洗い出しておくこと。	4 時間

科目名	憲法Ⅱ（人権）	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉原　裕樹	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	基本的人権の発展的学修		
授業の目的及び概要	憲法学のうち基本的人権について、発展的な学説・判例を学修する。基本的人権の網羅的な解説をするというよりも、重要なトピックに焦点を当てて検討する。 講義形式と双方向・多方向型授業とを併用する。 受講生の学修状況等によっては、各回の授業計画の順序など、授業計画に変更が生ずる場合がある。 本科目は受講生が、憲法学のうち基本的人権の発展的内容を十分に理解したうえで、理解した内容を的確に表現できるようになることを目指す。		
履修条件・留意点	本科目は、「憲法Ⅰ＜憲法概論＞」（以下、単に「憲法Ⅰ」という）の内容全体を十分に修得したうえで、憲法の発展的な学修を希望する学生を対象とする。そのため、まだ憲法Ⅰの単位を取得していない学生は、原則として、本科目を受講することはできない。 また、憲法Ⅰの成績評価が「可」であった学生は、憲法Ⅰの「内容全体を『十分に』修得した」とはいいがたいため、憲法Ⅰの履修後ただちに本科目を受講することは勧められない。そのような学生には、本科目よりも先に、憲法に関する入門的科目（共通教育科目を含む）や特修講座（Ｓコース）などで、憲法Ⅰに相当する内容を十分に修得したあとで、本科目を受講することを勧める。 憲法Ⅰの成績評価が「優」以上であった学生は、基本的には、本科目を問題なく受講できると思われる。 本科目では、双方向・多方向型のやりとりにて、教員が受講生を指名して質問を発する。質問の内容には、憲法Ⅰで説明した内容も含まれる。そのような質問に確実に答えられるように、憲法Ⅰの内容も、しっかりと復習しておいてほしい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	憲法学のうち基本的人権の内容について、発展的な学説・判例を含め、十分に理解している。【ＤＰ１】【ＤＰ２】 そのうえで、理解した内容を的確に、口頭で説明し、文章として筆記することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向・多方向型授業により、受講生の理解と考察を深める。 定期試験実施後、その講評等を提供する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない。 参考書のうちいずれか１つを教科書として用意し、予習・復習に活用すること。	ISBN	指定しない。
参考書	①憲法（第３版），渋谷秀樹，有斐閣，2017 年 ②憲法（第８版），辻村みよ子，日本評論社，2025 年 ③日本国憲法論（第２版），佐藤幸治，成文堂，2020 年 ④憲法１　基本権（第２版），渡辺康行ほか，日本評論社，2023 年	ISBN	①9784641227231 ②9784535529038 ③9784792306724 ④9784535527119
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	80
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	受講生の学修状況等に応じて、授業期間中に、中間試験・中間レポートを実施する可能性がある。これらを実施した場合、成績評価に反映する。詳細は授業中に説明する。 定期試験の内容は、長文論述問題を中心とする（論述すべき分量は、憲法Ⅰの定期試験よりも相当長い）。定期試験問題の事前予告はしない。持込みは、法学部指定六法のみ認めるか、あるいは一切認めない。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	表現の自由１	参考書のいずれかにて、表現の自由の箇所（全体）を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第２回	対面	表現の自由２	参考書のいずれかにて、表現の自由の箇所を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第３回	対面	法の下の平等１	参考書のいずれかにて、法の下の平等の箇所（全体）を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第４回	対面	法の下の平等２	参考書のいずれかにて、法の下の平等の箇所を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第５回	対面	法の下の平等３	参考書のいずれかにて、法の下の平等の箇所を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第６回	対面	政教分離１、信教の自由	参考書のいずれかにて、政教分離、信教の自由の箇所（全体）を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第７回	対面	政教分離２	参考書のいずれかにて、政教分離の箇所を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第８回	対面	政教分離３、思想・良心の自由、学問の自由	参考書のいずれかにて、政教分離、思想・良心の自由、学問の自由の箇所を予習する。特に重点的に予習すべき箇所については、前の授業回にて指定する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第９回	対面	個人の尊厳、幸福追求権、自己決定権	参考書のいずれかにて、個人の尊厳、幸福追求権、自己決定権の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１０回	対面	プライバシー権	参考書のいずれかにて、プライバシー権の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１１回	対面	経済的自由権	参考書のいずれかにて、経済的自由権の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間

第１２回	対面	生存権	参考書のいずれかにて、生存権の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１３回	対面	人権享有主体性、外国人の人権	参考書のいずれかにて、人権享有主体性、外国人の人権の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１４回	対面	人権の私人間効力	参考書のいずれかにて、人権の私人間効力の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	定期試験（期末試験）に向けた総括	これまでの授業内容の復習、定期試験（期末試験）に向けた学修	4 時間

科目名	憲法Ⅱ（統治）	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉原　裕樹	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法総論・統治機構分野の発展的学修		
授業の目的及び概要	憲法学のうち統治機構（憲法総論を含む。以下同じ）について、発展的な学説・判例を学修する。統治機構の網羅的な解説をするというよりも、重要なトピックに焦点を当てて検討する。 統治機構には、憲法訴訟論が含まれる。憲法訴訟論は、近年、憲法学説が急速に発展しているうえ、憲法判例を適切に理解する上でも非常に重要である。そのため本科目では、憲法訴訟論に重点を置く。憲法訴訟論は、基本的人権との関連が非常に深いため、基本的人権の十分な理解なくして、憲法訴訟論を適切に理解することは困難である。 本科目の定期試験では、解答にあたって、統治機構の知識はもちろん、基本的人権の知識も必要になる可能性が十分にある。本科目の授業及び定期試験で問われた限りで、基本的人権に関する知識も、本科目の成績評価の対象となる。 講義形式と双方向・多方向型授業とを併用する。 受講生の学修状況等によっては、各回の授業計画の順序など、授業計画に変更が生ずる場合がある。 本科目は受講生が、憲法学のうち統治機構の発展的内容を十分に理解したうえで、理解した内容を的確に表現できるようになることを目指す。		
履修条件・留意点	本学では、憲法関連科目の配当学年・学期からも分かるように、「憲法Ⅰ＜憲法概論＞」（以下「憲法Ⅰ」という）、さらに「憲法 II（人権）＜憲法学Ⅰ＞」（以下「憲法 II（人権）」という）を学修したうえで、本科目の学修に取り組むことが想定されている。 本科目は、憲法Ⅰ・憲法 II（人権）の内容全体を十分に修得したうえで、憲法の発展的な学修を希望する学生を対象とする。そのため、まだ憲法Ⅰ・憲法 II（人権）のうち、単位を取得していない科目がある学生は、原則として、本科目を受講することはできない。 憲法Ⅰ・憲法 II（人権）のうち、成績評価が「可」であった科目がある学生は、当該科目の履修後ただちに本科目を受講することは勧められない。そのような学生には、本科目よりも先に、憲法に関する、より入門的な科目（共通教育科目を含む）や特修講座（Ｓコース）などで、憲法Ⅰ・憲法 II（人権）に相当する内容を十分に修得したあとで、本科目を受講することを勧める。 本科目の担当教員（吉原裕樹）が担当する憲法Ⅰ・憲法 II（人権）の成績評価が、ともに「優」以上であった学生は、基本的には、本科目を問題なく受講できると思われる。 本科目では、双方向・多方向型のやりとりにて、教員が受講生を指名して質問を発する。質問の内容には、憲法Ⅰ・憲法 II（人権）で取り扱った内容も含まれる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	憲法学のうち憲法総論・統治機構の内容について、発展的な学説・判例を含め、十分に理解している。【ＤＰ１】【ＤＰ２】 そのうえで、理解した内容を的確に、口頭で説明し、文章として筆記することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向・多方向型授業により、受講生の理解と考察を深める。 定期試験実施後、その講評等を提供する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない。	ISBN	指定しない。

	参考書のうちいずれか１つを教科書として用意し、予習・復習に活用すること。		
参考書	①憲法（第３版），渋谷秀樹，有斐閣，2017 年 ②憲法（第８版），辻村みよ子，日本評論社，2025 年 ③日本国憲法論（第２版），佐藤幸治，成文堂，2020 年 ④憲法２　総論・統治（第２版），渡辺康行ほか，日本評論社，2025 年	ISBN	①9784641227231 ②9784535529038 ③9784792306724 ④9784535528260

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	80
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	受講生の学修状況等に応じて、授業期間中に、中間試験・中間レポートを実施する可能性がある。これらを実施した場合、成績評価に反映する。詳細は授業中に説明する。 定期試験の内容は、長文論述問題を中心とする（論述すべき分量は、憲法Ｉの定期試験よりも相当長い）。定期試験問題の事前予告はしない。持込みは、法学部指定六法のみ認めるか、あるいは一切認めない。 司法試験受験生は、司法試験の憲法の事例問題に関して、法令審査（法令違憲）・適用審査（適用違憲）の使い分けや、それぞれにおける論述の方法について悩むことが多い。他ならぬ本科目担当教員（吉原裕樹）自身もそうであった。他方で、憲法の体系書・概説書を読んだだけでは、これらの点について十分理解することは、決して容易ではない。 本科目では、憲法訴訟論において、法令審査・適用審査の具体的な内容や使い分けなど、司法試験受験生が悩むであろうと思われる点についても、十分に取り上げる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	基本的人権の復習、違憲審査制 二重の基準論（表現の自由の優越的地位論）、司法積極主義と司法消極主義など。	予習として、憲法Ｉ・憲法 II（人権）の内容全体を復習する。 参考書のいずれかにて、違憲審査制の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第２回	対面	違憲審査制・憲法訴訟論 法令審査（法令違憲）と適用審査（適用違憲）、合憲限定解釈、憲法適合的解釈など。	参考書のいずれかにて、左記分野の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第３回	対面	違憲審査制・憲法訴訟論・司法権 付随的違憲審査制と抽象的違憲審査制、統治行為論（政治問題の法理）など。	参考書のいずれかにて、左記分野の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第４回	対面	違憲審査制・憲法訴訟論・司法権 特別権力関係・部分社会論、法律上の争訟など。	参考書のいずれかにて、左記分野の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第５回	対面	裁判所（司法権） 憲法における「司法権」概念、裁判所の組織、裁判官の独立、裁判員裁判など。	参考書のいずれかにて、左記分野の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第６回	対面	立憲主義・民主主義 立憲主義と民主主義との関係、原意主義、プリコミットメント論など。	参考書のいずれかにて、左記分野の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第７回	対面	平和主義 自衛隊の合憲性、集団的自衛権など。	参考書のいずれかにて、左記分野の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第８回	対面	憲法総論のうち、これまでに取り扱っていない分野	参考書のいずれかにて、左記分野の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間

第９回	対面	統治機構　総論 三権分立、統治機構に関する近年の制度改革など。	参考書のいずれかにて、左記分野の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１０回	対面	国会（立法権） 憲法における「立法」概念、二院制など。	参考書のいずれかにて、左記分野の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１１回	対面	国会（立法権）・内閣（行政権） 議院内閣制、衆議院の解散など。	参考書のいずれかにて、左記分野の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１２回	対面	内閣（行政権） 憲法における「行政権」概念、内閣総理大臣の地位など。	参考書のいずれかにて、左記分野の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１３回	対面	地方自治 住民自治・団体自治、法律と条例など。	参考書のいずれかにて、左記分野の箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１４回	対面	個別的問題 憲法総論・統治機構のうち、これまでに取り上げてこなかった個別的問題を取り上げる。取り上げる個別的問題は、事前に指定する。	参考書のいずれかにて、事前に指定した個別的問題に関連する箇所を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	定期試験（期末試験）に向けた総括	これまでの授業内容の復習、定期試験（期末試験）に向けた学修	6 時間

科目名	憲法Ⅱ（統治）	開講年度	2026 年度春学期
担当者	上本　翔大	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	統治機構		
授業の目的及び概要	憲法Ⅱ（統治）では、憲法学のうち、「統治機構」について扱います。日本国憲法はどのような統治体制を予定しており、各国家機関にどのような権限を付与しているのかといった論点について、学説や判例を題材としながら、学修することがこの講義の目的です。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①統治機構についての基本的な考え方や基礎的な知識を習得している。 ②それらを基にして、具体的な事例の解決を構想できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	随時、電子メールで質問を受け付けます。また、授業終了後に教室で質問を受け付けます。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に解答を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。担当者作成のレジュメを用いて授業を行います。	ISBN	なし。
参考書	※参考書は購入必須ではありません。講義内容について分からないことがあれば、適宜参照するようにしてください。 ※※シラバス作成後、版が改まっている可能性もあります。その場合には、最新のものを参考書としてください。 ①憲法Ⅰ（総論・統治）〔第２版〕、新井誠ほか、日本評論社、2021 年 ②憲法Ⅱ（総論・統治）〔第２版〕、渡辺康行ほか、日本評論社、2025 年 ③憲法Ⅰ（総論・統治）〔第３版〕、毛利透ほか、有斐閣、2022 年 ④憲法判例百選Ⅱ（第８版）、長谷部恭男ほか編、有斐閣、2025 年 ⑤判例プラクティス（第３版）、曽我部真裕＝宍戸常寿編著、信山社、2022 年	ISBN	①9784535806887 ②9784535524798 ③9784641179509 ④9784641115460 ⑤9784535528260

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講に	中間試験の日程は目安です。国会（立法権）が終了後に実施します。	

あたって	出席回数が、出席可能回数の三分の二に満たない場合、単位を認定しません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	受講ガイダンス、憲法の全体像	予習では事前に配布するレジュメに目を通し、復習では前掲の参考書を活用しながら講義の内容を振り返ってください。	4 時間
第２回	対面	統治構造の基本原理	同上。	4 時間
第３回	対面	統治構造の基本原理（続き）	同上。	4 時間
第４回	対面	国会（立法権）	同上。	4 時間
第５回	対面	国会（立法権）（続き）	同上。	4 時間
第６回	対面	国会（立法権）（続き）	同上。	4 時間
第７回	対面	中間試験	同上。	4 時間
第８回	対面	内閣（行政権）	同上。	4 時間
第９回	対面	内閣（行政権）（続き）	同上。	4 時間
第１０回	対面	裁判所（司法権）	同上。	4 時間
第１１回	対面	裁判所（司法権）（続き）	同上。	4 時間
第１２回	対面	裁判所（司法権）（続き）	同上。	4 時間
第１３回	対面	地方自治	同上。	4 時間
第１４回	対面	地方自治（続き）	同上。	4 時間
第１５回	オンデマンド	期末試験に向けての総括	期末試験に向けて講義内容を復習してください。	4 時間

科目名	憲法Ⅱ（統治）	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	上本　翔大	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	統治機構		
授業の目的及び概要	憲法Ⅱ（統治）では、憲法学のうち、「統治機構」について扱います。日本国憲法はどのような統治体制を予定しており、各国家機関にどのような権限を付与しているのかといった論点について、学説や判例を題材としながら、学修することがこの講義の目的です。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①統治機構についての基本的な考え方や基礎的な知識を習得している。 ②それらを基にして、具体的な事例の解決を構想できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	随時、電子メールで質問を受け付けます。また、授業終了後に教室で質問を受け付けます。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に解答を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。担当者作成のレジュメを用いて授業を行います。	ISBN	なし。
参考書	※参考書は購入必須ではありません。講義内容について分からないことがあれば、適宜参照するようにしてください。 ※※シラバス作成後、版が改まっている可能性もあります。その場合には、最新のものを参考書としてください。 ①憲法Ⅰ（総論・統治）〔第２版〕、新井誠ほか、日本評論社、2021 年 ②憲法Ⅱ（総論・統治）〔第２版〕、渡辺康行ほか、日本評論社、2025 年 ③憲法Ⅰ（総論・統治）〔第３版〕、毛利透ほか、有斐閣、2022 年 ④憲法判例百選Ⅱ（第８版）、長谷部恭男ほか編、有斐閣、2025 年 ⑤判例プラクティス（第３版）、曽我部真裕＝宍戸常寿編著、信山社、2022 年	ISBN	①9784535806887 ②9784535524798 ③9784641179509 ④9784641115460 ⑤9784535528260

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講に	中間試験の日程は目安です。国会（立法権）が終了後に実施します。	

あたって	出席回数が、出席可能回数の三分の二に満たない場合、単位を認定しません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	受講ガイダンス、憲法の全体像	予習では事前に配布するレジュメに目を通し、復習では前掲の参考書を活用しながら講義の内容を振り返ってください。	4 時間
第２回	対面	統治構造の基本原理	同上。	4 時間
第３回	対面	統治構造の基本原理（続き）	同上。	4 時間
第４回	対面	国会（立法権）	同上。	4 時間
第５回	対面	国会（立法権）（続き）	同上。	4 時間
第６回	対面	国会（立法権）（続き）	同上。	4 時間
第７回	対面	中間試験	同上。	4 時間
第８回	対面	内閣（行政権）	同上。	4 時間
第９回	対面	内閣（行政権）（続き）	同上。	4 時間
第１０回	対面	裁判所（司法権）	同上。	4 時間
第１１回	対面	裁判所（司法権）（続き）	同上。	4 時間
第１２回	対面	裁判所（司法権）（続き）	同上。	4 時間
第１３回	対面	地方自治	同上。	4 時間
第１４回	対面	地方自治（続き）	同上。	4 時間
第１５回	オンデマンド	期末試験に向けての総括	期末試験に向けて講義内容を復習してください。	4 時間

科目名	憲法Ⅱ（統治）	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	森　征樹	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	日本国憲法に規定された統治機構の問題（象徴天皇制、平和主義、制定過程を含む）について考える。		
授業の目的及び概要	本講義では憲法学の統治機構分野および象徴天皇制、平和主義、憲法制定過程につき、現代の様々な事象に触れながら、日本国憲法に規定されたその基本的な仕組みについて学修するとともに、その問題点について考える。		
履修条件・留意点	「憲法Ⅰ」で学んだ内容を復習しておくことが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．日本国憲法に規定された統治機構および象徴天皇制、平和主義の仕組みについて理解すること。 ２．現代の統治機構の問題点を探り、解決策を見いだせるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートで質問を受け付け、それに対してリプライを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『憲法講義［第３版］』本秀紀編、日本評論社、2022 年。	ISBN	9784535525634
参考書	『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ〔第８版〕』長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿・小島慎司編、有斐閣、2025 年。	ISBN	9784641213449 9784641213456

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	
	国会や内閣、裁判所でいま何が行われているか、日頃から新聞記事・ニュースに目を通して関心を持つようにすること。 すでに受講した他の憲法科目（「日本国憲法」、「憲法Ⅰ」、「憲法Ⅱ（人権）」など）のおさらいをしておくこと。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス／授業の進め方など	テキスト「第１章 憲法の基礎理論」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	日本憲法史／日本国憲法の制定過程	テキスト「第２章 日本憲法史」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第３回	対面	平和主義／憲法９条と自衛隊	テキスト「第３章 平和主義」を事前に読んでおくこ	4 時間

			と。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	
第４回	対面	権力分立・法の支配／権力分立制の現代的変容	テキスト「第 4 章 権力分立・法の支配」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	国民主権・象徴天皇制／主権者は誰か	テキスト「第 5 章 国民主権・象徴天皇制」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第６回	対面	選挙制度と政党	テキスト「第 6 章 選挙制度と政党」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第７回	対面	国会の地位・組織／全国民の代表とは	テキスト「第 7 章 国会の地位・組織」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第８回	対面	国会の活動・権限／不逮捕特権・免責特権は必要か	テキスト「第 8 章 国会の活動・権限」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第９回	対面	内閣／行政権とは何か	テキスト「第 9 章 内閣」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第１０回	対面	議院内閣制／内閣の責任・衆議院の解散	テキスト「第 10 章 議院内閣制」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	裁判所／法律上の争訟・民衆訴訟と機関訴訟	テキスト「第 11 章 裁判所」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第１２回	対面	司法権の観念と限界／部分社会の法理・統治行為	テキスト「第 12 章 司法権の観念と限界」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	違憲審査制・憲法訴訟／付随的審査・抽象的審査	テキスト「第 13 章 違憲審査制・憲法訴訟」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	地方自治	テキスト「第 14 章 地方自治」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	憲法保障と憲法改正／憲法改正の限界	テキスト「第 15 章 憲法保障と憲法改正」を事前に読んでおくこと。授業後は同箇所で理解できなかった点について復習しておくこと。	4 時間

科目名	憲法Ⅱ（統治）	開講年度	2026 年度春学期
担当者	渡邉　康行	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	統治機構に関する基本問題と現代的課題		
授業の目的及び概要	憲法総論および日本国憲法が規定している統治制度について、現在いかなる問題があるかを判例・学説などを素材として検討する。		
履修条件・留意点	憲法Ⅰの単位を取得済であること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	日本国憲法が規定している統治制度に関して、現在いかなる問題があり、いかに解決すべきかを考える素養を身に着ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験、期末試験については、必要な解説と成績分布などを公表したい。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特になし	ISBN	なし
参考書	①憲法〔第８版〕，芦部信喜（高橋和之補訂），岩波書店，2024 年 ②憲法判例百選Ⅰ〔第８版〕，長谷部恭男ほか編，有斐閣，2025 年 ③憲法判例百選Ⅱ〔第８版〕，長谷部恭男ほか編，有斐閣，2025 年 ④憲法Ⅱ　総論・統治〔第２版〕，渡辺・宍戸・松本・工藤，日本評論社，2025 年	ISBN	①9784000616072 ②9784641213449 ③9784641213456 ④9784535528260

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	20
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	憲法Ⅰを履修していることを前提とする。憲法Ⅱ（人権）についても履修済みか、少なくとも並行して履修していることを求める。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業概要の説明と、日本国憲法の制定過程、基本原理について解説する。	芦部『憲法』第２章、第３章Ⅰを事前に読んでおくこと。芦部『憲法』以外の教科書を使用する学生は、各自の教科書で当該部分を事前に読むこと。（以下は同じであるため、この記載は省略）。また事前に配布するレジュメに目を通しておく。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深め	4 時間

			る。	
第2回	対面	国民主権と天皇制	芦部『憲法』第３章Ⅱ、Ⅲを事前に読んでおくこと。また事前に配布するレジュメに目を通しておく。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第3回	対面	平和主義	芦部『憲法』第 4 章を事前に読んでおくこと。また事前に配布するレジュメに目を通しておく。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第4回	対面	代表民主制と選挙制度（1）	芦部『憲法』第 14 章三を事前に読んでおくこと。また事前に配布するレジュメに目を通しておく。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第5回	対面	代表民主制と選挙制度（2）	芦部『憲法』第 14 章三を事前に読んでおくこと。また事前に配布するレジュメに目を通しておく。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第6回	対面	国会（1）	芦部『憲法』第 14 章を事前に読んでおくこと。また事前に配布するレジュメに目を通しておく。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第7回	対面	国会（2）	芦部『憲法』第 14 章を事前に読んでおくこと。また事前に配布するレジュメに目を通しておく。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第8回	対面	内閣	芦部『憲法』第 15 章を事前に読んでおくこと。また事前に配布するレジュメに目を通しておく。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第9回	対面	司法権（1）	芦部『憲法』第１6 章を事前に読んでおくこと。また事前に配布するレジュメに目を通しておく。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第１０回	対面	司法権（2）	芦部『憲法』第１６章を事前に読んでおくこと。また事前に配布するレジュメに目を通しておく。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第１１回	対面	司法権（3）	芦部『憲法』第１６章を事前に読んでおくこと。また事前に配布するレジュメに目を通しておく。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第１２回	対面	違憲審査制（1）	芦部『憲法』第１８章二を事前に読んでおくこと。また事前に配布するレジュメに目を通しておく。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第１３回	対面	違憲審査制（2）	芦部『憲法』第 18 章二を事前に読んでおくこと。また事前に配布するレジュメに目を通しておく。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第１４回	対面	違憲審査制（3）	芦部『憲法』第 18 章にを事前に読んでおくこと。また事前に配布するレジュメに目を通しておく。授業後は、取り扱われた判例について憲法判例百選を読んで理解を深める。	4 時間
第１５回	オンデマンド	全体のまとめ	これまでの授業内容を復習する。	4 時間

科目名	行政法総論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	古田　隆	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政を規律する法の基本原理		
授業の目的及び概要	行政法は、公務員や法曹などが知っておけばいいというものではない。民間の企業や団体においても、個人においても、行政との関わりを避けることはできない。 国の法令は約 9,000、地方公共団体の条例、規則等は約 145 万あるといわれ、その大半が行政法に分類されるものである。これらの法令等の内容を全て把握することは無理だが、行政法の基本原理を理解することは極めて重要であり、この講義でそれらを学ぶ。		
履修条件・留意点	学修効果の観点から、憲法関連科目を履修していること／一緒に履修することを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・行政法の概要、条文の文言や専門用語の意味について理解し、説明することができる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・行政法に関わる法律問題について、授業で学修した知識を活かし、妥当な結論を導くことができる。【ＤＰ２】 ・法律文章の読み方、書き方及び法的思考法を理解し、自ら運用することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを次回授業の冒頭で紹介し、質問への回答等補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、指定都市職員として 39 年間勤務し、部長級まで務め、条例等審査、不服審査、訴訟などの自治体法務に通算 24 年携わったほか、行財政改善、社会福祉法人の監査等の分野において政策形成に関与した。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しない。資料をラーニングポータル上に掲載する。	ISBN	―
参考書	①『公務員をめざす人に贈る 行政法教科書(第２版)』, 板垣勝彦, 法律文化社, 2023 年 ②『行政法（第４版)』(有斐閣ストゥディア), 野呂充・野口貴公美・飯島淳子・湊二郎, 有斐閣, 2026 年	ISBN	①978-4-589-04285-9 ②978-4-641-15147-5

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・法学部指定六法を必ず持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器（ＰＣやスマホなど）の使用は禁止し、違反者に対しては厳しく対応する。 ・担当教員は、地方公共団体（指定都市）に 39 年間勤務し、そのうち通算 24 年間法務（条例等の審査、行政不服申立て、訴訟等）を担当したほか、コンプライアンス、法人監査等も担当した。こうした実務経験も交えて授業を進めるので、特に公務員の仕事や法務を通じた政策実現などに興味がある学生は、この科目の履修を期待する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【ガイダンス、行政法への招待】 あなたの問題として考えてみよう。 「あなたは、本大学の〇〇部員（〇〇は各自想定すること）で、他大学との［試合・合同コンサート等］のため、Ａ市立［体育館・競技場・ホール等］の管理事務所に行き、使用許可（以下「本件許可」という。）を受けていたが、数日後、管理事務所から使用許可の取消し（以下「本件取消し」という。）を行うとの通知書が届いた。通知書には、取消しの理由として『市長が必要と認めるため』としか書いていなかった。Ａ市行政手続条例の規定は、行政手続法と同様であるものとする。あなたはどのように対応すべきだろうか？」 以下この設問に沿って講義を進めていく。	【事前学修】法学部指定六法で行政手続法の不利益処分に関する規定や、参考書等で該当箇所を読み、自分なりに対応策を考えてみるとともに、疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、参考書等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第２回	対面	【行政手続１　処分】 行政手続法や行政手続条例をよく読んでおくようにとのアドバイスがあったが、市立の施設と民営の施設で利用関係に違いを感じることはない。本件許可や本件取消しは処分に該当するのだろうか？ 行政手続における処分について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第３回	対面	【行政手続２　不利益処分】 本件取消しは、適正な手続で行われたといえるだろうか？ 不利益処分について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第４回	対面	【行政手続３　申請に対する処分その他行政手続】 仮に本件が「使用許可の申請をしたが、いつまで経っても許可も不許可もされなかった。」という事例だった場合、あなたはどのような対応をすべきだろうか？ 申請に対する処分その他行政手続について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第５回	対面	【行政裁量】 本件施設の管理条例に「市長が必要と認めるとき」に使用許可の取消しができるとの規定があった場合、本件取消処分は裁量の範囲内といえるのだろうか？ 行政裁量について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習す	4 時間

			る。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	
第６回	対面	【情報公開】 Ａ市の情報公開窓口で本件に関する情報公開請求をしたところ、数日後に公文書の公開があり、Ａ市議会議員の懇親行事で使用したいために本件取消しを行ったことがわかった。 情報公開について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第７回	対面	【処分（行政行為）の瑕疵、取消し】 本件取消しは違法な処分だといえないか？違法な処分は全て無効なものといえるのか？ 処分の瑕疵とその取消しについて学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第８回	対面	【行政指導】 あなたは、本件取消しの取消しを求めた。管理事務所は、市役所内の部署や弁護士への相談をした結果、本件取消しを維持できないと考え、本件取消しを職権で取り消したが、管理事務所の所長は許可申請を取り下げてもらえないかと強く要請してきた。 行政指導について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第９回	対面	【行政組織１　地方自治法】 管理事務所は、地方公共団体であるＡ市の出先事務所である。管理事務所はＡ市の市長や教育委員会とどのような関係にあるのか？国や都道府県の出先事務所ではないのか？ 地方自治法の概要について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１０回	対面	【行政組織２　行政庁、行政組織】 本件許可や本件取消しの文書はＡ市長の名で発せられた。しかし、情報公開で得た公文書を見ると、Ａ市長は本件許可や本件取消しの意思決定に関与していないようである。どういうことだろうか？ 行政庁（行政主体の意思決定を外部に表示する機関）その他の行政組織について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１１回	対面	【行政組織３　委任、指定管理】 本件許可や本件取消しの文書はＡ市長の名で発せられたが、他の施設では、管理事務所長名や指定管理者名で文書が発生されるＡ市立施設もあるらしい。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。	４時間

		委任や指定管理について学習する。	【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	
第１２回	対面	【行政不服申立て・行政訴訟との関係】 本件では、あなたの的確な主張により問題が解決したが、解決しなかった場合、行政不服申立てや行政訴訟の手続を利用しなければならない。行政手続上の処分は、当然にこれらで争うことができるのか？ 行政不服申立てや行政訴訟の概要と行政手続との関係について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１３回	対面	【法律による行政の原理】 法律による行政などの基本原則は、講義の冒頭で聞くよりも、本件設問について考えを巡らせた後の方が理解しやすいだろう。法律による行政の原理などについて学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１４回	対面	【その他の行政法の基本原則】 前回に引き続き、行政の基本原則について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。これには２時間を要する。	４時間
第１５回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信する。	【事前学修】これまでのレジュメや参考書等を読み、全体の内容を把握する。これには２時間を要する。 【事後学修】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行う。これには２時間を要する。	４時間

科目名	行政法総論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	古田　隆	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政を規律する法の基本原理		
授業の目的及び概要	行政法は、公務員や法曹などが知っておけばいいというものではない。民間の企業や団体においても、個人においても、行政との関わりを避けることはできない。 国の法令は約 9,000、地方公共団体の条例、規則等は約 145 万あるといわれ、その大半が行政法に分類されるものである。これらの法令等の内容を全て把握することは無理だが、行政法の基本原理を理解することは極めて重要である。この講義では、行政法総論のうち、行政法総論Ⅰで取り扱わなかった内容を学ぶ。		
履修条件・留意点	行政法総論Ⅰの単位を取得しているか、あるいは、授業外の自修により行政法総論Ⅰの内容を十分修得していることを前提とする。さらに、学修効果の観点から、憲法関連科目を履修していること／一緒に履修することを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・行政法の概要、条文の文言や専門用語の意味について理解し、説明することができる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・行政法に関わる法律問題について、授業で学修した知識を活かし、妥当な結論を導くことができる。【ＤＰ２】 ・法律文章の読み方、書き方及び法的思考法を理解し、自ら運用することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを次回授業の冒頭で紹介し、質問への回答等補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、指定都市職員として 39 年間勤務し、部長級まで務め、条例等審査、不服審査、訴訟などの自治体法務に通算 24 年携わったほか、行財政改善、社会福祉法人の監査等の分野において政策形成に関与した。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しない。資料をラーニングポータル上に掲載する。	ISBN	－
参考書	①『公務員をめざす人に贈る 行政法教科書(第２版)』, 板垣勝彦, 法律文化社, 2023 年 ②『行政法（第４版)』(有斐閣ストゥディア), 野呂充・野口貴公美・飯島淳子・湊二郎, 有斐閣, 2026 年	ISBN	①978-4-589-04285-9 ②978-4-641-15147-5

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・法学部指定六法を必ず持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器（ＰＣやスマホなど）の使用は禁止し、違反者に対しては厳しく対応する。 ・担当教員は、地方公共団体（指定都市）に 39 年間勤務し、そのうち通算 24 年間法務（条例等の審査、行政不服申立て、訴訟等）を担当したほか、コンプライアンス、法人監査等も担当

	した。こうした実務経験も交えて授業を進めるので、特に公務員の仕事や法務を通じた政策実現などに興味がある学生は、この科目の履修を期待する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【ガイダンス】 市役所職員のあなたは、市民から次のような苦情を聞いている。 「近所の一人暮らしのお年寄りは、家にごみを大量にため込んで悪臭を放ってんねん。行政は何とかしてもらわんと。市役所の人は、議会での審議が大変とか言うとるけど、市長がルールを決めて指導したら済む話やん。公務員は「事なかれ主義」やからねぇ。 そうかと思えば、うちの地域で区画整理するから、うちの敷地が減らされるねんて。行政はいらんことせんでええねん。ほんで、こないだ市役所に文句言いに来て、市役所の駐輪場がいっぱいやったから近くに自転車を置いてたら、市役所に放置自転車として撤去されてもたわ。なんしか踏んだり蹴ったりや。どないかできひんの？」 以下この問いかけに沿って講義を進めていく。	【事前学修】法学部指定六法や参考書等で該当すると思われる箇所を読み、自分なりに検討してみるとともに、疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、参考書等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第２回	対面	【行政法の法源、行政立法】 市長の定める規則で住民の権利を制限することができるだろうか？ 行政法の法源にはどのようなものがあり、行政立法とはどのようなものか学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第３回	対面	【行政指導】 ごみを堆積する者に対して行政が指導をすることはできるだろうか？ 行政指導とその限界について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第４回	対面	【行政調査】 ごみ屋敷への対応を検討するためには実態調査が必要であるが、それには法令上の根拠が必要だろうか？ 行政調査について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第５回	対面	【行政強制】 市では、家などにごみを堆積する者に対	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があ	4 時間

		し、その撤去を命じる条例を制定することにした。その強制手段にはどのようなものがあるか？ 行政上の強制手段について学習する。	れば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	
第６回	対面	【行政行為の付款】 ごみの撤去命令は、期限を付して出されるが、この期限は行政行為の付款と呼ばれる。行政行為の付款にはどのようなものがあるか？ 行政行為の付款について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第７回	対面	【行政代執行】 ごみの堆積者がごみを撤去しない場合、行政が代わってこれを撤去することができるか？ 行政代執行法について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第８回	対面	【行政罰】 行政上の義務を履行しない者に対して刑罰などの制裁を加えることはできないか？ 行政罰について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第９回	対面	【即時強制】 本件の自転車の撤去は、即時強制といわれるが、即時強制とはどのようなものか？ 即時強制について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１０回	対面	【行政契約】 ごみ堆積者へは福祉的な対応も必要で、その対応をしてくれるボランティアに市から補助金が支払われることになった。このように、一方的な命令等ではなく、双方の合意で行政目的を実現する行政契約にはどのようなものがあるか？ 行政契約について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に	４時間

			教員に質問する。これには２時間を要する。	
第１１回	対面	【行政計画】 土地区画整理事業の事業計画は、行政計画の一種であるが、行政計画にはどのようなものがあるか？ 行政計画について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１２回	対面	【公務員】 行政の諸活動は、公務員に担われている。公務員の制度はどのようなものだろうか？ 公務員について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１３回	対面	【公法と私法】 ごみを堆積した後に撤去を命じるのでは根本的な解決にならないとして、ごみ屋敷条例を改正し、ごみの堆積中止を命じてこれに従わないときは行政代執行又は民事執行で止めることを検討しているが、可能だろうか？ 公法と私法について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１４回	対面	【行政法の基本原則】 行政法の基本原則は、講義の冒頭で聞くよりも、本件問いについて考えを巡らせた後の方が理解しやすいだろう。 行政法の基本原則について学習する。	【事前学修】レジュメや参考書等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 【事後学修】授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。これには２時間を要する。	４時間
第１５回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信する。	【事前学修】これまでのレジュメや参考書等を読み、全体の内容を把握する。これには２時間を要する。 【事後学修】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行う。これには２時間を要する。	４時間

科目名	行政救済法Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	坂上　文一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政救済手続の流れと仕組みを学ぶ。		
授業の目的及び概要	授業の目的は、行政救済手続の全体の流れと仕組みを学び、その基本構造について理解することにある。 主として、行政救済手続の流れに沿って、行政訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償、損失補償の基本的な制度や概念等の意味内容について説明する講義を行う。 行政救済手続の初歩を学びたい皆さんを受講対象とします。		
履修条件・留意点	学修効率の観点から、憲法Ⅰ、行政法総論Ⅰを履修していること、または、一緒に履修することを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償、損失補償の基本構造を正しく理解し、条文の文言や専門用語の意味について理解し、説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の冒頭で、前回の授業内容の復習ポイントを確認する。 毎回実施する予定の小テスト及び定期試験の出題趣旨、解説、講評等について、ポータルに掲載するなどの方法により開示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	有斐閣ストゥディア　行政法（第４版），野呂充ほか，有斐閣，2026 年	ISBN	978-4-641-15147-5
参考書	授業中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	毎週水曜日 9 時に配信するオンデマンド動画を必ず、翌週火曜日までに視聴して、ラーニングポータルに設定する出席確認アンケート（復習確認問題への解答）を入力すること。 オンデマンド動画を視聴するにあたり、法学部指定六法を必ず常備すること。 行政救済手続を学ぶにあたり、行政法総論を履修し、その講義で学んだ行政行為やその他の行政の行為形式について復習しておくことが望ましい。 行政訴訟の実務経験談を織り交ぜながら、行政救済手続の概念等を出来る限り、正確に理解できるようかみ砕いて解説していきます。公務員への就職や企業法務に携わることを希望する受講生の皆さんにも役立つよう、近時の裁判例についても触れる予定です。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	ガイダンス 行政救済法とは	【予習】ラーニングポータルに事前に掲示した資料を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容を上記資料等と共に参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。理解が不十分で質問すべきところがあれば、アンケートの所定場所に質問事項として記載する。	2 時間
第２回	オンデマンド	行政訴訟（１） １　行政訴訟の態様 ２　取消訴訟の訴訟要件　処分性　原告適格	【予習】テキスト（１７４頁から１９４頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容をテキストと共に参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。理解が不十分で質問すべきところがあれば、アンケートの所定場所に質問事項として記載する。	4 時間
第３回	オンデマンド	行政訴訟（２） ２　取消訴訟の訴訟要件　訴えの利益　審査請求前置、出訴期間、被告適格、管轄、審理と判決	【予習】テキスト（１９５頁から２０５頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容をテキストと共に参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。理解が不十分で質問すべきところがあれば、アンケートの所定場所に質問事項として記載する。	4 時間
第４回	オンデマンド	行政訴訟（３） ３　取消訴訟以外の抗告訴訟	【予習】テキスト（２０６頁から２１７頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容をテキストと共に参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。理解が不十分で質問すべきところがあれば、アンケートの所定場所に質問事項として記載する。	4 時間
第５回	オンデマンド	行政訴訟（４） ４　抗告訴訟以外の行政訴訟	【予習】テキスト（２１８頁から２２３頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容をテキストと共に参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。理解が不十分で質問すべきところがあれば、アンケートの所定場所に質問事項として記載する。	4 時間
第６回	オンデマンド	行政訴訟（５） ５　仮の救済　判決が確定するまでの間における権利利益の保護	【予習】テキスト（２２４頁から２２９頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容をテキストと共に参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。理解が不十分で質問すべきところがあれば、アンケートの所定場所に質問事項として記載する。	5 時間
第７回	オンデマンド	行政上の不服申立て（１） １　不服申立ての概要 ２　審査請求の適法要件	【予習】テキスト（２３０頁から２３６頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容をテキストと共に参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。理解が不十分で質問すべきところがあれば、アンケートの所	4 時間

			定場所に質問事項として記載する。	
第８回	オンデマンド	行政上の不服申立て（２） ３　審査請求の手続 ４　審査請求の裁決	【予習】テキスト（２３７頁から２４３頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容をテキストと共に参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。理解が不十分で質問すべきところがあれば、アンケートの所定場所に質問事項として記載する。	5 時間
第９回	オンデマンド	国家賠償（１） １　国家賠償法の存在理由と守備範囲 ２　国家賠償法１条による責任（前半）	【予習】テキスト（２４４頁から２５１頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容をテキストと共に参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。理解が不十分で質問すべきところがあれば、アンケートの所定場所に質問事項として記載する。	4 時間
第１０回	オンデマンド	国家賠償（２） ２　国家賠償法１条による責任（後半） ３　国家賠償法２条による責任	【予習】テキスト（２５２頁から２６９頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容をテキストと共に参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。理解が不十分で質問すべきところがあれば、アンケートの所定場所に質問事項として記載する。	4 時間
第１１回	オンデマンド	損失補償（１） １　国家賠償との違いと共通性 ２　補償規定がない法律に基づく財産権侵害に対する救済方法 ３　損失補償の要否の基準	【予習】テキスト（２７０頁から２７５頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容をテキストと共に参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。理解が不十分で質問すべきところがあれば、アンケートの所定場所に質問事項として記載する。	4 時間
第１２回	オンデマンド	損失補償（２） ４　損失補償の内容 ５　国家補償の谷間	【予習】テキスト（２７６頁から２８０頁まで）を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容をテキストと共に参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。理解が不十分で質問すべきところがあれば、アンケートの所定場所に質問事項として記載する。	4 時間
第１３回	オンデマンド	行政訴訟の復習	【予習】第１回から第６回までの範囲についてテキストを読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容をテキストと共に参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。理解が不十分で質問すべきところがあれば、アンケートの所定場所に質問事項として記載する。	4 時間
第１４回	オンデマンド	行政上の不服申立て、国家賠償、損失補償の各復習	【予習】第 7 回から第１２回までの範囲についてテキストを読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。 【復習】講義内で扱った内容をテキストと共に参照し、再度、確認する。小テストの確認問題などを解いた上で、解答例を参照し、知識を確認する。理解が不十分で質問すべきところがあれば、アンケートの所定場所に質問事項として記載する。	4 時間

第１５回	オンデマンド	第１回から第１４回までの講義内容のまとめ・総復習	【予習】テキストや第１回から第１４回までの講義資料を読み直し、理解できていない部分がないか確認する。 【復習】オンデマンド講義を視聴した上で、その中で復習のポイントとして示唆された内容を中心に、再度確認し、定期試験に向けて、理解に努める。理解が不十分で質問すべきところがあれば、アンケートの所定場所に質問事項として記載する。	4 時間

科目名	行政救済法Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	坂上　文一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政救済手続に関する基礎知識を習得した上で、具体的な事例問題を解決する応用力（思考力）を養う。		
授業の目的及び概要	授業の目的は、行政救済手続の基本構造について理解した上で、主要な裁判例を正しく理解し、実践的な事例問題を分析し、論証、答案作成に関する応用力（思考力）を養うことにある。 主として、行政救済手続の流れに沿って、行政訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償、損失補償の基本的な制度や概念等の意味内容を確認した上で、主要な裁判例に即した事例問題について説明する講義を行う。 行政救済法Ⅰで教示した内容は理解済であることを前提として、深く学びたい皆さんを受講対象とします。		
履修条件・留意点	学修効率の観点から、憲法Ⅰ、行政法総論Ⅰ、行政救済法Ⅰを履修していることを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政訴訟、行政上の不服申立て、国家賠償、損失補償の基本構造を正しく理解し、条文の文言や専門用語の意味に則して、具体例を挙げながら説明することができる。 主要な裁判例について正確に理解して、事例を挙げながら説明することができる。 裁判例に即した事例問題を分析し、論証できる能力を習得し、それを活かして、自分で運用、論証し、妥当な結論を導くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の冒頭で、前回の授業内容の復習ポイントを確認する。 適宜実施する予定の小テストや定期試験の出題趣旨、解説、講評等について、ポータルに掲載するなどの方法により開示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	有斐閣ストゥディア　行政法（第４版），野呂充ほか，有斐閣，2026 年	ISBN	978-4-641-15147-5
参考書	授業中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	法学部指定六法を必ず持参すること。 私語、授業とは無関係な電子機器（PC やスマホなど）の私用は厳禁とし、違反者に対しては厳しく対応する。

	行政法総論、行政救済法Ⅰを履修済であり、その内容を理解していることを前提とするので、これらの講義で学んだ内容について復習しておくことが望ましい。 行政訴訟の実務経験談を織り交ぜながら、行政救済手続に関する裁判例やこれに即した事例問題等を出来る限り、正確に理解し、自ら分析ができるよう、かみ砕いて解説していきます。 公務員への就職や企業法務に携わることを希望する受講生の皆さんにも役立つよう、近時の裁判例についても触れる予定です。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 行政救済法とは	【事前学修】ラーニングポータルに事前に掲示した資料を読み、引用されている法文、条文内容を六法で確認する。疑問点を整理して、講義時に教員に質問できるように準備する。 【事後学修】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。理解が不十分な点があれば、次回の講義時に教員に質問する。	2 時間
第２回	対面	行政訴訟（１） １　行政訴訟の態様 ２　取消訴訟の訴訟要件　処分性　原告適格	【事前学修】テキスト（１７４頁から１９４頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。疑問点を整理して、講義時に教員に質問できるように準備する。 【事後学修】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。理解が不十分な点があれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第３回	対面	行政訴訟（２） ２　取消訴訟の訴訟要件　訴えの利益　審査請求前置、出訴期間、被告適格、管轄、審理と判決	【事前学修】テキスト（１９５頁から２０５頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。疑問点を整理して、講義時に教員に質問できるように準備する。 【事後学修】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。理解が不十分な点があれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第４回	対面	行政訴訟（３） ３　取消訴訟以外の抗告訴訟	【事前学修】テキスト（２０６頁から２１７頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。疑問点を整理して、講義時に教員に質問できるように準備する。 【事後学修】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。理解が不十分な点があれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第５回	対面	行政訴訟（４） ４　抗告訴訟以外の行政訴訟	【事前学修】テキスト（２１８頁から２２３頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。疑問点を整理して、講義時に教員に質問できるように準備する。 【事後学修】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。理解が不十分な点があれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第６回	対面	行政訴訟（５） ５　仮の救済　判決が確定するまでの間における権利利益の保護	【事前学修】テキスト（２２４頁から２２９頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。疑問点を整理して、講義時に教員に質問できるように準備する。 【事後学修】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。理解が不十分な点があれば、次回の講義時に教員に質問する。	5 時間

第７回	対面	行政上の不服申立て（１） １　不服申立ての概要 ２　審査請求の適法要件	【事前学修】テキスト（２３０頁から２３６頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。疑問点を整理して、講義時に教員に質問できるように準備する。 【事後学修】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。理解が不十分な点があれば、次回の講義時に教員に質問する。	４時間
第８回	対面	行政上の不服申立て（２） ３　審査請求の手続 ４　審査請求の裁決	【事前学修】テキスト（２３７頁から２４３頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。疑問点を整理して、講義時に教員に質問できるように準備する。 【事後学修】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。理解が不十分な点があれば、次回の講義時に教員に質問する。	５時間
第９回	対面	国家賠償（１） １　国家賠償法の存在理由と守備範囲 ２　国家賠償法１条による責任（前半）	【事前学修】テキスト（２４４頁から２５１頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。疑問点を整理して、講義時に教員に質問できるように準備する。 【事後学修】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。理解が不十分な点があれば、次回の講義時に教員に質問する。	４時間
第１０回	対面	国家賠償（２） ２　国家賠償法１条による責任（後半） ３　国家賠償法２条による責任	【事前学修】テキスト（２５２頁から２６９頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。疑問点を整理して、講義時に教員に質問できるように準備する。 【事後学修】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。理解が不十分な点があれば、次回の講義時に教員に質問する。	４時間
第１１回	対面	損失補償（１） １　国家賠償との違いと共通性 ２　補償規定がない法律に基づく財産権侵害に対する救済方法 ３　損失補償の要否の基準	【事前学修】テキスト（２７０頁から２７５頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。疑問点を整理して、講義時に教員に質問できるように準備する。 【事後学修】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。理解が不十分な点があれば、次回の講義時に教員に質問する。	４時間
第１２回	対面	損失補償（２） ４　損失補償の内容 ５　国家補償の谷間	【事前学修】テキスト（２７６頁から２８０頁まで）を読み、行政救済法Ⅰで履修した内容を再度、確認する。疑問点を整理して、講義時に教員に質問できるように準備する。 【事後学修】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。理解が不十分な点があれば、次回の講義時に教員に質問する。	４時間
第１３回	対面	行政訴訟の復習	【事前学修】第１回から第６回までの範囲についてテキストを読み、理解できていない部分がないか、確認する。疑問点を整理して、講義時に教員に質問できるように準備する。 【事後学修】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。理解が不十分な点があれば、次回の講義時に教員に質問する。	４時間
第１４回	対面	行政上の不服申立て、国家賠償、損失補償	【事前学修】第７回から第１２回までの範囲につい	４時間

		の各復習	てテキストを読み、理解できていない部分がないか、確認する。疑問点を整理して、講義時に教員に質問できるように準備する。 【事後学修】講義内で扱った内容（裁判例、事例問題）を復習して、講義で得た知識、論証内容を再度、確認する。理解が不十分な点があれば、ラーニングポータルのアンケート欄を利用して教員に質問する。	
第１５回	オンデマンド	第１回から第１４回までの講義内容のまとめ・総復習	【予習】テキストや第１回から第１４回までの講義資料を読み直し、理解できていない部分がないか確認する。 【復習】オンデマンド講義を視聴した上で、その中で復習のポイントとして示唆された内容を中心に、再度確認し、定期試験に向けて、理解に努める。理解が不十分な部分があれば、ラーニングポータルのアンケート欄を利用して教員に質問する。	4 時間

科目名	地方自治法	開講年度	2026 年度春学期
担当者	壬生　裕子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	地方自治法に関する基礎的な事項を理解する		
授業の目的及び概要	地方自治とは、国から独立した地方公共団体が、自らの地域に関することを自ら決めていくことをいいます。 この授業では、地方自治法を学ぶことで、地方公共団体とその住民が地方自治を展開していくためのルールやしくみを理解することを目的とします。 授業を通して地方自治と地方自治法に関する専門知識を学び、あなたの暮らす地域のまちづくりについて幅広い視野で考えられるようになりましょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地方自治法に関する基本的な専門知識を理解し、地域における多様な出来事と地方自治法との関係を自ら分析できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートの提出結果は翌週以降の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。 その他寄せられた質問も、授業中に共有します。 試験結果については、授業支援システム（Learning　Portal）で講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストはとくに指定しません。	ISBN	なし
参考書	①自治体職員のための　ようこそ地方自治法[第 4 版]、板垣勝彦、第一法規、2024 年 ②地方自治法概説[第 11 版]、宇賀克也、有斐閣、2025 年	ISBN	①9784474095120 ②9784641228801

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	70
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	30
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	地方自治や地方公共団体、地方行政に関心のある方、ぜひ受講してみてください。 授業では地方自治に関する専門知識についてお話するほか、時事問題を考察したり、教員の経験を紹介したりします。 地方自治法を理解することで、地域のニュースや社会問題を深く考察することができるようになりますよ。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	「地方自治法」とはどのような法律か、この授業で学ぶことと到達目標、授業の進め	【予習】シラバスを事前に読んでおいてください。 【復習】ガイダンス資料および講義ノートを読み直	4 時間

		方、成績評価の方法・基準などのガイダンスを行います。	し、今後の講義の内容を確認すること。	
第２回	対面	日本において、地方自治がどのように発展してきたのかを学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方自治の歴史」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方自治の歴史」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	４時間
第３回	対面	地方公共団体の構成要素と、普通地方公共団体について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方公共団体の構成要素と普通地方公共団体」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方公共団体の構成要素と普通地方公共団体」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	４時間
第４回	対面	特別地方公共団体と、広域連携について学びます	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「特別地方公共団体と広域連携」に目を通しておくこと。 【復習】資料「特別地方公共団体と広域連携」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	４時間
第５回	対面	地方公共団体の住民の権利と義務について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「住民の権利と義務」に目を通しておくこと。 【復習】資料「住民の権利と義務」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	４時間
第６回	対面	地方公共団体の事務について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方公共団体の事務」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方公共団体の事務」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	４時間
第７回	対面	地方公共団体の権能①（自主組織権、自主行政権）について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方公共団体の権能①」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方公共団体の権能①」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	４時間
第８回	対面	地方公共団体の権能②（自主財政権、自主立法権）について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方公共団体の権能②」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方公共団体の権能②」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	４時間
第９回	対面	地方公共団体の機関①（議会と長）について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方公共団体の機関①」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方公共団体の機関①」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	４時間
第１０回	対面	地方公共団体の機関②（委員会と委員）	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方公共団体の機関②」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方公共団体の機関②」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	４時間
第１１回	対面	地方公務員について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「地方公務員」に目を通しておくこと。 【復習】資料「地方公務員」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	４時間
第１２回	対面	公の施設の管理について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「公の施設」に目を通しておくこと。 【復習】資料「公の施設」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	４時間
第１３回	対面	市町村、都道府県、国の関係について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「市町村、都道府県、国の関係」に目を通しておくこと。 【復習】資料「市町村、都道府県、国の関係」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	４時間
第１４回	対面	地方自治法に関わる時事問題をとりあげ、原因や改善策を考えます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「時事問題」に目を通しておくこと。 【復習】資料「時事問題」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	４時間
第１５回	オンデ	これまでの授業の内容を総括し、地方自治	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「まと	４時間

	マンド	法および地方自治のこれからを考えます。	め」に目を通しておくこと。 【復習】資料「まとめ」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	

科目名	地方自治法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	青田　テル子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	地方自治の制度を理解する		
授業の目的及び概要	地方自治法に関する基礎的知識を習得するとともに、地方分権の時代の自治体法務について学ぶ		
履修条件・留意点	この科目は法学部の専門教育科目であり、公務員コースの基本科目（公法系）である。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地方自治の法制度に関する基礎知識を身につけることができる。そのうえで、自治体職員として、住民として、それぞれの立場から、地域の課題とその対応策を考える姿勢を身につけることの必要性を理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートの提出を求めたときは、翌週以降に紹介し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『地方自治法の基本』, 高橋明男・佐藤英世, 法律文化社 , 2022 年	ISBN	ISBN978-4-589-04180-7
参考書	進み具合に応じて適宜講義内で紹介する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	我々は皆、いずれかの市町村、都道府県の住民であり、地方自治の担い手でもある。まず、自らの生活に密接に関わる活動をしている地方公共団体とはどのような仕組みで、どのような活動をする存在であるかを住民としてぜひ知っておいてほしい。また、地方公務員を志す方も学生諸君の中にはいるであろう。地方公共団体に関わる法制度の基礎を理解し、どのような活動をしているのかをこの講義を通して知ることで、なぜ地方公務員になりたいのか、地方公共団体のどのような仕事に携わりたいのかといったことを考える一助としてほしい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	地方自治とは	あらかじめ指定教科書の　２頁から４頁を読んでくること。 また、憲法等で地方自治についてすでに学んだことがある場合はその内容を復習しておかれたい。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	4 時間
第２回	対面	地方自治の歴史　～明治以降の地方制度	あらかじめ指定教科書の　21 頁から 35 頁を読んで	4 時間

		を概観する～	くること。 余力があれば 12～20 頁も読んでおかれたい。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	
第３回	対面	憲法と地方自治　憲法第８章	あらかじめ指定教科書の５頁から 11 頁を読んでくること。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	4 時間
第４回	対面	地方公共団体の種類	あらかじめ指定教科書の　66 頁から 74 頁を読んでくること。 自分が住んでいる自治体のホームページを参照するなどして、地方公共団体が 実際にどのような仕事をしているかをあらかじめ見ておいてほしい。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	4 時間
第５回	対面	普通地方公共団体の住民(1)　住民の要件、住所	あらかじめ指定教科書の 234 頁から 242 頁を読んでくること。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	4 時間
第６回	対面	普通地方公共団体の住民(2)　住民の権利・義務	あらかじめ指定教科書の 241 頁から 255 頁を読んでくること。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	4 時間
第７回	対面	普通地方公共団体の議会	あらかじめ指定教科書の 98 頁から 107 頁を読んでくること。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	4 時間
第８回	対面	普通地方公共団体の執行機関	あらかじめ指定教科書の 108 頁から 122 頁を読んでくること。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	4 時間
第９回	対面	普通地方公共団体の事務　　事務の分類、国の関与等	あらかじめ指定教科書の 134 頁から 143 頁を読んでくること。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	4 時間
第１０回	対面	普通地方公共団体の自治立法権(1)　条例制定権、憲法と条例	あらかじめ指定教科書の 162 頁から 168 頁を読んでくること。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	4 時間
第１１回	対面	普通地方公共団体の自治立法権(2)　法律と条例	あらかじめ指定教科書の 168 頁から 174 頁を読んでくること。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	4 時間
第１２回	対面	地方公共団体の自治立法権(3)　規則その他	あらかじめ指定教科書の 175 頁から 181 頁を読んでくること。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	4 時間
第１３回	対面	住民監査請求と住民訴訟	あらかじめ指定教科書の 258 頁から 281 頁を読んでくること。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	4 時間
第１４回	対面	自治体法務とは	配布資料をあらかじめ読んでくること。 講義後は指定教科書を確認し、不明な点がないかどうかを確認すること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ	まとめと補足的に情報公開制度についても言及する。	4 時間

			指定教科書の 284 頁以下の情報公開のところを読んでおくこと。	

科目名	情報法	開講年度	2026 年度春学期
担当者	尾﨑　洋之	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	高度情報化社会における情報法制度		
授業の目的及び概要	情報通信・デジタル技術の飛躍的な発達により、私たちは膨大な情報に囲まれて生活を送っています。 膨大な情報は、分析することにより新たな産業の創出、業務の効率化等が期待される一方で、情報の中にはパーソナルデータやフェイクニュース等が含まれており、差別や偏見を助長しているという問題も潜んでいます。 そして、誰しもが情報の発信者に容易になることができる時代であるため、要配慮個人情報や誤った情報を発信し、多額の賠償が請求されるというトラブルも数多く発生しています。 そのため、これから社会に出て様々なジャンルで活躍していく学生たちにとって、今後さらに進展していくと思われる高度情報化社会を生き抜いていくためには、情報の取扱いに関する法の知識を得ることは不可欠です。 本講義では、情報に関する法制度の概要と社会人として必要なインターネット、SNS、動画共有サービス等を利用する際の倫理、権利侵害の事例等について学ぶとともに、公務員を目指す学生にとって必須の知識である情報公開法、個人情報保護法、マイナンバー法、公文書管理法等について学習します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①高度情報化社会において必要となる「情報」に関する法制度の概要を理解する。 ②高度情報化社会において順守すべき倫理、マナーを理解する。 ③社会人として「情報」を活用できる知識と応用力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内容に関する疑問点について、授業中、授業後の質問に対応します。 コメントシートを翌週以降の授業で紹介し、質問への回答や補足説明を行います。 小テストの結果を踏まえ、理解が不十分であると思われる部分の復習を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、自治体における情報公開、個人情報保護、デジタル化及び法制執務に係る業務に従事し、情報法に関する例規の制定改廃及び運用に長年携わっていることから、地方行政や行政サービスにおける情報法の取扱いに関する実務経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料は適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①情報法概説[第 3 版]，曽我部真裕・林秀弥・栗田昌裕，弘文堂，2025 年 ②新・情報公開法の逐条解説[第 8 版]，宇賀 克也，有斐閣，2018 年 ③新・個人情報保護法の逐条解説，宇賀 克也，有斐閣，2021 年 ④逐条解説　公文書等の管理に関する法律[第 3 版]，宇賀 克也，有斐閣，2015 年	ISBN	①9784335359163 ②9784641227576 ③9784641228221 ④9784474039940

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	学生の皆さんは、スマートフォン等のデバイスを通じ、容易に情報を取得・発信していると思いますが、情報に関わる法制度や事件についても関心を持っておいてほしいと思います。 高度情報化社会の進展に伴い、情報に関わる法制度を学ぶ価値は、年々増しています。 本講義では、情報の収集、利用、管理等に関わる法制度について、実務経験を踏まえて最新の状況を説明しますので、官民問わず社会人となる上で非常に有益なものになるでしょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、授業の進め方 高度情報化社会における情報の意義、性質	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2 時間）。 近年発生したインターネット上における事件（SNS による名誉毀損、個人情報の漏えい等）について調査し、確認しておくこと（2 時間）。	4 時間
第２回	対面	インターネットと表現の自由	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2 時間）。 復習として、授業で紹介した事例・判例等の内容について再確認しておくこと（2 時間）。	4 時間
第３回	対面	インターネットと名誉棄損、プライバシー侵害、忘れられる権利	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2 時間）。 復習として、授業で紹介した事例・判例等の内容について再確認しておくこと（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	情報公開法① （沿革、目的、公文書の定義等について説明を行う。）	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2 時間）。 復習として、授業で説明した情報公開法の沿革等について再確認しておくこと（2 時間）。	4 時間
第５回	対面	情報公開法② （非開示事由について説明を行う。）	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2 時間）。 復習として、授業で示した事実ではどの非開示事由に該当するか確認しておくこと（2 時間）。	4 時間
第６回	対面	情報公開法③ （判例、裁判例及び審査請求事件について説明を行う。）	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2 時間）。 復習として、授業で紹介した事例・判例等の内容について再確認しておくこと（2 時間）。	4 時間
第７回	対面	個人情報保護法① （沿革、目的、個人情報の定義等について説明を行う。）	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2 時間）。 復習として、授業で説明した個人情報保護法の沿革等について再確認しておくこと（2 時間）。	4 時間
第８回	対面	個人情報保護法② （主に民間事業者に適用される規定について説明を行う。）	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2 時間）。 復習として、授業で紹介した各規定について再確認しておくこと（2 時間）。	4 時間
第９回	対面	個人情報保護法③ （主に行政機関に適用される規定について説明を行う。）	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2 時間）。 復習として、授業で紹介した各規定について再確認しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１０回	対面	個人情報保護法④ （判例、裁判例及び審査請求事件について説明を行う。）	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2 時間）。 復習として、授業で紹介した事例・判例等の内容について再確認しておくこと（2 時間）。	4 時間

第１１回	対面	マイナンバー法	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2 時間）。 復習として、自分のマイナンバーを「通知カード」や「マイナンバーカード」（所有者のみ）で確認し、マイナンバーを行政手続や日常生活で使う場面について、その注意点等を整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１２回	対面	公文書管理法	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2 時間）。 復習として、授業で説明した公文書管理法の沿革等について再確認しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１３回	対面	我が国におけるデジタル化の歴史とオープンデータ政策	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2 時間）。 復習として、オープンデータの活用事例について調査の上、RESAS 等のデータ分析ツールを操作しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１４回	対面	サイバーセキュリティ基本法と判例･裁判例の解説	予習として、予め配布した資料の内容を確認しておくこと（2 時間）。 復習として、デジタル技術に係る法的問題やインターネット犯罪の現状について調べておくこと（2 時間）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	今期の授業の総括	今学期の授業内容を改めて振り返り、事前に疑問点等がないか確認しておくこと（2 時間）。 復習として、今期の授業で取り上げた事例･判例等の重要ポイントについて整理しておくこと（2 時間）。	4 時間

科目名	環境法	開講年度	2026 年度春学期
担当者	青田　テル子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	環境法を学ぶ上で必要な基礎知識と、環境保全のための法システムを学ぶ		
授業の目的及び概要	この授業では、単に「環境保全は大切だ」と意識しているというだけにとどまらず、現に存在する環境保全に関わる問題を具体的に知り、そのための法制度としてどのようなものがあり、どのように運用されているのかを理解することで、環境保全に対する理解を深め、自分自身で環境保全の施策等について考えることのできる力を涵養する。 　明治以降の公害・環境問題の歴史、典型的七公害、地球環境問題などの環境法を学ぶ前提として必要な事項について最初に学び、それらを履修者が共通の知識として習得した後、環境保全のための法システムの個別の領域を学ぶ。そののち、環境訴訟についても概観する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	(1)履修者は、環境問題に関する基礎的な考え方を理解することができる。 (2)履修者は、環境保全のための法制度について知り、実際にどのような施策が実施されているのか、どのような環境紛争が実際にあるのかを知ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストについては終了後すぐに解答解説を行い、後日全体の結果に関するフィードバックを行う。 コメントシートの提出を求めた場合は、翌週以降の授業で紹介し、質問への回答や補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『環境法（第 3 版)』，北村喜宣（著），有斐閣，2024 年 指定教科書として講義、予習復習に用いる。講義時は必携である。	ISBN	①978-4641151246
参考書	(1)『環境法(第 5 版)』，北村　喜宣，弘文堂，2020 年 (2)『　ビジュアルテキスト環境法(第 2 版)』，上智大学環境法教授団／編，有斐閣，2020 年 進み具合に応じて適宜紹介する。	ISBN	(1)ISBN　978-4-335-35836-4 (2)ISBN　978-4-641-22787-3

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	廃棄物問題、自然環境保全、景観保護、環境影響評価、公害規制、興味を感じる環境に関わる問題は人それぞれ違うとは思うが、この講義ではあまり範囲を限定せずに環境問題を概観し、その対策がどのような法にもとづき、どのように行われているのかを理解することで、将来的には履修者各自が自分自身の頭で解決策を考えられるようになること、環境をめぐる紛争の代

	表的な事例を知ることを目指したい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	環境法とは ・講義概要と評価方法などの説明 ・環境法とはどのような法分野か	指定教科書(以下教科書)第１章　１頁～15 頁。 事前には教科書該当箇所を読み、用語を調べるなどすることが望ましい（次回以降も同様である)。 事後は講義内容をもとに指定教科書を再度読み、法制度等に特に着目しつつ理解するよう努めること。	4 時間
第２回	対面	環境法の歴史(1)公害法から環境法へ	指定教科書(以下教科書)第 1 章　１６頁～40 頁を読んでくること。 講義後は不明な点がないかを確認し、再度教科書や配布資料を熟読しておくこと。	4 時間
第３回	対面	環境法の歴史(2)　環境にかかわる紛争の事例を知る	教科書第 2 章の環境法物語　１６頁～４０頁を予め読んでくること。 講義後は不明な点がないかを確認し、教科書や配布資料を再度熟読しておくこと。	4 時間
第４回	対面	環境法の基礎知識 環境法の目標、環境法の基本的な考え方	教科書第 3 章　41 頁～63 頁を予め読んでくること 講義後は不明な点がないかを確認し、教科書や配布資料を再度熟読しておくこと。	4 時間
第５回	対面	水質汚濁規制の法制度	教科書第７章　133 頁以下「水環境管理を考える」を予め読んでくること。 講義後は不明な点がないかを確認し、教科書や配布資料を再度熟読しておくこと。 必要に応じて憲法の教科書等も参照されたい。	4 時間
第６回	対面	景観管理	教科書第 5 章、「都市景観管理で考える」87 頁～109 頁を予め読んでくること。 講義後は不明な点がないかを確認し、再度教科書や配布資料を熟読しておくこと。	4 時間
第７回	対面	自然環境管理　自然公園法と関係法令	教科書第６章　「自然環境管理で考える」110 頁以下を予め読んでくること 講義後は不明な点がないかを確認し、再度教科書や配布資料を熟読しておくこと。	4 時間
第８回	対面	化学物質管理	指定教科書にこの内容に該当する章がないため、参照資料を配布する予定である。 各自が環境法の教科書等で予め内容を調べるための一例として、『レクチャー環境法(第２版)』富井利安編 法律文化社　第 10 章のうち、202 頁～214 頁をあげておく。環境省のホームページも有用な資料が掲載 されているためおすすめである。	4 時間
第９回	対面	廃棄物処理法制	教科書第 8 章　「廃棄物処理で考える」160 頁以下を予め読んでくること 講義後は不明な点がないかを確認し、再度教科書や配布資料を熟読しておくこと。	4 時間
第１０回	対面	環境影響評価	教科書第９章　「環境アセスメントで考える」185 頁～206 頁を予め読んでくること 講義後は不明な点がないかを確認し、教科書や配布資料を再度熟読しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	環境民事訴訟(1)　損害賠償請求訴訟	指定教科書第１２章「環境紛争を考える」240～246 頁をあらかじめ読んでくること。 あわせて再度第２章の環境法物語のところの、熊本水俣病訴訟のところも読んでおくこと。 講義後は不明な点がないかを確認し、教科書や配布資料を再度熟読しておくこと。	4 時間

第１２回	対面	環境民事訴訟(2)　差止請求訴訟	指定教科書第１２章「環境紛争を考える」247～249 頁をあらかじめ読んでくること。 講義後は不明な点がないかを確認し、教科書や配布資料を再度熟読しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	環境行政訴訟　抗告訴訟を中心に	教科書第１２章「環境紛争を考える」249～253 頁をあらかじめ読んでくること。の行政訴訟のところをあらかじめ読んでくること。 行政法を履修中あるいは履修済みの者は、行政事件訴訟について少し予習（あるいは復習）しておくこと。 講義後は不明な点がないかを確認し、教科書や配布資料を再度熟読しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	国家賠償請求訴訟	教科書第２章の関西水俣病訴訟のところ 30～32 頁を予め読んでくること。 行政法を履修中あるいは履修済みの者は、国家賠償について少し予習（あるいは復習）しておくこと。 講義後は不明な点がないかを確認し、再度教科書や配布資料を熟読しておくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ 　これまでの内容を踏まえ、全体の復習とまとめを行う。	教科書第 2 章　16 頁～40 頁と第１２章を読んでおくこと。 可能な範囲でそこに出てくる判例について見直しておかれたい。 講義後は不明な点がないか確認しつつ再度熟読しておくこと	4 時間

科目名	税法Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中西　博明	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	租税の本質と法的仕組みを理解し、社会における税の役割を学修する。		
授業の目的及び概要	本講義では、税法の基本概念や制度の仕組みを理解するとともに、租税の社会的役割について考察できる能力を身に付けることを目的とし、具体的には、次の点を重視して学修する。 1．　租税の基本原則と目的を理解する。 2．　日本の税体系と主要税目の特徴を把握する。 3．　税務行政の仕組みと国税通則法の基本的な内容を学ぶ。 4．　租税の公平性や適正手続といった法的視点を持つ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1．租税の意義や正当性について説明できる。 2．日本の租税体系を概観し、各税の基本的な仕組みを理解する。 3．税務行政の役割や手続きを理解し、納税者の権利義務を把握する。 4．租税制度の社会的意義を考察し、現実の問題と関連付けて議論できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	リアクションペーパーなどは、添削した上で返却し、優秀なものは、授業中に紹介・講評する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、約 40 年の間税務官として税務行政を執行するほか、退官後は税理士として税法実務に携わるなど、税制や税法に深く精通している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①税務大学校『税法入門』（令和 7 年度） ②税務大学校『国税通則法（基礎編）』（令和７年度） ①・②は国税庁所管税務大学校の教科書（税大講本）として下記の URL より無償提供 https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/index.htm	ISBN	―
参考書	①租税法概説　第 5 版，中里実ほか，有斐閣，2025 年 ②租税法判例六法　第 7 版，中里実ほか，有斐閣，2025 年	ISBN	①9784641228900 ②9784641001633

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講	租税は私たちの生活や経済活動に深く関わるものです。日常生活の中で税がどのように関わっているの

に あたって	かを意識し、「自分ならこの制度をどう考えるか。」といった視点を持つことでより実践的な理解につながります。 この講義を通じて、税法の基礎知識を身に付けるだけでなく、社会や経済、法制度を広い視野で捉える力を養ってほしいです。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション ・講義概要、講義の進め方 ・税法を学ぶに当たって ・人の一生と税との関わり	【事前学習】テキスト①「租税法の学習に当たって」、②「学習上の留意事項」の内容を読んで予習する。 【事後学習】授業で配付した資料を読み直しノートを整理する。	4 時間
第２回	対面	租税の意義、租税の根拠と配分	【事前学習】テキスト①第１章第１～３節を予習する 【事後学習】テキスト①第１章第１～３節の内容、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第３回	対面	租税の目的､財政に占める租税の位置付け	【事前学習】テキスト①第１章第４～６節を予習する 【事後学習】テキスト①第１章第４～６節の内容、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第４回	対面	租税の分類、国民の租税負担	【事前学習】テキスト①第１章第７～９節を予習する 【事後学習】テキスト①第１章第７～９節の内容、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第５回	対面	租税体系	【事前学習】テキスト①第２章第１～２節を予習する 【事後学習】テキスト①第２章第１～２節の内容、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第６回	対面	第１回から第５回までの内容のおさらい レポート作成	【事前学習】これまでの不明点を整理しておく 【事後学習】配布資料を読み直してノートを整理する	2 時間
第７回	対面	税法の法体系	【事前学習】テキスト①第３章第１～６節を予習する 【事後学習】テキスト①第３章第１～６節の内容、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第８回	対面	各税の大要	【事前学習】テキスト①第４章第１～７節を予習する 【事後学習】テキスト①第４章第１～７節の内容、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第９回	対面	税務行政の大要、地方税の大要 税制の仕組みと役割	【事前学習】テキスト①第６章第１～７節、補章第１～４節を予習する 【事後学習】テキスト①第６章第１～７節、補章第１～４節の内容、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第１０回	対面	国税通則法の概要	【事前学習】テキスト②第１～２章を予習する 【事後学習】テキスト②第１～２章の内容、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第１１回	対面	国税の納付及び徴収、更正・決定等の期間制限	【事前学習】テキスト②第３～６章を予習する 【事後学習】テキスト②第３～６章の内容、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第１２回	対面	国税の調査、行政手続法との関係	【事前学習】テキスト②第７～８章を予習する 【事後学習】テキスト②第７～８章の内容、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第１３回	対面	国税の不服審査と訴訟、罰則	【事前学習】テキスト②第９章第１～３節、第１０章を予習する 【事後学習】テキスト②第９章第１～３節、第１０章の内容、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第１４回	対面	国税犯則調査手続	【事前学習】テキスト②第１１章第１～３節を予習する 【事後学習】テキスト②第１１章第１～３節の内容、および配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第１５回	オンデ	定期試験に備えて、全体の復習を実施する	【事前学習】第１回～１４回までの内容の復習 【事後学習】定期試験に備え、講義した内容を復習す	6 時間

	マンド		る ※講義の進捗状況や学生の理解度を把握しながら、 上記の授業計画を微調整する可能性がある。	

科目名	税法Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	桐元　久佳	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	税法（主に個人課税）の基礎理論 １．税法の基礎理論 ２．所得税 ３．判例研究		
授業の目的及び概要	本授業では、租税法全般の基礎理論を学びます。 国家が、国民の財産権を侵害しても、その賦課・徴収できる権限は何が根拠なのかという基礎理論をまず学びます。 租税手続法として、申告納税義務や税務調査、納税者の権利救済としての不服審判と租税訴訟について学びます。 更に、具体的な租税法として、所得税を学びます。 いくつかの判例研究も実施し、所得の判断基準なども学びます。		
履修条件・留意点	特にないです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．租税の基礎理論について説明できる。 国家が、なぜ国民に租税を賦課・徴収できるのか？ 租税法律主義とは何か？ ２．租税手続法について 申告納税義務、税務調査について概要を説明できる。 ３．個人課税としての所得税の概要を説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。 また優秀なレポートは、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、税理士と行政書士の資格を有しており、税理士事務所と行政書士事務所の所長として業務に従事している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①基本テキスト租税法，池上健・大野雅人ほか，同文館出版，2025 年	ISBN	①9784495176235
参考書	①リーガルマインド租税法　第 5 版,増田英敏,成文堂,2019 年 ②租税法演習ノート-租税法を楽しむ 21 問　第 4 版,佐藤英明・岡村忠生ほか,弘文堂,2021 年	ISBN	①9784792306496 ②9784335358500

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	28
授業期間中の小テスト、レポート課題等	72
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	アルバイトであれ、会社員として就職後に給料を受け取ると所得税・住民税を負担することになります。

	また、既に消費税や酒税など我々が生活していくうえで様々な税金を負担しております。 社会人として、その税金の基礎知識を学んでほしいです。 またなぜ国や地方公共団体は、租税を徴収することができるのか？ この根本的なことについても理解を深めて頂けるようにします。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション ・租税とは何か？ ・国民の三大義務とは？	【事前学習】テキスト 1～8 ページの内容を予習する。 【事後学習】授業で紹介したＨＰで税金のあらましを確認する。	3 時間
第２回	対面	租税法の基本原則 ・租税法律主義とは何か？ 　罪刑法定主義との関係性について ・租税公平主義とは？ 　租税における公平とは、どんな公平なのか？ 　またどのように実現するのがよいか？	【事前学習】憲法および刑法の「罪刑法定主義」について確認する 【事後学習】テキスト 8～11 ページを復習する	3 時間
第３回	対面	租税法の解釈と適用について ・租税法の法源	【事前学習】テキスト 12～22 ページの予習 【事後学習】配布資料の復習	4 時間
第４回	対面	租税法の解釈と適用について ・文理解釈と目的解釈について	【事前学習】テキスト 12～18 ページの予習 【事後学習】配布資料の復習	4 時間
第５回	対面	わが国の租税法の概観 脱税と租税回避	【事前学習】テキスト 19～22 ページの予習 【事後学習】テキスト 19～22 ページの復習、脱税と租税回避の違いを特に事例も交えて復習してください。	3 時間
第６回	対面	租税手続法 １．総論 ２．納税義務の確定 ３．国税の納付と徴収	【事前学習】テキスト 223～234 ページの予習 【事後学習】テキスト 223～234 ページの復習、納税義務と納付・徴収について特に復習してください。	3 時間
第７回	対面	１．税務調査について 　質問検査権の効力は？ ２．納税者の権利救済～不服審査と租税訴訟について	【事前学習】テキスト 235～242 ページの予習 【事後学習】テキスト 235～242 ページの復習　税務調査と租税訴訟を中心に復習してください。	4 時間
第８回	対面	所得税 １．所得税の特徴と所得概念 ２．課税単位と所得税計算の基本的な仕組み	【事前学習】テキスト 23～31 ページの予習 【事後学習】テキスト 23～31 ページの復習　所得の特徴と所得概念を中心に	3 時間
第９回	対面	各種所得の所得金額の計算 所得分類の基準について、判例も紹介します。 その際、所得分類の判断基準について、受講生の方々にも議論して頂き 判断基準について、理解を深めるようにします。	【事前学習】10 種類の所得について暗記しておく 【事後学習】テキスト 32～47 ページの復習　各所得の計算方法も復習	4 時間
第１０回	対面	収入金額と必要経費について	【事前学習】テキスト 48～52 ページの予習 【事後学習】テキスト 48～52 ページの復習　必要経費の範囲について特に復習	4 時間
第１１回	対面	判例研究 ・原告・被告双方の立場にたって 　その論拠と自分なりの主張を報告しあうことを実施します。	【事前学習】判例の事案の概要を整理する 【事後学習】判例についてレポート作成して、復習する	6 時間
第１２回	対面	所得の人的帰属 損失の取扱い	【事前学習】レポート作成 【事後学習】テキスト 53～56 ページの復習	6 時間
第１３回	対面	所得控除 税額の計算 申告と納付	【事前学習】テキスト 57～70 ページの予習 【事後学習】配布資料の復習	4 時間

第１４回	対面	定期試験に備えて、全体の復習を実施する	【事前学習】第１回～１４回までの内容の復習 【事後学習】所得税の所得分類の判断基準について復習	5 時間
第１５回	オンデマンド	全体のおさらい 特に判例及び所得の違いについて	紹介された判例の復習 所得分類の判断基準について	6 時間

科目名	税法Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中西　博明	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	主要税法である所得税法、法人税法、相続税法、消費税法の概要を学修する。		
授業の目的及び概要	本講義では、所得税法、法人税法をはじめ主要税目について制度の背景や仕組みを体系的に理解し、実務において応用できる知識を習得することを目的とする。 特に、税法Ⅰよりも踏み込んだ内容を扱い、条文の趣旨や実務上の課題についても検討する。		
履修条件・留意点	税法Ⅰを履修済みであることが望ましい。 また、基礎的な会計知識があると理解しやすい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．各税法の基本構造を理解し、税の仕組みを説明できる。 ２．所得税、法人税、相続税法、消費税などの課税要件や計算方法を理解し、基本的な事例に対応できる。 ３．実務や政策における税制の意義を考察し、自らの意見を持つことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	リアクションペーパーなどは、添削した上で返却し、優秀なものは、授業中に紹介・講評する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、約 40 年の間税務官として税務行政を執行するほか、退官後は税理士として税法実務に携わるなど、税制や税法に深く精通している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①税務大学校『税法入門』（令和７年度） ②税務大学校『所得税法（基礎編）』（令和７年度） ③税務大学校『法人税法（基礎編）』（令和７年度） ④税務大学校『相続税法（基礎編）』（令和７年度） ⑤税務大学校『消費税法（基礎編）』（令和７年度） ①～⑤は国税庁所管税務大学校の教科書（税大講本）として下記の URL より無償提供 https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/index.htm	ISBN	ーー
参考書	①租税法概説 第５版，中里実ほか，有斐閣，2025 年 ②租税法判例六法 第７版，中里実ほか，有斐閣，2025 年	ISBN	①9784641228900 ②9784641001633

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講	本講義では、税法Ⅰで学んだ基礎を踏まえ、各税法の詳しい仕組みや実務上の課題をより深く掘り下げ

に あたって	て学びます。 単なる条文の暗記ではなく、制度の趣旨や背景を理解し税法がどのように適用されるのかを考えてほしいです。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	所得税（その１）：所得税の概要と納税義務者	【事前学習】テキスト②第１・２章（p.1-13）を読み予習する 【事後学習】配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第２回	対面	所得税（その２）：所得の種類と課税標準の計算	【事前学習】テキスト②第３・４章（p.14-93）を読み予習する 【事後学習】配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第３回	対面	所得税（その３）：所得控除、税額計算と申告納付	【事前学習】テキスト②第５～８章（p.95-170）を読み予習する 【事後学習】配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第４回	対面	法人税（その１）・法人税の概要と納税義務者	【事前学習】テキスト③第１章（p.1-19）を読み予習する 【事後学習】配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第５回	対面	法人税（その２）：課税標準と益金の額の計算、損金の額の計算	【事前学習】テキスト③第２章～第７章（p.21-121）を読み予習する 【事後学習】配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第６回	対面	法人税（その３）：税額の計算と税法上の純資産の部	【事前学習】テキスト③第９・10 章（p.128-140）を読み予習する 【事後学習】配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第７回	対面	第１回から第６回までの内容のおさらい小テスト・レポート作成	【事前学習】これまでの不明点を整理しておく 【事後学習】配付した資料を読み直してノートを整理する	2 時間
第８回	対面	相続税と贈与税（その１）：相続税の概要と納税義務者、相続税の課税価格と税額	【事前学習】テキスト④第１章～第３章（p.1-46）を読み予習する 【事後学習】配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第９回	対面	相続税と贈与税（その２）：相続税の申告納付と贈与税の課税価格と税額	【事前学習】テキスト④第４章～第７章（p.47-85）を読み予習する 【事後学習】配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第１０回	対面	消費税（その１）：消費税の概要、非課税と免税	【事前学習】テキスト⑤第１章～第３章を読み予習する 【事後学習】配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第１１回	対面	消費税（その２）：納税義務者、課税標準と税率	【事前学習】テキスト⑤第４・５章（p.26-39）を読み予習する 【事後学習】配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第１２回	対面	消費税（その３）：税額控除等と課税期間、申告・納付	【事前学習】テキスト⑤第６・７章（p.41-69）を読み予習する 【事後学習】配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第１３回	対面	国際課税；国際課税の概要、移転価格税制とＣＦＣ税制	【事前学習】テキスト①第５章と参考書①の第８章を読み予習する 【事後学習】配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間

第１４回	対面	税務行政：税務行政の組織と権限	【事前学習】テキスト①第６・７章を読み予習する 【事後学習】配付した資料を読み直してノートを整理する	4 時間
第１５回	オンデマンド	定期試験に向けて第 1 回から第 14 回の総復習	【事前学習】不明点、定義の洗い出し 【事後学習】配付プリントの復習 ※講義の進捗状況や学生の理解度を把握しながら、上記の授業計画を微調整する可能性がある。	6 時間

科目名	税法Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	桐元　久佳	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	税法の基礎理論 １．法人税 ２．消費税 ３．判例研究		
授業の目的及び概要	本授業では、企業が負担する法人税・消費税の基礎理論を習得することを目的とします。 租税法理論の理解を深めるために、租税判例の検討も多めに実施することで、会計と法人税の関係性にも理解深められるように実施します。 特に法人税の理解には、会計の理解も不可欠なので、会計の基本的な考え方も理解できるように実施します。		
履修条件・留意点	特にないです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．法人税について 　租税法と借用概念である他の法律や会計制度との関係について理解が高まります。 ２．消費税について 　基本的な消費税の体系について理解が高まります。 ３．租税判例研究 　法人税および消費税の制度について、より身近に感じられるように租税判例研究を多めに実施します。 　判例研究を通じて、税法の立法趣旨や制度への理解が高まる。 租税法に規定されていない借用概念が問題になった判例や事業とは何かという定番の判例だけでなく、最新の判例も交えながら租税法を身近なものとして捉えられるようにします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レポートは、添削した上で返却します。 講義中に、適宜アンケートも実施して、理解度を把握するように実施します。 また優秀なレポートは、授業中に紹介します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、税理士と行政書士の資格を有しており、税理士事務所と行政書士事務所の所長として業務に従事している。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①基本テキスト租税法，池上健・大野雅人ほか，同文館出版，2025 年	ISBN	①9784495176235
参考書	①リーガルマインド租税法　第 5 版，増田英敏，成文堂，2019 年 ②租税法演習ノート-租税法を楽しむ 21 問　第 4 版，佐藤英明・岡村忠生ほか，弘文堂，2021 年	ISBN	①9784792306496 ②9784335358500

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	28
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	72
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	株式会社等の企業を取り巻く税金の中心である法人税・消費税の基礎理論を学んでほしいです。 特に法人税は、租税法本来の立法趣旨や考え方と会計との関係性が重要になります。 それぞれの考え方を理解したうえで、様々な判例に当たることで理解を深められるようにしていきます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	法人税の原則	【事前学習】テキスト 71～76 ページの予習 【事後学習】テキスト 71～76 ページの復習、配布プリントの復習	3 時間
第２回	対面	法人税の課税標準 内国法人の課税標準の計算	【事前学習】テキスト 76～79 ページの予習 【事後学習】テキスト 76～79 ページの復習、配布プリントの復習	3 時間
第３回	対面	収益と費用・損失の計上基準	【事前学習】テキスト 80～83 ページの予習 【事後学習】テキスト 80～83 ページの復習、配布プリントの復習	3 時間
第４回	対面	益金の額の計算	【事前学習】テキスト 83～89 ページの予習 【事後学習】テキスト 83～89 ページの復習　配布プリントの復習	4 時間
第５回	対面	原価に係る損金の額の計算 費用に係る損金の額の計算	【事前学習】テキスト 89～90 ページの予習 【事後学習】テキスト 89～99 ページの復習	4 時間
第６回	対面	費用に係る損金の額の計算 ・役員給与 ・寄付金 ・交際費等 ●租税判例研究	【事前学習】テキスト 100～110 ページの予習 【事後学習】テキスト 100～110 ページの復習　配布プリントの復習	3 時間
第７回	対面	費用に係る損金の額の計算 ・租税公課 ・不正行為等に係る費用等 ●租税判例研究	【事前学習】テキスト 111 ページの予習 【事後学習】配布プリントの復習	4 時間
第８回	対面	損失 その他の損金の額の計算 ●租税判例研究	【事前学習】テキスト 112～114 ページの予習 【事後学習】テキスト 112～126 ページの復習	4 時間
第９回	対面	●租税判例研究	【事前学習】レポート作成 【事後学習】レポート作成 ・判例研究では、レポートに基づいて、原告・被告双方の立場にたって 　その論拠と自分なりの主張を報告しあうことを実施します。	6 時間
第１０回	対面	消費税とは 課税の対象	【事前学習】テキスト 157～165 ページの予習 【事後学習】テキスト 157～165 ページの復習　配布プリントの復習	4 時間
第１１回	対面	納税義務者 課税標準 仕入税額控除 申告と納付 消費税のおさらい 納税義務者 課税標準 仕入税額控除 申告と納付 消費税のおさらい	【事前学習】テキスト 166～184 ページの予習 【事後学習】テキスト 166～184 ページの復習	4 時間
第１２回	対面	●租税判例研究	配布済みの租税判例について復習	5 時間
第１３回	対面	●判例研究 法人税の復習全般	法人税の復習全般 １．益金と損金について	6 時間

		・判例研究では、原告・被告双方の立場にたって 　その論拠と自分なりの主張を報告しあうことを実施します。	２．企業会計の収益と費用との違いについて	
第１４回	対面	●判例研究 ・判例研究では、原告・被告双方の立場にたって 　その論拠と自分なりの主張を報告しあうことを実施します。	【事前学習】課題判例の整理 【事後学習】レポートの作成	6 時間
第１５回	オンデマンド	法人税のおさらい 判例研究	【事前学習】不明点、定義の洗い出し 【事後学習】配布プリントの復習と判例研究	6 時間

科目名	教育法	開講年度	2026 年度春学期
担当者	森　征樹	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代の教育問題を法的に読み解く		
授業の目的及び概要	日本国憲法下において「教育」は、学習権の保障を軸として、知的・肉体的な人間形成を促す営みである。そのような「教育」を受ける権利は「人権中の人権である」として憲法にも明記されているわけだが、「教育を受ける権利」を保障するためには教育基本法や学校教育法だけでなく様々な法、すなわち「教育法（教育関連法規）」が運用されている。それらを概観し、現代の教育問題を解くための法的なアプローチの仕方を学ぶ。		
履修条件・留意点	講義中のスマートフォンの使用を一切禁止する。講義中は、スマートフォンの電源を切って鞄の中等に入れておくこと。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①日本における教育関連法規の内容を理解すること。 ②教育が持つ高度な専門性についての理解を深める。 ③実際の教育現場における問題を取り上げ、解決のための法的思考力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートへの回答などで対応する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『教育法の現代的争点』日本教育学会編、法律文化社、2014 年。	ISBN	9784589035608
参考書	① 戸波江二ほか編『ガイドブック教育法〔新訂版〕』三省堂、2015 年。 ② 中川律『教育法』三省堂、2023 年。 ③ 窪田眞二・澤田千秋（著）『学校の法律がこれ 1 冊でわかる教育法規便覧 令和 7 年版』学陽書房、2025 年。	ISBN	① 9784385323138 ② 9784385323091 ④ 9784313644007

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	教員免許取得を目指す学生だけでなく、これまで学校教育を受け、そして今まさに大学において高等教育を受けている諸君にとって、教育関連法規はこれまでの／これからの教育に関する問題を解くためのカギとなります。コロナ禍で発生した新たな「教育問題」なども一緒に考えていければ、と思います。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス／中間試験・定期試験の位置付	「日本国憲法」や「憲法Ⅰ」、「憲法Ⅱ（人権）」など	2 時間

		け及び形式内容について（その他、単位取得のために重要な事項を説明するので、必ず出席すること。どうしても出席できない理由がある場合は、事前に担当者（森）まで連絡すること）	で学んだ「教育を受ける権利」について復習しておくこと。	
第２回	対面	憲法、教育基本法／学習権（＝学習する自由）を保障するためには？	テキストⅠ－3「7 子供の学習権の権利性」の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第３回	対面	学校教育法と日本の教育制度／学校は何のためにあるのか？	テキストⅡ－2「15 学校教育法改正史」および「23 在日外国人の学習権保障」の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第４回	対面	「教育の機会均等」／本当の平等とは？	テキストⅡ－7「49 義務教育国庫負担制度と教職員定数」、Ⅱ－8「51 高校授業料無償化法・子ども手当法の評価」の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第５回	対面	教育行政①／教育の内容は誰が決めるのか？	テキストⅠ－3「8 親の教育権と子どもの権利保障」、「9 教師の教育権と市民的自由」、Ⅱ－4「学習指導要領と教育課程編成権」、「35 36 日本における教科書統制(1)(2)」の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第６回	対面	教育行政②／教育委員会とはどのような・何のための組織か？	テキストⅡ－6「教育委員会制度の実態と問題点」の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第７回	対面	教員のブラック労働／現代の学校教員の労働環境・賃金体系について	テキストⅡ－5「43 教員の勤務条件」の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第８回	対面	校則問題／生徒・児童は校則を無条件に守らなければならないのか？	テキストⅢ－1「66 校則裁判の論点」の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第９回	対面	校則に関する裁判例／大阪府立高校「黒染め訴訟」を題材に	事前に配布するレジュメおよびテキストⅢ－1「67 学校教育措置と教師の教育専門的裁量」の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第１０回	対面	体罰問題／ときには許される体罰もある？	テキストⅢ－1「65 体罰裁判と体罰概念」の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第１１回	対面	体罰に関する裁判例／大阪府立高校「バスケットボール部体罰自殺事件」を題材に	事前に配布するレジュメおよびテキストⅢ－3「78 教育公務員処分の厳罰化」の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第１２回	対面	教育現場におけるセクシャルハラスメント（スクールハラスメント）	テキストⅡ－3「スクール・セクハラと子どもの人権」の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第１３回	対面	「わいせつ教員」の処遇厳罰化問題／日本版 DBS の導入	事前に配布するレジュメおよびテキストⅡ－5「45 不適格教員と分限処分」の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第１４回	対面	これからの学校教育／公立学校の統廃合でいいのか	テキストⅢ－3「80 学校統廃合裁判」の内容について予習・復習をしておくこと	4 時間
第１５回	オンデマンド	総復習授業	これまでの講義で扱ったすべての内容について今一度復習をしておくこと	4 時間

科目名	刑法総論Ⅰ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	大場　史朗	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論の全体像と基礎を学ぶ		
授業の目的及び概要	刑法とは犯罪と刑罰について規定した法であり、刑法総論とは刑法の解釈論のうち、すべての犯罪に共通する成立要件と刑罰の種類・適用等を論じる分野である。この授業は、主に刑法総論のなかでも犯罪論を概観することで、その全体像と基本概念を理解することを目的とする。この授業は必修科目であり、刑法総論Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱを学修する上での基礎科目に位置付けられる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．刑法の意義と体系を理解し、説明することができる。 ２．刑法総論に関する基本概念を理解し、説明することができる。 ３．刑法総論に関する基本的な法的問題を理解し、説明することができる。 ４．刑法総論の学修を通じて論理的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	定期試験については、Learning Portal に簡単な解説・講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①刑法総論，内田幸隆・杉本一敏，有斐閣，2019 年『六法』(小型のもので可。紙媒体に限る）を毎回持参のこと。 ②2026 年法学検定試験問題集ベーシック＜基礎＞コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2026 年	ISBN	①978-4641150652 ②978-4785732349
参考書	①基本刑法Ⅰ　総論（第 3 版），大塚裕史ほか，日本評論社，2019 年 ②刑法判例百選Ⅰ　総論〔第 8 版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	ISBN	①978-4535523838 ②978-4641115507

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	刑法は、人間に対して刑罰を科すための法であるため、理論的に精緻な法です。刑法総論は、刑事法を学ぶ上でも基礎となるものですが、その反面、抽象的な議論になりがちです。学修にあたっては、なるべく具体的な場面を頭の中でイメージすることで、理解がしやすくなるとおもわれます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	○ガイダンス・刑法の意義 刑法の概念と意義、刑法の役割と機能等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（6-14 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 1 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第２回	対面	○刑法の基本原則と犯罪論の体系 罪刑法定主義の意義と派生原則、犯罪論の意義と体系等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（1-5 頁、14-25 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 2 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第３回	対面	○構成要件の意義 構成要件の意義と機能、構成要件要素等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（26-35 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 3 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第４回	対面	○因果関係 因果関係に関する条件説、相当因果関係説、危険の現実化説について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（35-52 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 4 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第５回	対面	○不作為犯 不作為犯の意義と種類、不作為犯の成立要件、作為義務の発生根拠について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（52-67 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 5 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第６回	対面	○故意と過失 故意の意義と種類、故意と過失の区別について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（68-73 頁、88-93 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 6 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第７回	対面	○錯誤 錯誤の意義と種類について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（73-87 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 7 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第８回	対面	○違法性阻却の意義、正当行為、被害者の同意 違法性の意義と違法性阻却事由について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（110-118 頁、150-164 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 8 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等	4 時間

			を確認・整理しておくこと	
第９回	対面	○正当防衛 　正当防衛の正当化根拠、正当防衛の要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（118-138 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 9 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１０回	対面	○正当防衛・緊急避難 　誤想防衛、緊急避難の正当化根拠、緊急避難の要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（138-150 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 10 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１１回	対面	○責任阻却の意義、期待可能性、責任能力 　責任の意義と責任阻却事由、責任能力、適法行為の期待可能性等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（165-190 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 11 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１２回	対面	○未遂犯 　未遂犯の意義、不能犯と中止犯の基本事項について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（191-212 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 12 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１３回	対面	○共犯の意義、正犯と共犯の区別、共同正犯 　正犯と共犯の意義、共同正犯の類型（実行共同正犯・共謀共同正犯）と成立要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（213-226 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 13 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１４回	対面	○教唆犯・幇助犯 　教唆犯と幇助犯の類型と成立要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（226-232 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 14 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１５回	オンデマンド	○授業のまとめ 　定期試験に向けて授業のまとめを行う。	【予習】 　Learning Portal に掲載する第 15 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 　動画および配布された資料の内容を復習し、定期試験の準備をしておくこと。	4 時間

科目名	刑法総論Ⅰ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	西村　剛輝	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論の全体像と基礎を学ぶ		
授業の目的及び概要	刑法とは犯罪と刑罰について規定した法であり、刑法総論とは刑法の解釈論のうち、すべての犯罪に共通する成立要件と刑罰の種類・適用等を論じる分野である。この授業は、主に刑法総論のなかでも犯罪論を概観することで、その全体像と基本概念を理解することを目的とする。この授業は必修科目であり、刑法総論Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱを学修する上での基礎科目に位置付けられる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．刑法の意義と体系を理解し、説明することができる。 ２．刑法総論に関する基本概念を理解し、説明することができる。 ３．刑法総論に関する基本的な法的問題を理解し、説明することができる。 ４．刑法総論の学修を通じて論理的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	定期試験については、Learning Portal に簡単な解説・講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①刑法総論，内田幸隆・杉本一敏，有斐閣，2019 年 『六法』（小型のもので可。紙媒体に限る）を毎回持参のこと。 ②2026 年法学検定試験問題集ベーシック＜基礎＞コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2026 年	ISBN	①978-4641150652 ②●●-●●●●●● （未出版のため後日追記）
参考書	①基本刑法Ⅰ　総論（第 3 版），大塚裕史ほか，日本評論社，2019 年 ②刑法判例百選Ⅰ　総論〔第 8 版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	ISBN	①978-4535523838 ②978-4641115507

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	刑法は、人間に対して刑罰を科すための法であるため、理論的に精緻な法です。刑法総論は、刑事法を学ぶ上でも基礎となるものですが、その反面、抽象的な議論になりがちです。学修にあたっては、なるべく具体的な場面を頭の中でイメージすることで、理解がしやすくなるとおもわれます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	○ガイダンス・刑法の意義 刑法の概念と意義、刑法の役割と機能等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（6-14 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 1 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第２回	対面	○刑法の基本原則と犯罪論の体系 罪刑法定主義の意義と派生原則、犯罪論の意義と体系等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（1-5 頁、14-25 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 2 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第３回	対面	○構成要件の意義 構成要件の意義と機能、構成要件要素等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（26-35 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 3 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第４回	対面	○因果関係 因果関係に関する条件説、相当因果関係説、危険の現実化説について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（35-52 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 4 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第５回	対面	○不作為犯 不作為犯の意義と種類、不作為犯の成立要件、作為義務の発生根拠について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（52-67 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 5 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第６回	対面	○故意と過失 故意の意義と種類、故意と過失の区別について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（68-73 頁、88-93 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 6 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第７回	対面	○錯誤 錯誤の意義と種類について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（73-87 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 7 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第８回	対面	○違法性阻却の意義、正当行為、被害者の同意 違法性の意義と違法性阻却事由について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（110-118 頁、150-164 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 8 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等	4 時間

			を確認・整理しておくこと	
第９回	対面	○正当防衛 　正当防衛の正当化根拠、正当防衛の要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（118-138 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 9 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１０回	対面	○正当防衛・緊急避難 　誤想防衛、緊急避難の正当化根拠、緊急避難の要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（138-150 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 10 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１１回	対面	○責任阻却の意義、期待可能性、責任能力 　責任の意義と責任阻却事由、責任能力、適法行為の期待可能性等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（165-190 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 11 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１２回	対面	○未遂犯 　未遂犯の意義、不能犯と中止犯の基本事項について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（191-212 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 12 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１３回	対面	○共犯の意義、正犯と共犯の区別、共同正犯 　正犯と共犯の意義、共同正犯の類型（実行共同正犯・共謀共同正犯）と成立要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（213-226 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 13 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１４回	対面	○教唆犯・幇助犯 　教唆犯と幇助犯の類型と成立要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（226-232 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 14 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１５回	オンデマンド	○授業のまとめ 　定期試験に向けて授業のまとめを行う。	【予習】 　Learning Portal に掲載する第 15 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 　動画および配布された資料の内容を復習し、定期試験の準備をしておくこと。	4 時間

科目名	刑法総論Ⅰ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	杉本　拓海	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論の全体像と基礎を学ぶ		
授業の目的及び概要	刑法とは犯罪と刑罰について規定した法であり、刑法総論とは刑法の解釈論のうち、すべての犯罪に共通する成立要件と刑罰の種類・適用等を論じる分野である。この授業は、主に刑法総論のなかでも犯罪論を概観することで、その全体像と基本概念を理解することを目的とする。この授業は必修科目であり、刑法総論Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱを学修する上での基礎科目に位置付けられる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．刑法の意義と体系を理解し、説明することができる。 ２．刑法総論に関する基本概念を理解し、説明することができる。 ３．刑法総論に関する基本的な法的問題を理解し、説明することができる。 ４．刑法総論の学修を通じて論理的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	定期試験については、Learning Portal に簡単な解説・講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①刑法総論，内田幸隆・杉本一敏，有斐閣，2019 年『六法』(小型のもので可。紙媒体に限る）を毎回持参のこと。 ②2026 年法学検定試験問題集ベーシック＜基礎＞コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2026 年	ISBN	①978-4641150652 ②●●-●●●●●● （未出版のため後日追記）
参考書	①基本刑法Ⅰ　総論（第 3 版），大塚裕史ほか，日本評論社，2019 年 ②刑法判例百選Ⅰ　総論〔第 8 版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	ISBN	①978-4535523838 ②978-4641115507

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	刑法は、人間に対して刑罰を科すための法であるため、理論的に精緻な法です。刑法総論は、刑事法を学ぶ上でも基礎となるものですが、その反面、抽象的な議論になりがちです。学修にあたっては、なるべく具体的な場面を頭の中でイメージすることで、理解がしやすくなるとおもわれます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	○ガイダンス・刑法の意義 刑法の概念と意義、刑法の役割と機能等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（6-14 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 1 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第２回	対面	○刑法の基本原則と犯罪論の体系 罪刑法定主義の意義と派生原則、犯罪論の意義と体系等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（1-5 頁、14-25 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 2 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第３回	対面	○構成要件の意義 構成要件の意義と機能、構成要件要素等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（26-35 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 3 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第４回	対面	○因果関係 因果関係に関する条件説、相当因果関係説、危険の現実化説について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（35-52 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 4 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第５回	対面	○不作為犯 不作為犯の意義と種類、不作為犯の成立要件、作為義務の発生根拠について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（52-67 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 5 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第６回	対面	○故意と過失 故意の意義と種類、故意と過失の区別について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（68-73 頁、88-93 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 6 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第７回	対面	○錯誤 錯誤の意義と種類について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（73-87 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 7 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第８回	対面	○違法性阻却の意義、正当行為、被害者の同意 違法性の意義と違法性阻却事由について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（110-118 頁、150-164 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 8 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等	4 時間

			を確認・整理しておくこと	
第９回	対面	○正当防衛 　正当防衛の正当化根拠、正当防衛の要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（118-138 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 9 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１０回	対面	○正当防衛・緊急避難 　誤想防衛、緊急避難の正当化根拠、緊急避難の要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（138-150 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 10 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１１回	対面	○責任阻却の意義、期待可能性、責任能力 　責任の意義と責任阻却事由、責任能力、適法行為の期待可能性等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（165-190 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 11 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１２回	対面	○未遂犯 　未遂犯の意義、不能犯と中止犯の基本事項について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（191-212 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 12 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１３回	対面	○共犯の意義、正犯と共犯の区別、共同正犯 　正犯と共犯の意義、共同正犯の類型（実行共同正犯・共謀共同正犯）と成立要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（213-226 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 13 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１４回	対面	○教唆犯・幇助犯 　教唆犯と幇助犯の類型と成立要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（226-232 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 14 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１５回	オンデマンド	○授業のまとめ 　定期試験に向けて授業のまとめを行う。	【予習】 　Learning Portal に掲載する第 15 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 　動画および配布された資料の内容を復習し、定期試験の準備をしておくこと。	4 時間

科目名	刑法総論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	大場　史朗	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論の全体像と基礎を学ぶ		
授業の目的及び概要	刑法とは犯罪と刑罰について規定した法であり、刑法総論とは刑法の解釈論のうち、すべての犯罪に共通する成立要件と刑罰の種類・適用等を論じる分野である。この授業は、主に刑法総論のなかでも犯罪論を概観することで、その全体像と基本概念を理解することを目的とする。この授業は必修科目であり、刑法総論Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱを学修する上での基礎科目に位置付けられる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．刑法の意義と体系を理解し、説明することができる。 ２．刑法総論に関する基本概念を理解し、説明することができる。 ３．刑法総論に関する基本的な法的問題を理解し、説明することができる。 ４．刑法総論の学修を通じて論理的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	定期試験については、Learning Portal に簡単な解説・講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①刑法総論，内田幸隆・杉本一敏，有斐閣，2019 年 『六法』（小型のもので可。紙媒体に限る）を毎回持参のこと。 ②2026 年法学検定試験問題集ベーシック＜基礎＞コース，法学検定試験委員会編，商事法務，2026 年	ISBN	①978-4641150652 ②978-4785732349
参考書	①基本刑法Ⅰ　総論（第 3 版），大塚裕史ほか，日本評論社，2019 年 ②刑法判例百選Ⅰ　総論〔第 8 版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年 その他、必要に応じて授業内で紹介する。	ISBN	①978-4535523838 ②978-4641115507

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	刑法は、人間に対して刑罰を科すための法であるため、理論的に精緻な法です。刑法総論は、刑事法を学ぶ上でも基礎となるものですが、その反面、抽象的な議論になりがちです。学修にあたっては、なるべく具体的な場面を頭の中でイメージすることで、理解がしやすくなるとおもわれます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	○ガイダンス・刑法の意義 刑法の概念と意義、刑法の役割と機能等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（6-14 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 1 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第２回	対面	○刑法の基本原則と犯罪論の体系 罪刑法定主義の意義と派生原則、犯罪論の意義と体系等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（1-5 頁、14-25 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 2 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第３回	対面	○構成要件の意義 構成要件の意義と機能、構成要件要素等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（26-35 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 3 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第４回	対面	○因果関係 因果関係に関する条件説、相当因果関係説、危険の現実化説について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（35-52 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 4 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第５回	対面	○不作為犯 不作為犯の意義と種類、不作為犯の成立要件、作為義務の発生根拠について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（52-67 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 5 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第６回	対面	○故意と過失 故意の意義と種類、故意と過失の区別について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（68-73 頁、88-93 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 6 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第７回	対面	○錯誤 錯誤の意義と種類について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（73-87 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 7 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第８回	対面	○違法性阻却の意義、正当行為、被害者の同意 違法性の意義と違法性阻却事由について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（110-118 頁、150-164 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 8 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等	4 時間

			を確認・整理しておくこと	
第９回	対面	○正当防衛 　正当防衛の正当化根拠、正当防衛の要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（118-138 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 9 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１０回	対面	○正当防衛・緊急避難 　誤想防衛、緊急避難の正当化根拠、緊急避難の要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（138-150 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 10 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１１回	対面	○責任阻却の意義、期待可能性、責任能力 　責任の意義と責任阻却事由、責任能力、適法行為の期待可能性等について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（165-190 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 11 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１２回	対面	○未遂犯 　未遂犯の意義、不能犯と中止犯の基本事項について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（191-212 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 12 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１３回	対面	○共犯の意義、正犯と共犯の区別、共同正犯 　正犯と共犯の意義、共同正犯の類型（実行共同正犯・共謀共同正犯）と成立要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（213-226 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 13 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１４回	対面	○教唆犯・幇助犯 　教唆犯と幇助犯の類型と成立要件について学ぶ。	【予習】 テキスト該当箇所（226-232 頁）を読んでおくこと。Learning Portal に掲載する第 14 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 配布された資料を読み直し、関連条文・用語の意味等を確認・整理しておくこと	4 時間
第１５回	オンデマンド	○授業のまとめ 　定期試験に向けて授業のまとめを行う。	【予習】 　Learning Portal に掲載する第 15 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。 【復習】 　動画および配布された資料の内容を復習し、定期試験の準備をしておくこと。	4 時間

科目名	刑法各論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	西村　剛輝	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法各論に関する基礎知識を修得する。		
授業の目的及び概要	本講義では、刑法典（明治 40 年法律第 45 号）の第２編「罪」に規定されている各犯罪のうち、主要なもの（殺人罪〔199 条〕、窃盗罪〔235 条〕、詐欺罪〔246 条〕など）に対象を絞って、その基礎知識の修得を目指します。より具体的には、次のとおりです。各犯罪には、それぞれの成立要件が定められており、全ての成立要件要素が揃って初めて犯罪の成立が認められます。そこで本講義では、個別具体的な犯罪を対象として、その存在理由（なぜ、その事象が「犯罪」となるのか）や各構成要件要素の意義・解釈（どのような要素が揃うと「犯罪」となるのか）、事案に沿った具体的適用などを検討していきます。そして、この検討を通じて、刑法典には様々な犯罪が規定されていることを確認し、それぞれの相互関係について理解を深めることが、本講義の目標となります。		
履修条件・留意点	この授業科目は、「刑法総論Ⅰ」の単位を修得済みである学生を対象とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑法典に規定されている重要犯罪に関して、その存在意義と成立要件を理解することができる。 ・具体的事例に即して、如何なる犯罪が、なぜ成立するのか（あるいは、成立しないのか）を理解することができる。 ・上記２点について、言葉によって説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・小テストについては、授業内もしくは動画配信によって解説と講評を行います。 ・定期試験については、Learning Portal に解説と講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	・購入必須のテキストはありません。授業は、レジュメをもとに進めていく予定です。 ・ただし、『六法』は毎回持参してください。	ISBN	なし。
参考書	・詳細は授業時に説明しますが、講義レジュメの作成に際しては、主に以下のテキストを参照しています。 ①講義刑法学・各論〔第３版〕，　井田良，　有斐閣，2023 年 ②刑法各論〔第３版〕，　松原芳博，　日本評論社，2024 年 ③刑法各論〔第３版〕，　山口厚，　有斐閣，　2024 年 ④刑法判例百選Ⅱ各論〔第８版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年 ⑤判例プラクティス刑法Ⅱ　各論，　成瀬幸典・島田聡一郎・安田拓人編，　信山社，　2012 年	ISBN	①9784641139671 ②9784535528246 ③9784641139701 ④9784641115514 ⑤9784797226324

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	【教員からのメッセージ】 刑法は、犯罪と刑罰を定めた法規です。犯罪とは、人の生命や財産権などの保護されるべき利益を害する行為ですから、市民生活を営んでいくにあたって、―行為者（加害者）としてであっても、あるいは、被害者としてであっても―あまり関わり合いを持ちたくない事象といえます。そのような、本来的には関わりたくない事象（＝犯罪）について、大学で学ぶ意義はどこにあるのでしょうか。本講義では、このような問いを見据えつつ、個別の犯罪成立要件の理解を通じて、刑法が社会において果たしている役割やその存在意義について思惟を深めていきます。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【ガイダンス・刑法総論の復習】 ・授業の進め方、成績評価の方法などについて説明します。 ・刑法総論に関する基礎知識について復習します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第２回	対面	【刑法各論の体系・生命に対する罪】 ・刑法各論の体系について説明します。 ・殺人罪、自殺関与罪・同意殺人罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第３回	対面	【生命・身体に対する罪】 ・遺棄の罪、傷害の罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第４回	対面	【自由に対する罪】 ・逮捕及び監禁の罪、脅迫の罪、略取・誘拐の罪、住居を侵す罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第５回	対面	【人格的法益、信用及び業務に対する罪】 ・名誉に対する罪、信用及び業務に対する罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第６回	対面	【財産犯の体系・財産に対する罪①】 ・財産犯の体系について説明します。 ・毀棄及び隠匿の罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第７回	対面	【財産に対する罪②】 ・窃盗罪、不動産侵奪罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第８回	対面	【財産に対する罪③】 ・強盗罪、事後強盗罪、強盗致死傷罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する授業資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第９回	対面	【財産に対する罪④】 ・詐欺罪、電子計算機使用詐欺罪について説明します。 ・恐喝罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第１０回	対面	【財産に対する罪⑤】 ・横領罪について説明します。 ・盗品等に関する罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間

第１１回	対面	【財産に対する罪⑥・財産犯の体系（再論）】 ・背任罪について説明します。 ・財産犯の体系を振り返ります。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第１２回	対面	【偽造に関する罪】 ・文書偽造の罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第１３回	対面	【放火及び失火の罪】 ・各種放火罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第１４回	対面	【国家的法益に対する罪】 ・汚職の罪、刑事司法作用を害する罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	【まとめ】 ・授業内容の総復習を行います。 ・定期試験に向けたまとめを行います。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間

科目名	刑法各論Ⅰ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	漆畑　貴久	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法各論の学修：刑法各論に関する基本的知識を修得する。		
授業の目的及び概要	この授業は、犯罪と刑罰に関する基本的な法律である刑法に規定されている個別具体的な犯罪について、それぞれの成立要件（犯罪構成要件）を概観することを通して、刑法が規定する犯罪の全体像を把握することを予定しています。刑法は、有罪とされた人物のその後の人生に大きな影響を与える可能性が極めて高い法律であり、その適用に際しては、慎重な態度が求められます。こうした法律が我々の社会に存在する意味について学修してもらうことを予定しています。 授業の具体的な予定は、授業計画に示したとおりですが、受講生の理解の程度あるいは授業の進度等の都合から変更（重複、割愛等）する場合がありますので、予めご了承下さい。		
履修条件・留意点	この科目は全 15 回の授業をオンデマンドで実施します。 履修条件は特にありません。 この科目は刑法各論の基本的な事項について学修してもらうことを想定した科目ですので、この科目で刑法の基本的な考え方について修得・理解して、発展科目の学修につなげていって下さい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	刑法各論に関する以下の知識の修得を通して、刑事法学的な物事の考え方ができるようになることを、この授業の到達目標とします。 ①具体的事例に該当する犯罪を刑法各論の条文内から指摘することができる。 ②指摘した犯罪について規定する条文の趣旨・意義等を説明することができる。 ③指摘した犯罪の構成要件を上記②で説明した条文から説明できる。 ④指摘した犯罪の構成要件から、刑法各論において重要とされる事項について指摘することができる。 ⑤上記①～④に記載されている到達目標を文章を用いて達成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生から質問があった場合、質問内容によって必要に応じてフィードバックを行います。 授業での学修内容に関して質問がある場合、担当にメール又はラーニングポータル「ディスカッション」等で問い合わせて下さい（メールアドレスは、ラーニングポータル等でお知らせします）。質問への回答に際して、受講生全体へのフィートバックを希望しない場合は「受講生全体へのフィードバックを希望しない」旨を知らせて下さい。その旨のお知らせがない場合、原則として、受講生全体にフィードバックします。 授業内での課題（確認小テスト等）の結果についても必要に応じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	法学教室ライブラリィ入門刑法学・各論（第 3 版），井田良，有斐閣，2024 年。 六法は必携です（電子版でも可、但し最新版のものに限る）。	ISBN	9784641139749
参考書	①信山社双書法学編法学刑法 2 各論，設楽裕文，信山社，2010 年。 ②信山社双書法学編法学刑法 4 演習（各論），設楽裕文編，信山社，2010 年。	ISBN	①9784797212723 ②9784797212747
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	60
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	授業を聞いた内容で、重要・必要と自分で判断したことを、ノートや配布プリント等にメモ書きする等、能動的な授業への参加が重要になります。 毎回、授業後に「確認小テスト」に取組んでもらいます。この小テストは「授業期間中の小テスト・レポート課題」として実施します（成績評価の 40%に相当）。この小テストは出席確認も兼ねていますので、授業を受講した場合は必ず取組んで下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	授業方法等の説明・オリエンテーション 我が国の刑事司法制度の概要について	事前学修：「Y は、自分が窃盗被害に遭ったと認識した」。このとき Y がどのような行動をとるかを予想し、その上で、我が国では犯罪に対してどのような対応が制度として用意されているのかを考えてみる。（2 時間） 事後学修：授業で説明した刑事司法の流れを再度確認し、自分に言葉で正確に説明できるように整理する（授業で触れる内容には、教科書・レジュメに記載されてない内容が含まれる場合があります）。確認小テストに取組む。（2 時間）	4 時間
第２回	オンデマンド	生命・身体に対する罪① ・殺人罪 ・自殺関与罪等	事前学修：教科書（1－19 頁）及び配布レジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2 時間） 事後学修：殺人罪及び自殺関与罪等に関して、それぞれどのような検討を行ったのかを確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。（2 時間）	4 時間
第３回	オンデマンド	生命・身体に対する罪② ・傷害罪 ・暴行罪 ・過失傷害罪等	事前学修：教科書（21－39 頁。なお、43－61 頁は傷害罪の発展的な問題なので参考にして下さい）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2 時間） 事後学修：傷害罪、暴行罪、及び過失傷害罪等について、それぞれどのような検討を行ったのかを確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。（2 時間）	4 時間
第４回	オンデマンド	生命・身体に対する罪③ ・危険運転致死傷罪 ・凶器準備集合罪 ・遺棄の罪	事前学修：教科書（39－42 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2 時間） 事後学修：危険運転致死傷罪、凶器準備集合罪、及び遺棄の罪について、それぞれどのような検討を行ったのかを確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。（2 時間）	4 時間
第５回	オンデマンド	人身の自由を侵す罪 ・逮捕監禁罪 ・略取誘拐罪 ・人身売買罪等	事前学修：教科書（68－72 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2 時間） 事後学修：逮捕監禁罪、略取誘拐罪、及び人身売買等罪について、それぞれ検討した内容を再度確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等に	4 時間

			ついて確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	
第６回	オンデマンド	精神的自由・生活の平穏を侵害する罪 ・脅迫罪 ・住居侵入罪 ・名誉毀損罪等	事前学修：教科書（63－68 頁、82－90 頁、及び 139－140 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：脅迫罪、住居侵入罪、及び名誉棄損罪について、それぞれどのような検討を行ったのかを確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第７回	オンデマンド	財産犯① ・窃盗罪 ・強盗罪等	事前学修：教科書（91－134 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：窃盗罪、及び強盗罪について、それぞれどのような検討を行ったのかを確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第８回	オンデマンド	財産犯② ・詐欺罪 ・恐喝罪 ・横領罪等	事前学修：教科書（91－134 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておくこと。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：詐欺罪、恐喝罪、及び横領罪について、それぞれどのような検討を行ったのかについて確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第９回	オンデマンド	公共の平穏を害する罪 ・放火罪等	事前学修：教科書（135－172 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：放火罪について、授業で検討した内容を確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第１０回	オンデマンド	国民の健康を害する罪 ・あへん煙に関する罪 ・飲料水に関する罪等	事前学修：レジュメの該当部分を通読しておく。それぞれの犯罪について検討する際には条文を参照すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した国民の健康を害する諸犯罪の内容について、それぞれどのような検討を行ったのかを確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第１１回	オンデマンド	偽造犯罪 ・通貨偽造罪 ・文書偽造罪 ・有価証券偽造罪等	事前学修：教科書（173－194 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した偽造犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第１２回	オンデマンド	社会生活の感情を侵す罪 ・賭博罪等 公務員による犯罪① ・職権濫用罪	事前学修：教科書（206－210 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておくこと。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した賭博罪等の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第１３回	オンデマンド	公務員による犯罪② ・賄賂罪等	事前学修：教科書（232－238 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間)	4 時間

			事後学修：授業で検討した公務員による犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	
第１４回	オンデマンド	公務を害する罪 ・公務執行妨害罪 ・犯人蔵匿・証拠隠滅罪等	事前学修：教科書（219－225 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した公務を害する犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第１５回	オンデマンド	国家の存立を危うくする罪 ・内乱罪 ・外患誘致罪等 授業のまとめ	事前学修：教科書（217－219 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した国家の存立にかかわる犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間

科目名	刑法各論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	漆畑　貴久	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法各論の学修：刑法各論に関する基本的知識を修得する。		
授業の目的及び概要	この授業は、犯罪と刑罰に関する基本的な法律である刑法に規定されている個別具体的な犯罪について、それぞれの成立要件（犯罪構成要件）を概観することを通して、刑法が規定する犯罪の全体像を把握することを予定しています。刑法は、有罪とされた人物のその後の人生に大きな影響を与える可能性が極めて高い法律であり、その適用に際しては、慎重な態度が求められます。こうした法律が我々の社会に存在する意味について学修してもらうことを予定しています。 授業の具体的な予定は、授業計画に示したとおりですが、受講生の理解の程度あるいは授業の進度等の都合から変更（重複、割愛等）する場合がありますので、予めご了承下さい。		
履修条件・留意点	この科目は全 15 回の授業をオンデマンドで実施します。 履修条件は特にありません。 この科目は刑法各論の基本的な事項について学修してもらうことを想定した科目ですので、この科目で刑法の基本的な考え方について修得・理解して、発展科目の学修につなげていって下さい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	刑法各論に関する以下の知識の修得を通して、刑事法学的な物事の考え方ができるようになることを、この授業の到達目標とします。 ①具体的事例に該当する犯罪を刑法各論の条文内から指摘することができる。 ②指摘した犯罪について規定する条文の趣旨・意義等を説明することができる。 ③指摘した犯罪の構成要件を上記②で説明した条文から説明できる。 ④指摘した犯罪の構成要件から、刑法各論において重要とされる事項について指摘することができる。 ⑤上記①～④に記載されている到達目標を文章を用いて達成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生から質問があった場合、質問内容によって必要に応じてフィードバックを行います。 授業での学修内容に関して質問がある場合、担当にメール又はラーニングポータル「ディスカッション」等で問い合わせて下さい（メールアドレスは、ラーニングポータル等でお知らせします）。質問への回答に際して、受講生全体へのフィートバックを希望しない場合は「受講生全体へのフィードバックを希望しない」旨を知らせて下さい。その旨のお知らせがない場合、原則として、受講生全体にフィードバックします。 授業内での課題（確認小テスト等）の結果についても必要に応じてフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	法学教室ライブラリィ入門刑法学・各論（第 3 版），井田良，有斐閣，2024 年。 六法は必携です（電子版でも可、但し最新版のものに限る）。	ISBN	9784641139749
参考書	①信山社双書法学編法学刑法 2 各論，設楽裕文，信山社，2010 年。 ②信山社双書法学編法学刑法 4 演習（各論），設楽裕文編，信山社，2010 年。	ISBN	①9784797212723 ②9784797212747
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	

	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	60
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	授業を聞いた内容で、重要・必要と自分で判断したことを、ノートや配布プリント等にメモ書きする等、能動的な授業への参加が重要になります。 毎回、授業後に「確認小テスト」に取組んでもらいます。この小テストは「授業期間中の小テスト・レポート課題」として実施します（成績評価の 40%に相当）。この小テストは出席確認も兼ねていますので、授業を受講した場合は必ず取組んで下さい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	授業方法等の説明・オリエンテーション 我が国の刑事司法制度の概要について	事前学修：「Y は、自分が窃盗被害に遭ったと認識した」。このとき Y がどのような行動をとるかを予想し、その上で、我が国では犯罪に対してどのような対応が制度として用意されているのかを考えてみる。（2 時間） 事後学修：授業で説明した刑事司法の流れを再度確認し、自分に言葉で正確に説明できるように整理する（授業で触れる内容には、教科書・レジュメに記載されてない内容が含まれる場合があります）。確認小テストに取組む。（2 時間）	4 時間
第２回	オンデマンド	生命・身体に対する罪① ・殺人罪 ・自殺関与罪等	事前学修：教科書（1－19 頁）及び配布レジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2 時間） 事後学修：殺人罪及び自殺関与罪等に関して、それぞれどのような検討を行ったのかを確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。（2 時間）	4 時間
第３回	オンデマンド	生命・身体に対する罪② ・傷害罪 ・暴行罪 ・過失傷害罪等	事前学修：教科書（21－39 頁。なお、43－61 頁は傷害罪の発展的な問題なので参考にして下さい）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2 時間） 事後学修：傷害罪、暴行罪、及び過失傷害罪等について、それぞれどのような検討を行ったのかを確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。（2 時間）	4 時間
第４回	オンデマンド	生命・身体に対する罪③ ・危険運転致死傷罪 ・凶器準備集合罪 ・遺棄の罪	事前学修：教科書（39－42 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2 時間） 事後学修：危険運転致死傷罪、凶器準備集合罪、及び遺棄の罪について、それぞれどのような検討を行ったのかを確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。（2 時間）	4 時間
第５回	オンデマンド	人身の自由を侵す罪 ・逮捕監禁罪 ・略取誘拐罪 ・人身売買罪等	事前学修：教科書（68－72 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。（2 時間） 事後学修：逮捕監禁罪、略取誘拐罪、及び人身売買等罪について、それぞれ検討した内容を再度確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等に	4 時間

			ついて確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	
第６回	オンデマンド	精神的自由・生活の平穏を侵害する罪 ・脅迫罪 ・住居侵入罪 ・名誉毀損罪等	事前学修：教科書（63−68 頁、82−90 頁、及び 139−140 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：脅迫罪、住居侵入罪、及び名誉棄損罪について、それぞれどのような検討を行ったのかを確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第７回	オンデマンド	財産犯① ・窃盗罪 ・強盗罪等	事前学修：教科書（91−134 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：窃盗罪、及び強盗罪について、それぞれどのような検討を行ったのかを確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第８回	オンデマンド	財産犯② ・詐欺罪 ・恐喝罪 ・横領罪等	事前学修：教科書（91−134 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておくこと。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：詐欺罪、恐喝罪、及び横領罪について、それぞれどのような検討を行ったのかについて確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第９回	オンデマンド	公共の平穏を害する罪 ・放火罪等	事前学修：教科書（135−172 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：放火罪について、授業で検討した内容を確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第１０回	オンデマンド	国民の健康を害する罪 ・あへん煙に関する罪 ・飲料水に関する罪等	事前学修：レジュメの該当部分を通読しておく。それぞれの犯罪について検討する際には条文を参照すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した国民の健康を害する諸犯罪の内容について、それぞれどのような検討を行ったのかを確認し、内容を整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第１１回	オンデマンド	偽造犯罪 ・通貨偽造罪 ・文書偽造罪 ・有価証券偽造罪等	事前学修：教科書（173−194 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した偽造犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第１２回	オンデマンド	社会生活の感情を侵す罪 ・賭博罪等 公務員による犯罪① ・職権濫用罪	事前学修：教科書（206−210 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておくこと。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した賭博罪等の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第１３回	オンデマンド	公務員による犯罪② ・賄賂罪等	事前学修：教科書（232−238 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間)	4 時間

			事後学修：授業で検討した公務員による犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	
第１４回	オンデマンド	公務を害する罪 ・公務執行妨害罪 ・犯人蔵匿・証拠隠滅罪等	事前学修：教科書（219－225 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した公務を害する犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間
第１５回	オンデマンド	国家の存立を危うくする罪 ・内乱罪 ・外患誘致罪等 授業のまとめ	事前学修：教科書（217－219 頁）及びレジュメの該当部分を通読しておく。教科書の通読に際しては六法で条文を確認すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した国家の存立にかかわる犯罪の内容について確認して整理する。授業で言及した専門用語や言葉遣い等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間)	4 時間

科目名	刑法総論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	漆畑　貴久	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論の発展的学修		
授業の目的及び概要	本講義は、刑法総論の発展科目として、受講生が刑法総論の重要論点について考察できるようになることを目的とします。授業では、これまでに履修してきた刑事法系科目（刑法総論Ⅰ、刑法各論Ⅰ等）を通して修得してきた専門知識をもとに、刑法総論に関する諸問題について、問題の所在を理解し、学説・判例の動向を把握し、そして刑事法学的な思考方法による解決を示すことができるようになることで、専門知識・能力の高度化を図るとともに、論理的思考能力を高めます。 授業の予定は授業計画の通りですが、内容の重要度、受講生の理解等の事情によって変更・割愛されることがありますので、予めご了承ください。		
履修条件・留意点	本科目は刑法総論の発展科目であり、刑法総論、並びに刑法各論に関する基本的な知識があることを前提に授業を進めますので、それらの科目の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の事項の修得を通して、刑事法学的な物事の考え方ができることを、本授業の目標とします。 ①刑法総論の重要論点について、刑法総論のどのような点に関わる問題であるのかを説明できる。 ②説明した問題に対する解釈学的解決方法並びに裁判例（判例）の思考方法を説明できる。 ③上記①及び②を経て、法的思考方法に基づいた自身の見解を提示することができる。 ④上記①～③について、「問題の所在、学説・判例の立場、及び自身の見解」という構成の文章で説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で作成・提出してもらったりアクションペーパーの内容に基づいて、必要に応じて次回以降の授業内で行います。また、学生から質問があった場合にも適宜実施します。そのため、質問の際に「授業全体へのフィードバックを希望しない」場合には、その旨を申し出て下さい。この申出がない場合、その質問内容が受講生全体にとっても有益であると判断したときには、授業全体にフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。各自が現在使用している基本書等を準備の上で授業に臨んで下さい。 授業に際してはレジュメ資料（プリント）を配布します。ラーニングポータルを通して配布しますので、各自入手して授業に臨んで下さい。 六法は必携です（電子版でも可。最新版のものに限ります）。	ISBN	なし
参考書	①判例刑法総論（第 8 版），山口厚・佐伯仁志・橋爪隆，有斐閣，2023 年 ②法律学講座双書刑法総論（第 4 版），西田典之著・橋爪隆補訂，弘文堂，2025 年	ISBN	①9784641139619 ②9784335315633

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	60
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この科目は、上述のように、刑事系科目の発展科目になります。単位修得は容易ではありませんので、それなりの覚悟をもって授業に臨んで下さい。 授業内で数回、リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。このペーパーの提出をもって「授業期間中の小テスト・レポート課題等」に代えます（評価の 40%に相当します）。評価のためのペーパーの作成・提出ですので、その旨を認識して、リアクションペーパーを作成・提出するようにして下さい。 対面授業では、授業の際に担当が受講生に対して発問をすることがあります。発問に解答してくれた受講生には、能動的授業態度として加点します。 履修態度が劣悪と判断される受講者に対しては、退席、出席停止等の措置を取ります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス。本講義における学修の前提として、刑法総論における犯罪成立の要件の概要を復習・確認します。	事前学修：これまでの刑事系科目（刑法総論Ⅰ、あるいは刑法各論Ⅰ等）の学修内容を整理し確認しておくこと。(2 時間) 事後学修：刑法における犯罪成立の一般的要件について確認し、刑法の全体像や刑事司法制度の概要について説明できるようになっておく。(2 時間)	4 時間
第２回	対面	構成要件該当性①実行行為：不作為犯 不真正不作為犯をめぐる議論、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2 時間)	4 時間
第３回	対面	構成要件該当性②実行行為：間接正犯 間接正犯をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2 時間)	4 時間
第４回	対面	構成要件該当性③実行行為：因果関係 因果関係をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2 時間)	4 時間
第５回	対面	構成要件該当性④構成要件的故意：錯誤 特に具体的事実の錯誤をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等を中心に学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2 時間)	4 時間
第６回	対面	構成要件該当性⑤構成要件的故意：錯誤（続き） 前回の授業に引続いて、錯誤をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認	4 時間

		します。	する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	
第7回	対面	構成要件該当性⑥構成要件的過失 構成要件的過失をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第8回	対面	違法性①正当行為：被害者の承諾 正当行為、特に被害者の同意をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第9回	対面	違法性②正当防衛 正当防衛をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第10回	対面	違法性③緊急避難 緊急避難をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第11回	対面	有責性　責任能力 有責性判断をめぐる諸議論、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第12回	対面	未遂 未遂・予備等をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第13回	対面	共犯① 共犯をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第14回	対面	共犯② 前回授業に引続き、共犯をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこで	4時間

			この判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ・振り返り これまでの授業での学修内容を改めて復習・確認し、定期試験に向けたまとめ・振り返りを行います。	事前学修：不要 事後学修：今回の授業で取り上げた事項について、それまでに学修してきた授業での内容と照らし合わせて確認する。特に授業で紹介した重要な論点・問題点については、①問題の所在、②学説・判例の立場、及び③自分の考えを示すことができるように整理すること。(4時間)	4時間

科目名	刑法総論Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	漆畑　貴久	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論の発展的学修		
授業の目的及び概要	本講義は、刑法総論の発展科目として、受講生が刑法総論の重要論点について考察できるようになることを目的とします。授業では、これまでに履修してきた刑事法系科目（刑法総論Ⅰ、刑法各論Ⅰ等）を通して修得してきた専門知識をもとに、刑法総論に関する諸問題について、問題の所在を理解し、学説・判例の動向を把握し、そして刑事法学的な思考方法による解決を示すことができるようになることで、専門知識・能力の高度化を図るとともに、論理的思考能力を高めます。 授業の予定は授業計画の通りですが、内容の重要度、受講生の理解等の事情によって変更・割愛されることがありますので、予めご了承ください。		
履修条件・留意点	本科目は刑法総論の発展科目であり、刑法総論、並びに刑法各論に関する基本的な知識があることを前提に授業を進めますので、それらの科目の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の事項の修得を通して、刑事法学的な物事の考え方ができることを、本授業の目標とします。 ①刑法総論の重要論点について、刑法総論のどのような点に関わる問題であるのかを説明できる。 ②説明した問題に対する解釈学的解決方法並びに裁判例（判例）の思考方法を説明できる。 ③上記①及び②を経て、法的思考方法に基づいた自身の見解を提示することができる。 ④上記①～③について、「問題の所在、学説・判例の立場、及び自身の見解」という構成の文章で説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で作成・提出してもらったりアクションペーパーの内容に基づいて、必要に応じて次回以降の授業内で行います。また、学生から質問があった場合にも適宜実施します。そのため、質問の際に「授業全体へのフィードバックを希望しない」場合には、その旨を申し出て下さい。この申出がない場合、その質問内容が受講生全体にとっても有益であると判断したときには、授業全体にフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。各自が現在使用している基本書等を準備の上で授業に臨んで下さい。 授業に際してはレジュメ資料（プリント）を配布します。ラーニングポータルを通して配布しますので、各自入手して授業に臨んで下さい。 六法は必携です（電子版でも可。最新版のものに限ります）。	ISBN	なし
参考書	①判例刑法総論（第 8 版），山口厚・佐伯仁志・橋爪隆，有斐閣，2023 年 ②法律学講座双書刑法総論（第 4 版），西田典之著・橋爪隆補訂，弘文堂，2025 年	ISBN	①9784641139619 ②9784335315633

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	0

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	60
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この科目は、上述のように、刑事系科目の発展科目になります。単位修得は容易ではありませんので、それなりの覚悟をもって授業に臨んで下さい。 授業内で数回、リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。このペーパーの提出をもって「授業期間中の小テスト・レポート課題等」に代えます（評価の 40%に相当します）。評価のためのペーパーの作成・提出ですので、その旨を認識して、リアクションペーパーを作成・提出するようにして下さい。 対面授業では、授業の際に担当が受講生に対して発問をすることがあります。発問に解答してくれた受講生には、能動的授業態度として加点します。 履修態度が劣悪と判断される受講者に対しては、退席、出席停止等の措置を取ります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス。本講義における学修の前提として、刑法総論における犯罪成立の要件の概要を復習・確認します。	事前学修：これまでの刑事系科目（刑法総論Ⅰ、あるいは刑法各論Ⅰ等）の学修内容を整理し確認しておくこと。(2 時間) 事後学修：刑法における犯罪成立の一般的要件について確認し、刑法の全体像や刑事司法制度の概要について説明できるようになっておく。(2 時間)	4 時間
第２回	対面	構成要件該当性①実行行為：不作為犯 不真正不作為犯をめぐる議論、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2 時間)	4 時間
第３回	対面	構成要件該当性②実行行為：間接正犯 間接正犯をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2 時間)	4 時間
第４回	対面	構成要件該当性③実行行為：因果関係 因果関係をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2 時間)	4 時間
第５回	対面	構成要件該当性④構成要件的故意：錯誤 特に具体的事実の錯誤をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等を中心に学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2 時間)	4 時間
第６回	対面	構成要件該当性⑤構成要件的故意：錯誤（続き） 前回の授業に引続いて、錯誤をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認	4 時間

		します。	する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	
第7回	対面	構成要件該当性⑥構成要件的過失 構成要件的過失をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第8回	対面	違法性①正当行為：被害者の承諾 正当行為、特に被害者の同意をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第9回	対面	違法性②正当防衛 正当防衛をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第10回	対面	違法性③緊急避難 緊急避難をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第11回	対面	有責性　責任能力 有責性判断をめぐる諸議論、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第12回	対面	未遂 未遂・予備等をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第13回	対面	共犯① 共犯をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第14回	対面	共犯② 前回授業に引続き、共犯をめぐる議論状況、並びに裁判例の動向等について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法総論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこで	4時間

			この判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ・振り返り これまでの授業での学修内容を改めて復習・確認し、定期試験に向けたまとめ・振り返りを行います。	事前学修：不要 事後学修：今回の授業で取り上げた事項について、それまでに学修してきた授業での内容と照らし合わせて確認する。特に授業で紹介した重要な論点・問題点については、①問題の所在、②学説・判例の立場、及び③自分の考えを示すことができるように整理すること。(4時間)	4時間

科目名	刑法総論Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	西村　剛輝	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論に関する応用的な知識を修得する。		
授業の目的及び概要	本講義では、犯罪成立の一般的要件について、その基礎知識を修得していることを前提に、発展的な内容を取り扱います。より具体的には、次のとおりです。刑法第８条にあるとおり、刑法総則に関する各種の規定（ルール）は、あらゆる犯罪の適用に際して参照される性質―言うなれば「普遍性」―を有しています。そのため、ある犯罪の成否が問題となるときは、当該犯罪に特有の成立要件を検討することはもちろん、犯罪成立の一般ルールとの適合性をもテストする必要があります。後者こそが、本講義で学ぶ刑法総論の内容です。 ところで、社会で生起する犯罪的事象には複雑なものもあり、適正な解決を導くのは必ずしも容易ではありません。もっとも、その際に問題解決の頼りになるのは、結局のところ、犯罪論に関する基礎的な知識と論理的な考え方です。そこで本講義では、複雑な事案を前にして、従来の判例や学説を手掛かりに、どのような道筋で問題解決へと至るかを具体的に検討していきます。これにより刑法総論に関する知識の定着を図りつつ、具体的事案への適用のあり方を修得することを目指します。		
履修条件・留意点	この授業科目は、「刑法総論Ⅰ」の単位を修得済みである学生を対象とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑法総論の各種規定に関して、その存在意義と要件を理解することができる。 ・隣接する概念について、相互の関係性及び異同を理解することができる。 ・応用事例について、犯罪がなぜ成立するのか（あるいは、成立しないのか）を理解することができる。 ・上記３点について、言葉によって説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・小テストについては、授業内もしくは動画配信によって解説と講評を行います。 ・定期試験については、Learning Portal に解説と講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	・購入必須のテキストはありません。授業は、レジュメをもとに進めていく予定です。 ・ただし、『六法』は毎回持参してください。	ISBN	なし。
参考書	詳細は授業時に説明しますが、講義レジュメの作成に際しては、主に以下のテキストを参照しています。 ①講義刑法学・総論〔第２版〕，井田良，有斐閣，2018 年 ②刑法総論〔第４版〕，松原芳博，日本評論社，2025 年 ③刑法総論〔第４版〕，山口厚，有斐閣，2025 年 ④刑法総論の悩みどころ，橋爪隆，有斐閣，2020 年 ⑤刑法判例百選Ⅰ総論〔第８版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年 ⑥判例プラクティス刑法Ⅰ 総論〔第 2 版〕，成瀬幸典・安田拓人編，信山社，2020 年 ⑦徹底チェック刑法―基本をおさえる事例演習，嶋矢貴之・小池信太郎・品田智史・遠藤聡太，有斐閣，2022 年	ISBN	①9784641139329 ②9784535528888 ③9784641139794 ④9784641139404 ⑤9784641115507 ⑥9784797226805 ⑦9784641139541

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	【教員からのメッセージ】 ・本講義では、授業中に質疑応答を行い、受講生の知識の定着度をはかります。もっとも、個々の発言内容の当否によって成績を判定することは予定しておりませんので、積極的な発言を期待します。 ・また、司法試験（ロースクールや予備試験を含む）を目指している学生の参加も想定されますので、刑法の事例問題の解き方についても説明します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【オリエンテーション】 ・授業の進め方、成績評価の方法などについて説明します。 ・刑法の「判例」と「学説」について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第２回	対面	【因果関係】 ・因果関係について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第３回	対面	【不作為犯】 ・不作為犯の成立要件について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第４回	対面	【被害者の同意】 ・被害者の同意について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第５回	対面	【正当防衛・緊急避難①】 ・正当防衛と緊急避難の異同及び相互関係について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第６回	対面	【正当防衛・緊急避難②】 ・正当防衛・緊急避難が認められるための前提状況について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第７回	対面	【正当防衛・緊急避難③】 ・正当防衛・緊急避難における「やむを得ずにした行為」について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第８回	対面	【錯誤】 ・事実の錯誤（正当化事由の錯誤も含む）について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する授業資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第９回	対面	【責任】 ・責任能力・原因において自由な行為について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておい	4 時間

			てください。	
第１０回	対面	【未遂】 ・未遂犯・不能犯・中止犯について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第１１回	対面	【共犯①】 ・共犯論の体系と間接正犯について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第１２回	対面	【共犯②】 ・共同正犯について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第１３回	対面	【共犯③】 ・承継的共犯・共犯関係の解消・共謀の射程などの諸問題について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第１４回	対面	【罪数】 ・罪数論について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	【まとめ】 ・授業内容の総復習を行います。 ・定期試験に向けたまとめを行います。 ・試験答案の書き方について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間

科目名	刑法総論Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	杉本　拓海	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論を立体的に把握しよう		
授業の目的及び概要	・刑法の「問題」は机の上でのみ存在するのではなく、実際に適用されると、適用された人の人生を大きく左右することになるほど重大な影響を及ぼす「現実の問題」であるということを受講生が意識した上で、「なぜその結論になるのか」「どうしてそのように考えるのか」について、しっかりと理解し、自身の言葉で説明できるように、一緒に悩み、考えていくような講義を目指します。 ・この講義では、刑法総論の基本的な事項は知っているという前提で、少し発展的な内容を扱います。 ・犯罪論・刑罰論や刑法の歴史などについては割愛し、原則として構成要件該当性・違法性・責任の順に授業を進めていきます。 ・刑法総論の諸問題に関する判例・学説について、受講生がイメージして理解できるよう、裁判例や身近な設例等の具体的な事例を交えながら解説し、一つ一つの問題についてさまざまな角度（判例・学説）から見ることで、刑法総論を立体的に把握していきます。 ・この講義では、一部で受講生に問いかけ、答えてもらうという形態をとります。ただ、問いかけは答え合わせのように正解を求めるものではなく、みんなで考えていくための質問ですので、正解不正解を気にすることなく楽しく参加してくださいね。減点もありません。		
履修条件・留意点	この授業科目は「刑法総論Ⅰ」の単位を修得済みである学生を対象とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・具体的事案について、前提となる事実を分析することで刑法上の問題を指摘できるようになる。 ・指摘した問題に関する判例や学説の立場を説明できるようになる。 ・指摘した問題について、判例や学説を踏まえて検討し、自分のとる見解を明らかにすることができるようになる。 ・具体的事案について、以上を踏まえて一定の結論を示すことができるようになる。 ・以上について、自身の理解を自身の言葉で表現し、他者に説得的に伝えることができるようになる。 【ＤＰ１】【ＤＰ２】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・学生が提出するリアクションペーパーについて、適宜必要に応じて授業時間内にフィードバックを行います。 ・定期試験については、簡単な解説・講評を Learning Portal 上に掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しませんが、各自が自分に合うと思う基本書及び判例集を持参してください。 『六法』(小型のもので可。紙媒体に限る）は毎回持参してください。 （参考書欄に決めかねた場合におすすめのものをあげます。①の講義刑法学は難易度が高めです）	ISBN	なし
参考書	【基本書】 ①講義刑法学・総論［第 2 版］, 井田良, 有斐閣, 2018 年 ②基本刑法Ⅰ　総論［第 3 版］, 大塚裕史・十河太朗・塩谷毅・豊田兼彦, 日本評論社, 2019 年	ISBN	①9784641139329 ②9784535523838 ③9784641115507

	【判例集】 ③刑法判例百選Ⅰ〔第 8 版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（%）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	【注意事項】 ・発展的な内容を扱うため、基本事項は習得済みであることを前提として進みます。必要に応じて復習をして臨んでください。それでもわからないところがあれば、気軽に質問にきてください。 ・毎回の講義で基本的な設問がついたリアクションペーパーを配布しますので、設問に解答の上で提出してください。 ・法学部指定六法を毎回必ず持参してください。 ・私語、授業と無関係な電子機器（ＰＣやスマホなど）の使用は厳禁です。違反者に対しては厳しく対応します。 【メッセージ】 刑法の授業は、ただ聞いているだけでは「わかる」ようにはなっても、「できる」ようにはならないと思います。「なんとなくわかるけど、いざ試験になると何を書けばいいのかわからない」、そんな経験はありませんか？ 「わかる」と「できる」の間にある壁は大きく、自分の頭で悩み考えてみないと、「できる」ようにはなりません。それが学習する上での難しさの一つだと思います。一方で、悩み考えた末に得たものは、刑法にとどまらず、人生の幹になりうると思います。 みんなで一緒に悩み、考えることで一人一人が「できる」ようになる、そんな授業を目指します。一緒に楽しんでいきましょう。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【ガイダンス】 授業の進め方、成績評価の方法などを説明した上で、基本的な学習方法を紹介します。 刑法の事例問題の解き方について、実際の問題を素材に解説します。	【予習】 配布されたレジュメを読み、事例と設問について自分なりの考えをまとめておいてください。(0.5 時間) 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。（1.5 時間）	4 時間
第２回	対面	【構成要件論①：因果関係】 構成要件論のうち、因果関係の意義と条件関係、法的因果関係について扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。(1.5 時間) 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。（2.5 時間）	4 時間

第３回	対面	【構成要件論②：不作為犯／故意】 構成要件論のうち、不作為犯と故意について扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。（1.5 時間） 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。（2.5 時間）	4 時間
第４回	対面	【構成要件論③：錯誤論】 構成要件論のうち、錯誤論（特に具体的事実の錯誤）について扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。（1.5 時間） 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。（2.5 時間）	4 時間
第５回	対面	【構成要件論④：過失犯／結果的加重犯】 構成要件論のうち、過失犯（特に結果の予見可能性と結果回避義務違反、過失の標準）と結果的加重犯について扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。（1.5 時間） 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。（2.5 時間）	4 時間
第６回	対面	【違法性論①：違法性阻却事由総論／正当行為／被害者の承諾】 違法性論のうち、違法性阻却事由の総論的部分について解説した後、正当行為（主に法令行為と正当業務行為）と被害者の承諾（同意、治療行為等）について扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。（1.5 時間） 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。（2.5 時間）	4 時間
第７回	対面	【違法性論②：正当防衛】	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前	4 時間

		違法性論のうち、正当防衛に関して、その要件（急迫性等）、過剰防衛、並びに誤想防衛及び誤想過剰防衛について扱います。	に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。（1.5 時間） 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。（2.5 時間）	
第８回	対面	【違法性論③：緊急避難／違法性阻却事由の錯誤】 違法性論のうち、緊急避難（その要件と諸問題、並びに、過剰避難及び誤想過剰避難）と違法性阻却事由の錯誤について扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。（1.5 時間） 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。（2.5 時間）	4 時間
第９回	対面	【中間復習】 これまでの復習と、事例問題の検討を実施します。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。（1.5 時間） 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。（2.5 時間）	4 時間
第１０回	対面	【責任論】 責任の本質について概説した上で、主に責任能力、違法性の意識の可能性、適法行為の期待可能性について扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。（1.5 時間） 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。（2.5 時間）	4 時間
第１１回	対面	【未遂犯論】 未遂犯と実行の着手、不能犯、中止犯につ	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があ	4 時間

		いて扱います。	れば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。(1.5 時間) 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。(2.5 時間)	
第１２回	対面	【共犯論①：正犯と共犯】 共犯論（正犯論）のうち、正犯概念と間接正犯、原因において自由な行為について扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。(1.5 時間) 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。(2.5 時間)	4 時間
第１３回	対面	【共犯論②：共同正犯】 共犯論のうち、共同正犯（共同正犯の理論的根拠、共同正犯の要件、共謀共同正犯や承継的共同正犯等）について扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。(1.5 時間) 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。(2.5 時間)	4 時間
第１４回	対面	【共犯論③：教唆犯と幇助犯／共犯の諸問題】【罪数論】 共犯論のうち、教唆犯と幇助犯（理論的根拠や要件等）や共犯に関する諸問題（共犯と錯誤、共犯の中止、共犯と身分等）について扱います。また、罪数論についてもこの回（及び第１５回）で扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。(1.5 時間) 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。(2.5 時間)	4 時間
第１５回	オンデマンド	【まとめと総括】 全体の総まとめを行います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された	4 時間

			「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。（1.5 時間） 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。（２.5 時間）	

科目名	刑法各論Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	漆畑　貴久	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法各論の発展的学修		
授業の目的及び概要	本講義は、刑法各論の発展科目であり、受講生が刑法各論の重要論点について考察できるようになることを目的とします。授業では、これまでに履修してきた刑事法系科目（刑法総論Ⅰ、刑法各論Ⅰ、刑法総論Ⅱ等）を通して修得してきた専門知識をもとに、刑法各論の諸問題のうち、特に財産犯を中心に検討・考察することを通して、問題の所在を明らかにし、学説・判例の動向を把握して、そして刑事法学的な思考方法による解決を示すことができるようになることで、専門知識・能力の高度化を図るとともに、論理的思考能力を高めます。 授業の予定は授業計画の通りですが、内容の重要度、受講生の理解等の事情によって変更・割愛されることがありますので、予めご了承ください。		
履修条件・留意点	本科目は刑法各論の発展科目であり、刑法総論、並びに刑法各論の基本的な知識があることを前提として授業を進めますので、刑法総論Ⅰ、刑法各論Ⅰ等の科目の履修を推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の事項の修得を通して、刑事法学的な物事の考え方ができることを、本授業の目標とします。 ①刑法各論の重要論点について、刑法各論のどのような点に関わる問題であるのかを説明できる。 ②説明した問題に対する解釈学的解決方法並びに裁判例（判例）の考え方を説明できる。 ③上記①及び②を経て、法的思考に基づいた自身の見解を提示することができる。 ④上記①～③について、「問題の所在、学説・判例の立場、及び自身の見解」という構成の文章で説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で作成・提出してもらったリアクションペーパーの内容に基づいて、必要に応じて次回以降の授業内で行います。また、学生から質問があった場合にも適宜実施します。質問内容が受講生全体にとっても有益であると判断できた場合、受講生全員に対してフィードバックします。そのため、フィードバックを希望しない場合には、「フィードバックを希望しない」旨を申し出て下さい。この申出がない場合、授業全体にフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。各自が現在使用している基本書等を準備の上で授業に臨んで下さい。 授業に際してはレジュメ資料（プリント）を配布します。ラーニングポータルを通して配布しますので、各自入手して授業に臨んで下さい。 六法は必携です（電子版でも可。最新版のものに限ります）。	ISBN	なし
参考書	①判例刑法各論（第 8 版），山口厚・佐伯仁志・橋爪隆，有斐閣，2023 年 ②法律学講座双書刑法各論（第 8 版），西田典之著・橋爪隆補訂，弘文堂，2025 年	ISBN	①9784641139626 ②9784335315640
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	60
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	この科目は、上述のように、刑事系科目の発展科目になります。単位修得は容易ではありませんので、それなりの覚悟をもって授業に臨んで下さい。 授業内で数回、リアクションペーパーを作成・提出してもらいます。このペーパーの提出をもって「授業期間中の小テスト・レポート課題等」に代えます（評価の 40%に相当します）。評価のためのペーパーの作成・提出ですので、その旨を認識して、リアクションペーパーを作成・提出するようにして下さい。 対面授業では、授業の際に担当が受講生に対して発問をすることがあります。発問に解答してくれた受講生には、能動的授業態度として加点します。 履修態度が劣悪と判断される受講者に対しては、退席、出席停止等の措置を取ります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス。刑法各論の意義・構造等について概説します。	事前学修：刑法総論Ⅰ、及び刑法各論Ⅰの学習内容を整理し確認しておくこと。(2 時間) 事後学修：刑法各論の全体像や刑事司法制度の概要について説明できるように、授業で言及した内容等を整理・確認する。(2 時間)	4 時間
第２回	対面	財産犯総説 1：財産犯について総論的に概観します。財産犯について学修・理解するために必要な基本的な知識を修得して、各財産犯について学修する準備を行います。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2 時間)	4 時間
第３回	対面	財産犯総説 2：財産犯の保護法益や「不法領得の意思」等、財産犯について発展的に学修するために必要な知識の修得を目指します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2 時間)	4 時間
第４回	対面	窃盗罪 1：窃盗罪の基本的構成要件とそれに関連する諸論点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2 時間)	4 時間
第５回	対面	窃盗罪 2：窃盗罪をめぐる諸論点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2 時間)	4 時間
第６回	対面	強盗罪 1：強盗罪の基本的構成要件とそれに関連する諸論点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2 時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこで	4 時間

			この判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	
第7回	対面	強盗罪2：強盗罪をめぐる諸論点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第8回	対面	強盗罪3：強盗罪の諸類型（準強盗罪、強盗致死傷罪等）について検討します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第9回	対面	詐欺罪1：詐欺罪の基本的構成要件とそれに関連する諸論点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第10回	対面	詐欺罪2：詐欺罪をめぐる諸論点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第11回	対面	詐欺罪3：詐欺罪の諸類型（訴訟詐欺、クレジットカード詐欺等）について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第12回	対面	恐喝罪：恐喝罪の基本的構成要件及び構成要件をめぐる問題点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第13回	対面	横領罪・背任罪：横領罪、並びに背任罪の基本的構成要件とそれをめぐる諸論点について学修します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。授業内で検討した判例については、なぜそこでこの判例を取り上げたのかを改めて確認すること。(2時間)	4時間
第14回	対面	性的自己決定に対する犯罪（不同意性交等罪）：近時の性犯罪に対する法的対応の情況（法改正等）を概観・整理したうえで、各犯罪の成立要件を把握・検討します。	事前学修：配布資料（レジュメ）の記載内容を、自分の持つ刑法各論の基本書と照らし合わせて検討しておく。条文と判例は必ず参照すること。(2時間) 事後学修：授業で検討した諸事項について整理・確認する。各犯罪の構成要件を把握して、どのような場合に犯罪となるのかについて説明できるようになるこ	4時間

			と。(2 時間)	
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ・振り返り 今回の授業では、これまでの授業を通して学修してきた内容を振り返り、定期試験に向けての最終的な準備を行います。	事前学修：不要 事後学修：授業での学習内容を、これまでに使用した資料（レジュメ）や基本書を用いて確認する。具体的事例において、①問題の所在、②学説・判例の立場、及び③自身の見解を示すことができるように確認して準備を進める。(4 時間)	4 時間

科目名	刑法各論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	杉本　拓海	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法各論の発展学修		
授業の目的及び概要	・刑法の「問題」は机の上でのみ存在するものではなく、実際に適用されると適用された人の人生を大きく左右することになるほど重大な影響を及ぼす「現実の問題」であるということを受講生が意識した上で、「なぜその結論になるのか」「どうしてそのように考えるのか」について、しっかりと理解し、自身の言葉で説明できるように、一緒に悩み、考えていくような講義を目指します。 ・この講義では、刑法総論及び刑法各論の基本的な事項は知っているという前提で、刑法各論の少し発展的な内容を扱います。 ・刑法各論の諸問題に関する判例・学説について、受講生がイメージして理解できるよう、裁判例や身近な設例等の具体的な事例を交えながら解説します。 ・この講義では、一部で受講生に問いかけ、答えてもらうという形態をとります。ただ、問いかけは答え合わせのように正解を求めるものではなく、みんなで考えていくための質問ですので、正解不正解を気にすることなく楽しく参加してくださいね（減点もありません）。		
履修条件・留意点	この授業科目は刑法総論Ⅰ・刑法各論Ⅰの上位科目であり、これらを履修済みの学生を対象とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・具体的事案について、前提となる事実を分析することで該当する犯罪を指摘できるようになる。 ・指摘した犯罪の趣旨や保護法益について説明できるようになる。 ・指摘した犯罪の構成要件について説明できるようになる。 ・具体的事案における事実を指摘した犯罪の構成要件に当てはめる際に生じる問題について指摘し、一定の結論を示すことができるようになる。 ・以上について、自身の理解を自身の言葉で表現し、他者に説得的に伝えることができるようになる。 【ＤＰ１】【ＤＰ２】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・学生が提出するリアクションペーパーについて、適宜必要に応じて授業時間内にフィードバックを行います。 ・定期試験については、簡単な解説・講評を Learning Portal 上に掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	基本刑法Ⅱ［第 4 版］，大塚裕史・十河太朗・塩谷毅・豊田兼彦，日本評論社，2024 年	ISBN	978-4-535-52818-5
参考書	【できれば全員に入手して欲しい】 ①刑法判例百選Ⅱ〔第 8 版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年 【2023 年改正に対応していますが、全体的に難しいので、意欲のある人に】 ②講義刑法学・各論［第 3 版］，井田良，有斐閣，2023 年 ※その他の参考書については、必要に応じて授業中に指示します	ISBN	①978-4-641-11551-4 ②978-4-641-13967-1
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	【注意事項】 ・発展的な内容を扱うため、基本事項は習得済みであることを前提として進みます。必要に応じて復習をして臨んでください。それでもわからないところがあれば、気軽に質問にきてください。 ・毎回の講義で基本的な設問がついたリアクションペーパーを配布しますので、設問に解答の上で提出してください。 ・法学部指定六法を毎回必ず持参してください。 ・私語、授業と無関係な電子機器（ＰＣやスマホなど）の使用は厳禁です。違反者に対しては厳しく対応します。 【メッセージ】 刑法の授業は、ただ聞いているだけでは「わかる」ようにはなっても、「できる」ようにはならないと思います。「なんとなくわかるけど、いざ試験になると何を書けばいいのかわからない」、そんな経験はありませんか？ 「わかる」と「できる」の間にある壁は大きく、自分の頭で悩み考えてみないと、「できる」ようにはなりません。それが学習する上での難しさの一つだと思います。一方で、悩み考えた末に得たものは、刑法にとどまらず、人生の幹になりうると思います。 みんなで一緒に悩み、考えることで一人一人が「できる」ようになる、そんな授業を目指します。一緒に楽しんでいきましょう。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【ガイダンス】 授業の進め方などを確認した上で、基本的な学習方法を紹介します。 刑法の事例問題の解き方について、実際の問題を素材に解説します。	【予習】 Learning Portal に掲載するレジュメを読み、事例と設問について自分なりの考えをまとめておいてください。 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上で、設問を考え直して予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。	4 時間
第２回	対面	【生命・身体に対する罪①】 殺人罪、傷害罪、暴行罪、傷害致死罪、過失致死罪、堕胎罪や遺棄罪といった生命・身体に対する犯罪のうち、主に殺人罪、暴行罪、傷害罪、同時傷害の特例の重要問題について扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。（1.5 時間） 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。（2.5 時間）	4 時間
第３回	対面	【生命・身体に対する罪②】 殺人罪、傷害罪、暴行罪、傷害致死罪、過失致死罪、堕胎罪や遺棄罪といった生命・身体に対する犯罪のうち、遺棄罪の重要問	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しな	4 時間

		題を扱います。	がら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。(1.5 時間) 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。(2.5 時間)	
第4回	対面	【自由・平穏に対する罪①】 逮捕・監禁罪、脅迫罪、強要罪、略取誘拐罪、不同意性交等罪、住居侵入罪、業務妨害罪といった自由・平穏に対する犯罪のうち、主に逮捕・監禁罪、略取誘拐罪、不同意性交等罪の重要問題について扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。(1.5 時間) 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。(2.5 時間)	4 時間
第5回	対面	【自由・平穏に対する罪②】 住居侵入罪の重要問題を扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。(1.5 時間) 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。(2.5 時間)	4 時間
第6回	対面	【名誉に対する罪等】 名誉毀損罪、侮辱罪、信用毀損罪、業務妨害罪といった犯罪の重要問題を扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。(1.5 時間) 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。(2.5 時間)	4 時間
第7回	対面	【財産に対する罪①】 財産犯総論・窃盗罪の重要問題について扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておい	4 時間

			てください。(1.5 時間) 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。(2.5 時間)	
第８回	対面	【財産に対する罪②】 強盗罪・事後強盗罪・強盗致死傷罪等の重要問題について扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。(1.5 時間) 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。(2.5 時間)	4 時間
第９回	対面	【財産に対する罪③】 詐欺罪・恐喝罪の重要問題を扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。(1.5 時間) 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。(2.5 時間)	4 時間
第１０回	対面	【財産に対する罪④】 横領罪と背任罪の重要問題について扱います。 盗品等関与罪の重要問題について扱います	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。(1.5 時間) 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。(2.5 時間)	4 時間
第１１回	対面	【放火に関する罪】 放火に関する罪の重要問題を扱います。	【予習】Learning Portal に掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。(1.5 時間)	4 時間

			【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。（2.5時間）	
第１２回	対面	【偽造に関する罪】 文書偽造罪の重要問題を扱います。	【予習】Learning Portalに掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。（1.5時間） 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。（2.5時間）	4時間
第１３回	対面	【刑事司法に対する罪など】 犯人蔵匿等罪・証拠隠滅等罪の重要問題について検討します。	【予習】Learning Portalに掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。（1.5時間） 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。（2.5時間）	4時間
第１４回	対面	【刑事司法に対する罪など】 犯人蔵匿等罪・証拠隠滅等罪の重要問題について検討します。	【予習】Learning Portalに掲載するレジュメを事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理してください。特に、レジュメに記載された「事例」と「設問」については、基本書等も参照しながら事前に検討して自分なりの答えを用意しておいてください。（1.5時間） 【復習】ノート、レジュメ等を読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。その上でレジュメの事例と設問を再検討し、予習段階での自分の考えと照らし合わせてください。また、末尾の問題にもう一度取り組むなどして定着を図ってください。理解が不十分なところがあれば、そのままにせず次回の授業時またはリアクションペーパーにおいて教員に質問してください。（2.5時間）	4時間
第１５回	オンデマンド	【まとめと総括】 授業内容の総復習と定期試験に向けたまとめを行います。	【予習】 Learning Portalに掲載するレジュメを読んでおいてください。 【復習】 レジュメを読み返し、授業内容を頭の中で一通り思い返してみましょう。	4時間

科目名	刑法各論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	西村　剛輝	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法各論に関する応用的な知識を修得する。		
授業の目的及び概要	本講義では、刑法典（明治 40 年法律第 45 号）の第２編「罪」に規定されている各犯罪を主たる対象として、その基礎知識を修得していることを前提に、発展的な内容を取り扱います（第 14 回目の授業では、刑法典以外に規定されている犯罪についても取り扱います）。より具体的には、次のとおりです。日々生起する犯罪的事象の中には、問題となっている犯罪が成立するのか明瞭でないものが少なくありません。その中には、新しい手口が問題となっているために、犯罪の成立要件が充たされるのかはっきりとしない場合や、A 罪と B 罪との交錯領域にあるために、どちらの犯罪が成立するのか（あるいは、いずれの犯罪も成立する（しない）のか）、一見しただけでは判断できない場合もあります。もっとも、ここで問題解決の頼りになるのは、結局のところ、各犯罪に関する基礎的な知識と論理的な考え方です。そこで本講義では、複雑な事案を前にして、従来の判例や学説を手掛かりに、どのような道筋で問題解決へと至るかを具体的に検討していきます。これにより刑法各論に関する知識の定着を図りつつ、具体的事案への適用のあり方を修得することを目指します。		
履修条件・留意点	この授業科目は、「刑法総論Ⅰ」「刑法各論Ⅰ」の単位を修得済みである学生を対象とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑法典に規定されている各犯罪に関して、その存在意義と成立要件を理解することができる。 ・隣接する犯罪について、相互の関係性及び異同を理解することができる。 ・応用事例について、如何なる犯罪が、なぜ成立するのか（あるいは、成立しないのか）を理解することができる。 ・上記３点について、言葉によって説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・小テストについては、授業内もしくは動画配信によって解説と講評を行います。 ・定期試験については、Learning Portal に解説と講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	・購入必須のテキストはありません。授業は、レジュメをもとに進めていく予定です。 ・ただし、『六法』は毎回持参してください。	ISBN	なし。
参考書	2017 年・詳細は授業時に説明しますが、講義レジュメの作成に際しては、主に以下のテキストを参照しています。 ①講義刑法学・各論〔第３版〕，　井田良，　有斐閣，2023 年 ②刑法各論〔第３版〕，　松原芳博，　日本評論社，2024 年 ③刑法各論〔第３版〕，　山口厚，　有斐閣，　2024 年 ④財産犯バトルロイヤル―絶望しないための方法序説，　高橋則夫・田山聡美・内田幸隆・杉本一敏，　日本評論社，　2017 年 ⑤刑法判例百選Ⅱ各論〔第８版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年 ⑥判例プラクティス刑法Ⅱ　各論，　成瀬幸典・島田聡一郎・安田拓人編，　信山社，　2012 年 ⑦徹底チェック刑法―基本をおさえる事例演習，　嶋	ISBN	①9784641139671 ②9784535528246 ③9784641139701 ④9784535522664 ⑤9784641115514 ⑥9784797226324 ⑦9784641139541

	矢貴之・小池信太郎・品田智史・遠藤聡太,　有斐閣, 2022 年		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（%）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	【教員からのメッセージ】 ・本講義では、授業中に質疑応答を行い、受講生の知識の定着度をはかります。もっとも、個々の発言内容の当否によって成績を判定することは予定しておりませんので、積極的な発言を期待します。 ・また、司法試験（ロースクールや予備試験を含む）を目指している学生の参加も想定されますので、刑法の事例問題の解き方についても説明します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【オリエンテーション】 ・授業の進め方、成績評価の方法などについて説明します。 ・刑法の「判例」と「学説」について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第２回	対面	【生命・身体に対する罪①】 ・自殺関与罪・同意殺人罪、同時傷害の特例について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第３回	対面	【生命・身体に対する罪②】 ・堕胎の罪、遺棄の罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第４回	対面	【性的自由に対する罪】 ・各種性犯罪について、近時の立法動向も踏まえて説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第５回	対面	【人格的法益に対する罪】 ・名誉毀損罪、侮辱罪について、近時の立法動向も踏まえて説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第６回	対面	【財産に対する罪①】 ・客体の相違に着目して、財産犯を横断的に説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第７回	対面	【財産に対する罪②】 ・不法領得の意思に着目して、財産犯を横断的に説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第８回	対面	【財産に対する罪③】 ・占有に着目して、財産犯を横断的に説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する授業資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第９回	対面	【財産に対する罪④】	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読ん	4 時間

		・財産犯のまとめとして、その保護法益論と親族相盗例について説明します。	でおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	
第１０回	対面	【偽造に関する罪】 ・文書偽造の罪、通貨偽造の罪について、近時の立法動向も踏まえて説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第１１回	対面	【放火及び失火の罪】 ・各種放火罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第１２回	対面	【国家作用に対する罪①】 ・公務の執行を妨害する罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第１３回	対面	【国家作用に対する罪②】 ・汚職の罪について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第１４回	対面	【特別刑法】 ・近時、世間の耳目を集めている交通犯罪（危険運転致死傷罪や救護義務違反罪など）ついて説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	【まとめ】 ・授業内容の総復習を行います。 ・定期試験に向けたまとめを行います。 ・試験答案の書き方について説明します。	【予習】Learning Portal に掲載する講義資料を読んでおいてください。 【復習】授業で配付した資料を読んで復習しておいてください。	4 時間

科目名	刑事政策	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	漆畑　貴久	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑事政策について学ぶ：犯罪の原因と対策について考える。		
授業の目的及び概要	刑事政策とは、犯罪の原因を探求し、これに基づき犯罪を防止するための国家、団体、個人の活動をいうと考えられています（事実としての刑事政策）。この授業では、この刑事政策を一定の理念から批判的に検証し、より合理的かつより効果的な諸原則の体系を探求する学問である刑事政策学（学問としての刑事政策）の基本的知識の修得を通して、刑事法学的な物事の考え方ができるようになることを目指します。そのために、授業では、刑事政策についての基本的な考え方を概観し、我が国で生じている刑事政策上の諸問題についてどのように対処すべきかを検討していくことを通して、論理的思考力や社会事象に対する幅広い視野を修得していきます。 授業の内容は下記授業計画の通りですが、テーマの重要度や受講生の理解の状況等によって適宜変更する場合がありますので、予めご了承ください。		
履修条件・留意点	履修条件等は特にありません。刑法、刑事訴訟法についての基本的な知識があることを前提として授業を進めますので、それらの科目を履修していることが推奨されます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	以下の諸点について説明できることを通して、刑事法学的な物事の考え方ができるようになることをこの授業の達成目標とします。 ①我が国における刑事司法制度の概要について説明できる。 ②我が国における犯罪現象の現状について資料に基づいて説明できる。 ③我が国における犯罪への対応の現状について、刑事司法制度の各場面ごとに説明できる。 ④個別の犯罪類型について、我が国の刑事政策上の問題点とその対策について自身の考えを述べることができる。 ⑤上記①～④について、文章で説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で作成・提出してもらったリアクションペーパーの記載内容に応じて、適宜、次回以降の授業内で実施します。また、受講生から質問があった場合にも、必要に応じて実施します。質問については、受講生全体にとって有益であると判断できた場合、受講生全体にフィードバックします。そのため、フィードバックを希望しない場合には、「フィードバックを希望しない」旨を申し出て下さい。この申出がない場合、授業全体にフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。授業に際しては、レジュメ資料（プリント）を配布します。レジュメ資料は、ラーニングポータルを通して配布しますので、入手した上で、授業に出席するようにして下さい。 なお、六法は必携です（最新版のものに限る。なお、電子版でも可）。	ISBN	なし
参考書	授業内で適宜紹介します。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	60

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	刑事事件に関するニュース・報道に関心を払うようにしてください。 授業では、レジュメを配布しますので、事前に入手するようにして下さい。授業内での説明等について、受講生自身が重要・必要と判断した内容を適示メモ書きする等、能動的な学修が重要となります。 対面授業の際には、教員が適宜発問して受講生に解答を求めることがあります。自発的に解答してくれた受講生については、能動的学修態度として最終評価に加点します。 受講態度が劣悪と判断された受講生に対しては、退席、あるいは出席停止等の措置をとります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション。我が国の刑事司法制度の概要、並びに刑事政策の意義について把握する。	事前学修：Y は、自身が「泥棒」の被害に遭ったと認識した。この Y が「泥棒」の被害を警察等の捜査機関に通報し、犯人として A が逮捕された。この A が、その後どのように扱われることになるのかについて、自分なりに考えておく。(2 時間) 事後学修：「事前学修」で示した「A」に対する扱いがどのようなものであったのかについて再度確認する。刑事政策の意味等、授業内で接した専門用語その他初めて接した言葉等について改めて確認する。(2 時間)	4 時間
第２回	対面	我が国の犯罪の現状について、統計資料を参照しつつ、把握する。	事前学修：レジュメ・犯罪統計等を参照して、我が国の犯罪の現状についてどのようなことが指摘できるのかを自分なりに考えておく。(2 時間) 事後学修：我が国の犯罪の現状についてどのようなことを指摘できるのかを改めて確認し、自分なりに説明できるように文章等を考えてみる。(2 時間)	4 時間
第３回	対面	犯罪の被害者について考える。	事前学修：レジュメを参照して、犯罪被害者に関する諸理論について内容を通読しておく。分からない言葉等をチェックしておく。(2 時間) 事後学修：犯罪被害者の現状に対する理解から、どのような施策が展開されているのかを確認する。犯罪被害者に関する諸理論について整理し、どのような考え方であるのかを簡単に説明できるよう自分なりに言葉でまとめておく。分からなかった言葉等について確認する。(2 時間)	4 時間
第４回	対面	犯罪の原因について考える（犯罪原因論）。	事前学修：レジュメを参照して、犯罪原因に関する諸理論について内容を通読しておく。分からない言葉等をチェックしておく。(2 時間) 事後学修：犯罪原因に関する諸理論について整理し、どのような考え方であるのかを簡単に説明できるよう自分なりに言葉でまとめておく。分からなかった言葉等について確認する。(2 時間)	4 時間
第５回	オンデマンド	刑罰制度について考える①刑罰の目的・意義について、並びに死刑制度について考える。	事前学修：レジュメを参照して、犯罪をした者に対して刑罰を科することがなぜ許されるのかを考えてみる。死刑とはどのような刑罰であり、現在どの程度用いられているのかを把握しておく。分からない言葉等をチェックしておく。(2 時間) 事後学修：刑罰の目的・意義について確認し、死刑に関する諸問題を自分なりに検討する。言葉の意味等について確認する。確認小テストに取組む。(2 時間) ※確認小テストは、オンデマンド授業の出欠確認としても利用するので、学修を行った場合は必ず取り組むこと。	4 時間

第６回	対面	刑罰制度について考える②自由刑、及び不定期刑について考える。	事前学修：レジュメを参照して、自由刑及び不定期刑とはどのような刑罰であり、現在どの程度用いられているのかを把握しておく。分からない言葉等をチェックしておく。（2 時間） 事後学修：自由刑及び不定期刑について、授業内で学んだことを改めて整理し、言葉の意味等について確認する。（2 時間）	4 時間
第７回	対面	刑罰制度について考える③財産刑について考える。	事前学修：レジュメを参照して、財産刑とは何か、どのような問題があるのか等について考えてみる。分からない言葉等についてチェックしておく。（2 時間） 事後学修：財産刑について学んだことを改めて整理し、問題点とそれに対する改善のあり方等を自分なりに考えてみる。言葉の意味等について確認する。（2 時間）	4 時間
第８回	対面	猶予制度について考える。	事前学修：猶予制度とは何か、具体的にはどのような制度が存在しているのか等について自分なりに考えてみる。分からない言葉等についてチェックしておく。（2 時間） 事後学修：猶予制度が現代の社会においてどのような意味を持っているといえるのかを確認する。言葉の意味を確認する。（2 時間）	4 時間
第９回	対面	犯罪者処遇制度①施設内処遇について考える。	事前学修：レジュメを参照して、施設内処遇の現状について、自分なりに説明できるように検討してみる。分からない言葉等についてチェックしておく。（2 時間） 事後学修：施設内処遇にはどのような問題があるのか、そしてそれを改善するためにどのようなことが取組まれているのか等を改めて確認する。言葉の意味を確認する。（2 時間）	4 時間
第１０回	対面	犯罪者処遇制度②社会内処遇について考える。	事前学修：レジュメを参照して、社会内処遇とは何か、どのようなことが行われているのか等について把握する。分からない言葉等についてチェックしておく。（2 時間） 事後学修：社会内処遇としてどのようなことが行われているのかを改めて確認する。言葉の意味を確認する。（2 時間）	4 時間
第１１回	対面	犯罪予防のための諸施策：犯罪を予防するための考え方や施策等について検討する。	事前学修：レジュメを通読して、なぜ「自転車を駐輪する際に鍵が 2 つ（ツーロック）以上推奨」とされているのか、考えてみる。分からない言葉等についてチェックしておく。（2 時間） 事後学修：犯罪予防のための考え方とそれに基づいた具体的施策等について整理する。言葉の意味を確認する。（2 時間）	4 時間
第１２回	対面	各種犯罪①少年非行について考える。	事前学修：レジュメを参照して、少年非行の現状並びに非行少年対策の現状等について把握しておく。分からない言葉等についてチェックしておく。（2 時間） 事後学修：授業での学修内容を改めて整理する。言葉の意味を確認する。（2 時間）	4 時間
第１３回	対面	各種犯罪②ファミリーバイオレンスについて考える。	事前学修：レジュメを参照して、児童虐待、配偶者間暴力、ストーカー犯罪について考えてみる。分からない言葉等をチェックしておく。（2 時間） 事後学修：授業で学修した内容を整理しておく。言葉等の意味について確認する。（2 時間）	4 時間
第１４回	対面	各種犯罪③薬物犯罪について考える。	事前学修：レジュメを参照して、薬物犯罪の現状等について把握しておく。分からない言葉等をチェックしておく。（2 時間） 事後学修：授業で学修した内容を整理しておく。言葉	4 時間

			等の意味について確認する。(2 時間)	
第１５回	対面	これまでの授業で学修してきた犯罪の統計的把握(犯罪統計を扱う上での留意点を含む)、犯罪被害者の現状とその支援策、犯罪原因論、刑罰制度に対する諸検討、犯罪者処遇論（施設内処遇並びに社会内処遇)、犯罪予防論、及び各種犯罪の現状と対策について、それぞれ整理・確認することで、授業のまとめを行う。	事前学修：不要 事後学修：授業で取り上げたテーマについて改めて確認して、学期末試験に向けての準備を行う。(4 時間)	4 時間

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	大場　史朗	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑事手続の基本概念と流れについて理解する		
授業の目的及び概要	刑事訴訟法（手続法）は、これまで学修してきた刑法（実体法）を実現するための法律である。両者は車の両輪の関係にある。本講義は、わが国の刑事手続の全体像を理解し、刑事訴訟法の基本的知識を身につけることを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）刑事手続の流れを理解し、説明できる。 （２）刑事訴訟法の基本概念を正確に理解し、説明できる。 （３）刑事訴訟法の学修を通じて論理的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テスト、定期試験については、Learning Portal に簡単な解説・講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	省察 刑事訴訟法：歴史から学ぶ構造と本質，　内田博文・ 春日勉・ 大場史朗編，法律文化社，2023 年 ＊秋学期の「刑事訴訟法Ⅱ＜刑事手続法＞」の講義も同じテキストを使う。 ＊『六法』（小型のもので可）を毎回持参のこと。	ISBN	978-4589042835
参考書	刑事訴訟法判例百選第 11 版，大澤裕・川出敏裕編，有斐閣，2024 年	ISBN	978-4641115675

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	条文を丹念に引きながら刑事手続に関する基本概念を学ぶとともに、刑事手続の全体像とその特色を理解しましょう。 任意課題として刑事裁判傍聴レポートを課します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 刑事訴訟法の意義、刑事手続の流れ、刑事手続の歴史について概説する。	Learning Portal に掲載する第１回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	刑事手続の担い手 裁判所、検察官、弁護人等について概説する。	Learning Portal に掲載する第２回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習してお	4 時間

			くこと。	
第３回	対面	捜査総論（１） 捜査の意義と原則、行政警察活動と司法警察活動、捜査の端緒について概説する。	Learning Portal に掲載する第３回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第４回	対面	捜査総論（２） 任意捜査と強制捜査の区別について概説する。	Learning Portal に掲載する第４回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第５回	対面	逮捕・勾留（１） 逮捕･勾留の流れと基本事項について概説する。	Learning Portal に掲載する第５回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第６回	対面	逮捕・勾留（２） 逮捕･勾留の流れと基本事項について概説する。	Learning Portal に掲載する第６回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第７回	対面	捜索・差押え・検証（１） 捜索・差押え・検証の基本事項について概説する。	Learning Portal に掲載する第７回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第８回	対面	捜索・差押え・検証（２） 捜索・差押え・検証の基本事項について概説する。	Learning Portal に掲載する第８回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第９回	対面	その他の捜査手段 その他の処分、特殊な捜査手法について概説する。	Learning Portal に掲載する第９回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第１０回	対面	被疑者側の防御 弁護人選任権、黙秘権、接見交通権等について概説する。	Learning Portal に掲載する第10回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第１１回	対面	公訴 公訴提起の手続について概説する。	Learning Portal に掲載する第11回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第１２回	対面	公判 公判の意義、公判前整理手続、公判の流れ等について概説する。	Learning Portal に掲載する第12回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第１３回	対面	証拠法（１） 証拠法の基本概念、伝聞法則・伝聞例外について概説する。	Learning Portal に掲載する第13回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第１４回	対面	証拠法（２） 自白法則、補強法則、違法収集証拠排除法則について概説する。	Learning Portal に掲載する第14回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第１５回	オンデマンド	裁判・上訴・再審／まとめ 裁判の意義、上訴・再審の流れについて概説する。 授業の簡単なまとめを行う。	Learning Portal に掲載する第15回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間

科目名	刑事訴訟法Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	大場　史朗	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑事訴訟法の重要論点を学ぶ		
授業の目的及び概要	刑事訴訟法（手続法）は、これまで学修してきた刑法（実体法）を実現するための法律である。両者は車の両輪の関係にある。本講義は、春学期の「刑事訴訟法Ⅰ＜刑事裁判と法＞」を踏まえ、刑事訴訟法の重要論点を検討する。「刑事訴訟法Ⅰ＜刑事裁判と法＞」を履修済みであることを前提にやや発展的な内容を取り扱う。		
履修条件・留意点	「刑事訴訟法Ⅰ＜刑事裁判と法＞」を履修済みであることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）刑事訴訟法の基本概念を正確に理解し、説明できる。 （２）刑事訴訟法の重要論点を理解し、条文・判例を参照して、一定の結論を導くことができる。 （３）刑事訴訟法の学修を通じて論理的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間レポートについては、授業中に解説・講評する。 定期試験については、Learning Portal に簡単な解説・講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	省察 刑事訴訟法：歴史から学ぶ構造と本質， 内田博文・ 春日勉・ 大場史朗編，法律文化社，2023 年 ＊『六法』（小型のもので可）を毎回持参のこと。	ISBN	978-4589042835
参考書	刑事訴訟法判例百選第 11 版，大澤裕・川出敏裕編，有斐閣，2024 年	ISBN	978-4641115675

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	条文を丹念に引きながら、刑事訴訟法の重要論点を学びましょう。 任意課題として刑事裁判傍聴レポートを課します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 刑事手続の流れについて確認したのち、講義で取り上げる重要論点の前提知識を復習する。	Learning Portal に掲載する第１回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	職務質問と所持品検査 判例をもとに、職務質問と所持品検査の論	Learning Portal に掲載する第２回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所	4 時間

		点について検討する。	を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	
第３回	対面	強制処分と任意処分の区別（１） 判例をもとに、両者の区別について検討する。	Learning Portal に掲載する第３回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第４回	対面	強制処分と任意処分の区別（２） 判例をもとに、両者の区別について検討する。	Learning Portal に掲載する第４回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第５回	対面	逮捕・勾留（１） 判例をもとに、逮捕・勾留の論点について検討する。	Learning Portal に掲載する第５回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第６回	対面	逮捕・勾留（２） 判例をもとに、逮捕・勾留の論点について検討する。	Learning Portal に掲載する第６回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第７回	対面	捜索・差押え・検証（１） 判例をもとに、令状による捜索・差押えの論点について検討する。	Learning Portal に掲載する第７回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第８回	対面	捜索・差押え・検証（２） 判例をもとに、令状によらない捜索・差押え等の論点について検討する。	Learning Portal に掲載する第８回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第９回	対面	訴因変更（１） 判例をもとに、訴因の特定、訴因変更の要否等について検討する。	Learning Portal に掲載する第９回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第１０回	対面	訴因変更（２） 判例をもとに、訴因変更の可否、許否について検討する。 中間レポートの解説を行う。	Learning Portal に掲載する第10回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第１１回	対面	証拠法（１） 伝聞法則の意義と伝聞・非伝聞の区別について検討する。	Learning Portal に掲載する第11回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第１２回	対面	証拠法（２） 判例をもとに、伝聞法則の意義と伝聞・非伝聞の区別について検討する。	Learning Portal に掲載する第12回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第１３回	対面	証拠法（３） 伝聞例外の重要論点について検討する。	Learning Portal に掲載する第13回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第１４回	対面	証拠法（４） 伝聞例外の重要論点について検討する。	Learning Portal に掲載する第14回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間
第１５回	オンデマンド	証拠法（５） 自白法則・補強法則・違法収集証拠排除法則の論点について検討する。	Learning Portal に掲載する第15回講義レジュメを事前に印刷し、レジュメ記載のテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業後に読んで復習しておくこと。	４時間

科目名	少年法	開講年度	2026 年度春学期
担当者	大場　史朗	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	少年法の見方・考え方		
授業の目的及び概要	少年法とは、非行をおかした少年に適用される法である。2021 年には少年法が大きく改正され、18 歳・19 歳の少年に対する特別な取扱いが規定された。本講義では、刑事法と福祉法が交錯する少年保護手続を概説することで、現代日本における少年・子どもの現状を分析しつつ、大きなターニングポイントを迎えた少年法のあり方について考察することを目的とする。		
履修条件・留意点	「刑事訴訟法Ⅰ＜刑事裁判と法＞」を履修済み、または並行して履修することが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）少年保護手続の流れを理解し、説明できる。 （２）少年法の基本概念を正確に理解し、説明できる。 （３）少年法の学修を通じて社会科学的な思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験の内容については、授業中に解説・講評する。 定期試験については、Learning Portal に簡単な解説・講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは特に指定しないが、少年法の体系書又は概説書を１冊購入することが望ましい。『六法』（小型のもので可）を手元に置き、動画を視聴すること。 最近の体系書又は概説書としては、以下のものがある。 ①少年法第 2 版，川出敏裕，有斐閣，2022 年 ②少年法講義第 4 版，丸山雅夫，成文堂，2022 年	ISBN	①978-4641139589 ②978-4792353551
参考書	①少年法判例百選第２版，川出敏裕編，有斐閣，2024 年 ②家栽の人（全 10 巻・コミック），毛利甚八・魚戸おさむ，小学館文庫，2014 年 ③少年法，廣瀬健二，成文堂，2021 年	ISBN	①978-4641213418 ②978-4091919632 ③978-4792353391

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	少年法に関する客観的なデータと基本概念の正確な理解を前提として、少年保護手続の大きな流れを理解するように努めてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	オンデマンド	ガイダンス 少年法の意義、少年法の概念、手続の基本的な流れなどについて概説する。	Learning Portal に掲載する第１回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間
第２回	オンデマンド	少年法の方法と現状分析 少年保護事件の流れ、少年保護手続の関係機関などについて概説し、客観的なデータを用いて非行少年の現状を分析する。	Learning Portal に掲載する第２回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間
第３回	オンデマンド	少年法の歴史とその改正 旧少年法から現行少年法に至る少年法の歴史と、主に 2000 年以降の少年法改正の内容について概説する。	Learning Portal に掲載する第３回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間
第４回	オンデマンド	少年法の対象 「少年」の意義と、犯罪少年、触法少年、虞犯少年の意義について概説する。	Learning Portal に掲載する第４回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間
第５回	オンデマンド	非行少年の捜査・発見と事件受理 非行少年の発見活動及び事件受理の流れ等について、主に少年警察活動を中核として概説する。	Learning Portal に掲載する第５回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間
第６回	オンデマンド	観護の措置 観護の意義と、主に少年鑑別所における観護措置について概説する。	Learning Portal に掲載する第６回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間
第７回	オンデマンド	調査 調査の意義と、調査の諸問題、調査後の手続について概説する。	Learning Portal に掲載する第７回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間
第８回	オンデマンド	審判（１） 少年審判の意義と、原理と原則、審判の手続などについて概説する。	Learning Portal に掲載する第８回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間
第９回	オンデマンド	審判（２） 試験観察、審判後の処分、処分の変更と取消などについて概説する。	Learning Portal に掲載する第９回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間
第１０回	オンデマンド	中間試験	Learning Portal に掲載した第１回～第９回講義レジュメの内容を復習しておくこと。	6 時間
第１１回	オンデマンド	保護処分（１） 保護処分の意義とその内容について概説する。	Learning Portal に掲載する第 11 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間
第１２回	オンデマンド	保護処分（２） 保護処分の意義とその内容について概説する。	Learning Portal に掲載する第 12 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間
第１３回	オンデマンド	不服申立て 保護処分に対する不服申立ての意義と内容、保護事件の補償について概説する。	Learning Portal に掲載する第 13 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間
第１４回	オンデマンド	刑事手続と刑事処分 検察官送致後の少年の刑事手続と刑事処分（刑罰）、家裁への再移送、刑の執行について概説する。	Learning Portal に掲載する第 14 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	少年事件と報道 実際の新聞報道や週刊誌の報道、少年法 61 条にかかる裁判例などを素材として、少年事件の報道について考える。	Learning Portal に掲載する第 15 回講義レジュメを事前に印刷し、読んでおくこと。授業後に読んで復習しておくこと。	4 時間

科目名	民法総則Ⅰ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	孟　慶廉	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	・民法総則（民法典第１編総則：１条～169 条）に規定されている諸制度の基礎知識の修得		
授業の目的及び概要	・民法は、私たちの日常生活で生じる紛争を解決するための基本的なルールを定めたものであり、第１編総則・第２編物 権・第３編債権・第４編親族・第５編相続の５つの編からなっている。講学上、総則・物権・債権を財産法、親族・相続を 家族法（または親族法）と呼んでいる。 ・この授業は、民法典第１編総則に規定されている諸制度の基礎知識の修得を目的とする。民法総則は、第２編から第５編に共通して適用される規定を抽出し、体系的に並べたものである（ただし、第４編親族・第５編相続については、民法総則の規定がそのまま適用されない）。２年次に物権・債権・親族・相続を学修するが、それらを学修する際に必要な共通の知識を学修するのが、民法総則である。 ・民法総則は、他の編に比べて抽象的な部分が多く、難しく感じるところがある。授業では、基礎知識の修得と理解を中心とし、判例や重要論点などは、民法総則Ⅱで扱う。 ・できるだけ生の事例を多く用いることによって受講生がイメージをつかみやすくするとともに、各種資格試験や公務員採用試験にも配慮しながら授業を進めていく予定である。		
履修条件・留意点	・秋学期の民法総則Ⅱを受講することが望ましい。 ・法学特別講義 A で学修する内容と併せて理解する。 ・この授業は、法学部生の必修科目である。授業で学修する内容をしっかりと理解し、今後の学修に役立ててほしい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・民法総則に規定されている諸制度の概要、条文の文言及び専門用語の意味、他の制度との関連について理解し、説明することができる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・民法総則に関わる法的紛争について、授業で学修した知識を活用し、妥当な結論を導くことができる。【ＤＰ２】 ・法律文章の読み方、書き方および法的思考法を理解し、自ら運用することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業の内容に関する質問はいつでも受け付ける。よい質問については、質問者本人の承諾を得たうえで、次回の授業で受講生と共有し、知識の定着を図る。 ・各回の授業の最後に行う小テストの解答は、次回の授業の冒頭で解説を行い、受講生の理解を深めるとともに知識の定着を図る。 ・定期試験については、授業支援システム（Learning Portal）に出題の意図、解答例、講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	有斐閣ストゥディア　民法１総則，山本敬三監修，有斐閣，2021 年	ISBN	978-4-641-15008-9
参考書	民法①総則判例 30！〔第 2 版〕，原田昌和ほか，有斐閣，2025 年	ISBN	978-4-641-23348-5

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	55
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・携帯用の六法は必携である。また、授業中の私語、授業とは無関係なスマホの使用は厳禁とする。違反者に対しては退室を命じるなど厳しく対応する。 ・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム（Learning Portal）に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・授業時にはノートをとること。ノートの取り方は授業時に必要に応じて説明する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・イントロダクション――民法の基本原則（教科書 1 頁～19 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第２回	対面	・人――権利能力、意思能力・行為能力（教科書 20 頁～教科書 51 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第３回	対面	・法人（教科書 52 頁～66 頁） ・物（教科書 67 頁～75 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第４回	対面	・法律行為（教科書 76 頁～89 頁） ・心裡留保（教科書 90 頁～93 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第５回	対面	・虚偽表示（教科書 94 頁～113 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間

第６回	対面	・錯誤（教科書 114 頁～130 頁） ・小テスト	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。併せて、第 1 回から第 6 回までの授業内容を復習し、小テストに備える。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。併せて、小テスト問題に再度取り組み、知識を定着させる。	4 時間
第７回	対面	・詐欺・強迫（教科書 131 頁～151 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第８回	対面	・法律行為の内容規制（教科書 152 頁～164 頁） ・無効・取消し（教科書 165 頁～182 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第９回	対面	・代理の基礎と代理の要件（教科書 183 頁～197 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１０回	対面	・無権代理・表見代理（教科書 198 頁～212 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１１回	対面	・無権代理人の責任と代理権の濫用（教科書 213 頁～226 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところが	4 時間

			あれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	
第１２回	対面	・条件・期限・期間の計算（教科書 227 頁～242 頁） ・小テスト	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。併せて、第 7 回から第 11 回までの授業内容を復習し、小テストに備える。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。併せて、小テスト問題に再度取り組み、知識を定着させる。	4 時間
第１３回	対面	・時効の基礎知識（教科書 243 頁～260 頁） ・時効の完成猶予と更新（教科書 261 頁～276 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１４回	対面	・取得時効・消滅時効（教科書 277 頁～293 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・今までの講義のまとめ。 ・定期試験対策	・事前学修：これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理して授業時に教員に質問する。これには３時間を要する。 ・事後学修：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。これには４時間を要する。	4 時間

科目名	民法総則Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	孟　慶廉	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	・民法総則（民法典第１編総則：１条～169 条）に規定されている諸制度の基礎知識の修得		
授業の目的及び概要	・民法は、私たちの日常生活で生じる紛争を解決するための基本的なルールを定めたものであり、第１編総則・第２編物 権・第３編債権・第４編親族・第５編相続の５つの編からなっている。講学上、総則・物権・債権を財産法、親族・相続を 家族法（または親族法）と呼んでいる。 ・この授業は、民法典第１編総則に規定されている諸制度の基礎知識の修得を目的とする。民法総則は、第２編から第５編に共通して適用される規定を抽出し、体系的に並べたものである（ただし、第４編親族・第５編相続については、民法総則の規定がそのまま適用されない）。２年次に物権・債権・親族・相続を学修するが、それらを学修する際に必要な共通の知識を学修するのが、民法総則である。 ・民法総則は、他の編に比べて抽象的な部分が多く、難しく感じるところがある。授業では、基礎知識の修得と理解を中心とし、判例や重要論点などは、民法総則Ⅱで扱う。 ・できるだけ生の事例を多く用いることによって受講生がイメージをつかみやすくするとともに、各種資格試験や公務員採用試験にも配慮しながら授業を進めていく予定である。		
履修条件・留意点	・秋学期の民法総則Ⅱを受講することが望ましい。 ・法学特別講義 A で学修する内容と併せて理解する。 ・この授業は、法学部生の必修科目である。授業で学修する内容をしっかりと理解し、今後の学修に役立ててほしい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・民法総則に規定されている諸制度の概要、条文の文言及び専門用語の意味、他の制度との関連について理解し、説明することができる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・民法総則に関わる法的紛争について、授業で学修した知識を活用し、妥当な結論を導くことができる。【ＤＰ２】 ・法律文章の読み方、書き方および法的思考法を理解し、自ら運用することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業の内容に関する質問はいつでも受け付ける。よい質問については、質問者本人の承諾を得たうえで、次回の授業で受講生と共有し、知識の定着を図る。 ・各回の授業の最後に行う小テストの解答は、次回の授業の冒頭で解説を行い、受講生の理解を深めるとともに知識の定着を図る。 ・定期試験については、授業支援システム（Learning Portal）に出題の意図、解答例、講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	有斐閣ストゥディア　民法１総則，山本敬三監修，有斐閣，2021 年	ISBN	978-4-641-15008-9
参考書	民法①総則判例 30！〔第 2 版〕，原田昌和ほか，有斐閣，2025 年	ISBN	978-4-641-23348-5

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	55
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・携帯用の六法は必携である。また、授業中の私語、授業とは無関係なスマホの使用は厳禁とする。違反者に対しては退室を命じるなど厳しく対応する。 ・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム（Learning Portal）に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・授業時にはノートをとること。ノートの取り方は授業時に必要に応じて説明する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・イントロダクション――民法の基本原則（教科書 1 頁～19 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第２回	対面	・人――権利能力、意思能力・行為能力（教科書 20 頁～教科書 51 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第３回	対面	・法人（教科書 52 頁～66 頁） ・物（教科書 67 頁～75 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第４回	対面	・法律行為（教科書 76 頁～89 頁） ・心裡留保（教科書 90 頁～93 頁） ・虚偽表示（教科書 94 頁～113 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第５回	対面	・錯誤（教科書 114 頁～130 頁） ・詐欺・強迫（教科書 131 頁～151 頁） ・法律行為の内容規制（教科書 152 頁～164 頁） ・無効・取消し（教科書 165 頁～182 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間

第６回	対面	・小テスト（第１回から第５回の範囲） ・第１回から第５回の範囲の復習	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第７回	対面	・代理の基礎と代理の要件（教科書 183 頁～197 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第８回	対面	・無権代理・表見代理（教科書 198 頁～212 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第９回	対面	・無権代理人の責任と代理権の濫用（教科書 213 頁～226 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１０回	対面	・小テスト（第７回から第９回の範囲） ・第７回から第９回の範囲の復習	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１１回	対面	・条件・期限・期間の計算（教科書 227 頁～242 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１２回	対面	・時効の基礎知識（教科書 243 頁～260 頁） ・時効の完成猶予と更新（教科書 261 頁～276 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメ	4 時間

			の小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	
第１３回	対面	・取得時効・消滅時効（教科書 277 頁～293 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１４回	対面	・小テスト（第１１回から第１３回の範囲） ・第１１回から第１３回の範囲の復習	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・今までの講義のまとめ。 ・定期試験対策	・事前学修：これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理して授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。 ・事後学修：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。これには２時間を要する。	4 時間

科目名	民法総則Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	石尾　賢二	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	・民法総則（民法典第１編総則：１条～169 条）に規定されている諸制度の基礎知識の修得		
授業の目的及び概要	・民法は、私たちの日常生活で生じる紛争を解決するための基本的なルールを定めたものであり、第１編総則・第２編物 権・第３編債権・第４編親族・第５編相続の５つの編からなっている。講学上、総則・物権・債権を財産法、親族・相続を 家族法（または親族法）と呼んでいる。 ・この授業は、民法典第１編総則に規定されている諸制度の基礎知識の修得を目的とする。民法総則は、第２編から第５編に共通して適用される規定を抽出し、体系的に並べたものである（ただし、第４編親族・第５編相続については、民法総則の規定がそのまま適用されない）。２年次に物権・債権・親族・相続を学修するが、それらを学修する際に必要な共通の知識を学修するのが、民法総則である。 ・民法総則は、他の編に比べて抽象的な部分が多く、難しく感じるところがある。授業では、基礎知識の修得と理解を中心とし、判例や重要論点などは、民法総則Ⅱで扱う。 ・できるだけ生の事例を多く用いることによって受講生がイメージをつかみやすくするとともに、各種資格試験や公務員採用試験にも配慮しながら授業を進めていく予定である。		
履修条件・留意点	・秋学期の民法総則Ⅱを受講することが望ましい。 ・法学特別講義 A で学修する内容と併せて理解する。 ・この授業は、法学部生の必修科目である。授業で学修する内容をしっかりと理解し、今後の学修に役立ててほしい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・民法総則に規定されている諸制度の概要、条文の文言及び専門用語の意味、他の制度との関連について理解し、説明することができる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・民法総則に関わる法的紛争について、授業で学修した知識を活用し、妥当な結論を導くことができる。【ＤＰ２】 ・法律文章の読み方、書き方および法的思考法を理解し、自ら運用することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業の内容に関する質問はいつでも受け付ける。よい質問については、質問者本人の承諾を得たうえで、次回の授業で受講生と共有し、知識の定着を図る。 ・各回の授業の最後に行う小テストの解答は、次回の授業の冒頭で解説を行い、受講生の理解を深めるとともに知識の定着を図る。 ・定期試験については、授業支援システム（Learning Portal）に出題の意図、解答例、講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	有斐閣ストゥディア　民法１総則，山本敬三監修，有斐閣，2021 年	ISBN	978-4-641-15008-9
参考書	民法①総則判例 30！〔第 2 版〕，原田昌和ほか，有斐閣，2025 年	ISBN	978-4-641-23348-5

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	55
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・携帯用の六法は必携である。また、授業中の私語、授業とは無関係なスマホの使用は厳禁とする。違反者に対しては退室を命じるなど厳しく対応する。 ・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム（Learning Portal）に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・授業時にはノートをとること。ノートの取り方は授業時に必要に応じて説明する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・イントロダクション――民法の基本原則（教科書 1 頁～19 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第２回	対面	・人――権利能力、意思能力・行為能力（教科書 20 頁～教科書 51 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第３回	対面	・法人（教科書 52 頁～66 頁） ・物（教科書 67 頁～75 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第４回	対面	・法律行為（教科書 76 頁～89 頁） ・心裡留保（教科書 90 頁～93 頁） ・虚偽表示（教科書 94 頁～113 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第５回	対面	・錯誤（教科書 114 頁～130 頁） ・詐欺・強迫（教科書 131 頁～151 頁） ・法律行為の内容規制（教科書 152 頁～164 頁） ・無効・取消し（教科書 165 頁～182 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間

第６回	対面	・小テスト（第１回から第５回の範囲） ・第１回から第５回の範囲の復習	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第７回	対面	・代理の基礎と代理の要件（教科書 183 頁～197 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第８回	対面	・無権代理・表見代理（教科書 198 頁～212 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第９回	対面	・無権代理人の責任と代理権の濫用（教科書 213 頁～226 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１０回	対面	・小テスト（第７回から第９回の範囲） ・第７回から第９回の範囲の復習	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１１回	対面	・条件・期限・期間の計算（教科書 227 頁～242 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１２回	対面	・時効の基礎知識（教科書 243 頁～260 頁） ・時効の完成猶予と更新（教科書 261 頁～276 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメ	4 時間

			の小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	
第１３回	対面	・取得時効・消滅時効（教科書 277 頁～293 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１４回	対面	・小テスト（第１１回から第１３回の範囲） ・第１１回から第１３回の範囲の復習	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・今までの講義のまとめ。 ・定期試験対策	・事前学修：これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理して授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。 ・事後学修：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。これには２時間を要する。	4 時間

科目名	民法総則Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	坂上　文一	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	・民法総則（民法典第１編総則：１条～169 条）に規定されている諸制度の基礎知識の修得		
授業の目的及び概要	・民法は、私たちの日常生活で生じる紛争を解決するための基本的なルールを定めたものであり、第１編総則・第２編物 権・第３編債権・第４編親族・第５編相続の５つの編からなっている。講学上、総則・物権・債権を財産法、親族・相続を 家族法（または親族法）と呼んでいる。 ・この授業は、民法典第１編総則に規定されている諸制度の基礎知識の修得を目的とする。民法総則は、第２編から第５編に共通して適用される規定を抽出し、体系的に並べたものである（ただし、第４編親族・第５編相続については、民法総則の規定がそのまま適用されない）。２年次に物権・債権・親族・相続を学修するが、それらを学修する際に必要な共通の知識を学修するのが、民法総則である。 ・民法総則は、他の編に比べて抽象的な部分が多く、難しく感じるところがある。授業では、基礎知識の修得と理解を中心とし、判例や重要論点などは、民法総則Ⅱで扱う。 ・できるだけ生の事例を多く用いることによって受講生がイメージをつかみやすくするとともに、各種資格試験や公務員採用試験にも配慮しながら授業を進めていく予定である。		
履修条件・留意点	・秋学期の民法総則Ⅱを受講することが望ましい。 ・法学特別講義 A で学修する内容と併せて理解する。 ・この授業は、法学部生の必修科目である。授業で学修する内容をしっかりと理解し、今後の学修に役立ててほしい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・民法総則に規定されている諸制度の概要、条文の文言及び専門用語の意味、他の制度との関連について理解し、説明することができる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・民法総則に関わる法的紛争について、授業で学修した知識を活用し、妥当な結論を導くことができる。【ＤＰ２】 ・法律文章の読み方、書き方および法的思考法を理解し、自ら運用することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業の内容に関する質問はいつでも受け付ける。よい質問については、質問者本人の承諾を得たうえで、次回の授業で受講生と共有し、知識の定着を図る。 ・各回の授業の最後に行う小テストの解答は、次回の授業の冒頭で解説を行い、受講生の理解を深めるとともに知識の定着を図る。 ・定期試験については、授業支援システム（Learning Portal）に出題の意図、解答例、講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	有斐閣ストゥディア　民法 1 総則，山本敬三監修，有斐閣，2021 年	ISBN	978-4-641-15008-9
参考書	民法①総則判例 30！〔第 2 版〕，原田昌和ほか，有斐閣，2025 年	ISBN	978-4-641-23348-5
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	55
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・携帯用の六法は必携である。また、授業中の私語、授業とは無関係なスマホの使用は厳禁とする。違反者に対しては退室を命じるなど厳しく対応する。 ・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム（Learning Portal）に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・授業時にはノートをとること。ノートの取り方は授業時に必要に応じて説明する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・イントロダクション――民法の基本原則（教科書 1 頁～19 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第２回	対面	・人――権利能力、意思能力・行為能力（教科書 20 頁～教科書 51 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第３回	対面	・法人（教科書 52 頁～66 頁） ・物（教科書 67 頁～75 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第４回	対面	・法律行為（教科書 76 頁～89 頁） ・心裡留保（教科書 90 頁～93 頁） ・虚偽表示（教科書 94 頁～113 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第５回	対面	・錯誤（教科書 114 頁～130 頁） ・詐欺・強迫（教科書 131 頁～151 頁） ・法律行為の内容規制（教科書 152 頁～164 頁） ・無効・取消し（教科書 165 頁～182 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、	4 時間

			教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	
第６回	対面	・小テスト（第１回から第５回の範囲） ・第１回から第５回の範囲の復習	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第７回	対面	・代理の基礎と代理の要件（教科書 183 頁～197 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第８回	対面	・無権代理・表見代理（教科書 198 頁～212 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第９回	対面	・無権代理人の責任と代理権の濫用（教科書 213 頁～226 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１０回	対面	・小テスト（第７回から第９回の範囲） ・第７回から第９回の範囲の復習	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１１回	対面	・条件・期限・期間の計算（教科書 227 頁～242 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間

第１２回	対面	・時効の基礎知識（教科書 243 頁～260 頁） ・時効の完成猶予と更新（教科書 261 頁～276 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１３回	対面	・取得時効・消滅時効（教科書 277 頁～293 頁）	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１４回	対面	・小テスト（第１１回から第１３回の範囲） ・第１１回から第１３回の範囲の復習	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・今までの講義のまとめ。 ・定期試験対策	・事前学修：これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理して授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。 ・事後学修：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。これには２時間を要する。	4 時間

科目名	民法総則Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石尾　賢二	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法総則に関する応用知識を修得する		
授業の目的及び概要	民法総則に関する意義・要件・効果を正確に理解することを目的とする。		
履修条件・留意点	「民法総則Ⅰ」で学修した、民法総則の分野に関する制度趣旨、意義、要件・効果、条文の知識を前提として授業を進めるため、民法総則Ⅰの復習をしっかり行っておくこと。 六法は毎回使用するため、必ず持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 民法総則に関する法的概念を理解し、条文について正確に理解することができる。 2. 民法総則に関する法的問題を正確に把握し、整理し、理解することができる。 3. 日常生活・企業取引における具体的な問題について適切に解決する能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	内容に関する疑問点について、授業中、授業後の質問に対応します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『民法 1　総則（有斐閣ストゥディア)』, 山本 敬三 監修, 有斐閣, 2021 年 ②『六法』(ポケット六法など小型のもので可。紙媒体に限る）を毎回持参のこと。	ISBN	①978-4-641-15008-9
参考書	①『民法演習サブノート 210 問　』, 沖野眞已 ほか編, 有斐閣, 2025 年②『民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第 9 版〕』潮見 佳男（編集), 道垣内 弘人（編集）（2023 年）	ISBN	①9784335360206 ②978-4641115620

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	30
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	講義は対面で実施します(15 回目はオンデマンド)。 六法は持参し、条文はその都度必ず参照すること。 この授業を履修後、物権法、債権法などの民法財産法分野とも連携して学習することが望ましい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション――民法の基本原則について理解する 権利能力、意思能力を見る。	【予習】民法総則Ⅰで学修した内容を総復習しておいてください。シラバスと教科書の「第１章　イントロダクション――民法の基本原則」を読んでおいてください。	4 時間

			【予習】教科書の「第２章　権利能力――人(1)」「第３章　意思能力」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。	
第２回	対面	行為能力について理解する	【予習】教科書の「第３章　意思能力・行為能力――人(2)」を読んでおくこと。レジュメで指定された事例問題を教科書や参考書を使って検討しておくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。	4 時間
第３回	対面	法人、物について理解する	【予習】教科書の「第４章　法人」「第５章　物」を読んでおくこと。レジュメで指定された事例問題を教科書や参考書を使って検討しておくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第４回	対面	法律行為について理解する。心裡留保について理解する。	【予習】教科書の「第６章　法律行為」を読んでおくこと。教科書の「第７章　心裡留保」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第５回	対面	虚偽表示について理解する	【予習】教科書の「第７章　虚偽表示」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第６回	対面	虚偽表示の類推適用、錯誤について理解する	【予習】教科書の「第７章　虚偽表示」「第８章　錯誤」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第７回	対面	錯誤、詐欺・強迫について理解する。	【予習】教科書の「第８章　錯誤」「第９章　詐欺・強迫」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第８回	対面	法律行為の内容規制、無効・取消しについて理解する	【予習】「第１０章　法律行為の内容規制」「第１１章　無効・取消し」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。	4 時間
第９回	対面	代理とは・代理の要件について理解する。表見代理について理解する。	【予習】教科書の「第１２章　代理とは・代理の要件――代理(1)」を読んでおくこと。教科書の「第１３章　無権代理・表見代理――代理(2)」を読んでおくこと 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第１０回	対面	無権代理・表見代理について理解する	【予習】教科書の「第１３章　無権代理・表見代理――代理(2)」を読んでおくこと 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第１１回	対面	無権代理人の責任・代理権濫用等について理解する	【予習】教科書の「第１４章　無権代理人の責任・代理権濫用等――代理(3)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによ	4 時間

			ってすぐに解決し、復習してください。	
第１２回	対面	条件・期限・期間、時効とは・時効の完成と援用について理解する	【予習】教科書の「第１５章　条件・期限・期間」「第１６章　時効とは・時効の完成と援用――時効(1)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第１３回	対面	取得時効・消滅時効について理解する	【予習】教科書の「第１８章　取得時効・消滅時効――時効(3)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第１４回	対面	時効の完成猶予と更新について理解する	【予習】教科書の「第１７章　時効の完成猶予と更新――時効(2)」を読んでおくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	今までの講義のまとめ。 民法総則の内容全体を復習します。	【予習】授業全体について、総復習をしてください。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した全範囲を復習してください。	4 時間

科目名	民法総則Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	金　亮完	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	・民法総則に関する応用知識を修得する		
授業の目的及び概要	・民法総則に関する意義・要件・効果を正確に理解することを目的とする。 ・参考書で示す問題集の事例問題を参照し、その解決方法を検討する授業を予定している。		
履修条件・留意点	・「民法総則Ⅰ」で学修した、民法総則の分野に関する制度趣旨、意義、要件・効果、条文の知識を前提として授業を進めるため、民法総則Ⅰの復習をしっかり行っておくこと。 六法は毎回使用するため、必ず持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・民法総則に関する法的概念を理解し、条文について正確に理解することができる。 ・民法総則に関する法的問題を正確に把握し、整理し、理解することができる。 ・日常生活・企業取引における具体的な問題について適切に解決する能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業内容に関する疑問点等について、授業中、授業後の質問に対応する。 ・小テスト・中間テストを実施する場合は、講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『民法１ 総則（有斐閣ストゥディア）』，山本 敬三監修，有斐閣，2021 年	ISBN	978-4-641-15008-9
参考書	『民法演習サブノート 210 問　　』，沖野眞已ほか編，有斐閣，2025 年	ISBN	978-4-335-36020-6

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	55
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・六法は必ず持参し、条文はその都度必ず参照すること。 ・この授業を履修後、物権法、債権法などの民法財産法分野とも連携して学習することが望ましい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション――民法の基本原則について理解する	【予習】民法総則Ⅰで学修した内容を総復習しておいてください。シラバスと教科書の「第１章　イントロダクション――民法の基本原則」を読んでおいてください。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。	4 時間
第２回	対面	権利能力、意思能力・行為能力について理	【予習】教科書の「第２章　権利能力――人(1)」「第	4 時間

		解する	３章　意思能力・行為能力――人(2)」を読んでおくこと。レジュメで指定された事例問題を教科書や参考書を使って検討しておくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。	
第３回	対面	法人、物について理解する	【予習】教科書の「第４章　法人」「第５章　物」を読んでおくこと。レジュメで指定された事例問題を教科書や参考書を使って検討しておくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第４回	対面	法律行為について理解する	【予習】教科書の「第６章　法律行為」を読んでおくこと。レジュメで指定された事例問題を教科書や参考書を使って検討しておくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第５回	対面	心裡留保・虚偽表示について理解する	【予習】教科書の「第７章　心裡留保・虚偽表示」を読んでおくこと。レジュメで指定された事例問題を教科書や参考書を使って検討しておくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第６回	対面	錯誤について理解する	【予習】教科書の「第８章　錯誤」を読んでおくこと。レジュメで指定された事例問題を教科書や参考書を使って検討しておくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第７回	対面	詐欺・強迫、法律行為の内容規制、無効・取消しについて理解する	【予習】教科書の「第９章　詐欺・強迫」「第１０章　法律行為の内容規制」「第１１章　無効・取消し」を読んでおくこと。レジュメで指定された事例問題を教科書や参考書を使って検討しておくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第８回	対面	中間試験を実施する	【予習】第７回までの全範囲を復習しておいてください。 【復習】中間試験で出題された分野の復習をしてください。	4 時間
第９回	対面	代理の有効要件について理解する。	【予習】教科書の「第１２章　代理とは・代理の要件――代理(1)」を読んでおくこと。レジュメで指定された事例問題を教科書や参考書を使って検討しておくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第１０回	対面	無権代理・表見代理について理解する	【予習】教科書の「第１３章　無権代理・表見代理――代理(2)」を読んでおくこと。レジュメで指定された事例問題を教科書や参考書を使って検討しておくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第１１回	対面	無権代理人の責任・代理権濫用等について理解する。	【予習】教科書の「第１４章　無権代理人の責任・代理権濫用等――代理(3)」を読んでおくこと。レジュメで指定された事例問題を教科書や参考書を使って	4 時間

			検討しておくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	
第１２回	対面	条件・期限・期間、時効とは・時効の完成と援用について理解する。	【予習】教科書の「第１５章　条件・期限・期間」「第１６章　時効とは・時効の完成と援用――時効(1)」を読んでおくこと。レジュメで指定された事例問題を教科書や参考書を使って検討しておくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第１３回	対面	時効の完成猶予と更新について理解する。	【予習】教科書の「第１７章　時効の完成猶予と更新――時効(2)」を読んでおくこと。レジュメで指定された事例問題を教科書や参考書を使って検討しておくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第１４回	対面	取得時効・消滅時効について理解する。	【予習】教科書の「第１８章　取得時効・消滅時効――時効(3)」を読んでおくこと。レジュメで指定された事例問題を教科書や参考書を使って検討しておくこと。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した内容を確認しておいてください。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習してください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	今までの講義のまとめとして、民法総則の内容全体を復習する。	【予習】授業全体について、総復習をしてください。 【復習】テキストとレジュメで授業で学修した全範囲を復習してください。	4 時間

科目名	物権法Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	石尾　賢二	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	物権法の基礎		
授業の目的及び概要	民法物権法についての基礎的な学習。 民法財産法分野を概観した後、物権法規定の意味、法的概念の意味と解釈問題について、教科書に基づき学習していく。 物権法に関する基礎的知識を修得を目的とする。 物権法には総論規定の他に所有権規定、用益物権規定、担保物権規定が含まれるが、物権変動論のような議論の多い問題があると共に担保物権については債権法の知識も必要になるために難解であるために、必要な基礎的な力を身に着けることを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 物権法に関する基本的な概念、条文について理解することができる。 2. 物権法に関する基本的な問題を正確に把握し、整理し、理解することができる。 3. 具体的な問題について適切に解決する能力を身につける。 4. 各種試験に必要な知識を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	内容に関する疑問点について、授業中、授業後の質問に対応します。 レポート、期末試験についてのポイントをラーニングポータルに記載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	安永正昭「物権・担保物権法」第５版（２０２６年３月２７日）	ISBN	ISBN　978-4-641-23370-6
参考書	①民法判例百選Ⅰ　総則･物権 第 9 版，潮見　佳男 、道垣内　弘人，有斐閣，2023 年	ISBN	①978-4-641-11562-0

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	六法は持参すること。 講義にあたって、教科書、事前に配布するレジュメはよく読んでおくこと。 講義で分からなかったことは、講義中、講義後に質問すること。 引き続き、物権法Ⅱを受講し、知識を定着させること。 債権法などの民法財産法分野とも連携して学習することが望ましい。 法学部指定六法を必ず持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器（ＰＣやスマホなど）の使用は厳禁。違反者に対しては厳しく対応する。 ・〔適宜追加〕

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	物権とは何かを概観し、民法財産法における総則意思表示規定等との関係、債権法との関係を概観する。 物権的請求権など物権の一般的効力について説明する。 レポート課題を出しますので、期限までに提出すること（レジュメに記載）。	教科書の第１編物権法、第１章序説、第２章物権の一般的効力、第７章物権の消滅の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	物権変動規定（176 条、177 条、178 条）を概観し、不動産登記制度を学習する。また、二重に売買が行われた場合の問題を学習する。	教科書の第３章物権変動、第４章不動産物権変動における公示の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第３回	対面	不動産物権変動問題に関して、二重に売買が行われた場合の他にすべての変動原因で同様に二重の帰属が認められる場合に同様の問題が生じるのかを学習する。	教科書の第３章物権変動、第４章不動産物権変動における公示の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第４回	対面	177 条の第三者の範囲の問題を学習する。その際に不動産所有権が二重に帰属する問題で第三者の主観的事情がどのように考えられているのかを学習する。	教科書の第３章物権変動、第４章不動産物権変動における公示の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	動産物権変動における対抗要件と物権変動問題を学習し、即時取得について学習する。	教科書の第５章動産物権変動における公示、第６章明認方法による公示の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第６回	対面	占有権とはどのような権利であり、どのような効力を有するのか学習する。 所有権とはどのような権利であり、相隣関係上の制限はどのようなものであるのか学習する。	教科書の第８章所有権、第 10 章占有権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第７回	対面	一つの物を複数人で所有するる場合の運用に関する法制度を共有・合有・総有と言われるそれぞれの場合について学習する。	教科書の第８章所有権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第８回	対面	用益物権、すなわち地上権、永小作権、地役権に関する法制度を概観する。	教科書の第９章用益物権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第９回	対面	担保とは何か、保証と担保制度を概観し、担保物権、すなわち、約定担保物権である質権、抵当権、非典型担保、法定担保物権である留置権、先取特権について概観する。	教科書の第２編担保物権法第 11 章担保物権法総説の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第１０回	対面	抵当権について概観し、物上代位の問題を学習する。	教科書の第 12 章抵当権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	抵当権と利用権、法定地上権制度について学習する。	教科書の第 12 章抵当権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第１２回	対面	非典型担保物権として、譲渡担保について学習する。譲渡担保は目的物が多様であるので、それぞれについて学習する。	教科書の第 14 章譲渡担保箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	非典型担保物権として、所有権留保と仮登記担保について学習する。	教科書の第 15 章所有権留保、第 16 章仮登記担保の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	質権について概観する。	教科書の第 13 章質権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに	4 時間

			解決し、復習しておくこと。	
第１５回	オンデマンド	法定担保物権として、留置権、先取特権について概観する。	教科書の第 17 章留置権、第 18 章先取特権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間

科目名	物権法Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	孟　慶廉	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	物権法の基礎知識の習得。		
授業の目的及び概要	本講義は、物権法に関する基礎的知識を修得することを目的とする。 講義では、「会社員 A さんが不動産業者 B からマイホームを購入する」といった基本的な設例を用いながら、所有権を中心とした物権法の基本構造について学ぶ。 具体的には、所有権とはどのような権利か（所有権の意義）、売買契約において所有権はいつ買主に移転するのか（物権変動の意義）、さらに所有権以外にはどのような物権が存在し、それぞれどのような機能を有するのか（占有権、用益物権、担保物権の意義）について検討する。 これらの学習にあたっては、具体的な紛争事例も取り上げながら検討を行い、受講生が物権法の基本的な考え方を理解するとともに、法的問題を分析・解決する能力を身につけることを目指す。		
履修条件・留意点	本講義の理解のためには、民法総則Ⅰで学ぶ基礎知識が前提となる。そのため、未履修の場合は民法総則Ⅰを並行して履修することが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 物権法に関する基本的な概念および条文の内容を理解する。 2. 物権法に関する基本的な問題について、事実関係を正確に把握し、法的に整理することができる。 3. 条文を基礎として物権に関する問題を分析し、適切な解決を導くことができる。 4. 実際の紛争事例や各種資格試験において、物権法の知識を活用して問題に対応する応用力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内容に関する疑問点については、授業中および授業後の質問に対応する。 また、期末試験に関する重要なポイントをラーニングポータルに掲載し、受講生へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	物権〔第 3 版〕　エッセンシャル民法 2 （有斐閣ブックス 98），永田 眞三郎・松本 恒雄・松岡 久和・中田 邦博・横山 美夏著，有斐閣，2023 年	ISBN	978-4641184664
参考書	民法判例百選Ⅰ総則･物権〔第 9 版〕，潮見　佳男 、道垣内　弘人編，有斐閣，2023 年	ISBN	978-4641115620

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	六法は持参すること。 講義にあたって、教科書、事前に配布する資料はよく読んでおくこと。 講義で分からなかったことは、講義中、講義後に質問すること。

	引き続き、物権法Ⅱを受講し、知識を定着させること。 債権法などの民法財産法分野とも連携して学習することが望ましい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンスと導入ー民法の全体像と物権法の位置づけ、物権法入門	予習： 民法総則の基本事項を復習し、民法の全体構造を確認しておくこと。また、提示された予習課題に取り組むこと。 復習： 授業内容を整理し、教科書の第 1 章および配布資料を用いて、民法の体系と物権法の位置づけ、物権の種類・客体について理解を深めること。また、提示された復習課題に取り組むこと。	4 時間
第２回	対面	所有権の意義、所有権の取得と制限、および所有権に基づく物権的請求権	予習： 教科書第 2 章「所有権」（特に「所有権の意義」「所有権の取得」「所有権の制限」）および「所有権に基づく物権的請求権」に関する箇所並びに配布資料を事前に読んでおくこと。また、提示された予習課題に取り組むこと。 復習： 授業内容を整理し、所有権の基本的な意義と内容、所有権の取得方法およびその制限の仕組み、並びに所有権に基づく物権的請求権（返還請求権・妨害排除請求権・妨害予防請求権）の構造と役割について理解を深めること。また、提示された復習課題に取り組むこと。	4 時間
第３回	対面	物権変動(1)ー物権変動の意義、公示および対抗要件主義	予習： 教科書第 3 章「物権変動」（特に「物権変動の意義」「公示の原則」「対抗要件主義」）に関する箇所および配布資料を事前に読んでおくこと。また、提示された予習課題に取り組むこと。 復習： 授業内容を整理し、物権変動の基本的な意義、公示の原則が必要とされる理由、ならびに対抗要件主義の意味とその役割について理解を深めること。特に、物権変動を第三者に主張するために公示が必要とされる理由について整理しておくこと。また、提示された復習課題に取り組むこと。	4 時間
第４回	対面	物権変動(2)ー不動産物権変動（登記がなければ対抗できない物権変動）	予習： 教科書第 3 章「物権変動」のうち、不動産物権変動の公示方法としての登記および、登記がなければ第三者に対抗できないとする原則（民法 177 条）に関する箇所並びに配布資料を事前に読んでおくこと。また、提示された予習課題に取り組むこと。 復習： 授業内容を整理し、不動産物権変動において登記が対抗要件とされる理由、登記が必要となる物権変動の範囲、ならびに「第三者」の意味について理解を深めること。特に、なぜ登記がなければ第三者に対抗できないのかという制度趣旨について整理しておくこと。また、提示された復習課題に取り組むこと。	4 時間
第５回	対面	物権変動(3)ー動産物権変動	予習： 教科書第 3 章「物権変動」のうち、動産物権変動の対抗要件としての引渡し（民法 178 条）に関する箇所および、引渡しの各形態（現実の引渡し、簡易の引渡し、占有改定、指図による占有移転）についての部分並び	4 時間

			に配布資料を事前に読んでおくこと。また、提示された予習課題に取り組むこと。 復習： 授業内容を整理し、動産物権変動において引渡しが対抗要件とされる理由、および引渡しの各形態の内容とその違いについて理解を深めること。特に、不動産物権変動の登記制度との違いについて整理しておくこと。また、提示された復習課題に取り組むこと。	
第６回	対面	物権変動⑷ー即時取得（民法 192 条）の意義と機能、立木等の物権変動と明認方法	予習： 教科書第 3 章「物権変動」のうち、即時取得（民法 192 条）の意義および成立要件に関する箇所、ならびに立木等の物権変動における明認方法に関する部分および配布資料を事前に読んでおくこと。また、提示された予習課題に取り組むこと。 復習： 授業内容を整理し、即時取得制度の趣旨と成立要件（平穏・公然・善意・無過失による占有取得）について理解を深めること。また、立木等の物権変動において明認方法が公示手段としてどのような役割を果たすのかについて整理しておくこと。さらに、提示された復習課題に取り組むこと。	4 時間
第７回	対面	占有権ー占有権の意義と占有訴権	予習： 教科書第 5 章「占有」のうち、占有の意義、占有権の内容、ならびに占有訴権（占有保持の訴え・占有保全の訴え・占有回収の訴え）に関する箇所および配布資料を事前に読んでおくこと。また、提示された予習課題に取り組むこと。 復習： 授業内容を整理し、占有の意義および占有権が認められる理由について理解を深めること。また、占有訴権の種類とその要件・効果について整理し、物権的請求権との違いについても確認しておくこと。さらに、提示された復習課題に取り組むこと。	4 時間
第８回	対面	用益物権ー地上権、永小作権、地役権および入会権	予習： 教科書第 4 章「用益物権」のうち、地上権、永小作権、地役権および入会権に関する箇所並びに配布資料を事前に読んでおくこと。また、提示された予習課題に取り組むこと。 復習： 授業内容を整理し、用益物権の意義および所有権との関係について理解を深めること。また、地上権、永小作権、地役権および入会権の内容と特徴について整理し、それぞれの権利の相違点について確認しておくこと。さらに、提示された復習課題に取り組むこと。	4 時間
第９回	対面	第 8 回までの授業で扱った部分に関する総括を行う。	予習： これまでの授業（第 1 回～第 8 回）で扱った内容について、教科書および配布資料を読み返し、物権法の基本概念（所有権、物権変動、占有、用益物権など）の要点を整理しておくこと。また、提示された予習課題に取り組むこと。 復習： 中間試験および総括で確認した内容を踏まえ、これまで学習した物権法の基本概念と制度の体系について理解を深めること。特に、各制度の趣旨および相互の関係について整理しておくこと。また、提示された復習課題に取り組むこと。	4 時間

第１０回	対面	担保物権⑴ー担保物権の意義と機能、担保物権の種類	予習： 教科書第 6 章「抵当権」、第 9 章「動産担保」および第 10 章「法定担保物権」のうち、担保物権の意義および機能、並びに担保物権の種類（抵当権、質権、留置権、先取特権など）に関する箇所および配布資料を事前に読んでおくこと。また、提示された予習課題に取り組むこと。 復習： 授業内容を整理し、担保物権が債権の回収を確保するためにどのような役割を果たすのかについて理解を深めること。また、各担保物権の基本的な特徴および相違点について整理しておくこと。さらに、提示された復習課題に取り組むこと。	4 時間
第１１回	対面	担保物権（2）ー抵当権の意義と機能	予習： 教科書第 6 章「抵当権」のうち、抵当権の意義、成立および効力に関する箇所並びに配布資料を事前に読んでおくこと。また、提示された予習課題に取り組むこと。 復習： 授業内容を整理し、抵当権の意義および担保物権としての機能について理解を深めること。また、抵当権が設定される仕組みやその効力について整理し、他の担保物権との違いについても確認しておくこと。さらに、提示された復習課題に取り組むこと。	4 時間
第１２回	対面	担保物権（3）ー抵当権の実行、共同抵当、根抵当権	予習： 教科書第 6 章「抵当権」のうち、抵当権の実行方法、共同抵当および根抵当権に関する箇所並びに配布資料を事前に読んでおくこと。また、提示された予習課題に取り組むこと。 復習： 授業内容を整理し、抵当権がどのように実行されるのかについて理解を深めること。また、共同抵当の仕組みおよびその効果、並びに根抵当権の意義と特徴について整理し、通常の抵当権との違いについて確認しておくこと。さらに、提示された復習課題に取り組むこと。	4 時間
第１３回	対面	担保物権⑶ー質権、留置権、先取特権	予習： 教科書第 9 章「動産担保」および第 10 章「法定担保物権」のうち、質権、留置権および先取特権に関する箇所並びに配布資料を事前に読んでおくこと。また、提示された予習課題に取り組むこと。 復習： 授業内容を整理し、質権、留置権および先取特権の意義と機能について理解を深めること。また、これらの担保物権の成立要件および効力を整理し、抵当権との相違点について確認しておくこと。さらに、提示された復習課題に取り組むこと。	4 時間
第１４回	対面	非典型担保ー非典型担保（譲渡担保、所有権留保）の意義と機能	予習： 教科書第 9 章「動産担保」のうち、譲渡担保および所有権留保の意義、成立および機能について説明した部分並びに配布資料を事前に読んでおくこと。また、提示された予習課題に取り組むこと。 復習： 授業内容を整理し、譲渡担保および所有権留保がどのような目的で利用されるのかについて理解を深めること。また、これらの非典型担保が典型担保物権（抵当権、質権など）とどのように異なるのか、その	4 時間

			特徴および実務上の役割について整理しておくこと。さらに、提示された復習課題に取り組むこと。	
第１５回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまで学習した物権法の主要論点（所有権、物権変動、占有、用益物権、担保物権等）について体系的な整理を行う。	予習： これまでの授業で扱った内容について、教科書および配布資料を読み返し、物権法の基本概念（所有権、物権変動、占有、用益物権、担保物権、非典型担保など）の要点を整理しておくこと。また、提示された予習課題に取り組むこと。 復習： 授業で行った総復習を踏まえ、物権法の各制度の趣旨および相互の関係について理解を深めること。特に、重要な概念や制度の違いについて整理し、定期試験に備えて内容を確認しておくこと。また、提示された復習課題に取り組むこと。	4 時間

科目名	物権法Ⅰ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石尾　賢二	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	物権法の基礎		
授業の目的及び概要	民法物権法についての基礎的な学習。 民法財産法分野を概観した後、物権法規定の意味、法的概念の意味と解釈問題について、教科書に基づき学習していく。 物権法に関する基礎的知識を修得を目的とする。 物権法には総論規定の他に所有権規定、用益物権規定、担保物権規定が含まれるが、物権変動論のような議論の多い問題があると共に担保物権については債権法の知識も必要になるために難解であるために、必要な基礎的な力を身に着けることを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 物権法に関する基本的な概念、条文について理解することができる。 2. 物権法に関する基本的な問題を正確に把握し、整理し、理解することができる。 3. 具体的な問題について適切に解決する能力を身につける。 4. 各種試験に必要な知識を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	内容に関する疑問点について、授業中、授業後の質問に対応します。 レポート、期末試験についてのポイントをラーニングポータルに記載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	安永正昭「物権・担保物権法」第５版（２０２６年３月２７日）	ISBN	ISBN　978-4-641-23370-6
参考書	①民法判例百選Ⅰ　総則･物権 第 9 版，潮見　佳男 、道垣内　弘人，有斐閣，2023 年	ISBN	①978-4-641-11562-0

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	六法は持参すること。 講義にあたって、教科書、事前に配布するレジュメはよく読んでおくこと。 講義で分からなかったことは、講義中、講義後に質問すること。 引き続き、物権法Ⅱを受講し、知識を定着させること。 債権法などの民法財産法分野とも連携して学習することが望ましい。 法学部指定六法を必ず持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器（ＰＣやスマホなど）の使用は厳禁。違反者に対しては厳しく対応する。 ・〔適宜追加〕

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	物権とは何かを概観し、民法財産法における総則意思表示規定等との関係、債権法との関係を概観する。 物権的請求権など物権の一般的効力について説明する。 レポート課題を出しますので、期限までに提出すること（レジュメに記載）。	教科書の第１編物権法、第１章序説、第２章物権の一般的効力、第７章物権の消滅の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	物権変動規定（176 条、177 条、178 条）を概観し、不動産登記制度を学習する。また、二重に売買が行われた場合の問題を学習する。	教科書の第３章物権変動、第４章不動産物権変動における公示の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第３回	対面	不動産物権変動問題に関して、二重に売買が行われた場合の他にすべての変動原因で同様に二重の帰属が認められる場合に同様の問題が生じるのかを学習する。	教科書の第３章物権変動、第４章不動産物権変動における公示の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第４回	対面	177 条の第三者の範囲の問題を学習する。その際に不動産所有権が二重に帰属する問題で第三者の主観的事情がどのように考えられているのかを学習する。	教科書の第３章物権変動、第４章不動産物権変動における公示の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	動産物権変動における対抗要件と物権変動問題を学習し、即時取得について学習する。	教科書の第５章動産物権変動における公示、第６章明認方法による公示の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第６回	対面	占有権とはどのような権利であり、どのような効力を有するのか学習する。 所有権とはどのような権利であり、相隣関係上の制限はどのようなものであるのか学習する。	教科書の第８章所有権、第 10 章占有権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第７回	対面	一つの物を複数人で所有するる場合の運用に関する法制度を共有・合有・総有と言われるそれぞれの場合について学習する。	教科書の第８章所有権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第８回	対面	用益物権、すなわち地上権、永小作権、地役権に関する法制度を概観する。	教科書の第９章用益物権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第９回	対面	担保とは何か、保証と担保制度を概観し、担保物権、すなわち、約定担保物権である質権、抵当権、非典型担保、法定担保物権である留置権、先取特権について概観する。	教科書の第２編担保物権法第 11 章担保物権法総説の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第１０回	対面	抵当権について概観し、物上代位の問題を学習する。	教科書の第 12 章抵当権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	抵当権と利用権、法定地上権制度について学習する。	教科書の第 12 章抵当権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第１２回	対面	非典型担保物権として、譲渡担保について学習する。譲渡担保は目的物が多様であるので、それぞれについて学習する。	教科書の第 14 章譲渡担保箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	非典型担保物権として、所有権留保と仮登記担保について学習する。	教科書の第 15 章所有権留保、第 16 章仮登記担保の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	質権について概観する。	教科書の第 13 章質権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに	4 時間

			解決し、復習しておくこと。	
第１５回	オンデマンド	法定担保物権として、留置権、先取特権について概観する。	教科書の第 17 章留置権、第 18 章先取特権の箇所、レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間

科目名	物権法Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石尾　賢二	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	物権法の意義・要件・効果を理解し発展的な知識を修得する		
授業の目的及び概要	民法の物権法部分に関する知識の修得を目的とする。 参考書で示す問題集の事例問題を参照し、その解決方法を検討する授業を予定している。 物権法は、法律専門職のほか、公務員や民間企業で活躍する社会人に必要な法的知識のなかでも重要な分野であり、それらの就業力の観点も踏まえた授業を行う。		
履修条件・留意点	民法総則Ⅰ、物権法Ⅰで学修した知識が必要です。 特に、「物権法Ⅰ」で学修した、物権法の分野に関する制度趣旨、意義、要件・効果、条文の知識を前提として授業を進めるため、物権法Ⅰの復習をしっかり行っておくこと。 六法は毎回使用するため、必ず持参すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．物権法に関する主要な制度の制度趣旨を正確に理解している。 ２．物権法に関する主要な制度の意義・要件・効果について説明することができ、応用的な知識も修得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間試験等については、授業中に解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	安永正昭「物権・担保物権法」第５版(２０２６年３月２７日)	ISBN	ISBN　978-4-641-23370-6
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	六法は必ず持参してください。 物権法は、法学部の専門科目の中でも民事法系科目の中心となる重要な科目であり、法律専門職、公務員、民間企業のどの進路に進む場合にも必要となる科目です。本科目履修後は、他の民法科目を履修して理解を深めてください。 また、日常生活とも大きく関わる分野ですので、頑張って修得するようにしてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の進め方、予習・復習の方法、成績評価方法、民法の学習方法、参考書の紹介、民法の全体像と物権法の位置づけ、物権法序説、物権変動総論について理解する	予習：民法総則Ⅰ、物権法Ⅰに関する復習を行うこと。 復習：初回授業の復習を行うこと。特に、テキストと配布資料を使って、民法の全体像と物権法の位置づ	4 時間

			け、物権法序説、物権変動総論についての確認を行うこと。	
第２回	対面	不動産物権変動、第三者の範囲について理解する	予習：テキストの「不動産物権変動、第三者の範囲」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「不動産物権変動、第三者の範囲」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第３回	対面	不動産物権変動、変動原因の範囲について理解する。	予習：テキストの「不動産物権変動、変動原因の範囲」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「不動産物権変動、変動原因の範囲」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第４回	対面	動産物権変動について理解する。	予習：テキストの「動産物権変動」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「動産物権変動」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第５回	対面	物権的請求権、占有権、所有権について理解する	予習：テキストの「物権的請求権、占有権、所有権」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「物権的請求権、占有権、所有権」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第６回	対面	共有について理解する	予習：テキストの「共有」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「共有」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第７回	対面	用益物権総論、地上権、永小作権について理解する	予習：テキストの「用益物権総論、地上権、永小作権」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「用益物権総論、地上権、永小作権」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第８回	対面	地役権、入会権、担保物権総論について理解する	予習：テキストの「地役権、入会権 」に関する部分を事前に読み、 復習：テキストの「地役権、入会権 」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。 予習：テキストの「担保物権総論」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「担保物権総論」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第９回	対面	留置権、先取特権を理解する	予習：テキストの「留置権、先取特権」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「留置権、先取特権」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第１０回	対面	質権、抵当権総論を理解する	予習：テキストの「質権、抵当権総論」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「質権、抵当権総論」に関する部分	4 時間

			と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	
第１１回	対面	抵当権の効力について理解する	予習：テキストの「抵当権の効力」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「抵当権の効力」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第１２回	対面	共同抵当、根抵当について理解する	予習：テキストの「共同抵当、根抵当」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「共同抵当、根抵当」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第１３回	対面	非典型担保、譲渡担保について理解する	予習：テキストの「非典型担保、譲渡担保」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「非典型担保、譲渡担保」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第１４回	対面	譲渡担保、仮登記担保、所有権留保について理解する	予習：テキストの「譲渡担保、仮登記担保、所有権留保」に関する部分を事前に読み、レジュメで内容を確認しておいてください。 復習：テキストの「譲渡担保、仮登記担保、所有権留保」に関する部分と配布資料を読み直し、講義で得た知識の確認をしてください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	定期試験に向けたこれまでの総復習を行う	予習：テキストとレジュメでこれまで学修した内容の総復習を行ってください。 復習：第 15 回の授業で学修した総復習の内容について確認してください。	4 時間

科目名	債権総論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	金　亮完	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	債権総論（民法第３編債権・第１章総則：399 条～520 条の 27）に規定されている諸制度の基礎知識の修得		
授業の目的及び概要	・民法は、私たちの日常生活で生じる紛争を解決するための基本的なルールを定めたものであり、第１編総則・第２編物権・第３編債権・第４編親族・第５編相続の 5 つの編からなっている。講学上、総則・物権・債権を財産法、親族・相続を家族法（または親族法）と呼んでいる。債権総論と債権各論とに分類されている。 ・このうち債権とは、人（債権者）が人（債務者）に対して一定の行為をすること、またはしないことを請求できる権利を意味するが、この授業では、「債権総論」と呼ばれている「第３編債権・第１章総則」に規定されている諸制度の基礎知識の修得を目的とする。債権総論には、第３編債権の第２章契約・第３章事務管理・第４章不当利得・第５章不法行為（これらは債権の発生原因を定めたもので、「債権各論」と呼ばれている。）に共通して適用される規定が体系的にまとめられている。具体的には、発生した債権の効力、多数当事者の債権債務関係、債権譲渡・債務引受、債権の消滅という、いわば債権の一生が債権総論に規定されている。もっとも、債権総論の規定が一般的・抽象的であるため、初学者にとっては理解が難しい部分がある。 ・授業に際しては、具体的な事例を多く用いることによって受講生がイメージをつかみやすくするとともに、公務員採用試験や各種の資格試験の受験にも対応した内容とする予定である。		
履修条件・留意点	債権各論Ⅰを並行して受講することをつよく推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・債権総論に規定されている諸制度の概要、条文の文言及び専門用語の意味、他の制度との関連について理解し、説明することができる。 ・債権総論に関わる諸問題について、授業で学修した知識を活用し、妥当な結論を導くことができる。 ・論理的思考及び法律文章の読み方・書き方を理解し、自ら活用することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・定期試験については、授業支援システム（Learning Portal）に出題の意図、解答例、講評を掲載する。 ・授業の内容に関する質問はいつでも受け付け、回答する。よい質問については、質問者本人の承諾を得たうえで、次回の授業で紹介し、受講生全員の知識の定着を図る。 ・各回の授業の最後に行う小テストの解答は、次回の授業の冒頭で解説を行い、受講生の理解を深めるとともに知識の定着を図る。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	有斐閣ストゥディア民法４債権総論〔第２版〕，山本敬三監修，有斐閣，2024 年，2420 円	ISBN	978-4-641-15131-4
参考書	窪田充見・森田宏樹編，民法判例百選Ⅱ〔第９版〕，有斐閣，2023 年，2420 円	ISBN	978-4-641-11563-7

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス／序論 ・授業の進め方・成績評価方法 ・民法における債権法及び債権総論の位置づけと特徴 ・債権総論の受講上の留意点 ・債権と物権の違い	・事前学修　レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修　授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第２回	対面	債権の目的 ・特定物債権の意味・効果 ・種類債権・制限種類債権の意味・効果 ・金銭債権の特殊性 ・選択債権	・事前学修　レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修　授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第３回	対面	債権の効力ー債務者が契約を守らないときに債権者にできること⑴ ・債権の効力：債務・責任の意味 ・債務不履行の種類	・事前学修　レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修　授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第４回	対面	債権の効力ー債務者が契約を守らないときに債権者にできること⑵ ・履行の強制 ・損害賠償 ・契約の解除 ・債権者が契約を守らない？　受領遅滞の法的性質と効果	・事前学修　レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修　授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第５回	対面	責任財産の保全ー債権を回収するための債権者の防衛策⑴ ・債権者代位権①	・事前学修　レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合に	4 時間

			はそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修　授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	
第６回	対面	責任財産の保全ー債権を回収するための債権者の防衛策⑵ ・債権者代位権②	・事前学修　レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修　授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第７回	対面	責任財産の保全ー債権を回収するための債権者の防衛策⑶ ・詐害行為取消権①	・事前学修　レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修　授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第８回	対面	責任財産の保全ー債権を回収するための債権者の防衛策⑷ ・詐害行為取消権②	・事前学修　レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修　授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第９回	対面	債権の消滅⑴ ・弁済 ・代物弁済 ・供託	・事前学修　レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修　授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第１０回	対面	債権の消滅⑵ ・相殺 ・その他の債権の消滅原因：更改・免除・混同	・事前学修　レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。	4 時間

			・事後学修　授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	
第１１回	対面	多数当事者の債権債務関係⑴ー食事会の割り勘 ・分割（可分）債権・分割（可分）債務 ・連帯債権・連帯債務 ・不可分債権・不可分債務	・事前学修　レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修　授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第１２回	対面	多数当事者の債権債務関係⑵―保証人と連帯保証人の違い ・保証債務 ・連帯保証債務	・事前学修　レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修　授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第１３回	対面	債権譲渡／債務引受／契約上の地位の移転 ・債権譲渡 ・債務引受 ・契約上の地位の移転	・事前学修　レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修　授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第１４回	対面	有価証券 ・有価証券の種類 ・有価証券の権利行使方法	・事前学修　レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには 2 時間を要する。 ・事後学修　授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには 2 時間を要する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの学習の振り返り	・事前学修　これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理して授業時に教員に質問する。これには 2 時間を要する。 ・事後学修　これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。これには 2 時間を要する。	4 時間

科目名	債権総論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	手嶋　豊	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法典のうち、「債権総則」に該当する部分に関する基礎知識の習得。		
授業の目的及び概要	本授業では、民法典第３編「債権」の第１章「総則」（399 条～520 条の 20）を概説し、その基本的理解を得ることを目的とする。債権総論は、債権に共通する要素を汲み上げたもので抽象性が高く、難解な領域であるが、民法を理解する上で欠かせない。		
履修条件・留意点	この授業を受講した後は、債権総論Ⅱも受講することが望ましい。また、この授業債権総論Ⅰを受講せずに債権総論Ⅱを受講しても、十分な理解を得ることは難しいものと思われる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・債権総論に関して、条文・基本判例等の基礎的知識を習得すること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業内容に関する質問は、授業後、あるいはメールでも受け付ける。 ・定期試験については、実施後に簡単な講評を授業支援システム（Learning Portal）に掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	有斐閣ストゥディア民法４　債権総論（第２版），山本敬三監修・栗田昌裕・坂口甲・下村信江・吉永一行著，有斐閣，2024 年	ISBN	978-4-641-15131-4
参考書	民法判例 30！債権総論［増補版］、田高寛貴・白石大・山城一真、有斐閣、2023 年	ISBN	978-4-641-23319-5

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム（Learning Portal)に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・最新版の六法を持参すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業全体のオリエンテーション、 債権総論概説：債権の意義、債権と物権の違い、債権の目的	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第２回	対面	債務不履行①：債務不履行の意義・種類、履行の強制など	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。	4 時間

			事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3 時間。	
第３回	対面	債務不履行②：債務不履行による損害賠償、損害賠償の成立要件および免責事由	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。	4 時間
第４回	対面	債務不履行③：損害賠償と損害の意味、損害賠償の確定と損害の金銭的評価・特則	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3 時間。	4 時間
第５回	対面	責任財産の保全①～責任財産保全の制度、債権者代位権の意義・要件・行使と転用	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3 時間。	4 時間
第６回	対面	責任財産の保全②～詐害行為取消権：詐害行為取消権の意義・要件・行使方法・効果	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3 時間。	4 時間
第７回	対面	債権の消滅①～弁済①：弁済の意義、弁済の当事者、弁済の充当など	事前学修：テキスト該当頁を読み、説明が理解できないところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に理解できなかったことが残っていないかどうかを確認する。3 時間。	4 時間
第８回	対面	債権の消滅②―弁済②、弁済以外の債権消滅事由①：弁済による代位、代物弁済、供託、相殺の意義など	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3 時間。	4 時間
第９回	対面	債権の消滅③―弁済以外の債権の消滅事由②：相殺の要件・方法・効果など、受領遅滞	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3 時間。	4 時間
第１０回	対面	債権譲渡①：債権譲渡の意義・成立要件と対抗要件	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3 時間。	4 時間
第１１回	対面	債権譲渡②：債権譲渡と第三者、債権譲渡の効果、債務引受など	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3 時間。	4 時間
第１２回	対面	多数当事者の債権および債務、分割債権・分割債務、連帯債権・連帯債務、不可分債権・不可分債務	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3 時間。	4 時間
第１３回	対面	保証①：保証債務の意義・性質、保証債務の成立など	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかった	4 時間

			ところが残っていないかを確認する。3 時間。	
第１４回	対面	保証②：連帯保証、根保証	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、上記予習の際に読んだ部分を再読し、理解できなかったところが残っていないかを確認する。3 時間。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの学修の振り返り	事前学修：これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理する。2 時間。 事後学修：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。2 時間。	4 時間

科目名	債権総論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	手嶋　豊	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	債権総論（民法典第３編債権第１章総則）に関する知識の定着とその運用力の涵養		
授業の目的及び概要	・この授業は、債権総論Ⅰで学修した基礎知識を確実にすることを出発点に、債権総論に関わる諸問題に対して、妥当な法的解決を導きだすことのできる運用力を身につけることを目的とする。 ・授業においては、債権総論に関する判例を多数紹介し、各種試験における事例問題への対処の準備にも役立つ内容とする。		
履修条件・留意点	この授業は、債権総論Ⅰの上位科目であり、債権総論Ⅰを履修した学生が履修することを推奨する。債権総論Ⅱだけの履修は推奨しない。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・債権総論に規定されている諸制度の概要を理解し、適切に説明することができる。 ・債権総論に関わる法律問題について、妥当な結論を説得的に導くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業の内容に関する質問は授業後に、あるいはメールでも受け付ける。 ・定期テストについて、実施後に授業支援システム（Learning Portal）に出題の意図、講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	有斐閣ストゥディア民法４債権総論、山本敬三監修・栗田昌裕・坂口甲・下村信江・吉永 一行、有斐閣、2018 年	ISBN	9784641150577
参考書	民法３債権総論判例３０！〔増補版〕、田髙寛貴・白石大・山城一真、有斐閣、2023 年	ISBN	9784641233195

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム（Learning Portal）に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・債権総論の学修に際しては、民法総則や債権各論で学習する内容の理解が必要な場合もあるため、必要に応じて、関連する部分についても説明する。 ・授業には最新版の法学部指定六法を持参すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：授業の進め方・成績評価方法 債権総論Ⅰの振り返り	事前学修：第一回目は、全体に対するガイダンスが中心である。本科目の全体の内容を把握するとともに	4 時間

			疑問点があればチェックし、配布資料に目を通しておく。これには 1 時間を要する。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。これには 3 時間を要する。	
第２回	対面	債権の目的をめぐる諸問題	事前学修：事前配布のレジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3 時間。	4 時間
第３回	対面	債務不履行をめぐる諸問題①	事前学修：事前配布のレジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3 時間。	4 時間
第４回	対面	債務不履行をめぐる諸問題②	事前学修：事前配布のレジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3 時間。	4 時間
第５回	対面	債務不履行をめぐる諸問題③	事前学修：事前配布のレジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3 時間。	4 時間
第６回	対面	債権者代位権・詐害行為取消権をめぐる諸問題①	事前学修：事前配布のレジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3 時間。	4 時間
第７回	対面	債権者代位権・詐害行為取消権をめぐる諸問題②	事前学修：事前配布のレジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3 時間。	4 時間
第８回	対面	多数当事者の債権債務関係①	事前学修：事前配布のレジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3 時間。	4 時間
第９回	対面	多数当事者の債権債務関係②	事前学修：事前配布のレジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3 時間。	4 時間
第１０回	対面	債権の消滅①	事前学修：事前配布のレジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジュ	4 時間

			メ、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3 時間。	
第１１回	対面	債権の消滅②	事前学修：事前配布のレジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3 時間。	4 時間
第１２回	対面	債権の消滅③	事前学修：事前配布のレジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3 時間。	4 時間
第１３回	対面	債権譲渡・債務引受をめぐる問題①	事前学修：事前配布のレジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3 時間。	4 時間
第１４回	対面	債権譲渡・債務引受をめぐる問題②	事前学修：事前配布のレジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：授業で説明された内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認し、記憶すべき内容を整理する。3 時間。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの学修の振り返り	・事前学修　これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理する。２時間。 ・事後学修　これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。２時間。	4 時間

科目名	債権各論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	色川　豪一	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	一般に「債権各論」または「契約法」「不法行為法」と呼ばれる民法第 3 編第 2 章～第 5 章（521 条～724 条の 2）の内容をおおむね条文配列に沿って学習する。		
授業の目的及び概要	・債権各論の規定の意味内容と関連する判例・学説を把握し、主要論点に関する基本的・標準的な知識を習得する。同時に、具体的な紛争事例の背後にある社会経済的状況に留意できるようにする。 ・現行規定の問題点を把握し、解決の方向を考えることができるようにする。 ・授業に際しては、具体的な事例を多く用いることによって受講生がイメージをつかみやすくするとともに、公務員採用試験や各種の法律資格試験の受験にも対応した内容とする予定である。		
履修条件・留意点	民法は全体として密接に関連しているので、民法総則Ⅰ、物権法Ⅰ、債権総論Ⅰ、家族法Ⅰを併せて履修することを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1)債権各論の主要な条文・制度について基礎的な知識を習得する。 2)債権各論の主要論点に関する判例・学説を理解する。 3)債権各論に関わる法律問題について、授業で学修した知識を活用して考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・質問に対し次回の授業で回答することで受講生の間で知識の共有を図る。 ・提出された課題に対して次回の授業の冒頭でコメントし、受講生の理解を深めるとともに知識の定着を図る。 ・定期試験については、授業支援システム（Learning Portal）に出題の意図、解答例、講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	とくに指定しない。	ISBN	とくに指定しない。
参考書	窪田充見・森田宏樹編「民法判例百選Ⅱ〔第 9 版〕」（有斐閣、2023 年）	ISBN	978-4-641-11563-7

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	30
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・成績評価方法の詳細については初回の授業で説明する。なお、授業中の私語については厳しく減点対象とする。 ・授業資料の配布・小テストの受験・課題提出は授業支援システム（Learning Portal）を通じて行うので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。原則として紙資料は配布しない。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	受講にあたっての注意／債権各論序説	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第２回	対面	契約の成立	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第３回	対面	契約の効力（１）同時履行の抗弁権	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第４回	対面	契約の効力（２）危険負担	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第５回	対面	契約の解除（１）	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第６回	対面	契約の解除（２）	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第７回	対面	売買（１）	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第８回	対面	売買（２） 第１回から第８回までを出題範囲とする中間テスト　※授業の進行状況により日程が前後する場合がある。	事前学習①：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事前学習②：第１回から第７回までの授業内容を復習し、中間テストに備える。これには２時間を要する。 事後学修：中間テスト問題に再度取り組み、理解を深める。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	6 時間
第９回	対面	贈与	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを	4 時間

			整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	
第１０回	対面	賃貸借（１）	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１１回	対面	賃貸借（２）	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１２回	対面	不動産賃貸借と借地借家法	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１３回	対面	不法行為（１）	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１４回	対面	不法行為（２）	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１５回	オンデマンド	第１回から第１４回までの学修の振り返り（売買契約書のサンプルを用いた各条項の検討など）	事前学習：これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理して授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。 事後学修：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。これには２時間を要する。	４時間

科目名	債権各論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	手嶋　豊	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法典のうち、「債権各論」に該当する部分についての基礎知識の習得。		
授業の目的及び概要	本授業では、「債権各論」といわれる民法典第３編「債権」第２章～第５章（契約・事務管理・不当利得・不法行為）（521 条～724 条の 2）を概説し、その基本的理解を得ることを目的とする。規定の重要度に鑑み、契約・不法行為を中心として授業を行うが、債権各論全体を扱う。		
履修条件・留意点	本授業の履修者は、引続き債権各論Ⅱも受講することを推奨する。本授業を履修せずに債権各論Ⅱを受講することは推奨しない。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・債権各論に関する基礎知識を習得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業内容に関する質問は、授業後、またメールでも受け付ける。 ・定期テストについては、定期テスト実施後に、出題意図と簡単な講評を、授業支援システム（Learning Portal）に掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①有斐閣ストゥディア民法 5 契約、山本敬三監修・大澤彩・三枝健治・田中洋，有斐閣，2022 年 ②有斐閣ストゥディア民法 6 事務管理・不当利得・不法行為、山本敬三監修・中原太郎・根本尚徳・山本周平，有斐閣，2022 年	ISBN	①9784641150881 ②9784641150928
参考書	・民法判例 30！債権各論、中原太郎・幡野弘樹・丸山絵美子・吉永一行、有斐閣、2023 年	ISBN	9784641137290

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム(Learning Portal)に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・授業には最新版の六法を持参すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業全体のオリエンテーション 契約法の概観と契約の成立：契約の意義、契約自由の原則、契約の成立と拘束力	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキストを読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間

第２回	対面	契約の効力：同時履行の抗弁、危険負担、不安の抗弁、事情変更の法理	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキストを読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第３回	対面	解除：解除の意義、解除の要件、解除の効果	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキストを読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第４回	対面	財産移転型契約①～売買①：売買の意義・成立要件、売買の予約、手付	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキストを読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第５回	対面	財産移転型契約②～売買②、交換・贈与	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキストを読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第６回	対面	貸借型契約①～消費貸借：消費貸借の意義・成立要件・効果、賃貸借①ー賃貸借の意義・成立・効力など	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキストを読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第７回	対面	貸借型契約②～賃貸借②：賃貸借の存続期間と終了、礼金・敷金、賃借権の譲渡・転貸、使用貸借	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキストを読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第８回	対面	役務提供型契約①～請負の意義・仕事完成義務・契約不適合責任・完成物の所有権の帰属など	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキストを読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。	4.5 時間
第９回	対面	役務提供契約②～委任 その他の契約	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキストを読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第１０回	対面	不法行為の成立要件①：総論、故意・過失、権利・法益侵害	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキストを読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第１１回	対面	不法行為の要件②：損害・因果関係・責任阻却事由	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキストを読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第１２回	対面	不法行為の効果①：損害賠償の請求主体・範囲、損害の算定と賠償額の減額、金銭によらない救済	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキストを読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第１３回	対面	他人の行為についての責任、物の危険についての責任：監督義務者責任の意義・成立	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。	4 時間

		要件・効果、使用者責任の意義・要件・効果 土地工作物責任の意義・成立要件・効果、動物占有者責任の意義・成立要件・効果、製造物責任	事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキストを読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	
第１４回	対面	共同不法行為、事務管理、不当利得：共同不法行為の意義・要件・甲か、事務管理・不当利得の意義・要件・効果	事前学修：テキスト該当頁を読み、理解が難しいところを明確にしておく。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキストを読み返し、理解できなかったところがないかを確認する。3 時間。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの学修の振り返り	事前学修：これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理する。2 時間。 事後学修：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。2 時間。	4 時間

科目名	債権各論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	石尾　賢二	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	債権各論の基礎		
授業の目的及び概要	民法債権各論についての基礎的な学習。 民法財産法分野を概観した後、債権各論規定の意味、法的概念の意味と解釈問題について、教科書に基づき学習していく。 債権各論に関する基礎的知識を修得を目的とします。 債権各論には契約法、不当利得法、不法行為法が含まれるが、売買、賃貸借のような議論の多い問題があると共に物権法、債権総論の知識も必要となります。また、不当利得法は特に難解であり、不法行為法も重要な事例がたくさんあります。本講義では必要な基礎的な力を身に着けることを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 債権各論に関する基本的な概念、条文について説明することができる。 2. 債権各論に関する基本的な問題を正確に把握し、整理し、説明することができる。 3. 具体的な問題について適切に解決する能力を身につける。 4. 各種試験に必要な知識を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	内容に関する疑問点について、授業中、授業後の質問に対応します。 レポート、期末試験についてのポイントをラーニングポータルに記載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	池田真朗「民法債権各論」全訂３版、２０２５年、慶応義塾大学出版会	ISBN	ISBN-13 ： 978-4766430592
参考書	①民法判例百選Ⅱ　債権 第 9 版, 潮見　佳男・道垣内弘人, 有斐閣, 2023 年	ISBN	ISBN-13 ： 978-4641115637

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	六法は持参すること。 講義にあたって、教科書、事前に配布するレジュメはよく読んでおくこと。 講義で分からなかったことは、講義中、講義後に質問すること。 引き続き、債権各論Ⅱを受講し、知識を定着させること。 債権総論などの民法財産法分野とも連携して学習することが望ましい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	民法財産法における総則意思表示規定等との関係、債権総論との関係を概観しします。 契約の意義、私的自治の原則、契約自由の原則、契約締結上の過失、契約の成立。 レポート課題を出しますので、期限までに提出すること(レジュメに記載)。	テキスト 31 頁までを読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト 31 頁までを読み返すこと。	4 時間
第２回	対面	契約総論。契約の成立と効力。同時履行の抗弁、危険負担、不安の抗弁、事情変更の法理。	テキスト 32-45 頁を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト 32-45 頁を読み返すこと。	4 時間
第３回	対面	解除：解除の意義、解除の要件、解除の効果。	テキスト 46-59 頁を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト 46-59 頁を読み返すこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第４回	対面	贈与、売買。売買の意義、売買の成立要件、売買の予約、手付。	テキスト 67-86 頁を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト 67-86 頁を読み返すこと。	4 時間
第５回	対面	売買２：売主の効果、売主の義務、買主の義務、契約不適合責任。	テキスト 87-97 頁を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト 87-97 頁を読み返す。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第６回	対面	消費貸借：消費貸借の意義、諾成的消費貸借、消費貸借の成立要件、消費貸借の効果。	事前事後学習：事前学習として、テキスト 98-103 頁を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト 98-103 頁を読み返す。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第７回	対面	賃貸借１：賃貸借の意義、転貸借、賃貸借の成立要件、賃貸人の義務、賃借人の義務。	事前事後学習：事前学習として、テキスト 108-115 頁を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト 108-115 頁を読み返す。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第８回	対面	賃貸借２、使用貸借：賃貸借の終了、賃貸借と第三者、使用貸借の成立要件、使用貸借の効果。	事前事後学習:事前学習として、テキスト 104-107 頁、116-135 頁を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト 104-107 頁、116-135 頁を読み返す。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第９回	対面	雇用、請負、委任、寄託。	テキスト 136-157 頁を読む。レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第１０回	対面	不法行為法総論、不法行為の成立要件１：不法行為法の意義、故意・過失、権利・法益侵害(違法性)。 不法行為の成立要件 2：損害、因果関係、責任阻却事由。	事前事後学習：事前学習として、テキスト 209-215 頁を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト 209-215 頁を読み返す。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	不法行為の効果 1：損害賠償の意味、損害賠償の主体、損害賠償の範囲。 不法行為の効果 2：損害の算定、損害賠償額の減額。	事前事後学習：事前学習として、テキスト 215-221 頁を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト 215-221 頁を読み返すこと。 疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第１２回	対面	他人の行為についての責任：監督義務者責任の意義、監督義務者責任の成立要件および効果、使用者責任の意義、使用者責任の要件および効果。	事前学習として、テキスト 221-226 頁を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト 221-226 頁を読み返す。レジュメの当該部分を読んでおくこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	事務管理、不当利得：事務管理の意義、不当利得の意義。	事前事後学習：事前学習として、テキスト 185-197 頁を読む。事後学習として、「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト 185-197 頁を読み返す。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	不当利得。不当利得の多様な局面。	教科書 198-208 頁、レジュメの当該部分を読んでお	4 時間

			くこと。疑問点は質問などによってすぐに解決し、復習しておくこと。	
第１５回	オンデマンド	まとめ：定期試験に向けて、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。オンデマンド動画では、重要なポイントを改めて解説します。	オンデマンド動画を視聴した上で、当該箇所の「授業レジュメ」およびテキストを見返しておくこと。	4 時間

科目名	債権各論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	手嶋　豊	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	債権各論（民法典第三編債権第 2～5 章）に関する知識の定着とその運用力の涵養		
授業の目的及び概要	・この授業は、債権各論Ⅰで学修した基礎知識を確実にすることを出発点に、債権各論に関わる諸問題に対して、妥当な法的解決を導き出すことのできる、債権各論の運用力を身につけることを目的とする。 ・授業では、契約法・不法行為法を中心として講義する。その際、債権各論に関する判例を多数紹介し、各種試験における事例問題への対処の準備にも役立つ内容とする。		
履修条件・留意点	この授業は、債権各論Ⅰの上位科目であり、債権各論Ⅰの履修した学生の履修を推奨する。債権各論Ⅰを履修していない段階で本授業を履修することは推奨しない。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・債権各論に規定されている諸制度の概要を理解し、適切に説明することができる。 ・債権各論に関わる法律問題について、妥当な結論を説得的に導くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業の内容に関する質問は授業後に、あるいはメールなどでも質問を受け付ける。 ・定期試験について、実施後に授業支援システム（Learning Portal）に出題の意図、講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①有斐閣ストウディア民法 5 契約，山本敬三監修・大澤彩・三枝健治・田中洋，有斐閣，2022 年 ②有斐閣ストウディア民法 6 事務管理・不当利得・不法行為，山本敬三監修・中原太郎・根本尚徳・山本周平，有斐閣，2022 年	ISBN	①　9784641150881 ②　9784641150928
参考書	民法判例 30！債権各論、中原太郎・幡野弘樹・丸山絵美子・吉永一行、有斐閣、2023 年	ISBN	9784641137290

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム(Learning Portal)に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・授業には最新版の法学部指定六法を持参すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業全体のオリエンテーション 契約総論①～契約の成立･効力に関わる諸	事前学修：テキスト該当頁を読む。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキ	4 時間

		問題	スト該当部分を読み返す。3 時間。	
第２回	対面	契約総論②～解除	事前学修：テキスト該当頁を読む。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト該当部分を読み返す。3 時間。	4 時間
第３回	対面	財産移転型契約①～売買①	事前学修：テキスト該当頁を読む。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト該当部分を読み返す。3 時間。	4 時間
第４回	対面	財産移転型契約②～売買②	事前学修：テキスト該当頁読む。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト該当部分を読み返す。3 時間。	4 時間
第５回	対面	貸借型契約①～消費貸借・賃貸借①	事前学修：テキスト該当頁を読む。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト該当部分を読み返す。3 時間。	4 時間
第６回	対面	貸借型契約②～賃貸借②	事前学修：テキスト該当頁を読む。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト該当部分を読み返す。3 時間。	4 時間
第７回	対面	役務提供型契約①～請負	事前学修：テキスト該当頁を読む。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト該当部分を読み返す。3 時間。	4 時間
第８回	対面	役務提供契約②～委任 その他の契約	事前学修：テキスト該当頁を読む。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト該当部分を読み返す。3 時間。	4 時間
第９回	対面	不法行為の成立要件①	事前学修：テキスト該当頁を読む。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト該当部分を読み返す。3 時間。	4 時間
第１０回	対面	不法行為の成立要件②	事前学修：テキスト該当頁を読む。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト該当部分を読み返す。3 時間。	4 時間
第１１回	対面	不法行為の効果	事前学修：テキスト該当頁を読む。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト該当部分を読み返す。3 時間。	4 時間
第１２回	対面	特殊不法行為	事前学修：テキスト該当頁を読む。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト該当部分を読み返す。3 時間。	4 時間
第１３回	対面	不当利得①	事前学修：テキスト該当頁を読む。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト該当部分を読み返す。3 時間。	4 時間
第１４回	対面	不当利得②	事前学修：テキスト該当頁を読む。1 時間。 事後学修：「授業レジュメ」を見返すとともに、テキスト該当部分を読み返す。3 時間。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの学修の振り返り	事前学修：これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理する。2 時間。 事後学修：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。2 時間。	4 時間

科目名	家族法Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	色川　豪一	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	一般に「家族法」または「親族法」と呼ばれる民法第 4 編（725 条～881 条）の内容をおおむね条文配列に沿って学習する。		
授業の目的及び概要	・家族法の規定の意味内容と関連する判例・学説を把握し、主要論点に関する基本的・標準的な知識を習得する。同時に、具体的な紛争事例の背後にある現代家族をめぐる状況に留意できるようにする。さらに、現行規定の問題点を把握し、解決の方向を考えることができるようにする。 ・近年、家族法の分野では重要な法改正が続いている。改正の背景を踏まえたうえで新旧規定を比較しながら改正点を正確に理解できるようにする。 ・授業に際しては、具体的な事例を多く用いることによって受講生がイメージをつかみやすくするとともに、公務員採用試験や各種の法律資格試験の受験にも対応した内容とする予定である。		
履修条件・留意点	民法は全体として密接に関連しているので、民法総則Ⅰ、物権法Ⅰ、債権総論Ⅰ、債権各論Ⅰを併せて履修することを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1)家族法の規定の意味内容と関連する判例・学説を把握し、主要論点を理解する。 2)具体的な紛争事例の背後にある現代家族をめぐる状況に留意できる。 3)家族法に関わる法律問題について、授業で学修した知識を活用して考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・質問に対し次回の授業で回答することで受講生の間で知識の共有を図る。 ・提出された課題に対して次回の授業の冒頭でコメントし、受講生の理解を深めるとともに知識の定着を図る。 ・定期試験については、授業支援システム（Learning Portal）に出題の意図、解答例、講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	とくに指定しない。	ISBN	とくに指定しない。
参考書	大村敦志・沖野眞已編「民法判例百選Ⅲ〔第 3 版〕」（有斐閣、2023 年） 高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法 7 親族・相続〔第 8 版〕』（有斐閣アルマ、2025 年）	ISBN	978-4-641-11564-4 978-4-641-22261-8

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	30
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・成績評価方法の詳細については初回の授業で説明する。なお、授業中の私語については厳しく減点対象とする。

	・授業資料の配布・小テストの受験・課題提出は授業支援システム（Learning Portal）を通じて行うので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。原則として紙資料は配布しない。 ・家族に関しては個人的な経験や常識から判断しがちですが、多様な考え方や家族があることに留意しつつ受講してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	受講にあたっての注意／家族法序説	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第２回	対面	親族関係を表示するための用語	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第３回	対面	婚姻（１）婚姻の成立	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第４回	対面	婚姻（２）婚姻の効果	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第５回	対面	離婚（１）離婚の成立（１）離婚をめぐる状況／離婚の種類と手続	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第６回	対面	離婚（２）離婚の成立（２）有責配偶者の離婚請求	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第７回	対面	離婚（３）離婚の効果（１）子に関する効果	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第８回	対面	離婚（４）離婚の効果（２）財産に関する効果 第１回から第８回までを出題範囲とする中間テスト　※授業の進行状況により日程が前後する場合がある。	事前学習①：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事前学習②：第１回から第７回までの授業内容を復習し、中間テストに備える。これには２時間を要する。 事後学修：中間テスト問題に再度取り組み、理解を深	6 時間

			める。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	
第９回	対面	親子（１）嫡出推定・嫡出否認制度（１）	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１０回	対面	親子（２）嫡出推定・嫡出否認制度（２）	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１１回	対面	親子（３）認知	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１２回	対面	親子（４）生殖補助医療により生まれた子の親子関係	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１３回	対面	親権　親権の内容／親権の制限	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１４回	対面	扶養	事前学習：授業支援システム（Learning Portal）から授業資料からダウンロードし、事前に読んでおく。これには２時間を要する。 事後学修：授業資料を再読し、講義中にとったメモを整理・補足する。理解が不十分なところがあれば教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第１５回	オンデマンド	第１回から第１４回までの学修の振り返り	事前学習：これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理して授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。 事後学修：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。これには２時間を要する。	４時間

科目名	家族法Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	楊　歆可	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	親族法の基礎知識の修得		
授業の目的及び概要	本講義は、民法第 4 編「親族」に規定される法制度を学びながら、家族という基本的な社会単位と法律との関係についての理解を深めることを目的とする。夫婦や親子を中心とする親族関係に焦点を当て、民法第 4 編「親族」に定められた法制度および関連する法律（戸籍法、人事訴訟法、家事事件手続法など）の基本的な仕組みを具体的な事例を交えながら概説する。また、少子高齢化、晩婚化、生殖補助医療技術の進展といった現代的な課題が親族法にどのような影響を与えているのかを検討する。さらに、講義では最新の法改正や判例も取り上げ、現代社会における親族法の動向を学ぶ。		
履修条件・留意点	特になし		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・親族法の諸制度の基礎的知識を習得し、重要な判例や学説の内容を理解して説明できる能力を養う。 ・親族法に関する理論や判例を踏まえ、問題点を特定する力を身につけ、自らの意見を論理的に述べる能力を育む。 ・親族法が抱える現代的課題について、多角的な視点から考察し、解決策を模索する姿勢を育てる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・講義では、毎回小テストやレポートを通じて理解を深め、主体的な学習を促す。 ・配布資料やレジュメは、予習・復習に活用することを推奨する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	1. 高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『有斐閣アルマ 民法 7 親族・相続〔第 8 版〕』（有斐閣、2025） 2. 松川正毅『有斐閣アルマ　民法 親族・相続〔第８版〕』（有斐閣、2025）	ISBN	1. 978-4-641-22221-2 2. 978-4-641-22243-4
参考書	1. 大村敦志・沖野眞已編『民法判例百選Ⅲ〔第３版〕』（有斐閣、2023） 2. 前田陽一・本山敦・浦野由紀子『民法 Ⅵ 親族・相続〔第 8 版〕』（有斐閣、2025）	ISBN	1. 978-4-641-11564-4 2. 978-4-641-17961-5

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・小型の六法（デイリー六法（三省堂）、ポケット六法（有斐閣）など）の最新版を購入し、授業の際に持参すること。 ・授業で使用するレジュメは、事前に授業支援システム（Learning Portal）に掲載する。各自

	ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	第一回 ガイダンス ・講義の進め方、成績評価方法 ・家族法の概観	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第２回	対面	第二回　家族法総論 ・家族法の意義及び役割 ・氏名と戸籍 ・親族関係	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第３回	対面	第三回 婚姻の成立 ・婚姻の成立要件 ・婚姻の無効・取り消し	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	第四回　婚姻の効果 ・人格的効果 ・財産的効果	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第５回	対面	第五回　離婚の成立 ・離婚法の目的 ・離婚の方法	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第６回	対面	第六回　離婚の効果･身分関係:夫婦関係･姻族関係の終了 ・財産関係：財産分与	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第７回	対面	第七回　婚外関係とその保護 ・内縁、自由結合、同性カップル ・婚外関係の法的保護	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第８回	対面	第八回　実親子関係 I ・序 ・嫡出子	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第９回	対面	第九回　実親子関係 II ・嫡出でない子	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第１０回	対面	第十回　生殖補助医療と親子関係	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第１１回	対面	第十一回　養親子関係 I ・普通養子縁組	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第１２回	対面	第十二回　養親子関係 II ・特別養子縁組	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第１３回	対面	第十三回 親権 ・親権とは ・親権者 ・親権の喪失・停止	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第１４回	対面	第十四回 後見・扶養 ・未成年後見・成年後見・保佐・補助 ・扶養	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	第十五回 ・親族法全体の総復習	レジュメと教科書を用いて、親族法全体の総復習を行う。	4 時間

科目名	家族法Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	金　亮完	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	相続法（民法典第５編相続：882 条～1050 条）に規定されている諸制度の基礎知識の修得		
授業の目的及び概要	・民法は、私たちの日常生活で生じる紛争を解決するための基本的なルールを定めたものであり、第１編総則・第２編物権・第３編債権・第４編親族・第５編相続の５つの編からなっている。講学上、総則・物権・債権を財産法、親族・相続を家族法（または親族法）と呼んでいる。 ・この授業は、相続法と呼ばれる民法典第５編相続に規定されている諸制度の基礎知識の修得を目的とする。具体的には、死亡した被相続人の権利義務の移転の仕組み（相続と遺贈）について学修する。 ・被相続人の死後における財産上の権利義務の承継は、相続人間の公平および相続について利害関係を有する第三者を考慮しつつ、確実かつ安定的になされる必要があり、そこで緻密な解釈論が求められる。そのためには、相続法が用意している諸制度と制度相互の関係を正確に理解するとともに、判例の動向にも注意する必要がある。この講義を通じて、相続法にとどまらず、法律学の醍醐味である解釈論 の面白さに触れることを期待する。		
履修条件・留意点	・民法総則Ⅰ、物権法Ⅰ、債権総論Ⅰ、債権各論Ⅰ、家族法Ⅰを履修していることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・相続法に規定されている諸制度の概要、条文の文言及び専門用語の意味、他の制度との関連について理解し、説明することができる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・相続法に関わる法的紛争について、授業で学修した知識を活用し、妥当な結論を導くことができる。【ＤＰ２】 ・法律文章の読み方、書き方および法的思考法を理解し、自ら運用することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業の内容に関する質問はいつでも受け付ける。よい質問については、質問者本人の承諾を得たうえで、次回の授業で受講生と共有し、知識の定着を図る。 ・各回の授業の最後に行う小テストの解答は、次回の授業の冒頭で解説を行い、受講生の理解を深めるとともに知識の定着を図る。 ・定期試験については、授業支援システム（Learning Portal）に出題の意図、解答例、講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	山本敬三監修，有斐閣ストゥディア民法７家族，有斐閣，2023，2530 円	ISBN	978-4-641-15115-4
参考書	大村敦志・沖野眞已編，民法判例百選Ⅲ〔第 3 版〕，有斐閣，2023 年，2420 円	ISBN	978-4-641-11564-4

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	55
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・携帯用の六法は必携である。また、授業中の私語、授業とは無関係なスマホの使用は厳禁とする。違反者に対しては退室を命じるなど厳しく対応する。 ・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム（Learning Portal）に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・授業時にはノートをとること。ノートの取り方は授業時に必要に応じて説明する。 ・相続法の学修に際しては、民法の他の領域の知識が必要な場合がある。必要に応じて、関連する部分についても説明する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・ガイダンス：授業の進め方・成績評価方法 ・相続法序論：相続法の全体像・相続の仕組み	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第２回	対面	・相続人の範囲	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第３回	対面	・相続の承認（単純承認および限定承認）と放棄	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第４回	対面	・相続財産の範囲	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第５回	対面	・遺産共有（遺産分割が終了するまでの遺産をめぐる法律関係） ・遺産分割	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	４時間
第６回	対面	・指定相続分 ・具体的相続分（特別受益と寄与分がある	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば	４時間

		場合の相続分の算定方法） ・相続分の譲渡	整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	
第７回	対面	・中間テスト	・事前学修：第１回から第６回までの授業内容を復習し、中間テストに備える。これには４時間を要する。 ・事後学修：中間テスト問題に再度取り組むとともに理解を深める。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	6 時間
第８回	対面	・相続による物権変動と登記	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第９回	対面	・相続人が存在しない場合の処理 ・財産分離制度	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１０回	対面	・遺言の種類と要件 ・遺言の解釈方法 ・遺言書保管法	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１１回	対面	・遺贈の種類（特定遺贈と包括遺贈）と効果 ・特定財産承継遺言（特定の財産を特定の相続人に「相続させる」旨の遺言）の法的性質と効果	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１２回	対面	・遺留分と遺留分侵害額支払請求権①	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間

第１３回	対面	・遺留分と遺留分侵害額支払請求権②	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１４回	対面	・配偶者居住権と配偶者短期居住権制度 ・特別の寄与制度	・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメの小テストにも取り組む。配布資料がある場合にはそれにも目を通しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、小テストにも再度取り組む。理解が不十分なところがあれば、教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・相続法学修の振り返り ・定期試験対策	・事前学修：これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理して授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。 ・事後学修：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。これには２時間を要する。	4 時間

科目名	家族法Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	楊　歆可	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	相続法の基礎知識の修得		
授業の目的及び概要	本講義は、民法第 5 編「相続」に規定される制度の基本的な仕組みを学び、相続法が家族および社会において果たす役割と意義を理解することを目的とする。相続人、相続財産、遺言、遺留分などの法制度を具体的に解説し、配偶者居住権や相続財産管理制度、遺産分割などの近年の法改正も取り上げる。これらの法改正が現代社会の課題にどう対応しているかを考察し、事例や時事トピックを通じて実践的な理解を深める。		
履修条件・留意点	「家族法Ⅰ」の履修を推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・民法相続編に規定される法制度や規範について正確に理解し、相続法における主要な学説や判例の意義を把握する。 ・具体的な事例を通じて相続に関する問題点を特定し、法的な解決策を示す力を養う。 ・相続法が直面する現代的課題について多角的に考察し、自らの意見を論理的に展開できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・講義では、毎回小テストやレポートを通じて理解を深め、主体的な学習を促す。 ・配布資料やレジュメは、予習・復習に活用することを推奨する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	1. 高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『有斐閣アルマ 民法 7 親族・相続〔第 8 版〕』（有斐閣、2025） 2. 松川正毅『有斐閣アルマ 民法 親族・相続〔第８版〕』（有斐閣、2025）定価 2,860 円	ISBN	1. 978-4-641-22221-2 2. 978-4-641-22243-4
参考書	1. 大村敦志･沖野眞已編『民法判例百選 III〔第 3 版〕』(有斐閣、2023)定価 2,420 円 2. 前田陽一・本山敦・浦野由紀子『民法 VI 親族・相続〔第 8 版〕』（有斐閣、2025）定価 3,190 円	ISBN	1. 978-4-641-11564-4 2. 978-4-641-17961-5

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・小型の六法(デイリー六法(三省堂)、ポケット六法(有斐閣)など)の最新版を購入し、授業の際に持参すること。 ・授業で使用するレジュメは、事前に授業支援システム(Learning Portal)に掲載する。各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	第一回 ガイダンス ・講義の進め方、成績評価方法 ・相続序論	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第２回	対面	第二回　相続の開始 ・相続の開始 ・法定相続の流れ	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第３回	対面	第三回　相続人 ・相続人の範囲及び順位 ・相続人の資格喪失	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	第四回 相続の承認・放棄 ・相続の単純承認と限定承認 ・相続の放棄	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第５回	対面	第五回 相続の対象 ・相続財産に属しない財産 ・相続財産の範囲	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第６回	対面	第六回 相続分 ・相続分の意義 ・法定相続分と指定相続分 ・具体的相続分	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第７回	対面	第七回 遺産の共有と管理 ・遺産共有とは ・債権・債務の承継 ・相続財産の管理	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第８回	対面	第八回 遺産分割 ・遺産分割の方法 ・遺産分割の当事者と対象 ・遺産分割の実施と効力	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第９回	対面	第九回 配偶者居住権・相続回復請求権 ・配偶者居住権と配偶者短期居住権 ・相続回復請求権	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第１０回	対面	第十回 相続財産の清算 ・清算の必要性 ・限定承認における清算手続 ・財産分離 ・相続人の不存在	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第１１回	対面	第十一回 遺言 Ⅰ ・遺言とは ・遺言の方式・効力 ・特定財産承継遺言	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第１２回	対面	第十二回 遺言 II ・遺贈 ・遺言の執行	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第１３回	対面	第十三回　遺留分Ⅰ ・遺留分とは ・遺留分の確定	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第１４回	対面	第十四回　遺留分 II ・遺留分侵害額請求権	レジュメと教科書を用いて、前回講義の復習（2 時間）および講義の予習（2 時間）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	第十五回　総復習	レジュメと教科書を用いて、相続法全体の総復習を行う。	4 時間

科目名	民事訴訟法Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	坂上　文一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民事訴訟手続の流れと仕組みを学ぶ。		
授業の目的及び概要	授業の目的は、民事訴訟手続の全体の流れと仕組みを学び、その基本構造について理解することにある。 主として第一審の民事訴訟手続の流れに沿って、民事訴訟法の基本的な制度や概念等の意味内容について説明する講義を行う。 民事訴訟手続の初歩を学びたい皆さんを受講対象とします。		
履修条件・留意点	学修効果の観点から、民法科目を履修していること、一緒に履修することを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	民事訴訟手続全体の基本構造を正しく理解し、条文の文言や専門用語の意味について理解し、説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	対面授業の冒頭で、前回の授業内容の復習ポイントを確認する。 小テスト及び定期試験の出題趣旨、解説、講評等について、ポータルに掲載するなどの方法により開示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	コンパクト版　基礎からわかる民事訴訟法（第 2 版），和田吉弘，商事法務，2023 年	ISBN	978-4-7857-3019-2
参考書	授業中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって
法学部指定六法を必ず持参すること。 正当な理由のない遅刻、私語、授業とは無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とし、違反者に対しては厳しく対処する。 民事裁判の実務経験談を織り交ぜながら、難解で複雑といわれる民事訴訟手続の仕組みや民事訴訟法の概念等を出来る限り、正確に理解できるようかみ砕いて解説していきます。公務員への就職や企業法務に携わることを希望する受講生の皆さんにも役立つよう、近時の民事訴訟法改正内容（IT 化）についても触れる予定です。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	第１章　民事訴訟法全体の概観	【予習】テキスト（１頁から９頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】テキスト（１頁から９頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（１０頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	2 時間
第２回	対面	第２章　裁判所 第３章　訴えの提起	【予習】テキスト（１１頁から４１頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】テキスト（１１頁から４１頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（２０頁、４１頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第３回	対面	第４章　当事者	【予習】テキスト（４２頁から５０頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】テキスト（４２頁から５０頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（４９頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第４回	対面	第５章　訴訟要件 第６章　訴訟手続の進行	【予習】テキスト（５１頁から６３頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】テキスト（５１頁から６３頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（５６頁、６２頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第５回	対面	第７章　口頭弁論とその準備	【予習】テキスト（６４頁から７７頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】テキスト（６４頁から７７頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（７６頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第６回	対面	第８章　弁論主義 最後に小テスト問題を配布する。	【予習】テキスト（７８頁から８６頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】テキスト（７８頁から８６頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（８５頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。配布された小テスト問題に取り組む。理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	5 時間
第７回	対面	第９章　訴訟行為論	【予習】テキスト（８７頁から９５頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】テキスト（８７頁から９５頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（９４頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の	4 時間

			講義時に教員に質問する。	
第８回	対面	第１０章　訴訟法総説 冒頭、小テスト結果を返却し、その解説、講評を行う。	【予習】テキスト（９６頁から１１１頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】テキスト（９６頁から１１１頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（１１０頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。返却を受けた小テスト内容について、再度、知識を確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	5 時間
第９回	対面	第１１章　証拠調べ	【予習】テキスト（１１２頁から１２０頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】テキスト（１１２頁から１２０頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（１１９頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第１０回	対面	第１２章　裁判によらない訴訟の完結	【予習】テキスト（１２１頁から１３１頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】テキスト（１２１頁から１３１頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（１３１頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第１１回	対面	第１３章　裁判	【予習】テキスト（１３２頁から１５２頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】テキスト（１３２頁から１５２頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（１５１頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第１２回	対面	第１４章　請求の客観的複数	【予習】テキスト（１５３頁から１６４頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】テキスト（１５３頁から１６４頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（１６３頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第１３回	対面	第１５章　請求の主観的複数	【予習】テキスト（１６５頁から１８４頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】テキスト（１６５頁から１８４頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（１８４頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第１４回	対面	第１６章　上訴・再審 第１７章　その他（少額訴訟、督促手続など）	【予習】テキスト（１８５頁から２０１頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】テキスト（１８５頁から２０１頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（１９８頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。理解が不十分なところがあれば、次	4 時間

			回の講義時に教員に質問する。	
第１５回	オンデマンド	第１回から第１４回までの対面授業内容のまとめ・総復習	【予習】テキストや第１回から第１４回までの対面授業で配布されたレジュメを読み直し、理解できていない部分がないか確認する。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、その中で復習のポイントとして示唆された内容を中心に、再度確認し、定期試験に向けて、理解に努める。理解が不十分なところがあれば、アンケート欄を用いて、教員に質問する。	4 時間

科目名	民事訴訟法Ⅰ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	池田　健人	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民事訴訟手続の流れと仕組みを学ぶ。		
授業の目的及び概要	授業の目的は、民事訴訟手続の全体の流れと仕組みを学び、その基本構造について理解することにある。 主として第一審の民事訴訟手続の流れに沿って、民事訴訟法の基本的な制度や概念等の意味内容について説明する講義を行う。 民事訴訟手続の初歩を学びたい皆さんを受講対象とします。		
履修条件・留意点	民法総則、物権法、債権総論及び債権各論に関する科目を履修していることが望ましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	民事訴訟手続全体の基本構造を正しく理解し、条文に則して説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	対面授業の冒頭で、前回の授業内容の復習ポイントを確認する。 定期試験の出題趣旨、解説、講評等について、ポータルに掲載するなどの方法により開示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	コンパクト版　基礎からわかる民事訴訟法（第 2 版），和田吉弘，商事法務，2023 年 なお、対面授業出席の際には、近時民訴法の改正があったため、その改正後の記載がある 2023 年度（最新）版の六法を持参すること。	ISBN	978-4-7857-3019-2
参考書	授業中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	
	民事裁判の実務経験談を織り交ぜながら、難解で複雑といわれる民事訴訟手続の仕組みや民事訴訟法の概念等を出来る限り、正確に理解できるようかみ砕いて解説していきます。公務員への就職や企業法務に携わることを希望する受講生の皆さんにも役立つよう、近時の民事訴訟法改正内容（IT 化）についても触れる予定です。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	第１章　民事訴訟法全体の概観	【予習】テキスト（１頁から９頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（１頁から９頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認す	2 時間

			る。テキスト（１０頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	
第２回	対面	第２章　裁判所 第３章　訴えの提起	【予習】テキスト（１１頁から４１頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（１１頁から４１頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（２０頁、４１頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	第４章　当事者	【予習】テキスト（４２頁から５０頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（４２頁から５０頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（４９頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	第５章　訴訟要件 第６章　訴訟手続の進行	【予習】テキスト（５１頁から６３頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（５１頁から６３頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（５６頁、６２頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	第７章　口頭弁論とその準備	【予習】テキスト（６４頁から７７頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（６４頁から７７頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（７６頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	第８章　弁論主義	【予習】テキスト（７８頁から８６頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（７８頁から８６頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（８５頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	5 時間
第７回	対面	第９章　訴訟行為論	【予習】テキスト（８７頁から９５頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（８７頁から９５頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（９４頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	第１０章　訴訟法総説	【予習】テキスト（９６頁から１１１頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（９６頁から１１１頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（１１０頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	5 時間
第９回	対面	第１１章　証拠調べ	【予習】テキスト（１１２頁から１２０頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（１１２頁から１２０頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（１１９頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	第１２章　裁判によらない訴訟の完結	【予習】テキスト（１２１頁から１３１頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（１２１頁から１３１頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（１３１頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	第１３章　裁判	【予習】テキスト（１３２頁から１５２頁まで）を読	4 時間

			み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（１３２頁から１５２頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（１５１頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	
第１２回	対面	第１４章　請求の客観的複数	【予習】テキスト（１５３頁から１６４頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（１５３頁から１６４頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（１６３頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	４時間
第１３回	対面	第１５章　請求の主観的複数	【予習】テキスト（１６５頁から１８４頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（１６５頁から１８４頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（１８４頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	４時間
第１４回	対面	第１６章　上訴・再審 第１７章　その他（少額訴訟、督促手続など）	【予習】テキスト（１８５頁から２０１頁まで）を読み、引用されている条文内容を六法で確認する。 【復習】テキスト（１８５頁から２０１頁まで）と授業で配布されたレジュメを参照し、授業内容を再度、確認する。テキスト（１９８頁）の確認問題を解いて、知識を確認する。	４時間
第１５回	オンデマンド	第１回から第１４回までの対面授業内容のまとめ・総復習	【予習】テキストや第１回から第１４回までの対面授業で配布されたレジュメを読み直し、理解できていない部分がないか確認する。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、その中で復習のポイントとして示唆された内容を中心に、再度確認し、定期試験に向けて、理解に努める。	４時間

科目名	民事訴訟法Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	坂上　文一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民事訴訟法に関する基礎知識を習得した上で、具体的な事例問題を解決する応用力（思考力）、それを表現する論証力を養う。		
授業の目的及び概要	授業の目的は、民事訴訟手続の仕組みや基本構造について意味内容を理解した上で、民事訴訟法の基本的な論点や判例等について正しく理解し、その基礎知識を身につけた上で、実践的な事例問題を分析し、論証、答案作成に関する応用力（思考力）を養うことにある。 民事訴訟法Ⅰで履修済の内容である基本的な制度や概念等を復習、確認した上で、法科大学院や資格試験合格を目指す受講生の皆さんを念頭において、民事訴訟法の基本的な論点や判例等に即した事例問題について解説する講義を行う。 民事裁判と法＜民事訴訟法Ⅰ＞の授業内容は、理解済であることを前提として、主要な論点に関する裁判例や論証方法に関する説明を含め、論述問題の解説を行うなど、進行速度は速く、内容が濃いものになるので、しっかり予習・復習を心がけることが出来る皆さんを受講対象とします。		
履修条件・留意点	学修効果の観点から、民法総則Ⅰ、物権法Ⅰ、債権総論Ⅰ、債権各論Ⅰ及び民事訴訟法Ⅰをいずれも履修し、単位を取得していることを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	民事訴訟手続全体の仕組みと基本構造を正しく理解し、条文の文言や専門用語の意味に則して、具体例を挙げながら説明することができる。 民事訴訟法の基本的な論点や判例等について正確に理解し、事例を挙げながら説明することができる。 法科大学院・司法試験予備試験・司法書士試験などの受験に必要となる基礎知識、具体的な事例問題を分析し、答案作成する能力を習得し、自ら運用することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	対面授業の冒頭で、前回の授業内容の復習ポイントを確認する。 論述問題及び定期試験の出題趣旨、解説、講評等について、ポータルに掲載するなどの方法により開示する。 提出がされた論述問題の答案などについては、事後、添削などした上で、返却し、必要に応じて、説明補充（指導）を行う予定である。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	コンパクト版　基礎からわかる民事訴訟法（第 2 版），和田吉弘，商事法務，2023 年	ISBN	978-4-7857-3019-2
参考書	授業中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60

	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	法学部指定六法を必ず持参すること。 正当な理由のない遅刻、私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とし、違反者に対しては厳しく対応する。 なお、民事訴訟法Ⅰの単位を取得していない者で、特に、履修を希望する場合には、事前に、担当教員宛（f-sakagami@s.keiho-u.ac.jp）メールで打診、許可を得た上で、履修選択してください。 授業前半（第１回から第８回まで）においては、基礎知識（定義、制度趣旨を含む。）の確認、復習に重点を置き、授業後半（第９回から第１４回まで）においては、法科大学院や資格試験合格を目指す受講生の皆さんを念頭においた、重要で基本的な分野の論点や判例等を取り上げた具体的な事例問題の解説を行います。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	第１章　民事訴訟法全体の概観 第２章　裁判所 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ内容（教科書の該当範囲を含む）、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	2 時間
第２回	対面	第３章　訴えの提起 第４章　当事者 第５章　訴訟要件 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ内容（教科書の該当範囲を含む）、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第３回	対面	第６章　訴訟手続の進行 第７章　口頭弁論とその準備 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ内容（教科書の該当範囲を含む）、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第４回	対面	第８章　弁論主義 第９章　訴訟行為論 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ内容（教科書の該当範囲を含む）、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第５回	対面	第１０章　証拠法総説 第１１章　証拠調べ 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ内容（教科書の該当範囲を含む）、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第６回	対面	第１２章　裁判によらない訴訟の完結	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレ	4 時間

		第１３章　裁判 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	ジュメ内容（教科書の該当範囲を含む）、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	
第7回	対面	第１４章　請求の客観的複数 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ内容（教科書の該当範囲を含む）、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第8回	対面	第１５章　請求の主観的複数 第１６章　上訴・再審 第１７章　その他（少額訴訟・督促手続など） 上記分野の復習、補充、基本判例、論点等の確認	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ内容（教科書の該当範囲を含む）、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	5 時間
第9回	対面	事例問題検討１　　処分権主義（民事訴訟法２４６条）と一部請求	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ内容（教科書の該当範囲を含む）、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第１０回	対面	事例問題検討２　弁論主義	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ内容（教科書の該当範囲を含む）、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	5 時間
第１１回	対面	事例問題検討３　既判力の客観的範囲と時的限界	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ内容（教科書の該当範囲を含む）、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第１２回	対面	事例問題検討４　既判力の主観的範囲	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ内容（教科書の該当範囲を含む）、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第１３回	対面	事例問題検討５　訴えの追加的変更・交換的変更	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ内容（教科書の該当範囲を含む）、関連裁判例	4 時間

			を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	
第１４回	対面	事例問題検討６　必要的共同訴訟・補助参加・訴訟承継	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ内容（教科書の該当範囲を含む）、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	４時間
第１５回	オンデマンド	総復習講義	事前学修：第１回から第１４回対面授業で配布されたレジュメ等を読み直し、今までに解説した論文問題の答案作成・答案構成を再度行って、理解できていない部分を確認しておく。 事後学修：オンデマンド動画を視聴し、総復習のポイント、論文問題の解説内容について再確認するとともに、定期試験に向けて、理解に努める。理解が不十分なところがあれば、アンケート欄を利用して、教員に質問する。	４時間

科目名	民事執行・保全法	開講年度	2026 年度春学期
担当者	坂上　文一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民事執行手続及び民事保全手続の流れと基本構造を学ぶ。		
授業の目的及び概要	この授業の目的は、民事執行手続と民事保全手続の仕組みを学び、その全体構造を理解して、社会に出た時に役立つ基礎知識を身につけることにある。 授業の前半（第１回から第９回まで）では、民事執行手続について、その全体を概観した上で、主に、金銭債権を回収するために債務者所有の財産を差し押さえる方法（不動産執行、動産執行、債権執行など）について、体系的にその仕組みを説明し、その他の執行手続やこれら手続に対する不服申立の方法などについても説明する。 授業の後半（第１０回から第１３回まで）では、民事保全手続について、その全体を概観した上で、その種類（仮差押、係争物に関する仮処分、仮の地位を定める仮処分）毎にその仕組みを説明する。		
履修条件・留意点	学修効果の観点から、民事訴訟法Ⅰを履修していること、または、一緒に履修することを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	民事訴訟で勝訴判決等（債務名義）を得ても、債務者（被告）が債務を任意に履行してくれない場合、債権者（原告）としては、どのような民事（強制）執行手続を採るべきか。また、民事（強制）執行手続を採るまでの間、暫定的に自己の権利を保全するためには、どのような民事保全手続を採るべきか。その選択が自分で出来る程度に、民事執行・保全法の概要、条文の文言や専門用語の意味を理解し、説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	対面授業の冒頭で、前回の授業内容の復習ポイントを確認する。 小テスト及び定期試験の出題趣旨、解説、講評等について、ポータル等に掲載するなどの方法により開示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	基礎からわかる民事執行法・民事保全法【第３版】, 和田吉弘, 弘文堂, 2021 年	ISBN	9784335356629
参考書	授業中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	法学部指定六法を必ず持参すること。 正当な理由のない遅刻、私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とし、

	違反者に対しては厳しく対応する。 民事執行法や民事保全法の分野は、民事訴訟法と同様に、初学者にとって、基本書を読んだだけでは、実際のイメージが湧きにくく、理解しにくい分野であると思われます。しかしながら、社会人となったときに、取引相手が任意に債務を履行してくれない場面や履行してくれないことが予想される場面に遭遇することは少なくなく、そのような場面においてどのような手続をとればよいのか、民事執行事件や民事保全事件を実際に担当した裁判官としての実務経験談も織り込みながら、説明していきます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	第１章　民事執行法の概観	【予習】テキスト（１頁から１１頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認して、全体の内容を把握するとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストと講義で使用したレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。レジュメに掲載した確認問題を解いて、知識の確認、復習を行い、理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	2 時間
第２回	対面	第２章第１節から第６節まで 強制執行の意義、種類、債務名義、執行文、執行機関、執行開始要件	【予習】テキスト（１２頁から６２頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認して、全体の内容を把握するとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストと講義で使用したレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。レジュメに掲載した確認問題を解いて、知識の確認、復習を行い、理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第３回	対面	第３章第１節第１項、第２項１、２ 金銭執行の序説、不動産執行（強制競売）	【予習】テキスト（８６頁から１３２頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認して、全体の内容を把握するとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストと講義で使用したレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。レジュメに掲載した確認問題を解いて、知識の確認、復習を行い、理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第４回	対面	第３章第１節第２項３、第３項 不動産執行（強制管理）、船舶執行	【予習】テキスト（１３３頁から１３７頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認して、全体の内容を把握するとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストと講義で使用したレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。レジュメに掲載した確認問題を解いて、知識の確認、復習を行い、理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第５回	対面	第３章第３項、第４項 動産執行	【予習】テキスト（１３８頁から１４６頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認して、全体の内容を把握するとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストと講義で使用したレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。レジュメに掲載した確認問題を解いて、知識の確認、復習を行い、理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第６回	対面	第３章第５項 債権執行（扶養義務等に係る金銭債権につ	【予習】テキスト（１４７頁から１７５頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認して、全体の	4 時間

		いての強制執行の特例）	内容を把握するとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストと講義で使用したレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。レジュメに掲載した確認問題を解いて、知識の確認、復習を行い、理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	
第７回	対面	第３章第２節 非金銭執行（不動産の引渡し等の強制執行、子の引渡しの強制執行など）	【予習】テキスト（１７６頁から１８９頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認して、全体の内容を把握するとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストと講義で使用したレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。レジュメに掲載した確認問題を解いて、知識の確認、復習を行い、理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	４時間
第８回	対面	第４章　担保権の実行としての競売等 第５章　債務者の財産状況の調査 最後に小テスト問題を配布する。	【予習】テキスト（１９０頁から２１６頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認して、全体の内容を把握するとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストと講義で使用したレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。レジュメに掲載した確認問題及び配布した小テストを解いて、知識の確認、復習を行い、理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	５時間
第９回	対面	第２章第３節、第４節２、３、第７節から第１０節、第３章第１節第２項１（４）ウ（ウ）、（５）ウ、エ、第４章２（２） 民事執行手続に対する不服申立て方法 請求異議の訴え、執行文の付与等に関する異議の申立て、執行文付与の訴え、執行文付与に対する異議の訴え、強制執行の停止、執行異議、執行抗告、第三者異議の訴え、違法執行と不当執行、配当異議など 冒頭、小テスト結果を返却し、その解説、講評を行う。	【予習】テキスト（２７頁から３９頁、４２頁から５５頁、６３頁から８５頁、１１６頁から１１７頁、１２８頁から１３２頁、１９２頁から１９４頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認して、全体の内容を把握するとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストと講義で使用したレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。レジュメに掲載した確認問題及び返却された小テストを解いて、知識の確認、復習を行い、理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	５時間
第１０回	対面	第６章第１節　民事保全の序説	【予習】テキスト（２１７頁から２２８頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認して、全体の内容を把握するとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストと講義で使用したレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。レジュメに掲載した確認問題を解いて、知識の確認、復習を行い、理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	４時間
第１１回	対面	第６章第２節、第３節　保全命令手続、保全執行手続（１） 仮差押え（金銭債権の保全方法）	【予習】テキスト（２２９頁から２４９頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認して、全体の内容を把握するとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストと講義で使用したレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。レジュメに掲載した確認問題を解いて、知識の確認、復習を行い、理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	４時間
第１２回	対面	第６章第２節、第３節　保全命令手続、保全執行手続（２） 係争物に関する仮処分（特定物に対する給	【予習】テキスト（２５０頁から２５７頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認して、全体の内容を把握するとともに、疑問点があれば整理し、講	４時間

		付請求権の保全方法）	義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストと講義で使用したレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。レジュメに掲載した確認問題を解いて、知識の確認、復習を行い、理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	
第１３回	対面	第６章第２節、第３節　保全命令手続、保全執行手続（３） 仮の地位を定める仮処分	【予習】テキスト（２５８頁から２６０頁まで）を通読し、引用されている条文を六法で確認して、全体の内容を把握するとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストと講義で使用したレジュメの内容を再度、読み直し、その内容の理解に努める。レジュメに掲載した確認問題を解いて、知識の確認、復習を行い、理解が不十分なところがあれば、次回の講義時に教員に質問する。	4 時間
第１４回	対面	総復習講義（対面授業編）	【予習】第１回から第１３回の対面授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、理解できていない部分がないか確認する。 【復習】復習のポイントとして示唆された内容を中心として、再度確認し、定期試験に向けて、民事執行・保全手続の基本知識の理解に努める。また、レジュメに掲載した確認問題を解いて、知識の確認、復習を行い、理解が不十分なところがあれば、アンケート欄を利用して、教員に質問する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総復習講義（オンデマンド編）	【予習】第１回から第１３回の対面授業で配布されたレジュメの内容を再度、読み直し、理解できていない部分がないか確認する。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、復習のポイントとして示唆された内容を中心として、再度確認し、定期試験に向けて、民事執行・保全手続の基本知識の理解に努める。また、レジュメに掲載した確認問題を解いて、知識の確認、復習を行い、理解が不十分なところがあれば、アンケート欄を利用して、教員に質問する。	4 時間

科目名	倒産処理法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	坂上　文一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	倒産処理（主に破産や民事再生）手続の流れと基本構造を学ぶ。		
授業の目的及び概要	授業の目的は、債務超過となり支払不能となった場合における倒産処理手続、主に破産法及び民事再生法に基づく手続の全体像を学び、社会に出たときに役立つ基本知識を習得することにある。 まず、個人と法人とに分けて、倒産処理手続としてどのようなメニューが用意されているか、これらの長所、短所を説明した上で、民法、会社法をはじめとした平常時の取引ルール（民事実体法による規律）が、倒産処理時においてどのような変容が加えられ、これに基づき、どのように手続処理されるのかにつき解説する講義を行う。		
履修条件・留意点	学修効果の観点から、民法総則Ⅰ、物権法Ⅰ、債権総論Ⅰ及び債権各論Ⅰをいずれも履修していること、または、一緒に履修することを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	個人と法人を区別して、我が国で用意されている倒産処理手続の長所と短所を理解し、事案に応じた適切な方法を検討することができる。 民法、会社法をはじめとした平常時の取引ルール（民事実体法の規律）が倒産時にどのように変容された内容となるか理解し、説明することができる。 破産法及び民事再生法に基づく手続及び制度の仕組みを理解し、その違いを説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	対面授業の冒頭で、前回授業内容の復習ポイントを確認する。 小テスト及び定期試験の出題趣旨、解説や講評等について、ポータルに掲示するなどの方法により開示する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	有斐閣ストゥディア　倒産法第２版, 倉部真由美ほか, 有斐閣, 2025 年	ISBN	9784641151345
参考書	授業中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	法学部指定六法を必ず持参すること。 正当な理由のない遅刻、私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とし、違反者に対しては厳しく対応する。

	倒産手続の全体像の理解を促すことを重視しながら、民法や会社法との相違に留意した講義を行います。 破産事件や民事再生事件を実際に担当した裁判官としての実務経験談を織り交ぜながら、実務上問題となっている点についても触れる予定です。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	第１編　CHAPTER　１ 倒産法とは	【予習】テキスト（２頁から１９頁まで）を通読し、記述されている用語の説明として、後掲頁が引用されている場合には、当該部分も確認しておくとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努め、理解が不十分なところがあれば、次回、講義時に教員に質問する。	3 時間
第２回	対面	第１編　CHAPTER　２及び３ 裁判所で行われる倒産手続、私的整理等	【予習】テキスト（２０頁から５６頁まで）を通読し、記述されている用語の説明として、後掲頁が引用されている場合は、当該部分も確認しておくとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努め、理解が不十分なところがあれば、次回、講義時に教員に質問する。	3 時間
第３回	対面	第２編　CHAPTER　１及び２ 破産手続の開始、破産管財人と破産財団	【予習】テキスト（５７頁から７３頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておくとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努め、理解が不十分なところがあれば、次回、講義時に教員に質問する。	4 時間
第４回	対面	第２編　CHAPTER　３及び４ 破産債権、破産と契約関係	【予習】テキスト（７４頁から１０１頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておくとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努め、理解が不十分なところがあれば、次回、講義時に教員に質問する。	4 時間
第５回	対面	第２編　CHAPTER　５及び６ 担保権、相殺権	【予習】テキスト（１０２頁から１２５頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておくとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努め、理解が不十分なところがあれば、次回、講義時に教員に質問する。	4 時間
第６回	対面	第２編　CHAPTER　７ 否認権 最後に小テスト問題を配布する。	【予習】テキスト（１２６頁から１４４頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておくとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努め、理解が不十分なところがあれば、次回、講義時に教員に質問する。また、配布された小テストを解いて、次回、講義時に教員に提出する。	5 時間

第７回	対面	第２編　CHAPTER　８ 破産財団の管理・換価・配当と手続の終了	【予習】テキスト（１４５頁から１５６頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておくとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努め、理解が不十分なところがあれば、次回、講義時に教員に質問する。	４時間
第８回	対面	第２編　CHAPTER　９ 個人破産と免責 冒頭、小テスト結果を返却し、その解説、講評を行う。	【予習】テキスト（１５７頁から１６８頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておくとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努めるとともに、返却を受けた小テスト内容について、再度確認して、その理解に努め、理解が不十分なところがあれば、次回、講義時に教員に質問する。	４時間
第９回	対面	第３編　CHAPTER　１ 民事再生手続の概要	【予習】テキスト（１６９頁から１８１頁まで）を通読し、記述されている用語の説明として、後掲頁が引用されている場合は、当該部分を確認しておくとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努め、理解が不十分なところがあれば、次回、講義時に教員に質問する。	４時間
第１０回	対面	第３編　CHAPTER　２ （民事再生手続における）機関	【予習】テキスト（１８２頁から１９４頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておくとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努め、理解が不十分なところがあれば、次回、講義時に教員に質問する。	４時間
第１１回	対面	第３編　CHAPTER　３ 再生債権	【予習】テキスト（１９５頁から２０６頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておくとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努め、理解が不十分なところがあれば、次回、講義時に教員に質問する。	４時間
第１２回	対面	第３編　CHAPTER　４ 再生債務者財産の増減	【予習】テキスト（２０７頁から２１９頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておくとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努め、理解が不十分なところがあれば、次回、講義時に教員に質問する。	４時間
第１３回	対面	第３編　CHAPTER　５及び７ 再生計画の作成から履行まで、会社更生との違い	【予習】テキスト（２２０頁から２３８頁まで、２５３頁から２６０頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておくとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努め、理解が不十分なところがあれば、次回、講義時に教員に質問す	４時間

			る。	
第１４回	対面	第３編　CHAPTER　６ 個人再生手続（小規模個人再生、給与所得者再生）	【予習】テキスト（２３９頁から２５２頁まで）を通読し、引用されている条文の内容を六法で確認しておくとともに、疑問点があれば整理し、講義時に教員に質問する。 【復習】上記テキストの内容と授業で配布したレジュメ等を読み返し、その内容の理解に努め、理解が不十分なところがあれば、アンケート欄を利用して教員に質問する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ・総復習講義	【予習】テキストと授業で配布されたレジュメ等を読み直し、理解できていない部分がないか確認する。 【復習】オンデマンドの動画を視聴した上で、復習ポイントとして示唆された点を中心として、再度確認し、定期試験に向けて、その理解に努める。理解が不十分なところがあれば、アンケート欄を利用して教員に質問する。	4 時間

科目名	不動産法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石尾　賢二	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	不動産取引等不動産に関する様々な法規制に関する基礎知識の習得。		
授業の目的及び概要	不動産法規制に関する知識の習得を目的とします。 民法規定として、物権法規定、利用権規定、請負規定、抵当権規定等があり、特別法として借地借家法、農地法があります。 行政法規定として、国土利用計画法、都市計画法など多数の法律があります。 多数の法規制の中で所有利用に関する主たる法律の内容を理解することを目的とします。 不動産に関する資格の取得に利することを目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主要な不動産法規制の意義・目的・内容を説明することができる。 不動産取引・担保の意義を説明することができる。 不動産利用の意義を説明することができる。 不動産に関する公的規制の意義を説明することができる。 宅建士試験に対応する基本知識を習得する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	レジュメ、授業について、疑問点が生じた場合にはその場で質問する、あとで質問するなど、すぐに解決するように。 こちらも積極的に対応します。 レポート、期末試験についてのポイントをラーニングポータルに記載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。レジュメを中心に進めます。六法は必ず持参してください。不動産についての法律を総合的にみるためには例えば宅建の各種テキストが参考になります。	ISBN	テキストは指定しません.
参考書	各種民法の教科書(特に物権法)、各種宅建士に関する書籍。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	民法科目、特に物権法Ⅰ、Ⅱの授業を受けていることが望ましい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	土地建物について。宅建業法と不動産取引制度。民法、行政法など不動産法制度概観。所有者不明土地に関する制度も見. ます。	事前に配布されたレジュメを中心に予習・復習してください。	4 時間
第２回	対面	不動登記制度創設経緯と内容。	事前に配布された不動産登記についてのレジュメを中心に予習・復習をしてください。	4 時間
第３回	対面	不動産物権変動問題 1。変動原因の範囲の問題を中心に説明します。	事前に配布されたレジュメの物権変動の箇所を中心に予習・復習し、また、物権法の授業を復習しておくこと。	4 時間
第４回	対面	不動産物権変動問題 2。第三者の範囲の問題を中心に説明します。	事前に配布されたレジュメの物権変動の箇所を中心に予習・復習し、また、物権法の授業を復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	不動産取引と損害賠償額についての判例。不動産価格について説明します。	事前に配布されたレジュメの不動産取引の箇所を中心に予習・復習し、債権法の授業も復習しておくこと。	4 時間
第６回	対面	不動産取引における担保責任の問題、特に土壌汚染問題について説明します。品確法も見ます。	事前に配布されたレジュメを不動産取引の箇所を中心に予習・復習し、債権法の授業も復習しておくこと。	4 時間
第７回	対面	区分所有法について説明します。	事前に配布されたレジュメの区分所有法の箇所を中心に予習・復習をしておくこと。	4 時間
第８回	対面	不動産担保制度、非典型担保について説明します。	事前に配布されたレジュメの不動産担保法の箇所を中心に予習・復習し、物権法の授業も復習しておくこと。	4 時間
第９回	対面	抵当制度、担保法改正について説明します。	事前に配布されたレジュメの不動産担保法の箇所を中心に予習・復習し、物権法の授業も復習しておくこと。	4 時間
第１０回	対面	相隣関係、地上権と賃借権について説明します。	事前に配布されたレジュメの不動産利用権の箇所を中心に予習・復習し、物権法の授業も復習しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	借地借家、農地制度について説明します。	事前に配布されたレジュメの不動産利用権の箇所を中心に予習・復習し、物権法の授業も復習しておくこと。	4 時間
第１２回	対面	建築請負契約について説明します。	事前に配布されたレジュメの建築請負契約の箇所を中心に予習・復習し、債権各論の授業も復習しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	行政規制概観する。国土利用計画法、都市計画法等を中心に説明します。	事前に配布されたレジュメの不動産の行政規制の箇所を中心に予習・復習をしておくこと。	4 時間
第１４回	対面	景観権、日照権の問題を説明します。	事前に配布されたレジュメの不動産の行政規制の箇所を中心に予習・復習し、不法行為法の授業も復習しておくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	土地制度史を説明する。期末試験について説明します。	事前に配布されたレジュメの土地制度史の箇所を中心に予習・復習をしておくこと。 説明に基づいて期末試験対策を行います。	4 時間

科目名	国際私法	開講年度	2026 年度春学期
担当者	堂山　健	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	海外との取引などで問題となる国際私法を学ぶ		
授業の目的及び概要	国際私法とは、国境を越え、または国籍の異なる私人間の法律関係に係る法分野である。人や企業の国際的な移動・取引が活発な現代社会において、国際私法の役割は極めて重要である。本講義では、国際私法の基本理念等を理解した上で、準拠法選択の枠組みを学習し、主な論点についての体系的な理解を身につけることを目的とする。		
履修条件・留意点	・学修効果の観点から、民法を履修していること／一緒に履修することをつよく推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際私法の概要、条文の文言や専門用語の意味について理解し、説明することができる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・国境を超えた取引等に関わる法律問題について、授業で学修した知識を活かし、妥当な結論を導くことができる。【ＤＰ２】 ・法律文章の読み方、書き方および法的思考法を理解し、自ら運用することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各種課題を出した場合は、原則次回の授業までに採点して返却し、解説を行う。 講義及びその他についてコメントがあれば、随時受け付ける。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	国際私法入門 第 9 版，澤木敬郎・道垣内正人，有斐閣，2024 年	ISBN	978-4-641-11285-8
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって
・法学部指定六法を必ず持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器（ＰＣやスマホなど）の使用は厳禁。違反者に対しては厳しく対応する。 （ただし、PC はノート等のために必要な限度で利用することは認める。）

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	国際私法とは何か（第１章）	教科書指定部分　第１章 1～11 頁 ・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り	4 時間

			組む。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。 （事前学修、事後学修については、以下同じ）	
第２回	対面	国際私法総論：準拠法の決定・適用プロセス（第 2 章）	第 2 章 13～20 頁	4 時間
第３回	対面	準拠法の決定①―先決問題等	第 2 章 20～26 頁	4 時間
第４回	対面	準拠法の決定②―連結点・法律関係の把握	第 2 章 26～34 頁	4 時間
第５回	対面	準拠法の特定―反致・不統一法国	第 2 章 34～46 頁	4 時間
第６回	対面	準拠法の適用―外国法の扱い・公序	第 2 章 47～58 頁	4 時間
第７回	対面	家族生活と国際私法①―婚姻・離婚（第 3 章）	第 3 章 59～94 頁	4 時間
第８回	対面	家族生活と国際私法②―親子・扶養・相続	第 3 章 94～130 頁	4 時間
第９回	対面	国際取引と国際私法①―当事者・契約（第 4 章）	第 4 章 131～200 頁	4 時間
第１０回	対面	国際取引と国際私法②―不法行為・債権	第 4 章 200～228 頁	4 時間
第１１回	対面	国際取引と国際私法③―物権・知的財産権	第 4 章 228～237 頁	4 時間
第１２回	対面	国際民事手続法①―国際裁判管轄（第 5 章）	第 5 章 239～325 頁	4 時間
第１３回	対面	国際民事手続法②―外国判決の承認・執行	第 5 章 325～344 頁	4 時間
第１４回	対面	国際仲裁・ADR	第 5 章 344～391 頁	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括・まとめ	全章の要点整理（1～391 頁）	4 時間

科目名	国際私法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	魯　暁寒	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	国際私法入門		
授業の目的及び概要	国際私法とは、国際民事紛争、すなわち国境をまたがる私人間の法的関係をめぐって生じた紛争を規律する法のことです。例えば、ドイツ人男性とアメリカ人女性が、日本で出会って婚姻し、その後韓国で婚姻生活を開始したということであれば、このような婚姻に関して生じる民事紛争は、明らかに国際民事紛争に該当します。 このような国際民事紛争の解決にあたっては、何らかの基準によって適用すべき法を決定し、それを適用して紛争を解決するという手法は、日本を含む多くの国で採用されています。そして、国際民事紛争に適用される法は「準拠法」と呼ばれます。このような手法を採用する場合、国際私法の中心的な課題は、ある国際民事紛争について、いかなる国の法を準拠法として選択するか、という点にあります。 本講義では、国際私法に関する基礎知識を習得することを目的とし、具体的には以下の内容を扱います。 （１）　国際私法の意義と基本理念 （２）　準拠法選択の枠組み （３）　国際財産関係（契約・法定債権・物権・知的財産権） （４）　国際家族関係（婚姻・離婚・親子・相続）		
履修条件・留意点	「民法総則Ⅰ」と「民法総則Ⅱ」を履修済みか履修中であることが望ましいです。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本講義を通じて、以下のようなスキルを習得することを目指します。 （１）国際私法の基本理念と考え方を理解すること （２）国際民事紛争解決の枠組みを理解すること （３）具体的な渉外民事紛争事案の解決について基本的な対応ができるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各種課題や小テストについては、原則として次回の授業までに採点して返却し、解説を行います。 講義及びその他についてコメントがあれば、出席登録の際に「コメント」欄へ記入してください。当該コメントについても次回授業までに解説します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①多田望＝長田真里＝村上愛＝申美穂『国際私法［第 2 版］』（有斐閣ストゥディア、2024 年） ② 神前禎『プレップ国際私法』（弘文堂、2015 年）	ISBN	① 9784641151208 ② 9784335313219
参考書	中西康＝北澤安紀＝横溝大＝林貴美『国際私法〔第 3 版〕』（有斐閣，2022 年）	ISBN	①978-4-641-17949-3

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	国際私法は、その内容が抽象的であり、また、権利義務関係の紛争を直接的に、あるいは「実質的」に解決するものではありません。しかし、世界各地の人々が安心して交流できる国際社会の構築において重要な役割を担っています。内外国法を平等的に扱い、各民族・各国の文化を尊重することは、国際私法を学ぶ上で不可欠であり、グローバルな活動を行う上でも重要な前提の一つとなります。学生のみなさんにも、この点をぜひ意識していただければ幸いです。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	イントロダクション:「国際私法って何？」	【予習内容】シラバスと、教科書②の第 I 章（2-17 頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(1 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(1 時間)	2 時間
第２回	オンデマンド	国際私法の特徴と基本理念： 「間接規範」、「暗闇への跳躍」、「内外国法の平等」、「国内法」	【予習内容】教科書②の第 II 章（18-33 頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(1 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(1 時間)	2 時間
第３回	オンデマンド	準拠法選択の仕組み(1)： 法律関係からのアプローチと法規からのアプローチ	【予習内容】事前配布資料と、教科書①の第 1 章（6-15 頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(1 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(1 時間)	2 時間
第４回	オンデマンド	準拠法選択の仕組み(2)： 「本国法」、「不統一法国の法」、「反致」	【予習内容】教科書①の第 2 章 1~3（17-27 頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(1 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(1 時間)	2 時間
第５回	オンデマンド	準拠法選択の仕組み(3)：「公序」	【予習内容】事前配布資料と、教科書①の第 2 章 4 (28-32 頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(1 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(1 時間)	2 時間
第６回	オンデマンド	国際家族関係(1)：婚姻・離婚	【予習内容】教科書①の第 3 章（33-54 頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(1 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(1 時間)	2 時間
第７回	オンデマンド	国際家族関係(2)：親子関係	【予習内容】教科書①の第 4 章（55-74 頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(1 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(1 時間)	2 時間
第８回	オンデマンド	国際家族関係(3)： 国境を越えた子の連れ去り	【予習内容】教科書①の第 5 章（75-82 頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(1 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(1 時間)	2 時間
第９回	オンデマンド	国際家族関係(4)：相続・遺言	【予習内容】教科書①の第 6 章（83-90 頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(1 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(1 時間)	2 時間
第１０回	オンデマンド	国際財産関係(1)：契約	【予習内容】教科書①の第 7 章 1~2（91-103 頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(1 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(1 時間)	2 時間
第１１回	オンデ	国際財産関係(2)：経済的弱者保護	【予習内容】教科書①の第 7 章 3~4（104-122 頁）を	2 時間

	マンド		授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(1 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(1 時間)	
第１２回	オンデマンド	国際財産関係(3)：不法行為	【予習内容】教科書①の第 8 章（123-142 頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(1 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(1 時間)	2 時間
第１３回	オンデマンド	国際財産関係(4)：物権・知的財産権	【予習内容】事前配布資料と、教科書①の第 9 章（143-151 頁）および教科書②の 291 頁を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(1 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(1 時間)	2 時間
第１４回	オンデマンド	人の能力と法人の従属法	【予習内容】教科書①の第 10 章、第 11 章（152-184 頁）を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(1 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(1 時間)	2 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの内容の総復習（定期試験対策）	【予習内容】事前配布資料を授業前に読んで、疑問点などを確認しておくこと。(1 時間) 【復習内容】配布資料と教科書の該当箇所を熟読し、講義で得た知識を深めること。(1 時間)	2 時間

科目名	知的財産法Ⅰ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	土　井　典子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	特許法、実用新案法に関する基本的な考え方・知識		
授業の目的及び概要	（目的）特許法、実用新案法の基本的な考え方、知識を身に付けることを目的とします。 （概要）特許法、実用新案法の概観、法体系の学習により、知的財産法に関する基本的指標としての特許法の理解を進めます。		
履修条件・留意点	知的財産法全体像の把握のためには、併せて知的財産法Ⅱで意匠法、商標法、著作権法、不正競争防止法を履修することを推奨しますが、必須ではありません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	特許法及び実用新案法の基礎知識、概要を理解し、具体的に説明、論述することが出来る。		
資格・検定			

試験への対応			
フィードバックの方法	課題、疑問点については、授業中に解説及び講評を行い、レポート等提出物についても同様に、授業、ラーニングポータル等で、受講者の共通疑問点や誤解について共有します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	毎回の授業において、レジュメを配布致します。予習、復習用の指定テキストは、「2024年度知的財産権制度入門テキスト（主に第２章第１節特許制度の概要：P12～P54）」を特許庁ホームページからダウンロードして使用してください。	ISBN	ISBN なし。（毎回の授業で配布するレジュメと 2024 年度知的財産権制度入門テキスト「第２章第１節　特許制度の概要」（P12～P54）により学習するため） https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2024_nyumon/all.pdf
参考書	特許判例百選（第6版），別冊	ISBN	9784641213463

	ジュリスト 275号，有斐閣, 2025年上記以外にも、知的財産関連の書籍は多く出版されているので、図書館等も活用し興味のあるものを選んでください。また、知的財産はインターネット、ニュース等でもしばしば取り上げられているので、アンテナを立てて情報を収集し、学習に役立てて下さい。 また、適宜、良い参考書、資料等があれば授業の中で紹介します。		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口	0	

	頭・実技）	
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	知的財産は様々な方面と関連し話題に上ることが多いですが、内容を正確に把握している人は意外に少なく、実際に学習してみると誤解していた部分が多かったことに気付かされます。AI（人工知能）、UX（ユーザーエクスペリエンス）等、近時のトピックスには必ず知的財産が密接に関わってきます。是非、興味を持って学習してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	知的財産法入門及び特許法１ 知的財産法の全体的な概観を、各法の共通点や相違点による分類により、点と線と面から具体的なイメージとして学習します。特許法の目的及び知的財産における特許の位置付け等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 9～11 ページ、12～13 ページ）	（予習）指定テキスト 9～11 ページ、12～13 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる知的財産法の入門書を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキスト 9～11 ページ、12～13 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第２回	対面	特許法２ 特許の保護対象である発明及び発明のカテゴリーについて学習します。 （レジュメ、指定テキスト 12～20 ページ）	（予習） 指定テキスト 12～20 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 12～20 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が	4 時間

			重要です。	
第３回	対面	特許法３ 特許の登録要件（積極的登録要件、消極的登録要件）について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 16～24 ページ）	（予習） 指定テキスト 16～24 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 16～24 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第４回	対面	特許法４ 特許出願から登録までの流れにおける審査請求制度、出願の効果について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 31～32 ページ、及び 40～48 ページ）	（予習） 指定テキスト 31～32 ページ、及び 40～48 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 31～32 ページ、及び 40～48 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度)　検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第５回	対面	特許法５ 特許出願から登録までの流れにおける補正、出願分割等、出願者の取り得る手続きについて学習します。 （レジュメ、指定テキスト 37～43 ページ）	（予習） 指定テキスト 37～43 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 37～43 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第６回	対面	特許法６ 特許出願から登録までの流れにおける優先権主張を伴う出願、出願変更、新規性喪失の例外等の手続きについて学習します。 （レジュメ、指定テキスト 16～17 ページ、及び 38～40 ページ）	（予習） 指定テキスト 16～17 ページ、及び 38～40 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 16～17 ページ、及び 38～40 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度)　検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第７回	対面	特許法７ 特許出願から登録までの流れにおける特許査定、拒絶査定後の手続き、拒絶査定不服審判について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 45～47 ページ、及び 53～54 ページ）	（予習） 指定テキスト 45～47 ページ、及び 53～54 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、特許法に関する書籍を読んだり、インターネ	4 時間

			ットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 45～47 ページ、及び 53～54 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度)　検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	
第８回	対面	特許法８ 職務発明制度と職務発明に関する判例について考察し反転学習をします。 （レジュメ、指定テキスト 27～30 ページ）	（予習） 指定テキスト指定テキスト 27～30 ページ、及び職務発明に関する判例（予め事件番号等告知）を事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(3 時間程度)　その他、自分が興味を持てる職務発明に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 27～30 ページ、及び職務発明に関する判例を読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度)　検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	5 時間
第９回	対面	特許法９ 特許権の効力と権利の存続期間について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 24～26 ページ、及び 51～53 ページ）	（予習） 指定テキスト指定テキスト 24～26 ページ、及び 51～53 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度）その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 24～26 ページ、及び 51～53 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第１０回	対面	特許法 10 特許権の譲渡と利用（ライセンス）について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 145～148 ページ）	（予習） 指定テキスト 145～148 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキスト 145～148 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第１１回	対面	特許法 11 特許権の侵害と救済について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 154～160 ページ）	（予習） 指定テキスト 154～160 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 154～160 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が	

			重要です。	
第１２回	対面	特許法 12 特許法における審判制度について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 161～164 ページ）	（予習） 指定テキスト 161～164 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる特許法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 161～164 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第１３回	対面	特許法 13 審決取り消し訴訟ならびに審決取り消し訴訟に関する判例について学習します。 （レジュメ参照）	（予習） 審決取消訴訟に関する判例（予め事件番号等告知）を事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(3 時間程度)　その他、自分が興味を持てる審決取り消し訴訟に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び審決取消訴訟に関する判例を読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度)　検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	5 時間
第１４回	対面	実用新案法ならびにトレードシークレット（営業秘密） 実用新案法入門、実用新案の概要等について学習します。 また、特許を補完する知的財産として、「オープン＆クローズド戦略」に不可欠なトレードシークレット（営業秘密）について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 255～262 ページ、及び 18～22 ページ）	（予習） 指定テキスト 55～60 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる実用新案法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） レジュメ及び指定テキストの 55～60 ページを読み直し、講義で得た知識を確認した上で、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第１５回	オンデマンド	知的財産法Ⅰ総まとめ 第１回目～第１４回目の授業の復習、各法の要点の整理ならびに定期試験についてのガイダンスを行います。 受講後、確認小テストをします。 （各回レジュメ、指定テキスト 12～60 ページ、及び 145 ページ～164 ページ）	（予習） 各回レジュメ及び指定テキスト 12～60 ページ、及び 145 ページ～164 ページを事前に読み、これまでの授業内容を振り返りながら、各回でのキーワードのまとめ（修正済）を整理して下さい。(3 時間程度) 特許庁ホームページ等インターネットを活用して調べることも有効です。 （復習） 各回レジュメ及び指定テキストの 12～60 ページ、及び 145 ページ～164 ページを読み直し、講義で得た知識を確認した上で、定期試験（論述試験）準備のための手書きノートを作成しましょう。(3 時間程度)	6 時間

科目名	知的財産法Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	土　井　典子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	商標法、意匠法、著作権法、不正競争防止法に関する基本的な考え方・知識		
授業の目的及び概要	（目的）商標法、意匠法、著作権法、不正競争防止法の基本的な考え方、知識を身に付けることを目的とします。 （概要）商標法、意匠法、著作権法、不正競争防止法の概観、法体系の比較学習により多面的理解を進めます。		
履修条件・留意点	知的財産法全体像の把握のためには、併せて知的財産法Ⅰで特許法、実用新案法を履修することを推奨しますが、必須ではありません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	商標法、意匠法、著作権法及び不正競争防止法の全体構造を、高度で多面的な視点から説明することができる。 知的財産技能管理検定等、知的財産に関する検定試験に必要な基礎知識の水準に到達する。		
資格・検定			

試験への対応			
フィードバックの方法	課題、疑問点については、授業中に解説及び講評を行い、レポート等提出物についても同様に、授業、ラーニングポータル等で、受講者の共通疑問点や誤解について共有します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	毎回の授業において、レジュメを配布致します。予習、復習用の指定テキストは、「2024年度知的財産権制度入門テキスト（主に第２章第３節意匠制度の概要：P61～P75、第４節商標制度の概要：P76～P101）」を特許庁ホームページから、「令和６年度版著作権テ	ISBN	ISBN なし。（毎回の授業で配布するレジュメと 2024 年度知的財産権制度入門テキスト「第２章第３節　意匠制度の概要、第４節　商標制度の概要」、令和６年度版　著作権テキスト及び 2025 年９度改訂　不正競争防止法テキストより学習するため） https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2024_nyumon/all.pdf https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/textboo

	キスト（P1～P111）」を文化庁ホームページから、及び「2025年9度改訂不正競争防止法テキスト（P1～P33）」を経済産業省ホームページからダウンロードして使用してください。		
参考書	①意匠・商標・不正競争判例百選（第２版），別冊ジュリスト 248号，有斐閣，2020年 ②著作権判例百選（第7版），別冊ジュリスト272号，有斐閣，2025年 知的財産関連の書籍は多く出版されているので、図書館等も活用し興味のあるものを選んでください。また、知的財産はインターネット、ニュース等でもしばしば取り上げられているので、アンテナを立てて	ISBN	①9784641115484 ②9784641213432

	情報を収集し、学習に役立てて下さい。		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	40	
	その他（%）	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	知的財産は様々な方面と関連し話題に上ることが多いですが、内容を正確に把握している人は意外に少なく、実際に学習してみると誤解していた部分が多かったことに気付かされます。AI（人工知能）、UX（ユーザーエクスペリエンス）等、近時のトピックスには必ず知的財産が密接に関わってきます。是非、興味を持って学習してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	知的財産法入門及び商標法１ 知的財産法の全体的な概観を、各法の共通	（予習） 指定テキスト 9～11 ページ、及び 76～81 ページを事	4 時間

		点や相違点による分類により、点と線と面から具体的なイメージとして学習します。 商標法入門、商標の概要等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 9～11 ページ及び 76～81 ページ）	前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる知的財産法の入門書を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキスト 9～11 ページ、及び 76～81 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	
第２回	対面	商標法 2 商標の使用概念、商標の登録要件等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 82～89 ページ及び 98 ページ）	（予習） 指定テキスト 82～89 ページ及び 98 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる商標法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 82～89 ページ及び 98 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第３回	対面	商標法 3 様々な商標制度、団体商標、地域団体商標等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 95～97 ページ及び 101 ページ）	（予習） 指定テキスト 95～97 ページ及び 101 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる商標法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 95～97 ページ及び 101 ページ読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第４回	対面	商標法 4 商標権の効力、ライセンスを含む使用権等について学習します。(レジュメ、指定テキスト 94、99～100 ページ)	（予習） 指定テキスト 94、99～100 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる商標法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 94、99～100 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第５回	対面	意匠法 1 意匠法入門、意匠の概要等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 61～65 ページ）	（予習） 指定テキスト 61～65 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる意匠法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習）	4 時間

			配布レジュメ及び指定テキストの 61～65 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	
第６回	対面	意匠法 2 意匠権、意匠の類比等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 63～65 ページ及び 71 ページ）	（予習） 指定テキスト 63～65 ページ及び 71 ページ事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる意匠法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 63～65 ページ及び 71 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第７回	対面	意匠法 3 意匠法に特有な問題、制度等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 72～75 ページ）	（予習） 指定テキスト 72～75 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる意匠法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 72～75 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第８回	対面	まとめ 1：商標法および意匠法 商標法および意匠法全体を通したまとめ、判例、現代的課題について考察と反転学習をします。 （レジュメ、指定テキスト 61～75 ページ、及び 76～101 ページ）	（予習） 指定テキスト 61～75 ページ、及び 76～101 ページを事前に読み、キーワードのまとめ（修正済）の内容を確認しましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる商標法、意匠法に関する判例を、判例百選、最高裁ホームページ、インターネットを活用して調べて下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 61～75 ページ、76～101 ページ、及び学習した判例を読み直し、講義で得た知識を確認しながら商標法と意匠法の内容をまとめましょう。(3 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	5 時間
第９回	対面	著作権法 1 著作権法入門、著作権の概要等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 5～9 ページ）	（予習） 指定テキスト 5～9 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる著作権法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 5～9 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間

第１０回	対面	著作権法 2 財産権と人格権からなる支分権、権利の制限規定等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 10～22 ページ）	（予習） 指定テキスト 10～22 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる著作権法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 10～22 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第１１回	対面	著作権法 3 著作隣接権、権利侵害等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 23～37 ページ）	（予習） 指定テキスト 23～37 ページ事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる著作権法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 23～37 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第１２回	対面	不正競争防止法 1 不正競争防止法入門、不正競争防止法の概要等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 6～20 ページ、及び 32～51 ページ）	（予習） 指定テキスト 6～20 ページ、及び 32～51 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる不正競争防止法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 6～20 ページ、及び 32～51 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第１３回	対面	不正競争防止法 2 不正競争行為類型である営業秘密、不正競争防止法の適用除外等について学習します。 （レジュメ、指定テキスト 21～31 ページ）	（予習） 指定テキスト 21～31 ページを事前に読み、キーワードと思われる箇所について、自分の言葉で簡単に文章にまとめましょう。(2 時間程度) その他、自分が興味を持てる不正競争防止法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） 配布レジュメ及び指定テキストの 21～31 ページを読み直し、講義で得た知識を確認しながら、予習のキーワードのまとめを修正しましょう。(2 時間程度) 検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	4 時間
第１４回	対面	まとめ 2：著作権法および不正競争防止法 著作権法および不正競争防止法全体を通したまとめ、判例、現代的課題について学習します。	（予習） 指定テキスト 5～37 ページ及び 6～51 ページを事前に読み、キーワードのまとめ（修正済）の内容を確認しましょう。(2 時間程度)	5 時間

		（レジュメ、指定テキスト 5～37 ページ及び 6～51 ページ）	その他、自分が興味を持てる著作権法、不正競争防止法に関する書籍を読んだり、インターネットでの検索を行って下さい。 （復習） レジュメ及び指定テキストの 5～37 ページ、6～51 ページ、及び学習した判例を読み直し、講義で得た知識を確認しながら著作権法と不正競争防止法の内容をまとめましょう。(3 時間程度)　検定等の資格試験を視野に入れる場合、特に復習が重要です。	
第１５回	オンデマンド	知的財産法Ⅱ総まとめ 第１回目～第１４回目の授業の復習、各法の要点の整理ならびに定期試験についてのガイダンスを行います。 受講後、確認小テストをします。 （各回レジュメ、指定テキスト 61～101 ページ、5～37 ページ及び 6～51 ページ）	（予習） 指定テキスト 61～101 ページ、5～37 ページ及び 6～51 ページを読み、これまでの授業内容を振り返りながら、各回でのキーワードのまとめ（修正済）を整理して下さい。(3 時間程度) 特許庁ホームページ、文化庁ホームページ等インターネットを活用して調べることも有効です。 （復習） レジュメ及び指定テキストの 61～101 ページ、5～37 ページ及び 6～51 ページを読み直し、講義で得た知識を確認した上で、定期試験（論述試験）準備のための手書きノートを作成しましょう。(3 時間程度)	6 時間

科目名	ビジネス法務	開講年度	2026 年度春学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	ビジネスにかかわる法律（民法、商法、会社法、経済法等）の横断的学習		
授業の目的及び概要	本講義は、企業等に就職した後に求められる基本的な法律知識を修得することを目的とする。 近年、企業における不祥事が多発し、従業員はもとより取引先や株主に対して大きな影響を及ぼしており、これまで以上にコンプライアンス（法令等遵守）が強く求められている。 このような状況において、法務部門に関わる者だけでなく、企業に関わる者すべてが基本的な法律知識を修得していることが重要となっている。 そこで、ビジネス実務法務検定３級の範囲を順次学習することにより、ビジネスパーソンに必要な基礎的な法律知識の修得を目的に講義を進める。 講義形式および講義予定については、下記の「履修条件・留意点」を十分確認すること。		
履修条件・留意点	この講義は、ビジネス実務法務検定試験との関連が強く、履修者には同試験の受験を強く推奨し、成績の評価に加える。 したがって、ビジネス実務法務検定試験に合わせるため、講義を週 2 回実施し、春学期の前半（8 週で１５回授業）に講義を集中させる「クォーター開講」となる。 週に２回の講義のうち、１回は対面で、もう１回はオンデマンドで実施する。ただし、時間割の都合、対面回およびオンデマンド回は、それぞれ別々の流れで講義は進行する。 つまり、下記授業計画のうち、第１回から第７回までの内容は「対面講義」で、第８回から第１４回までの内容は「オンデマンド講義」で実施し、最終第１５回は、対面講義で実施する。 また、第１６回目を対面で実施し、試験を実施する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を通じて学生には、ビジネス実務法務についての基本的な法律知識を理解し、ビジネス実務法務検定３級の合格レベルに到達するようになることが期待される。また、ビジネスにかかわる法律の機能、役割、相互の関係について理解し、法知識を実務において活用できるようになることが求められる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストを実施した場合には、採点したうえで返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ビジネス実務法務検定試験３級公式テキスト（2026 年度版），東京商工会議所編，中央経済社，　2026 年	ISBN	978-4502571411
参考書	授業中に適宜指示する。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	法律の細かな知識より、全体像を理解することを目指す。一方、資格検定も意識することで、学んだ達成感を得ることを目指す。また、関連する民法・商法・会社法・労働法・独占禁止法・

	知的財産法なども積極的に履修することが望ましい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	１．ガイダンス：講義の進行方法・評価方法の説明。ビジネスと法律の関わり、コンプライアンス。	予習：教科書の目次を概観しておくこと 復習：授業で配布したレジュメを見直すこと。	2.5 時間
第２回	対面	２．企業活動に関わる法律の基礎知識：近代私法の基本原則、財産権	予習：教科書 p.1～38 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第３回	対面	３．企業取引の法務（１）ー契約ー：契約の成立	予習：教科書 p.39～77 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第４回	対面	４．企業取引の法務（２）ー契約成立後の法律関係ー：債務不履行責任・担保責任・危険負担	予習：教科書 p.78～98 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第５回	対面	５．企業取引の法務（３）ー売買以外の契約ー：賃貸借契約・消費貸借契約・請負契約・委任契約・寄託契約	予習：教科書 p.99～123 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第６回	対面	６．ビジネス文章の保存・管理、契約によらない債権・債務の発生：ビジネス文書・契約書、不法行為・不当利得・事務管理	予習：教科書 p.124～166 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第７回	対面	７．企業財産の管理：固定資産・流動資産の管理と法律、知的財産権	予習：教科書 p.167～204 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第８回	オンデマンド	８.企業活動に関する法規制:独占禁止法・消費者保護法・特定商取引法・製造物責任法	予習：教科書 p.206～250 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第９回	オンデマンド	９．債権の管理と回収：債権の管理と取引の決済ー取引の決済	予習：教科書 p.251～277 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第１０回	オンデマンド	１０．債権の担保：法定担保物権・約定担保物権・人的担保	予習：教科書 p.278～308 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第１１回	オンデマンド	１１．企業と会社のしくみ（１）：法人と企業、会社の種類	予習：教科書 p.310～335 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第１２回	オンデマンド	１２．企業と会社のしくみ（２）：株式会社	予習：教科書 p.335～352 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第１３回	オンデマンド	１３．企業と従業員の関係：従業員と労働関係、男女雇用機会均等法、労働者派遣事業	予習：教科書 p.354～393 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第１４回	オンデマンド	１４．ビジネスに関連する家族法：夫婦間の法律関係、相続	予習：教科書 p.396～419 を読んでおくこと。 復習：授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	4 時間
第１５回	対面	講義のまとめ：全範囲の復習、定期試験に向けた対策	予習：これまでの講義内容に関する教科書・レジュメを見直しておくこと。 復習：これまで授業で配布したレジュメ・小テスト等を見直すこと。	5.5 時間

科目名	会社法Ⅰ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	会社法の基礎を学ぶ		
授業の目的及び概要	経済活動の中心的役割を担う会社について、その基本的な仕組みや会社法に関する専門的知識を習得することを目的とする。会社法をはじめて学習する者でも十分に理解できるよう、具体的な例をまじえながら、指定教科書とレジュメを用いて講義をすすめる。受講にあたり、民法等の法律系科目を先行履修していることが望ましいが必須ではない。また、学習意欲のある者のために講義で参考書を紹介する。　会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験（法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など）の対策にもなる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を通じて学生には、 ①会社法における各種会社の概念を理解することができる ②各種会社の構成員たる社員の責任について異同点を理解し、説明することができる ③とくに株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について説明することができるようになることが期待される。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストを実施した場合には、採点したうえで返却する。また、レポート課題について、優秀なレポートについては、授業中に紹介する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	会社法の基礎（第２版），加藤徹・笹川敏彦編，法律文化社，　2021 年	ISBN	9784589041777
参考書	講義内で適宜示す。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	65
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
将来皆さんの多くは「会社」に就職すると思われます。その際に、実際に「会社」とはいったいどういうものかについて理解しておくことは、実際に実務を行う上で非常に重要であると思われます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	１．イントロダクション、会社法総論 授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。 会社法の概要、会社の概念、会社の種類、	事前学習：教科書 p.1～p.20 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	2.5 時間

		会社法総則。		
第２回	対面	２．　株式会社の設立 株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	事前学習：教科書 p.21～p.38 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第３回	対面	３．株式（１） 株式総説、株主名簿、株式の譲渡。	事前学習：教科書 p.38～p.48 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第４回	対面	４．　株式（２） 自己株式、株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	事前学習：教科書 p.48～p.61 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第５回	対面	５．新株予約権 新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	事前学習：教科書 p.61～p.67 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第６回	対面	６．株式会社の機関（１） 株式会社の機関総説、株主総会、種類株主総会。	事前学習：教科書 p.67～p.84 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第７回	対面	７．株式会社の機関（２） 役員等の選任および終任、取締役、取締役会、会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	事前学習：教科書 p.85～p.118 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第８回	対面	８．株式会社の機関（３） 指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	事前学習：　教科書 p.118～p.125 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第９回	対面	９．役員等の責任、株主による役員等の責任追及訴訟 役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	事前学習：教科書 p.125～p.139 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第１０回	対面	１０．　計算、定款の変更、解散、清算 会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更、解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算。	事前学習：教科書 p.139～p.157 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第１１回	対面	11．持分会社 持分会社の設立、社員、計算等。	事前学習：　教科書 p.158～p.176 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第１２回	対面	12．社債 社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	事前学習：教科書 p.177～p.188 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第１３回	対面	13．組織再編（１） 組織再編総説、合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化、会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	事前学習：教科書 p.189～p.204 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第１４回	対面	14．組織再編（２） 株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え、株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え、事業譲渡、事業の譲受け、組織変更。	事前学習：教科書 p.204～p.213 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	15．外国会社・雑則、会社法まとめ 外国会社、会社の解散命令、公告、会社法の総括。 定期試験向けた対策	事前学習：教科書 p.214～p.223 を読んでおくこと。 事後学習：会社法で学習したことを見直しておくこと。	5.5 時間

科目名	会社法Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	会社法の基礎をかため、事例問題に対応する。		
授業の目的及び概要	経済活動の中心的役割を担う会社について、その基本的な仕組みや会社法に関する専門的知識を習得することを目的とする。会社法をはじめて学習する者でも十分に理解できるよう、具体的な例をまじえながら、指定教科書とレジュメを用いて講義をすすめる。受講にあたり、会社法概論や民法系科目を先行履修していることが望ましいが必須ではない。また、学習意欲のある者のために講義で参考書を紹介する。　会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験（法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など）の対策にもなる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を通じて学生には、 ①会社法における各種会社の概念を理解することができる ②各種会社の構成員たる社員の責任について異同点を理解し、説明することができる ③とくに株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について説明することができるようになることが期待される。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストを実施した場合には、講義内で講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	会社法の基礎（第２版），加藤徹・笹川敏彦編，法律文化社，　2021 年	ISBN	9784589041777
参考書	神作ほか，会社法判例百選〔第 4 版〕，有斐閣，2021 年	ISBN	9784641115545

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	65
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	会社法は、誰の立場から制度を見るかによって、かなり見え方が変わる科目です。それぞれの立場から制度を分析・検討できることを目指しましょう。 また、将来皆さんの多くは「会社」に就職すると思われます。その際に、実際に「会社」とはいったいどういうものかについて理解しておくことは、実際に実務を行う上で非常に重要であると思われます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	１．イントロダクション、会社法総論 授業内容、授業の進め方、評価方法につい	事前学習：教科書 p.1～p.20 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこ	2.5 時間

		ての説明。 会社法の概要、会社の概念、会社の種類、会社法総則。	と。	
第２回	対面	２．　株式会社の設立 株式会社の設立総説、設立手続、設立の無効。	事前学習：教科書 p.21～p.38 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第３回	対面	３．株式（１） 株式総説、株主名簿、株式の譲渡。	事前学習：教科書 p.38～p.48 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第４回	対面	４．　株式（２） 自己株式、株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	事前学習：教科書 p.48～p.61 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第５回	対面	５．新株予約権 新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	事前学習：教科書 p.61～p.67 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第６回	対面	６．株式会社の機関（１） 株式会社の機関総説、株主総会、種類株主総会。	事前学習：教科書 p.67～p.84 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第７回	対面	７．株式会社の機関（２） 役員等の選任および終任、取締役、取締役会、会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	事前学習：教科書 p.85～p.118 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第８回	対面	８．株式会社の機関（３） 指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社。	事前学習：　教科書 p.118～p.125 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第９回	対面	９．役員等の責任、株主による役員等の責任追及訴訟 役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	事前学習：教科書 p.125～p.139 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第１０回	対面	１０．　計算、定款の変更、解散、清算 会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更、解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算。	事前学習：教科書 p.139～p.157 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第１１回	対面	11. ①持分会社 持分会社の設立、社員、計算等。 ②社債 社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	事前学習:①教科書 p.158～p.176 を読んでおくこと。 ②教科書 p.177～p.188 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第１２回	対面	12. 組織再編（１） 組織再編総説、合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化、会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	事前学習：教科書 p.189～p.204 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第１３回	対面	13. 組織再編（２） 株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え、株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え、事業譲渡、事業の譲受け、組織変更。	事前学習：教科書 p.204～p.213 を読んでおくこと。 事後学習：授業で配布したレジュメ・判例を見直すこと。	4 時間
第１４回	対面	14. 外国会社・雑則、会社法まとめ 外国会社、会社の解散命令、公告、会社法の総括。	事前学習：教科書 p.214～p.223 を読んでおくこと。 事後学習：会社法で学習したことを見直しておくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	15. これまでのまとめ オンデマンド授業とレポートまたは課題の提出	事前学習：　これまでの授業資料等を確認すること。 事後学習：動画を視聴して、レポートまたは課題に取り組むこと。	5.5 時間

科目名	会社法Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	坂上　文一	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	会社法の基礎知識に基づき、事例（論文）問題に対応する。		
授業の目的及び概要	会社法に関する専門的知識を習得すると共に、裁判例に則した具体的な事例問題を分析し、論証、答案作成を行うことができるようにすることを目的とする。 事例問題の論証解説をまじえながら、レジュメを用いて演習形式により、講義を進行する。 将来、法曹を目指す学生を主な対象として、司法試験、予備試験、法科大学院入試、公務員採用試験などの論文試験対策を念頭においた講義を行う。		
履修条件・留意点	学修効率の観点から、会社法Ⅰ（会社法概論）や民法系科目を履修していることを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	会社法に関わる法律問題について、授業で学修した知識を活かし、妥当な結論を導くことができる。 法律文章の読み方、書き方及び法的思考法を理解し、自ら運用、論述することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	対面授業の各回毎に、事例問題に関する答案作成の課題を提供して、その解説を行うと共に、解答を提出した場合には、添削したうえで返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	会社法の基礎（第２版），加藤徹・笹川敏彦編，法律文化社，　2021 年	ISBN	9784589041777
参考書	会社法判例百選〔第 4 版〕，神作裕之ほか編，有斐閣，2021 年	ISBN	9784641115545

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	40
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
法学部指定六法を必ず持参すること。 正当な理由のない遅刻、私語、授業とは無関係な電子機器（PC やスマホなど）の私用は厳禁とし、違反者に対しては厳しく対応する。 主に法曹志望者を対象とし、予習、復習を必修とします。 授業中にも質問、討議を行いますので、積極的な参加を求めます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	会社法総論　株式会社と合名会社との異同	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメを参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	2.5 時間
第２回	対面	株式会社の設立	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第３回	対面	株式（１）　株主平等原則など	事事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメを参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第４回	対面	株式（２）　株主名簿、名義書換など	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第５回	対面	機関（１）　株主総会決議取消	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第６回	対面	機関（２）　取締役会、利益相反取引、競業取引	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第７回	対面	機関（３）　役員報酬	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第８回	対面	機関（４）　役員の第三者責任	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備して	4 時間

			おく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	
第９回	対面	株主代表訴訟	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第１０回	対面	新株発行（１）	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第１１回	対面	新株発行（２）　　差止請求、新株発行無効原因など	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第１２回	対面	組織再編、事業譲渡など	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第１３回	対面	総合問題（１）	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第１４回	対面	総合問題（２）	事前学修：ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ、関連裁判例を参照し、論文問題の答案作成・答案構成をし、疑問点をまとめ、質問事項を準備しておく。 事後学修：講義で説明した内容、論文問題の解説内容について再確認するとともに、論文問題の答案を完成させる。理解が不十分なところがあれば、次回、教員に質問する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総復習（オンデマンド授業）と重点項目の確認	事前学修：これまでに、ラーニングポータルに事前に掲示したレジュメ、関連裁判例を参照し、疑問点をまとめ、確認しておく。 事後学修：オンデマンド動画を視聴して、講義で説明	5.5 時間

			した事例問題を含む会社法の重要ポイントの整理、復習に取り組み、理解が不十分なところがあれば、アンケートを利用して、教員に質問する。	

科目名	商取引法Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	商法総則・商行為法（商取引法）の基礎を学ぶ。		
授業の目的及び概要	商人がかかわる取引に関するルールについて、商法総則、商行為法を中心に横断的に学ぶ。民法の知識を前提に、商法がどのようなことを定めているのか、どうしてそのようなルールが必要なのかといったことを考えることで、各特別法を学んでいく際の基礎を獲得する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・商取引法の基本概念を理解できる。 ・商取引法の中の重要条文、重要論点を、具体例を挙げながら説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義内で行った小テスト・コメントペーパーに対して、適宜応答の時間を設ける。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	スタンダード商法Ⅰ　商法総則・商行為法〔第 2 版〕，北村雅史編，法律文化社，2022 年	ISBN	978-4589042019
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	55
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	民法等の基本科目を履修済みまたは同時に履修することが望ましい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の概要や到達目標等について、ガイダンスを行います。また、商法の総論を説明します。	【予習】シラバスと教科書 1-7 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第２回	対面	商法の法源、商法の適用範囲、商人。	【予習】教科書 7-20 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第３回	対面	商行為（絶対的商行為、営業的商行為、附属的商行為）、商人資格	【予習】教科書 20-29 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講	4 時間

			義で得た知識を確認してください。	
第４回	対面	商業登記	【予習】教科書 30-43 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第５回	対面	商号	【予習】教科書 44－57 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第６回	対面	名板貸、営業譲渡	【予習】教科書 58-80 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第７回	対面	商業帳簿、商業使用人	【予習】教科書 81-99 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第８回	対面	代理商、中間小テスト	【予習】教科書 100-109 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第９回	対面	商行為法総論	【予習】教科書 110－126 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第１０回	対面	商事売買、消費者法	【予習】教科書 127－151 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第１１回	対面	交互計算その他の決済手段、匿名組合	【予習】教科書 152-165 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第１２回	対面	仲立営業、問屋営業	【予習】教科書 166－183 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第１３回	対面	運送営業、運送取扱営業	【予習】教科書 184－216 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第１４回	対面	倉庫営業、場屋営業	【予習】教科書 217－229 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業全体の総括	【予習】これまでの配布資料と教科書の該当箇所を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間

科目名	商取引法Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	商取引法の発展（消費者と企業の視点から）		
授業の目的及び概要	取引において事業者が関与する際の法的ルールや消費者法に関する知識を深めることは重要である。 この授業では、事業者側の視点からの視点を含みつつ、取引に関連する法的ルールや制度についての基本的な知識を提供する。 さまざまな消費者契約等（美容医療、サブスクリプション、通信販売など）について勉強する。 これらのポイントを理解し知識を身につけることは、消費者側にとってだけでなく、事業者の一員としての社会人にとっても有用である。		
履修条件・留意点	商取引法Ⅰ、民法科目（債権法等）を履修することがのぞましい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・商取引のうち特に、消費者取引について理解を深めることができる。 ・消費者取引について理解を深め、消費者として自分の身を守るための法的知識を習得し、活用することができる。 ・事業者側の一員として、企業が守るべきさまざまな法規定を学び、活用することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義内で行った小テスト・コメントペーパーに対して、適宜応答の時間を設ける。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	消費者法入門―消費者と企業の視点から，　カライスコス　アントニオス・牧佐智代・住田浩史・志部淳之介，　有斐閣，　2025 年	ISBN	978-4641243996
参考書	基本講義消費者法〔第６版〕，　中田邦博・鹿野菜穂子編著，　日本評論社，　2026 年	ISBN	978-4535528680

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	55
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	消費者法というと消費者の側から見ることが多い分野に聞こえますが、事業者側にとっても非常に重要な法律です。 将来自分が仕事をするときにどういったことに気を付けるか、そういったことに意識をしながら学んでいきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の概要や到達目標等について、ガイダンスを行います。	【予習】シラバスと教科書 1-19 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。	4 時間

		なぜ消費者法を学ぶ必要があるのか。	【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	
第２回	対面	契約についての基本知識	【予習】教科書 20-38 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第３回	対面	消費者契約について	【予習】教科書 39-56 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第４回	対面	美容医療・エステティック	【予習】教科書 57-75 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第５回	対面	サブスクリプション	【予習】教科書 76-91 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第６回	対面	不動産取引	【予習】教科書 92-113 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第７回	対面	中間テスト	【予習】これまでの配布資料を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】中間試験の解説を見て、得た知識を確認してください。	4 時間
第８回	対面	中間テストの解説・通信販売	【予習】教科書 114-132 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】中間試験の解説資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第９回	対面	電気通信サービス	【予習】教科書 133-154 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第１０回	対面	インターネットと消費者トラブル	【予習】教科書 155-172 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第１１回	対面	金融商品と投資被害	【予習】教科書 174-195 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第１２回	対面	お金にまつわるトラブル	【予習】教科書 196-219 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第１３回	対面	生産物の安全性	【予習】教科書 220-243 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第１４回	対面	どのように助けを求めるか？	【予習】教科書 244-265 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	消費者法の新たな展望とこれからの姿 これまでの授業のまとめ	【予習】教科書 266-287 頁を事前に読んで疑問点などを確認しておくこと。 これまでの配布資料を事前に読んで疑問点	4 時間

			などを確認しておくこと。 【復習】配布資料と教科書の該当箇所を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	

科目名	経済法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	堂山　健	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	経済法（独占禁止法）を学ぶ		
授業の目的及び概要	本授業は、経済法、特に独占禁止法の基礎知識の学習を目的とする。独占禁止法は、企業による独占等を防いで事業者間の公正な競争を促進する法律である。教科書『ベーシック経済法（第5版）』（有斐閣アルマ）の構成に沿って、競争政策の意義、独占禁止法の目的、規制類型等を体系的に学ぶ。また、現代の競争政策上の課題にも触れる。		
履修条件・留意点	学修効果の観点から、民法を履修していること／一緒に履修することをつよく推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・経済法の概要、条文の文言や専門用語の意味について理解し、説明することができる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・独占や不公正取引等に関わる法律問題について、授業で学修した知識を活かし、妥当な結論を導くことができる。【ＤＰ２】 ・法律文章の読み方、書き方および法的思考法を理解し、自ら運用することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各種課題を出した場合は、原則次回の授業までに採点して返却し、解説を行う。 講義及びその他についてコメントがあれば、随時受け付ける。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ベーシック経済法 -- 独占禁止法入門 第5版，川濵昇・瀬領真悟 ・泉水文雄 ・和久井理子，有斐閣，2020年	ISBN	978-4-641-22141-3
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・法学部指定六法を必ず持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器（ＰＣやスマホなど）の使用は厳禁。違反者に対しては厳しく対応する。 （ただし、PC はノート等のために必要な限度で利用することは認める。）

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス＋序章	教科書指定部分　1-9 頁 ・事前学修：レジュメと教科書の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメ	4 時間

			に小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには２時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ、教科書の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に質問する。これには２時間を要する。 （事前学修、事後学修については、以下同じ）	
第２回	対面	序章 競争の目的・競争政策の役割（1）	教科書：9-22 頁	4 時間
第３回	対面	序章 競争の目的・競争政策の役割（2）	教科書：22-35 頁	4 時間
第４回	対面	第 1 章 企業結合（1）	教科書：37-50 頁	4 時間
第５回	対面	第 1 章 企業結合（2）	教科書：50-90 頁	4 時間
第６回	対面	第 2 章 不当な取引制限（1）	教科書：91-113 頁	4 時間
第７回	対面	第 2 章 不当な取引制限（2）	教科書：113-143 頁	4 時間
第８回	対面	第 3 章 私的独占（1）	教科書：145-160 頁	4 時間
第９回	対面	第 3 章 私的独占（2）	教科書：160-173 頁	4 時間
第１０回	対面	第 4 章 不公正な取引方法（1）	教科書：175-214 頁	4 時間
第１１回	対面	第 4 章 不公正な取引方法（2）	教科書：214-293 頁	4 時間
第１２回	対面	第 5 章 事業者団体の活動	教科書：295-312 頁	4 時間
第１３回	対面	第 6 章 国際取引と独禁法	教科書：313-335 頁	4 時間
第１４回	対面	第 7 章 独禁法のドメイン	教科書：337-366 頁	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括・まとめ	教科書全て	4 時間

科目名	スポーツ・ビジネス法務	開講年度	2026 年度春学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	スポーツ×ビジネス法務の実践 ―経営者とプロの思考に触れる特別講義―		
授業の目的及び概要	■　授業の目的 本科目は、法学部「ビジネス法コース」における実践科目です。スポーツを入り口に、ビジネス法務が社会をどう動かしているのか、その「リアル」を学ぶことを目的とします。 １．プロスポーツ経営者や弁護士ら豪華ゲストの講義を通じ、教科書には載っていない生きた法務実務を理解します。 ２．女子プロ野球機構での実務経験を持つ教員によるグループワークを通じ、プロの法務担当者の視点を疑似体験します。 ３．（希望者のみ）講義と連動したインターンシップを通じて、実際の現場へ踏み出すチャンスを掴みます。 ■　授業の概要 本科目は、スポーツビジネスの第一線で活躍するトップランナーたちから直接学べる、またとない機会です。 最大の魅力は、「知る（講義）」「考える（グループワーク）」「やってみる（インターン）」の 3 段階で構成されている点です。 特に、女子プロ野球のトラブル対応を題材にしたグループワークは、法的な知識がどのように問題解決の武器になるかを体感できる、本学で最も実践的な内容となっています。 なお、インターンシップは「希望者のみ」の選抜制です。将来の進路としてスポーツや企業法務に興味がある方はもちろん、「まずは第一線で働く人たちの話を聞いてみたい」「面白い事例で法学を学び直したい」という方の受講も大歓迎です。インターンに行く・行かないにかかわらず、この 15 回を終えたときには、社会を見る目が確実に変わっているはずです。		
履修条件・留意点	Teams を活用します。 グループワークでは whiteboard 機能での作業を行い、授業アンケート及び連絡は投稿、教材はファイル機能で共有します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．ビジネスにおける法務の役割と、主要な法的課題（契約、知的財産、広告法務等）を理解する。 ２．経営者の視点から、スポーツビジネスにおける価値創造とリスク管理の重要性を説明できる。 ３．企業法務の実例を用いたグループワークを通じ、具体的なトラブルに対する法的思考（リーガルマインド）を用いた解決策を提案できる。 ４．スポーツ関連企業へのインターンシップを目標に学ぶことで、就業力向上につながるキャリアビジョンを身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回、アンケートおよびコメントを実施し、寄せられた質問には次回以降の講義で回答します。 また、理解度確認の小テストを実施し、直後に正解を公表して解説を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員のうち芳中講師は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	『スポーツからはじめるビジネス法務』（2026 年、中央経済社）	ISBN	978-4-502-45681-7
参考書	①『標準テキストスポーツ法学〔第 3 版〕』浦川道太郎、吉田勝光編著（2020 年、エイデル研究所） ②『Q&A スポーツの法律問題(第４版)』スポーツ問題研究会（2018 年、民事法研究会）	ISBN	①9784871686501 ②9784865560213 ③9784865562231

	③『スポーツ法務の最前線―ビジネスと法の統合』エンターテインメントロイヤーズネットワーク（2015年、民事法研究会）		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（%）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・この科目の受講にあたっては、「ビジネス法務」「スポーツ法」を既に履修しているか、同時に履修することを推奨します。 ・本科目はインターンシップとも連動しています。将来、スポーツ関連企業での就業や、インターンシップへの参加を希望する学生は、積極的に受講してください。 ・授業内でのグループワーク、中間レポート、キャリアセンターによる面談等がインターンシップ参加者の選考基準となります。 ・スポーツ経験の有無は問いません。スポーツを切り口にしていますが、ビジネス法務を学びたい方は受講してください。 ・授業の順序は、ゲスト講師の都合により入れ替わる可能性があります。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（担当者：高田） 授業の進め方･インターンシップ選考プロセスの説明	【予習】(2 時間程度)：シラバスを精読し、興味のあるスポーツ関連企業について調べておく。 【復習】(2 時間程度)：インターンシップまでのスケジュールと選考基準を確認する。	4 時間
第２回	対面	スポーツビジネスの現場から（１）～ボクシング興行とガバナンス～(担当者:芳中) 【インターンシップ受入企業ゲスト】	【予習】(2 時間程度)：各登壇者のプロフィールや所属組織の活動内容を Web サイト等で確認し、質問を 1 つ以上考えておく。 【復習】(2 時間程度)：講義内容を整理し、経営の観点から法務がどのように関わっていたかをまとめる。	4 時間
第３回	対面	スポーツビジネスの現場から（２）～プロバレーボールと経営戦略～(担当者:芳中) 【インターンシップ受入企業ゲスト】	【予習】(2 時間程度)：各登壇者のプロフィールや所属組織の活動内容を Web サイト等で確認し、質問を 1 つ以上考えておく。 【復習】(2 時間程度)：講義内容を整理し、経営の観点から法務がどのように関わっていたかをまとめる。	4 時間
第４回	対面	スポーツビジネスの現場から（３）～アスリートと価値創造～（担当者：芳中） 【インターンシップ受入企業ゲスト】	【予習】(2 時間程度)：各登壇者のプロフィールや所属組織の活動内容を Web サイト等で確認し、質問を 1 つ以上考えておく。 【復習】(2 時間程度)：講義内容を整理し、経営の観点から法務がどのように関わっていたかをまとめる。	4 時間
第５回	対面	スポーツビジネスの現場から（４）～スポーツサービス業のリスク管理～（担当者：芳中） 【インターンシップ受入企業ゲスト】	【予習】(2 時間程度)：各登壇者のプロフィールや所属組織の活動内容を Web サイト等で確認し、質問を 1 つ以上考えておく。 【復習】(2 時間程度)：講義内容を整理し、経営の観点から法務がどのように関わっていたかをまとめる。	4 時間
第６回	対面	グループワーク（１）～女子プロ野球法務のトラブル～（担当者：芳中） 【中間レポート】	【予習】(2 時間程度)：教科書の指定箇所を読み、各回のテーマの基礎用語を把握し、疑問点をピックアップしておくこと。	4 時間

			【復習】(2 時間程度)：グループでの議論を整理し、自分なりの解決策を論理的に構成し直す。	
第7回	対面	グループワーク（2）～女子プロ野球の広告法務～（担当者：芳中） 【中間レポート】	【予習】(2 時間程度)：教科書の指定箇所を読み、各回のテーマの基礎用語を把握し、疑問点をピックアップしておくこと。 【復習】(2 時間程度)：グループでの議論を整理し、自分なりの解決策を論理的に構成し直す。	4 時間
第8回	対面	スポーツマーケティングと企業価値(担当者：芳中)	【予習】(2 時間）教科書の指定箇所を読み、各回のテーマの基礎用語を把握する。 【復習】(2 時間）実務家から示された「現場の課題」に対し、法的観点から補足調査を行う。	4 時間
第9回	オンデマンド	ビジネス法概論（担当者：石上） ビジネス法務の観点からスポーツビジネスを整理する	【予習】(2 時間程度)：教科書を読み、基礎用語を把握ししておく。 【復習】(2 時間程度)：ラーニングポータルのテストを受験し、間違いを復習しておく。	4 時間
第１０回	対面	スポーツマインドとビジネス法務（担当者：芳中） 【スポーツ関連企業法務担当ゲスト】	【予習】(2 時間）教科書の指定箇所を読み、各回のテーマの基礎用語を把握し、疑問点をピックアップしておくこと。 【復習】(2 時間）実務家から示された「現場の課題」に対し、法的観点から補足調査を行う。	4 時間
第１１回	対面	スポーツ用品業と法的問題（1）(担当者：芳中) 【スポーツ関連企業法務担当ゲスト】	【予習】(2 時間）教科書の指定箇所を読み、各回のテーマの基礎用語を把握し、疑問点をピックアップしておくこと。 【復習】(2 時間）実務家から示された「現場の課題」に対し、法的観点から補足調査を行う。	4 時間
第１２回	対面	スポーツ用品業と法的問題（2）(担当者：芳中) 【スポーツ関連企業法務担当ゲスト】	【予習】(2 時間）教科書の指定箇所を読み、各回のテーマの基礎用語を把握し、疑問点をピックアップしておくこと。 【復習】(2 時間）実務家から示された「現場の課題」に対し、法的観点から補足調査を行う。	4 時間
第１３回	対面	スポーツビジネスと知的財産（担当者：芳中） 【インターンシップ受入企業ゲスト】	【予習】(2 時間）教科書の指定箇所を読み、各回のテーマの基礎用語を把握し、疑問点をピックアップしておくこと。 【復習】(2 時間）実務家から示された「現場の課題」に対し、法的観点から補足調査を行う。	4 時間
第１４回	対面	スポーツサービス業と法的問題（担当者：芳中） 【スポーツ関連企業法務担当ゲスト】	【予習】(2 時間）教科書の指定箇所を読み、各回のテーマの基礎用語を把握し、疑問点をピックアップしておくこと。 【復習】(2 時間）実務家から示された「現場の課題」に対し、法的観点から補足調査を行う。	4 時間
第１５回	対面	総括（担当者：芳中）	【予習】(2 時間）これまでの 14 回の講義ノートを読み返し、理解が不十分な箇所を特定する。 【復習】(2 時間）講義全体を通じて得た知見が、自身のキャリア形成にどう寄与するかを総括する。	4 時間

科目名	労働基準法	開講年度	2026 年度春学期
担当者	兪　珏根	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	労働法分野の基礎である労働基準法を中心に個別的労働関係法の内容を習得し、その背景にある理念や基本的な考え方を理解する。		
授業の目的及び概要	労働基準法は個別的労働関係法の中核をなす法律であり、労働条件の最低基準などを定めた重要な法律である。具体的には、労働時間・休日、賃金、有給休暇、就業規則などまた男女雇用機会均等法、育児・介護休業法、労働安全衛生法、労災保険法などがある。本授業では、労働基準法の内容を中心としつつ、これらの関連法規等を紹介しながら講義する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・労働基準法をはじめ個別労働関係法に関する基本的な事項について理解し、説明することができる。 ・職場で出会う基本的な労働問題を理解し、法的に考えるための基礎知識を習得することができる。 ・具体的問題の解決方法を考える力を身につけることが期待できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・中間テストについては解説する。 ・授業内容に関する質問については適宜回答する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『労働法』，川田智子、長谷川聡，弘文堂，2020 年 授業は配布するレジュメに沿って進行する。	ISBN	9784335358388
参考書	①『労働法 第 5 版』，荒木尚志，有斐閣，2022 年 ②『労働基準法・労働契約法』，西谷敏・奥田香子外多数，日本評論社，2020 年	ISBN	①9784641243576 ②9784535402805

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・法学部指定六法を持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器の使用は厳禁。 ・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業のガイダンス（授業の進め方や成績評価の説明など） - 最低規程の法規整	・事前に必ずシラバスを読むこと（0.5 時間程度）。 ・学習した内容について説明できるように、レジュメや参考書を用いて復習すること（3.5 時間程度）。	4 時間

		- 労働者の人権と自由保障		
第２回	対面	賃金(1) - 労基法上の賃金の定義 - 賃金保護	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第３回	対面	賃金（２） - 賞与 - 退職金	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第４回	対面	労働時間(1) - 法定労働時間 - 休憩 - 休日	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第５回	対面	労働時間(2) - 弾力的労働時間制度 - 労働時間の計算とみなし労働時間制	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第６回	対面	時間外労働時間 - 休日労働 - 適用除外	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第７回	対面	年次有給休暇 - 年次有給休暇 - 育児介護休業法	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第８回	対面	年少者と妊産婦 - 年少者の保護 - 妊産婦の保護	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第９回	対面	労働災害の補償（1） ・労基法上の責任 ・労働安全衛生 ・労災補償	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１０回	対面	労働者の人権 ・雇用における平等 ・均等待遇原則	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１１回	対面	男女雇用機会均等法 ・男女同一賃金 ・女性活躍推進法	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１２回	対面	障害者の雇用均等 ・雇用義務制度 ・障害者差別禁止	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１３回	対面	労働者の人格保障 ・ハラスメント ・プライバシー保護	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１４回	対面	非典型雇用 ・パートタイム労働 ・有期労働	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業の総括：まとめ	・試験に向けて全体の復習をすること（4 時間）	4 時間

科目名	労働契約法	開講年度	2026 年度春学期
担当者	兪　珏根	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	労働契約法は、労働法制の概要と論点を理解しこの理解を用いて雇用の場で生起する諸問題の問題構造を自身で明らかにすることができる。		
授業の目的及び概要	個別的労働法に分類される後述のような諸問題について、使用者と労働者との間の契約関係の成立や内容、終了等に関する規定を適用する領域である。労働契約に関する判例等を参考にしながら検討する。法の趣旨目的やその背景にある理念や社会実態を理解することで、労働法の基本知識を学ぶことを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	労働法の基礎知識として労働契約法をはじめ個別労働関係法に関する基本的な事項について理解し、説明することができる。 職場で出会う基本的な労働問題を理解し、法的に考えるための基礎知識を習得することができる。 この理解を用いて雇用の場で生起する諸問題の問題構造を自身で明らかにすることができるとともに、自身の意見を構築することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストについては解説する。 さらに、課題や疑問点については、授業中に解説する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『労働法』，川田知子・長谷川聡，弘文党，2020 年 授業の前に講義レジュメを配布する。	ISBN	9784335358388
参考書	①『労働法 第 6 版』，荒木尚志，有斐閣，2022 年 ②『労働判例百選 第 10 版』，村中孝史・荒木尚志編，有斐閣，2022 年	ISBN	①9784641243576 ②9784641115576

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。 ・日ごろから、雇用問題に関するニュース等に接することや、各自のアルバイトの経験などで遭遇する法的問題について意識することが授業の理解に役立つ。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業のガイダンス ・講義の進め方を示し、労働法の学修方法	・予習：必ず、シラバスを読むこと（1 時間） ・復習：学習した内容に対して説明可能出来るように	4 時間

		や成績評価について紹介する。	レジュメやテキストを用いて復習すること（3 時間）	
第２回	対面	労働法の意義と基本構造（１） ・労働法の体系及び歴史 ・労働法の体系と憲法	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第３回	対面	労働法の意義と基本構造（２） - 労働法の当事者 - 労働者の概念および使用者の概念	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第４回	対面	労働条件及び労働紛争決定システム - 労使による履行確保 - 行政による履行確保	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第５回	対面	労働契約の法規整 - 労働契約の基本原理 - 労働契約上の権利義務	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第６回	対面	労働契約の成立（１） - 労働契約の締結 - 採用の事由とその制限	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第７回	対面	労働契約の成立（２） - 採用内定、内々定 - 試用期間	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第８回	対面	人事（１） - 配転 ・出向 ・転籍	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第９回	対面	人事（２） - 昇進 ・昇格 ・降格	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１０回	対面	- 休職 - 企業再編	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１１回	対面	労働条件の変更 - 当事者による変更 - 就業規則による労働条件の変更	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１２回	対面	服務規律 ・懲戒 - 内部告発	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１３回	対面	労働契約の終了（１） - 解雇規制 - 退職、合意解約	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１４回	対面	労働契約の終了（２） - 定年制 ・再雇用	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 - 全体的に習得した内容を整理及び復習 - 定期試験対策	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間

科目名	労働契約法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	兪　珏根	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	労働契約法は、労働法制の概要と論点を理解しこの理解を用いて雇用の場で生起する諸問題の問題構造を自身で明らかにすることができる。		
授業の目的及び概要	個別的労働法に分類される後述のような諸問題について、使用者と労働者との間の契約関係の成立や内容、終了等に関する規定を適用する領域である。労働契約に関する判例等を参考にしながら検討する。法の趣旨目的やその背景にある理念や社会実態を理解することで、労働法の基本知識を学ぶことを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	労働法の基礎知識として労働契約法をはじめ個別労働関係法に関する基本的な事項について理解し、説明することができる。 職場で出会う基本的な労働問題を理解し、法的に考えるための基礎知識を習得することができる。 この理解を用いて雇用の場で生起する諸問題の問題構造を自身で明らかにすることができるとともに、自身の意見を構築することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストについては解説する。 さらに、課題や疑問点については、授業中に解説する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『労働法』，川田知子・長谷川聡，弘文党，2020 年 授業の前に講義レジュメを配布する。	ISBN	9784335358388
参考書	①『労働法 第 6 版』，荒木尚志，有斐閣，2022 年 ②『労働判例百選 第 10 版』，村中孝史・荒木尚志編，有斐閣，2022 年	ISBN	①9784641243576 ②9784641115576

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。 ・日ごろから、雇用問題に関するニュース等に接することや、各自のアルバイトの経験などで遭遇する法的問題について意識することが授業の理解に役立つ。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業のガイダンス ・講義の進め方を示し、労働法の学修方法	・予習：必ず、シラバスを読むこと（1 時間） ・復習：学習した内容に対して説明可能出来るように	4 時間

		や成績評価について紹介する。	レジュメやテキストを用いて復習すること（3 時間）	
第２回	対面	労働法の意義と基本構造（１） ・労働法の体系及び歴史 ・労働法の体系と憲法	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第３回	対面	労働法の意義と基本構造（２） - 労働法の当事者 - 労働者の概念および使用者の概念	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第４回	対面	労働条件及び労働紛争決定システム - 労使による履行確保 - 行政による履行確保	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第５回	対面	労働契約の法規整 - 労働契約の基本原理 - 労働契約上の権利義務	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第６回	対面	労働契約の成立（１） - 労働契約の締結 - 採用の事由とその制限	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第７回	対面	労働契約の成立（２） - 採用内定、内々定 - 試用期間	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第８回	対面	人事（１） - 配転 ・出向 ・転籍	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第９回	対面	人事（２） - 昇進 ・昇格 ・降格	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１０回	対面	- 休職 - 企業再編	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１１回	対面	労働条件の変更 - 当事者による変更 - 就業規則による労働条件の変更	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１２回	対面	服務規律 ・懲戒 - 内部告発	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１３回	対面	労働契約の終了（１） - 解雇規制 - 退職、合意解約	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１４回	対面	労働契約の終了（２） - 定年制 ・再雇用	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括 - 全体的に習得した内容を整理及び復習 - 定期試験対策	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間

科目名	労使関係法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	兪　珏根	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	集団的な労働関係として労働組合と使用者、労働組合と労働者の関係に関する法規について学修する。		
授業の目的及び概要	労働法は憲法第 28 条による労働基本権の保障を基礎に、労働組合の組織と活動を制度的に保障する（集団的労働関係法）ことを対象とする。労働契約法や労働基準法（個別的労働関係法）と区分されているが、とりわけ、その問題構造は社会的・経済的な関係ごとに、労使関係の歴史的・現実的構造と深く関連しており、それらの学修・理解は本講座において解明に努める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	講義を通して、『労働基本権』保障の意義を深く理解し、それを基礎に集団的な労働関係上の紛争処理に関し日々の労働生活の場において労働者の人権尊厳が十全に確保された状況を構築できるような方向での法理論を学修・構築出来るようにする。その内容は労働組合の結成・運営、団体交渉、労働協約、争議行為、不当労働行為の順である。本授業は、単なる条文暗記ではなく法の趣旨目的やその背景にある理念等を理解することにより、受講生が労使関係法の基本知識と思考枠組みを学ぶことを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	中間テストについては解説する。 さらに、課題や疑問点については、授業中に解説する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『労働法』，川田知子・長谷川聡，弘文党，2020 年 授業の前に講義レジュメを配布する。	ISBN	9784335358388
参考書	①『労働法 第 3 版』、西谷敏、日本評論社、2020 年 ②『労働法 第 5 版』，荒木尚志，有斐閣，2022 年 ③『労働判例百選 第 10 版』，村中孝史・荒木尚志編，有斐閣，2022 年	ISBN	①9784535524217 ②9784641243576 ③9784641115576

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・法学部指定六法を持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器の使用は厳禁。 ・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。 ・日ごろから、雇用問題に関するニュース等に接することや、各自のアルバイトの経験などで遭遇する法的問題について意識することが授業の理解に役立つ。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	イントロダクション （授業のガイダンス） ・労働基本権の保障	・予習：必ず、シラバシをよむこと（1 時間） ・復習：学習した内容について説明可能用にレジュメのを用いて復習すること（3時間）	4 時間
第２回	対面	団結権と労働組合 ・労働組合法上の労働組合	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第３回	対面	労働組合の結成と内部運営 ・労働組合の機関 ・加入・脱退	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第４回	対面	労働組合の活動 ・企業施設の利用 ・就労時間中の組合活動	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第５回	対面	団体交渉（１） ・交渉の概説と当事者など	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第６回	対面	団体交渉（２） ・団体交渉の対象と交渉拒否の救済	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第７回	対面	労働協約（１） ・労働協約の効力	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第８回	対面	労働協約（２） ・労働協約の拡張適用	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第９回	対面	争議行為（１） ・争議行為の意義及び実態	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１０回	対面	争議行為（２） ・争議行為の正当性	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１１回	対面	争議行為（３） ・使用者の争議対抗行為	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１２回	対面	不当労働行為制度 ・不当労働行為制度の意義、目的	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１３回	対面	不当労働行為の成立要件 ・労働組合法第７条１号～5 号	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１４回	対面	不当労働行為の救済制度 ・行政救済 ・司法救済	・予習：ランニングボータルでアップロードされている授業レジュメを十分に予習すること（2 時間） ・復習：レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）	4 時間
第１５回	オンデ	全体的な授業内容に対する評価及び復習	・予習：全体に関する復習	4 時間

	マンド		・復習：定期試験対策	

科目名	雇用政策法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	兪　珏根	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	働く意欲のある全ての人が自分の能力・適性に合った雇用を得ることを可能にするための政策やルールについて学習する。		
授業の目的及び概要	雇用政策法とは、労働法の一分野であり、企業（求人者）と労働者（求職者）が、労働力を取引する市場（労働市場）に関する法的ルールの総体である。具体的には、求職段階のルール（職業紹介・職業教育等）や、労働者の特定の属性に着目したルール（女性。高年齢者、障害者等）、近年急増している非正規雇用に関するルールが含まれる。これらのルールは、働こうとする全ての人が自分の能力・適性に合った雇用を得ることを可能にするために必要なものであり、社会の変化に応じたルールの変化が激しい分野です。本講義では、これまでの雇用政策の経緯や内容について解説していきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・雇用政策法に関する基礎的な知識を修得している。 ・労働に関わる社会問題を正確に理解している。 ・現代社会における雇用政策の課題について法的な観点から考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内容に関する質問には適宜答える。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。授業は配布するレジュメに沿って行う。	ISBN	なし
参考書	詳細は初回の授業で説明する ・『労働法 第 5 版』、荒木尚志、弘文堂 、2022 年 ・『労働判例百選 10 版』、村中孝史、荒木尚志、有斐閣 、2022 年	ISBN	9784641243576 9784641115576

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・法学部指定六法を持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器の使用は厳禁。 ・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。 ・日ごろから雇用問題に関するニュース等に接しておくことや、各自のアルバイトの中で遭遇する法的問題について意識しておくことが授業の理解に役立つ。 ・労働基準法、労働契約法を履修することが望ましい。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	ガイダンス・雇用政策法の目的	・事前に必ずシラバスを読むこと（0.5 時間程度）。 ・学習した内容について説明できるように、レジュメや参考書を用いて復習すること（3.5 時間程度）。	4 時間
第２回	対面	日本型雇用システムの特徴と変容	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第３回	対面	職業紹介・職業能力開発	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	失業者への生活保障	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第５回	対面	ワーク・ライフ・バランスと法政策	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第６回	対面	労働者の人格保護 ・ハラスメントと法政策 ・プライバシーと個人情報保護	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第７回	対面	非典型雇用(1) ・パートタイム労働 ・派遣労働	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第８回	対面	非典型雇用（２） ・有期雇用	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第９回	対面	非典型雇用（３） ・正規・非正規の待遇格差	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第１０回	対面	雇用政策の課題(1) ・雇用社会の変化	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第１１回	対面	雇用政策の課題(2) ・高年齢者の雇用	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第１２回	対面	雇用政策の課題(3) ・外国人労働者の雇用	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。	4 時間

			・(復習) レジュメの確認問題を解けるようにする (2 時間)。	
第１３回	対面	雇用政策の課題(4) ・障害者の雇用	・(予習) ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する (2 時間)。 ・(復習) レジュメの確認問題を解けるようにする (2 時間)。	4 時間
第１４回	対面	雇用政策の課題(５) ・若年者の雇用	・(予習) ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する (2 時間)。 ・(復習) レジュメの確認問題を解けるようにする (2 時間)。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総まとめ ・試験に向けて全体の復習をすること	・試験に向けて全体の復習をすること (4 時間)	4 時間

科目名	雇用政策法	開講年度	2026 年度春学期
担当者	兪　珏根	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	働く意欲のある全ての人が自分の能力・適性に合った雇用を得ることを可能にするための政策やルールについて学習する。		
授業の目的及び概要	雇用政策法とは、労働法の一分野であり、企業（求人者）と労働者（求職者）が、労働力を取引する市場（労働市場）に関する法的ルールの総体である。具体的には、求職段階のルール（職業紹介・職業教育等）や、労働者の特定の属性に着目したルール（女性。高年齢者、障害者等)、近年急増している非正規雇用に関するルールが含まれる。これらのルールは、働こうとする全ての人が自分の能力・適性に合った雇用を得ることを可能にするために必要なものであり、社会の変化に応じたルールの変化が激しい分野です。本講義では、これまでの雇用政策の経緯や内容について解説していきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・雇用政策法に関する基礎的な知識を修得している。 ・労働に関わる社会問題を正確に理解している。 ・現代社会における雇用政策の課題について法的な観点から考察できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内容に関する質問には適宜答える。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。授業は配布するレジュメに沿って行う。	ISBN	なし
参考書	詳細は初回の授業で説明する ・『労働法 第 5 版』、荒木尚志、弘文堂 、2022 年 ・『労働判例百選 10 版』、村中孝史、荒木尚志、有斐閣 、2022 年	ISBN	9784641243576 9784641115576

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	70
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・法学部指定六法を持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器の使用は厳禁。 ・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。 ・日ごろから雇用問題に関するニュース等に接しておくことや、各自のアルバイトの中で遭遇する法的問題について意識しておくことが授業の理解に役立つ。 ・労働基準法、労働契約法を履修することが望ましい。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	ガイダンス・雇用政策法の目的	・事前に必ずシラバスを読むこと（0.5 時間程度）。 ・学習した内容について説明できるように、レジュメや参考書を用いて復習すること（3.5 時間程度）。	4 時間
第２回	対面	日本型雇用システムの特徴と変容	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第３回	対面	職業紹介・職業能力開発	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	失業者への生活保障	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第５回	対面	ワーク・ライフ・バランスと法政策	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第６回	対面	労働者の人格保護 ・ハラスメントと法政策 ・プライバシーと個人情報保護	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第７回	対面	非典型雇用(1) ・パートタイム労働 ・派遣労働	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第８回	対面	非典型雇用（２） ・有期雇用	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第９回	対面	非典型雇用（３） ・正規・非正規の待遇格差	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第１０回	対面	雇用政策の課題(1) ・雇用社会の変化	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第１１回	対面	雇用政策の課題(2) ・高年齢者の雇用	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。 ・（復習）レジュメの確認問題を解けるようにする（2 時間）。	4 時間
第１２回	対面	雇用政策の課題(3) ・外国人労働者の雇用	・（予習）ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する（2 時間）。	4 時間

			・(復習) レジュメの確認問題を解けるようにする (2 時間)。	
第１３回	対面	雇用政策の課題(4) ・障害者の雇用	・(予習) ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する (2 時間)。 ・(復習) レジュメの確認問題を解けるようにする (2 時間)。	4 時間
第１４回	対面	雇用政策の課題(５) ・若年者の雇用	・(予習) ラーニングポータルでアップされている授業用レジュメや資料を用いて十分に予習する (2 時間)。 ・(復習) レジュメの確認問題を解けるようにする (2 時間)。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総まとめ ・試験に向けて全体の復習をすること	・試験に向けて全体の復習をすること (4 時間)	4 時間

科目名	社会保険法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	呉　紅敏	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	医療、年金、労災保険制度、介護保険とは何の制度なの？		
授業の目的及び概要	法学における社会保障制度の歴史、概念と範囲、機能、財政、制度の体系と概要およびそれらの問題について概観する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①社会保障法にかかわる基本的知識、いわば社会保障法の基礎的な常識をみにつけることができる。 ②少子高齢化社会の中で改革が急務といわれている社会保障制度の現状や改革議論について、身近な例を挙げながら具体的にわかりやすく説明し、その上で、社会保険制度の個別制度の基礎知識について解説することで、社会保険制度の基礎知識を得ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義において、コメントカードに質問、意見、感想、提案などを書いてもらい、次の授業で回答する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①新・初めての社会保障論』(第 3 版)，古橋エツ子編，法律文化社，2024 年	ISBN	①9784589038890
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	40
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって
社会保障法全体の勉強のためには、秋学期の社会福祉法の履修もお勧めします。 受講生の勉強状況や理解度に応じて、講義内容が多少前後になることもあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	何のために社会保障があるの？	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（2 時間程度）。 また、配布するレジュメを用い予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第２回	対面	社会保険法の全体像について説明	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（2 時間程度）。 また、16~35 頁の医療保険を予習してください（2 時間程度）。	4 時間

第３回	対面	医療保険 ・医療保険とはー ・医療保障を実現するしくみ	授業後に、教科書の 16 頁～20 頁の内容を読んで、講義内容について復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の 21 頁～35 頁を読んで予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第４回	対面	医療保険 ・医療保険の仕組み ・医療保険制度の問題と課題	授業後に、教科書の 21 頁～35 頁を読んで復習してください（2 時間程度）。 また、教科書 38 頁～４１頁を読んで「介護保険」について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第５回	対面	介護保険 介護保険制度とは ・介護保険制度の概要	授業後に、教科書 38 頁～４１頁を読んで「介護保険」について復習してください（2 時間程度）。 また、教科書４２頁～５４頁を読んで「介護保険」の概要と課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第６回	対面	介護保険制度 ・介護保険制度の概要 ・介護保険制度の課題	授業後に、教科書４２頁～５４頁を読んで「介護保険」の概要と課題について復習してください（2 時間程度）。 また、教科書５８頁～６９頁の「年金」制度について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第７回	対面	年金制度 ・年金制度とは何か ・年金制度の仕組み	授業後に、教科書５８頁～６９頁の「年金」制度の仕組みについて復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の７０頁～８１頁の「年金」制度の現状と課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第８回	対面	年金制度 ・年金制度の現状 ・公的年金制度の課題	授業後に、教科書の７０頁～８１頁の「年金」制度の現状と課題について復習してください。	4 時間
第９回	対面	中間総括・まとめ ・医療・介護・年金制度の総括、まとめ	授業後に、医療、介護、年金制度について教科書やレジュメを用い、復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の８６頁～９５頁の「労働者災害補償保険制度」について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１０回	対面	労働保険 ・労働保険とは ・労働者災害補償保険制度について	授業後に、教科書の８６頁～９５頁の「労働者災害補償保険制度」について復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の９６頁～１０７頁の「雇用保険制度」と今後の課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１１回	対面	雇用保険制度 ・雇用保険制度とは ・今後の課題	授業後に、教科書の９６頁～１０７頁の「雇用保険制度」と今後の課題について復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の１０８頁～１１５頁の「民間保険と社会保険」について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１２回	オンデマンド	民間保険と社会保険 ・保険とは ・民間保険の仕組み ・現状と今後の課題	授業後に、教科書の１０８頁～１１５頁の「民間保険と社会保険」について復習してください（2 時間程度）。 配布するレジュメを用い予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１３回	対面	社会保険制度における現状と課題	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（2 時間程度）。 配布するレジュメを用い予習してくださいい（2 時間程度）。	4 時間
第１４回	対面	少子高齢化社会における社会保障制度の現状と課題	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（4 時間程度）。	4 時間
第１５回	対面	講義全体内容のまとめと総括	授業後に、教科書やレジュメを用いて講義内容について復習してください。	4 時間

科目名	社会保険法	開講年度	2026 年度春学期
担当者	呉　紅敏	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	医療保険、年金、労災保険制度、介護保険制度ってどんな制度なの？		
授業の目的及び概要	法学における社会保障制度の歴史、概念と範囲、機能、財政、制度の体系と概要およびそれらの問題について概観する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①社会保障法にかかわる基本的知識、いわば社会保障法の基礎的な常識を身につけることができる。 ②少子高齢化社会の中で改革が急務といわれている社会保障制度の現状や改革議論について、身近な例を挙げながら具体的にわかりやすく説明し、その上で、社会保険制度の個別制度の基礎知識について解説することで、社会保険制度の基礎知識を得ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義において、ディスカッションに質問、意見、感想、提案などを書いてもらい、次の授業で回答する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①新・初めての社会保障論（第 3 版），古橋エツ子編，法律文化社，2024 年	ISBN	①9784589038890
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	40
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	社会保障法全体の勉強のためには、秋学期の社会福祉法と経済学部の社会保障の科目の履修もお勧めします。 受講生の勉強状況や理解度に応じて、講義内容が多少前後になることもあります。 教科書を読まずに、また動画をご覧にならずに、適当に出席テストを受ける場合は、欠席にすることもあります。 毎回レジュメを配布しているので、教科書持たずに、勉強はできますが、レジュメ以外の勉強も必要なので、教科書は必須です。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	何のために社会保障があるの？	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（2 時間程度）。 また、配布するレジュメを用い予習してください（2 時間程度）。	4 時間

第２回	オンデマンド	社会保険法の全体像について説明	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（2 時間程度）。 また、16~35 頁の医療保険を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第３回	オンデマンド	医療保険 ・医療保険とはー ・医療保障を実現するしくみ	授業後に、教科書の 16 頁～20 頁の内容を読んで、講義内容について復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の 21 頁～35 頁を読んで予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第４回	オンデマンド	医療保険 ・医療保険の仕組み ・医療保険制度の問題と課題	授業後に、教科書の 21 頁～35 頁を読んで復習してください（2 時間程度）。 また、教科書 38 頁～41 頁を読んで「介護保険」について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第５回	オンデマンド	介護保険 介護保険制度とは ・介護保険制度の概要	授業後に、教科書 38 頁～41 頁を読んで「介護保険」について復習してください（2 時間程度）。 また、教科書 42 頁～54 頁を読んで「介護保険」の概要と課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第６回	オンデマンド	介護保険制度 ・介護保険制度の概要 ・介護保険制度の課題	授業後に、教科書 42 頁～54 頁を読んで「介護保険」の概要と課題について復習してください（2 時間程度）。 また、教科書 58 頁～69 頁の「年金」制度について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第７回	オンデマンド	年金制度 ・年金制度とは何か ・年金制度の仕組み	授業後に、教科書 58 頁～69 頁の「年金」制度の仕組みについて復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の 70 頁～81 頁の「年金」制度の現状と課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第８回	オンデマンド	年金制度 ・年金制度の現状 ・公的年金制度の課題	授業後に、教科書の 70 頁～81 頁の「年金」制度の現状と課題について復習してください。	4 時間
第９回	オンデマンド	中間総括・まとめ ・医療・介護・年金制度の総括、まとめ	授業後に、医療、介護、年金制度について教科書やレジュメを用い、復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の 86 頁～95 頁の「労働者災害補償保険制度」について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１０回	オンデマンド	労働保険 ・労働保険とは ・労働者災害補償保険制度について	授業後に、教科書の 86 頁～95 頁の「労働者災害補償保険制度」について復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の 96 頁～107 頁の「雇用保険制度」と今後の課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１１回	オンデマンド	雇用保険制度 ・雇用保険制度とは ・今後の課題	授業後に、教科書の 96 頁～107 頁の「雇用保険制度」と今後の課題について復習してください（2 時間程度）。 また、教科書の 108 頁～115 頁の「民間保険と社会保険」について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１２回	オンデマンド	民間保険と社会保険 ・保険とは ・民間保険の仕組み ・現状と今後の課題	授業後に、教科書の 108 頁～115 頁の「民間保険と社会保険」について復習してください（2 時間程度）。 配布するレジュメを用い予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１３回	オンデマンド	社会保険制度における現状と課題	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（2 時間程度）。 配布するレジュメを用い予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１４回	オンデマンド	少子高齢化社会における社会保障制度の現状と課題	授業後に、レジュメを用いて講義内容について復習してください（4 時間程度）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	講義全体内容のまとめと総括	授業後に、教科書やレジュメを用いて講義内容について復習してください。	4 時間

科目名	社会福祉法	開講年度	2026 年度春学期
担当者	呉　紅敏	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉、生活保護制度ってどんな制度なの？		
授業の目的及び概要	①社会福祉を学修するために、社会福祉の基本となる理念や歴史、社会福祉の権利などを学ぶことで、福祉制度の個別制度の基礎知識について概説することができる。 ②社会福祉制度は、学生の皆様がこれから社会に出ていって、いざ何か困ったときに、利用できる制度なので、しっかり理解し覚えることができるようにする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この講義では、社会福祉とはなにかという疑問を解き明かすため、福祉の歴史や体系など基本的・基礎的な内容を学ぶうえで、社会環境の変化と動向、そして社会福祉法制度の現状と課題についての認識を得ることを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義において、コメントカードに質問、意見、感想、提案などを書いてもらい、次の授業で回答する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	社会保険法と同じ教科書 ①新・初めての社会保障論（第 3 版），古橋エツ子編，法律文化社，2024 年	ISBN	①9784589038890
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	40
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
社会保障法全体の勉強のためには、春学期の社会保険法の履修もお勧めします。 受講生の勉強状況や理解度に応じて、講義内容が多少前後になることもあります。 毎回レジュメを配布しているので、教科書持たずに、勉強はできますが、レジュメ以外の勉強も必要なので、教科書は必須です。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	何のために社会保障制度があるの？	授業後は、教科書 1－12 頁の第 1 章「社会保障とは」を復習してください（2 時間程度）。 また、118～127 頁の第 7 章社会福祉とはを予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第２回	対面	社会福祉の法体系と目的 ・社会福祉とは	授業後に、118～127 頁の第 7 章社会福祉とはを復習してください（2 時間程度）。	4 時間

			また、128～137 頁の児童福祉を予習してください（2 時間程度）。	
第３回	対面	児童福祉 ・児童福祉とは ・児童福祉の仕組みと現状 ・課題	授業後に、28～137 頁の児童福祉を復習してください（2 時間程度）。 また、138～146 頁の障碍者福祉を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第４回	対面	障碍者福祉とは ・障碍がある人の福祉とは ・障碍者福祉の仕組みと現状 ・今後の課題	授業後に、138～146 頁の障碍者福祉を復習してください（2 時間程度）。 また、147～158 頁の高齢者福祉を復習してください（2 時間程度）。	4 時間
第５回	対面	高齢者福祉 ・高齢者福祉とは ・高齢者福祉の歴史的変遷 ・高齢者福祉に関する法律	授業後に、教科書 147～158 頁の高齢者福祉を復習してください（2 時間程度）。 また、教科書 159～167 頁の社会手当を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第６回	対面	社会手当 ・社会手当とは ・社会手当の種類と概要 ・今後の課題	授業後は、教科書 159～167 頁の社会手当を復習してください（2 時間程度）。 また、38～45 頁の介護保険について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第７回	対面	介護保険 ・介護保険とは ・介護保険の概要	授業後は、38～45 頁の介護保険について復習してください（2 時間程度）。 また、46～57 頁の介護保険の概要と課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第８回	対面	介護保険 ・介護保険の概要 ・今後の課題	授業後に、教科書の 46～57 頁の介護保険の概要と課題について予習してください（2 時間程度）。 また、168～185 頁の生活保護について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第９回	対面	生活保護 ・生活保護とは ・生活保護のしくみ 今後の課題	授業後に、教科書の 168～185 頁の生活保護について復習してください（2 時間程度）。 また、186～193 頁の権利擁護と成年後見制度を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１０回	対面	権利擁護と成年後見制度 ・権利擁護とは ・成年後見制度とは ・今後の課題	授業後に、教科書の 186～193 頁の権利擁護と成年後見制度を復習してください（2 時間程度）。 また、くばるレジュメの社会福祉の展開と福祉人材を予習してください（2 時間程度）	4 時間
第１１回	オンデマンド	社会福祉の展開と福祉人材 ・福祉人材難 ・今後の課題	授業後に、配布したレジュメの社会福祉の展開と福祉人材を用い復習してください（2 時間程度）。 また、配布する社会福祉と社会保険の違いのレジュメを用い予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１２回	対面	社会福祉と社会保険の違いは？	授業後は配布したレジュメを用い復習してください（2 時間程度）。 配布する社会福祉制度の現状課題のレジュメを用い復習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１３回	対面	社会福祉制度の現状と課題	授業後に、配布したレジュメを用いて講義内容について復習してください（2 時間程度）。 教科書の 194 頁～200 頁の「少子高齢化社会における課題」の内容を読んで予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１４回	対面	少子高齢化社会における課題 ・少子高齢化とは ・若年者における課題 ・子育て世代における課題 ・高齢者における課題	授業後に、教科書の１９４頁～２００頁の「少子高齢化社会における課題」の内容を読んで復習してください（4 時間程度）。	4 時間
第１５回	対面	秋学期講義内容のまとめと総括	授業後に、レジュメや教科書を用いて講義内容について復習してください（4 時間程度）。	4 時間

科目名	社会福祉法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	呉　紅敏	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉、生活保護制度とはどんな制度なの？		
授業の目的及び概要	①社会福祉を学修するために、社会福祉の基本となる理念や歴史、社会福祉の権利などを学ぶとともに、福祉制度の個別制度の基礎知識について概説することができる。 ②社会福祉制度は、皆様がこれから社会に出ていって、いざ何か困ったときに、利用できる制度なので、しっかり理解し覚えることができるようにする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この講義では、社会福祉とはなにかという疑問を解き明かすため、福祉の歴史や体系など基本的・基礎的な内容を学ぶうえで、社会環境の変化と動向、そして社会福祉法制度の現状と課題についての認識を得ることを目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の講義において、コメントカードに質問、意見、感想、提案などを書いてもらい、次の授業で回答する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	社会保険法と同じ教科書 ①新・初めての社会保障論（第 3 版），古橋エツ子編，法律文化社，2024 年	ISBN	①9784589038890
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	40
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
社会保障法全体の勉強のためには、春学期の社会保険法の履修もお勧めします。 受講生の勉強状況や理解度に応じて、講義内容が多少前後になることもあります。 教科書を読まずに、また動画をご覧にならずに、適当に出席テストを受ける場合は、欠席にすることもあります。 毎回レジュメを配布しているので、教科書持たずに、勉強はできますが、レジュメ以外の勉強も必要なので、教科書は必須です。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	オンデマンド	何のために社会保障制度があるの？	授業後は、教科書 1－12 頁の第 1 章社会保障とはを復習してください（2 時間程度）。 また、118～127 頁の第 7 章社会福祉とはを予習してください（2 時間程度）。	4 時間

第２回	オンデマンド	社会福祉の法体系と目的 ・社会福祉とは	授業後に、118～127 頁の第 7 章社会福祉とはを復習してください（2 時間程度）。 また、128～137 頁の児童福祉を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第３回	オンデマンド	児童福祉 ・児童福祉とは ・児童福祉の仕組みと現状 ・課題	授業後に、28～137 頁の児童福祉を復習してください（2 時間程度）。 また、138～146 頁の障碍者福祉を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第４回	オンデマンド	障碍者福祉とは ・障碍がある人の福祉とは ・障碍者福祉の仕組みと現状 ・今後の課題	授業後に、138～146 頁の障碍者福祉を復習してください（2 時間程度）。 また、147～158 頁の高齢者福祉を復習してください（2 時間程度）。	4 時間
第５回	オンデマンド	高齢者福祉 ・高齢者福祉とは ・高齢者福祉の歴史的変遷 ・高齢者福祉に関する法律	授業後に、教科書 147～158 頁の高齢者福祉を復習してください（2 時間程度）。 また、教科書 159～167 頁の社会手当を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第６回	オンデマンド	社会手当 ・社会手当とは ・社会手当の種類と概要 ・今後の課題	授業後は、教科書 159～167 頁の社会手当を復習してください（2 時間程度）。 また、38～45 頁の介護保険について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第７回	オンデマンド	介護保険 ・介護保険とは ・介護保険の概要	授業後は、38～45 頁の介護保険について復習してください（2 時間程度）。 また、46～57 頁の介護保険の概要と課題について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第８回	オンデマンド	介護保険 ・介護保険の概要 ・今後の課題	授業後に、教科書の 46～57 頁の介護保険の概要と課題について予習してください（2 時間程度）。 また、168～185 頁の生活保護について予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第９回	オンデマンド	生活保護 ・生活保護とは ・生活保護のしくみ 今後の課題	授業後に、教科書の 168～185 頁の生活保護について復習してください（2 時間程度）。 また、186～193 頁の権利擁護と成年後見制度を予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１０回	オンデマンド	権利擁護と成年後見制度 ・権利擁護とは ・成年後見制度とは ・今後の課題	授業後に、教科書の 186～193 頁の権利擁護と成年後見制度を復習してください（2 時間程度）。 また、くばるレジュメの社会福祉の展開と福祉人材を予習してください（2 時間程度）	4 時間
第１１回	オンデマンド	社会福祉の展開と福祉人材 ・福祉人材難 ・今後の課題	授業後に、配布したレジュメの社会福祉の展開と福祉人材を用い復習してください（2 時間程度）。 また、配布する社会福祉と社会保険の違いのレジュメを用い予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１２回	オンデマンド	社会福祉と社会保険の違いは？	授業後は配布したレジュメを用い復習してください（2 時間程度）。 配布する社会福祉制度の現状課題のレジュメを用い復習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１３回	オンデマンド	社会福祉制度の現状と課題	授業後に、配布したレジュメを用いて講義内容について復習してください（2 時間程度）。 教科書の 194 頁～200 頁の「少子高齢化社会における課題」の内容を読んで予習してください（2 時間程度）。	4 時間
第１４回	オンデマンド	少子高齢化社会における課題 ・少子高齢化とは ・若年者における課題 ・子育て世代における課題 ・高齢者における課題	授業後に、教科書の１９４頁～２００頁の「少子高齢化社会における課題」の内容を読んで復習してください（4 時間程度）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	秋学期講義内容のまとめと総括	授業後に、レジュメや教科書を用いて講義内容について復習してください（4 時間程度）。	4 時間

科目名	国際法Ⅰ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	濵田　早絵	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代国際社会を規律する国際法の基本的事項		
授業の目的及び概要	本授業では、2026 年 2 月に発生した対イラン攻撃やロシア・ウクライナ紛争、パレスチナ情勢などの最新事案をケーススタディとし、国際関係を規律する国際法の基本構造を学習する。第一に、国際法の専門知識を体系的に理解し、関連性の高い問題に応用できる知識の習得を目指す。第二に、現代国際社会の諸問題を国際法的観点から多角的に分析し、それらに対する論理的な法的思考力を育むことを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業を通して、学生は以下の能力の修得を目標とする。 ①知識の習得・説明：国際法の基本事項（専門用語、主要な条文、判例等）を具体的な文脈において適切に説明することができる。 ②法理の適用・分析：現代社会の諸問題に対し、国際法の法理を適切に当てはめ、法的に分析することができる。 ③論理的・法的思考：個別の事案から法的問題を抽出し、論拠に基づく論理的な意見を適切な表現（リーガル・ライティング等）を以って述べることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントや質問は翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足の説明を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	国際法，第 6 版，浅田正彦，東信堂，2025 年	ISBN	9784798919461
参考書	テーマごとに配布資料に掲載する予定	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	45
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	40
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	導入（国際法の基本構造）	（予習）教科書の目次・1 章（pp.3～21）を通覧する。Learning portal で配布されるレジュメ・資料をダウンロードし、概要を確認する（1 時間程度）。 （復習）教科書の 1 章の指定箇所を再読し、講義内容の要点を整理する。授業内で発問に対する回答を検	4 時間

			討し、記録する（3 時間程度）。	
第２回	対面	法源(1)：条約	（予習）教科書の 3 章を通覧する。Learning portal で配布されるレジュメ・資料をダウンロードし、概要を確認する（1 時間程度）。 （復習）教科書の 3 章を再読し、講義内容の要点を整理する。授業内で発問に対する回答を検討し、記録する（3 時間程度）。	4 時間
第３回	対面	法源(2)：慣習法	（予習）教科書の 2 章を通覧する。Learning portal で配布されるレジュメ・資料をダウンロードし、概要を確認する（1 時間程度）。 （復習）教科書の 2 章を再読し、講義内容の要点を整理する。授業内で発問に対する回答を検討し、記録する（2.5 時間程度）。	3.5 時間
第４回	対面	主体(1)：国家の成立と承認	（予習）教科書の 4 章を通覧する。Learning portal で配布されるレジュメ・資料をダウンロードし、概要を確認する（1 時間程度）。 （復習）教科書の 4 章を再読し、講義内容の要点を整理する。授業内で発問に対する回答を検討し、記録する（2.5 時間程度）。	3.5 時間
第５回	対面	主体(2)：国家の主権と管轄権	（予習）教科書の 5 章を通覧する。Learning portal で配布されるレジュメ・資料をダウンロードし、概要を確認する（1 時間程度）。 （復習）教科書の 5 章を再読し、講義内容の要点を整理する。授業内で発問に対する回答を検討し、記録する（2.5 時間程度）。	3.5 時間
第６回	対面	国際安全保障	（予習）教科書の 18 章（pp.475～502）を通覧する。Learning portal で配布されるレジュメ・資料をダウンロードし、概要を確認する。指定された資料を精読し、討議の準備として論点を整理しておく（2 時間程度）。 （復習）教科書の 18 章の指定箇所を再読し、講義内容の要点を整理する。対面討議を踏まえて、掲示板へ個人の見解を投稿（返信）する（4 時間程度）。	6 時間
第７回	対面	自衛権・国家責任法	（予習）教科書の 15 章を通読する。Learning portal で配布されるレジュメ・資料をダウンロードし、概要を確認する（1.5 時間程度）。 （復習）教科書の 15 章を再読の上、レジュメ、資料を参照しながら個別レポートを作成し、提出する（4.5 時間程度）。	6 時間
第８回	対面	紛争の平和的解決	（予習）教科書の 17 章を通覧する。Learning portal で配布されるレジュメ・資料をダウンロードし、概要を確認する（1 時間程度）。 （復習）教科書の 17 章を再読し、講義内容の要点を整理する。授業内で発問に対する回答を検討し、記録する（2.5 時間程度）。	3.5 時間
第９回	対面	軍縮・核不拡散	（予習）教科書の 18 章（pp.508～512）と Learning portal で配布される参考資料を通覧する。Learning portal で配布されるレジュメ・資料をダウンロードし、概要を確認する（1 時間程度）。 （復習）教科書の 18 章と資料を再読し、講義内容の要点を整理する。授業内で発問に対する回答を検討し、記録する（2.5 時間程度）。	3.5 時間
第１０回	対面	外交関係	（予習）教科書の 6 章を通覧する。Learning portal で配布されるレジュメ・資料をダウンロードし、概要を確認する（1 時間程度）。 （復習）教科書の 6 章を再読し、講義内容の要点を整理する。授業内で発問に対する回答を検討し、記録す	3.5 時間

			る（2.5 時間程度）。	
第１１回	対面	人権(1)：国籍と外国人の地位	（予習）教科書の 11 章（pp.273～284）を通覧する。Learning portal で配布されるレジュメ・資料をダウンロードし、概要を確認する（1 時間程度）。 （復習）教科書の 11 章の指定箇所を再読し、講義内容の要点を整理する。授業内で発問に対する回答を検討し、記録する（2.5 時間程度）。	3.5 時間
第１２回	対面	人権(2)：国際的保障制度	（予習）教科書の 12 章を通覧する。Learning portal で配布されるレジュメ・資料をダウンロードし、概要を確認する（1 時間程度）。 （復習）教科書の 12 章を再読し、講義内容の要点を整理する。授業内で発問に対する回答を検討し、記録する（2.5 時間程度）。	3.5 時間
第１３回	対面	人権(3)：難民の保護	（予習）教科書の 11 章（pp.284～293）を通覧する。Learning portal で配布されるレジュメ・資料をダウンロードし、概要を確認する（1 時間程度）。 （復習）教科書の 11 章の指定箇所を再読し、講義内容の要点を整理する。授業内で発問に対する回答を検討し、記録する（2.5 時間程度）。	3.5 時間
第１４回	対面	国際刑事法	（予習）教科書の 13 章を通覧する。Learning portal で配布されるレジュメ・資料をダウンロードし、概要を確認する（1 時間程度）。 （復習）教科書の 13 章を再読し、講義内容の要点を整理する。授業内で発問に対する回答を検討し、記録する（2.5 時間程度）。	3.5 時間
第１５回	オンデマンド	今学期の講義総括	（予習）教科書、これまでに配布されたレジュメ・資料等と自身の学習記録を見直して、各自が理解不足と感じるテーマを再確認しておく（1 時間程度）。 （復習）オンデマンド動画を視聴した上で、教科書、レジュメ、資料を参照してコンセプトマップやノートを作成する（4 時間程度）。	5 時間

科目名	政治過程論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	山口　治男	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政治過程の可視化と動態分析		
授業の目的及び概要	日本では 55 年体制と呼ばれる一党優位の政治が長年続いてきました。政治過程の分析では、「政党や利益団体といったアクターに注目しながら選挙や政策決定過程を見ていく」という手法が一般的ですが、その意味では「日本の政治」は分析しやすいものでもあります。 しかし、そのようなミクロな視点だけでは「なぜこのような政治体制になっているのか」、「どのようにしたら良いのか」、といったダイナミズムは理解しにくいのが実情です。具体的で実証的ではあっても、実学としての政治学や、政治的有効性を感じにくいものだとも言えます。 そのため、この講義ではより広い世界の政治過程を、歴史的なプロセスや動態も含めて学んでいくことで、「政治過程」をよりダイナミックに捉えていきます。 また、目の前で映像を受講するというオンデマンド講義の利点を活かし、学生の皆さんが日頃目にすることが少ないような映像資料も多く使用して講義を進めていきます。 近年の日本政治過程は、国内政治という意味でも国際政治という意味でも大きな転換点を迎えています。自分たちの政治を、自分の目で見て自分の頭で考えられる力を、一緒に身につけていきましょう。		
履修条件・留意点	この講義では毎週、パワーポイントを用いたレクチャーの録画を配信して、それを受講していくことを基本とします。 動画のアップロードと同時期に、講義内で使用したパワーポイントのハンドアウトの PDF を配信しますので、適宜メモなどを取りながら受講するのが望ましいでしょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・政治過程において政策課題の決定・実施がどのように進んでいるのかを現実の事例から学び、基礎的な知識と思考の枠組みを獲得する。 ・教養としての歴史や地理についての基礎的な知識を身につける。 ・具体的な現代の様々な事例に対しても応用できる力を身につけていく。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の配信で実施する小テスト（ラーニングポータル）内で、課題への回答以外にも質問を入力して受け付けられるようにする。個別の応答以外にも、必要な情報に関しては追加の資料やラーニングポータルへの掲示などで全体へフィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない	ISBN	なし
参考書	毎回の講義で、当日の講義内容をより深く学ぶための参考文献を数冊指示する。全体としての参考文献としては以下を指定する。 『はじめての政治学』，佐藤史郎編，法律文化社，2021 年	ISBN	9784589041425

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0

	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・教養として知識を身につけて欲しいとは思っていますが、講義内容を全て覚えるようなことは想定していません。一回一回の講義を集中して受講し、それらを理解し、自分の頭で考え、言葉にする力を身につけていってください。 ・復習は主にショートレポートの作成を通じて行なってもらいます。講義を普通に受けていれば分かる程度の内容について、キーワードを中心に整理・考察してもらいます。 ・現実の政治を理解することが目的ですので、日頃ニュースを見ておくと講義の理解が深まり、実学にもつながります。 ・扱う内容は、学生の理解度や関心に応じて変更することがありますので、分からない点はもちろん、分かったこと、興味を持ったことなど、積極的な質問を歓迎します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	政治過程論とは何か	事前学習として、シラバスをよく読み講義の方向性について把握しておく。事後学習として、授業後に、この講義で学ぶ政治過程論の概要についてレジュメやノートを用いて確認し、現代の政治について予習すること	4 時間
第２回	オンデマンド	民主主義の萌芽	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。また、近代政治の基本とも言える民主主義の歴史と仕組みについて、具体的な経緯と重要性について説明できるようにしておくこと	4 時間
第３回	オンデマンド	民主主義と帝国主義	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。デモクラティック・ピース論についての理解を深め、現実の政治過程から説明できるようにすること	4 時間
第４回	オンデマンド	技術の発展と政治の変化	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。飛行機や原子力、マスメディアといった、技術的な変化が社会と政治に与える影響について論述できるようにすること	4 時間
第５回	オンデマンド	ポピュリズムと民主主義	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。メディアの発展がもたらした影響について歴史から学び取り、現代のポピュリズムについて考察できるようにすること	4 時間
第６回	オンデマンド	市民社会の発展と戦争	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。戦争の惨禍について具体的な政治過程と歴史から理解し、現代の事例について考察できるようにすること	4 時間
第７回	オンデマンド	民族主義と政治	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。欧米における民主主義と民族自決の関係について理解し、現代の状況について考察できるようにすること	4 時間
第８回	オンデ	国際政治構造と国内政治過程	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュ	4 時間

	マンド		ースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。大国同士の対立がどのように生み出され、政治過程に対してどのような影響を与えてきたのかを理解し、考察できるようにすること	
第９回	オンデマンド	軍事力と政治過程	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。勢力均衡によってもたらされている「安定」について歴史・理論から理解し、現代とこれからの日本の安全保障政策について考察できるようにすること	4 時間
第１０回	オンデマンド	メディアの変質と政治過程の変化	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。情報がもたらす影響力についての理解を踏まえ、オルタナティブな情報の流れが生み出す政治過程について考察できるようにすること	4 時間
第１１回	オンデマンド	ポスト冷戦と民族主義の政治過程	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。ポスト・コロニアルという観点から民族主義について理解し、現代の政治過程について考察を加えられるようにすること	4 時間
第１２回	オンデマンド	世界の中の日本	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。日本の政治を客観的に捉えるとともに、国内レベルと国際レベルが相互作用する政治過程について理解し、論述できるようにする	4 時間
第１３回	オンデマンド	５５年体制の再考	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。これまでの講義内容を踏まえ、改めて現代の政治の状況について考察し、論述できるようにする	4 時間
第１４回	オンデマンド	日本の政治過程の変化	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。ここまでの講義全体の流れを整理した上で、これからの日本の政治について考察し、論述できるようにする	4 時間
第１５回	オンデマンド	講義のポイントとレポートについての確認	事前学習として、これまでの具体的事例のポイントについてまとめた上で自身が関心のある事例について候補を考えておく。事後学習として、アカデミック・ライティングの大原則をしっかりと復習し、準備を進める。また、考察の前提となる教科書的な政治の仕組みについての基礎を固めておく。講義全体を通して重要となっていた概念や理論、歴史等のポイントについてまとめた上で、自身でレポートとしてまとめられるようにする。	4 時間

科目名	政治過程論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	山口　治男	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政治過程の可視化と動態分析		
授業の目的及び概要	日本では 55 年体制と呼ばれる一党優位の政治が長年続いてきました。政治過程の分析では、「政党や利益団体といったアクターに注目しながら選挙や政策決定過程を見ていく」という手法が一般的ですが、その意味では「日本の政治」は分析しやすいものでもあります。 しかし、そのようなミクロな視点だけでは「なぜこのような政治体制になっているのか」、「どのようにしたら良いのか」、といったダイナミズムは理解しにくいのが実情です。具体的で実証的ではあっても、実学としての政治学や、政治的有効性を感じにくいものだとも言えます。 そのため、この講義ではより広い世界の政治過程を、歴史的なプロセスや動態も含めて学んでいくことで、「政治過程」をよりダイナミックに捉えていきます。 また、目の前で映像を受講するというオンデマンド講義の利点を活かし、学生の皆さんが日頃目にすることが少ないような映像資料も多く使用して講義を進めていきます。 近年の日本政治過程は、国内政治という意味でも国際政治という意味でも大きな転換点を迎えています。自分たちの政治を、自分の目で見て自分の頭で考えられる力を、一緒に身につけていきましょう。		
履修条件・留意点	この講義では毎週、パワーポイントを用いたレクチャーの録画を配信して、それを受講していくことを基本とします。 動画のアップロードと同時期に、講義内で使用したパワーポイントのハンドアウトの PDF を配信しますので、適宜メモなどを取りながら受講するのが望ましいでしょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・政治過程において政策課題の決定・実施がどのように進んでいるのかを現実の事例から学び、基礎的な知識と思考の枠組みを獲得する。 ・教養としての歴史や地理についての基礎的な知識を身につける。 ・具体的な現代の様々な事例に対しても応用できる力を身につけていく。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の配信で実施する小テスト（ラーニングポータル）内で、課題への回答以外にも質問を入力して受け付けられるようにする。個別の応答以外にも、必要な情報に関しては追加の資料やラーニングポータルへの掲示などで全体へフィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない	ISBN	なし
参考書	毎回の講義で、当日の講義内容をより深く学ぶための参考文献を数冊指示する。全体としての参考文献としては以下を指定する。 『はじめての政治学』，佐藤史郎編，法律文化社，2021 年	ISBN	9784589041425

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0

	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・教養として知識を身につけて欲しいとは思っていますが、講義内容を全て覚えるようなことは想定していません。一回一回の講義を集中して受講し、それらを理解し、自分の頭で考え、言葉にする力を身につけていってください。 ・復習は主にショートレポートの作成を通じて行なってもらいます。講義を普通に受けていれば分かる程度の内容について、キーワードを中心に整理・考察してもらいます。 ・現実の政治を理解することが目的ですので、日頃ニュースを見ておくと講義の理解が深まり、実学にもつながります。 ・扱う内容は、学生の理解度や関心に応じて変更することがありますので、分からない点はもちろん、分かったこと、興味を持ったことなど、積極的な質問を歓迎します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	政治過程論とは何か	事前学習として、シラバスをよく読み講義の方向性について把握しておく。事後学習として、授業後に、この講義で学ぶ政治過程論の概要についてレジュメやノートを用いて確認し、現代の政治について予習すること	4 時間
第２回	オンデマンド	民主主義の萌芽	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。また、近代政治の基本とも言える民主主義の歴史と仕組みについて、具体的な経緯と重要性について説明できるようにしておくこと	4 時間
第３回	オンデマンド	民主主義と帝国主義	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。デモクラティック・ピース論についての理解を深め、現実の政治過程から説明できるようにすること	4 時間
第４回	オンデマンド	技術の発展と政治の変化	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。飛行機や原子力、マスメディアといった、技術的な変化が社会と政治に与える影響について論述できるようにすること	4 時間
第５回	オンデマンド	ポピュリズムと民主主義	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。メディアの発展がもたらした影響について歴史から学び取り、現代のポピュリズムについて考察できるようにすること	4 時間
第６回	オンデマンド	市民社会の発展と戦争	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。戦争の惨禍について具体的な政治過程と歴史から理解し、現代の事例について考察できるようにすること	4 時間
第７回	オンデマンド	民族主義と政治	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。欧米における民主主義と民族自決の関係について理解し、現代の状況について考察できるようにすること	4 時間
第８回	オンデ	国際政治構造と国内政治過程	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュ	4 時間

	マンド		ースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。大国同士の対立がどのように生み出され、政治過程に対してどのような影響を与えてきたのかを理解し、考察できるようにすること	
第９回	オンデマンド	軍事力と政治過程	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。勢力均衡によってもたらされている「安定」について歴史・理論から理解し、現代とこれからの日本の安全保障政策について考察できるようにすること	4時間
第１０回	オンデマンド	メディアの変質と政治過程の変化	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。情報がもたらす影響力についての理解を踏まえ、オルタナティブな情報の流れが生み出す政治過程について考察できるようにすること	4時間
第１１回	オンデマンド	ポスト冷戦と民族主義の政治過程	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。ポスト・コロニアルという観点から民族主義について理解し、現代の政治過程について考察を加えられるようにすること	4時間
第１２回	オンデマンド	世界の中の日本	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。日本の政治を客観的に捉えるとともに、国内レベルと国際レベルが相互作用する政治過程について理解し、論述できるようにする	4時間
第１３回	オンデマンド	５５年体制の再考	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。これまでの講義内容を踏まえ、改めて現代の政治の状況について考察し、論述できるようにする	4時間
第１４回	オンデマンド	日本の政治過程の変化	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。ここまでの講義全体の流れを整理した上で、これからの日本の政治について考察し、論述できるようにする	4時間
第１５回	オンデマンド	講義のポイントとレポートについての確認	事前学習として、これまでの具体的事例のポイントについてまとめた上で自身が関心のある事例について候補を考えておく。事後学習として、アカデミック・ライティングの大原則をしっかりと復習し、準備を進める。また、考察の前提となる教科書的な政治の仕組みについての基礎を固めておく。講義全体を通して重要となっていた概念や理論、歴史等のポイントについてまとめた上で、自身でレポートとしてまとめられるようにする。	4時間

科目名	行政学	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	壬生　裕子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政の制度・組織・活動を理解する		
授業の目的及び概要	私たちの生活はもちろん、政治・経済・社会の分野で今日起こるさまざまな出来事は行政と密接に関係しています。 この授業では、行政国家の成立と行政学の発展について学んだのち、行政を制度・組織・活動の 3 つの要素でとらえて順に考察を加えながら、行政が政治・経済・社会に与える影響、政治・経済・社会が行政に与える影響を考えていきます。 授業をとおして行政に関する専門知識を学び、行政をとりまく状況を理解する幅広い視野を育みましょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政の制度・組織・活動に関する基本的な専門知識を理解し、政治・経済・社会のさまざまな出来事と行政との関係を自ら分析できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートの提出結果は翌週以降の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。 その他寄せられた質問も、授業中に共有します。 試験結果については、授業支援システム（Learning Portal）に講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストはとくに指定しません。	ISBN	なし
参考書	①新版　現代の行政[第 2 版]、森田朗、第一法規、2022 年 ②行政学[新版]、真渕勝、有斐閣、2020 年	ISBN	①9784474077003 ②9784641149359

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	70
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	30
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	国や地方の行政に関心のある方、ぜひ受講してみてください。 授業では行政に関する基本知識についてお話することはもちろん、時事問題や教員が経験した事例も紹介します。 行政を理解することで、日々のニュースや社会問題を深く考察することができるようになりますよ。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	「行政学」とはどのような学問か、この授業で学ぶことと到達目標、授業の進め方、	【予習】シラバスを事前に読んでおいてください。 【復習】ガイダンス資料および講義ノートを読み直	4 時間

		成績評価の方法・基準などのガイダンスを行います。	し、今後の講義の内容を確認すること。	
第２回	対面	行政国家の形成について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「行政国家」に目を通しておくこと。 【復習】資料「行政国家」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第３回	対面	行政学の学説がどのように展開してきたかを学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「行政学の発展」に目を通しておくこと。 【復習】資料「行政学の発展」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第４回	対面	行政に関する制度、とくに議院内閣制について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「行政制度」に目を通しておくこと。 【復習】資料「行政制度」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第５回	対面	日本における行政改革の取組について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「行政改革」に目を通しておくこと。 【復習】資料「行政改革」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第６回	対面	ウェーバーの官僚制や組織に関するさまざまな理論について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「官僚制と組織論」に目を通しておくこと。 【復習】資料「官僚制と組織論」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第７回	対面	日本の行政組織の特徴と、これまで取り組まれてきた改革について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「日本の行政組織」に目を通しておくこと。 【復習】資料「日本の行政組織」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第８回	対面	日本の公務員制度の現状と課題について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「日本の公務員制度」に目を通しておくこと。 【復習】資料「日本の公務員制度」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第９回	対面	日本の財政、予算・決算ついて学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「日本の財政」に目を通しておくこと。 【復習】資料「日本の財政」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第１０回	対面	政策の構造と政策過程を学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「政策と政策過程」に目を通しておくこと。 【復習】資料「政策と政策過程」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第１１回	対面	政策過程のうち、政策立案と政策決定について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「政策立案と政策決定」に目を通しておくこと。 【復習】資料「政策立案と政策決定」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第１２回	対面	政策過程のうち、政策実施と政策評価について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「政策実施と政策評価」に目を通しておくこと。 【復習】資料「政策実施と政策評価」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第１３回	対面	行政をコントロールする方法について学びます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「行政統制」に目を通しておくこと。 【復習】資料「行政統制」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第１４回	対面	行政に関する時事問題をとりあげ、原因や改善策を考えます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「時事問題」に目を通しておくこと。 【復習】資料「時事問題」および講義ノートを読み直し、講義の内容を確認すること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの授業の内容を総括し、行政学の役割と可能性を考えます。	【予習】「Learning Portal」に掲載する資料「まとめ」に目を通しておくこと。 【復習】資料「まとめ」および講義ノートを読み直し、	4 時間

			講義の内容を確認すること。	

科目名	行政学	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉川　貴代	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政の制度・組織・活動を理解する		
授業の目的及び概要	私たちの生活はもちろん、政治・経済・社会の分野で今日起こるさまざまな出来事は行政と密接に関係しています。 この授業では、行政国家の成立と行政学の発展について学んだのち、行政を制度・組織・活動の 3 つの要素でとらえて順に考察を加えながら、行政が政治・経済・社会に与える影響、政治・経済・社会が行政に与える影響を考えていきます。 この科目を履修することにより、日本の行政の活動の概要が理解でき、行政機関で働きたいと考えている学生には、将来自分が働く行政の仕組みを理解することができる。また、行政機関以外での就職を考えている場合も、行政が取引先になることもあるので、行政の仕組みを理解しておくと、役立つ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政の制度・組織・活動に関する基本的な専門知識を理解し、政治・経済・社会のさまざまな出来事について、行政がどのように関わっているのかを理解し、説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートの提出結果は翌週以降の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。 その他寄せられた質問も、授業中に共有します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。	ISBN	なし
参考書	①新版　現代の行政[第 2 版]，森田朗，第一法規，2022 年 ②行政学[新版]，真渕勝，有斐閣，2020 年	ISBN	①9784474077003 ②9784641149359

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	国や地方の行政に関心のある方、公務員志望の方におすすめの授業です。 資料は事前に掲載しますので、各自でダウンロードのうえ、授業に出席すること（１回目のみ印刷したものを配布するが、２回目以降は配布しません）。 授業に無関係なことを行うなど、他の履修生の学修の妨げになる行為をする場合は、退室を命じることがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	ガイダンス 「行政」とは何か。 現代国家における行政活動について学びます。	【予習】シラバスを事前に読んでおいてください。(2時間) 【復習】資料および講義ノートを読み直し、今後の講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第２回	対面	行政国家の形成について学びます。	【予習】事前に掲載する資料をダウンロードし、読んでおくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第３回	対面	行政学の学説がどのように展開してきたかを学びます。	【予習】事前に掲載する資料をダウンロードし、読んでおくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第４回	対面	日本の政府体系 中央と地方、議会と行政府などについて学びます。	【予習】　事前に掲載する資料をダウンロードし、読んでおくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第５回	対面	日本の政府体系 内閣制度などについて学びます。	【予習】　事前に掲載する資料をダウンロードし、読んでおくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第６回	対面	官僚制 ウェーバーの官僚理論などについて学びます。	【予習】事前に掲載する資料をダウンロードし、読んでおくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第７回	対面	現代組織論を学びます。	【予習】事前に掲載する資料をダウンロードし、読んでおくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第８回	対面	日本の行政組織 特徴、決定の方式、行政組織の改革などを学びます。	【予習】事前に掲載する資料をダウンロードし、読んでおくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第９回	対面	人事管理と財務管理について学びます。	【予習】事前に掲載する資料をダウンロードし、読んでおくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第１０回	対面	行政と情報技術について学びます。	【予習】事前に掲載する資料をダウンロードし、読んでおくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第１１回	対面	行政活動と政策について学びます。	【予習】事前に掲載する資料をダウンロードし、読んでおくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第１２回	対面	政策決定について学びます。	【予習】事前に掲載する資料をダウンロードし、読んでおくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第１３回	対面	政策の執行について学びます。	【予習】事前に掲載する資料をダウンロードし、読んでおくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第１４回	対面	政策評価について学びます。	【予習】事前に掲載する資料をダウンロードし、読んでおくこと。(2時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2時間)	4時間
第１５回	オンデ	これまでの授業の内容を総括し、行政学の	【予習】事前に掲載する資料をダウンロードし、読ん	4時間

	マンド	役割と可能性を考えます。	でおくこと。(2 時間) 【復習】資料を読み直し、講義の内容を確認すること。(2 時間)	

科目名	政治思想史	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	川﨑　修敬	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政治における自由と民主主義について。ルーツおよび近代・現代にいたる歴史的変遷、その特徴や基盤の思想的検討。		
授業の目的及び概要	「政治思想史」では、市民社会と個人主義が台頭してきた近代以降の政治が中心になる。具体的には、マキャベリやホッブズ、ロック、ルソ-における人間理解とその政治的側面が中心となる。その際、重視されるのは、政治の主体である自由で平等な近代的個人像とその特徴、ならびにその自然（本性）についての考え方にある。何故ならば、思想史上の理論における政治や国家観に関する相違は、そこに起因するからである。また、ここで学んだ内容は現代の政治を考えるために基本的な立脚点にもなりうることが期待されている。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	政治に対するさまざまな歴史的・思想的見方を学ぶことにより、対象について、今まで考えてこなかった、より多面的で深化された政治的観察力と判断力を養うことが可能になる。 またそれを踏まえたうえで、専門知識を踏まえながら政治について自分で考え、発言し、説明することが出来るようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生に各講義終了後に書いてもらうペーパーについて講評と回答を次回講義の冒頭に行う。また希望者には個別に指導を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし。なお授業中に講義内容のレジュメ、プリント等を配布する。	ISBN	なし
参考書	①藤原保信著作集〈第 3 巻〉西洋政治理論史(上)，藤原保信，新評論，2005 年 ②藤原保信著作集〈第 4 巻〉西洋政治理論史(下)，藤原保信，新評論，2005 年 ③マキァヴェリアン・モーメント―フィレンツェの政治思想と大西洋圏の共和主義の伝統，J・G・A・ポーコック，名古屋大学出版会，2008 年 ④自我の源泉――近代的アイデンティティの形成，チャールズ・テイラー ，名古屋大学出版会，2010 年 ⑤精神史としての政治思想史―近代的政治思想成立の認識論的基礎，小野紀明，行人社，1988 年 ⑥近代政治思想の基礎――ルネッサンス、宗教改革の時代 ，クエンティン スキナー，春風社，2009 年 ⑦ハイデガーの政治哲学，小野紀明，岩波書店，2010 年 ⑧野蛮と宗教Ⅰ――エドワード・ギボンの啓蒙，J・G・A・ポーコック，名古屋大学出版会，2021 年 ⑨野蛮と宗教Ⅱ――市民的統治の物語，J・G・A・ポーコック，名古屋大学出版会，2022 年 ⑩新装版ソフィーの世界（上），ヨースタイン・ゴルデル，NHK 出版，2011 年 ⑪新装版ソフィーの世界（下），ヨースタイン・ゴルデル，NHK 出版，2011 年	ISBN	①ISBN-13 ： 978-4794806734 ②ISBN-13 ： 978-4794806833 ③ISBN-13 ： 978-4815805753 ④ISBN-13 ： 978-4815806484 ⑤ISBN-13 ： 978-4905978329 ⑥ISBN-13 ： 978-4861101816 ⑦ISBN-13 ： 978-4000244534 ⑧ISBN-13 ： 978-4815810412 ⑨ISBN-13 ： 978-4815810962 ⑩ISBN-13 ： 978-414081

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	10
	【定期試験】レポート試験	50
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	私語など講義中のマナーには、くれぐれも気をつけるように。うるさい場合には退室を命じる。なお授業を受ける前に、高校の教科書『世界史』のヨーロッパに関わる部分を復習しておくこと。具体的にいえば古代ギリシャから中世キリスト教世界、近代市民革命と産業革命までの歴史を忘れている場合、教科書の該当箇所をもう一度読んできて欲しい。また、分からない点に関しては授業終了後など質問してもらえれば、出来る限り丁寧に答えていく。学問上の質問は大歓迎である。また授業中に学生諸君の意見を求める場合には積極的に参加して欲しい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	「政治思想史」の概要、および政治思想史の一般的性質について。また授業全般についてのガイダンスと成績評価方法の詳細。	【予習】高校の教科書などで該当箇所について学んでおく（2 時間程度）。 【復習】授業のガイダンスを踏まえ、さらに政治思想について問題点を再考しておく（2 時間程度）。	4 時間
第２回	対面	ヨーロッパ近代の開始とルネッサンス期の一般的特徴	【予習】高校の教科書などで該当箇所について学んでおく（2 時間程度）。 【復習】授業で言及した政治と宗教について問題点を再考しておく（2 時間程度）。	4 時間
第３回	対面	マキャベリの政治思想（1）、権力について。『君主論』を中心に	【予習】高校の教科書などでルネサンスについて学んでおく（1 時間程度）。 【復習】『君主論』とマキャベリにまつわる誤解と正しく理解（3 時間程度）。	4 時間
第４回	対面	マキャベリの政治思想（2）、ルネッサンスと市民的共和政の理論。『ディスコルシ、リヴィウス論』を中心に	【予習】前回の内容を踏まえつつ、授業で触れた古典古代の影響を整理しておく（2 時間程度）。 【復習】権力政治と共和主義の関係を再確認する（2 時間程度）。	4 時間
第５回	対面	絶対主義国家と市民革命への道程、ボダンの「主権」概念と近代的秩序	【予習】高校の教科書などでフランス絶対主義国家とヨーロッパ国際秩序の成立をおさらいしておく（2 時間程度）。 【復習】近代国家の成立と個人の自由について、授業のレジュメとノートで再確認する（2 時間程度）。	4 時間
第６回	対面	社会契約論の確立（1）。ホッブズの自然状態と人間性について	【予習】高校の教科書などでホッブズとイギリス市民革命について調べておく（2 時間程度）。 【復習】ホッブズの自然状態では何故必然的に争いは不可避なのか、レジュメとノートをよく見直して理解しておく（2 時間程度）。	4 時間
第７回	対面	社会契約論の確立（2）。ホッブズの国家理論について	【予習】講義でふれた政治的合理性（計算合理性）について、レジュメやノート、もしくは参考書で調べておく（2 時間程度）。 【復習】ホッブズの国家理論の近代性についてレジュメやノートをよく見直して理解する（2 時間程度）。	4 時間
第８回	対面	社会契約論の進展（1）。ロックの国家と自然状態について	【予習】高校の教科書などで、ジョン・ロックの政治的立場を調べておく（2 時間程度）。 【復習】自然状態についてロックとホッブズの共通点と相違点とレジュメやノートでしっかりおさえておく（2 時間程度）。	4 時間

第９回	対面	社会契約論の進展（2）。ロックの人間理解について	【予習】ロックの自然状態において人間は、どのような性質を有するか、レジュメやノートで確認しておく（2 時間程度）。 【復習】ロックにおける人間の合理性が近代市民社会といかに適合的か、この点についてレジュメやノートでよく確認しておく（2 時間程度）。	4 時間
第１０回	対面	社会契約論の進展（3）。ロックの国家における議会と立憲政治について	【予習】高校世界史の教科書などで、名誉革命の経緯と目標を確認しておく（2 時間程度）。 【復習】ロックの国家が、ホッブズとは違い議会主義的な特長を備えていく経緯をレジュメやノートなどで確認する（2 時間程度）。	4 時間
第１１回	対面	社会契約論の発展（1）。ルソーの自然状態について （補足）フランス啓蒙主義と政治性――モンテスキューを手掛かりに。	【予習】高校の教科書などでルソーや当時のフランス社会の様子を確認しておく（2 時間程度）。 【復習】ルソーの自然理解がただ野蛮で原始的な状態ではないことをレジュメやノートをよく見直して理解する（2 時間程度）。	4 時間
第１２回	対面	社会契約論の発展（2）。ルソーの人間理解について	【予習】ルソーの理解する自然状態では人間はどのように振る舞うかレジュメやノートで確認しておく（2 時間程度）。 【復習】ルソーにとって人間のあり方と合理主義の関係について、レジュメとノートをよく見直して理解する（2 時間程度）。	4 時間
第１３回	対面	社会契約論の発展（3）。ルソーの国家理論と一般意志について	【予習】ルソーにおける意志についてレジュメやノートで確認しておく（1 時間程度）。 【復習】一般意志と全体意志、契約的国家と古代的都市国家、理性と計算合理性、これらの違いと問題点をレジュメやノートを見直してよく考えてみる（3 時間程度）。	4 時間
第１４回	対面	社会契約論に対する史的批判と発展的解消。またイギリスの功利主義とマルクス主義の台頭	【予習】高校の教科書などでフランス革命から産業革命までを広くおさらいしておく（1 時間程度）。 【復習】社会契約論に対する批判のなかでとりわけ問題となった合理性と人間理解をレジュメとノートを見直して確認する（3 時間程度）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド授業回 学期末の成績判定に向けて、今までの授業内容の確認と疑問点の解消。学生の個別学習についての手引き。	【予習】今まで配布した資料をもう一度見直してみる（2 時間程度）。 【復習】授業内容のおさらいと特に強調したポイントをふまえて総復習する（2 時間程度）。	4 時間

科目名	政治思想史	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	川﨑　修敬	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政治における自由と民主主義について。ルーツおよび近代・現代にいたる歴史的変遷、その特徴や基盤の思想的検討。		
授業の目的及び概要	「政治思想史」では、市民社会と個人主義が台頭してきた近代以降の政治が中心になる。具体的には、マキャベリやホッブズ、ロック、ルソ-における人間理解とその政治的側面が中心となる。その際、重視されるのは、政治の主体である自由で平等な近代的個人像とその特徴、ならびにその自然（本性）についての考え方にある。何故ならば、思想史上の理論における政治や国家観に関する相違は、そこに起因するからである。また、ここで学んだ内容は現代の政治を考えるために基本的な立脚点にもなりうることが期待されている。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	政治に対するさまざまな歴史的・思想的見方を学ぶことにより、対象について、今まで考えてこなかった、より多面的で深化された政治的観察力と判断力を養うことが可能になる。 またそれを踏まえたうえで、専門知識を踏まえながら政治について自分で考え、発言し、説明することが出来るようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	学生に各講義終了後に書いてもらうペーパーについて講評と回答を次回講義の冒頭に行う。また希望者には個別に指導を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし。なお授業中に講義内容のレジュメ、プリント等を配布する。	ISBN	なし
参考書	①藤原保信著作集〈第 3 巻〉西洋政治理論史(上)，藤原保信，新評論，2005 年 ②藤原保信著作集〈第 4 巻〉西洋政治理論史(下)，藤原保信，新評論，2005 年 ③マキァヴェリアン・モーメント―フィレンツェの政治思想と大西洋圏の共和主義の伝統，J・G・A・ポーコック，名古屋大学出版会，2008 年 ④自我の源泉――近代的アイデンティティの形成，チャールズ・テイラー ，名古屋大学出版会，2010 年 ⑤精神史としての政治思想史―近代的政治思想成立の認識論的基礎，小野紀明，行人社，1988 年 ⑥近代政治思想の基礎――ルネッサンス、宗教改革の時代 ，クエンティン スキナー，春風社，2009 年 ⑦ハイデガーの政治哲学，小野紀明，岩波書店，2010 年 ⑧野蛮と宗教Ⅰ――エドワード・ギボンの啓蒙，J・G・A・ポーコック，名古屋大学出版会，2021 年 ⑨野蛮と宗教Ⅱ――市民的統治の物語，J・G・A・ポーコック，名古屋大学出版会，2022 年 ⑩新装版ソフィーの世界（上），ヨースタイン・ゴルデル，NHK 出版，2011 年 ⑪新装版ソフィーの世界（下），ヨースタイン・ゴルデル，NHK 出版，2011 年	ISBN	①ISBN-13 ： 978-4794806734 ②ISBN-13 ： 978-4794806833 ③ISBN-13 ： 978-4815805753 ④ISBN-13 ： 978-4815806484 ⑤ISBN-13 ： 978-4905978329 ⑥ISBN-13 ： 978-4861101816 ⑦ISBN-13 ： 978-4000244534 ⑧ISBN-13 ： 978-4815810412 ⑨ISBN-13 ： 978-4815810962 ⑩ISBN-13 ： 978-414081

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	10
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	10
	【定期試験】レポート試験	50
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	私語など講義中のマナーには、くれぐれも気をつけるように。うるさい場合には退室を命じる。なお授業を受ける前に、高校の教科書『世界史』のヨーロッパに関わる部分を復習しておくこと。具体的にいえば古代ギリシャから中世キリスト教世界、近代市民革命と産業革命までの歴史を忘れている場合、教科書の該当箇所をもう一度読んできて欲しい。また、分からない点に関しては授業終了後など質問してもらえれば、出来る限り丁寧に答えていく。学問上の質問は大歓迎である。また授業中に学生諸君の意見を求める場合には積極的に参加して欲しい。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	「政治思想史」の概要、および政治思想史の一般的性質について。また授業全般についてのガイダンスと成績評価方法の詳細。	【予習】高校の教科書などで該当箇所について学んでおく（2 時間程度）。 【復習】授業のガイダンスを踏まえ、さらに政治思想について問題点を再考しておく（2 時間程度）。	4 時間
第２回	対面	ヨーロッパ近代の開始とルネッサンス期の一般的特徴	【予習】高校の教科書などで該当箇所について学んでおく（2 時間程度）。 【復習】授業で言及した政治と宗教について問題点を再考しておく（2 時間程度）。	4 時間
第３回	対面	マキャベリの政治思想（1）、権力について。『君主論』を中心に	【予習】高校の教科書などでルネサンスについて学んでおく（1 時間程度）。 【復習】『君主論』とマキャベリにまつわる誤解と正しく理解（3 時間程度）。	4 時間
第４回	対面	マキャベリの政治思想（2）、ルネッサンスと市民的共和政の理論。『ディスコルシ、リヴィウス論』を中心に	【予習】前回の内容を踏まえつつ、授業で触れた古典古代の影響を整理しておく（2 時間程度）。 【復習】権力政治と共和主義の関係を再確認する（2 時間程度）。	4 時間
第５回	対面	絶対主義国家と市民革命への道程、ボダンの「主権」概念と近代的秩序	【予習】高校の教科書などでフランス絶対主義国家とヨーロッパ国際秩序の成立をおさらいしておく（2 時間程度）。 【復習】近代国家の成立と個人の自由について、授業のレジュメとノートで再確認する（2 時間程度）。	4 時間
第６回	対面	社会契約論の確立（1）。ホッブズの自然状態と人間性について	【予習】高校の教科書などでホッブズとイギリス市民革命について調べておく（2 時間程度）。 【復習】ホッブズの自然状態では何故必然的に争いは不可避なのか、レジュメとノートをよく見直して理解しておく（2 時間程度）。	4 時間
第７回	対面	社会契約論の確立（2）。ホッブズの国家理論について	【予習】講義でふれた政治的合理性（計算合理性）について、レジュメやノート、もしくは参考書で調べておく（2 時間程度）。 【復習】ホッブズの国家理論の近代性についてレジュメやノートをよく見直して理解する（2 時間程度）。	4 時間
第８回	対面	社会契約論の進展（1）。ロックの国家と自然状態について	【予習】高校の教科書などで、ジョン・ロックの政治的立場を調べておく（2 時間程度）。 【復習】自然状態についてロックとホッブズの共通点と相違点とレジュメやノートでしっかりおさえておく（2 時間程度）。	4 時間

第９回	対面	社会契約論の進展（2）。ロックの人間理解について	【予習】ロックの自然状態において人間は、どのような性質を有するか、レジュメやノートで確認しておく（2 時間程度）。 【復習】ロックにおける人間の合理性が近代市民社会といかに適合的か、この点についてレジュメやノートでよく確認しておく（2 時間程度）。	4 時間
第１０回	対面	社会契約論の進展（3）。ロックの国家における議会と立憲政治について	【予習】高校世界史の教科書などで、名誉革命の経緯と目標を確認しておく（2 時間程度）。 【復習】ロックの国家が、ホッブズとは違い議会主義的な特長を備えていく経緯をレジュメやノートなどで確認する（2 時間程度）。	4 時間
第１１回	対面	社会契約論の発展（1）。ルソーの自然状態について （補足）フランス啓蒙主義と政治性――モンテスキューを手掛かりに。	【予習】高校の教科書などでルソーや当時のフランス社会の様子を確認しておく（2 時間程度）。 【復習】ルソーの自然理解がただ野蛮で原始的な状態ではないことをレジュメやノートをよく見直して理解する（2 時間程度）。	4 時間
第１２回	対面	社会契約論の発展（2）。ルソーの人間理解について	【予習】ルソーの理解する自然状態では人間はどのように振る舞うかレジュメやノートで確認しておく（2 時間程度）。 【復習】ルソーにとって人間のあり方と合理主義の関係について、レジュメとノートをよく見直して理解する（2 時間程度）。	4 時間
第１３回	対面	社会契約論の発展（3）。ルソーの国家理論と一般意志について	【予習】ルソーにおける意志についてレジュメやノートで確認しておく（1 時間程度）。 【復習】一般意志と全体意志、契約的国家と古代的都市国家、理性と計算合理性、これらの違いと問題点をレジュメやノートを見直してよく考えてみる（3 時間程度）。	4 時間
第１４回	対面	社会契約論に対する史的批判と発展的解消。またイギリスの功利主義とマルクス主義の台頭	【予習】高校の教科書などでフランス革命から産業革命までを広くおさらいしておく（1 時間程度）。 【復習】社会契約論に対する批判のなかでとりわけ問題となった合理性と人間理解をレジュメとノートを見直して確認する（3 時間程度）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド授業回 学期末の成績判定に向けて、今までの授業内容の確認と疑問点の解消。学生の個別学習についての手引き。	【予習】今まで配布した資料をもう一度見直してみる（2 時間程度）。 【復習】授業内容のおさらいと特に強調したポイントをふまえて総復習する（2 時間程度）。	4 時間

科目名	政治学原論Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	山口　治男	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政治の意味と国家の役割を知る		
授業の目的及び概要	「政治とは何か」という問いは昔から繰り返されていますが、現代はその重要性が痛感される時代となってしまっています。この政治学原論では、政治の役割を改めて問い直し、そこから私たちが直面する社会の課題に向き合える知識と知性を獲得することを目指します。 何か難しそうに聞こえるかもしれませんが、初めて学ぶ学生の皆さんにも、具体的な事例と政治学理論を通して、「今政治に何が起きているか分かる」ようになる講義をしていきます。		
履修条件・留意点	政治学原論Ⅰ(春学期)と政治学原論Ⅱ(秋学期)は連続した講義になりますが、それぞれどちらかだけでも受講できるように構成します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1.政治学の基礎的な知識と枠組みを修得するとともに、現実の社会や政治についての基礎知識を身につける。 2.日本や世界で今起きている事柄についての知識を広げ、自分自身の意見を持ち、論述できるようにする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中および前後の質問を積極的に受け付けることで、講義内容への理解を深めるとともに、関心に合わせて議論を広げられるようにしていく。また、それらを教室全体と共有・フィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない。予復習のための参考文献は、講義内容に応じて毎回の講義で指示する。	ISBN	なし
参考書	毎回の講義で、当日の講義内容をより深く学ぶための参考文献を数冊指示する。全体としての基礎的な参考文献としては以下を指定する。 『はじめての政治学』，佐藤史郎編，法律文化社，2021年	ISBN	9784589041425

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	普通に暮らせている間はあまり「国家」や「政治」について考える必要はありませんが、近年の日本社会や世界は、そこまで平穏で順調なものではなくなってきています。知り、考え、発信する力を身につけ、皆さんがこれから出ていく社会で発揮できる力を身につけてもらいたいと思っています。 興味を持ったテーマについては、その日のテーマと関連していないように思えても、積極的に質問してみてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	講義の概要と導入	事前学習として、シラバスをよく読み講義の方向性について把握しておく。事後学習として、政治概念の一般的な定義とこの講義で扱う内容について整理し、まとめられるようにする	4 時間
第２回	対面	政治における正統性と権力	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。権力とは何かを学術的に説明し、その実例について調べ考察を加える	4 時間
第３回	対面	政策と利益	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。政策立案の一般的な性質についてを理解し、記述できるようにする。	4 時間
第４回	対面	政治と経済	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。政治と経済の関連性を前回までの権力との関連で理解し、まとめられるようにする	4 時間
第５回	対面	自由と自由主義	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。自由主義の基本的な性質について整理し考察する。	4 時間
第６回	対面	社会と福祉国家	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。自由主義と福祉の関係について学術的・客観的に区分できるようにする	4 時間
第７回	対面	国家と権力	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。自由権と社会権の区分を踏まえ、改めて政治・国家・権力の関係性について理解しまとめられるようにする	4 時間
第８回	対面	市民社会と国家	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。これまでの国家権力の性質を踏まえ、市民社会の役割について知り、考察できるようにする	4 時間
第９回	対面	国内政治と国際政治	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。国内政治と国際政治の根本的な違いについて理解し、弁別できるようにする	4 時間
第１０回	対面	国際関係と国家の役割	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。国際関係における国家にとっての最優先課題は何だとされているかを理解し、それについて考察を加えられるようにする	4 時間
第１１回	対面	国家の安全と政治	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。安全保障政策の現状と課題についての	4 時間

			知識を深め、現代の具体的な事例で考えられるようにする	
第１２回	対面	国際経済と国家	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。国家の経済政策が国際関係においてどのように構成されるかを理解し、考察できるようにする	4 時間
第１３回	対面	論点の補足と発展	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。これまでの講義内容で自身が疑問に思った点や深めたい点について議論し、考察を深められるようにする	4 時間
第１４回	対面	これからの政治に向けて	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。これまでの講義内容全体を踏まえ、改めて政治における国家と正統性に関する理解を深め、日本の実例を通じて論理的に考察しレポートにまとめられるようにする	4 時間
第１５回	オンデマンド	レポートに向けた、まとめと補足	事前学習として、これまでの具体的事例のポイントについてまとめた上で自身が関心のある事例について候補を考えておく。事後学習として、アカデミック・ライティングの大原則をしっかりと復習し、準備を進める。これまでの具体的事例のポイントについてまとめた上で、基礎的な政治の仕組みについての基礎を固めておく。	4 時間

科目名	政治学原論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	山口　治男	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	国家による統治のプロセスを理解し、より良い政治について構想する		
授業の目的及び概要	「政治とは何か」という問いは昔から繰り返されていますが、現代はその重要性が痛感される時代となってしまっています。この政治学原論では、政治の役割を改めて問い直し、そこから私たちが直面する社会の課題に向き合える知識と知性を獲得することを目指します。 何か難しそうに聞こえるかもしれませんが、初めて学ぶ学生の皆さんにも、具体的な事例と政治学理論を通して、「今政治に何が起きているか分かる」ようになる講義をしていきます。		
履修条件・留意点	政治学原論Ⅰ(春学期)と政治学原論Ⅱ(秋学期)は連続した講義になりますが、それぞれどちらかだけでも受講できるように構成します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1.政治学の基礎的な知識と枠組みを修得するとともに、現実の社会や政治についての基礎知識を身につける。 2.日本や世界で今起きている事柄についての知識を広げ、自分自身の意見を持ち、論述できるようにする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中および前後の質問を積極的に受け付けることで、講義内容への理解を深めるとともに、関心に合わせて議論を広げられるようにしていく。また、それらを教室全体と共有・フィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない。予復習のための参考文献は、講義内容に応じて毎回の講義で指示する。	ISBN	なし
参考書	毎回の講義で、当日の講義内容をより深く学ぶための参考文献を数冊指示する。全体としての基礎的な参考文献としては以下を指定する。 『はじめての政治学』，佐藤史郎編，法律文化社，2021年	ISBN	9784589041425

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	普通に暮らせている間はあまり「国家」や「政治」について考える必要はありませんが、近年の日本社会や世界は、そこまで平穏で順調なものではなくなってきています。知り、考え、発信する力を身につけ、皆さんがこれから出ていく社会で発揮できる力を身につけてもらいたいと思っています。 興味を持ったテーマについては、その日のテーマと関連していないように思えても、積極的に質問してみてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	講義の概要と導入	事前学習として、シラバスをよく読み講義の方向性について把握しておく。事後学習として、統治プロセスと代表機能について整理し、まとめられるようにする	4 時間
第２回	対面	議会の仕組み	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。代理の基本となる議会の仕組みについて理解し、整理できるようにする	4 時間
第３回	対面	執政部の役割	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。議院内閣制の基本的な性質とその問題について整理し、考察を加えられるようにする	4 時間
第４回	対面	官僚制と日本の政治	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。官僚制の必要性と意義を具体的な事例から理解し、考察を加えられるようにする	4 時間
第５回	対面	国家の代表と交渉	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。対内的な中央地方関係、対外的な国際関係における統治の性質について整理し、まとめられるようにする	4 時間
第６回	対面	統治のプロセスと政治過程	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。政策形成のプロセスについて理解し、考察を加えられるようにする	4 時間
第７回	対面	制度と政策	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。統治プロセスについて事例を通して理解を深め、考察できるようにする	4 時間
第８回	対面	デモクラシーとは何か	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。これまでの国家権力の性質を踏まえ、改めて民主主義について考察できるようにする	4 時間
第９回	対面	投票と代表	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。具体的な事例を通して投票行動と政治の関係について整理し、考察を加えられるようにする	4 時間
第１０回	対面	投票行動と心理	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。投票行動について社会的・文化的な側面から客観的に理解し、それについて考察を加えられるようにする	4 時間
第１１回	対面	メディアと世論	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて	4 時間

			復習を行う。メディアと政治の関係性について、現代の具体的な事例で考えられるようにする	
第１２回	対面	利益団体と政治	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。政治における利益団体の役割について理解し、考察できるようにする	4 時間
第１３回	対面	論点の補足と発展	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。これまでの講義内容で自身が疑問に思った点や深めたい点について議論し、考察を深められるようにする	4 時間
第１４回	対面	これからの政治に向けて	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。これまでの講義内容全体を踏まえ、改めて政治について考え直し、日本の実例を通じて論理的に考察しレポートにまとめられるようにする	4 時間
第１５回	オンデマンド	レポートに向けた、まとめと補足	事前学習として、これまでの具体的事例のポイントについてまとめた上で自身が関心のある事例について候補を考えておく。事後学習として、アカデミック・ライティングの大原則をしっかりと復習し、準備を進める。また、考察の前提となる教科書的な政治の仕組みについての基礎を固めておく。	4 時間

科目名	日本政治史	開講年度	2026 年度春学期
担当者	田中　豊	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	・江戸・明治期の日本政治史 ・日本政治史思想史		
授業の目的及び概要	本授業は、江戸時代から明治時代における日本の政治を扱います。当時の政治状況を踏まえて、どのような人物が必要とされたのか、そしてそこで展開された思想がいかなる意義を有していたのかを確認します。 この時代には様々な思想、ユニークな人物が登場しました。本授業では、そのなかでも儒学に重点を置きつつ講義を進めていきます。		
履修条件・留意点	・特になし		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本授業の履修者には以下の 2 点の習得を期待したい。 １．江戸・明治期の日本の政治状況を理解する。 ２．歴史や思想史の学習を通じて、現代日本が抱える政治的諸問題に意見を持つこと。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業は、全てオンデマンドとなります。したがって、初回の授業時に提示する担当者のメールアドレス宛に質問や感想などがあれば送ってください。 また、適宜提出を求めるミニ・レポートやリアクション・ペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	教科書の指定はありません。必要な資料は全てオンデマンドにて配信します。	ISBN	教科書の指定はありません。
参考書	参考書については、授業内で適宜紹介します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	80
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	本授業では、言うまでもなく歴史（特に日本史）についての話題が取り上げられます。そのため、一定程度の日本史に関する予備知識が要されます。たとえば、高校の日本史、さらには倫理の教科書を読み直すなど（もちろん習熟される必要はありません）、積極的に予習・復習を行ってください。 もっとも、本授業は「暗記科目」として日本史を扱うつもりはございません。江戸・明治時代に生きた思想家の言説に基づき当時の政治的状況を考えることを主眼とするため、「暗記は苦手」でも全く問題ありません。 歴史や政治に少しでも興味関心のある学生は歓迎です。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	授業のガイダンス：儒学という視座 （本授業の概要や成績評価について説明します）	事前学習：シラバスを熟読し、授業の概要を理解した上で初回の授業に臨むようにしてください。 事後学習：オンデマンド配信ゆえ、気になる箇所を振り返ることで、本授業がご自身の関心に合致しているのか吟味してください。	5 時間
第２回	オンデマンド	「中華」の政治思想：朱子学	事前学習：中国に由来する思想、特に儒学や朱子学とはどのような学問体系であり日本に受け容れられたのか、そしてどのような人物が「儒学者」「朱子学者」と称されているのかについて日本史や倫理の教科書を駆使して調べてください。 事後学習：オンデマンド配信ゆえ、気になる箇所を振り返ってください。	4 時間
第３回	オンデマンド	近世日本の儒学：伊藤仁斎と荻生徂徠	事前学習：伊藤仁斎と荻生徂徠の思想について、日本史や倫理の教科書を駆使して調べてください。 事後学習：オンデマンド配信ゆえ、気になる箇所を振り返ってください。	4 時間
第４回	オンデマンド	儒学批判：本居宣長の国学	事前学習：国学とは何か、および国学の大成者の一人である本居宣長の思想について、日本史や倫理の教科書を駆使して調べてください。 事後学習：オンデマンド配信ゆえ、気になる箇所を振り返ってください。	4 時間
第５回	オンデマンド	後期水戸学の衝撃：藤田幽谷・藤田東湖・会沢正志斎	事前学習：この回から徐々に、高校日本史・倫理のレベルではほとんど触れられない人物が登場してきます。さしあたり、ネットでも構いませんので（余裕があれば図書館の本にあたって）「後期水戸学」とは何か、調べてください。 事後学習：オンデマンド配信ゆえ、気になる箇所を振り返ってください。	4 時間
第６回	オンデマンド	儒学と洋学：佐久間象山と大橋訥菴	事前学習：佐久間象山の思想について、高校の教科書を駆使して調べてください。 事後学習：オンデマンド配信ゆえ、気になる箇所を振り返ってください。	4 時間
第７回	オンデマンド	「国体」論争：吉田松陰と山県太華	事前学習：吉田松陰の思想について、日本史や倫理の教科書を駆使して調べてください。 事後学習：オンデマンド配信ゆえ、気になる箇所を振り返ってください。	4 時間
第８回	オンデマンド	儒学と「西洋」：議会と大統領	事前学習：これまでの授業で学んだ内容を復習してください。 事後学習：オンデマンド配信ゆえ、気になる箇所を振り返ってください。	4 時間
第９回	オンデマンド	明治維新：近代国家の建設	事前学習：明治維新とはいかなる事件であったのか、日本史や倫理の教科書を駆使して調べてください。 事後学習：オンデマンド配信ゆえ、気になる箇所を振り返ってください。	4 時間
第１０回	オンデマンド	明六社の思想：福沢諭吉・西周・阪谷素	事前学習：明六社とはいかなる結社であり、そこに所属していた人びとはどのような思想をもっていたのか、日本史や倫理の教科書を駆使して調べてください。 事後学習：オンデマンド配信ゆえ、気になる箇所を振り返ってください。	4 時間
第１１回	オンデマンド	士族反乱：奇妙な「神風連」	事前学習：明治初年に多発したいわゆる士族反乱のうち、熊本で発生した神風連の乱について、日本史や倫理の教科書を駆使して調べてください。 事後学習：オンデマンド配信ゆえ、気になる箇所を振	4 時間

			り返ってください。	
第１２回	オンデマンド	自由民権運動：植木枝盛の私擬憲法	事前学習：自由民権運動とは何か、およびこの運動の理論的指導者のひとりであった植木枝盛について、日本史や倫理の教科書を駆使して調べてください。 事後学習：オンデマンド配信ゆえ、気になる箇所を振り返ってください。	4 時間
第１３回	オンデマンド	儒学と政党：三島中洲と中江兆民	事前学習：中江兆民の思想について、日本史や倫理の教科書を駆使して調べてください。 事後学習：オンデマンド配信ゆえ、気になる箇所を振り返ってください。	4 時間
第１４回	オンデマンド	教育の本質、そして教育勅語へ：伊藤博文と元田永孚	事前学習：初代内閣総理大臣・伊藤博文について、日本史や倫理の教科書を駆使して調べてください。また育勅語について、インターネットで構いませんので内容を確認してください（現代語訳で大丈夫です）。 事後学習：オンデマンド配信ゆえ、気になる箇所を振り返ってください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ	事前学習：各自、問題点だと思う箇所について、改めて予習してください。 事後学習：レポート課題の準備をするようにしてください。	5 時間

科目名	西洋政治史	開講年度	2026 年度春学期
担当者	山口　治男	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	世界との関わりの中でヨーロッパの政治史を理解する		
授業の目的及び概要	この講義では、現代の政治システムの基礎ともなっている西洋の政治を、歴史を辿りながら学んでいきます。絶対王政を打ち倒す市民革命はなぜ可能だったのか、そこから生まれた政治はどのようなものだったのか。そして、なぜ勝ち取られた民主主義が世界大戦へと繋がっていってしまったのか。世界史をあまり学んだことがない学生にも、世界史を学んできた学生にも、現代社会を理解する基礎となる知識と枠組みを提供していきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	王が倒され、市民が政治を勝ち取る市民革命の歴史についての知識を固めつつ、それが逆説的に世界大戦へとつながっていってしまう構造を理解する。さらにそこから、現代の世界につながる社会や政治の構造について理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中および前後の質問を積極的に受け付けることで、講義内容への理解を深めるとともに、関心に合わせて議論を広げられるようにしていく。また、必要・有益な情報に関しては教室全体へフィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない。	ISBN	なし
参考書	世界史の教科書や資料集は理解の前提として有用だが、より深く勉強したい学生のための参考資料を講義内で適宜指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	歴史を学ぶことは過去を知るというだけではなく、現代をよく理解することにもつながります。特に、市民革命を学ぶことは、政治の本来の意味に立ち返るとともに、現代の社会・政治問題の理解にも結びついていきます。 知識を身につけるとともに、時事についての理解を深めていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	講義のイントロダクション	事前学習として、シラバスをよく読み講義の方向性について把握しておく。事後学習として、この講義の全体像について理解し、政治の変質についてまとめておくこと	4 時間

第２回	対面	イギリスの発展	事前学習として、前回の内容について現代の政治に関連したり応用できる事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。王政下のイギリスの発展と変化について理解し、まとめておく	4 時間
第３回	対面	フランスの発展	事前学習として、前回の内容について現代の政治に関連したり応用できる事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。王政下のフランスの発展と変化について理解し、まとめておく	4 時間
第４回	対面	イギリスの立憲主義	事前学習として、前回の内容について現代の政治に関連したり応用できる事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。イギリスで市民革命が起きた社会経済的な構造について理解し、まとめておく	4 時間
第５回	対面	フランスの発展	事前学習として、前回の内容について現代の政治に関連したり応用できる事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。イギリスと対比しつつ、フランスの王政下の発展について理解を深めておく	4 時間
第６回	対面	フランス革命	事前学習として、前回の内容について現代の政治に関連したり応用できる事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。ここまでの流れを踏まえ、なぜフランスで市民革命が起きたのかを理解しまとめておく	4 時間
第７回	対面	ナポレオン時代	事前学習として、前回の内容について現代の政治に関連したり応用できる事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。フランス革命の意義と、王政復古へと逆行する社会の状況を理解しまとめておく	4 時間
第８回	対面	産業革命と政治	事前学習として、前回の内容について現代の政治に関連したり応用できる事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。産業革命という社会経済的な大転換が政治にもたらした影響について理解しまとめておく	4 時間
第９回	対面	アメリカ独立戦争	事前学習として、前回の内容について現代の政治に関連したり応用できる事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。植民地の政治とその問題点について理解しまとめておく	4 時間
第１０回	対面	ウィーン体制の成立と崩壊	事前学習として、前回の内容について現代の政治に関連したり応用できる事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。市民革命の大きな流れの中で成立したウィーン体制を市民の目線から考え理解しておく	4 時間
第１１回	対面	帝国主義の時代	事前学習として、前回の内容について現代の政治に関連したり応用できる事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。帝国	4 時間

			主義がなぜ勃興したのかを、市民社会の変化から考察しまとめておく	
第１２回	対面	「世界」分割へ	事前学習として、前回の内容について現代の政治に関連したり応用できる事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。ヨーロッパの政治が世界全体へと拡散したことの功罪について考え整理しておく	4 時間
第１３回	対面	世界大戦とは何だったのか	事前学習として、前回の内容について現代の政治に関連したり応用できる事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。市民革命の果てに起こった世界大戦を、講義全体の大きな文脈の中で理解しまとめておく	4 時間
第１４回	対面	西洋政治の変遷の振り返りとまとめ	事前学習として、前回の内容について現代の政治に関連したり応用できる事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。レポートを作成するとともに、西洋の政治がいかに世界秩序に関わっているのかについて理解し、まとめておく	4 時間
第１５回	オンデマンド	レポート作成に向けたまとめと補足	事前学習として、これまでの具体的事例のポイントについてまとめた上で自身が関心のある事例について候補を考えておく。事後学習として、アカデミック・ライティングの大原則をしっかりと復習し、確実に定着させておく。また、ヨーロッパでの市民革命についての大きな流れを確認、レポート作成への準備を進める	4 時間

科目名	国際政治学	開講年度	2026 年度春学期
担当者	山口　治男	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	なぜ世界は平和にならないのか		
授業の目的及び概要	近年、悲惨な紛争のニュースを目にすることが増えていると感じませんか？また、日本を含む東アジアも「平和」とは言い難い状況になってきています。 「国際政治学」は世界大戦の大きな犠牲から学び、発達してきたはずですが、80 年を経た今もなぜ世界は平和にならないのでしょうか。この講義では、具体的で身近な事例から国際関係の基本を学びつつ、この世界がどうやって「平和」を目指してきたか、そしてそれがなぜ困難なのかを考察していきます。国際政治の理論はもちろんですが、現実にこの世界で起きていることへの知識も増やせるようにしていきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	不可解にも見える国際関係のニュースについて、それがどのような構造の中で起きているかを理解する視点を持ち、それらに興味を持って触れられるようにする。 今現実に世界で起こっている重要な出来事についての知識を獲得し、それに対する自分の意見を持つ。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義中および前後の質問を積極的に受け付ける。それぞれの質問やコメントペーパー、レポート課題に対しては個別に応答や添削を行うが、必要な情報に関しては全体へフィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない	ISBN	なし
参考書	毎回の講義で、当日の講義内容をより深く学ぶための参考文献を数冊指示する。 講義全体の参考文献としては次の文献を一読しておくと良いが、購読の必要はない。 『現代国際関係学：歴史・思想・理論』進藤榮一，有斐閣，２００１年	ISBN	9784641059948

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	日々触れる国際的なニュースは、「なんとなく大事」だと思っていても、実際にそれがどのような問題を持っているのか、自分にどう関係しているのかが分かりにくいものも多いです。 それらを自分の目で見て、自分の頭で考えられるようにしていきましょう。関心を持ったテーマについては、その日の講義のテーマと関連していないように思えても、遠慮なく積極的に質問してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	国際政治学とは何か	事前学習として、シラバスをよく読み講義の方向性について把握しておく。事後学習として、国際政治学の基本的な性質について確認できるようにすること	4 時間
第２回	対面	国家主権とは何か	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。国際政治における主権の意味について説明できるようにすること	4 時間
第３回	対面	主権と領土問題	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。主権国家システムにおける国際問題の基本的な性質について説明できるようにすること	4 時間
第４回	対面	領土問題と日本の外交	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。東アジアを事例に、日本を取り巻く領土問題に国際政治学からアプローチできるようにすること	4 時間
第５回	対面	現実主義とは何か	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。国際政治学における現実主義の意味について理解を深めること	4 時間
第６回	対面	現実主義と北朝鮮問題	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。現実主義の理論枠組みから具体的な事例について理解・考察できるようにすること	4 時間
第７回	対面	理想主義とは何か	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。現実主義と理想主義の違いを整理し、その意義について説明できるようにすること	4 時間
第８回	対面	理想主義と核拡散問題	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。軍縮における現実主義と理想主義の関係性を理解し、説明できるようにすること	4 時間
第９回	対面	中東情勢（パレスチナ、イラン、イエメン、ISIL など）	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。現代の具体的な事例にこれまで学んだ枠組みを適用できるようにすること	4 時間
第１０回	対面	「世界平和」の外側で	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。現実主義的なアプローチが生み出す問題について理解し、説明できるようにすること	4 時間
第１１回	対面	周縁の不安全	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。現実主義と平和の関係について整理し、具体的な事例に適用できるようにすること	4 時間

第１２回	対面	テロと平和	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。日本の安全も脅かしうるテロについて、理論的な枠組みから整理・考察できるようにすること	4 時間
第１３回	対面	テロとの戦い	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。これまでの理解を踏まえ、テロといかに戦うことができるかを自身の頭で考え述べられるようにすること	4 時間
第１４回	対面	現実主義を超えて	事前学習として、前回の内容に関連する事例をニュースなどからサーベイし、復習しておく。事後学習として、小テストの内容について見直し、必要に応じて復習を行う。レポートへのレスポンスを踏まえ、その後も世界の中の自分たちの状況について考え続けること	4 時間
第１５回	オンデマンド	レポート作成に向けたまとめと補足	事前学習として、これまでの具体的事例のポイントについてまとめた上で自身が関心のある事例について候補を考えておく。事後学習として、アカデミック・ライティングの大原則をしっかりと復習し、確実に定着させておく。特に、講義内容と現代の国際政治についての関連性を強く意識して、自身の関心があるテーマの考察に向けた準備を進める	4 時間

科目名	国際政治学	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	宮﨑　寛	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「世界」の政治を複眼的に読む		
授業の目的及び概要	当講義では、国際政治の舞台で繰り広げられる出来事だけでなく、その出来事の「読み方」が複数あるということを学んでいきます。つまり、この講義は「出来事」と「理論」の二つの側面からできています。 　理論は眼鏡のレンズにも例えられます。色の付いたレンズをかけることは、「世界」をその色を通じて把握することになります。理論（レンズの色）の違いを知ることで、国際政治の出来事がどう違って見えてくるのかを理解すること。これが本講義のねらいです。 また、こうした理論を応用しながら、普段目にする「世界のニュース」がどのように分析・解釈できるのかを自分なりに考える力を付けることも目標とします。できるだけわかりやすく説明していきますが、様々な理論を扱いますので、理解の努力が求められます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	「世界」がどう見えるのか、「世界の政治の仕組み」をどう説明できるのかは視点/理論によって変わってくることを理解すること。 メディアを通じて届く情報は断片的な場合がほとんどです。その断片を組み合わせながら、また多角的に吟味しながら「読む」ことができるようになること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎週リアクションペーパーを書いてもらいますが、そのリアクションペーパーには毎回こちらからのコメントを書き込んで返却します。 期末試験については試験後に「模範解答」をラーニングポータルにアップします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定テキストは特にありません。教材はこちらで用意します。	ISBN	特にありません。
参考書	①国際関係論入門：思考の作法，初瀬龍平編著，法律文化社，　2012 年 ②グローバル・コモンズのための国際関係論，森彰夫，彩流社，　2020 年 ③新版 国際関係論へのファーストステップ，中村都，法律文化社，2017 年 ④批判的安全保障論：アプローチとイシューを理解する，南山淳・ 前田幸男編，2022 年	ISBN	①9784589034250 ②9784779126840 ③9784589038524 ④9784589041814

成績評価の方法・基準		
	授業への積極的な参加度・取組み	30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	70
	その他（%）	0
	その他の内容	

この科目の受講にあたって	現在問題になっている国際政治・国際社会に関する事柄に、自分の生活に結び付けて強い関心を持つよう心掛けてください。 この授業では、「何を知る・知っている」かではなく、自分の頭で「どう考えるか」を大切にします。ニュースや政治的出来事について、マスメディアの情報を鵜呑みにするのではなく自分で批判的に分析する力をつけましょう。 毎授業後のリアクションペーパーが平常点に加算されていきますので、毎回提出づるようにしてください。「恥ずかしい質問」は存在しません。授業内容に関して分からないことや気になることがあれば、どんどん質問してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業概要の説明 「国際」と「世界」	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。清水耕介（2003）『テキスト国際政治経済学：多様な視点から「世界」を読む』京都：ミネルヴァ書房、第１章（特に pp2－8）。「多様な意見を認めることが重要：若者に新聞は向き合えているか」『朝日新聞』2016.8.23.	2 時間
第２回	対面	伝統的アプローチ１：リアリズム（現実主義）	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。 山田高敬・大矢根聡編（2011）『グローバル社会の国際関係論 新版』東京：有斐閣、第１章。 初瀬龍平編著（2012）『国際関係論入門：思考の作法』京都：法律文化社、第 10 章の「１ はじめに」と「２ パワー・ポリティクスの世界」。 授業で配布したレジュメおよびパワーポイント	4 時間
第３回	対面	国家とナショナリズム	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。塩川伸明（ 2008 ）『民族とネイション：ナリズムいう難題』東京：岩波書店（岩波新書）、第１章。授業で配布したレジュメおよびパワーポイント	4 時間
第４回	対面	安全保障とは何か：伝統的アプローチとその課題	以下の資料を読む（復習する）こと。 遠藤乾（2014）「第 1 章 安全保障論の転回」遠藤誠治・遠藤乾編『安全保障とは何か』東京：岩波書店。 更に理解を深めるために： 初瀬龍平編著（2012）『国際関係論入門：思考の作法』京都：法律文化社、第 10 章。 森彰夫（2020）『グローバル・コモンズのための国際関係論』第 2 章。	4 時間
第５回	対面	核兵器、核不拡散レジームとその弱点	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。秋山信将(2015)『NPT：核のグローバル・ガバナンス』東京：岩波書店、第１章。 初瀬龍平編著（2012）『国際関係論入門：思考の作法』京都：法律文化社、第 10 章の「５ 核戦略」。	4 時間
第６回	対面	伝統的なアプローチ 2：リベラリズム	授業で配布したレジュメ、パワーポイント、補足資料を復習すること。	4 時間
第７回	対面	グローバル政治経済と経済格差	授業で配布したレジュメ、パワーポイント、補足資料を復習すること。 ※資料は Learning Portal にアップします。 小澤卓也(2010)『コーヒーのグローバル・ヒストリー：赤いダイヤか、黒い悪魔か』京都：ミネルヴァ書房、序章＆第１章。 更に理解をふかめるために： 初瀬龍平編著（2012）『国際関係論入門：思考の作法』京都：法律文化社、第３章。	4 時間
第８回	対面	グローバル金融経済の問題、構造調整政策	授業で配布したレジュメ、パワーポイント、および以下の資料を読む（復習する）こと。	4 時間

			※資料は Learning Portal にアップします。 戸田真紀子（2015）「5 グローバリゼーションとアフリカの人々の暮らし：構造調整政策の影響を中心に」初瀬・松田編『人間存在の国際関係論：グローバル化の中で考える』東京：法政大学出版局。 森彰夫（2020）『グローバル・コモンズのための国際関係論』第 7 章。	
第９回	対面	新しいアプローチ 1：ポスト構造主義：支配されている本人がそう認識していない時こそ、支配は成功する	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。清水耕介（2003）『テキスト国際政治経済学：多様な視点から「世界」を読む』京都：ミネルヴァ書房、第 3 章。 授業で配布したレジュメおよびパワーポイント 更に理解を深めるために： 南山淳・前田幸男編（2022）『批判的安全保障論：アプローチとイシューを理解する』京都：法律文化社、第 1 章_2 章。	4 時間
第１０回	対面	セキュリタイゼーション：統治としてのセキュリティ問題	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。伊勢崎賢治（2015）『本当の戦争の話をしよう：世界の「対立」を仕切る』東京：朝日出版社、第 2 章。 授業で配布したレジュメおよびパワーポイント。 更に理解を深めるために： 南山淳・前田幸男編（2022）『批判的安全保障論：アプローチとイシューを理解する』京都：法律文化社、第 3 章。	4 時間
第１１回	対面	国際政治におけるジェンダー：Where are wemen? から Private is Political へ	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。池尾靖志編著（2009）『平和学をつくる』京都：晃洋書房。 授業で配布したレジュメおよびパワーポイント。	4 時間
第１２回	対面	新しいアプローチ 2：ポストコロニアリズム：「君はまだ未熟だから、僕が代わりに君のことを説明してあげるよ」	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。 森彰夫（2017）『インクルーシブ国際社会論』東京：彩流社、第 5 章（できれば 6 章も）。 更に理解を深めるために： 南山淳・前田幸男編（2022）『批判的安全保障論：アプローチとイシューを理解する』京都：法律文化社、第 4 章。	4 時間
第１３回	対面	国際開発援助：エンパワーメントか？新たな植民地化か？	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。東海大学教養学部国際学科編（2013）『国際学のすすめ：グローバル時代を生きる人のために 第 4 版』東海大学出版会、第 4 章。授業で配布したレジュメおよびパワーポイント 更に理解を深めるために： 森彰夫（2020）『グローバル・コモンズのための国際関係論』第 8 章。	4 時間
第１４回	対面	グローバル市民社会論：トランスナショナルな公共圏は可能か？	以下の資料を読む（復習する）こと。 ※資料は Learning Portal にアップします。清水耕介（2003）『テキスト国際政治経済学：多様な視点から「世界」を読む』京都：ミネルヴァ書房、第 12 章。 授業で配布したレジュメおよびパワーポイント。 更に理解を深めるために： 初瀬龍平編著（2012）『国際関係論入門：思考の作法』京都：法律文化社、第 19 章。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの総括：「世界」観を問い直す	期末試験に向けた学習：これまでのレジュメおよびパワーポイント、補足資料。	6 時間

科目名	国際関係史	開講年度	2026 年度春学期
担当者	伍　躍	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	これからの国際情勢を考える手掛かりとして		
授業の目的及び概要	ロシア・ウクライナ紛争、パレスチナ問題をはじめとする今日の国際社会が抱える諸問題は、いずれにおいても過去にその原因を求めることができます。つまり歴史とは現在と過去との対話と言われるように、私たちが直面する課題を解決する手掛かりとなります。このことを踏まえ、授業では今日の国際政治の枠組みが形成されたウェストファリア体制以降の国際関係の歴史を振り返り、それぞれの時代が現代といかに深く結びついているかということを理解するとともに、現代の国際問題を解決するための手掛かりを探っていきたいと思います。なおこの際、政治指導者（層）と大衆の力関係という視点から一貫性のある授業を行いたいと思います。		
履修条件・留意点	この授業科目は、政治系科目であり、国際政治学と併せて履修することを推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自由、平等、民主主義などの価値原理を基礎とする、法学を中心とする高度な専門知識を体系的に理解することができる。 ②現代社会の諸課題を理解し、法的知識・技能をもとにして、多様な価値観や利害関係に適した解決策を考える力を身につけるとともに、論理的な法的思考力と豊かな表現力とともに、情報、数理、英語等の汎用的技能を修得し、社会科学を中心とした幅広い教養を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントペーパーを翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特にテキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書	①国際政治史・主権国家体系のあゆみ，小川浩之ほか，有斐閣，2020 年 ②国際関係史・16 世紀から 1945 年まで，有賀貞，東京大学出版会，2024 年 ③現代国際関係史・1945 年から 21 世紀初頭まで，有賀貞，東京大学出版会，2019 年	ISBN	①978-4-641-15052-2 ②978-4-13-032213-3 ③978-4-13-032228-7

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	40
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	授業では従来の定説にとらわれない創造的な発想や意見を重視したいと思います。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	・ガイダンス ・国際関係史（近代以降の諸外国の外交関係史）を学ぶ目的 ・国際関係史の学び方 ・概念確認：国家体系・国際社会・グローバリゼーション・ポピュリズム	【予習】授業前に、本シラバスをよく読んで、授業の内容を確認・理解するとともに、近代以降の世界史を概観した上で授業に参加して下さい。 【復習】授業後に、参考書①序章（なぜ国際政治史を学ぶのか）と講義の配布資料と読んで、講義の要点を整理する。	4 時間
第２回	対面	近代主権国家体系の生成：ウェストファリア条約の意義	【予習】授業前に、参考書①第１章（近代主権国家体系の生成）や高校の世界史教科書やインターネットを通じ、ウェストファリア体制について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第３回	対面	帝国主義の時代・ウィーン体制からビスマルク体制まで	【予習】授業前に、参考書①第２章（勢力均衡とナショナリズム）・第３章（帝国主義時代）やインターネットを通じ、産業革命について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第４回	対面	２度の世界大戦（１）：第一次世界大戦の衝撃	【予習】授業前に、参考書①第４章（第一次世界大戦の襲撃）やインターネットを通じ、帝国主義について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第５回	対面	２度の世界大戦（２）：第１次世界大戦後の国際秩序	【予習】授業前に、参考書①第５章（第一次世界大戦後の国際秩序）やインターネットを通じ、第１次世界大戦とロシア革命について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第６回	対面	２度の世界大戦（３）：国際秩序の崩壊	【予習】授業前に、参考書①第６章（国際秩序の崩壊）やインターネットを通じ、第二次世界大戦について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第７回	対面	冷戦時代（１）：冷戦の起源と分断体制の形成	【予習】授業前に、参考書第７章（冷戦の起源と分断体制の形成）・第８章（グローバル化する冷戦）やインターネットを通じ、冷戦および核兵器について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第８回	対面	冷戦時代（２）：冷戦体制の変容	【予習】授業前に、参考書①第９章（冷戦体制の変容）やインターネットを通じ、ベトナム戦争やデタントについて各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第９回	対面	冷戦時代（３）：冷戦終結への道	【予習】授業前に、参考書①第 10 章（冷戦終結への道）やインターネットを通じ、ヨーロッパ・東アジアの変化について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整	4 時間

			理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	
第１０回	対面	主権国家体系を超えて（１）：湾岸戦争とソ連解体	【予習】授業前に、参考書①第 11 章（湾岸戦争とソ連解体）やインターネットを通じ、湾岸戦争やソ連解体について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第１１回	対面	主権国家体系を超えて（２）：EU の誕生と深化・拡大	【予習】授業前に、参考書①第 12 章（EU の誕生と深化・拡大）やインターネットを通じ、欧州統合の課題について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第１２回	対面	主権国家体系を超えて（３）：冷戦後の地域紛争・民族紛争	【予習】授業前に、参考書①第 13 章（冷戦後の地域紛争・民族紛争）やインターネットを通じ、ユーゴスラヴィアの解体・ルワンダの惨劇について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第１３回	対面	主権国家体系を超えて（４）：新興国の台頭	【予習】授業前に、参考書①第 14 章（新興国の台頭）やインターネットを通じ、中国・インドなどの発展について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	4 時間
第１４回	対面	主権国家体系を超えて（５）：21 世紀の国際政治	【予習】授業前に、参考書①第 15 章（21 世紀の国際政治）やインターネットを通じ、イラク戦争・アフガニスタン戦争・ウクライナ紛争について各自で調べて予習して下さい。 【復習】授業後に、講義の配布資料を読んで要点を整理し、授業のテーマについて関心を抱いた事柄について各自で調べる等復習して下さい。	5 時間
第１５回	オンデマンド	定期試験に向けたまとめ・復習	総復習です。1~14 回の学修内容をを整理して、期末の定期試験に向けて復習をしましょう。 ※講義の進捗状況や学生の理解度を把握しながら、上記の授業計画を微調整する可能性がある。	6 時間

科目名	政治制度論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	伍　躍	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政治制度の変遷とその諸類型		
授業の目的及び概要	政治制度は人類の誕生、すなわち人類の集団生活の始まりから存在している。それは、人間の集団生活には秩序の設定と維持や、集団生活を営むための相互作用の実践が必要であることの帰結と言うことができる。社会規範の設定に関する制度やその実践としての行為は広い意味で政治である。人類が経験したさまざまな政治制度の特徴を理解することで現代日本の政治制度の特徴も理解できるようになる。本講義では、政治学の基礎概念に基づいて、執政制度・選挙制度・政党制度・行政制度など変遷（たとえば、君主制から現代の議会制民主主義への進化）と構成要素（たとえば、政党の成立要件）について分かり易く説明していく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①政治学の基礎概念を再確認したうえ、民主主義の諸相および自由民主主義体制の基本構造を把握することができる。 ②現代社会における政党制度、選挙制度、圧力団体、行政制度、地方自治制度の様態と活動実態を理解し、それらについて自分の見解を持てるようになる。社会人基礎力としてのコミュニケーション能力・協働力とリーダーシップ等のさらなる向上を目指す。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートを適宜書いてもらい、授業改善に役立てる。小テストは採点し、返却時に解説する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しない。授業の前では用意したレジュメをラーニングポータルにアップして配布し、授業の後では授業中使用したスライド資料をラーニングポータルにアップして配布する。	ISBN	なし
参考書	①政治学への第一歩（新版），砂原庸介ほか，有斐閣，2020 年 ②図録政治学，西山隆行ほか，弘文堂，2023 年	ISBN	①9784641150782 ②9784335359415

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	制度論は一見退屈そうに見えるが、身近な事例に留意していれば、きっと面白くなるはずである。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	講義の概要・到達目標・講義方法についてのガイダンスを行う。この回の後半で、政治文化や政治意識についても概説する。	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。できればポイントを自分で整理しておくこと。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	6 時間
第２回	対面	人類と政治：国家、政治と行政	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に人類文明の変遷と近代以前の各時代における国家の特質。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4 時間
第３回	対面	政治学基礎概念の（再）確認：権力、主権、支配と服従、イデオロギー、体制、リーダーシップ	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に近代国家の本質と役割。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4 時間
第４回	対面	民主主義制度の諸相：その原点と変遷、古代アテナイの民主制、市民社会と大衆社会の民主主義	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4 時間
第５回	対面	自由民主主義体制Ⅰ：「自由」と「民主」の相克と調和	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に民主主義の起源とその変化を理解すること。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4 時間
第６回	対面	自由民主主義体制Ⅱ：権力分立とその制度設計	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に「人民のための政治なのか」、それとも「政治家のための政治なのか」について理解すること。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4 時間
第７回	対面	自由民主主義体制Ⅲ：権力分立とその制度設計、立法機関内部の権力分立、司法機関の独立性	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に権力分立について、講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4 時間
第８回	対面	選挙制度Ⅰ：政治的競争の対立軸、選挙制度、投票行動	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に選挙の対立軸の特徴のところについて、講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4 時間
第９回	対面	選挙制度Ⅱ：選挙に関する法制度、投票参加	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。とくに選挙制度の類型は完全にマスターしておくこと。講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4 時間
第１０回	対面	政党制度Ⅰ：政党の定義、政党の役割と類型	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に政党の役割について、講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4 時間
第１１回	対面	政党制度Ⅱ：政党のシステム、「オポジション」	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に政党システムについて、講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4 時間
第１２回	対面	圧力団体：圧力団体の定義とその類型、圧力団体の影響力と機能	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に圧力団体の機能について、講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4 時間
第１３回	対面	行政・官僚制の理論と官僚制：行政・官僚制の理論とその展開、国家公務員	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に平成以降、日本の行政の変化について、講義内容をレジュメに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	4 時間
第１４回	対面	連邦制と地方制度：単一制国家と連邦制国家、地方自治制度	授業後に今回配付のレジュメを読み直しておくこと。特に日本の地方自治制度について、講義内容をレ	4 時間

			ジュメに書き込んでノートにすること。 指定した資料を利用して次回の講義の予習をする。	
第１５回	オンデマンド	第1回から第14回までのポイントを整理・解説し、基礎知識が身についているか確認します。	総復習です。今まで習った概念を整理して、期末試験の復習をしましょう。 ※講義の進捗状況や学生の理解度を把握しながら、上記の授業計画を微調整する可能性がある。	6 時間

科目名	比較政治学	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	孟　慶廉	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代中国の法制度の基本構造と主要な法律分野の体系的理解		
授業の目的及び概要	本講義では、中国法の基本構造と主要な法律分野について概観し、中国社会における法制度の特徴を検討する。中国法の歴史的背景や制度的枠組みを整理したうえで、憲法、民法典、刑事法、経済法などの主要分野を取り上げ、日本法との比較を通じてその制度的特質を理解する。		
履修条件・留意点	中国社会や政治に関する基礎知識があると理解が深まるが、特別な予備知識は必要としない。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 現代中国の法制度の基本構造と主要な法律分野を理解する。 ② 中国社会における法の役割や課題を、日本法と比較しながら考察できる。 ③ 中国の法制度を具体的事例を通じて分析し、自ら問題を発見する力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内容に関する疑問点については、授業中および授業後の質問に対応する。 また、期末試験に関する重要なポイントをラーニングポータルに掲載し、受講生へのフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	現代中国法入門〔第 10 版〕（外国法入門双書），鈴木賢 ・宇田川 幸則・徐 行・髙見澤 磨著，有斐閣，2025 年	ISBN	978-4641048379
参考書	国会図書館刊行物『外国の立法』など（インターネットで検索して下さい）。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	55
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 中国法を学ぶ意義	予習 配布資料の該当箇所を事前に読み、予習課題に回答しておくこと。 復習 授業後は講義内容を整理し、配布資料の該当部分を再度確認すること。また、授業内容に関する復習課題に回答し、理解を深めること。	4 時間

第２回	対面	現代中国法の前史 伝統中国法と清末法制改革	予習 配布資料の該当箇所を事前に読み、予習課題に回答しておくこと。 復習 授業後は講義内容を整理し、配布資料の該当部分を再度確認すること。また、授業内容に関する復習課題に回答し、理解を深めること。	4 時間
第３回	対面	現代中国法の形成 中華人民共和国成立以降の法制度	予習 配布資料の該当箇所を事前に読み、予習課題に回答しておくこと。 復習 授業後は講義内容を整理し、配布資料の該当部分を再度確認すること。また、授業内容に関する復習課題に回答し、理解を深めること。	4 時間
第４回	対面	中国憲法 国家体制と基本原則	予習 配布資料の該当箇所を事前に読み、予習課題に回答しておくこと。 復習 授業後は講義内容を整理し、配布資料の該当部分を再度確認すること。また、授業内容に関する復習課題に回答し、理解を深めること。	4 時間
第５回	対面	中国の行政法制度	予習 配布資料の該当箇所を事前に読み、予習課題に回答しておくこと。 復習 授業後は講義内容を整理し、配布資料の該当部分を再度確認すること。また、授業内容に関する復習課題に回答し、理解を深めること。	4 時間
第６回	対面	中国民法の基本構造 民法典の成立と特徴	予習 配布資料の該当箇所を事前に読み、予習課題に回答しておくこと。 復習 授業後は講義内容を整理し、配布資料の該当部分を再度確認すること。また、授業内容に関する復習課題に回答し、理解を深めること。	4 時間
第７回	対面	中国の企業活動と法 会社法・市場経済と法	予習 配布資料の該当箇所を事前に読み、予習課題に回答しておくこと。 復習 授業後は講義内容を整理し、配布資料の該当部分を再度確認すること。また、授業内容に関する復習課題に回答し、理解を深めること。	4 時間
第８回	対面	中国の市民生活と法 家族法・労働法など	予習 配布資料の該当箇所を事前に読み、予習課題に回答しておくこと。 復習 授業後は講義内容を整理し、配布資料の該当部分を再度確認すること。また、授業内容に関する復習課題に回答し、理解を深めること。	4 時間
第９回	対面	中国の民事訴訟制度	予習 配布資料の該当箇所を事前に読み、予習課題に回答しておくこと。 復習 授業後は講義内容を整理し、配布資料の該当部分を再度確認すること。また、授業内容に関する復習課題に回答し、理解を深めること。	4 時間
第１０回	対面	中国の紛争解決制度	予習	4 時間

		仲裁・調停など	配布資料の該当箇所を事前に読み、予習課題に回答しておくこと。 復習 授業後は講義内容を整理し、配布資料の該当部分を再度確認すること。また、授業内容に関する復習課題に回答し、理解を深めること。	
第１１回	対面	中国の刑法	予習 配布資料の該当箇所を事前に読み、予習課題に回答しておくこと。 復習 授業後は講義内容を整理し、配布資料の該当部分を再度確認すること。また、授業内容に関する復習課題に回答し、理解を深めること。	4 時間
第１２回	対面	中国の刑事手続	予習 配布資料の該当箇所を事前に読み、予習課題に回答しておくこと。 復習 授業後は講義内容を整理し、配布資料の該当部分を再度確認すること。また、授業内容に関する復習課題に回答し、理解を深めること。	4 時間
第１３回	対面	中国の法曹制度 法学教育・司法制度	予習 配布資料の該当箇所を事前に読み、予習課題に回答しておくこと。 復習 授業後は講義内容を整理し、配布資料の該当部分を再度確認すること。また、授業内容に関する復習課題に回答し、理解を深めること。	4 時間
第１４回	対面	中国社会と法の課題 環境問題・社会問題など	予習 配布資料の該当箇所を事前に読み、予習課題に回答しておくこと。 復習 授業後は講義内容を整理し、配布資料の該当部分を再度確認すること。また、授業内容に関する復習課題に回答し、理解を深めること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	定期試験に向けたまとめ・復習	予習 配布資料の該当箇所を事前に読み、予習課題に回答しておくこと。 復習 授業後は講義内容を整理し、配布資料の該当部分を再度確認すること。また、授業内容に関する復習課題に回答し、理解を深めること。これらの資料を参考に定期試験の復習を行う。	4 時間

科目名	比較政治学	開講年度	2026 年度春学期
担当者	山口　治男	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政治体制の違いはどこから生まれ、何を生み出すのか		
授業の目的及び概要	近年の国際ニュースを見ていると、「なぜそんなことになってしまうのか？」という疑問が多く湧いてくると思います。そこには様々な要因がありますが、この講義では様々な国を取り上げて政治体制の共通点や差異を知っていくことで、その問いに対しての考察を深めていきます。 政治体制について理解する上では、経済や文化についての理解も不可欠です。またそれらを理解していくことは、国境を超えてつながっていくこれからの世界に出ていく上で必須でもあります。全ての国や政治体制を取り上げることは不可能ですが、この講義では日本などとのつながりの深いアジアの国々を事例としながら、具体的な文脈からそこに迫っていきます。 激動する現代の国際社会で今まさに起きている現実の問題を通じて、比較政治学を一緒に学んでいきましょう。		
履修条件・留意点	この講義では毎週、パワーポイントを用いたレクチャーの録画を配信して、それを受講していくことを基本とします。 動画のアップロードと同時期に、講義内で使用したパワーポイントのハンドアウトの PDF を配信しますので、適宜メモなどを取りながら受講するのが望ましいでしょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・様々な国の政治体制を経済や文化と共に学ぶことで基礎的な知識を獲得する。 ・具体的な歴史や現状の事実に基づき、それらについて考察する視点を持てるようにする。 ・そのほかの国や地域で起こっている事例に対しても応用できる力を身につけていく。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の配信で実施する小テスト（ラーニングポータル）内で、課題への回答以外にも質問を入力して受け付けられるようにする。個別の応答以外にも、必要な情報に関しては追加の資料やラーニングポータルへの掲示などで全体へフィードバックしていく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは原則として使用しない	ISBN	なし
参考書	毎回の講義で当日の講義内容をより深く学ぶための参考文献を指示する。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・この講義では様々な国や地域を扱っていく予定です。情報量は多くなるかと思いますが、講義内容を全て覚えるようなことは想定していません。一回一回の講義を集中して受講し、それらを理解し、自分の頭で考え、言葉にする力を身につけていってください。 ・復習は主にショートレポートの作成を通じて行なってもらいます。講義を普通に受けていれば分かる程度の内容について、キーワードを中心に整理・考察してもらいます。

	・現実の世界を理解することが目的ですので、日頃ニュースを見ておくと講義の理解が深まり、実学にもつながります。 ・扱う国や地域は、学生の理解度や関心に応じて変更することがありますので、分からない点はもちろん、分かったこと、興味を持ったことなど、積極的な質問を歓迎します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	比較政治学とは何か	授業後に、この講義で学ぶ比較政治学の概要についてレジュメやノートを用いて確認し、取り上げる国々について予習すること	4 時間
第２回	オンデマンド	政治と地理	この講義で扱う地理的な要素が何であるかを確認し、それぞれの重要性について説明できるようにしておくこと	4 時間
第３回	オンデマンド	政治と歴史	各国の固有の文脈の多様性を踏まえた上で、「共通の歴史」が果たす役割について整理し、具体的な事例に適用できるようにしていくこと	4 時間
第４回	オンデマンド	インドネシア	冷戦についての基礎的な知識を整理し、国内政治に与える影響について論述できるようにすること	4 時間
第５回	オンデマンド	マレーシア	民族政治の概要について整理し、その現状と課題について考察できるようにすること	4 時間
第６回	オンデマンド	ベトナム	冷戦とベトナム戦争についての基礎的な知識を十分に整理した上で、改めて現在の発展について考察できるようにすること	4 時間
第７回	オンデマンド	カンボジア	ベトナム戦争との関係性について整理した上で、なぜその後の発展に違いが生じているのかを政治体制と国際関係から理解できるようにすること	4 時間
第８回	オンデマンド	タイ	他の国々との歴史的な差異を踏まえつつ、政治体制と教育の関係について整理し、その功罪について考察できるようにすること	4 時間
第９回	オンデマンド	ミャンマー	軍と政治との関わりについてタイトの比較から考察し、また、民族主義と軍、政治が交差する現実について整理できるようにすること	4 時間
第１０回	オンデマンド	フィリピン	言語教育が果たす役割について確認した上で、フィリピン特有の発展について多角的に考察できるようにすること	4 時間
第１１回	オンデマンド	ラオス	地理的・歴史的な要素と国際関係が政治体制と発展にどのように働きかけるのかをこれまでの国々との比較から理解し、新たな発展の萌芽について自身の考察を加えられるようにすること	4 時間
第１２回	オンデマンド	シンガポール	民族政治と都市国家の関係について復習した上で、フィリピンやラオスとも異なる政治・経済的発展の文脈について整理できるようにする	4 時間
第１３回	オンデマンド	ブルネイ	地理と経済、宗教と政治の関わりについてそれぞれ復習した上で、世界のその他の地域も含めた政教分離の現状と今後について考察できるようにする	4 時間
第１４回	オンデマンド	改めて、政治を比較することの意義とは何か	講義全体を通して重要だった共通点についてよく復習した上で、自身の選んだ国や地域における政治体制の分析に適用できるようにしていく	4 時間
第１５回	オンデマンド	講義のポイントとレポートについての確認	多様な国家の政治体制に通底するポイントや特色についてまとめた上で、自身でレポートとしてまとめられるようにする。	4 時間

科目名	地方自治論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	伍　躍	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	地方自治のあり方を主体的に考える		
授業の目的及び概要	この授業は公務員コースの推奨科目であり、地方自治体の役割、首長と地方議会の機能や、関連する税財制、入管行政につ いて学修する。特に近年、新型コロナのパンデミック、各地で起こる地震、台風被害また、東京一極集中、少子高齢化と人口 減少の波は、地方自治のあり方に大きな影響を与えている。 この授業を通じて、身近な地方自治体の抱える課題と解決策を検討することで、将来の行政系公務員を目指す学生のキャリ ア形成、市民の自治意識の向上に寄与する。ゲスト講師は、大阪府、大阪市、入管行政や地方議員の活動に精通した方々で あり、行政系公務員として能力や地方自治を主体的に考える力を身につけることができる。		
履修条件・留意点	特にないが、公務員コースの学生が積極的に履修するように強く推薦します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１、本授業を通じ、住民自治の基本を学び、陳情、要望、住民参加、選挙など市民としての意志表示について理解することが できる。 ２、地方自治体を取り巻く課題について課題解決の小論文を書く力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	１、アンケート機能での質問やコメントについてフィードバックを行う。 ２、小テストについて、担当講師から毎回解説を行い知識の定着を図る。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	不使用。	ISBN	なし
参考書	①『地方自治論〔新版〕　２つの自律性のはざまで』北村亘　有斐閣　2024 年 ②『大阪都構想の対案』西脇邦雄　晃洋書房　2019 年 ③『自治体政策学』武藤浩己　法律文化社　2024 年 ④『地方自治講義』伊藤修一郎　東京大学出版会　2024 年	ISBN	①978-4-641-15121-5 ②978-4-771-03138-8 ③978-4-589-04292-7 ④978-4-13-032237-9

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	40
	その他（%）	0
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	「政治学入門」（日本の政治）、３～4 年次「地域共生論」、公務員特別演習と合わせて受講し、問題意識を発展させてほしい。	

	時事問題に注意を払い、様々な社会問題に対して興味関心を持ちながら、授業に臨んでもらいたい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の趣旨説明 暮らしに身近な地方自治体の活動 担当：伍 躍	予習：シラバスを読むこと、また日本国憲法の国会、内閣、地方自治の各章を読むこと（２時間） 復習：住民になる意味、相談サービス、生活インフラ、防災などに関する資料を復習すること（２時間）	4 時間
第２回	対面	地方自治の仕組み：住民戸籍・相談サービス・子育て・保険年金・防災、住民自治・参画と協働、多様な主体の存在 担当：伍 躍（[ゲストスピーカーによる講演：金谷一郎）	予習：シラバスを読むこと、日本国憲法の国会、内閣、地方自治について読み、地方自治の本旨について、どのような見解があるか調べること（２時間）。 復習：住民になる意味、相談サービス、生活インフラ、防災について自身の居住する地方自治体の web サイトを見て調べること（２時間）。	4 時間
第３回	対面	八尾市及び八尾市議会の見学 担当：伍 躍	予習：八尾市の HP から八尾市の特性、総合計画について、市議会の仕組みや広報について調べて学習すること（２時間）。 復習：八尾市の概要説明を読みなおし、特に総合計画の項目で関心ある分野について復習すること（２時間）。	4 時間
第４回	対面	地域防災の課題：自助・公助・共助の役割と連携 小論文 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：金谷一郎）	予習：大阪市地域防災計画＜共通編・対策編＞（令和 5 年 4 月）を読んで、その概要を把握すること（２時間）。 復習：ゲストの教材から大阪市の防災の課題について理解すること（２時間）。	4 時間
第５回	対面	多様な住民と地方自治体：大阪市の多文化共生の取り組みを踏まえて実践的な授業 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：金谷一郎）	予習：総務省や大阪市の web から多文化共生社会の指針について調べる（２時間） 復習：教材から多様な住民の存在、排外主義が横行する状況で外国籍住民を地域生活者と捉えて、地域共生社会の実現とコミュニティのあり方など多文化共生社会の課題を理解する（２時間）	4 時間
第６回	対面	税務行政について：日本の税制、地方税の仕組み 担当：伍 躍	予習：所得税、法人税、日本の税制について財務省 HP を見て調べること（２時間）。 復習：日本の税制、特に地方税の仕組みについての資料を読むこと（２時間）。	4 時間
第７回	対面	入国管理行政について：空港での入国審査、税関、検疫など入国管理行政の実際について 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：吉田秀治）	予習：法務省の入国管理行政の HP を見て基本的な制度を理解すること（２時間）。 復習：教材で３つの Q について復習し、入国管理行政の役割を理解すること（２時間）。	4 時間
第８回	対面	地方自治の仕組み：住民と地方自治、広域自治体と基礎自治体の役割、都道府県と市町村の違い、大都市制度の課題を考える 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：岩田教之）	予習：地方自治法第２章(住民)、第 5 章(直接請求)、第 11 章(国と地方公共団体の関係など)、第 12 章(大都市等に関する特例)を読むこと（２時間）。 復習：ゲスト作成資料を読み、地方自治の基本を理解すること（２時間）。	4 時間
第９回	対面	人口減少が社会にもたらす影響：人口減少と少子化対策の現状、地方自治体の課題と取組みを考える 小論文 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：岩田教之）	予習：総務省 web から人口減少に関する地方制度調査会の資料、自治体戦略 2040 構想研究会の資料を読むこと（２時間）。 復習：ゲスト作成資料を読み、人口減少社会の課題と対応を理解すること（２時間）	4 時間
第１０回	対面	地方財政の仕組み：地方交付税など地方自治体を支える国の地方財政制度を考える 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：岩田教之）	予習：地方自治法第 9 章(財務)を読むこと（２時間）。 復習：ゲスト作成資料を読み、地方財政を支える国の仕組みを理解する（２時間）。	4 時間

第１１回	対面	地方議員の実際の活動：議会と行政の関係、住民の声が反映される仕組みについて 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：堀口和弘）	予習：地方自治法第６章議会、第７章執行機関、第２章住民を調べること（２時間）。 復習：地方議員の苦労や実際の活動について理解し住民の声を届ける仕組みについて資料を読むこと（2時間）。	4 時間
第１２回	対面	地方自治の論点１：高校教育無償化と公立高校定員割れを考える 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：西脇邦雄）	予習：大阪府や文科省の高校教育無償化の基準を調べる、公立高校の定員割れの実態を知る。（２時間）。 復習：資料を読み無償化が機会の平等と格差の是正につながるか考える。（２時間）。	4 時間
第１３回	対面	地方自治の論点２：人口減少と再開発まちづくり、タワーマンションは負の遺産か小論文 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：西脇邦雄）	予習：タワーマンションについて定義、防災や老朽化、建て替え問題など課題について調べる。（２時間）。 https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_tk4_000214.html 復習：昨年の神戸市長選ではタワーマンションの規制が争点になった。以下の資料から規制のあり方、将来の課題を考える。（２時間）。https://www.city.kobe.lg.jp/documents/71082/houkokusyosaisyuuban.pdf	4 時間
第１４回	対面	地方自治の論点３：地方自治はなぜ必要か、公共財とコモン、水道下水道の未来を考える 担当：伍 躍（ゲストスピーカーによる講演：西脇邦雄）	予習：総務省 web から水道下水道ゴミ処理などの項目を検索し論点や歴史を調べる（２時間）。 復習：資料から公共財についての理解を深め、地方自治体の役割、水道下水道の持続可能な仕組みについて考える（２時間）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの振り返りと定期試験の範囲 担当：伍 躍	復習：これまで配布した資料を読んで復習して定期試験に向けて準備すること（4 時間程度）。 ＊以上の授業計画は受講生の理解度を配慮し必要に応じて、オンデマンド授業の実施時期を含めて微調整を行う可能性はある。	4 時間

科目名	英書講読Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉川　真理子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	アメリカやイギリスにおける興味深い判例を英語で学んでみよう		
授業の目的及び概要	この授業では、アメリカやイギリスにおける歴史的、また文化的に興味深い判例を大学生が理解できるような比較的、分かり易い英語で読み解いていきます。学生の皆さんはこれらの判例を知る事で、その国の司法判断の拠り所を学ぶ事が出来ます。また裁判について学ぶことを通して、実際にそこに暮らす人々の歴史や文化の積み重ねを理解していきます。今までに学んできた単語が法律英語として使用されると、その意味が大きく変わる事があります。既存の語彙知識も活用しながら司法英語の語彙や表現を学びましょう。また授業では、リーディングだけではなく、リスニングも行い、英語を聞き取る能力をつけることが出来ます。ペア/グループワークの活動も取り入れ、学修内容の理解度を上げていきます。		
履修条件・留意点	「英語の能力」よりも、「英語を学びたい」と思う気持ちが強い人に是非受講して頂きたい科目です。時間をかけて丁寧に授業が進められますので、英語を忘れかけている学生さんでも、やる気があれば大丈夫です。一緒に勉強していきましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を通じて、学生は以下の事が出来るようになります。 （１）法律に関する基礎的な語彙や表現を英語で理解できる。 （２）アメリカやイギリスの判例を英語で読み、その法体系や、その背景にある歴史や文化的側面を知る。 【DP 4】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フィードバックは授業時間内で適宜行います。また、グループで行う様々なワークから、その理解の深さについて授業内で講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト：Legal Minds15 Journeys in Law, Author: Shinichiro Torikai, Masayuki Tamaruya, Bett Cumming, 2014, 金星堂	ISBN	9784764739840
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	70
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	毎回、必ず教科書を持参して下さい。学生の皆さんは、しっかりと予習をして授業に臨んでください。 また、授業では、間違いを恐れずに積極的に参加して下さい。 イギリスやアメリカで実際に行われた裁判の訴状や召喚状、上訴趣意書等から一部を抜粋したものを英語で読み解いていきます。

	.授業では、様々な法律に関する語彙や表現を基礎的なものから体系立てじっくりと学んでいきます。 積極的にペア/グループワークを取り入れ、クラス全体で学修内容の理解度を上げていきます。 ＊本シラバスの授業計画は、必要に応じて変更される場合があります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業に関するガイダンス（教材、評価、授業の進め方について等） *注意：この科目では、受講生の理解度に応じて授業を進めるため、授業計画を変更することが有ります。 テキスト Case 1 “Shouldn’t be That Hot” 「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」 Overview of the Complaint ：グループワークで訴状を読み解き、原告・被告の主張を考え、また、自分が被害者であったらどうするか、またその理由を話し合う。 Reading: Plaintiff’s Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	①予習 Case 1 “Shouldn’t be That Hot” 「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」の Side B Story と Let’s Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第２回	対面	Case 1 “Shouldn’t be That Hot” 「訴訟社会アメリカ？ホットコーヒーやけど裁判の真実」の Side B Story と Let’s Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	①予習 テキスト Case 2 “Damage for a Five-Day Delay” 『「知らなかった」ではすまされない？！配達遅れで被った損害への支払い』 の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第３回	対面	テキスト Case 2 “Damage for a Five-Day Delay” 『「知らなかった」ではすまされない？！配達遅れで被った損害への支払い』 Overview of the Complaint ：グループワークで訴状を読み解き、原告・被告がどよの様な契約を結んだか、原告の訴えはどの様なものか、自分が陪審員だったらどう判断するか、またその理由を話し合う。 Reading: Plaintiff’s Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	①予習 テキスト Case 2 “Damage for a Five-Day Delay” 『「知らなかった」ではすまされない？！配達遅れで被った損害への支払い』の Side B Story と Let’s Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ②復習 授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第４回	対面	Case 2 “Damage for a Five-Day Delay” 『「知らなかった」ではすまされない？！配達遅れで被った損害への支払い』の Side B Story と Let’s Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	①予習 テキスト Case 3 “A Brand New Car (Well, Almost)” 「高すぎる勉強代？顧客が BMW に求めた一罰百戒」 の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習 授業内容を振り返り、確認する。	4 時間
第５回	対面	Case 3 “A Brand New Car (Well, Almost)” 「高すぎる勉強代？顧客が BMW に求めた一罰百戒」 Overview of the Complaint： グループ	①予習 Case 3 “A Brand New Car (Well, Almost)” 「高すぎる勉強代？顧客が BMW に求めた一罰百戒」 の Side B Story と Let’s Hear the Verdict の Side B Story と Let’s Hear the Verdict の聴解の	4 時間

		ワークで訴状を読み解き、原告の訴えに対して被告がどよの様に反論しているか、塗装をしなおした車が新車と言えるか、またその理由を話し合う。 Reading: Plaintiff's Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ②復習　授業内容を振り返り確認する。	
第６回	対面	Case 3 "A Brand New Car (Well, Almost)" ののSide B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。"Punitive Damages"（懲罰的損害賠償)という、主にアメリカ等の英米法で認められている概念を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	①予習　中間レビュークイズ（Case 1- Case 3)に向けた学修を行う。 ②復習　授業内容を振り返り確認する	4 時間
第７回	対面	中間レビュークイズ	①予習　テキスト Case 5 "Dangerous Driving"「スピード違反のドライバーと警察のカーチェイスが生んだ悲劇」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習　中間レビュークイズを振り返り理解度を確認する。	4 時間
第８回	対面	Case 5 "Dangerous Driving"「スピード違反のドライバーと警察のカーチェイスが生んだ悲劇」 Overview of the Complaint： グループワークで原告の訴えを理解する。また警察の停止命令に従わなかった原告と、強制的に停止させた警察と、どちらが悪いと思うか、追跡している車を停止させるにはどの様な方法が取られるべきか等ついて話し合う。 Reading: Plaintiff's Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	①予習　Case 5 "Dangerous Driving"「スピード違反のドライバーと警察のカーチェイスが生んだ悲劇」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ②復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第９回	対面	Case 5 "Dangerous Driving"「スピード違反のドライバーと警察のカーチェイスが生んだ悲劇」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	①予習　Case 6 "I won't Tell You My Source"「CIA 工作員の身元暴露事件ー国家機密漏えいと報道の自由」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第１０回	対面	Case 6 "I won't Tell You My Source"「CIA 工作員の身元暴露事件ー国家機密漏えいと報道の自由」 Overview of the Complaint ：グループワークで、訴追されているのは誰なのか、召喚されているのはどの様な人達なのか、またどの様な情報を裁判所が提出を求めているか等を話し合う。 Reading: Plaintiff's Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	①予習　Case 6 "I won't Tell You My Source"「CIA 工作員の身元暴露事件ー国家機密漏えいと報道の自由」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ②復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第１１回	対面	Case 6 "I won't Tell You My Source"「CIA 工作員の身元暴露事件ー国家機密	①予習　Case 7 "A Fair Trail? Choosing the Jury"　「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判	4 時間

		漏えいと報道の自由」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて申立人と被申立人のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	はこうして始まった」 の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習　授業内容を振り返り確認する。	
第１２回	対面	Case 7 "A Fair Trail? Choosing the Jury"　「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」 Overview of the Appellate Brief: 上訴人による書面を読み、裁判の内容、焦点となっているポイント、陪審員の性別が裁判当事者に影響があるか等を話し合う。 Reading: Defendant's Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	①予習　Case 7 "A Fair Trail? Choosing the Jury"　「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ②復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第１３回	対面	Case 7 "A Fair Trail? Choosing the Jury"　「なぜこんなことに？陪審員が全員女性の裁判はこうして始まった」Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて上訴人と被上訴人のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	①予習　期末レビュークイズ（Case 5 – Case 7)に向けた学修を行う。 ②復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第１４回	対面	期末レビュークイズ	①　予習　学期中に学修した内容を振り返り質問等を纏める。 ② 復習　期末レビュー試験を振り返り、理解度を確認する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめと授業の総括	①予授　　授業全体を振り返り、疑問点などを整理する。 ②復習　　全体について復習をする。 課題を提出する。	4 時間

科目名	英書講読Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉川　真理子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	アメリカやイギリスにおける興味深い判例を英語で学んでみよう		
授業の目的及び概要	この授業では、春学期に引き続き、アメリカやイギリスにおける興味深い判例を大学生が理解できるような比較的、分かり易い英語で読み解いていきます。学生の皆さんはこれらの判例を知る事で、その国の司法判断の拠り所を学ぶ事が出来ます。また裁判について学ぶことを通して、実際にそこに暮らす人々の歴史や文化の積み重ねを理解していきます。今までに学んできた単語が法律英語として使用されると、その意味が大きく変わる事があります。既存の語彙知識も活用しながら司法英語の語彙や表現を学びましょう。また授業では、リーディングだけではなく、リスニングも行い、英語を聞き取る能力をつけることが出来ます。ペア/グループワークの活動も取り入れ、学修内容の理解度を上げていきます。		
履修条件・留意点	「英語の能力」よりも、「英語を学びたい」と思う気持ちが強い人に是非受講して頂きたい科目です。時間をかけて丁寧に授業が進められますので、英語を忘れかけている学生さんでも、やる気があれば大丈夫です。一緒に勉強していきましょう。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を通じて、学生は以下の事が出来るようになります。 （１）法律に関する基礎的な語彙や表現を英語で理解できる。 （２）アメリカとイギリスの判例を英語で読み、その法体系や、その背景にある歴史や文化的側面を知る。 【DP４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フィードバックは授業時間内で適宜行います。また、グループで行う様々なワークから、その理解の深さについて授業内で講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト：Legal Minds15 Journeys in Law, Author: Shinichiro Torikai, Masayuki Tamaruya, Bett Cumming, 2014, 金星堂	ISBN	9784764739840
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	70
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	毎回必ず教科書を持参して下さい。また授業では、間違いを恐れずに積極的に参加して下さい。 イギリスやアメリカで実際に行われた裁判の本物の訴状や召喚状、上訴趣意書等から一部を抜粋したものを英語で読み解いていきます。 授業では、様々な法律に関する語彙や表現を基礎的なものから体系立てじっくりと学んでいきます。学生の皆さんは、しっかりと予習をして授業に臨んでください。

	授業では、積極的にペア/グループワークを取り入れ、クラス全体で学修内容の理解度を上げていきます。 ＊本シラバスの授業計画は、必要に応じて変更される場合があります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業に関するガイダンス（教材、評価、授業の進め方について等） *注意：この科目では、受講生の理解度に応じて授業を進めるため、授業計画を変更することが有ります。 Case９ Made the U.S. My Home 「戦時中の強制収容所と闘った日系アメリカ人アルフレッド・コマツ」 Overview of the Complaint: グループワークで起訴状を読み解き、原告がどの様な訴えをしているのか、被告の国の政府ならどの様な主張をすると思うか、戦時中において、政府は両親が敵国出身の自国市民をどう扱うべきか等を話しあう。 Reading: Defendant’s Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	①予習　Case９ Made the U.S. My Home 「戦時中の強制収容所と闘った日系アメリカ人アルフレッド・コマツ」の Side B Story と Let’s Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ②復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第２回	対面	Case９ Made the U.S. My Home 「戦時中の強制収容と闘った日系アメリカ人アルフレッド・コマツ」の Side B Story と Let’s Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	① 予習　Case10 Separate and Not Equal「人種差別の壁をなくすために裁判に挑んだ、父親の想い」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ② 復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第３回	対面	Case10 Separate and Not Equal「人種差別の壁をなくすために裁判に挑んだ、父親の想い」 Overview of the Complaint: グループワークで起訴状を読み解き、原告が何を理由に訴えを起こしたのか、原告が人種差別を受けていると言えるのはなぜか、1951 年当時の米国の状況を考え、裁判所がどの様な判断を下すべきか等を話し合う。 Reading: Plaintiff’s Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	①予習　Case10 Separate and Not Equal「人種差別の壁をなくすために裁判に挑んだ、父親の想い」の Side B Story と Let’s Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ② 復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第４回	対面	①予習　Case10 Separate and Not Equal「人種差別の壁をなくすために裁判に挑んだ、父親の想い」の Side B Story と Let’s Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ② 復習　授業内容を振り返り確認する。	①予習　Case 11 Reversed Discrimination「白人だから不合格！？　人種是正措置と大学入学制度」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第５回	対面	Case11 Reversed Discrimination「白人だから不合格！？　人種是正措置と大学入学制度」 Overview of the Complaint: グループワークで起訴状を読み解き、原告がどのような訴えをしたのか、大学院の入試でマイノ	① 予習 Case11 Reversed Discrimination「白人だから不合格！？　人種是正措置と大学入学制度」の Side B Story と Let’s Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ② 復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間

		リティを優遇する措置についてどう思うか、どの様な基準で入学者を選抜すれば良いのか等を話し合う。 Reading: Plaintiff's Story でケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。		
第６回	対面	Case11 Reversed Discrimination「白人だから不合格！？　人種是正措置と大学入学制度」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	① 予習　中間レビュークイズ（Case 9- Case11）のための学修に取り組む。 ② 復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第７回	対面	中間レビュークイズ（Case 9- Case11）	①予習　Case12 Season's Greetings: Tradition or Violation?「市有地のクリスマスツリーが引き起こした政治と宗教の問題」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習　中間レビュークイズの内容を振り返り理解度を確認する。	4 時間
第８回	対面	Case 12 Season's Greetings: Tradition or Violation?「市有地のクリスマスツリーが引き起こした政治と宗教の問題」 Overview of the Complaint：グループワークで訴状を読み解き、原告がどの様な訴えを起こしているか、クリスマス飾りのどこが問題なのか、いわゆる「祭り」や伝統行事に、地方自治体はどう関われば良いのか、またその理由等を話し合う。 Reading: Plaintiff's Story：ケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	① 予習 Case１２ Season's Greetings: Tradition or Violation?「市有地のクリスマスツリーが引き起こした政治と宗教の問題」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ② 復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第９回	対面	Case 12 Season's Greetings: Tradition or Violation?「市有地のクリスマスツリーが引き起こした政治と宗教の問題」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	① Case 13 Stop Copying Our Products!　「Apple 対 Samsung一特許を侵害したのはどちらの企業か」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ② 復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第１０回	対面	Case 13 Stop Copying Our Products!　「Apple 対 samsung一特許を侵害したのはどちらの企業か」 Overview of the Complaint：グループワークで訴状を読み解き、原告がどの様な訴えを起こしているか、どちらの企業が何を訴えているのか、またその理由等を話し合う。 Reading: Plaintiff's Story：ケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う。	Case 13 Stop Copying Our Products!　「Apple 対 samsung一特許を侵害したのはどちらの企業か」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ② 復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第１１回	対面	Case 13 Stop Copying Our Products!　「Apple 対 samsung一特許を侵害したのはどちらの企業か」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認	①予習　Case15 A Gift on Foreign Soil 「ナイジェリアでの丸紅の活動。なぜかアメリカ司法省に摘発される」の語彙や表現を調べ全体を通読する。 ②復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間

		し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。		
第１２回	対面	Case15 A Gift on Foreign Soil 「ナイジェリアでの丸紅の活動。なぜかアメリカ司法省に摘発される」 Overview the Complaint：グループワークで訴状を読み解き、原告はどの様な訴えを起こしているのか、丸紅の何が問題とされているのか話し合う。 Reading: Plaintiff's Story：ケースの詳細を理解し、Comprehension Check を行う	① 予習 Case15 A Gift on Foreign Soil 「ナイジェリアでの丸紅の活動。なぜかアメリカ司法省に摘発される」の Side B Story と Let's Hear What happned の聴解の予習を行い、それぞれの内容を予想する。 ② 復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第１３回	対面	予習 Case15 A Gift on Foreign Soil 「ナイジェリアでの丸紅の活動。なぜかアメリカ司法省に摘発される」の Side B Story と Let's Hear the Verdict の聴解部分を確認し、判決結果を知る。また、グループワークを通じて原告と被告のそれぞれの主張や立場を日本語で整理・理解し判決内容を知る。関連する司法英語の重要語彙や表現について学ぶ。	①予習　期末レビュークイズ（Case 12,13,15)の学修に取り組む。 ②復習　授業内容を振り返り確認する。	4 時間
第１４回	対面	期末レビュークイズ（Case 12,13,15）	① 予習　学期中に学修した内容を振り返るり質問等を纏める。 ②復習　期末レビュー試験を振り返り理解度を確認する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめと授業の総括	①予授　　業全体を振り返り疑問点などを整理する。 ②復習　　全体について復習をする。 課題を提出する。	4 時間

科目名	法律実務の基礎	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉原　裕樹	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	実社会における法律知識の活かし方		
授業の目的及び概要	法学部では、さまざまな法律知識を学修する。本科目では、実社会において、それらの法律知識を活用する方法を学ぶ。 法曹志望者だけでなく、社会人となってから、法律の専門的知識を職業活動（公務員・企業法務など）に活かそうとする学生にとっても意義のある内容とする。 担当教員は、2012 年 12 月から 2022 年 3 月まで弁護士を本業としてきた。そのため、本科目の内容は、弁護士の視点に基づく部分が多いが、異なる職種の視点にも適宜言及する。 授業の形式については、双方向・多方向型を基本としつつ、実演形式・講義形式も併用する。 実演形式として、受講生が弁護士役となって、模擬法律相談（民事）・模擬接見（刑事）などを実施する。 受講生の学修状況に応じて、各回の授業計画の順序・内容等を変更する場合がある。 本科目は受講生が、法学部で修得した法律知識を実社会にて活用する方法を理解したうえで、理解した内容を的確に表現できるようになることを目指す。		
履修条件・留意点	民法・刑法について、ひととおりの法律知識を有していることを前提とする。 ４年生を含め、高学年生の受講も歓迎する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	法学部で修得した法律知識を、実社会にて活用する方法を理解している。【ＤＰ１】【ＤＰ２】 そのうえで、理解した内容を的確に、文章として筆記するとともに、口頭で説明して他者と討議することができる。【ＤＰ３】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向型・多方向型のやりとりにより、受講生の理解と考察を深める。 定期試験実施後、その講評等を提供する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しない。	ISBN	テキストは使用しない。
参考書	①企業法務のための民事訴訟の実務解説（第４版），圓道至剛・西尾太一，第一法規，2025 年 ②実戦　民事訴訟の実務（第６版），升田純，民事法研究会，2023 年 ③刑事弁護ビギナーズ（ver.2.1），季刊刑事弁護増刊，現代人文社，2019 年 ④法曹倫理（第２版），髙中正彦，民事法研究会，2025 年	ISBN	①9784474096325 ②9784865565270 ③9784877987206 ④9784865567090

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	60
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	毎回、受講生が事前検討課題を予習していることを前提として、担当教員が事前検討課題について受講生に質問し、解答を求める。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション	事前検討課題を予習する。事前検討課題は、事前に掲示する（第２回以降も同じ）。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第２回	対面	家事１ 夫婦と離婚をめぐる法的紛争１	事前検討課題を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第３回	対面	家事２ 夫婦と離婚をめぐる法的紛争２	事前検討課題を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第４回	対面	家事３ 子どもをめぐる法的紛争	事前検討課題を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第５回	対面	家事４ 高齢者・障碍者をめぐる法的紛争１	事前検討課題を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第６回	対面	民事法・家事１ 高齢者・障碍者をめぐる法的紛争２	事前検討課題を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第７回	対面	民事法・家事２ 不動産取引に関する法的紛争１	事前検討課題を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第８回	対面	民事法・家事３ 不動産取引に関する法的紛争２	事前検討課題を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第９回	対面	民事法・家事４ 債権債務をめぐる法的紛争	事前検討課題を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１０回	対面	刑事法１ 被疑者段階の法律問題１	事前検討課題を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１１回	対面	刑事法２ 被疑者段階の法律問題２	事前検討課題を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１２回	対面	刑事法３ 被告人段階の法律問題１	事前検討課題を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１３回	対面	刑事法４ 被告人段階の法律問題２	事前検討課題を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１４回	対面	公法 憲法・行政法に関する法律問題	事前検討課題を予習する。 授業ノートなどを用いて、授業内容を復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	定期試験（期末試験）に向けた総括	これまでの授業内容の復習、定期試験（期末試験）に向けた学修	4 時間

科目名	子ども法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	森　征樹	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「子ども」をめぐる法と社会		
授業の目的及び概要	成人年齢の 18 歳への引き下げにともなって、成年と未成年との区別、そこでの取り扱いの違いなどが大きな関心をよんだことは記憶に新しい。未成年という「子ども」は成年である「大人」とどこが同じで、どこが異なるのか。同じなのに異なる取扱いをしてもいいのか、あるいは異なっているのに全く同様に取扱っていいのか。子どもは未成熟で発達途上であるといわれるが、その発達段階はどう考えたらいいのか。このような子どもの特性に合わせた制度はどうなっているのか。このことを法制度の面から、法は子どもとどのように向き合うべきなのかを考える。一般的な法のあるべき形を検討した後、子どもが生活する空間をいくつかに分類しながら個別の法がどのようになっているのかを見ていく。		
履修条件・留意点	「子ども」に関するニュースを、普段から新聞やテレビの地上波放送、ウェブサイトなどを通じて、情報を収集する癖をつけておくこと。その際に、特にネットメディアで多く見られる、フェイクニュース等のデマや、「おすすめ」で流れてくる情報の偏りには十分注意してほしい。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	「子ども」を成長発達段階の中に位置づけ、子どもの保護と自立・自律という観点から現行の法制度を批判的に見ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義終了後にコメントカードを提出してもらい、その中で質問等も受けつける。コメントカードを翌週の講義で紹介し、質問への回答や補足説明を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『子どもと法』丹羽徹（編）、法律文化社、2016 年。	ISBN	9784589037862
参考書	テキストの各章末に記載されているものを参照。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
誰もが通過してきた子ども期である。あらためて振り返えるとともに「子ども」とは何であるか、どのような特徴を有しているかを今一度考え直してみてほしい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	講義の進め方、中間試験及び最終試験、単位認定について	レポートなどの詳細についてはこの時間に話すので、必ず出席すること。テキストを準備し、一通り目を通しておくこと（２時間程度）。 授業後に、授業で配布したレジュメおよびテキスト	４時間

			に目を通し、自分の関心のあるテーマを決めておくこと（２時間程度）。	
第２回	対面	『子ども法』における「子ども」とは誰なのか	テキストの第１部 第２章を事前に読んでおくこと（２時間程度）。 授業後に、テキスト２０頁の図を見て、各種法令における子ども・若者の年齢区分を頭に入れておくこと（２時間程度）。	４時間
第３回	対面	「子ども」が犯罪をしたら手続きはどうなるのか	テキスト第４部 第１２章を事前に読んでおくこと（２時間程度）。 授業後に、少年法の概要について復習しておくこと（２時間程度）。	４時間
第４回	対面	少年法はどうあるべきなのか	テキスト第４部 第１３章を事前に読んでおくこと（２時間程度）。 授業後、少年法改正は「厳罰化」なのか「適正化」なのかを自分で調べてみること。また、少年法の対象年齢引き下げ問題について調べること（２時間程度）。	４時間
第５回	対面	学校は何のためにあるのか	テキスト第３部 第８章を事前に読んでよくこと（２時間程度）。 授業後に、日本の学校教育制度が、どのような法に依っているのか、まとめておくこと（２時間程度）。	４時間
第６回	対面	「子ども」にとって教育が権利であるとはどういう意味なのか	テキスト第３部 第９章を事前に読んでおくこと（２時間程度）。 授業後に、「教育を受ける権利」について復習すること（２時間程度）。	４時間
第７回	対面	いじめや体罰に遭ったら学校は守ってくれるのか①	テキスト第３部 第１１章の１～３を事前に読んでおくこと（２時間程度）。 授業後に、いじめをなくすためにどうしたらよいか自分の考えをまとめておくこと（２時間程度）。	４時間
第８回	対面	いじめや体罰に遭ったら学校は守ってくれるのか② 中間試験（予定）	テキスト第３部 第１１章の４～７を事前に読んでおくこと（２時間程度）。 授業後に、「体罰」の概念と「体罰」の是非について、自分の意見をまとめておくこと（２時間程度）。	４時間
第９回	対面	現代の日本でも「子どもの貧困」はあるのか	テキスト第４部 第１４章を事前に読んでおくこと（２時間程度）。 授業後に、日本と世界の「子どもの貧困率」を調べ、まとめておくこと（２時間程度）。	４時間
第１０回	対面	子どもの人権と憲法のかかわりはどうなっているか①	テキスト第１部 第１章を事前に読んでおくこと（２時間程度）。 授業後に、配布したプリントの内容をしっかり把握しておくこと（２時間程度）。	４時間
第１１回	対面	子どもの人権と憲法のかかわりはどうなっているか②	子ども保護論・子ども自律論について、事前に調べておくこと（２時間程度）。 子どもの自律を促すためには、どのような法や政策が必要か、自分の考えをまとめておくこと（２時間程度）。	４時間
第１２回	対面	子どもの人権と憲法のかかわりはどうなっているか③	子どもを保護する法令を、事前に調べてくること（２時間程度）。 授業後に、大阪府青少年健全育成条例の内容についての自分の意見をまとめておくこと（２時間程度）。	４時間
第１３回	対面	親権の範囲はどこまで及ぶのか	テキスト第２部 第６章を事前に読んでおくこと（２時間程度）。 授業後に、親権争いに関する訴訟について調べてみること（２時間程度）。	４時間
第１４回	対面	子どもを育てるためにどんな福祉制度が使えるのか	テキスト第２部 第７章を事前に読んでおくこと（２時間程度）。 授業後に、配布したプリントの各制度を復習しておくこと（２時間程度）。	４時間

第１５回	オンデマンド	まとめ	事前に、講義で扱ったテキストの箇所を、今一度読み返し、理解できていないところなどを洗い出しておくこと（２時間程度）。 授業後に、これまでやった内容のうち、理解の浅い箇所を復習しておくこと（４時間程度）。	6 時間

科目名	ジェンダー法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	小宮山　直子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	ジェンダー法学の基礎		
授業の目的及び概要	ジェンダー法では、歴史的を視点を含めてジェンダー法学の基礎を学びます。授業前半の一部は、西洋社会における女性の地位・権利をめぐる歴史について、西洋法史・ジェンダー法学の視点から考察します。特にフランス革命以降の女性の法的地位をめぐる動向について取り上げます。また、注目すべき女性たちの生涯や女性にかかわる事件・事項について、具体的なイメージがわくようにパワーポイントも利用しながら講義します。次に、前半の西洋女性史からの学習を踏まえて、現代日本の家族・労働(雇用)・暴力、社会保障等にかかわる諸問題をジェンダー法学の視点から考察します。日本における女性の地位・権利が戦後日本国憲法の成立以降、どこまで進展してきたかを検討します。		
履修条件・留意点	各授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、２回分のテーマを１回にまとめることもあります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ジェンダー法について基礎的な知識を習得し、さらに現代法に潜むジェンダーに関わる諸問題を考察する基礎力を身につけることを目標とします。 この授業を通して学生には、西洋の前近代から近代までの各時代・各社会における女性の地位と法の関わりについて、歴史の大きな流れを踏まえて説明できることが期待されます。さらに、ジェンダー法学の視点を通して学んだ知識を、現代日本における法的諸問題の考察に反映できるようになることも期待されます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 適宜配布資料を用います。	ISBN	なし
参考書	①はじめての西洋ジェンダー史，弓削尚子，山川出版社，2021 年 ②ジェンダー法学入門（第 3 版），三成美保他編著，法律文化社，2019 年 ③レクチャージェンダー法（第 2 版），犬伏由子他編著，法律文化社，2021 年 ④法制史入門，岩村等・三成堅次・三成美保編，ナカニシヤ出版，2000 年	ISBN	①9784634640955 ②9784589040152 ③9784589041524 ④9784888483155

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	28
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	17
【定期試験】レポート試験	55
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	公務員試験や企業採用試験の一般教養科目対策として有益である。

あたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス： ジェンダー法学とはなにか ジェンダーをめぐる諸問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第２回	対面	フランス革命と女性： 人権宣言とグージュの女権宣言	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第３回	対面	フランス民法典（1804 年）と女性： フランス民法典の中の女性（特に妻の法的地位） 19 世紀近代市民社会と女性（フランスを中心に）	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第４回	対面	20 世紀・女性の法的地位向上を目指して： 20 世紀前半：女性参政権獲得をめぐる動向（フランス）	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第５回	対面	女性差別撤廃条約とそのインパクト	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第６回	対面	家族をめぐる問題（１）： 戦前の民法・家族法の特色、 戦後における家族法改革	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第７回	対面	家族をめぐる問題（２）： 婚姻・離婚、親子をめぐる諸問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第８回	対面	家族をめぐる問題（３）： これからの家族・家族法 中間復習問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第９回	対面	女性と暴力： 家庭内における暴力、他	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第１０回	対面	労働をめぐる諸問題（１）： 戦後の労働法制改革から男女雇用機会均等法成立まで	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第１１回	対面	労働をめぐる諸問題（２）： 均等法後の労働をめぐる諸問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第１２回	対面	身体をめぐる諸問題： 20 世紀後半における第 2 次フェミニズム運動	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第１３回	対面	社会保障をめぐる諸問題：	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間

第１４回	対面	男女共同参画社会：	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	全体のまとめと復習	これまでのレジュメ・資料・年表などを見直して、全体の流れを把握した上で、重要事項をもう一度確認する。さらに各回の重要テーマを自分の言葉で論じられるように整理する。	5 時間

科目名	ジェンダー法	開講年度	2026 年度春学期
担当者	小宮山　直子	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	ジェンダー法学の基礎		
授業の目的及び概要	ジェンダー法では、歴史的を視点を含めてジェンダー法学の基礎を学びます。授業前半の一部は、西洋社会における女性の地位・権利をめぐる歴史について、西洋法史・ジェンダー法学の視点から考察します。特にフランス革命以降の女性の法的地位をめぐる動向について取り上げます。また、注目すべき女性たちの生涯や女性にかかわる事件・事項について、具体的なイメージがわくようにパワーポイントも利用しながら講義します。次に、前半の西洋女性史からの学習を踏まえて、現代日本の家族・労働(雇用)・暴力、社会保障等にかかわる諸問題をジェンダー法学の視点から考察します。日本における女性の地位・権利が戦後日本国憲法の成立以降、どこまで進展してきたかを検討します。		
履修条件・留意点	各授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。授業の進行にあわせて、２回分のテーマを１回にまとめることもあります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ジェンダー法について基礎的な知識を習得し、さらに現代法に潜むジェンダーに関わる諸問題を考察する基礎力を身につけることを目標とします。 この授業を通して学生には、西洋の前近代から近代までの各時代・各社会における女性の地位と法の関わりについて、歴史の大きな流れを踏まえて説明できることが期待されます。さらに、ジェンダー法学の視点を通して学んだ知識を、現代日本における法的諸問題の考察に反映できるようになることも期待されます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説および講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しません。 適宜配布資料を用います。	ISBN	なし
参考書	①はじめての西洋ジェンダー史，弓削尚子，山川出版社，2021 年 ②ジェンダー法学入門（第 3 版），三成美保他編著，法律文化社，2019 年 ③レクチャージェンダー法（第 2 版），犬伏由子他編著，法律文化社，2021 年 ④法制史入門，岩村等・三成堅次・三成美保編，ナカニシヤ出版，2000 年	ISBN	①9784634640955 ②9784589040152 ③9784589041524 ④9784888483155

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	28
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	17
【定期試験】レポート試験	55
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	公務員試験や企業採用試験の一般教養科目対策として有益である。

あたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス： ジェンダー法学とはなにか ジェンダーをめぐる諸問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第２回	対面	フランス革命と女性： 人権宣言とグージュの女権宣言	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第３回	対面	フランス民法典（1804 年）と女性： フランス民法典の中の女性（特に妻の法的地位） 19 世紀近代市民社会と女性（フランスを中心に）	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第４回	対面	20 世紀・女性の法的地位向上を目指して： 20 世紀前半：女性参政権獲得をめぐる動向（フランス）	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第５回	対面	女性差別撤廃条約とそのインパクト	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第６回	対面	家族をめぐる問題（１）： 戦前の民法・家族法の特色、 戦後における家族法改革	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第７回	対面	家族をめぐる問題（２）： 婚姻・離婚、親子をめぐる諸問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第８回	対面	家族をめぐる問題（３）： これからの家族・家族法 中間復習問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第９回	対面	女性と暴力： 家庭内における暴力、他	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第１０回	対面	労働をめぐる諸問題（１）： 戦後の労働法制改革から男女雇用機会均等法成立まで	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第１１回	対面	労働をめぐる諸問題（２）： 均等法後の労働をめぐる諸問題	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第１２回	対面	身体をめぐる諸問題： 20 世紀後半における第 2 次フェミニズム運動	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第１３回	対面	社会保障をめぐる諸問題：	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間

第１４回	対面	男女共同参画社会：	【予習】授業内で紹介した参考文献の今回の授業の関連箇所を読んでおくこと。 【復習】今回のレジュメ・資料を見直して、重要事項（キーワード）を各自で確認・整理する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	全体のまとめと復習	これまでのレジュメ・資料・年表などを見直して、全体の流れを把握した上で、重要事項をもう一度確認する。さらに各回の重要テーマを自分の言葉で論じられるように整理する。	5 時間

科目名	ＮＰＯ・ＮＧＯ論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	金森　康	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	世界や日本の NPO の動向，企業の社会責任（CSR）の事例などを通じて，関連分野の最新動向を学ぶ		
授業の目的及び概要	State（国家や地方政府），Market（市場），Third Sector（NPO/NGO），Community という社会経済システムの４領域の相互関係をふまえて，NPO や社会的起業家の現状理解，地域政策における位置づけ，地域開発における役割について考えていく． ・事例の解説を中心に行う． ・講義ビデオを適宜使用し，最新の動向の紹介を中心に講義を行う． ・ケーススタディを通じて NPO・NGO の基礎を理解する．		
履修条件・留意点	・定期試験は実施しません．講義中の小テスト・レポート・質疑応答等で総合的に評価します．		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・NPO（Not-for-Profit Organization）や社会起業家が果たす社会的役割について理解する． ・最新事例のケーススタディを通じて，NPO の最新動向をつかむ ・専門用語や考え方を理解する		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義内容→小テストまたはレポート→小テストの解説とこれまでの講義内容の再解説→次の講義内容→小テストまたはレポート→小テストの解説とこれまでの講義内容の再解説→次の内容，という様に，ひとつの講義テーマが終了する毎に小テストと解説・振り返り行う．		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません． 講師作成講義資料にて行う．	ISBN	テキスト無し
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	10
中間試験	20
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	
	サークルやゼミで学外活動，特に社会貢献・地域貢献系を希望する方に受講していただきたいと思います．

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	世界の NPO の現状を解説し，日本の現状を理解する．	授業計画 1 では，講義全体を通じたキーワードを説明するので，キーワードの意味や重要度を復習する．	2 時間
第２回	対面	社会システム論，ウェルフェアミックス，政策評価，協働	授業計画 2 では，理論的背景を説明するので，NPO の社会的位置づけや理論的背景について整理し，復習する．	4 時間

第３回	対面	社会政策論，地域政策論，地域経営，地域マーケティング	授業計画 3 では，理論的背景を説明するので，NPO の社会的位置づけや理論的背景について整理し，復習する.	4 時間
第４回	対面	社会保障，政策評価，PPP（Public Private Partnership），地方分権	授業計画 4 では，理論的背景を説明するので，NPO の社会的位置づけや理論的背景について整理し，復習する.	4 時間
第５回	対面	社会保障，政策評価，PPP（Public Private Partnership），地方分権	授業計画 5 では，理論的背景を説明するので，NPO の社会的位置づけや理論的背景について整理し，復習する. 授業計画 4-5 で解説する英国の若者失業者対策の仕組みは特に重要なので，制度の主旨と運営面での効率性を理解すること.	4 時間
第６回	対面	NPO・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画 6 では，ビデオ教材を使用して，先進事例のケーススタディを行うので，参考モデルとなる要素について整理し，復習する. 先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間
第７回	対面	NPO・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画 7 では，ビデオ教材を使用して，先進事例のケーススタディを行うので，参考モデルとなる要素について整理し，復習する.	4 時間
第８回	対面	NPO・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画 8 では，ビデオ教材を使用して，先進事例のケーススタディを行うので，参考モデルとなる要素について整理し，復習する. 先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間
第９回	対面	NPO・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画 9 では，ビデオ教材を使用して，先進事例のケーススタディを行うので，参考モデルとなる要素について整理し，復習する.	4 時間
第１０回	対面	NPO・NGO・社会起業家の世界的動向	授業計画 10 では，ビデオ教材を使用して，先進事例のケーススタディを行うので，参考モデルとなる要素について整理し，復習する. 先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間
第１１回	対面	企業の社会的責任（CSR），社会的マーケティング，社会的責任投資（SRI）	授業計画 11 では，企業の社会的責任（CSR）に関する理論的背景を説明するので，キーワードを整理し，復習する.	4 時間
第１２回	対面	企業の社会的責任（CSR），社会的マーケティング，社会的責任投資（SRI）	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間
第１３回	対面	企業の社会的責任（CSR），社会的マーケティング，社会的責任投資（SRI）	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること.	4 時間

			なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	
第１４回	対面	テストまたはグループワーク	これまでの講義内容にもとづき，総括的な講義中テストを実施する. これまでの講義内容の復習をおこない，受講すること.	5 時間
第１５回	オンデマンド	総括テスト解説 講義の総括	これまでの講義内容について復習を行い，疑問点や質問事項をまとめたうえで受講すること.	5 時間

科目名	地域政策	開講年度	2026 年度春学期
担当者	金森　康	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	世界各地の地域政策に関連する最新の動向を把握する		
授業の目的及び概要	地方分権化が進行する中で，政策評価，地域再生，ウェルフェアミックス，協働，パートナーシップ，地域経営，地方創生などが地域政策のキーワードとなっている． 従来のような産業誘致やハードインフラ整備ではなく，地域のソフトを整備することで地域の魅力を高めるような地域政策が求められている．また，AI の進化により，人間の仕事そのものの在り方が問い直されている．10 年後に，人は何を生業にしているのか？ 雇用創出という地域政策の命題はどのように変化していくのか？ 本講義ではそのような地域政策の最新動向について理解することで，将来の職業選択や居住地域，政策へのコミットメントなどに関して，先進国における自己成長のための基礎知識を理解する．		
履修条件・留意点	・定期試験は実施しません．講義中の小テスト・レポート・質疑応答等で総合的に評価します．		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	世界の若者雇用・失業問題，日本の若者雇用・若者ホームレス問題，企業誘致は地域再生につながるのか？，世界で一番進んだ国は？EU と地域など，最新事例を解説しつつ，地域政策の動向を学ぶ． 最新動向のケーススタディを通じて，社会課題の深刻度の認識と先進各国の解決策を理解することで，様々な社会課題・経済課題・政策課題に対する理解力を学修する．		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	講義内容→小テストまたはレポート→小テストの解説とこれまでの講義内容の再解説→次の講義内容→小テストまたはレポート→小テストの解説とこれまでの講義内容の再解説→次の内容，という様に，ひとつの講義テーマが終了する毎に小テストと解説・振り返り行う．		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません． 講師作成講義資料にて行う．	ISBN	テキスト無し
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	10
中間試験	20
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	サークルやゼミで学外活動（特に社会貢献・地域貢献系）を行っている方，行政機関等への就職を希望する方に受講していただきたいと思います．

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	地域政策の全体像の解説	授業計画 1 では，講義全体を通じたキーワードを説明するので，キーワードの意味や重要度を復習する.	4 時間
第２回	対面	政策評価理論，地域政策理論，地域マーケティングほか ウェルフェアミックスと地域政策，英国の第３の道，ほか	授業計画 2 では，理論的背景を説明するので，特に近年の動向について，その理論背景を整理し復習すること.	4 時間
第３回	対面	EU の雇用・職業訓練，貧困問題等に関するケーススタディ	授業計画 3 で解説する英国の若者失業者対策の仕組みは特に重要なので，制度の主旨と運営面での効率性を理解すること.	4 時間
第４回	対面	ケーススタディ；フィンランドの職業訓練ほか	授業計画 4 で解説するフィンランドの雇用政策の仕組みは特に重要なので，制度の主旨と運営面での効率性を理解すること.	4 時間
第５回	対面	日本の地域政策先進事例のケーススタディ	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間
第６回	対面	日本の地域政策先進事例のケーススタディ	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間
第７回	対面	日本の地域政策先進事例のケーススタディ	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間
第８回	対面	ケーススタディ；日本の地域再生事例ほか	授業計画 8 では，日本の地域政策に関するキーワードを説明するので，キーワードの意味や重要度を復習する.	4 時間
第９回	対面	コンパクトシティ，高齢者介護と地域政策，高齢者にターゲットを絞ったまちづくり，公共交通，環境対策ほかケーススタディ	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間
第１０回	対面	ケーススタディ：米国サンシティ	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間
第１１回	対面	ケーススタディ：日本の農業その 1	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間
第１２回	対面	ケーススタディ：日本の農業その 2	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間

第１３回	対面	ケーススタディ：日本の農業その 3	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	4 時間
第１４回	対面	AI 進化により人間が失う仕事・雇用，地域の生き残りをかけた地域政策. その両者が重なる領域に，これからの地域政策の優先課題がある.	先進事例のケーススタディに関するレポート課題を予定している. これまでの講義内容を復習したうえで，講義を受講すること. なお，講義の進捗によっては，レポート課題実施が前後することがある.	3 時間
第１５回	オンデマンド	全体総括	これまでの講義内容について復習を行い，疑問点や質問事項をまとめたうえで受講すること.	5 時間

科目名	地域共生論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉川　貴代	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現代日本における地域共生社会		
授業の目的及び概要	日本国憲法では、法の下の平等が規定されている。共生とは、さまざまな人たちが暮らしていて、互いに認め合うことだが、現実には、さまざまな差別や格差が生じている。厚生労働省では、地域共生社会を「制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」としています。この授業では、さまざまな分野からゲストスピーカーを招き、共生の実践、課題を聴き、共生社会の実現に必要な取り組みを考えます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	現代社会では、多様な人たちが共に生きており、2021 年の改正社会福祉法では地域共生社会が定義されている。今年度の授業では、外国人、女性、生活困窮者、高齢者、障がい者、子どもの問題を取り上げ、地域共生社会の実現に向けての課題を理解し、必要な取り組みを学修する。この授業では、各分野の実務家をお招きして、行政や NPO などにおける実践を直接聞くことにより教職や公務員に必要な地域共生の考え方を学び、深めることができる。教職や公務員以外の職業に就く学生も、地域共生社会についての理解は必要であり、これから社会人として働くうえで必要な知識を深めることができる。また、これからの人生において、生活が苦しいといった自分の危機に対して、セーフティネットの存在を理解しておくことで、生きる力を蓄えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業でのアンケート、小テストに対し、講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない	ISBN	なし
参考書	①『障害者差別解消ガイドブック』、日本弁護士連合会人権擁護委員会編著、ぎょうせい、2024 年 ②『不登校・ひきこもり・発達障害・LGBTQ＋　生きづらさの生き方ガイド一本人・家族の本音と困りごと別相談先がわかる本』、大橋史信・岡本二美代、日本法令、2021 年 ③『塀の中のおばあさん　女性刑務所、刑罰とケアの狭間で』、猪熊律子著、角川新書、2023 年 ④『外国人労働者・移民・難民ってだれのこと？」内藤正典、集英社、2019 年 ⑤『体験格差』、今井悠介著、講談社現代新書、2024 年	ISBN	①978-4-324-11370-7 ②978-4-539-72839-0 ③978-4-04-082470-3 ④978-4-08-781672-3 ⑤978-4-06-535363-9

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	50
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	教職の単位となる科目。 公務員や社会福祉関係をめざす学生、教育、福祉の仕事に関心を持つ学生の参加も期待する。 八尾市との連携講座であり、八尾市職員のお話を伺える大切な機会として積極的に参加してほしい。 授業中のスマートフォンは、必要時（Forms の回答など）以外は、使用を禁止します。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス ・厚生労働省の地域共生社会の理念とは何か ・ゲスト講師の紹介と授業の進め方	【予習】厚生労働省のホームページ「地域共生社会ポータルサイト」にて地域共生社会がめざすものについて予習する。(2 時間) 【復習】地域共生社会の課題について教材から復習する。(2 時間)	4 時間
第２回	対面	外国籍住民の人権 在日コリアンへのヘイトスピーチの実例、ヘイトスピーチ解消法などを学ぶ。 「ゲスト講師による授業」	【予習】八尾市や大阪市のホームページから外国籍住民、外国人住民について調べ、学修する（２時間） 【復習】ヘイトスピーチの現状とヘイトスピーチ解消法の課題を教材から理解する（２時間）	4 時間
第３回	対面	外国籍住民の教育福祉の課題 在日コリアンの教育や社会保障の権利について学ぶ。 「ゲスト講師による授業」	【復習】配布資料を使って復習し、外国籍住民の教育福祉の現状を理解する（4 時間）	4 時間
第４回	対面	子どもの貧困と学力格差１ 子どもの貧困の実態と大阪の学力実態調査の結果から問題解決の取り組みを学修する。 「ゲスト講師による授業」	【予習】こども家庭庁ホームページの「こどもの貧困対策」、大阪市や八尾市のホームページから「こども計画」を調べる。（２時間） 【復習】教材から学力と階層差についての理解を深める。（２時間）	4 時間
第５回	対面	子どもの貧困と学力格差２ 希望格差社会と言われる状況をどう変えるか（グループワーク） 「ゲスト講師による授業」	【予習】階層差の影響を減らす経済支援について、授業料支援、奨学金などの制度を調べる。(2 時間) 【復習】階層差との相関を乗り越える教育とは、グループワークから理解する。(2 時間)	4 時間
第６回	対面	男女共同参画１ ・わが国の状況 ・自治体における男女共同参画の取り組み 「ゲスト講師による授業」	【予習】事前に掲載する資料を一読すること。（２時間） 【復習】授業内容を復習すること。（２時間）	4 時間
第７回	対面	男女共同参画２ ・防災と女性 「ゲスト講師による授業」	【復習】授業で使用した資料をもとに復習すること。（４時間）	4 時間
第８回	対面	障がい者施策と人権 障がいの多様性、特徴などを入門的に理解する。 「ゲスト講師による授業」	【予習】障がい者差別解消法の条文について e-GOV から検索して事前に読む。(2 時間) 【復習】発達障がいについての基本的な理解を得るとともに、障害者差別解消法の内容を教材から読みとる。(2 時間)	4 時間
第９回	対面	障がい者権利条約と日本の障がい者施策 国際的な条約が日本の施策に影響を与えてきた点、 障がいについての医療モデル、社会モデルの理解を深める。 「ゲスト講師による授業」	【復習】国際条約を調べるとともに、障がいの医療モデルと社会モデルについて理解し、教材を読む。(4 時間)	4 時間
第１０回	対面	八尾市の教育課題について　教育委員会の仕組みと課題について 「ゲスト講師による授業」	【予習】　文部科学省や八尾市のホームページから教育委員会の仕組み、現場の課題について事前学習を行う。(2 時間)	4 時間

			【復習】　八尾市の教育課題と施策について教材を読み復習する。(2 時間)	
第１１回	対面	八尾市のひとり親家庭支援の取り組みについて 「ゲスト講師による授業」	【予習】　こども家庭庁や八尾市のホームページから、ひとり親家庭支援の事前学習を行う。(2 時間) 【復習】　八尾市のひとり親家庭支援の施策について教材を読み復習する。(2 時間)	4 時間
第１２回	対面	生活保護とセイフティーネット 生活困窮者支援法の枠組みを理解する 「ゲスト講師による授業」	【予習】　生活困窮者支援法を e-GOV から検索して条文を読む。(２時間) 【復習】　生活困窮者自立支援法が対象とする生活困窮者の課題を理解し配布資料を読む。(２時間)	4 時間
第１３回	対面	八尾市の高齢者福祉 高齢者を取り巻く現状とさまざまな施策 「ゲスト講師による授業」	【予習】厚生労働省ホームページの「介護・高齢者福祉」、八尾市ホームページで高齢者福祉の取り組みを調べる。(2 時間) 【復習】配布教材を使って八尾市の高齢者福祉の取り組みを復習する。(2 時間)	4 時間
第１４回	対面	八尾市の地域共生社会 断らない相談支援体制の整備 「ゲスト講師による授業」	【予習】　八尾市ホームページの「つなげる支援室」の取り組みを調べる。(2 時間) 【復習】　八尾市の重層的支援整備事業の取り組みを復習する。(2 時間)	4 時間
第１５回	オンデマンド	授業の総括 地域共生の考え方についてそれぞれの分野の基本的な理解を確認する。	【復習】ラーニングポータルの掲示した資料を使って復習する。(4 時間)	4 時間

科目名	地域防災論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	平阪　美穂	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	地域や組織における防災リーダーの育成		
授業の目的及び概要	本授業では、各種災害の対応に必要となる災害に対する基礎的な知識、災害への備え、災害発生時の対応などについて体系的に学び、地域で活躍できる人材を養成します。 本授業を履修し、所定の要件を満たすことで、「防災士資格取得試験」の受験資格を得ることができます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．災害事象のメカニズムと被害・対策について説明できる。 ２．防災計画、災害情報、要配慮者、災害ボランティアについて説明できる。 ３．地域コミュニティおける防災活動を計画・立案できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出されたレポートを添削して返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	日本防災士機構『防災士教本』2025 年版	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	以下の履修の条件を満たすことができる学生のみが履修できます。 ・ 2026 年度の春学期の出席率が 70%以上であること。 ・ 本授業の事前説明会に参加すること。 ・ 全日程の講義に出席すること。 ・ 所定のレポートを期日までに提出すること。 ・ 授業最終回で実施する防災士試験を必ず受験すること。 ・ 受講費用 7,000 円（テキスト 4,000 円、受験料 3,000 円）を第 1 回目の授業までに納入すること。 ・ 防災士試験合格後に認証登録（認証登録料 5,000 円が必要）をすること。 ・ 普通救命士講習を、防災士試験日までに受講すること。 注意 ・希望者が定員を上回った場合は、選考を行います。 ・ 特定非営利活動法人日本防災士機構が実施する「防災士資格取得試験」の受験資格を得るには、全講義への出席と所定のレポートの提出が必要です。 　詳細な日程は説明会でお示しします。　開講日程を必ず確認し、間違いのないように受講し

	てください。 ・ 公欠の場合は、授業の評価としては配慮しますが、防災士試験の受験資格にを満たすことができなくなりますので注意してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション	事前課題レポートに取り組む【第 2 回授業までに提出】	4 時間
第２回	対面	第 6 講 災害関連情報と予報・警報 （担当：平阪、ゲスト講師）	第 6 講の課題レポートに取り組む	4 時間
第３回	対面	第 16 講　風水害･土砂災害等への備え（担当：平阪、ゲスト講師）	第 16 講の課題レポートに取り組む	4 時間
第４回	対面	第 9 回　行政の災害対策と危機管理（担当：平阪、ゲスト講師）	第 9 講の課題レポートに取り組む	4 時間
第５回	対面	第 15 講　地震・津波への備え 第 10 講　行政の災害救助・応急対策（担当：平阪、ゲスト講師）	第 15 講、第 10 講の課題レポートに取り組む	4 時間
第６回	対面	第 13 講　ライフライン・交通インフラの確保（担当：上林大）	第 13 講の課題レポートに取り組む	4 時間
第７回	対面	補講４　防災士が行う各種訓練①（担当：平阪、ゲスト講師）	補講４の課題レポートに取り組む	4 時間
第８回	対面	補講４　防災士が行う各種訓練②（担当：平阪、ゲスト講師） 中間テスト	補講４の課題レポートに取り組む	4 時間
第９回	対面	第 9 講　行政の災害対策と危機管理（担当：平阪、ゲスト講師）	第 9 講の課題レポートに取り組む	4 時間
第１０回	対面	第 11 講　復旧･復興と被災者支援（担当：平阪、ゲスト講師）	第 11 講の課題レポートに取り組む	4 時間
第１１回	対面	第 17 講　自主防災活動と地区防災計画（担当：平阪、ゲスト講師）	第 17 講の課題レポートに取り組む	4 時間
第１２回	対面	第 21 講　防災士に期待される活動（担当：平阪、ゲスト講師） 第 19 講　地域防災と多様性への配慮（担当：吉川貴代）	第 19 講、第 21 講の課題レポートに取り組む	4 時間
第１３回	対面	全体のふりかえり まとめのテスト（担当：平阪）	テキスト全体を通読し、要点を確認する 防災士試験に向けての勉強をする	4 時間
第１４回	対面	防災士試験（担当：平阪、日本防災士機構試験監督）	テキスト全体を通読し、要点を確認する 防災士試験に向けての勉強をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	救急救命講習 （期日までに各自受講し、証明書を提出すること）	テキスト全体を通読し、要点を確認する 防災士試験に向けての勉強をする	4 時間

科目名	医事法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	手嶋　豊	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	医療と法に関わる諸課題を関連する多くの制定法・判例を参照しつつ検討する。		
授業の目的及び概要	本授業は、医療をめぐる様々な法律問題を検討する領域である医事法を、問題群ごとに横断的に学び、様々なトピックを取り上げて検討することにより、問題の所在やその法的解決について深い理解をもつことができるようになる。【DP1】【DP2】【DP４】		
履修条件・留意点	各種事案を検討するため、前提として、少なくとも民法・刑法・憲法の基本的知識を有していることが必須である。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	医療をめぐる諸問題について、課題を法的な観点から考察・分析できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	試験後、授業支援システム(Learning Portal)に出題の意図、及び講評を掲載する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	医事法入門（第６版）、手嶋豊、有斐閣、2022 年	ISBN	9784641222045
参考書	医事法判例百選（第三版）、甲斐克則・手嶋豊編、有斐閣、2022 年	ISBN	9784641115583

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	80
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システム(Learning Portal)に掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。 ・授業には、最新版の法学部指定六法を必ず持参すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の概要・成績評価方法・授業の方法の説明、参考書等の紹介、医事法総論についての概説	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第１回授業資料を事前に読み、不明確な点を把握しておくこと。１時間。 事後学修：第１回授業資料を授業後に読み直し、復習しておくこと。３時間。	４時間
第２回	対面	医療事故（1）	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第２回授業資料を事前に読んでおくこと。１時間。 事後学修：第２回授業資料を授業後に読み直し、復習しておくこと。３時間。	４時間
第３回	対面	医療事故（2）	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第３回授	４時間

			業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第３回授業資料を授業後に再読し、復習しておくこと。3 時間。	
第４回	対面	人工妊娠中絶、生殖補助医療（1）	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第４回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第４回授業資料を授業後に再読し、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第５回	対面	生殖補助医療（2）、性分化疾患	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第５回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第５回授業資料を授業後に再読し、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第６回	対面	脳死・臓器移植	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第６回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第６回授業資料を授業後に再読し、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第７回	対面	終末期医療（1）	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第７回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第７回授業資料を授業後に再読し、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第８回	対面	終末期医療（2）	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第８回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第８回授業資料を授業後に再読し、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第９回	対面	診療情報とその保護	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第９回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第９回授業資料を授業後に再読し、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第１０回	対面	医療関係者の身分法、医療施設をめぐる法	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第１０回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第１０回授業資料を授業後に再読し、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第１１回	対面	医学研究・医薬品	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第１１回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第１１回授業資料を授業後に再読し、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第１２回	対面	医療情報に関する諸問題	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第１２回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第１２回授業資料を授業後に再読し、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第１３回	対面	感染症対策、非感染症対策	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第１３回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第１３回授業資料を授業後に再読し、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第１４回	対面	グローバル・ヘルス・ローについて	事前学修：ラーニングポータルに掲載する第１４回授業資料を事前に読んでおくこと。1 時間。 事後学修：第１４回授業資料を授業後に再読し、復習しておくこと。3 時間。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの学修の振り返り	事前学修：これまでの授業内容を振り返り、理解が不十分なところや疑問点を整理する。2 時間。 事後学修：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備に取り組む。2 時間。	4 時間

科目名	警察行政概論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	上林　大	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察法制と治安維持の在り方		
授業の目的及び概要	我が国の治安維持を担う警察の組織や適正な権限行使などを学修し、治安維持の在り方について理解を深めることを目的としています。 本講義では、警察法制の変遷のほか、警察組織法である「警察法」、警察活動(権限)法である「警察官職務執行法」などの警察関係法令に基づいて、警察の組織、警察官の義務及び権利、国及び国民を守るための適正な権限行使などがどのように規定されているかを学修します。 本講義を受講することにより、国民に直結している治安維持のための警察法制の在り方について理解を深めることができます。		
履修条件・留意点	学修効果の観点から、公務員特別演習Ⅰを履修しているか、一緒に履修することをつよく推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①現行の警察基本法である警察法や警察官職務執行法等の警察関係法令の概要、条文の文言や専門用語の意味について理解し、説明することができる。 ②警察関係法令の規定に基づき、警察の組織や権限の適正執行の在り方について、国及び国民にどのように作用して治安が維持されているかを理解し、説明することができる。 ③警察の組織と権限行使などの警察法制の現状を理解し、その在り方について自らの見解を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートでの質疑等については、原則として次回授業で回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 各回講義資料をラーニングポータルに掲載し、必要により補助資料等も掲載します。	ISBN	なし
参考書	①警察行政法解説　第三版改訂版，田村正博，東京法令出版，2026 年 1 月 20 日 ②注釈警察官職務執行法　５訂版，古谷洋一，立花書房，2021 年 2 月 10 日 ③警察白書　令和５年版(警察庁ホームページ)	ISBN	①9784809015045 ②9784803722314 ③なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	10
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・法学部指定六法を必ず持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器（ＰＣやスマホなど）の使用は厳禁。違反者に対しては厳しく対応する。

	・治安情勢や警察組織に関するニュース・報道に関心を持ち、本講義内容と関連させて記事等の内容を見聞すること。 ・講義資料や補助資料については、ラーニングポータルに掲載(配布)するので、紙媒体が必要な学生は各自で印刷すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の目的、授業概要の説明等、ガイダンスを行います。 公務員とは何か、警察官とは何かについて解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第２回	対面	警察制度の変遷について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第３回	対面	警察組織法の総論について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第４回	対面	警察の責務について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。 【予習】シラバス、ガイダンス資料等を事前に読んでおくこと。六法の警察法、警察官職務執行法の目次を一読しておく。 【復習】授業内で示した授業方針、授業計画をよく理解しておく。講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	2 時間

第５回	対面	国の警察機関について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第６回	対面	都道府県警察について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第７回	対面	中間レポート作成（課題レポート） これまでの講義内容の理解度、各学生個人の見解による自己研鑽の度合いを確認します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて課題レポートの作成準備に取り組む。これには２時間を要する。 ・事後学修：課題レポートの作成、提出に向けて取り組む。レポート作成に関して理解が不十分なところがあれば、次回の授業時やコメントシート等で教員に質問する。これには２時間を要する。	4 時間
第８回	対面	都道府県警察相互の関係、管轄区域と職権行使について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。 【予習】シラバス、ガイダンス資料等を事前に読んでおくこと。六法の警察法、警察官職務執行法の目次を一読しておく。 【復習】授業内で示した授業方針、授業計画をよく理解しておく。講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	2 時間
第９回	対面	都道府県警察の職員について解説します。（第１回目）	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理	2 時間

			解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	
第１０回	対面	都道府県警察の職員について解説します。（第２回目）	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１１回	対面	警察官の職務倫理について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１２回	対面	警察官等のその他の規定や緊急事態の特則について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１３回	対面	職務質問について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１４回	対面	武器の使用について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間

第１５回	オンデマンド	定期試験に向けたまとめ・復習	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、コメントシート等で教員に質問する。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認し、復習する。理解が不十分なところがあれば、コメントシート等で教員に質問する。これには１時間を要する。	2 時間

科目名	警察法令概論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	上林　大	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	治安維持のための社会政策と警察実務		
授業の目的及び概要	日常発生する事件・事故等を取り上げ、これらに対峙する警察機関や現場警察官の活動、政府の諸対策等を通じて、治安を維持していくための社会政策と警察活動実務について理解することを目的としています。 本講義では、刑事警察の概略、組織犯罪対策や人身安全対策など多岐にわたる警察活動と犯罪対策などの政府の諸対策について学修します。 本講義を受講することにより、各種事案に対する警察活動の実情、政府の諸施策と警察及び他機関との連携等について理解を深めることができます。将来、住民の安全・安心に携わる職種を志望する学生はもとより、一市民としても社会政策とはいかにあるべきかを考察することができます。		
履修条件・留意点	学習効果の観点から、公務員特別演習Ⅰを履修しているか、一緒に履修することをつよく推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①多岐にわたる警察活動の実情について理解し、説明することができる。 ②警察を含めた多くの組織の様々な活動による治安維持について理解し、説明することができる。 ③治安維持に対する社会政策について、自らが当事者意識をもっていかにあるべきか見解を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートでの質疑等については、原則として次回授業で回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 各回講義資料をラーニングポータルに掲載し、必要により補助資料等も掲載します。	ISBN	なし
参考書	①新版　警察行政概論，金山泰介，三恵社、2025 年 ②警察白書　令和５年版(警察庁ホームページ)	ISBN	①9784866939964 ②なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	10
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・法学部指定六法を必ず持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁。違反者に対しては厳しく対応する。 ・日常発生する事件事故に関するニュース・報道に関心を持ち、本講義内容と関連させて記事等の内容を見聞すること。

	・講義資料や補助資料については、ラーニングポータルに掲載（配布）するので、紙媒体の必要な学生は、各自で印刷すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の目的、授業概要の説明等、ガイダンスを行います。 犯罪に対峙する警察組織の仕組みについて解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第２回	対面	刑事手続の概略について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第３回	対面	法の適正執行と証拠価値について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第４回	対面	法の適正執行と証拠価値について解説します。（判例研究）	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第５回	対面	中間レポート作成(課題レポート)	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、課題レポートの作成準備に取り組む。これには２時間を要する。 ・事後学修：課題レポートの作成、レポート作成に関して理解が不十分なところがあれば、次回の授業時やコメントシート等で教員に質問する。これには２	4 時間

			時間を要する。	
第６回	対面	警察捜査及び他の捜査機関との関係について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第７回	対面	刑事警察における捜査実務について、窃盗犯捜査及び強行犯捜査を事例に解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第８回	対面	組織犯罪対策について、薬物犯罪捜査を事例に解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第９回	対面	取調べの録音・録画制度について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第１０回	対面	ストーカー犯罪対策について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第１１回	対面	児童虐待防止対策について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執	2 時間

			行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	
第１２回	対面	災害対策について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１３回	対面	交通安全対策について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	１時間
第１４回	対面	犯罪被害者等支援について解説します。	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。併せて、レジュメに小テストが掲載されているときは、それにも取り組む。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認するとともに、レジュメに小テストが掲載されているときは復習する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１５回	オンデマンド	定期試験に向けたまとめ・復習	・事前学習：レジュメ、六法の警察法や警察官職務執行法等の該当箇所を事前に読み、全体の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、コメントシート等で教員に質問する。これには１時間を要する。 ・事後学修：授業で説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認し、復習する。理解が不十分なところがあれば、コメントシート等で教員に質問する。これには１時間を要する。	２時間

科目名	消防行政概論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	雑喉　浩久	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	消防行政の法と在り方		
授業の目的及び概要	行政の最前線において市民生活の危機に対応する消防の基礎的知識を修得することを目的とする。 危機管理行政で重要な位置を占める消防の組織や活動に関する法知識を修得するとともに消防行政の在り方について考える。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	消防組織やその活動に関する法令の概要を理解する。 関係法令の規定に基づき、消防の組織や活動の在り方や危機管理について理解し、消防行政の在り方について自らの見解を持つことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートでの質疑等については、原則として次回授業で回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	
	日ごろから消防や防災に関するニュース等に関心を持ち、本講義の内容と関連させて見聞してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の目的、概要の説明等ガイダンスを行います。 公務員とは何か、消防官とは何かについて解説します。	【予習】シラバス、ガイダンス資料等を事前に読んでおくこと。六法の消防法、消防組織法の目次を一読しておく。 【復習】授業内で示した授業方針、授業計画をよく理解しておく。講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	消防行政の沿革について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に	4 時間

			基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	
第３回	対面	消防関係の基本法令、目的、任務等について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	国･都道府県の消防機関について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	市町村の消防機関について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	消防職団員の身分取扱い（地方公務員法等）について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	消防職団員の勤務条件等について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第８回	対面	市町村の消防機関の広域化について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第９回	対面	各消防機関相互の関係について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	消防関連法令（災害対策基本法等）について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	消防関連法令（国民保護法等）について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己	4 時間

			のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	
第１２回	対面	消防防災分野におけるＤＸの推進について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	消防体制の現状と課題について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	対面	災害の現状と課題について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	オンデマンド	定期試験（レポート試験）に向け、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴したうえで、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	4 時間

科目名	消防行政概論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	雑喉　浩久	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	消防行政の法と在り方		
授業の目的及び概要	行政の最前線において市民生活の危機に対応する消防の基礎的知識を修得することを目的とする。 危機管理行政で重要な位置を占める消防の組織や活動に関する法知識を修得するとともに消防行政の在り方について考える。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	消防組織やその活動に関する法令の概要を理解する。 関係法令の規定に基づき、消防の組織や活動の在り方や危機管理について理解し、消防行政の在り方について自らの見解を持つことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートでの質疑等については、原則として次回授業で回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	40
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	
	日ごろから消防や防災に関するニュース等に関心を持ち、本講義の内容と関連させて見聞してください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の目的、概要の説明等ガイダンスを行います。 公務員とは何か、消防官とは何かについて解説します。	【予習】シラバス、ガイダンス資料等を事前に読んでおくこと。六法の消防法、消防組織法の目次を一読しておく。 【復習】授業内で示した授業方針、授業計画をよく理解しておく。講義内容に基づく自己のメモやノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	消防行政の沿革について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に	4 時間

			基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	
第３回	対面	消防関係の基本法令、目的、任務等について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	国･都道府県の消防機関について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	市町村の消防機関について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	消防職団員の身分取扱い（地方公務員法等）について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	消防職団員の勤務条件等について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第８回	対面	市町村の消防機関の広域化について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第９回	対面	各消防機関相互の関係について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	消防関連法令（災害対策基本法等）について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	消防関連法令（国民保護法等）について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己	4 時間

			のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	
第１２回	対面	消防防災分野におけるＤＸの推進について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	消防体制の現状と課題について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	対面	災害の現状と課題について解説します。	【予習】ガイダンスで示した授業のテーマや概略に基づいて、関係する制度や法令等について自己研鑽しておく。 【復習】配布した講義資料や講義内容に基づく自己のメモ、ノート等を再度読み込み、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	オンデマンド	定期試験（レポート試験）に向け、これまでの内容の総復習をオンデマンドで配信します。	【復習】オンデマンド動画を視聴したうえで、これまでの学修内容の総復習を行ってください。	4 時間

科目名	スポーツ法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	古結　誠	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	スポーツを素材に憲法・民法・刑法の各法律を学び直し、スポーツの場面で適用される法律や制度も理解する。		
授業の目的及び概要	ドイツの戦後復興を支えたゴールデンプラン、スポーツシューレ、地域クラブの制作に刺激を受け、わが国でも学校体育から地域総合型クラブへの転換、国民皆スポーツを理念とするスポーツ基本法が成立した。国、自治体の責務やスポーツ団体の努力が明記され、スポーツを心身の健康づくり、国際協調の重要な柱として発展さえることが戦略となった。 このような時代の要請、また、近年話題の体罰と指導者の姿勢等も踏まえて、スポーツと人権に関する問題やスポーツの場面における紛争解決方法などを学ぶとともに、スポーツと事故についてもスポーツ法学の観点から基本的な理解を深める。また、スポーツにまつわる法律問題を題材として、憲法や民法、刑法などの基本的な法律科目について学び直し、その理解を深めることを目的とする。 また、「スポーツ・ビジネス法務」においてスポーツビジネス分野での法律の活用を学ぶ前提として、スポーツ法に関する基礎を習得することも目的とする。そのため、この授業と、「ビジネス法務」及び民事法・企業法科目を合わせて履修し、次年度の「スポーツビジネス法務」及びその特別プログラムとしてのスポーツ関連企業インターンにもチャレンジしてほしい。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・スポーツの歴史を学び、我が国のスポーツ基本法の理念を理解できる。 ・スポーツと人権、スポーツとインテグリティの問題（ドーピングや体罰等の不祥事）を学ぶことにより、スポーツのあるべき姿について考える力を身につける。 ・スポーツと人権、スポーツと契約、スポーツと事故等に関して学習することにより、憲法、民法（契約法、不法行為法）、刑法の基礎についての理解を深める。 ・また、近年話題の体罰と指導者の姿勢、スポーツ事故の対応についてもスポーツ法学の観点から考察し、防止のための対策や対処を実際の事例を通じて理解を深める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回、授業の最後に小テストを実施して、授業内で解説を行う。 中間テストは授業の最終回までに講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員のうち奥山講師は、法律事務所にて５年以上の実務経験を有しており、一般の民事事件、刑事事件等を扱っているほか、各種事故における損害賠償、損害保険制度、その他スポーツに関する法的問題等を専門分野とし、弁護士活動を行っている。また、日本スポーツ法学会にも所属している。 中川講師は、弁護士として 5 年以上の実務経験を有している。また、日本スポーツ法学会に所属している。 本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しません。配布資料を用いて授業を行います。	ISBN	なし
参考書	①平和学”としてのスポーツ法入門，辻口信良，民事法研究会，2016 年 ②スポーツ法へのファーストステップ，石堂典秀ほか編著，法律文化社，2018 年 ③標準テキストスポーツ法学，浦川道太郎・吉田勝光編著，エイデル研究所，2020 年	ISBN	①9784865561302 ②9784589039651 ③9784871686501 ④9784865562231

	④Q&A スポーツの法律問題ープロ選手から愛好者までの必修知識，スポーツ問題研究会，民事法研究会，2018年		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	40	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（%）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	普段ニュースで触れることの多いスポーツ界の問題について、法的にはどのような問題になるのかということを学ぶことができ、かつ、これまで学修してきた憲法、民法、刑法などの法律も復習にもなります。また、オリンピックに関するホットな話題についても検討してもらう機会があるので、積極的に参加してもらいたい。 また、この授業と、「ビジネス法務」及び民事法・企業法科目を合わせて履修し、次年度の「スポーツビジネス法務」及びその特別プログラムとしてのスポーツ関連企業インターンにもチャレンジしてほしい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション、スポーツ法とは何か（担当者：古結）	予習：特になし 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	2 時間
第２回	対面	スポーツと契約・規則（１）（担当者：古結） ・スポーツ界で締結されるさまざまな契約 ・民法上の契約類型とスポーツ界の契約の類型の検討	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所に目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第３回	対面	スポーツと契約・規則（２）（担当者：古結） ・スポーツ界で締結されるさまざまな契約 ・民法上の契約類型とスポーツ界の契約の類型の検討	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所に目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第４回	対面	スポーツと契約・規則（３）（担当者：古結） ・労働者の保護とスポーツ選手の労働者性等	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所に目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第５回	対面	スポーツ事故（１）（担当者：奥山） ・スポーツ事故の実例 ・民法上の不法行為責任、使用者責任、国家賠償法、製造物責任等 ・安全配慮義務等の契約上の責任 ・スポーツ事故に関する裁判例の紹介	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所に目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第６回	対面	スポーツ事故（２）（担当者：奥山） ・スポーツ事故の実例 ・民法上の不法行為責任、使用者責任、国家賠償法、製造物責任等 ・安全配慮義務等の契約上の責任 ・スポーツ事故に関する裁判例の紹介	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所に目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間

第7回	対面	スポーツ事故（3）（担当者：奥山） ・スポーツ事故の実例 ・民法上の不法行為責任、使用者責任、国家賠償法、製造物責任等 ・安全配慮義務等の契約上の責任 ・スポーツ事故に関する裁判例の紹介	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所に目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第8回	対面	スポーツと人権（1）（担当者：奥山） ・日本国憲法における身体の自由、平等権（差別の禁止）等 ・私人間効力と間接適用説	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所に目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第9回	対面	スポーツと人権（2）（担当者：奥山） ・子どもの保護、体罰、セクハラ、パワハラ、人種差別等と事例紹介	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所に目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第10回	対面	スポーツにおけるドーピングの禁止（担当者：中川） ・ドーピングが禁止されている理由 ・アンチ・ドーピング制度の紹介	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所に目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第11回	対面	オリンピック・パラリンピックとスポーツ法（担当者：中川） ・オリンピック・パラリンピックに関わる法的問題（スポンサー契約、代表選考等） ・延期に関連する諸問題	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所に目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第12回	対面	スポーツに関する不祥事処分（担当者：中川） ・処分権者、処分の根拠等 ・不利益処分に関する適正手続の確保 ・第三者委員会の役割等	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所に目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第13回	対面	スポーツ紛争の解決手段（担当者：中川） ・訴訟、日本スポーツ仲裁機構による仲裁等の解決手段の紹介 ・紛争解決における適正手続の確保	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所に目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	4 時間
第14回	対面	スポーツと犯罪（担当者：中川） ・罪刑法定主義、正当業務行為、危険の引受け等	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所に目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直し、残った疑問点を次回の講義の際に質問できるように用意しておくこと。	5 時間
第15回	オンデマンド	まとめ（担当者：古結）	予習（2 時間程度）：事前に参考書等の関連箇所に目を通し、疑問点等をピックアップしておくこと。 復習（2 時間程度）：レジュメ等を見直しておくこと。	5 時間

科目名	法学特別講義Ａ　【法学検定ﾍﾞｰｼｯｸ対応】	開講年度	2026 年度春学期
担当者	金　亮完	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法律系資格の種類・試験内容の理解及び法学検定試験〈ベーシック〉の合格に必要な知識の学修		
授業の目的及び概要	・本授業では、1 年生を対象として、法律系資格の種類・試験内容について理解するとともに、11 月に行われる法学検定試験〈ベーシック〉の合格に必要な知識の修得を目的とする。併せて、資格取得の重要性や資格取得のための計画的な勉強方法などについても学ぶ。 ・最初は、法学検定試験、知的財産管理技能検定、宅地建物取引士（いわゆる「宅建士」）、行政書士などの法律系資格の内容について説明する。その後、11 月に行われる法学検定試験〈ベーシック〉の合格に向けて、受験科目（法学の基礎・憲法・民法・刑法）の知識を学修する。 ・1 年次に法学検定試験ベーシックに合格すれば、2 年次以降の法律系科目が非常に理解しやすくなるとともに、皆さんの自信にもなるはずである。		
履修条件・留意点	・2026 年 11 月に実施される法学検定試験〈ベーシック〉試験を全員受験する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・法律系資格の種類・内容を理解し、卒業までに取得する資格を決める。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・資格試験に向けての計画的な学修プランが立てられるようになる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・法学検定試験〈ベーシック〉の合格に必要な知識を修得する。【ＤＰ１】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・質問等については、授業終了後に対応する。 ・授業時間外の質問等に対しては、対面・ラーニングポータル・オフィスアワーで対応する。また、いい質問については、その内容と回答は受講生と共有する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	法学検定試験委員会編，2026 年法学検定試験問題集ベーシック〈基礎〉，商事法務	ISBN	2026 年 3 月刊行予定
参考書	特に指定しない。	ISBN	なし。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	30
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・携帯用の六法は必携である。また、授業中の私語、授業とは無関係なスマホの使用は厳禁とする。違反者に対しては退室を命じるなど厳しく対応する。 ・授業の前に事前に指定された範囲の問題に取り組み、授業後には復習すること。資格試験は反復継続学習が重要である。 ・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システムに掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・授業時にはノートをとること。ノートの取り方は授業時に必要に応じて説明する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・授業の進め方、成績評価の方法、法学検定試験〈ベーシック〉の内容について説明する。 ・法学検定試験、知的財産管理技能検定、宅地建物取引士（いわゆる「宅建士」）、行政書士、司法書士などの法律系資格の種類と将来の進路との関係について説明する。	【事前学修】事前に配布するレジュメに目を通し、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】法学検定試験〈ベーシック〉の試験内容を理解する。	4 時間
第２回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第３回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第４回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第５回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第６回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第７回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第８回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第９回	対面	・中間テスト：マークシートによる中間テストを実施する。	【事前学修】第２回から第８回まで扱った問題を復習し、中間テストの準備をする。 【事後学修】中間テスト問題に２回以上取り組む。	4 時間
第１０回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第１１回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第１２回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第１３回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第１４回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間

科目名	法学特別講義Ｂ　【法学検定ﾍﾞｰｼｯｸ対応】	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	金　亮完	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法律系資格の種類・試験内容の理解及び法学検定試験〈ベーシック〉の合格に必要な知識の学修		
授業の目的及び概要	・本授業では、１年生を対象として、法律系資格の種類・試験内容について理解するとともに、11 月に行われる法学検定試験〈ベーシック〉の合格に必要な知識の修得を目的とする。 ・法学検定試験〈ベーシック〉の合格に向けて、受験科目（法学の基礎・憲法・民法・刑法）の知識を学修する。 ・１年次に法学検定試験〈ベーシック〉に合格すれば、２年次以降の法律系科目が非常に理解しやすくなるとともに、皆さんの自信にもなるはずである。		
履修条件・留意点	・２０２６年１１月に実施される法学検定試験〈ベーシック〉試験を全員受験する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・法律系資格の種類・内容を理解し、卒業までに取得する資格を決める。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・資格試験に向けての計画的な学修プランが立てられるようになる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・法学検定試験ベーシックの合格に必要な知識を修得する。【ＤＰ１】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応	法学検定ベーシック：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・質問等については、授業終了後に対応する。 ・授業時間外の質問等に対しては、対面・ラーニングポータル・オフィスアワーで対応する。また、いい質問については、その内容と回答は受講生と共有する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	法学検定試験委員会編，2026 年法学検定試験問題集ベーシック〈基礎〉，商事法務	ISBN	2026 年 3 月刊行予定
参考書	特に指定しない。	ISBN	なし。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	30
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・携帯用の六法は必携である。また、授業中の私語、授業とは無関係なスマホの使用は厳禁とする。違反者に対しては退室を命じるなど厳しく対応する。 ・授業の前に事前に指定された範囲の問題に取り組み、授業後には復習すること。資格試験は反復継続学習が重要である。 ・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システムに掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・授業時にはノートをとること。ノートの取り方は授業時に必要に応じて説明する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	・授業の進め方、成績評価の方法、法学検定試験〈ベーシック〉の内容について説明する。	【事前学修】事前に配布するレジュメに目を通し、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】法学検定試験〈ベーシック〉の試験内容を理解する。	４時間
第２回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第３回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第４回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第５回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第６回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第７回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第８回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第９回	対面	・中間テスト：マークシートによる中間テストを実施する。	【事前学修】第２回から第７回まで扱った問題を復習し、中間テストの準備をする。 【事後学修】中間テスト問題に２回以上取り組む。	４時間
第１０回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第１１回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第１２回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第１３回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第１４回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第１５回	オンデマンド	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間

科目名	法学特別講義Ｃ　【法学検定ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ対応】	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	金　亮完	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法律系資格の種類・試験内容の理解及び法学検定試験〈スタンダード〉に向けての学修		
授業の目的及び概要	・本授業では、法律系資格の種類・試験内容について理解するとともに、11 月に行われる法学検定試験〈スタンダード〉の合格に必要な知識の修得を目的とする。併せて、資格取得の重要性や資格取得のための計画的な勉強方法などについても学ぶ。 ・11 月に行われる法学検定試験〈スタンダード〉に向けて、受験科目（法学の基礎・憲法・民法・刑法・選択科目）の知識を学修する。 ・1 年次に法学検定試験〈スタンダード〉に合格すれば、２年次以降の法律系科目が非常に理解しやすくなるとともに、皆さんの自信にもなるはずである。		
履修条件・留意点	・2026 年 11 月に実施される法学検定試験〈ベーシック〉試験を全員受験する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・法律系資格の種類・内容を理解し、卒業までに取得する資格を決める。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・資格試験に向けての計画的な学修プランが立てられるようになる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・法学検定試験ベーシックの合格に必要な知識を修得する。【ＤＰ１】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応	法学検定スタンダード：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・質問等については、授業終了後に対応する。 ・授業時間外の質問等に対しては、対面・ラーニングポータル・オフィスアワーで対応する。また、いい質問については、その内容と回答は受講生と共有する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	法学検定試験委員会編，2026 年法学検定試験問題集スタンダード〈中級〉，商事法務	ISBN	2026 年 3 月刊行予定
参考書	特に指定しない。	ISBN	なし。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	30
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって
・携帯用の六法は必携である。また、授業中の私語、授業とは無関係なスマホの使用は厳禁とする。違反者に対しては退室を命じるなど厳しく対応する。 ・授業の前に事前に指定された範囲の問題に取り組み、授業後には復習すること。法学検定は反復学習が重要である。 ・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システムに掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・授業時にはノートをとること。ノートの取り方は授業時に必要に応じて説明する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	・授業の進め方、成績評価の方法、法学検定試験べ〈スタンダード〉の内容について説明する。 ・法学検定試験、知的財産管理技能検定、宅地建物取引士（いわゆる「宅建士」）、行政書士などの法律系資格の種類と将来の進路との関係について説明する。	【事前学修】事前に配布するレジュメに目を通し、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】法学検定試験〈スタンダード〉の試験内容を理解する。	４時間
第２回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第３回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第４回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第５回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第６回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第７回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第８回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第９回	対面	・中間テスト：マークシートによる中間テストを実施する。	【事前学修】第２回から第８回まで扱った問題を復習し、中間テストの準備をする。 【事後学修】中間テスト問題に２回以上取り組む。	４時間
第１０回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第１１回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第１２回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第１３回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第１４回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間
第１５回	オンデマンド	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	４時間

科目名	法学特別講義Ｄ　【宅地建物取引士試験対応】	開講年度	2026 年度春学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	宅地建物取引士試験に必要な試験分野のうち①権利関係、②宅建業法について学修する。		
授業の目的及び概要	宅地建物取引士試験に必要な試験分野のうち①権利関係、②宅建業法について、各分野の知識をインプットする。また、練習問題を解くことでその知識を定着させる。		
履修条件・留意点	S コース「宅地建物取引士試験合格講座」を受講することを推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	宅地建物取引士試験の各分野について、自分自身の弱点分野を認識し、試験問題に対応できるようになる。 宅地建物取引士試験の分野のうち①権利関係、②宅建業法について合格点を獲得できるようになる。		
資格・検定試験への対応	宅地建物取引士試験：10 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	中間テストは採点したうえで講評を行い、講義内で解説等を実施する。また、質問については、適宜授業内で回答する。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員のうち坂上教授は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	使用する場合には、事前に履修者に連絡する。	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	40
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	45
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	
	本講義は集中講義により実施するので、講義日程について確認するとともに、全回出席することを求める。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	０．講義ガイダンス １．意思表示 ２．制限行為能力者 ３．時効	【予習】１．意思表示　２．制限行為能力者　３．時効について、レジュメ等で疑問点を確認する。 【復習】上記の分野について、レジュメや練習問題を確認し、知識を定着させる。	4 時間
第２回	対面	４．代理 ５．債務不履行・解除 ６．危険負担	【予習】４．代理　５．債務不履行・解除　６．危険負担について、レジュメ等で疑問点を確認する。 【復習】上記の分野について、レジュメや練習問題を	4 時間

			確認し、知識を定着させる。	
第３回	対面	７．弁済 ８．契約不適合責任 ９．相続	【予習】７．弁済　８．契約不適合責任　９．相続について、レジュメ等で疑問点を確認する。 【復習】上記の分野について、レジュメや練習問題を確認し、知識を定着させる。	４時間
第４回	対面	10．物権変動 11．不動産登記法 12．抵当権	【予習】10．物権変動　11．不動産登記法　12．抵当権について、レジュメ等で疑問点を確認する。 【復習】上記の分野について、レジュメや練習問題を確認し、知識を定着させる。	４時間
第５回	対面	13．保証・連帯債務 14．共有 15．建物区分所有法	【予習】13．保証・連帯債務　14．共有　15．建物区分所有法について、レジュメ等で疑問点を確認する。 【復習】上記の分野について、レジュメや練習問題を確認し、知識を定着させる。	４時間
第６回	対面	16．賃貸借 17．借地借家法①－借家 18．借地借家法②－借地 19．不法行為	【予習】16．賃貸借　17．借地借家法①－借家　18．借地借家法②－借地　19．不法行為について、レジュメ等で疑問点を確認する。 【復習】上記の分野について、レジュメや練習問題を確認し、知識を定着させる。	４時間
第７回	対面	20．請負 21．委任 22．債権譲渡 23．相殺 24．民法－その他の問題点① 25．民法－その他の問題点②	【予習】20．請負　21．委任　22．債権譲渡　23．相殺　24．民法－その他の問題点①　25．民法－その他の問題点②について、レジュメ等で疑問点を確認する。 【復習】上記の分野について、レジュメや練習問題を確認し、知識を定着させる。	４時間
第８回	対面	中間試験	【予習】第７回までの範囲について、レジュメ等で総復習をする。 【復習】中間試験の問題を再確認し、復習をする。	４時間
第９回	対面	１．宅地建物取引業の意味 ２．事務所の設置 ３．免許	【予習】１．宅地建物取引業の意味　２．事務所の設置　３．免許について、レジュメ等で疑問点を確認する。 【復習】上記の分野について、レジュメや練習問題を確認し、知識を定着させる。	４時間
第１０回	対面	４．事務所以外の場所の規制 ５．宅地建物取引士	【予習】４．事務所以外の場所の規制　５．宅地建物取引士について、レジュメ等で疑問点を確認する。 【復習】上記の分野について、レジュメや練習問題を確認し、知識を定着させる。	４時間
第１１回	対面	６．営業保証金 ７．弁済業務保証金	【予習】６．営業保証金　７．弁済業務保証金について、レジュメ等で疑問点を確認する。 【復習】上記の分野について、レジュメや練習問題を確認し、知識を定着させる。	４時間
第１２回	対面	８．媒介・代理契約 ９．広告等に関する規制	【予習】８．媒介・代理契約　９．広告等に関する規制について、レジュメ等で疑問点を確認する。 【復習】上記の分野について、レジュメや練習問題を確認し、知識を定着させる。	４時間
第１３回	対面	10．重要事項の説明 11．37 条書面	【予習】10．重要事項の説明　11．37 条書面について、レジュメ等で疑問点を確認する。 【復習】上記の分野について、レジュメや練習問題を確認し、知識を定着させる。	４時間
第１４回	対面	12．その他の業務上の規制 13．自ら売主制限	【予習】12．その他の業務上の規制　13．自ら売主制限について、レジュメ等で疑問点を確認する。 【復習】上記の分野について、レジュメや練習問題を確認し、知識を定着させる。	４時間
第１５回	対面	14．報酬額の制限 15．監督・罰則	【予習】14．報酬額の制限　15．監督・罰則について、レジュメ等で疑問点を確認する。 【復習】上記の分野について、レジュメや練習問題を確認し、知識を定着させる。	４時間

科目名	法学特別講義 E 【行政書士試験対応】	開講年度	2026 年度春学期
担当者	金　亮完	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政書士試験の合格に必要な知識の修得		
授業の目的及び概要	・本授業では、市販の問題集を用いて、11 月に行われる行政書士試験の合格に必要な知識の修得を目的とする。併せて、資格取得の重要性や資格取得のための計画的な勉強方法、他の法律系資格との関係などについても学ぶ。 ・行政書士試験に合格すれば、皆さんの自信（成功体験）につながるとともに、就職活動においても有利となるはずである。「やる気」のある、積極的な受講生を期待する。		
履修条件・留意点	・Ｓコース（行政書士）受講生は、全員履修すること。 ・2026 年 11 月に実施される行政書士試験を全員受験する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・法律系資格の種類・内容を理解し、卒業までに取得する資格を決める。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・資格試験に向けての計画的な学修プランが立てられるようになる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・行政書士試験の合格に必要な知識を修得する。【ＤＰ１】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応	行政書士試験：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・質問等については、授業終了後に対応する。 ・授業時間外の質問等に対しては、対面・ラーニングポータル・オフィスアワーで対応する。また、良い質問については、その内容と回答は受講生と共有する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	合格革命行政書士肢別過去問集〈2026 年度版〉, 2025 年, 早稲田経営出版	ISBN	978-4-847-15361-7
参考書	2026 年度版合格革命行政書士基本テキスト, 2025 年, 早稲田経営出版	ISBN	978-4-847-15359-4

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	35
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	30
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・携帯用の六法は必携である。また、授業中の私語、授業とは無関係なスマホの使用は厳禁とする。違反者に対しては退室を命じるなど厳しく対応する。 ・授業の前に事前に指定された範囲の問題に取り組み、授業後には復習すること。資格試験は反復継続学習が重要である。 ・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システムに掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・授業時にはノートをとること。ノートの取り方は授業時に必要に応じて説明する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	・授業の進め方、成績評価の方法、教科書・参考書の使い方、行政書士試験の内容について説明する。 ・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第２回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第３回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第４回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第５回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第６回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第７回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第８回	対面	・中間テスト：マークシートによる中間テストを実施する。	【事前学修】第２回から第７回まで扱った問題を復習し、中間テストの準備をする。 【事後学修】中間テスト問題に２回以上取り組む。	4 時間
第９回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第１０回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第１１回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第１２回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第１３回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第１４回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間

科目名	法学特別講義Ｆ　【行政書士試験対応】	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	坂上　文一	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	行政書士試験の合格に必要な知識の修得		
授業の目的及び概要	・本授業では、市販の問題集を用いて、11 月に行われる行政書士試験の合格に必要な知識の修得を目的とする。併せて、資格取得の重要性や資格取得のための計画的な勉強方法、他の法律系資格との関係などについても学ぶ。 ・行政書士試験に合格すれば、皆さんの自信（成功体験）につながるとともに、就職活動においても有利となるはずである。「やる気」のある、積極的な受講生を期待する。		
履修条件・留意点	・Ｓコース（行政書士）受講生は、全員履修すること。 ・2026 年 11 月に実施される行政書士試験を全員受験する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・法律系資格の種類・内容を理解し、卒業までに取得する資格を決める。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・資格試験に向けての計画的な学修プランが立てられるようになる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・行政書士試験の合格に必要な知識を修得する。【ＤＰ１】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応	行政書士試験：11 月の試験での合格を目指します。		
フィードバックの方法	・質問等については、授業終了後に対応する。 ・授業時間外の質問等に対しては、対面・ラーニングポータル・オフィスアワーで対応する。また、良い質問については、その内容と回答は受講生と共有する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	クリッカー等の理解度把握システムの利用		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	合格革命行政書士肢別過去問集〈2026 年度版〉, 2025 年, 早稲田経営出版	ISBN	978-4-847-15361-7
参考書	2026 年度版合格革命行政書士基本テキスト, 2025 年, 早稲田経営出版	ISBN	978-4-847-15359-4

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	35
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	30
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・携帯用の六法は必携である。また、授業中の私語、授業とは無関係なスマホの使用は厳禁とする。違反者に対しては退室を命じるなど厳しく対応する。 ・授業の前に事前に指定された範囲の問題に取り組み、授業後には復習すること。資格試験は反復継続学習が重要である。 ・授業で使用するレジュメ・資料は、事前に授業支援システムに掲載するので、各自ダウンロードして予習の上、授業時に持参すること。授業で配布することはしない。 ・授業時にはノートをとること。ノートの取り方は授業時に必要に応じて説明する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・授業の進め方、成績評価の方法、教科書・参考書の使い方、行政書士試験の内容について説明する。 ・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第２回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第３回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第４回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第５回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第６回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第７回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。	4 時間
第８回	対面	・中間テスト：マークシートによる中間テストを実施する。	【事前学修】第２回から第７回まで扱った問題を復習し、中間テストの準備をする。 【事後学修】中間テスト問題に２回以上取り組む。	4 時間
第９回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。 ・直前対策として重要ポイントを解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。・直前対策として重要ポイントを解説する。	4 時間
第１０回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。 ・直前対策として重要ポイントを解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。解説した重要ポイントにつき復習する。	4 時間
第１１回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。 ・直前対策として重要ポイントを解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。解説した重要ポイントにつき復習する。	4 時間
第１２回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。 ・直前対策として重要ポイントを解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。解説した重要ポイントにつき復習する。	4 時間
第１３回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。 ・直前対策として重要ポイントを解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。解説した重要ポイントにつき復習する。	4 時間
第１４回	対面	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。 ・直前対策として重要ポイントを解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。解説した重要ポイントにつき復習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	・問題演習：事前に指定した範囲の問題について解説する。 ・直前対策として重要ポイントを解説する。	【事前学修】事前に指定した範囲の問題に取り組み、分からない事項を整理しておく。 【事後学修】授業で扱った問題に２回以上取り組む。解説した重要ポイントにつき復習する。	4 時間

科目名	海外フィールドスタディⅠ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	朴　永炅	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、同世代の韓国人学生と交流し「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	「韓国に興味がある」、「韓国に留学してみたい」と考えている人を対象に、異文化理解の基礎的な知識をベースに、法学や政治学についての関心を一層発展的に学ぶ短期集中プログラムとして、専門領域でも役立つ国際関係及び国際理解運用能力の向上をめざす。また、韓国政府の機関（検察庁、警察庁など）の見学を行い、両国の法制度の発展過程及び運用についてフィールドスタディを行う。 学生に事前学習として、韓国の歴史・文化、社会・政治に関わる課題を設定させ、その情報収集や調査等を事前に取り組むとともに、現地において想定した課題についての調査や検討を行い、その相違点について考える。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）事前学習を通じて、研修先の政治・文化及び、社会、政治、言語学びなどの理解を深めることができる。 （２）韓国の政府の機関（憲法裁判所、警察大学、検察庁、警察庁など）について概説できるようになる。 （３）韓国の政府の機関（憲法裁判所、警察大学、検察庁、警察庁など）を訪問することで、その歴史や発展過程への理解を深め、両国の法曹・公安の制度や 　意義について説明できるようになる。 （４）歴史・文化施設や世界遺産などを訪問することで、研修先の国の歴史と文化を肌で感じ、その国の特徴や多様性を探る手掛かりを得ることができる。 （５）現地での韓国語研修並びに、提携先大学生・留学生との交流を通して、異なる人々との協働を促し、言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、並 　びに国際理解と国際性の涵養を図ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートや発表報告は授業中に紹介したり、良い質問や課題についてはディスカッションしていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講に	世界に対する興味・関心を広げ、自国の歴史・文化・社会について研修先国との歴史・文化・

あたって	社会との相違から、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、学生はプログラムにおける積極性が強く求められ、どんどん見聞きし、経験していく姿勢が重要です。 日本ではなく、全く異なった歴史や文化背景をもつ国に行くことで、「日本」という枠組みから離れ「マイノリティー」になってみる。そうすることで文化とは何か、社会とは何かを、普段自分が当たり前と思っていた状況とは正反対の状況で考えることになります。危機管理や不慣れな状況を体験することで、国際感覚を研ぎ澄ますことが大切です。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	”プログラムの概要説明と意義と意図について理解 渡航に当た っての注意（危機管理オリエンテーション（ビザ情報含む）、 ・グループ分けと取り組む課題について話し合い、テーマや取り組み方を決める”	事後学修：韓国現代文化の特徴について調べ、自分の関心をまとめておく	2 時間
第２回	対面	現代韓国社会について理解を深め、その発展の過程を考える	事前学修：現代韓国社会の特徴と歴史的な変容について調べる 事後学修：世界的に流行する K カルチャーの強みや戦略について調べまとめておく	4 時間
第３回	対面	Kカルチャーのビジネス戦略とその発展について学び、理解を深める	事前学修：日本での K カルチャーの人気の理由や戦略について考える 事後学修：文化とビジネスマーケティングの可能性について理解を深めるため、K カルチャーの事例について調べる	4 時間
第４回	対面	韓国の歴史について理解を深める	事前学修：「身分制度（「両班」（ヤンバン）からみた韓国社会」、「家族制度からみた韓国社会」について調べておく 事後学修：韓国の歴史の特徴について調べ学修したことを明確にしておく	4 時間
第５回	対面	韓国の文化の特徴について理解を深める	事前学修：「徴兵制度・徴兵に関する若者の意識」、「南北分断の現実」について理解を深める 事後学修：韓国の文化の特徴について調べ学修したことを明確にしておく	4 時間
第６回	対面	韓国の法制度について理解を深める	事前学修：「韓国の司法制度」、「韓国の大統領制と両党制度」について理解を深める 事後学修：韓国の法制度について調べ学修したことを明確にしておく	4 時間
第７回	対面	韓国の社会について理解を深める	事前学修：「韓流ブームからみる韓国社会」、「血縁・地縁・学縁の社会関係」について理解を深める 事後学修：韓国の社会について調べ学修したことを明確にしておく	4 時間
第８回	対面	現地での学修 フィールドワーク①（検察庁）	事前学修：訪問先の情報及び歴史的な変容について調べ、関連する日本の機関との違いを把握 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを考え、訪問レポート作成	4 時間
第９回	対面	現地での学修 フィールドワーク②（警察庁）	事前学修：訪問先の情報及び歴史的な変容について調べ、関連する日本の機関との違いを把握 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを考え、訪問レポート作成	4 時間
第１０回	対面	現地での学修 フィールドワーク③（警察庁博物館）	事前学修：訪問先の機関情報及びビジネス戦略について調べ、関連する日本企業との違いを把握。 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを考え、訪問レポート作成	4 時間
第１１回	対面	グループワーク① 課題発表のまとめ作業	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間

第１２回	対面	グループワーク② 課題発表のまとめ作業	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第１３回	対面	グループワーク③ 課題発表のまとめ作業	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：これまで得られた情報と知識についてまとめ、グループでプレゼン内容ついてディスカッション	4 時間
第１４回	対面	帰国後のグループワーク 課題発表のまとめ作業	事前学修：政府機関訪問レポートとグループ課題についてまとめておく。 事後学修：グループで討議した内容に基づいてプレゼン作成	6 時間
第１５回	対面	成果発表 海外フィールドスタディについての成果発表のフィードバックと総括	事前学修：これまでのグループで議論し作成した プレゼン資料等について読み返し、成果と課題について 明らかにしておく 事後学修：グループ課題発表を今後の自身の学修にどのように生かすかを考える	4 時間

科目名	海外フィールドスタディⅠ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	福田　真也	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	訪問先での見学や視察及び同世代の現地学生との交流を通して、新たな「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	経済学部では、グローバル経済と日本経済における諸課題を理解し解決策を提案する力（DP2）や、外国語・コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚（DP4）を、身につけることを DP に掲げている。本海外研修プログラムでは、ASEAN 経済の中でもその一翼を担う存在として、模範的な繁栄を遂げてきた多民族国家であるマレーシアの特徴や社会経済の学習を通して、その経済発展の過程において日本がどのように関わってきたのか、そして、他の ASEAN 各国との類似点や相違点は何なのかを明らかにしながら、マレーシアが現在直面する課題やその解決策について探究する機会としていく。また、英語の学習や異なる人々との交流を通して、外国語の運用能力やコミュニケーション力の向上及び国際理解の促進も目指していく。さらに、「実学としての経済学」（DP3）にも直結する取り組みとして、経済やビジネスの実態が学べる公的機関や企業への訪問、さらに現地文化に基づいた金融や食品のあり方が垣間見える施設の見学なども行い、マレーシアの社会経済の現状を実感できる経験も提供していく。こうした海外での異なる環境における学びと体験を通して、経済学的思考に更に磨きをかけ、幅広い経済社会の一員として行動できる能力を身につけていくこと（DP5）を、大きな目標に掲げている。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）マレーシアの経済発展の経緯や、日本や ASEAN との関係性、現在の経済情勢並びに社会状況について、説明できるようになる。 （２）マレーシアのビジネスや商業の現場を訪問して、実際の様子を見聞きすることで、現在の同国の経済状況や市場の動向について、その一端を垣間見ることができる。 （３）現地の社会や文化に関連した施設の見学や視察を通して、その国に対する認識と理解を深めることができる。 （４）語学研修及び提携先大学生との交流を通して、異文化の人々との協働を促し、言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、並びに国際理解と国際性の涵養を図ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートや発表報告は授業中に紹介したり、良い質問や重要な課題については適宜取り上げて議論していく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	30
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	世界に対する興味・関心を広げ、自国の政治経済・社会・歴史・文化について研修先国との相違から、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、参加学生にはプログラムにおける積極性が強く求められ、どんどん見聞きし、経験していく姿勢が重要となります。 日本ではなく、全く異なった政治経済制度や、社会慣習、歴史・文化的背景を持つ国や地域に行くことで、「日本」という枠組みから離れ「マイノリティー」になってみることが可能となります。こうした経験を得ることで、普段の生活の中で自分が当たり前と思っていた、様々な制度や仕組み、習慣や考え方などについて、より広い視野で客観的に考えられるようになります。 また、異国での不慣れな状況を体験していくにあたって、危機管理意識や国際感覚を研ぎ澄ましていくことも求められます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	事前研修：第１回「オリエンテーション」 ・プログラムの説明（概要説明、単位認定、連絡手段、海外渡航の注意） ・自己紹介、アイスブレーキング	事後学修：訪問先の国や地域について調べ、自分の関心をまとめておく	2 時間
第２回	オンデマンド	事前研修：第２回「ASEAN について」 ・ASEAN の概容と共に、その中のマレーシアの立ち位置や役割などについて学習していく	事前学修：ASEAN の成立過程や、その組織の特徴について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4 時間
第３回	対面	事前研修：第３回「マレーシアについて」 ・多民族国家であるマレーシアの成り立ちや、その政治、経済、社会の特徴について学んでいく	事前学修：マレーシアの国家の歴史や、政治、経済、社会の特徴について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4 時間
第４回	対面	事前研修：第４回「マレーシアの経済発展について」 ・経済成長の経緯と日本との関係、並びに直面する社会経済上の課題について、明らかにしていく	事前学修：マレーシア経済の発展の軌跡とその施策について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4 時間
第５回	対面	事前研修：第５回「現地訪問先について」 ・各見学先の特徴や概容などを説明し、理解を深めておく	事前学修：訪問先の情報について収集し理解を深めておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4 時間
第６回	対面	事前研修：第６回「出発前確認」 ・これまで学習してきた内容を整理すると共に、渡航に向けた準備を万全と進めていく	事前学修：これまでの事前研修の内容を整理し、訪問先の情報や渡航に際しての注意事項、持ち物などについて再確認しておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4 時間
第７回	対面	現地での学修① 現地学生との交流、マレーシアと日本の文化紹介	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第８回	対面	現地での学修② 行政都市の視察、文化施設の見学	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第９回	対面	現地での学修③ 多文化共生の探究、フィールドワークの実施	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく	4 時間

			事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	
第１０回	対面	現地での学修④ 日本の現地援助機関への訪問、クアラルンプール市内の視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第１１回	対面	現地での学修⑤ 世界遺産の見学、異文化体験、地方視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第１２回	対面	現地での学修⑥ 商業施設の視察、閉会式、現地学生との交流	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第１３回	対面	事後研修：第１回「現地渡航の振り返り」 ・現地研修からの学びと気づきなどについての議論を通して、成果や課題などについて整理する	事前学修：全体の研修内容を振り返って、学んだことや印象に残ったこと、得られた気づきなどについて整理しておく 事後学修：現地研修を振り返りながら、今回のプロジェクトの成果をどのような形で報告していくのかを考えておく	4 時間
第１４回	対面	事後研修：第２回「報告資料の作成」 ・発表の構成と内容を考え、学修成果の報告に向けてパワーポイント資料を作成する	事前学修：現地研修で学んだこと気づいたことなどについてまとめておく 事後学修：グループで討議した内容に基づいてプレゼン資料を完成させる	6 時間
第１５回	対面	事後研修：第３回「発表・報告」 ・海外フィールドスタディを通じての学修成果について、プレゼンテーションを行う	事前学修：作成したプレゼン資料等を読み返し、成果と課題について明らかにしておく 事後学修：今回の海外フィールドスタディでの経験を、今後の自身の学修にどのように生かすかを考える	4 時間

科目名	海外フィールドスタディⅡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	朴　永炅	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	世界に対する関心を高め、同世代の韓国人学生と交流し「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	「韓国に興味がある」、「韓国に留学してみたい」と考えている人を対象に、異文化理解の基礎的な知識をベースに、法学や政治学についての関心を一層発展的に学ぶ短期集中プログラムとして、専門領域でも役立つ国際関係及び国際理解運用能力の向上をめざす。また、韓国政府の機関（検察庁、警察庁など）の見学を行い、両国の法制度の発展過程及び運用についてフィールドスタディを行う。 学生に事前学習として、韓国の歴史・文化、社会・政治に関わる課題を設定させ、その情報収集や調査等を事前に取り組むとともに、現地において想定した課題についての調査や検討を行い、その相違点について考える。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）事前学習を通じて、研修先の政治・文化及び、社会、政治、言語学びなどの理解を深めることができる。 （２）韓国の政府の機関（憲法裁判所、警察大学、検察庁、警察庁など）について概説できるようになる。 （３）韓国の政府の機関（憲法裁判所、警察大学、検察庁、警察庁など）を訪問することで、その歴史や発展過程への理解を深め、両国の法曹・公安の制度や 　意義について説明できるようになる。 （４）歴史・文化施設や世界遺産などを訪問することで、研修先の国の歴史と文化を肌で感じ、その国の特徴や多様性を探る手掛かりを得ることができる。 （５）現地での韓国語研修並びに、提携先大学生・留学生との交流を通して、異なる人々との協働を促し、言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、並 　びに国際理解と国際性の涵養を図ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートや発表報告は授業中に紹介したり、良い質問や課題についてはディスカッションしていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト指定は行いません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講に	世界に対する興味・関心を広げ、自国の歴史・文化・社会について研修先国との歴史・文化・

あたって	社会との相違から、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、学生はプログラムにおける積極性が強く求められ、どんどん見聞きし、経験していく姿勢が重要です。 日本ではなく、全く異なった歴史や文化背景をもつ国に行くことで、「日本」という枠組みから離れ「マイノリティー」になってみる。そうすることで文化とは何か、社会とは何かを、普段自分が当たり前と思っていた状況とは正反対の状況で考えることになります。危機管理や不慣れな状況を体験することで、国際感覚を研ぎ澄ますことが大切です。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	”プログラムの概要説明と意義と意図について理解 渡航に当た っての注意（危機管理オリエンテーション（ビザ情報含む）、 ・グループ分けと取り組む課題について話し合い、テーマや取り組み方を決める”	事後学修：韓国現代社会の特徴について調べ、自分の関心をまとめておく	2 時間
第２回	対面	現代韓国社会について理解を深め、その発展の過程を考える	事前学修：現代韓国社会の特徴と歴史的な変容について調べる 事後学修：世界的に流行する K カルチャーの強みや戦略について調べまとめておく	4 時間
第３回	対面	Kカルチャーのビジネス戦略とその発展について学び、理解を深める	事前学修：日本での K カルチャーの人気の理由や戦略について考える 事後学修：文化とビジネスマーケティングの可能性について理解を深めるため、K カルチャーの事例について調べる	4 時間
第４回	対面	韓国の歴史について理解を深める	事前学修：「身分制度（「両班」（ヤンバン）からみた韓国社会」、「家族制度からみた韓国社会」について調べておく 事後学修：韓国の歴史の特徴について学修したことを明確にしておく	4 時間
第５回	対面	韓国の文化の特徴について理解を深める	事前学修：「徴兵制度・徴兵に関する若者の意識」、「南北分断の現実」について理解を深める 事後学修：韓国の文化の特徴について学修したことを明確にしておく	4 時間
第６回	対面	韓国の法制度について理解を深める	事前学修：「韓国の司法制度」、「韓国の大統領制と両党制度」について理解を深める 事後学修：韓国の法制度について学修したことを明確にしておく	4 時間
第７回	対面	韓国の社会について理解を深める	事前学修：「韓流ブームからみる韓国社会」、「血縁・地縁・学縁の社会関係」について理解を深める 事後学修：韓国の社会について学修したことを明確にしておく	4 時間
第８回	対面	現地での学修 フィールドワーク①（検察庁）	事前学修：訪問先の情報及び歴史的な変容について調べ、関連する日本の機関との違いを把握 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを考え、訪問レポート作成	4 時間
第９回	対面	現地での学修 フィールドワーク②（警察庁）	事前学修：訪問先の情報及び歴史的な変容について調べ、関連する日本の機関との違いを把握 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを考え、訪問レポート作成	4 時間
第１０回	対面	現地での学修 フィールドワーク③（警察庁博物館）	事前学修：訪問先の機関情報及びビジネス戦略について調べ、関連する日本企業との違いを把握。 事後学修：現地学修や自分の課題の取り組みができていたかを考え、訪問レポート作成	4 時間
第１１回	対面	グループワーク① 課題発表のまとめ作業	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間

第１２回	対面	グループワーク② 課題発表のまとめ作業	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：今回得られた情報と知識についてまとめ、次のフィールドワークでの方法や目標を考える	4 時間
第１３回	対面	グループワーク③ 課題発表のまとめ作業	事前学修：課題の調査のための方法や情報を準備する 事後学修：これまで得られた情報と知識についてまとめ、グループでプレゼン内容ついてディスカッション	4 時間
第１４回	対面	帰国後のグループワーク 課題発表のまとめ作業	事前学修：政府機関訪問レポートとグループ課題についてまとめておく。 事後学修：グループで討議した内容に基づいてプレゼン作成	6 時間
第１５回	対面	成果発表 海外フィールドスタディについての成果発表のフィードバックと総括	事前学修：これまでのグループで議論し作成した プレゼン資料等について読み返し、成果と課題について 明らかにしておく 事後学修：グループ課題発表を今後の自身の学修にどのように生かすかを考える	4 時間

科目名	海外フィールドスタディⅡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	福田　真也	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	実習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	訪問先での見学や視察及び同世代の現地学生との交流を通して、新たな「気づき」を得る		
授業の目的及び概要	経済学部では、グローバル経済と日本経済における諸課題を理解し解決策を提案する力（DP2）や、外国語・コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚（DP4）を、身につけることを DP に掲げている。本海外研修プログラムでは、ASEAN 経済の中でもその一翼を担う存在として、模範的な繁栄を遂げてきた多民族国家であるマレーシアの特徴や社会経済の学習を通して、その経済発展の過程において日本がどのように関わってきたのか、そして、他の ASEAN 各国との類似点や相違点は何なのかを明らかにしながら、マレーシアが現在直面する課題やその解決策について探究する機会としていく。また、英語の学習や異なる人々との交流を通して、外国語の運用能力やコミュニケーション力の向上及び国際理解の促進も目指していく。さらに、「実学としての経済学」（DP3）にも直結する取り組みとして、経済やビジネスの実態が学べる公的機関や企業への訪問、さらに現地文化に基づいた金融や食品のあり方が垣間見える施設の見学なども行い、マレーシアの社会経済の現状を実感できる経験も提供していく。こうした海外での異なる環境における学びと体験を通して、経済学的思考に更に磨きをかけ、幅広い経済社会の一員として行動できる能力を身につけていくこと（DP5）を、大きな目標に掲げている。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）マレーシアの経済発展の経緯や、日本や ASEAN との関係性、現在の経済情勢並びに社会状況について、説明できるようになる。 （２）マレーシアのビジネスや商業の現場を訪問して、実際の様子を見聞きすることで、現在の同国の経済状況や市場の動向について、その一端を垣間見ることができる。 （３）現地の社会や文化に関連した施設の見学や視察を通して、その国に対する認識と理解を深めることができる。 （４）語学研修及び提携先大学生との交流を通して、異文化の人々との協働を促し、言語運用能力とコミュニケーション能力の向上、並びに国際理解と国際性の涵養を図ることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	優秀なレポートや発表報告は授業中に紹介したり、良い質問や重要な課題については適宜取り上げて議論していく。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定のテキストはありません。必要な資料を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	30
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	世界に対する興味・関心を広げ、自国の政治経済・社会・歴史・文化について研修先国との相違から、多くの「気づき」を得てほしいと思います。そのためにも、参加学生にはプログラムにおける積極性が強く求められ、どんどん見聞きし、経験していく姿勢が重要となります。 日本ではなく、全く異なった政治経済制度や、社会慣習、歴史・文化的背景を持つ国や地域に行くことで、「日本」という枠組みから離れ「マイノリティー」になってみることが可能となります。こうした経験を得ることで、普段の生活の中で自分が当たり前と思っていた、様々な制度や仕組み、習慣や考え方などについて、より広い視野で客観的に考えられるようになります。 また、異国での不慣れな状況を体験していくにあたって、危機管理意識や国際感覚を研ぎ澄ましていくことも求められます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	事前研修：第１回「オリエンテーション」 ・プログラムの説明（概要説明、単位認定、連絡手段、海外渡航の注意） ・自己紹介、アイスブレーキング	事後学修：訪問先の国や地域について調べ、自分の関心をまとめておく	2 時間
第２回	オンデマンド	事前研修：第２回「ASEAN について」 ・ASEAN の概容と共に、その中のマレーシアの立ち位置や役割などについて学習していく	事前学修：ASEAN の成立過程や、その組織の特徴について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4 時間
第３回	対面	事前研修：第３回「マレーシアについて」 ・多民族国家であるマレーシアの成り立ちや、その政治、経済、社会の特徴について学んでいく	事前学修：マレーシアの国家の歴史や、政治、経済、社会の特徴について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4 時間
第４回	対面	事前研修：第４回「マレーシアの経済発展について」 ・経済成長の経緯と日本との関係、並びに直面する社会経済上の課題について、明らかにしていく	事前学修：マレーシア経済の発展の軌跡とその施策について調べておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4 時間
第５回	対面	事前研修：第５回「現地訪問先について」 ・各見学先の特徴や概容などを説明し、理解を深めておく	事前学修：訪問先の情報について収集し理解を深めておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4 時間
第６回	対面	事前研修：第６回「出発前確認」 ・これまで学習してきた内容を整理すると共に、渡航に向けた準備を万全と進めていく	事前学修：これまでの事前研修の内容を整理し、訪問先の情報や渡航に際しての注意事項、持ち物などについて再確認しておく 事後学修：授業で学んだことや思ったこと、考えたことなどを、ノートやファイルにまとめる等の作業を通して復習を行う	4 時間
第７回	対面	現地での学修① 現地学生との交流、マレーシアと日本の文化紹介	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第８回	対面	現地での学修② 行政都市の視察、文化施設の見学	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第９回	対面	現地での学修③ 多文化共生の探究、フィールドワークの実施	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく	4 時間

			事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	
第１０回	対面	現地での学修④ 日本の現地援助機関への訪問、クアラルンプール市内の視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第１１回	対面	現地での学修⑤ 世界遺産の見学、異文化体験、地方視察	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第１２回	対面	現地での学修⑥ 商業施設の視察、閉会式、現地学生との交流	事前学修：研修内容を確認し、訪問先の情報や自身の関心事項、質問項目、調査内容などについて再考しておく 事後学修：当日の研修を振り返りながら、得られた知識や気づき、感想や考えたことなどについて、ノートやファイルに整理しながらまとめておく	4 時間
第１３回	対面	事後研修：第１回「現地渡航の振り返り」 ・現地研修からの学びと気づきなどについての議論を通して、成果や課題などについて整理する	事前学修：全体の研修内容を振り返って、学んだことや印象に残ったこと、得られた気づきなどについて整理しておく 事後学修：現地研修を振り返りながら、今回のプロジェクトの成果をどのような形で報告していくのかを考えておく	4 時間
第１４回	対面	事後研修：第２回「報告資料の作成」 ・発表の構成と内容を考え、学修成果の報告に向けてパワーポイント資料を作成する	事前学修：現地研修で学んだこと気づいたことなどについてまとめておく 事後学修：グループで討議した内容に基づいてプレゼン資料を完成させる	6 時間
第１５回	対面	事後研修：第３回「発表・報告」 ・海外フィールドスタディを通じての学修成果について、プレゼンテーションを行う	事前学修：作成したプレゼン資料等を読み返し、成果と課題について明らかにしておく 事後学修：今回の海外フィールドスタディでの経験を、今後の自身の学修にどのように生かすかを考える	4 時間

科目名	基礎演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	雑喉　浩久	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 　1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]，伊藤光利，有斐閣，2009 年 ②アカデミックスキルズ　第 3 版，佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦，慶応義塾大学出版会，2020 年 ③カフェパウゼで法学を，横田明美，弘文堂，2018 年 ④法律学習マニュアル　第４版，弥永真生，有斐閣，2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるととも

あたって	に、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第２回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第３回	対面	キャリア講演会（１）　法曹・法律専門職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第４回	対面	キャリア講演会（２）　公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第５回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第６回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第７回	対面	キャリア講演会（３）　公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第８回	対面	キャリア講演会（４）　民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第９回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１０回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第１１回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１２回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１３回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１４回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	杉本　拓海	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 　1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]，伊藤光利，有斐閣，2009 年 ②アカデミックスキルズ　第 3 版，佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦，慶応義塾大学出版会，2020 年 ③カフェパウゼで法学を，横田明美，弘文堂，2018 年 ④法律学習マニュアル　第４版，弥永真生，有斐閣，2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第２回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第３回	対面	キャリア講演会（１）　法曹・法律専門職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第４回	対面	キャリア講演会（２）　公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第５回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第６回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第７回	対面	キャリア講演会（３）　公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第８回	対面	キャリア講演会（４）　民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第９回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１０回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第１１回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１２回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１３回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１４回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	古田　隆	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 　1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、指定都市職員として 39 年間勤務し、部長級まで務め、条例等審査、不服審査、訴訟などの自治体法務に通算 24 年携わったほか、行財政改善、社会福祉法人の監査等の分野において政策形成に関与した。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]，伊藤光利，有斐閣，2009 年 ②アカデミックスキルズ　第 3 版，佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦，慶応義塾大学出版会，2020 年 ③カフェパウゼで法学を，横田明美，弘文堂，2018 年 ④法律学習マニュアル　第４版，弥永真生，有斐閣，2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるととも

あたって	に、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第２回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第３回	対面	キャリア講演会（１）　法曹・法律専門職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第４回	対面	キャリア講演会（２）　公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第５回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第６回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第７回	対面	キャリア講演会（３）　公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第８回	対面	キャリア講演会（４）　民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第９回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１０回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第１１回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１２回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１３回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１４回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	平阪　美穂	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 　1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]，伊藤光利，有斐閣，2009 年 ②アカデミックスキルズ　第 3 版，佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦，慶応義塾大学出版会，2020 年 ③カフェパウゼで法学を，横田明美，弘文堂，2018 年 ④法律学習マニュアル　第４版，弥永真生，有斐閣，2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第２回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第３回	対面	キャリア講演会（１）　法曹・法律専門職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第４回	対面	キャリア講演会（２）　公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第５回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第６回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第７回	対面	キャリア講演会（３）　公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第８回	対面	キャリア講演会（４）　民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第９回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１０回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第１１回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１２回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１３回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１４回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	王　曹傑	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 　1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]，伊藤光利，有斐閣，2009 年 ②アカデミックスキルズ　第 3 版，佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦，慶応義塾大学出版会，2020 年 ③カフェパウゼで法学を，横田明美，弘文堂，2018 年 ④法律学習マニュアル　第４版，弥永真生，有斐閣，2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第２回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第３回	対面	キャリア講演会（１）　法曹・法律専門職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第４回	対面	キャリア講演会（２）　公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第５回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第６回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第７回	対面	キャリア講演会（３）　公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第８回	対面	キャリア講演会（４）　民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第９回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１０回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第１１回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１２回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１３回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１４回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	朴　永炅	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 　1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]，伊藤光利，有斐閣，2009 年 ②アカデミックスキルズ　第 3 版，佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦，慶応義塾大学出版会，2020 年 ③カフェパウゼで法学を，横田明美，弘文堂，2018 年 ④法律学習マニュアル　第４版，弥永真生，有斐閣，2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第２回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第３回	対面	キャリア講演会（１）　法曹・法律専門職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第４回	対面	キャリア講演会（２）　公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第５回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第６回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第７回	対面	キャリア講演会（３）　公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第８回	対面	キャリア講演会（４）　民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第９回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１０回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第１１回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１２回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１３回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１４回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 　1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]，伊藤光利，有斐閣，2009 年 ②アカデミックスキルズ　第 3 版，佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦，慶応義塾大学出版会，2020 年 ③カフェパウゼで法学を，横田明美，弘文堂，2018 年 ④法律学習マニュアル　第４版，弥永真生，有斐閣，2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第２回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第３回	対面	キャリア講演会（１）　法曹・法律専門職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第４回	対面	キャリア講演会（２）　公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第５回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第６回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第７回	対面	キャリア講演会（３）　公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第８回	対面	キャリア講演会（４）　民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第９回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１０回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第１１回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１２回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１３回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１４回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	孟　慶廉	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 　1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]，伊藤光利，有斐閣，2009 年 ②アカデミックスキルズ　第 3 版，佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦，慶応義塾大学出版会，2020 年 ③カフェパウゼで法学を，横田明美，弘文堂，2018 年 ④法律学習マニュアル　第４版，弥永真生，有斐閣，2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第２回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第３回	対面	キャリア講演会（１）　法曹・法律専門職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第４回	対面	キャリア講演会（２）　公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第５回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第６回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第７回	対面	キャリア講演会（３）　公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第８回	対面	キャリア講演会（４）　民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第９回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１０回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第１１回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１２回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１３回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１４回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	西村　剛輝	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 　1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]，伊藤光利，有斐閣，2009 年 ②アカデミックスキルズ　第 3 版，佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦，慶応義塾大学出版会，2020 年 ③カフェパウゼで法学を，横田明美，弘文堂，2018 年 ④法律学習マニュアル　第４版，弥永真生，有斐閣，2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第２回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第３回	対面	キャリア講演会（１）　法曹・法律専門職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第４回	対面	キャリア講演会（２）　公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第５回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第６回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第７回	対面	キャリア講演会（３）　公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第８回	対面	キャリア講演会（４）　民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第９回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１０回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第１１回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１２回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１３回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１４回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉川　真理子	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 　1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]，伊藤光利，有斐閣，2009 年 ②アカデミックスキルズ　第 3 版，佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦，慶応義塾大学出版会，2020 年 ③カフェパウゼで法学を，横田明美，弘文堂，2018 年 ④法律学習マニュアル　第４版，弥永真生，有斐閣，2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第２回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第３回	対面	キャリア講演会（１）　法曹・法律専門職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第４回	対面	キャリア講演会（２）　公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第５回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第６回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第７回	対面	キャリア講演会（３）　公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第８回	対面	キャリア講演会（４）　民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第９回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１０回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第１１回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１２回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１３回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１４回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	上林　大	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 　1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]，伊藤光利，有斐閣，2009 年 ②アカデミックスキルズ　第 3 版，佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦，慶応義塾大学出版会，2020 年 ③カフェパウゼで法学を，横田明美，弘文堂，2018 年 ④法律学習マニュアル　第４版，弥永真生，有斐閣，2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第２回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第３回	対面	キャリア講演会（１）　法曹・法律専門職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第４回	対面	キャリア講演会（２）　公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第５回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第６回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第７回	対面	キャリア講演会（３）　公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第８回	対面	キャリア講演会（４）　民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第９回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１０回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第１１回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１２回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１３回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１４回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中久保　寛幸	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 　1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]，伊藤光利，有斐閣，2009 年 ②アカデミックスキルズ　第 3 版，佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦，慶応義塾大学出版会，2020 年 ③カフェパウゼで法学を，横田明美，弘文堂，2018 年 ④法律学習マニュアル　第４版，弥永真生，有斐閣，2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準		
	授業への積極的な参加度・取組み	70
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第２回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第３回	対面	キャリア講演会（１）　法曹・法律専門職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第４回	対面	キャリア講演会（２）　公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第５回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第６回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第７回	対面	キャリア講演会（３）　公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第８回	対面	キャリア講演会（４）　民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第９回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１０回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第１１回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１２回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１３回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１４回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	大場　史朗	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	1 年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成ができるようにします。 　1 年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。秋学期に「基礎演習 B」を引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]，伊藤光利，有斐閣，2009 年 ②アカデミックスキルズ　第 3 版，佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦，慶応義塾大学出版会，2020 年 ③カフェパウゼで法学を，横田明美，弘文堂，2018 年 ④法律学習マニュアル　第４版，弥永真生，有斐閣，2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション 大学での学修について	「履修要項」「履修の手引き」を通読する	2 時間
第２回	対面	春学期の目標の設定 大学での学び方の基本	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第３回	対面	キャリア講演会（１）　法曹・法律専門職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第４回	対面	キャリア講演会（２）　公務員公安職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第５回	対面	図書館の使い方	図書館を各自で利用する オンラインデータベースの利用方法を復習する	4 時間
第６回	対面	電子メールの書き方、社会人マナー	電子メールと SNS メッセージの違いについて調べてくる 配布資料などを活用して社会人としてのマナーについて復習する	4 時間
第７回	対面	キャリア講演会（３）　公務員行政職【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第８回	対面	キャリア講演会（４）　民間企業【合同授業】	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第９回	対面	要約とクリティカルリーディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１０回	対面	法学部のコース、資格ガイダンス【合同授業】	どのコースを選択したいか考える 取得したい資格について調べる	6 時間
第１１回	対面	プレゼンテーションの方法と技術	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１２回	対面	コミュニケーションとチームビルディング	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１３回	対面	定期試験に向けた勉強法、レポートの作成法	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間
第１４回	対面	春学期の振り返り	春学期の学生生活を振り返って自己評価をする	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ、レポートの作成等	担当教員の指示に従って予習・復習を行う	4 時間

科目名	基礎演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	杉本　拓海	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	１年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 　１年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利,『ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]』, 有斐閣, 2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦,『アカデミックスキルズ　第 3 版』, 慶応義塾大学出版会, 2020 年 ③横田明美,『カフェパウゼで法学を』, 弘文堂, 2018 年 ④弥永真生,『法律学習マニュアル　第４版』, 有斐閣, 2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生

あたって	活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第２回	対面	グループ研究発表の準備（１）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第３回	対面	グループ研究発表の準備（２）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第４回	対面	グループ研究発表の準備（３）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第５回	対面	グループ研究発表の準備（４）	発表資料を作成する	6 時間
第６回	対面	グループ研究発表の準備（５）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第７回	対面	グループ研究発表の準備（６）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第８回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第９回	対面	グループ研究発表会（１）	発表の練習をする	4 時間
第１０回	対面	グループ研究発表会（２）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第１１回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第１２回	対面	キャリア講演会（１）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１３回	対面	キャリア講演会（２）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１４回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第１５回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	雑喉　浩久	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	１年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 　１年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利,『ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]』, 有斐閣, 2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦,『アカデミックスキルズ　第 3 版』, 慶応義塾大学出版会, 2020 年 ③横田明美,『カフェパウゼで法学を』, 弘文堂, 2018 年 ④弥永真生,『法律学習マニュアル　第４版』, 有斐閣, 2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第２回	対面	グループ研究発表の準備（１）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第３回	対面	グループ研究発表の準備（２）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第４回	対面	グループ研究発表の準備（３）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第５回	対面	グループ研究発表の準備（４）	発表資料を作成する	6 時間
第６回	対面	グループ研究発表の準備（５）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第７回	対面	グループ研究発表の準備（６）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第８回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第９回	対面	グループ研究発表会（１）	発表の練習をする	4 時間
第１０回	対面	グループ研究発表会（２）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第１１回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第１２回	対面	キャリア講演会（１）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１３回	対面	キャリア講演会（２）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１４回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第１５回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	古田　隆	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	１年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 　１年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、指定都市職員として 39 年間勤務し、部長級まで務め、条例等審査、不服審査、訴訟などの自治体法務に通算 24 年携わったほか、行財政改善、社会福祉法人の監査等の分野において政策形成に関与した。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利,『ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]』, 有斐閣, 2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦,『アカデミックスキルズ　第 3 版』, 慶応義塾大学出版会, 2020 年 ③横田明美,『カフェパウゼで法学を』, 弘文堂, 2018 年 ④弥永真生,『法律学習マニュアル　第４版』, 有斐閣, 2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第２回	対面	グループ研究発表の準備（１）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第３回	対面	グループ研究発表の準備（２）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第４回	対面	グループ研究発表の準備（３）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第５回	対面	グループ研究発表の準備（４）	発表資料を作成する	6 時間
第６回	対面	グループ研究発表の準備（５）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第７回	対面	グループ研究発表の準備（６）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第８回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第９回	対面	グループ研究発表会（１）	発表の練習をする	4 時間
第１０回	対面	グループ研究発表会（２）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第１１回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第１２回	対面	キャリア講演会（１）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１３回	対面	キャリア講演会（２）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１４回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第１５回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	平阪　美穂	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	１年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 　１年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利,『ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]』, 有斐閣, 2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦,『アカデミックスキルズ　第 3 版』, 慶応義塾大学出版会, 2020 年 ③横田明美,『カフェパウゼで法学を』, 弘文堂, 2018 年 ④弥永真生,『法律学習マニュアル　第４版』, 有斐閣, 2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生

あたって	活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第２回	対面	グループ研究発表の準備（１）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第３回	対面	グループ研究発表の準備（２）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第４回	対面	グループ研究発表の準備（３）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第５回	対面	グループ研究発表の準備（４）	発表資料を作成する	6 時間
第６回	対面	グループ研究発表の準備（５）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第７回	対面	グループ研究発表の準備（６）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第８回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第９回	対面	グループ研究発表会（１）	発表の練習をする	4 時間
第１０回	対面	グループ研究発表会（２）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第１１回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第１２回	対面	キャリア講演会（１）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１３回	対面	キャリア講演会（２）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１４回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第１５回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	王　曹傑	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	１年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 　１年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利,『ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]』, 有斐閣, 2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦,『アカデミックスキルズ　第 3 版』, 慶応義塾大学出版会, 2020 年 ③横田明美,『カフェパウゼで法学を』, 弘文堂, 2018 年 ④弥永真生,『法律学習マニュアル　第４版』, 有斐閣, 2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生

あたって	活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第２回	対面	グループ研究発表の準備（１）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第３回	対面	グループ研究発表の準備（２）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第４回	対面	グループ研究発表の準備（３）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第５回	対面	グループ研究発表の準備（４）	発表資料を作成する	6 時間
第６回	対面	グループ研究発表の準備（５）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第７回	対面	グループ研究発表の準備（６）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第８回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第９回	対面	グループ研究発表会（１）	発表の練習をする	4 時間
第１０回	対面	グループ研究発表会（２）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第１１回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第１２回	対面	キャリア講演会（１）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１３回	対面	キャリア講演会（２）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１４回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第１５回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	朴　永炅	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	１年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 　１年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利,『ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]』, 有斐閣, 2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦,『アカデミックスキルズ　第 3 版』, 慶応義塾大学出版会, 2020 年 ③横田明美,『カフェパウゼで法学を』, 弘文堂, 2018 年 ④弥永真生,『法律学習マニュアル　第４版』, 有斐閣, 2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生

あたって	活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第２回	対面	グループ研究発表の準備（１）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第３回	対面	グループ研究発表の準備（２）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第４回	対面	グループ研究発表の準備（３）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第５回	対面	グループ研究発表の準備（４）	発表資料を作成する	6 時間
第６回	対面	グループ研究発表の準備（５）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第７回	対面	グループ研究発表の準備（６）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第８回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第９回	対面	グループ研究発表会（１）	発表の練習をする	4 時間
第１０回	対面	グループ研究発表会（２）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第１１回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第１２回	対面	キャリア講演会（１）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１３回	対面	キャリア講演会（２）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１４回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第１５回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	１年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 　１年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利,『ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]』, 有斐閣, 2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦,『アカデミックスキルズ　第 3 版』, 慶応義塾大学出版会, 2020 年 ③横田明美,『カフェパウゼで法学を』, 弘文堂, 2018 年 ④弥永真生,『法律学習マニュアル　第４版』, 有斐閣, 2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生

あたって	活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第２回	対面	グループ研究発表の準備（１）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第３回	対面	グループ研究発表の準備（２）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第４回	対面	グループ研究発表の準備（３）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第５回	対面	グループ研究発表の準備（４）	発表資料を作成する	6 時間
第６回	対面	グループ研究発表の準備（５）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第７回	対面	グループ研究発表の準備（６）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第８回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第９回	対面	グループ研究発表会（１）	発表の練習をする	4 時間
第１０回	対面	グループ研究発表会（２）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第１１回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第１２回	対面	キャリア講演会（１）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１３回	対面	キャリア講演会（２）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１４回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第１５回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	孟　慶廉	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	１年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 　１年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利,『ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]』, 有斐閣, 2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦,『アカデミックスキルズ　第 3 版』, 慶応義塾大学出版会, 2020 年 ③横田明美,『カフェパウゼで法学を』, 弘文堂, 2018 年 ④弥永真生,『法律学習マニュアル　第４版』, 有斐閣, 2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生

あたって	活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第２回	対面	グループ研究発表の準備（１）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第３回	対面	グループ研究発表の準備（２）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第４回	対面	グループ研究発表の準備（３）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第５回	対面	グループ研究発表の準備（４）	発表資料を作成する	6 時間
第６回	対面	グループ研究発表の準備（５）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第７回	対面	グループ研究発表の準備（６）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第８回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第９回	対面	グループ研究発表会（１）	発表の練習をする	4 時間
第１０回	対面	グループ研究発表会（２）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第１１回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第１２回	対面	キャリア講演会（１）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１３回	対面	キャリア講演会（２）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１４回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第１５回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	西村　剛輝	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	１年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 　１年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利,『ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]』, 有斐閣, 2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦,『アカデミックスキルズ　第 3 版』, 慶応義塾大学出版会, 2020 年 ③横田明美,『カフェパウゼで法学を』, 弘文堂, 2018 年 ④弥永真生,『法律学習マニュアル　第４版』, 有斐閣, 2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生

あたって	活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第２回	対面	グループ研究発表の準備（１）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第３回	対面	グループ研究発表の準備（２）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第４回	対面	グループ研究発表の準備（３）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第５回	対面	グループ研究発表の準備（４）	発表資料を作成する	6 時間
第６回	対面	グループ研究発表の準備（５）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第７回	対面	グループ研究発表の準備（６）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第８回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第９回	対面	グループ研究発表会（１）	発表の練習をする	4 時間
第１０回	対面	グループ研究発表会（２）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第１１回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第１２回	対面	キャリア講演会（１）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１３回	対面	キャリア講演会（２）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１４回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第１５回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉川　真理子	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	１年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 　１年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利,『ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]』, 有斐閣, 2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦,『アカデミックスキルズ　第 3 版』, 慶応義塾大学出版会, 2020 年 ③横田明美,『カフェパウゼで法学を』, 弘文堂, 2018 年 ④弥永真生,『法律学習マニュアル　第４版』, 有斐閣, 2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生

あたって	活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第２回	対面	グループ研究発表の準備（１）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第３回	対面	グループ研究発表の準備（２）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第４回	対面	グループ研究発表の準備（３）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第５回	対面	グループ研究発表の準備（４）	発表資料を作成する	6 時間
第６回	対面	グループ研究発表の準備（５）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第７回	対面	グループ研究発表の準備（６）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第８回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第９回	対面	グループ研究発表会（１）	発表の練習をする	4 時間
第１０回	対面	グループ研究発表会（２）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第１１回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第１２回	対面	キャリア講演会（１）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１３回	対面	キャリア講演会（２）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１４回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第１５回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	上林　大	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	１年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 　１年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利,『ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]』, 有斐閣, 2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦,『アカデミックスキルズ　第 3 版』, 慶応義塾大学出版会, 2020 年 ③横田明美,『カフェパウゼで法学を』, 弘文堂, 2018 年 ④弥永真生,『法律学習マニュアル　第４版』, 有斐閣, 2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第２回	対面	グループ研究発表の準備（１）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第３回	対面	グループ研究発表の準備（２）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第４回	対面	グループ研究発表の準備（３）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第５回	対面	グループ研究発表の準備（４）	発表資料を作成する	6 時間
第６回	対面	グループ研究発表の準備（５）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第７回	対面	グループ研究発表の準備（６）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第８回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第９回	対面	グループ研究発表会（１）	発表の練習をする	4 時間
第１０回	対面	グループ研究発表会（２）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第１１回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第１２回	対面	キャリア講演会（１）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１３回	対面	キャリア講演会（２）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１４回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第１５回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中久保　寛幸	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	１年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 　１年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利,『ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]』, 有斐閣, 2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦,『アカデミックスキルズ　第 3 版』, 慶応義塾大学出版会, 2020 年 ③横田明美,『カフェパウゼで法学を』, 弘文堂, 2018 年 ④弥永真生,『法律学習マニュアル　第４版』, 有斐閣, 2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	70
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0

	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第２回	対面	グループ研究発表の準備（１）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第３回	対面	グループ研究発表の準備（２）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第４回	対面	グループ研究発表の準備（３）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第５回	対面	グループ研究発表の準備（４）	発表資料を作成する	6 時間
第６回	対面	グループ研究発表の準備（５）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第７回	対面	グループ研究発表の準備（６）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第８回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第９回	対面	グループ研究発表会（１）	発表の練習をする	4 時間
第１０回	対面	グループ研究発表会（２）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第１１回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第１２回	対面	キャリア講演会（１）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１３回	対面	キャリア講演会（２）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１４回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第１５回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	大場　史朗	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	１年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 　１年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①伊藤光利,『ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]』, 有斐閣, 2009 年 ②佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦,『アカデミックスキルズ　第 3 版』, 慶応義塾大学出版会, 2020 年 ③横田明美,『カフェパウゼで法学を』, 弘文堂, 2018 年 ④弥永真生,『法律学習マニュアル　第４版』, 有斐閣, 2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生

あたって	活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第２回	対面	グループ研究発表の準備（１）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第３回	対面	グループ研究発表の準備（２）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第４回	対面	グループ研究発表の準備（３）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第５回	対面	グループ研究発表の準備（４）	発表資料を作成する	6 時間
第６回	対面	グループ研究発表の準備（５）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第７回	対面	グループ研究発表の準備（６）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第８回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第９回	対面	グループ研究発表会（１）	発表の練習をする	4 時間
第１０回	対面	グループ研究発表会（２）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第１１回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第１２回	対面	キャリア講演会（１）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１３回	対面	キャリア講演会（２）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１４回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第１５回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	基礎演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	片岡　浩史	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学における学び方・アカデミックスキルの修得		
授業の目的及び概要	１年生が、高校における「学習」から大学における「学修」にスムーズに移行し、大学生活を送る上で必要な能力・態度等を身につけることを目的とした科目です。大学においては、自ら学び、行動する主体的な学修態度が重要です。 　この科目では、そのような大学における学び方や学修技法（アカデミックスキル）を学びつつ、法・政治等に関するテーマを取り扱いながら社会の諸問題への興味・関心を持てるようにします。 　また、大学における良好な人間関係のもと、他者への理解やコミュニケーション能力の向上、将来に向けたキャリア意識の形成もできるようにします。 　１年生を対象とした、大学における学修技法や姿勢・態度、基礎知識の修得等を目標とする入門的な内容の演習です。春学期の「基礎演習 A」に引き続き受講します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①主体的な学修態度を確立し、基本的な情報収集・整理・発信ができるようになる。 ②法・政治等に関するテーマから社会の諸問題へアプローチする方法を身につける。 ③多様な活動を通じて、よりよい人間関係を形成する方法を身につける。 ④自己の大学生活のプランを考え、将来への関心・意欲を高め、行動できるようになる。 ⑤法学の学修に向けた主体的な学びの計画と実践を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題につきコメントなどを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	クラスごとに担当教員が指示します。	ISBN	なし
参考書	①『ポリティカル・サイエンス事始め[第３版]』, 伊藤光利, 有斐閣, 2009 年 ②『アカデミックスキルズ　第 3 版』, 佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦, 慶応義塾大学出版会, 2020 年 ③『カフェパウゼで法学を』, 横田明美, 弘文堂, 2018 年 ④『法律学習マニュアル　第４版』, 弥永真生, 有斐閣, 2016 年	ISBN	①4641183724 ②4766426568 ③4335357338 ④4641125848

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この授業を通じ、大学における学び方の態度・姿勢や学修技法を身につけるとともに、大学生活における豊かな人間関係を築いてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：シラバス・授業計画説明、履修相談等 春学期の振り返りと秋学期の目標設定	ガイダンスの内容についての復習・春学期の目標を達成するための計画の作成	2 時間
第２回	対面	グループ研究発表の準備（１）	発表に必要な資料を探す	4 時間
第３回	対面	グループ研究発表の準備（２）	発表に必要な資料を探す。調査、情報収集を行う。	4 時間
第４回	対面	グループ研究発表の準備（３）	調査、情報収集を行う。発表資料を作成する	4 時間
第５回	対面	グループ研究発表の準備（４）	発表資料を作成する	6 時間
第６回	対面	グループ研究発表の準備（５）	発表資料、発表原稿を作成する	6 時間
第７回	対面	グループ研究発表の準備（６）	発表資料を修正し、発表の練習を行う	6 時間
第８回	オンデマンド	学生研究発表大会への参加	研究発表大会参加レポートを作成する	4 時間
第９回	対面	グループ研究発表会（１）	発表の練習をする	4 時間
第１０回	対面	グループ研究発表会（２）	発表の振り返りを作成する	4 時間
第１１回	対面	演習選択のための相談会	演習募集要項、演習紹介を熟読し、演習募集動画を視聴する。	4 時間
第１２回	対面	キャリア講演会（１）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１３回	対面	キャリア講演会（２）	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	4 時間
第１４回	対面	定期試験対策、演習の申し込み	担当教員の指示に従って予習を行う 担当教員の指示に従って復習を行う	2 時間
第１５回	対面	秋学期のまとめ	振り返りレポートを完成させ、提出する	2 時間

科目名	演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	雑喉　浩久	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員（警察・消防）の実務と法		
授業の目的及び概要	公安職公務員に必要な法律解釈や技能、心構え等の基礎的知識を修得を目的とする。 国民の生命、身体及び財産を保護し、公共の安全、安寧秩序を維持することをその責務・任務とする警察・消防に関し、日々発生する事件事故や社会を取り巻く情勢等を正しく理解したうえで、公安職公務員としてのあるべき姿を研究する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	公安職公務員（警察・消防）の職務執行の根拠となる各種法令（警察法、消防法等）について研究・理解し、説明することが出来る。 日々発生する公安職関連の各種事件・事故等について、事案発生時における社会の情勢や当該組織の動向等を理解し、自身の意見を説明することが出来る。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	研究課題のレポート等には、授業中にコメント、補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストな指定しません。 必要により資料を配布します。	ISBN	なし。
参考書	参考書は指定しません。 関連する資料については、必要により配布します。	ISBN	なし。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	必ず警察官、消防官になるという熱い思い、あえて厳しい道を目指すという強い意志を持ち続けることを大切にしてください。 私は、元警察官であり、消防官としての実務経験はありませんが、公安職公務員を目指すあなたたちと一緒に色々なことを研究し、共に学んでいきたいと考えています。 日頃から新聞記事やニュース報道を注視して、社会情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておいてください。 目標の実現に向けて何をすべきなのか、常に問題意識をもって、皆で励まし合いながら、頑張っていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	授業の目的、授業概要の説明等、ガイダンスを行います。 春学期の授業方針の説明を行い、各発表グループの編成を行います。 また、授業の進め方についての意思統一を図ります。 各発表グループごとの研究テーマを選定します。 授業計画は、必要性や受講生の希望等によって変更することがあります。	【予習】シラバスを事前に読んでおく。授業概要やこの科目の受講にあたって自己がするべきことを理解しておく。 【復習】研究テーマに関する法令や制度等について自己研鑽する。	4 時間
第２回	対面	研究テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題について検討します。 テーマの選定理由について発表します。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第３回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担①」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第４回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第５回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担③」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第６回	対面	「研究テーマの中間発表準備と役割分担①」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第７回	対面	「研究テーマの中間発表準備と役割分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第８回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議①」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第９回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議②」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第１０回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備①」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分、内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておくこと。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備②」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分、内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるように	4 時間

			しておくこと。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておくこと。	
第１２回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備③」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分、内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておくこと。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	「研究結果の発表と全体討議①」を行います。	【予習】発表に関する部分の確認とリハーサルをしてくこと。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	「研究結果の発表と全体討議②」を行います。	【予習】発表に関する部分の確認とリハーサルをしてくこと。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の振り返りと総括を行います。	【予習】春学期の学修結果について、まとめをしておくこと。 【復習】春学期の自身の学修結果について総括し、整理しておくこと。	4 時間

科目名	演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	上林　大	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法に基づく警察活動　　～犯罪捜査に求められるもの～		
授業の目的及び概要	警察活動（主として犯罪捜査）に対する基本的な心構えや法的手続きなどについて理解することを目的としています。 犯罪捜査は、他人の悪事を摘発する仕事であり、それだけに、捜査官には常に公正、誠実な態度が求められるほか、刑事訴訟法等に規定されている権限や手続きを遵守することが求められます。そのため、実際の犯罪現場における捜査の現状や捜査に必要な基礎的知識を修得し、適正な犯罪捜査について研究します。		
履修条件・留意点	学修効果の観点から、警察行政概論又は警察法令概論を履修しているか、一緒に履修することをつよく推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①捜査の端緒（捜査機関が犯罪を疑うきっかけとなる情報等）となるものは何か、それを元に犯罪捜査はどのように行われているかを理解し、説明することができる。 ②捜査を進める上でその根拠となる各種法令（刑事訴訟法等）について研究・理解し、説明することができる。 ③捜査手続きに関する適法性・違法性の判断基準（過去の判例に基づく）について理解し、自らの見解を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシート等での質疑や研究課題のレポートには、原則として次回授業で回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配布するとともに、ラーニングポータルにも掲載します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義　第４版､津田隆好、東京法令出版、2019 年４月 ②実例中心捜査法解説　第４版　－捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門－、幕田英雄、東京法令出版、2019 年４月 ③刑事訴訟法講義　第７版、池田修。前田雅英、東京大学出版会、2022 年７月	ISBN	① 9784809013959 ② 9784809013973 ③ 9784130323963

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	・法学部指定六法を必ず持参すること。

あたって	・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の私的使用は厳禁（演習課題の検討時に調べ物等をする際のみ使用を許可する）。違反者に対しては厳しく対応する。 ・治安情勢や警察事案に関するニュース・報道に関心を持ち、本講義内容と関連させて記事等の内容を見聞すること。 ・ある特定の犯罪が発生したとき、その被害者や関係者は勿論、広く国民からも捜査に対し大きな期待が寄せられる。そのため警察官は誰もが捜査官としての自覚と誇りを持ち、どのような事件に直面してもこれを適切に処理し、解決していくだけの捜査能力を身につける必要がある。本演習では、公安職を目指す学生が捜査官に求められる職務倫理や心構え、捜査に求められる法的知識や実務能力などを身につけた即戦力の人材となれるようサポートを図るものとする。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の目的、授業概要の説明等、ガイダンスを行います。 春学期の授業方針の説明を行い、各発表グループを編成し、以降の授業の進め方について意思統一を図ります。 各発表グループごとの研究テーマを選定します。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第２回	対面	研究テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題について、検討を行います。 テーマ選定理由等について発表します。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第３回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第４回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第５回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担③」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明す	２時間

			る。これには１時間を要する。	
第６回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第７回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第８回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担③」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第９回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１０回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１１回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１２回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点	２時間

			があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	
第１３回	対面	「研究結果の発表と全体討議①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第１４回	対面	「研究結果の発表と全治討議②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の振り返りと総括を行います。	事前学修：レジュメ、六法と照らし合わせしながらレジュメやノートを確認し、春学期の各課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、コメントシート、メール等で教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：春学期に実施した演習班別の課題検討・発表及び教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、コメントシート、メール等で教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間

科目名	演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	大場　史朗	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	再審からはじめる刑事手続法入門（１）		
授業の目的及び概要	（目的） 2024 年 9 月 26 日、袴田巌さんに再審無罪判決が言い渡されました。戦後 5 例目の死刑確定者に対する再審無罪判決です。どうしてこのようなことが起こるのでしょうか、また、二度と起こさないようにするためにはどうすればよいのでしょうか。この演習では、「無辜（むこ）の不処罰」を体現する再審請求事件から学びつつ、わたしたちの社会を支えている刑事手続について考えていきます。関連して少年法についても学びます。 （概要） 受講生に刑事手続に関する論点につき報告してもらい、質疑応答・議論を行います。また、担当教員が適宜、議論の整理・解説を行います。グループで協力して発表してもらうこともあります。映画や動画教材等は刑事手続の流れ、論点などを理解する一助とし、刑事手続に関する理論的な検討を中心に授業を行います。合同ゼミや刑事模擬裁判を実施することがあります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）刑事手続の基本的な概念および全体像を理解し、説明することができる。 （２）刑事手続に関する精確な現状分析をすることができる。 （３）具体的事案に即して人権侵害の有無を判断できる能力を身につける。 （４）相手の意見を尊重し、それに対して自分の意見を言うことができる。 （５）チームワークを身に付けることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Practical Studies 刑事訴訟：この事件を裁くのはあなたです，四宮啓ほか編著，成文堂，2024 年 『六法』（小型のもので可）を毎回持参のこと。	ISBN	978-4792354114
参考書	基本刑事訴訟法１－手続理解編，吉開多一ほか著，日本評論社，2020 年 そのほか必要に応じて授業内で紹介します。	ISBN	978-4535524194

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この演習では半期に必ず１～２回報告（発表）を担当し、別途レポート（刑事裁判傍聴レポートなど）も課すことがあるため、必ずしも「楽」な演習ではありません。また、報告準備には資料やテキスト等を熟読する必要があるため、一定の熱量と事前学習が必要です。もっとも教

	員ができる限りサポートしますので心配は不要です。対面での対話の重要性を大切にしながら、みなさんと一緒に刑事法に関わる諸問題について積極的に意見交換し、楽しい演習にしたいと思っています。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 自己紹介、授業の進め方などのレクチャー。 ＊授業計画は柔軟に変更することがあります	【予習】担当教員が指示したテキスト等を通読してきてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第２回	対面	受講生による報告と議論（１）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第３回	対面	受講生による報告と議論（２）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第４回	対面	受講生による報告と議論（３）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第５回	対面	受講生による報告と議論（４）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第６回	対面	受講生による報告と議論（５）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第７回	対面	受講生による報告と議論（６）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第８回	対面	受講生による報告と議論（７）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第９回	対面	受講生による報告と議論（８）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１０回	対面	受講生による報告と議論（９）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１１回	対面	受講生による報告と議論（１０）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１２回	対面	受講生による報告と議論（１１）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１３回	対面	受講生による報告と議論（１２）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。	4 時間

			【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	
第１４回	対面	まとめ 半期のまとめと総括	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	刑事裁判傍聴 　各自で裁判所に行き、刑事裁判を傍聴してレポートを提出	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読み、刑事裁判の流れを確認してください。 【復習】テキストを読み直し、刑事裁判傍聴で得た知識等を確認してください。	4 時間

科目名	演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	西村　剛輝	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論の重要判例について理解を深める。		
授業の目的及び概要	本演習では、受講生が刑法総論の基礎的な内容を修得していることを前提に、刑法に関する判例および学説の発展的内容を扱います。具体的には、以下のようなことを考えております。佐伯仁志＝橋爪隆編『刑法判例百選Ⅰ総論〔第８版〕』(2020 年）に掲載されている判例の中から、重要なものをいくつか取り上げて、受講生全員で検討します。その際には、当該判例の判断構造を正確に読み解くことはもちろん、学説を参照することで当該判例の思想的背景にも深入りし、日本の刑事司法制度全体における当該判例の位置づけを明らかにすることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑法総論の重要判例の位置づけを把握することができる。 ・判例に対する学説からの評価を理解することができる。 ・以上の２点について、言葉によって説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	討議について、授業内で講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定教科書はありませんが、授業内で適宜、文献を案内します。	ISBN	なし。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	100
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
【教員からのメッセージ】 この授業では、毎授業で受講生に発言を求めます。毎授業前に、取り扱う判例やその評釈類（事前に指示します）を読んできてください。それを踏まえて、授業での発言に際しては、権威にとらわれない、大胆かつ自由な発想を期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【オリエンテーション】 ・自己紹介 ・演習の進め方を説明します。 ・取り上げる判例を決定します。	【事前学修】 ・自己紹介の内容を考えてきてください。また、刑法総論の内容のうち、興味・関心のある分野を考えてきてください。 【事後学修】	4 時間

			・授業内で指定された課題に取り組んでください。	
第２回	対面	【基本事項の確認】 ・刑法総論に関する基本事項を講義形式で説明します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第３回	対面	【判例研究①】 ・因果関係に関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第４回	対面	【判例研究①つづき】 ・第３回授業で取り上げた判例と関連する判例を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第５回	対面	【判例研究①つづき】 ・第３回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第６回	対面	【判例研究②】 ・正当防衛に関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第７回	対面	【判例研究②つづき】 ・第６回授業で取り上げた判例と関連する判例を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第８回	対面	【判例研究②つづき】 ・第６回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第９回	対面	【判例研究③】 ・被害者の同意に関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第１０回	対面	【判例研究③つづき】 ・第９回授業で取り上げた判例と関連する判例を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第１１回	対面	【判例研究③つづき】 ・第９回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第１２回	対面	【判例研究④】 ・錯誤論に関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第１３回	対面	【判例研究④つづき】 ・第 12 回授業で取り上げた判例と関連する判例を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第１４回	対面	【判例研究④つづき】 ・第 12 回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第１５回	オンデマンド	総まとめ ・今学期の学修内容について、総復習を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	４時間

科目名	演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	企業（会社・個人事業）に関わる法的問題を考える。		
授業の目的及び概要	私たちは、生きていくために働く。自分一人でモノ作りなどして働く者もいれば、プロスポーツ選手もいるし、自ら起業して人を雇う者、会社を立ち上げて経営する者、会社に就職して働く者、さまざまである。ただ、その周りには、必ず誰かが存在し、トラブルや法的問題が生じることが少なくない。 　大雑把にいえば、そのようなビジネスに関わる法的問題に関心を寄せ、それらを検討・分析・議論し、一定の結論に導き、それを報告することにより、今後の人生に活かすことができることを目的とする。 　演習は、受け身ではなく、自分で考え、疑問があれば質問し、自由に見解を述べることが最も重要であり、それこそが将来にも役立つ。 　演習の進め方は（１）ビジネスシーンで起こりうる事件を題材に、個人またはグループで検討し、報告する。 （２）報告者以外のメンバーも同じ題材を学修し、質疑やディスカッションを積極的に行う。 　演習の人数規模やメンバーの興味関心により、進め方は柔軟に変更する。		
履修条件・留意点	演習は、自分自身で学修することはもちろんのこと、他者の報告・発表を聞き、議論に参加することが重要である。 この点で、講義科目とは異なる。 したがって、欠席が多い場合、たとえ自分自身の報告等がきちんとされたとしても、 演習科目の目標到達点に達しないものと判断される場合があることに留意する必要がある。 原則として全部の演習に参加することが求められる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・積極的に自分の意見を述べることができる。 ・企業に関する基礎的な法的知識を獲得することができる。 ・報告資料の作成、プレゼンテーション能力を獲得することができる。 ・論理的・発展的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表・報告内容については、レジュメ等を含めて授業内において、修正・アドバイスを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。	ISBN	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	ゼミは、仲間とともに楽しく有意義な時間を過ごす素晴らしい機会です。ただ、ダラダラと楽しむのではなく、ゼミ生の皆さんが「自分自身を鍛える」ため、毎週決まった時間に集まる楽しい勉強会としたい。 メリハリをつけて一緒に頑張りましょう。 積極的・意欲的に楽しく学修しようと考える皆さんの参加をお待ちしています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 自己紹介、授業の進め方・報告方法の説明、報告者の決定。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第２回	対面	判例の検索方法・レジュメの作成方法・報告方法の説明。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第３回	対面	受講生による報告と議論（１）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第４回	対面	受講生による報告と議論（２）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第５回	対面	受講生による報告と議論（３）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第６回	対面	受講生による報告と議論（４）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第７回	対面	受講生による報告と議論（５）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第８回	対面	受講生による報告と議論（６）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第９回	対面	受講生による報告と議論（７）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１０回	対面	受講生による報告と議論（８）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１１回	対面	受講生による報告と議論（９）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１２回	対面	受講生による報告と議論（10）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授	4 時間

			業で得た知識等を確認すること。	
第１３回	対面	受講生による報告と議論（11）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１４回	対面	受講生による報告と議論（12）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の総括。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間

科目名	演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉川　貴代	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法律と地方自治体の政策形成		
授業の目的及び概要	法律が自治体の政策を変えるか、自治体がどのように政策を形成するのかを学びます。 地方自治体では法律や条例を適正に運用することが基本です。私たちが暮らす社会は日々変化するなかで、新たな課題が生じています。そこで、法律が制定あるいは改正されます。地方自治体では、それらに伴う対応として、条例制定・改廃、計画策定などを行い、地域の実情に応じた政策を展開しています。 授業では、各地の自治体で重点的に行われている、子ども・子育て政策に関して、2023 年 4 月に施行された「こども基本法」等を題材に、法律の内容、制定された背景、地方自治体での政策形成とその推進をリアルに学びます。また、その前提として、「少子高齢化・人口減少」の現状を統計資料から読み解きます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・文献や資料を読み解き、レポートを書き、発表、ディスカッションすることができる。 ・発表等を聞いて質問でき、また、質問に答えることができる。 ・法律が、自治体の政策形成につながるということを学ぶ。 ・ゲストスピーカー（実務家）の話を直接聞くことで、地方自治体における政策形成と実践を学ぶことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表等については授業中に講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特定の教科書は使用せず、資料等は授業で紹介します。	ISBN	なし
参考書	①『改訂版　これからの地方自治の教科書』大森彌・大杉覚著、第一法規、2021 年 ②『公務員という仕事』村木厚子著、ちくまプリマー新書、2020 年 ③『地方消滅２　加速する少子化と新たな人口ビジョン』人口戦略会議編著、中公新書、2024 年 ④『＜共働き・共育て＞世代の本音　新しいキャリア観が社会を変える』本道敦子・山谷真名・和田みゆき著、光文社新書、2024 年 ⑤『未婚と少子化　この国で子どもを産みにくい理由』筒井淳也著、PHP 新書、2023 年	ISBN	①978-4-474-07699-0 ②978-4-480-68376-2 ③978-4-12-102830-3 ④978-4-334-10249-4 ⑤978-4-569-85616-2

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・教員は基礎自治体で 36 年間の実務経験があります。 ・公務員の仕事、地方自治体の政策形成と実践に興味がある学生の履修を期待しています。教員の自治体での実務経験も交えて、授業を進めます。少子高齢化という身近な問題を通じて、法律と自治体の政策形成を学べます。ゲストスピーカー（実務家）を招きます。ゲストスピーカーとの日程調整の都合により、授業の順番に入れ替えが生じることがあります。 ・授業は原則出席です。ゼミに積極的に参加することを期待しています。 ・授業に無関係なスマートフォンの使用は禁止します。 ・文献や資料を読み、発表やレポート作成は大変ですが、表現力や文章力の向上につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション 自己紹介 進め方など	【予習】シラバスを事前に読み、こども家庭庁ホームページで「こども基本法」を調べておいてください。（2 時間） 【復習】配布資料を使って、授業内容を復習してください。（2 時間）	4 時間
第２回	対面	少子高齢化の現状と推移（講義） グループディスカッション	【予習】事前に掲載する資料を一読すること。（2 時間） 【復習】授業で使用した資料で復習し、住んでいる自治体の人口の推移を確認すること。（2 時間）	4 時間
第３回	対面	少子化対策(1) 子どもに関する様々な法律（講義） グループディスカッション	【予習】事前に掲載する資料を一読すること。（2 時間） 【復習】授業で使用した資料で復習すること。（2 時間）	4 時間
第４回	対面	少子化対策(2) 「こども基本法」ができるまで（講義） グループディスカッション	【予習】事前に掲載する資料を一読すること。（2 時間） 【復習】授業で使用した資料で復習すること。（2 時間）	4 時間
第５回	対面	輪読(1) 「令和 7 年度版こども白書」 発表担当のグループは発表用の資料を作成し、事前に提出すること。	【予習】発表予定の箇所をあらかじめ読んでおくこと。（2 時間） 【復習】発表者のレジュメを使って復習すること。（2 時間）	4 時間
第６回	対面	輪読(2) 「令和 7 年度版こども白書」 発表担当のグループは発表用の資料を作成し、事前に提出すること。	【予習】発表予定の箇所をあらかじめ読んでおくこと。（2 時間） 【復習】発表者のレジュメを使って復習すること。（2 時間）	4 時間
第７回	対面	輪読(3) 「令和 7 年度版こども白書」 発表担当のグループは発表用の資料を作成し、事前に提出すること。	【予習】発表予定の箇所をあらかじめ読んでおくこと。（2 時間） 【復習】発表者のレジュメを使って復習すること。（2 時間）	4 時間
第８回	対面	輪読(4) 「令和 7 年度版こども白書」 発表担当のグループは発表用の資料を作成し、事前に提出すること。	【予習】発表予定の箇所をあらかじめ読んでおくこと。（2 時間） 【復習】発表者のレジュメを使って復習すること。（2 時間）	4 時間
第９回	対面	輪読(5) 「令和 7 年度版こども白書」 発表担当のグループは発表用の資料を作成し、事前に提出すること。	【予習】発表予定の箇所をあらかじめ読んでおくこと。（2 時間） 【復習】発表者のレジュメを使って復習すること。（2 時間）	4 時間
第１０回	対面	輪読(6) 「令和 7 年度版こども白書」 発表担当のグループは発表用の資料を作成し、事前に提出すること。	【予習】発表予定の箇所をあらかじめ読んでおくこと。（2 時間） 【復習】発表者のレジュメを使って復習すること。（2 時間）	4 時間
第１１回	対面	自治体の政策形成・実施プロセス（講義）	【予習】事前に掲載する資料を一読すること。（2 時間）	4 時間

			【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2 時間)	
第１２回	対面	自治体の政策形成と実践(1) ゲストスピーカーによる講義	【予習】事前に掲載する資料を一読しておき、ゲストスピーカーへの質問を考えておくこと。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第１３回	対面	自治体の政策形成と実践(2) ゲストスピーカーによる講義	【予習】事前に掲載する資料を一読しておき、ゲストスピーカーへの質問を考えておくこと。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第１４回	対面	自治体の政策形成と実践(3) ゲストスピーカーによる講義の振り返り 市町村こども計画について	【予習】事前に掲載する資料を一読しておくこと。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ 秋学期に向けて	【予習】事前に掲載する資料を一読しておくこと。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2 時間)	4 時間

科目名	演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中久保　寛幸	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	犯罪捜査と法　～犯罪捜査における判断基準と実務手続き～		
授業の目的及び概要	犯罪捜査の実情とその法手続きについて理解することを目的としています。 刑事訴訟法の第２編「第一審」第１章「捜査」（第 189 条～第 246 条）や犯罪捜査規範（国家公安委員会規則）を中心とした研究をグループで行います。 犯罪捜査において、「犯罪とはどのようにして認知しているのか」「その捜査はどのように行われているのか」など、実際の現場における捜査の現状やそれに必要な基礎的知識を修得し、犯罪に対してとるべき適法な捜査手続きについて研究をします。		
履修条件・留意点	履修希望者は、選考を行います。選考方法（基準）は①この演習を希望する理由、②志望進路（警察等）、③前年度授業への参加度・取組（出席率や成績等を含む）としています。 秋学期（演習ＩＢ）実施の学生研究発表大会への出場を推奨し、出場者については加点対象とします。 警察行政概論、警察法令概論、刑法各論Ｉの科目履修を推奨します。 公務員特別演習ＩＡ・Ｂの履修を強く推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①犯罪捜査がどのような規定に基づき、どのように行われているのかを理解し、説明することができる。 ②捜査手続きに関する適法事例、違法事例の詳細について研究・理解し、説明することができる。 ③日常発生する事件に対する犯罪捜査の適法性について、自らの意見を法的根拠や判例に基づいて説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義　第４版，津田隆好，東京法令出版，2019 年４月 ②実例中心捜査法解説　第４版　－捜査手続・証拠法の詳説と公判手続入門－，幕田英雄，東京法令出版，2019 年 4 月 ③刑事訴訟法講義　第７版，池田修・前田雅英，東京大学出版会，2022 年７月	ISBN	①9784809013959 ②9784809013973 ③9784130323963

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	「捜査」というと「刑事がやるもの」と認識している学生が多いかも知れませんが、警察官となり交番に配属された段階から、また刑事だけではなく生活安全、交通、警備の各部門に配属されても「捜査」は必要とされます。また、警察以外の海上保安官、入国警備官、自衛隊の警務官などの公安職においても、刑事訴訟法に規定された特別司法警察職員として捜査に従事しなければなりません。公安職を目指す学生が即戦力となるためには、実際の犯罪捜査の基礎を学び、自ら進んで考えることにより、判断力・行動力を身に付けることが最も重要です。本演習はそのような学生に非常に有益だと思います。私のこれまでの経験を活かし、犯罪捜査の実務で要求される知識・技能などを伝えたいと考えています。 オンデマンド授業については、学年歴により実施回を変更する場合があります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	自己紹介、授業方針の説明等のガイダンスを行います。 研究発表グループの編成を行います。 捜査手続きの流れについて学修します。	【予習】シラバスを事前に読んでおく。自己紹介内容（本演習選択の動機、自己の目標、演習に関する希望等）について、自分の意見をまとめておく。 【復習】担当教員が示した授業方針、授業計画を基に「犯罪捜査」に関する法令・制度等について自己研鑽する。	4 時間
第２回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第３回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第４回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第５回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第６回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第７回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第８回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づ	4 時間

		後に担当教員が講評等をする。	き、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	
第９回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第１０回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第１１回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第１２回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第１３回	オンデマンド	課題提出	【予習】担当教員が提示した課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめて期限までに提出しておく。 【復習】授業で示された教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第１４回	対面	指定グループが、事前に担当教員から提示された発表テーマ・課題の研究結果について発表する。 指定グループの発表後、全員で討論し、最後に担当教員が講評等をする。	【予習】担当教員が提示した発表テーマ・課題に関する条文等に目を通して、自己の研究結果・意見をまとめておく。 【復習】授業で発表された内容・教員の講評等に基づき、自己の研究結果・意見を再度整理しておく。	4 時間
第１５回	対面	春学期の演習を振り返り、総括を行います。	【予習】春学期の自身の学習結果に関する総括をしておく。 【復習】春学期の自身の学習結果に関する総括に基づき、秋学期の目標をたてる。	4 時間

科目名	演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	石尾　賢二	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法不法行為法の基礎		
授業の目的及び概要	民法の法律問題の中で基礎的な問題を学ぶ。分野は不法行為法を中心とする。 不法行為分野における重要な判例を取り上げ、事実関係を分析し、問題点を明らかにし、裁判所の判断を検討する。 授業において各担当者が個々の判決について検討・報告し、その後、全員で議論する。 集団での討論によって問題解決を図ることを目的とし、報告者の適切な問題提起と報告を受けた者の適切に意見表明の促進を意図する。 これらのことを通して様々に部門での自主的な問題解決能力が促進されることを企図する。自主的な勉学は各種試験のためにも役立つものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 不法行為法に関する基本的な事項について理解し、判断することができる。 2. 不法行為法に関する事例において、事案を正確に把握し、問題点を整理し、裁判所の判断を的確に説明できる。 3. 報告者は検討したことを授業で適切に報告することができる。 4. 報告者以外の者は報告に対して適切に自分の意見を述べることができる。 5. 各人の意見表明を受けて適切な結論を導く方法を探求する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員は報告者のレジュメについての事前に質疑を受け、事後に意見を述べ。授業での議論について意見を述べる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①民法判例百選Ⅱ　債権　第 9 版，窪田　充見　、森田宏樹，有斐閣，2023 年	ISBN	①978-4-641-11563-7
参考書	事前に指示した判例について検討するために、各種判例集(民集、判例時報、判例タイムズ)、判例百選が有用である。これらはデータベースでも利用できる。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	民法に関心があり、積極的に参加することを希望します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	ガイダンス 自己紹介から始めます。 その後、ゼミの方法を説明し、取り上げる判決を紹介し、各人の担当を決定する。	取り上げる判決については、民法判例百選Ⅱの中の過失の意義――1. 大阪アルカリ事件、2. 医療機関に要求される医療水準の判断――姫路日赤未熟児網膜症事、3. 建物の設計・施工者の責任、4. 通常有すべき安全性――イレッサ薬害訴訟、5. 因果関係の立証――東大病院ルンバール事件、6. 生存の相当程度の可能性、7. 景観利益――国立マンション事件、8. 意見ないし論評の表明と名誉毀損、9. 未成年者と監督義務者の責任、10. 取引先の外観信頼、11. 使用者から被用者への求償権の制限、12. 共同不法行為の要件、13. 共同不法行為と使用者責任の競合と求償、14. 民法４１６条と不法行為、15. 企業損害（間接損害）、16. 年少女子の逸失利益と家事労働分の加算、17. 過失相殺と身体的特徴の斟酌、18. 共同不法行為と過失相殺、民法判例百選Ⅰの中の 19. 権利濫用、20. 北方ジャーナル事件、その他、21. 国賠事件等の中から当日に選ぶ。	4 時間
第２回	対面	２回目の授業はまず教員が報告し、全員で議論を実施する。テーマは前回示したものの中の余ったものの中の一つになる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第３回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第４回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第５回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第６回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第７回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第８回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第９回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１０回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１１回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１２回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマ	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の	4 時間

		の順番となる。	議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	
第１３回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１４回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１５回	オンデマンド	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間

科目名	演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	平阪　美穂	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	地域の子ども・若者・教育政策について考える		
授業の目的及び概要	教育は学校だけで行われているわけではありません。子どものよりよい育ちのためには、コミュニティ全体で総合的に子どもやその家庭を支えていくことが必要であるという立場から、主に子ども、青少年を中心とした教育政策、地域政策、子ども政策について考えていきます。問題のよりよい解決方法を考える際に、諸外国の事例を参考にすることもあります。 授業では、まず、「問題だ」と思われていることは、本当に問題なのか、どのような点が問題なのかについて、文献や資料を通して考えていきます。 これらの学びを通して、社会や地域の課題について分析、理解し、解決策を模索する力を高めることを目的としています。そして、社会における諸課題から、法律の意義について考えます。 授業で扱うテーマについては、オリエンテーションで受講生の興味や関心について聞き取り、検討していきます。 授業では、まずは導入として文献購読から始め、関心の幅を広げるとともに、課題に取り組むための基礎力を身につけます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 課題を多角的にとらえ、理解し、よりよい解決策を導こうとすることができる。 ・ テーマに沿った適切な資料を収集でき、また資料の善し悪しを判断できる。 ・ 資料を適切にまとめ、発表することができる。 ・ テーマに沿って適切な質問をすること、質問に適切に対応することができる。 ・教育、子ども、若者等の現状から、その問題に関係する法律について考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しません。授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
参考書	教育法規スタートアップ・ネクスト　ver.2.0 ， 高見 茂 開沼　太郎 宮村　裕子 編， 昭和堂，2023	ISBN	9784812222256

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・授業業は出席が原則です。グループワークに支障がありますので欠席する場合は事前に連絡をしてください。特に発表担当回の無断欠席は大幅な減点とします。 ・授業では発表や議論、レポートに積極的に取り組んでもらいたいと考えています。 ・かなりの回でグループワークを実施します。体調を整えて参加してください。 ・ 法律に直接向き合う演習ではありませんが、子どもや教育に関する問題を中心に取り上げ、

	その背景にある社会の状況、制度についてじっくりと考えることを通して、法学の学びにつなげてもらえればと考えています

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 自己紹介、授業の進め方について 扱うテーマについて	【予習】近年の教育、若者、子どもの問題、課題について考える。 【復習】自らが関心のある教育、若者、子どもの課題について調べてみる。	4 時間
第２回	対面	文献の読み方	【復習】配布された資料をよく読んで理解し、問いを立てる。	4 時間
第３回	対面	文献の探し方、図書館の活用	【復習】必要な文献を検索する。	4 時間
第４回	対面	発表の方法、レジュメの作成	【復習】配布された資料をよく理解し、レジュメを作成する。	4 時間
第５回	対面	受講生による報告と議論（１）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第６回	対面	受講生による報告と議論（２）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第７回	対面	受講生による報告と議論（３）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第８回	対面	受講生による報告と議論（４）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第９回	対面	受講生による報告と議論（５）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第１０回	対面	受講生による報告と議論（６）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第１１回	対面	受講生による報告と議論（７）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第１２回	対面	受講生による報告と議論（８）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第１３回	対面	受講生による報告と議論（９）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第１４回	対面	まとめ	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめのレポートの作成	【復習】春学期のまとめレポートを作成する。	4 時間

科目名	演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	手嶋　豊	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法・財産法分野における問題演習を行う。		
授業の目的及び概要	民法総則・物権法に関して、当該領域を学ぶ者にとって重要かつ基本的知識としてもっていることが必要と思われる論点を選んで設問を設定して論文作成を行い、民法・財産法の理解・知識を確かなものにすることを目的とする。		
履修条件・留意点	民法・財産法は、全体を俯瞰することで理解が進む側面がある。可能な限り早く、民法全体を学ぶことをお勧めするが、本演習はその助けとなりうるものである。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・民法総則・物権法に関する基礎知識を確かなものとすること。 ・民法総則・物権法領域について、典型的な、あるいは特有の紛争事例を知り、それらの知識を通じて、新たな問題への解決の指針を示すことができるようになること。 ・演習を通じて、共同報告や質疑応答を実施できる、実践的な経験を得ること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・報告・レジュメに対する講評・アドバイスを演習中に行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	該当しない
参考書	指定しない。	ISBN	該当しない。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	法科大学院入学試験準備のために、積極的に民法を学ぼうという意欲のある皆さんの参加を期待している。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	演習全体のオリエンテーション。演習の進め方、自己紹介、担当判決の割当て、到達目標等についてのガイダンス。	事前学修：民法総則・物権法について、総復習をしておく。3 時間。 事後学修：民法総則・物権法について、総復習をしておく。1 時間。	4 時間
第２回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間

第３回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第４回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第５回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第６回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第７回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第８回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第９回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１０回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１１回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１２回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１３回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１４回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間	4 時間

		者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	
第１５回	オンデマンド	これまで取り上げられた論点を振り返り、民法総則・物権法に関する知識を確かなものとする。	これまで取り上げられた論点を概観しておく。３時間。 　これまで取り上げられた論点を再復習する。１時間。	4 時間

科目名	演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	古田　隆	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現場で必要な行政法を学んで、法律を使いこなす公務員を目指す		
授業の目的及び概要	実務上重要な行政法の裁判例の検討などにより、行政の現場において必要とされる事項に重点を置いて掘り下げていきたい。 報告担当者が、裁判例の内容やそこで争われた論点等について報告し、全員でそれを討論する。 事件そのものだけでなく、関連する政策課題なども議論したい。 メンバーの興味関心により、進め方は変更することがある。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・他の者の見解等を十分に聴き、検討し、意見を述べるようになること。 ・裁判例や文献などを読解する能力を得ること。 ・報告資料の作成、プレゼンテーション能力を得ること。 ・論理的な思考を身につけること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告やレジュメの内容に対するアドバイス等を演習中に行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、指定都市職員として 39 年間勤務し、部長級まで務め、条例等審査、不服審査、訴訟などの自治体法務に通算 24 年携わったほか、行財政改善、社会福祉法人の監査等の分野において政策形成に関与した。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	－
参考書	特に指定しない。	ISBN	－

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・授業は原則出席すること。積極的に参加することを期待している。 ・担当教員は、地方公共団体（指定都市）に 39 年間勤務し、そのうち通算 24 年間法務（条例等の審査、行政不服申立て、訴訟等）を担当したほか、コンプライアンス、法人監査等も担当した。こうした実務経験も交えて授業を進めるので、公務員の仕事や、法務を通じた政策実現などに興味がある学生の履修を期待する。 ・文献を調べたり読んだり、発表を行うことなどは楽ではないが、公務員等になるには必要なスキルである。楽しみながら取り組もう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	演習全体のオリエンテーション。演習の進	【事前学修】行政法全般にわたって書籍で予習をし	4 時間

		め方、自己紹介、担当裁判例の割当て等についてのガイダンスを行う。	ておく。（２時間） 【事後学修】報告対象の内容を検討する。（２時間）	
第２回	対面	報告担当者による報告と議論（１）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第３回	対面	報告担当者による報告と議論（２）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第４回	対面	報告担当者による報告と議論（３）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第５回	対面	報告担当者による報告と議論（４）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第６回	対面	報告担当者による報告と議論（５）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第７回	対面	報告担当者による報告と議論（６）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第８回	対面	報告担当者による報告と議論（７）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第９回	対面	報告担当者による報告と議論（８）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１０回	対面	報告担当者による報告と議論（９）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１１回	対面	報告担当者による報告と議論（10）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１２回	対面	報告担当者による報告と議論（11）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１３回	対面	報告担当者による報告と議論（12）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１４回	対面	報告担当者による報告と議論（13）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ	【事前学修】全ての資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】全ての資料等を読み直し、得た知識等を	４時間

			確認する。（２時間）	

科目名	演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉原　裕樹	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法テーマ演習・判例研究		
授業の目的及び概要	憲法に関するテーマ演習・判例研究を行う。 春学期は、受講生による発表形式をとる。 題材については、基本的に受講生の希望を尊重する。 「同性婚は憲法上保障されるか」・「監視社会とプライバシー権」など、テーマを題材にしてもかまわないし、具体的な憲法判例について判例研究をしてもかまわない。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	憲法に関するテーマ・判例について、関連する文献・判例等を的確に調査することができる。【ＤＰ１】【ＤＰ２】 そのうえで、調査した内容を的確に、文章として筆記するとともに、口頭で説明して他者と討議することができる。【ＤＰ３】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表担当者による発表、及び、他の受講生との質疑応答等について、担当教員が適宜コメントする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しない。	ISBN	テキストは使用しない。
参考書	①憲法判例（第９版），戸松秀典ほか編著，有斐閣，2025 年 ②憲法判例百選１・２（第８版），長谷部恭男ほか編，有斐閣，2025 年 ③憲法（第３版），渋谷秀樹，有斐閣，2017 年 ④憲法（第８版），辻村みよ子，日本評論社，2025 年 ⑤日本国憲法論（第２版），佐藤幸治，成文堂，2020 年	ISBN	①9784641228894 ②9784641213449　，9784641213456 ③9784641227231 ④9784535529038 ⑤9784792306724

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	自分自身の発表担当回はもちろん、他の受講生の発表担当回であっても、質疑応答等への積極的参加を期待する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	各受講生が取り扱うテーマないし判例を議論・決定する。	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の１週間前までに提出する（ただし、第２回授業については、特別の取扱いをするので、第１回にて詳細を説明する。また、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第２回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の１週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第３回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の１週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第４回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の１週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第５回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の１週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第６回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の１週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。	4 時間

			発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	
第７回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の１週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	４時間
第８回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の１週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	４時間
第９回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の１週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	４時間
第１０回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の１週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	４時間
第１１回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の１週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	４時間
第１２回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅	４時間

			くとも発表担当回の１週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	
第１３回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の１週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第１４回	対面	受講生による発表	発表担当者は、事前にレジュメ等の資料を準備し、遅くとも発表担当回の１週間前までに提出する（ただし、受講人数によっては、異なる取扱いをする場合がある）。 発表担当者以外の受講生は、提出された資料を事前に熟読し、発表担当者に質問したり意見を述べたりすることができるように、準備する。 予習・復習としては、とりわけ予習（自分自身の担当回だけでなく、他の受講生の担当回を含む）を重点的に行う必要がある。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括と課題の指摘 これまでの授業内容を振り返り、今後の学修に向けた課題を指摘する。	これまでの各発表内容を復習する。	4 時間

科目名	演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	兪　珏根	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	労働問題や労働現場の実態について判例を検討する		
授業の目的及び概要	労働法は労働者の一生，企業の存立に関わる問題で具体的な利害関係に対して実際に生じた争いを解決する実定法であります。法解釈は社会情勢と密接に関連してありますので労働法を学ぶには具体的事例の検討が重要だと思います。演習では、労働契約法、労働基準法など個別的労働関係を題材として、重要判例を「労働判例百選」などを中心に，実際の労働現場でどのような利益対立があり，それに対して労働法がどのように解釈されて結論が導かれたのか等々，演習を通じて皆さんと討論しながら理解を深めたいと思います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	基本的な労働判例における利害関係，争点，具体的処理とその妥当性の検討等を通じて実務演習における応用を学ぶことができます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告のやり方やレジュメ作成については、初回及び 2 回の授業で指導します。重要判例についてテーマを決め、演習授業の前に事案の概要，争点，事実認定、判断根拠，判定理由順に検討および発表してもらい、その後，担当教授のコメント、学生たちの質疑応答の時間をとり、結論を出します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	荒木尚志・奥田香子外多数『ケースブック労働法第 4 版』有斐閣　2019 年 村中講史・荒木尚志『労働判例百選　第 10 版』有斐閣 2022 年	ISBN	9784641144743C1032 9784641115576C9432
参考書	村中孝史・荒木尚志『労働判例百選第 10 版』有斐閣、2022 年　　ISBN 9784641115576 野田進外多数『判例労働法入門第 7 版』有斐閣、2021 年　　ISBN 9784641243477	ISBN	9784641115576 9784641243477

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	50
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・法学部指定六法を持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器の使用は厳禁。 ・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。 ・演習は労働法を題材に、労働問題の解決能力を修得し、法理論と関連事例などの多様なテーマについて討論を楽しみながら勉強する。 ・雇用関係と労使関係に対する探究は将来的に就労活動にも対応できるような知識になる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス・自己紹介、発表担当者を決めます。	【予習】シラバスを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直す。	4 時間
第２回	対面	主題：大日本印刷事件 - 労働法の位置	【予習】大日本印刷事件に対して事件の概要を把握し、労働法の位置を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第３回	対面	主題：高知放送事件 - 基本構造	【予習】高知放送事件に対して事件の概要を把握し、労働法の基本構造を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第４回	対面	主題：横浜南労基署長事件 - 労働者性	【予習】横浜南労基署長事件に対して事件概要を把握し、労働者性を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第５回	対面	主題：朝日放送事件 - 使用者性	【予習】朝日放送事件に対して事件概要を把握し、使用者性を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第６回	対面	主題：三菱樹脂事件 - 採用の自由	【予習】三菱樹脂事件に対して、事件概要を把握し、採用の自由を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第７回	対面	主題：電電公社近畿電通局事件 - 採用内定	【予習】電電公社近畿電通局事件に対して、事件概要を把握し、採用内定を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第８回	対面	主題：B 金融公庫事件 - 採用過程とプライバシー	【予習】B 金融公庫事件に対して、事件概要を把握し、採用過程とプライバシーを理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第９回	対面	主題：神戸弘陵学園事件 - 労働契約期間	【予習】神戸弘陵学園事件に対して、事件概要を把握し、労働契約期間を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１０回	対面	主題：日立メディコ事件 - 雇止め法理	【予習】日立メディコ事件に対して、事件概要を把握し、雇止め法理を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１１回	対面	主題：茨石事件 - 労働義務	【予習】茨石事件に対して、事件概要を把握し、労働義務を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１２回	対面	主題：片山組事件 - 賃金支払い義務	【予習】片山組事件に対して、事件概要を把握し、賃金支払い義務を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１３回	対面	主題：秋北バス事件 - 就業規則の法的性質	【予習】秋北バス事件に対して、事件概要を把握し、就業規則の法的性質を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１４回	対面	主題：スカンジナビア航空事件 - 労働契約の変更	【予習】スカンジナビア航空事件に対して、事件概要を把握し、労働契約の変更を理解する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間

第１５回	オンデマンド	総括まとめ	総合的に整理する。	4時間

科目名	演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	雑喉　浩久	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員（警察・消防）の実務と法		
授業の目的及び概要	公安職公務員に必要な法律解釈や技能、心構え等の基礎的知識を修得を目的とする。 国民の生命、身体及び財産を保護し、公共の安全、安寧秩序を維持することをその責務・任務とする警察・消防に関し、日々発生する事件事故や社会を取り巻く情勢等を正しく理解したうえで、公安職公務員としてのあるべき姿を研究する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	公安職公務員（警察・消防）の職務執行の根拠となる各種法令（警察法、消防法等）について研究・理解し、説明することが出来る。 日々発生する公安職関連の各種事件・事故等について、事案発生時における社会の情勢や当該組織の動向等を理解し、自身の意見を説明することが出来る。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	研究課題のレポート等には、授業中にコメント、補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストな指定しません。 必要により資料を配布します。	ISBN	なし。
参考書	参考書は指定しません。 関連する資料については、必要により配布します。	ISBN	なし。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	必ず警察官、消防官になるという熱い思い、あえて厳しい道を目指すという強い意志を持ち続けることを大切にしてください。 私は、元警察官であり、消防官としての実務経験はありませんが、公安職公務員を目指すあなたたちと一緒に色々なことを研究し、共に学んでいきたいと考えています。 日頃から新聞記事やニュース報道を注視して、社会情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておいてください。 目標の実現に向けて何をすべきなのか、常に問題意識をもって、皆で励まし合いながら、頑張っていきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	授業の目的、授業概要の説明等、ガイダンスを行います。 秋学期の授業方針の説明を行い、各発表グループの再編成を行います。 また、授業の進め方についての意思統一を図ります。 各発表グループごとの研究テーマを選定します。 授業計画は、必要性や受講生の希望等によって変更することがあります。	【予習】シラバスを事前に読んでおく。授業概要やこの科目の受講にあたって自己がするべきことを理解しておく。 【復習】研究テーマに関する法令や制度等について自己研鑽する。	4 時間
第２回	対面	研究テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題について検討します。 テーマの選定理由について発表します。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第３回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担①」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第４回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第５回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担③」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第６回	対面	「研究テーマの中間発表準備と役割分担①」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第７回	対面	「研究テーマの中間発表準備と役割分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第８回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議①」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第９回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議②」を行います。	【予習】研究テーマに関する法令の条文や判例があれば調べておく。取り上げたテーマのどの部分に焦点をあてるか検討しておく。 【復習】研究テーマや焦点をあてる部分について再確認しておく。	4 時間
第１０回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備①」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分、内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておくこと。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備②」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分、内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるように	4 時間

			しておくこと。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておくこと。	
第１２回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備③」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分、内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておくこと。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	「研究結果の発表と全体討議①」を行います。	【予習】発表に関する部分の確認とリハーサルをしてくこと。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	「研究結果の発表と全体討議②」を行います。	【予習】発表に関する部分の確認とリハーサルをしてくこと。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	秋学期の振り返りと総括を行います。	【予習】秋学期の学修結果について、まとめをしておくこと。 【復習】秋学期の自身の学修結果について総括し、整理しておくこと。	4 時間

科目名	演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	上林　大	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法に基づく警察活動　　～犯罪捜査に求められるもの～		
授業の目的及び概要	警察活動（主として犯罪捜査）に対する基本的な心構えや法的手続きなどについて理解することを目的としています。 犯罪捜査は、他人の悪事を摘発する仕事であり、それだけに、捜査官には常に公正、誠実な態度が求められるほか、刑事訴訟法等に規定されている権限や手続きを遵守することが求められます。そのため、実際の犯罪現場における捜査の現状や捜査に必要な基礎的知識を修得し、適正な犯罪捜査について研究します。		
履修条件・留意点	学修効果の観点から、警察行政概論又は警察法令概論を履修しているか、一緒に履修することをつよく推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①捜査の端緒（捜査機関が犯罪を疑うきっかけとなる情報等）となるものは何か、それを元に犯罪捜査はどのように行われているかを理解し、説明することができる。 ②捜査を進める上でその根拠となる各種法令（刑事訴訟法等）について研究・理解し、説明することができる。 ③捜査手続きに関する適法性・違法性の判断基準（過去の判例に基づく）について理解し、自らの見解を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシート等での質疑や研究課題のレポートには、原則として次回授業で回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配布するとともに、ラーニングポータルにも掲載します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義　第４版､津田隆好、東京法令出版、2019 年４月 ②実例中心捜査法解説　第４版　－捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門－、幕田英雄、東京法令出版、2019 年４月 ③刑事訴訟法講義　第７版、池田修。前田雅英、東京大学出版会、2022 年７月	ISBN	① 9784809013959 ② 9784809013973 ③ 9784130323963

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講に	・法学部指定六法を必ず持参すること。

あたって	・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の私的使用は厳禁（演習課題の検討時に調べ物等をする際のみ使用を許可する）。違反者に対しては厳しく対応する。 ・治安情勢や警察事案に関するニュース・報道に関心を持ち、本講義内容と関連させて記事等の内容を見聞すること。 ・ある特定の犯罪が発生したとき、その被害者や関係者は勿論、広く国民からも捜査に対し大きな期待が寄せられる。そのため警察官は誰もが捜査官としての自覚と誇りを持ち、どのような事件に直面してもこれを適切に処理し、解決していくだけの捜査能力を身につける必要がある。本演習では、公安職を目指す学生が捜査官に求められる職務倫理や心構え、捜査に求められる法的知識や実務能力などを身につけた即戦力の人材となれるようサポートを図るものとする。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の目的、授業概要の説明等、ガイダンスを行います。 秋学期の授業方針の説明を行い、各発表グループを編成し、以降の授業の進め方について意思統一を図ります。 各発表グループごとの研究テーマを選定します。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第２回	対面	研究テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題について、検討を行います。 テーマ選定理由等について発表します。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第３回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第４回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第５回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担③」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明す	２時間

			る。これには１時間を要する。	
第６回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第７回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第８回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担③」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第９回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１０回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１１回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１２回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点	２時間

			があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	
第１３回	対面	「研究結果の発表と全体討議①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第１４回	対面	「研究結果の発表と全治討議②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第１５回	オンデマンド	秋学期の振り返りと総括を行います。	事前学修：レジュメ、六法と照らし合わせしながらレジュメやノートを確認し、春学期の各課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、コメントシート、メール等で教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：春学期に実施した演習班別の課題検討・発表及び教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、コメントシート、メール等で教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間

科目名	演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	大場　史朗	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	再審からはじめる刑事手続法入門（２）		
授業の目的及び概要	（目的） 2024 年 9 月 26 日、袴田巌さんに再審無罪判決が言い渡されました。戦後 5 例目の死刑確定者に対する再審無罪判決です。どうしてこのようなことが起こるのでしょうか、また、二度と起こさないようにするためにはどうすればよいのでしょうか。この演習では、「無辜（むこ）の不処罰」を体現する再審請求事件から学びつつ、わたしたちの社会を支えている刑事手続について考えていきます。関連して少年法についても学びます。 （概要） 受講生に刑事手続に関する論点につき報告してもらい、質疑応答・議論を行います。また、担当教員が適宜、議論の整理・解説を行います。グループで協力して発表してもらうこともあります。映画や動画教材等は刑事手続の流れ、論点などを理解する一助とし、刑事手続に関する理論的な検討を中心に授業を行います。合同ゼミや刑事模擬裁判を実施することがあります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）刑事手続の基本的な概念および全体像を理解し、説明することができる。 （２）刑事手続に関する精確な現状分析をすることができる。 （３）具体的事案に即して人権侵害の有無を判断できる能力を身につける。 （４）相手の意見を尊重し、それに対して自分の意見を言うことができる。 （５）チームワークを身に付けることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	Practical Studies 刑事訴訟：この事件を裁くのはあなたです，四宮啓ほか編著，成文堂，2024 年 『六法』（小型のもので可）を毎回持参のこと。	ISBN	978-4792354114
参考書	基本刑事訴訟法１－手続理解編，吉開多一ほか著，日本評論社，2020 年 そのほか必要に応じて授業内で紹介します。	ISBN	978-4535524194

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この演習では半期に必ず１～２回報告（発表）を担当し、別途レポート（刑事裁判傍聴レポートなど）も課すことがあるため、必ずしも「楽」な演習ではありません。また、報告準備には映画を視聴しテキスト等を熟読する必要があるため、一定の熱量と事前学習が必要です。もっ

	とも教員ができる限りサポートしますので心配は不要です。対面での対話の重要性を大切にしながら、みなさんと一緒に刑事法に関わる諸問題について積極的に意見交換し、楽しい演習にしたいと思っています。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 自己紹介、授業の進め方などのレクチャー。 ＊授業計画は柔軟に変更することがあります	【予習】担当教員が指示したテキスト等を通読してきてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第２回	対面	受講生による報告と議論（１）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第３回	対面	受講生による報告と議論（２）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第４回	対面	受講生による報告と議論（３）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第５回	対面	受講生による報告と議論（４）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第６回	対面	受講生による報告と議論（５）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第７回	対面	受講生による報告と議論（６）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第８回	対面	受講生による報告と議論（７）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第９回	対面	受講生による報告と議論（８）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１０回	対面	受講生による報告と議論（９）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１１回	対面	受講生による報告と議論（１０）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１２回	対面	受講生による報告と議論（１１）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１３回	対面	受講生による報告と議論（１２）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。	4 時間

			【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	
第１４回	対面	まとめ 半期のまとめと総括	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	法学部学生研究発表大会への出場または発表の聴講 法学部学生研究発表大会の発表を聴き、レポートを提出	【予習】聴講予定の研究テーマについて調べておくこと。 【復習】聴講後、不明な点は調べる等してレポートを提出すること。	4 時間

科目名	演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	西村　剛輝	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法総論の重要判例について理解を深める。		
授業の目的及び概要	本演習では、受講生が刑法総論の基礎的な内容を修得していることを前提に、刑法に関する判例および学説の発展的内容を扱います。具体的には、以下のようなことを考えております。佐伯仁志＝橋爪隆編『刑法判例百選Ⅰ総論〔第８版〕』(2020 年）に掲載されている判例の中から、重要なものをいくつか取り上げて、受講生全員で検討します。その際には、当該判例の判断構造を正確に読み解くことはもちろん、学説を参照することで当該判例の思想的背景にも深入りし、日本の刑事司法制度全体における当該判例の位置づけを明らかにすることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑法総論の重要判例の位置づけを把握することができる。 ・判例に対する学説からの評価を理解することができる。 ・以上の２点について、言葉によって説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	討議について、授業内で講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定教科書はありませんが、授業内で適宜、文献を案内します。	ISBN	なし。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	100
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
【教員からのメッセージ】 この授業では、毎授業で受講生に発言を求めます。毎授業前に、取り扱う判例やその評釈類（事前に指示します）を読んできてください。それを踏まえて、授業での発言に際しては、権威にとらわれない、大胆かつ自由な発想を期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【オリエンテーション】 ・春学期の内容を振り返ります。 ・演習の進め方を説明します。 ・取り上げる判例を決定します。	【事前学修】 ・刑法総論の内容のうち、興味・関心のある分野を考えてきてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間

第２回	対面	【判例研究①】 ・過失犯に関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第３回	対面	【判例研究①つづき】 ・第２回授業で取り上げた判例と関連する判例を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第４回	対面	【判例研究①つづき】 ・第２回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第５回	対面	【判例研究②】 ・原因において自由な行為に関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第６回	対面	【判例研究②つづき】 ・第５回授業で取り上げた判例と関連する判例を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第７回	対面	【判例研究②つづき】 ・第５回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第８回	対面	【判例研究③】 ・未遂犯に関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第９回	対面	【判例研究③つづき】 ・第８回授業で取り上げた判例と関連する判例を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第１０回	対面	【判例研究③つづき】 ・第８回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第１１回	対面	【判例研究④】 ・共犯論に関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第１２回	対面	【判例研究④つづき】 ・第 11 回授業で取り上げた判例と関連する判例を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第１３回	対面	【判例研究④つづき】 ・第 11 回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第１４回	対面	【判例研究④つづき】 ・第 11 回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	４時間
第１５回	オンデマンド	総まとめ ・今学期の学修内容について、総復習を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	４時間

科目名	演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	企業（会社・個人事業）に関わる法的問題を考える。		
授業の目的及び概要	私たちは、生きていくために働く。自分一人でモノ作りなどして働く者もいれば、プロスポーツ選手もいるし、自ら起業して人を雇う者、会社を立ち上げて経営する者、会社に就職して働く者、さまざまである。ただ、その周りには、必ず誰かが存在し、トラブルや法的問題が生じることが少なくない。 　大雑把にいえば、そのようなビジネスに関わる法的問題に関心を寄せ、それらを検討・分析・議論し、一定の結論に導き、それを報告することにより、今後の人生に活かすことができることを目的とする。 　演習は、受け身ではなく、自分で考え、疑問があれば質問し、自由に見解を述べることが最も重要であり、それこそが将来にも役立つ。 　演習の進め方は（１）ビジネスシーンで起こりうる事件を題材に、個人またはグループで検討し、報告する。 （２）報告者以外のメンバーも同じ題材を学修し、質疑やディスカッションを積極的に行う。 　演習の人数規模やメンバーの興味関心により、進め方は柔軟に変更する。		
履修条件・留意点	演習は、自分自身で学修することはもちろんのこと、他者の報告・発表を聞き、議論に参加することが重要である。 この点で、講義科目とは異なる。 したがって、欠席が多い場合、たとえ自分自身の報告等がきちんとされたとしても、 演習科目の目標到達点に達しないものと判断される場合があることに留意する必要がある。 原則として全部の演習に参加することが求められる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・積極的に自分の意見を述べることができる。 ・企業に関する基礎的な法的知識を獲得することができる。 ・報告資料の作成、プレゼンテーション能力を獲得することができる。 ・論理的・発展的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表・報告内容については、レジュメ等を含めて授業内において、修正・アドバイスを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。	ISBN	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	ゼミは、仲間とともに楽しく有意義な時間を過ごす素晴らしい機会です。ただ、ダラダラと楽しむのではなく、ゼミ生の皆さんが「自分自身を鍛える」ため、毎週決まった時間に集まる楽しい勉強会としたい。 メリハリをつけて一緒に頑張りましょう。 積極的・意欲的に楽しく学修しようと考える皆さんの参加をお待ちしています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、春学期の総括、授業の進め方・報告方法の説明、報告者の決定。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第２回	対面	判例の検索方法・レジュメの作成方法・報告方法の再確認。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第３回	対面	受講生による報告と議論（１）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第４回	対面	受講生による報告と議論（２）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第５回	対面	受講生による報告と議論（３）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第６回	対面	受講生による報告と議論（４）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第７回	対面	受講生による報告と議論（５）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第８回	対面	受講生による報告と議論（６）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第９回	対面	受講生による報告と議論（７）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１０回	対面	受講生による報告と議論（８）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１１回	対面	受講生による報告と議論（９）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１２回	対面	受講生による報告と議論（10）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授	4 時間

			業で得た知識等を確認すること。	
第１３回	対面	受講生による報告と議論（11）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１４回	対面	受講生による報告と議論（12）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	今年度の総括。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間

科目名	演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉川　貴代	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法律と地方自治体の政策形成		
授業の目的及び概要	法律が自治体の政策を変えるか、自治体がどのように政策を形成するのかを学びます。 地方自治体では法律や条例を適正に運用することが基本です。私たちが暮らす社会は日々変化するなかで、新たな課題が生じています。そこで、法律が制定あるいは改正されます。地方自治体では、それらに伴う対応として、条例制定・改廃、計画策定などを行い、地域の実情に応じた政策を展開しています。 授業では、日本社会で問題となっている「人口減少・少子高齢化」に関して、2023 年 4 月に施行された「こども基本法」等を題材に、法律の内容、制定された背景、地方自治体での政策形成の実際を学びます。また、その前提として、「少子高齢化・人口減少」の現状を統計資料から読み解きます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・文献や資料を読み解き、レポートを書き、発表することができる。 ・発表等を聞いて質問でき、また、質問に答えることができる。 ・法律が、自治体の政策形成につながるということを学ぶ。 ・ゲストスピーカー（実務家）の話を直接聞くことで、地方自治体における政策形成と実践を学ぶことができる。 ・フィールドワークでは、自治体の現場を見て、職員の話を聴くことができるので、公務員の仕事を理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表等については授業中に講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特定の教科書は使用せず、資料等は授業で紹介します。	ISBN	なし
参考書	①『改訂版　これからの地方自治の教科書』大森彌・大杉覚著、第一法規、2021 年 ②『公務員という仕事』村木厚子著、ちくまプリマー新書、2020 年 ③『地方消滅２　加速する少子化と新たな人口ビジョン』人口戦略会議編著、中公新書、2024 年 ④『＜共働き・共育て＞世代の本音　新しいキャリア観が社会を変える』本道敦子・山谷真名・和田みゆき著、光文社新書、2024 年 ⑤『未婚と少子化　この国で子どもを産みにくい理由』筒井淳也著、PHP 新書、2023 年	ISBN	①978-4-474-07699-0 ②978-4-480-68376-2 ③978-4-12-102830-3 ④978-4-334-10249-4 ⑤978-4-569-85616-2

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・教員は基礎自治体の行政職の実務経験があります。 ・公務員の仕事、地方自治体の政策形成と実践に興味がある学生の履修を期待しています。教員の自治体での実務経験も交えて、授業を進めます。少子高齢化という身近な問題を通じて、法律と自治体の政策形成を学べます。 ・授業は原則出席です。ゼミに積極的に参加することを期待しています。授業中は、授業に関係のないスマートフォンの使用は禁止します。 ・フィールドワークは、訪問先の都合により変更する場合があります。 ・文献や資料を読み、発表やレポート作成は大変ですが、表現力や文章力の向上につながります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	秋学期の進め方	【予習】事前に掲載する資料を一読すること。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第２回	対面	フィールドワークの準備 市町村こども家庭センターや認定こども園等について（講義、グループディスカッション）	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第３回	対面	フィールドワーク１（市町村こども家庭センター）現地を訪問し、講義を受ける。	【予習】訪問先についてホームページで確認し、聞きたいことをまとめておくこと。(2 時間) 【復習】使用した資料を使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第４回	対面	フィールドワークの振り返り （グループディスカッション、小論文）	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第５回	対面	自治体先進事例から政策形成を学ぶ１ （首長部局における子どものいじめ防止対策） ゲストスピーカーによる講義 グループディスカッション	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第６回	対面	自治体先進事例から政策形成を学ぶ２ （子どもの居場所づくり） ゲストスピーカーによる講義 グループディスカッション	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第７回	対面	自治体先進事例から政策形成を学ぶ３ （子どもの人権、子どもの意見反映） ゲストスピーカーによる講義 グループディスカッション	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第８回	対面	自治体先進事例から政策形成を学ぶ４ （保育政策） 講義、グループディスカッション	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2 時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第９回	対面	フィールドワーク２ （認定こども園等） 自治体における保育政策の実践の場を訪問し、 政策がどのように展開されているのか、 行政職と専門職の連携などを学ぶ。	【予習】訪問先についてホームページで確認し、聞きたいことをまとめておくこと。(2 時間) 【復習】使用した資料を使って復習すること。(2 時間)	4 時間
第１０回	対面	フィールドワーク２の振り返り （グループディスカッション、小論文）	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2 時間)	4 時間

			【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。（2時間）	
第１１回	対面	自治体こども政策プレゼンテーション１ これまでの学習内容をふまえ、今後、必要な取り組みについての提案を行う。	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2時間)	4時間
第１２回	対面	自治体こども政策プレゼンテーション２ これまでの学習内容をふまえ、今後、必要な取り組みについての提案を行う。	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2時間)	4時間
第１３回	対面	自治体こども政策プレゼンテーション３ これまでの学習内容をふまえ、今後、必要な取り組みについての提案を行う。	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2時間)	4時間
第１４回	対面	自治体こども政策についての討論 グループディスカッション	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2時間)	4時間
第１５回	オンデマンド	秋学期のまとめ	【予習】事前に掲載された資料を一読すること。(2時間) 【復習】授業で使用した資料を使って復習すること。(2時間)	4時間

科目名	演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中久保　寛幸	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	犯罪捜査と法　～犯罪捜査における判断基準と実務手続き～		
授業の目的及び概要	犯罪捜査の実情とその法手続きについて理解することを目的としています。 刑事訴訟法の第２編「第一審」第１章「捜査」（第 189 条～第 246 条）や犯罪捜査規範（国家公安委員会規則）を中心とした研究をグループで行います。 捜査機関における犯罪の認知、捜査の実行、送致、事件処理などの一連の流れに関し、各グループにおいて研究テーマを設定し、犯罪捜査の現状やそれに必要な基礎的知識、適法判例・違法判例等を調査研究し、犯罪に対してとるべき各種の捜査手続きや捜査手法についての限界や適法性等についての研究発表を行います。		
履修条件・留意点	原則として、演習ＩＡの本クラス履修生とします。 学生研究発表大会への出場を推奨し、出場者については加点対象とします。 警察行政概論、警察法令概論、刑法各論Ⅰの科目履修を推奨します。 公務員特別演習ＩＡ・Ｂの履修を強く推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①犯罪捜査がどのような規定に基づき、どのように行われているのかを理解し、説明することができる。 ②捜査手続きに関する適法事例、違法事例の詳細について研究・理解し、説明することができる。 ③日常発生する事件に対する警察捜査の適法性について、自らの意見を法的根拠や判例に基づいて説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義　第４版，津田隆好，東京法令出版，2019 年４月 ②実例中心捜査法解説　第４版　－捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門－，幕田英雄，東京法令出版，2019 年 4 月 ③刑事訴訟法講義　第 7 版，池田修・前田雅英，東京大学出版会，2022 年 7 月	ISBN	① 9784809013959 ② 9784809013973 ③9784130323963

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	30
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	10
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	「捜査」というと「刑事がやるもの」と認識している学生が多いかも知れませんが、警察官となり交番に配属された段階から、また刑事だけではなく生活安全、交通、警備などの部門に配属されても「捜査」は必要とされます。また、警察以外の海上保安官、入国警備官、自衛隊の警務官などの公安職においても、刑事訴訟法に規定された特別司法警察職員として捜査に従事しなければなりません。公安職を目指す学生が即戦力としての人材になるためには、実際の犯罪捜査の基礎を学び、自ら進んで考えることにより、判断力・行動力を身に付けることが最も重要です。本演習は、そのような学生に非常に有益だと思います。私のこれまでの経験を活かし、犯罪捜査の実務で要求される知識・技能などを伝えたいと考えています。 　オンデマンド授業(学生研究発表大会出場等)については、学年歴等により実施回を変更する場合があります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	秋学期の授業方針の説明を行い、発表グループの再編成を行います。 各グループごとの研究テーマについて討議・選定を行い、選定したテーマと選定理由を発表します。	【予習】春学期の総括を元に秋学期の取組みについてまとめておく。関心のある過去の事件・判例について調べておく。 【復習】研究課題に関する関係法令、判例等について見直しておく。	4 時間
第２回	対面	争点等の絞り込み、課題の調査等を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第３回	対面	「調査・研究の分担、各調査・研究の実施と各資料の作成①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第４回	対面	「調査・研究の分担、各調査・研究の実施と各資料の作成②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第５回	対面	「研究テーマの中間発表」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	4 時間
第６回	対面	「各調査・研究の実施と各資料の作成・修正①」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第７回	対面	「各調査・研究の実施と各資料の作成・修正②」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第８回	対面	「最終発表(リハーサル)①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	4 時間
第９回	対面	「最終発表(リハーサル)②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。	4 時間

			【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	
第１０回	オンデマンド	研究結果の発表 「学生研究発表大会」出場	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	4 時間
第１１回	対面	「研究結果の振り返り①」を行います。 次年度の演習募集に関する説明等を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第１２回	対面	「研究結果の振り返り②」を行います。 研究発表大会に出場しなかったグループの最終発表を行います。 次年度の演習募集に関する説明等を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第１３回	対面	「研究結果のまとめ①」を行います。 次年度の演習募集に関する登録等を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第１４回	対面	「研究結果のまとめ②」を行います。 期末試験対策を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第１５回	対面	秋学期の振り返りと総括を行います。	【予習】秋学期の自身の学修結果について、発表できるようにまとめをしておく。 【復習】秋学期の自身の学修結果に関して総括をしておく。	4 時間

科目名	演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石尾　賢二	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法家族法の基礎		
授業の目的及び概要	民法の法律問題の中で基礎的な問題を学ぶ。分野は家族法を中心とする。 家族法分野における重要な判例を取り上げ、事実関係を分析し、問題点を明らかにし、裁判所の判断を検討する。 授業において各担当者が個々の判決について検討・報告し、その後、全員で議論する。 集団での討論によって問題解決を図ることを目的とし、報告者の適切な問題提起と報告を受けた者の適切に意見表明の促進を意図する。 これらのことを通して様々に部門での自主的な問題解決能力が促進されることを企図する。自主的な勉学は各種試験のためにも役立つものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 家族法に関する基本的な事項について理解し、判断することができる。 2. 家族法に関する事例において、事案を正確に把握し、問題点を整理し、裁判所の判断を的確に説明できる。 3. 報告者は検討したことを授業で適切に報告することができる。 4. 報告者以外の者は報告に対して適切に自分の意見を述べることができる。 5. 各人の意見表明を受けて適切な結論を導く方法を探求する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員は報告者のレジュメについての事前に質疑を受け、事後に意見を述べ。授業での議論について意見を述べる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①民法判例百選 III　親族・相続〔第 3 版〕，大村 敦志 、沖野 眞已 編，有斐閣，2023 年	ISBN	①978-4641115644
参考書	事前に指示した判例について検討するために、各種判例集(民集、判例時報、判例タイムズ)、判例百選が有用である。これらはデータベースでも利用できる。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	
	民法に関心があり、積極的に参加することを希望します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	ガイダンス 自己紹介から始めます。 その後、ゼミの方法を説明し、判例百選の中から 1 回目の予習復習に係れている判決を紹介し(別のテーマを選んでもよい)、各人の担当を決定する。 1 回目のゼミでその後の内容が決定される。	嫡出性を付与婚姻の効力、夫婦日常家事代理権、夫と通じた者への慰謝料請求権、離婚原因・精神病、有責配偶者の離婚請求、財産分与と詐害行為取消範囲、婚約の成立、婚姻外男女関係の解消と不法行為、遺族給付の重婚的内縁配偶者への帰属、推定の及ばない嫡出子、親子関係不存在確認請求、虚偽の嫡出子出生届等と認知の効力、認知無効と養子縁組の成否、嫡出子として届出した者の代諾養子縁組の効力、特別養子の要件、子の引渡請求と拘束の顕著な違法性、遺産分割と利益相反行為、児童相談所長の親権喪失の宣告、相続放棄と後見人の利益相反行為、父母の養育費支払合意と子の扶養料請求、寄与分と遺留分の関係、共同相続人間の相続回復請求、遺産分割協議と詐害行為取消権、遺産分割後の負担不履行解除、相続と登記、限定承認相続人の死因贈与取得、受遺者選定委託遺言の効力、相続債務の際の遺留分侵害額算定方法、１０３４条の目的の価額、減殺の順序等	4 時間
第２回	対面	２回目の授業はまず教員が報告し、全員で議論を実施する。テーマは前回示したものの中の余ったものの中の一つになる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第３回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第４回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第５回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第６回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第７回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第８回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第９回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１０回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１１回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間

第１２回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１３回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１４回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１５回	オンデマンド	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間

科目名	演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	平阪　美穂	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	地域の子ども・若者・教育政策について考える（２）		
授業の目的及び概要	教育は学校だけで行われているわけではありません。子どものよりよい育ちのためには、コミュニティ全体で総合的に子どもやその家庭を支えていくことが必要であるという立場から、主に子ども、青少年を中心とした教育政策、地域政策、子ども政策について考えていきます。問題のよりよい解決方法を考える際に、諸外国の事例を参考にすることもあります。 これらの学びを通して、社会や地域の課題について分析、理解し、解決策を模索する力を高めることを目的としています。そして、社会における諸課題から、法律の意義について考えます。 授業では、グループで課題を見つけ、調査し、発表を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・ 課題を多角的にとらえ、理解し、よりよい解決策を導こうとすることができる。 ・ テーマに沿った適切な資料を収集でき、また資料の善し悪しを判断できる。 ・ 資料を適切にまとめ、発表することができる。 ・ テーマに沿って適切な質問をすること、質問に適切に対応することができる。 ・教育、子ども、若者等の現状から、その問題に関係する法律について考えることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しません。授業中に適宜紹介します。	ISBN	なし
参考書	教育法規スタートアップ・ネクスト　ver.2.0 ，　高見　茂 開沼　太郎 宮村　裕子 編，　昭和堂，2023	ISBN	9784812222256

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・授業業は出席が原則です。欠席する場合は事前に連絡をしてください。授業では発表や議論、レポートに積極的に取り組んでもらいたいと考えています。 ・ 法律に直接向き合う演習ではありませんが、子どもや教育に関する問題を中心に取り上げ、その背景にある社会の状況、制度についてじっくりと考えることを通して、法学の学びにつなげてもらえればと考えています

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	オリエンテーション	【予習】近年の教育、若者、子どもの問題、課題につ	4 時間

			いて考える。 【復習】自らが関心のある教育、若者、子どもの課題について調べてみる。	
第２回	対面	発表の方法、レジュメの作成について	【復習】配布された資料をよく読んで理解する。	4 時間
第３回	対面	資料の収集について	【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。自らの発表に必要な資料を収集する。	4 時間
第４回	対面	資料の引用について	【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。適切に書誌情報が書けるように練習する。	4 時間
第５回	対面	発表資料の作成	【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。発表資料を作成する。	4 時間
第６回	対面	受講生による報告と議論（１）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第７回	対面	受講生による報告と議論（２）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第８回	対面	受講生による報告と議論（３）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第９回	対面	受講生による報告と議論（４）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第１０回	対面	受講生による報告と議論（５）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第１１回	対面	受講生による報告と議論（６）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第１２回	対面	受講生による報告と議論（７）	【予習】担当教員が指示したテキスト等の該当部分を読んでくる。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。	4 時間
第１３回	対面	レポートの作成	レポートを作成する。	4 時間
第１４回	対面	まとめ	【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認する。レポートをよりよいものにする。	4 時間
第１５回	オンデマンド	研究発表大会への参加	研究発表大会に参加・出席し、レポートを作成する。	4 時間

科目名	演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	手嶋　豊	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法・財産法分野における問題演習を行う。		
授業の目的及び概要	民法債権法（総論・各論）に関して、当該領域を学ぶ者にとって重要かつ基本的知識としてもっていることが必要と思われる論点を選んで設問を設定して論文作成を行い、民法・財産法の理解・知識を確かなものにすることを目的とする。		
履修条件・留意点	民法・財産法は、全体を俯瞰することで理解が進む側面がある。可能な限り早く、民法全体を学ぶことをお勧めするが、本演習はその助けとなりうるものである。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・民法債権法に関する基礎知識を確かなものとすること。 ・民法債権法領域について、典型的な、あるいは特有の紛争事例を知り、それらの知識を通じて、新たな問題への解決の指針を示すことができるようになること。 ・演習を通じて、共同報告や質疑応答を実施できる、実践的な経験を得ること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・報告・レジュメに対する講評・アドバイスを演習中に行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	該当しない
参考書	指定しない。	ISBN	該当しない。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	法科大学院入学試験準備のために、積極的に民法を学ぼうという意欲のある皆さんの参加を期待している。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	演習全体のオリエンテーション。演習の進め方、自己紹介、担当判決の割当て、到達目標等についてのガイダンス。	事前学修：民法債権法について、総復習をしておく。3 時間。 事後学修：民法債権法について、総復習をしておく。1 時間。	4 時間
第２回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間

第３回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第４回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第５回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第６回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第７回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第８回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第９回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１０回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１１回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１２回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１３回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間 事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１４回	対面	第一回目に割り当てられた報告者が解答案を作成し、報告する。それをもとに参加	事前学修：当日に取り上げられる設問を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間	4 時間

		者全員で議論して当該設問の論点についての理解を深める。	事後学修：報告・検討された設問を再度読み返し、扱われた論点の位置づけについて確認しておく。3 時間。	
第１５回	オンデマンド	これまで取り上げられた論点を振り返り、民法債権法に関する知識を確かなものとする。	これまで取り上げられた論点を概観しておく。３時間。 　これまで取り上げられた論点を再復習する。１時間。	4 時間

科目名	演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	古田　隆	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	現場で必要な行政法を学んで、法律を使いこなす公務員を目指す		
授業の目的及び概要	実務上重要な行政法の裁判例の検討などにより、行政の現場において必要とされる事項に重点を置いて掘り下げていきたい。 報告担当者が、裁判例の内容やそこで争われた論点等について報告し、全員でそれを討論する。 事件そのものだけでなく、関連する政策課題なども議論したい。 メンバーの興味関心により、進め方は変更することがある。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・他の者の見解等を十分に聴き、検討し、意見を述べるようになること。 ・裁判例や文献などを読解する能力を得ること。 ・報告資料の作成、プレゼンテーション能力を得ること。 ・論理的な思考を身につけること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告やレジュメの内容に対するアドバイス等を演習中に行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、指定都市職員として 39 年間勤務し、部長級まで務め、条例等審査、不服審査、訴訟などの自治体法務に通算 24 年携わったほか、行財政改善、社会福祉法人の監査等の分野において政策形成に関与した。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	－
参考書	特に指定しない。	ISBN	－

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・授業は原則出席すること。積極的に参加することを期待している。 ・担当教員は、地方公共団体（指定都市）に 39 年間勤務し、そのうち通算 24 年間法務（条例等の審査、行政不服申立て、訴訟等）を担当したほか、コンプライアンス、法人監査等も担当した。こうした実務経験も交えて授業を進めるので、公務員の仕事や、法務を通じた政策実現などに興味がある学生の履修を期待する。 ・文献を調べたり読んだり、発表を行うことなどは楽ではないが、公務員等になるには必要なスキルである。楽しみながら取り組もう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	演習全体のオリエンテーション。演習の進	【事前学修】行政法全般にわたって書籍で予習をし	4 時間

		め方、担当裁判例の割当て等についてのガイダンスを行う。	ておく。（２時間） 【事後学修】報告対象の内容を検討する。（２時間）	
第２回	対面	報告担当者による報告と議論（１）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第３回	対面	報告担当者による報告と議論（２）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第４回	対面	報告担当者による報告と議論（３）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第５回	対面	報告担当者による報告と議論（４）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第６回	対面	報告担当者による報告と議論（５）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第７回	対面	報告担当者による報告と議論（６）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第８回	対面	報告担当者による報告と議論（７）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第９回	対面	報告担当者による報告と議論（８）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１０回	対面	報告担当者による報告と議論（９）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１１回	対面	報告担当者による報告と議論（10）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１２回	対面	報告担当者による報告と議論（11）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１３回	対面	報告担当者による報告と議論（12）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１４回	対面	報告担当者による報告と議論（13）	【事前学修】報告に係る資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】レジュメ、資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１５回	オンデマンド	秋学期のまとめ	【事前学修】全ての資料等に目を通しておく。（２時間） 【事後学修】全ての資料等を読み直し、得た知識等を	４時間

			確認する。（２時間）	

科目名	演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉原　裕樹	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法判例研究		
授業の目的及び概要	秋学期は、双方向・多方向型にて、憲法に関する判例研究を行う。 毎回、担当教員が事前に判例を指定し、受講生全員があらかじめその判例について予習してきたうえで、授業時には、担当教員が受講生を指名して、判例の内容等について質問する（双方向・多方向型）。これにより、判例の理解を深める。		
履修条件・留意点	秋学期に開催される予定の法学部学生研究発表大会に自ら出場するか、あるいは、他の学生による発表を傍聴したうえで、その感想を提出する必要がある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主要な憲法判例について理解している。【ＤＰ１】【ＤＰ２】 そのうえで、理解した内容を的確に口頭で説明し、他者と討議することができる。【ＤＰ３】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向・多方向型のやりとりにより、憲法判例に関する受講生の理解を確認する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しない。	ISBN	テキストは使用しない。
参考書	①憲法判例（第９版），戸松秀典ほか編著，有斐閣，2025 年 ②憲法判例百選１・２（第８版），長谷部恭男ほか編，有斐閣，2025 年 ③憲法（第３版），渋谷秀樹，有斐閣，2017 年 ④憲法（第８版），辻村みよ子，日本評論社，2025 年 ⑤日本国憲法論（第２版），佐藤幸治，成文堂，2020 年	ISBN	①9784641228894 ②9784641213449　， 9784641213456 ③9784641227231 ④9784535529038 ⑤9784792306724

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	95
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	5
その他の内容	0

この科目の受講にあたって
毎回、担当教員が事前に指定した判例を、十分に予習する必要がある。 判例の予習にあたっては、①事案の概要、②憲法解釈上の争点、③当該争点に関する裁判所の判断、を意識することが重要である。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。取り扱う判例については、事前に指定する（第２回以降も同じ）。	4 時間
第２回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第３回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第４回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第５回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第６回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第７回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第８回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第９回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１０回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１１回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１２回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１３回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１４回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括と課題の指摘 これまでの授業内容を振り返り、今後の学修に向けた課題を指摘する。	これまでの内容を復習する。	4 時間

科目名	演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	兪　珏根	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	労働問題や労働現場の実態について判例を検討する。		
授業の目的及び概要	労働法は労働者の一生，企業の存立に関わる問題で具体的な利害関係に対して実際に生じた争いを解決する実定法であります。法解釈は社会情勢と密接に関連してありますので労働法を学ぶには具体的事例の検討が重要だと思います。演習では、労働契約法、労働基準法など個別的労働関係を題材として、重要判例を「労働判例百選」などを中心に，実際の労働現場でどのような利益対立があり，それに対して労働法がどのように解釈されて結論が導かれたのか等々，演習を通じて皆さんと討論しながら理解を深めたいと思います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	基本的な労働判例における利害関係，争点，具体的処理とその妥当性の検討等を通じて実務演習における応用を学ぶことができます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告のやり方やレジュメ作成については、初回及び 2 回の授業で指導します。重要判例についてテーマを決め、演習授業の前に事案の概要，争点，事実認定、判断根拠，判定理由順に発表してもらい、その後，担当教授のコメント、学生たちの質疑応答の時間をとり結論を出します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	荒木尚志・奥田香子『ケースブック労働法第 4 版』有斐閣 2019 年 村中孝史・荒木尚志『労働判例百選　第 10 版』有斐閣 2022 年	ISBN	9784641144743 9784641115576C9432
参考書	野田進外多数『判例労働法入門第 7 版』有斐閣 2021 年	ISBN	9784641243477

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	50
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・法学部指定六法を持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器の使用は厳禁。 ・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。 ・演習は労働法を題材に、労働問題の解決能力を修得し、法理論と関連事例などの多様なテーマについて討論を楽しみながら勉強する。 ・雇用関係と労使関係に対する探究は将来的に就労活動にも対応できるような知識になる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	ガイダンス・自己紹介、発表担当者を決める。	【予習】シラバシを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直す。	4 時間
第２回	対面	主題：山梨県民信用組合事件 - 労働契約の変更	【予習】山梨県民信用組合事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第３回	対面	主題：秋田バス事件 - 労働契約の変更	【予習】秋田バス事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第４回	対面	主題：スナック事件 - 人事考課	【予習】山スナック事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第５回	対面	主題：東亜ペイント事件 - 配転	【予習】東亜ペイント事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第６回	対面	主題：新日本製鐵事件 - 出向命令権	【予習】新日本製鐵事件に対して確認する。シラバシを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第７回	対面	主題：三和機材事件 - 転籍	【予習】三和機材事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第８回	対面	主題:コナミデジタルエンタテインメント事件 - 育児介護休業	【予習】山コナミデジタルエンタテインメント事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第９回	対面	主題：日本ヒューレット・パッカード事件 - 病気休職	【予習】山日本ヒューレット・パッカード事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１０回	対面	主題：全日本空輸事件 - 懲戒権	【予習】山全日本空輸事件に対して確認する。シラバシを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１１回	対面	主題：オリエンタルモーター事件 - 組合活動の正当性	【予習】山オリエンタルモーター事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１２回	対面	主題：日産自動車事件 - 複数組合の中立性	【予習】日産自動車事件シ山梨県民信用組合事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１３回	対面	主題：ノースウィスト航空事件 - 争議行為と賃金	【予習】山梨県民信用組合事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１４回	対面	主題：平尾事件 - 労働協約の効力	【予習】平尾事件山梨県民信用組合事件に対して確認する。 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括まとめ	総合的に整理する。	4 時間

科目名	演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	孟　慶廉	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法判例の分析と関連制度の研究		
授業の目的及び概要	本演習では、民法財産法分野における重要判例を素材として、判例の理解と民法制度の体系的理解を深めることを目的とする。 授業では主として『民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第 9 版〕』に掲載された判例を取り上げる。各回の担当者は、判例の分析だけでなく、当該判例に関連する民法制度の概要についても説明を行う。 具体的には、①関連する民法制度の説明（条文・制度趣旨）②判例の事実関係③争点の整理④裁判所の判断（判旨）⑤判例の意義・評価を整理して報告する。 その後、参加者全員で討論を行い、判例の意義および制度の理解を深める。 このような判例研究を通じて、民法の基本的理解を深めるとともに、法的思考能力、問題分析能力、および論理的説明能力の向上を目指す。		
履修条件・留意点	本演習を履修するにあたり、民法財産法の全分野について基礎的な知識を有していることが望ましい。特に民法総則および物権に関する基本的事項について理解していることが期待される。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①民法財産法に関する基本制度を理解することができる。 ②判例の事実関係を正確に把握し、法律問題を整理することができる。 ③裁判所の判断を論理的に説明することができる。 ④判例の意義について自らの意見を形成し、他者と議論することができる。 ⑤レジュメ作成および口頭報告を通じて、法的議論を適切に表現する能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員は、報告者のレジュメについて事前に質問や相談を受け付け、必要に応じて助言を行う。 発表後には、報告内容および授業での議論について講評を行い、理解を深めるためのコメントを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	民法判例百選Ⅰ 総則・物権〔第 9 版〕，潮見佳男・道垣内 弘人編，有斐閣，2023 年	ISBN	978-4641115620
参考書	必要に応じて以下を参照する。 ①最高裁判所民事判例集 ②判例時報 ③判例タイムズ ④各種判例データベース ⑤民法に関する基本書・判例解説書	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	取り上げる判例については、『民法判例百選Ⅰ（総則・物権）〔第 9 版〕』に掲載された判例の中から選定する。 具体的には、意思表示（錯誤）、表見代理、代理権濫用、民法 94 条 2 項の類推適用、物権変動と民法 177 条、即時取得、共有など、民法総則および物権に関する重要判例を素材として検討する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス ゼミの目的および進め方の説明を行う。自己紹介の後、取り上げる判例の概要を紹介し、担当者を決定する。	今後取り上げる予定の判例について、『民法判例百選』を参照し、事前に一通り目を通しておくこと。	4 時間
第２回	対面	教員によるモデル報告 判例研究の方法およびレジュメ作成の方法を示すため、教員が判例についてモデル報告を行う。その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	4 時間
第３回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	4 時間
第４回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	4 時間
第５回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	4 時間
第６回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	4 時間
第７回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	4 時間
第８回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、	4 時間

		論を行う。	自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	
第９回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	４時間
第１０回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	４時間
第１１回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	４時間
第１２回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	４時間
第１３回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	４時間
第１４回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	４時間
第１５回	オンデマンド	総括 これまで扱った判例を整理し、民法制度の理解を総括する。	事前にこれまで扱った判例および関連制度について整理しておくこと。 事後には授業での総括的議論を踏まえ、判例および関連制度の理解を体系的に整理すること。	４時間

科目名	演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	杉本　拓海	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	色々な刑法を学ぼう		
授業の目的及び概要	【目的】 なんとなくダラダラ過ごしても、一生懸命に打ち込んでも、大学生活なんてあっという間に過ぎていきます。大学生活ってチュートリアルみたいなものだと思います。教員が補助して導いてくれるし、本気で挑戦して失敗しても怒られない。ただ、チュートリアルで獲得した能力は本編（社会人）に引き継がれるし、人生はオートセーブでリセットも不可なので、ダラダラと過ごしてスキップしちゃうのは後々を考えると怖いな、とも思います。大学生活が、人生で一番能力を伸ばすことができる期間です。 なので、この演習では特別刑法に本気で取り組むことを通して、基礎的な能力を向上させたいと思います。具体的には、刑事法の基本的理解の獲得に加え、論理的思考力、調査能力、読解能力、報告・伝達能力（いわゆるコミュニケーション能力）、突破力といった今後の人生で必要となる基本的な能力を涵養することを目的とします。 【概要】 刑法には、刑法典に定められる教義の刑法のほかにも、さまざまな法律において定められる特別刑法があります。本演習では、特別刑法、中でも医事刑法と経済刑法の基本的事項と重要判例について、２年かけて学ぶことで、現代社会を取り巻くさまざまな刑法の一定の理解をめざします。 特別刑法については、誰しもが初学者であるため、基本的な考え方を適宜レクチャーしながら進めていきます。 刑法については、近年の重要判例解説（重判）に掲載されている判例についての報告をしてもらいます。 4 年生における演習Ⅲにおいては、卒業論文を提出してもらいます。 【その他】 楽しくて良い雰囲気ゼミにしたいと思います。		
履修条件・留意点	・適宜皆さんの希望に沿って変更を加えることがあります。 ・刑法総論、刑法各論の知識が必要となります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑事法の体系的理解を獲得する ・刑事法を学問として探求するための基礎力を身につける ・事案を分析し、判例の射程を検討する能力を身につける ・他者と共同し、報告を遂行する能力を身につける ・調査・報告・討論といった、研究のための基礎的能力を獲得する 【ＤＰ１】【ＤＰ２】【ＤＰ３】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に口頭でのフィードバックを実施します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは特に指定しませんが、刑法の基本書を各自準備してください。 経済刑法と医事刑法の参考書については、演習の中で適宜紹介します。 最新版の六法は毎回必ず持参してください	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	50
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・4 年次に卒業論文を執筆してもらいます。卒論のテーマを早い段階から意識しておいてください ・報告者ではない人も、事前にレジュメや判例等の資料を熟読して臨んでください ・毎週の楽しみになるようなゼミにしていきましょう！ ・本気で取り組むと少ししんどいかもしれませんが、その分突破したときのやりがいと成長がありますので、がんばりましょう。大切なのは意地と根性です。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【ガイダンス】 自己紹介、今後の進め方の相談・確認 各回の報告の担当者の決定	刑法を一通り復習しておいてください。	4 時間
第２回	対面	【次回以降の報告の準備】 今後の授業進行のための基本的な事項の確認・個別対応など	授業時間中に確認・相談したことをもとに、各自でも準備を進めておいてください。	4 時間
第３回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第４回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第５回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第６回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第７回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間

第８回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第９回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１０回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１１回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１２回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１３回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１４回	オンデマンド	【振り返り】 内容面についての振り返りを行い、適宜解説を加えます	【予習】 テキストの中で、苦戦した部分について読み返しておいてください。 【復習】 授業内容を復習し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第１５回	対面	【まとめと総括】 演習・報告を振り返り、修得した内容について議論します。	【復習】 テキスト及び報告レジュメを見返し、知識の定着を図ってください。	4 時間

科目名	演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	上林　大	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法に基づく警察活動　　～犯罪捜査に求められるもの～		
授業の目的及び概要	警察活動（主として犯罪捜査）に対する基本的な心構えや法的手続きなどについて理解することを目的としています。 犯罪捜査は、他人の悪事を摘発する仕事であり、それだけに、捜査官には常に公正、誠実な態度が求められるほか、刑事訴訟法等に規定されている権限や手続きを遵守することが求められます。そのため、実際の犯罪現場における捜査の現状や捜査に必要な基礎的知識を修得し、適正な犯罪捜査について研究します。		
履修条件・留意点	学修効果の観点から、警察行政概論又は警察法令概論を履修しているか、一緒に履修することをつよく推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①捜査の端緒（捜査機関が犯罪を疑うきっかけとなる情報等）となるものは何か、それを元に犯罪捜査はどのように行われているかを理解し、説明することができる。 ②捜査を進める上でその根拠となる各種法令（刑事訴訟法等）について研究・理解し、説明することができる。 ③捜査手続きに関する適法性・違法性の判断基準（過去の判例に基づく）について理解し、自らの見解を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシート等での質疑や研究課題のレポートには、原則として次回授業で回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配付します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義　第４版、津田隆好、東京法令出版、2019 年４月 ②実例中心捜査法解説　第４版　－捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門－、幕田英雄、東京法令出版、2019 年４月 ③刑事訴訟法講義　第７版、池田修。前田雅英、東京大学出版会、2022 年７月	ISBN	① 9784809013959 ② 9784809013973 ③ 9784130323963

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・法学部指定六法を必ず持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の私的使用は厳禁（演習課題の検討時に

	調べ物等をする際のみ使用を許可する)。違反者に対しては厳しく対応する。 ・治安情勢や警察事案に関するニュース・報道に関心を持ち、本講義内容と関連させて記事等の内容を見聞すること。 ・ある特定の犯罪が発生したとき、その被害者や関係者は勿論、広く国民からも捜査に対し大きな期待が寄せられる。そのため警察官は誰もが捜査官としての自覚と誇りを持ち、どのような事件に直面してもこれを適切に処理し、解決していくだけの捜査能力を身につける必要がある。本演習では、公安職を目指す学生が捜査官に求められる職務倫理や心構え、捜査に求められる法的知識や実務能力などを身につけた即戦力の人材となれるようサポートを図るものとする。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の目的、授業概要の説明等、ガイダンスを行います。 春学期の授業方針の説明を行い、各発表グループを編成し、以降の授業の進め方について意思統一を図ります。 各発表グループごとの研究テーマを選定します。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第２回	対面	研究テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題について、検討を行います。 テーマ選定理由等について発表します。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第３回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第４回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第５回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担③」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間

第６回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第７回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第８回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担③」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第９回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１０回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１１回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１２回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには	２時間

			１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	
第１３回	対面	「研究結果の発表と全体討議①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第１４回	対面	「研究結果の発表と全治討議②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の振り返りと総括を行います。	前学修：レジュメ、六法と照らし合わせしながらレジュメやノートを確認し、春学期の各課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、コメントシート、メール等で教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：春学期に実施した演習班別の課題検討・発表及び教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、コメントシート、メール等で教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間

科目名	演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	企業（会社・個人事業）に関わる法的問題を考える。		
授業の目的及び概要	私たちは、生きていくために働く。自分一人でモノ作りなどして働く者もいれば、プロスポーツ選手もいるし、自ら起業して人を雇う者、会社を立ち上げて経営する者、会社に就職して働く者、さまざまである。ただ、その周りには、必ず誰かが存在し、トラブルや法的問題が生じることが少なくない。 　大雑把にいえば、そのようなビジネスに関わる法的問題に関心を寄せ、それらを検討・分析・議論し、一定の結論に導き、それを報告することにより、今後の人生に活かすことができることを目的とする。 　演習は、受け身ではなく、自分で考え、疑問があれば質問し、自由に見解を述べることが最も重要であり、それこそが将来にも役立つ。 　演習の進め方は（１）ビジネスシーンで起こりうる事件を題材に、個人またはグループで検討し、報告する。 （２）報告者以外のメンバーも同じ題材を学修し、質疑やディスカッションを積極的に行う。 　演習の人数規模やメンバーの興味関心により、進め方は柔軟に変更する。		
履修条件・留意点	演習は、自分自身で学修することはもちろんのこと、他者の報告・発表を聞き、議論に参加することが重要である。 この点で、講義科目とは異なる。 したがって、欠席が多い場合、たとえ自分自身の報告等がきちんとされたとしても、 演習科目の目標到達点に達しないものと判断される場合があることに留意する必要がある。 原則として全部の演習に参加することが求められる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・積極的に自分の意見を述べることができる。 ・企業に関する基礎的な法的知識を獲得することができる。 ・報告資料の作成、プレゼンテーション能力を獲得することができる。 ・論理的・発展的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表・報告内容については、レジュメ等を含めて授業内において、修正・アドバイスを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。	ISBN	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	ゼミは、仲間とともに楽しく有意義な時間を過ごす素晴らしい機会です。ただ、ダラダラと楽しむのではなく、ゼミ生の皆さんが「自分自身を鍛える」ため、毎週決まった時間に集まる楽しい勉強会としたい。 メリハリをつけて一緒に頑張りましょう。 積極的・意欲的に楽しく学修しようと考える皆さんの参加をお待ちしています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 自己紹介、授業の進め方・報告方法の説明、報告者の決定。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第２回	対面	判例の検索方法・レジュメの作成方法・報告方法の説明。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第３回	対面	受講生による報告と議論（１）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第４回	対面	受講生による報告と議論（２）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第５回	対面	受講生による報告と議論（３）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第６回	対面	受講生による報告と議論（４）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第７回	対面	受講生による報告と議論（５）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第８回	対面	受講生による報告と議論（６）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第９回	対面	受講生による報告と議論（７）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１０回	対面	受講生による報告と議論（８）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１１回	対面	受講生による報告と議論（９）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１２回	対面	受講生による報告と議論（10）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授	4 時間

			業で得た知識等を確認すること。	
第１３回	対面	受講生による報告と議論（11）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１４回	対面	受講生による報告と議論（12）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の総括。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間

科目名	演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	西村　剛輝	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法各論の重要判例について理解を深める。		
授業の目的及び概要	本演習では、受講生が刑法総論の基礎的な内容を修得していることを前提に、刑法に関する判例および学説の発展的内容を扱います。具体的には、以下のようなことを考えております。佐伯仁志＝橋爪隆編『刑法判例百選Ⅱ各論〔第８版〕』(2020 年）に掲載されている判例の中から、重要なものをいくつか取り上げて、受講生全員で検討します。その際には、当該判例の判断構造を正確に読み解くことはもちろん、学説を参照することで当該判例の思想的背景にも深入りし、日本の刑事司法制度全体における当該判例の位置づけを明らかにすることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑法各論の重要判例の位置づけを把握することができる。 ・判例に対する学説からの評価を理解することができる。 ・以上の２点について、言葉によって説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	討議について、授業内で講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定教科書はありませんが、授業内で適宜、文献を案内します。	ISBN	なし。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	100
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
【教員からのメッセージ】 この授業では、毎授業で受講生に発言を求めます。毎授業前に、取り扱う判例やその評釈類（事前に指示します）を読んできてください。それを踏まえて、授業での発言に際しては、権威にとらわれない、大胆かつ自由な発想を期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【オリエンテーション】 ・自己紹介 ・演習の進め方を説明します。 ・取り上げる判例を決定します。	【事前学修】 ・自己紹介の内容を考えてきてください。また、刑法各論（財産犯）の内容のうち、興味・関心のある分野を考えてきてください。 【事後学修】	4 時間

			・授業内で指定された課題に取り組んでください。	
第２回	対面	【基本事項の確認】 ・刑法各論に関する基本事項を講義形式で説明します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第３回	対面	【判例研究①】 ・財産犯の保護法益に関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第４回	対面	【判例研究①つづき】 ・第３回授業で取り上げた判例と関連する判例を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第５回	対面	【判例研究①つづき】 ・第３回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第６回	対面	【判例研究②】 ・不法領得の意思に関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第７回	対面	【判例研究②つづき】 ・第６回授業で取り上げた判例と関連する判例を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第８回	対面	【判例研究②つづき】 ・第６回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第９回	対面	【判例研究③】 ・誤振込みに関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第１０回	対面	【判例研究③つづき】 ・第９回授業で取り上げた判例と関連する判例を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第１１回	対面	【判例研究③つづき】 ・第９回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第１２回	対面	【判例研究④】 ・親族相盗例に関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第１３回	対面	【判例研究④つづき】 ・第 12 回授業で取り上げた判例と関連する判例を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第１４回	対面	【判例研究④つづき】 ・第 12 回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総まとめ ・今学期の学修内容について、総復習を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間

科目名	演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	坂上　文一	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法律系資格挑戦演習　宅建、行政書士資格取得を目指そう！		
授業の目的及び概要	（目的） 本演習は、２０２６年１０月１８日（予定）の宅建士試験合格または同年１１月８日（予定）の行政書士試験合格を目指す者を対象として、各試験の過去問演習に加えて、民事及び行政に関する主要な最高裁判例などを題材として、担当教員の約２７年間における裁判官としての実務経験を踏まえた事実認定の手法（方法）、法律上の問題点（争点）に対する検討のあり方を教示、指導し、本演習を履修することにより、社会に出て、民事紛争に関わった際、その問題の本質を理解し、具体的な事案に即した妥当な解決を図る能力を身に付けることを目指します。 ４年生の演習Ⅲとあわせて２年間の演習の成果として、各自が調査、研究、報告した成果をまとめたゼミ報告レポート集（卒業研究に相当するもの）を完成させることを目標とします。 （概要） 初回の演習時にガイダンスを行い、２回目以降の演習内容を決定します。演習の運営としては、基本的には、受講生の方々に分担して行ってもらいます。 担当教員は、適宜、受講生の質疑応答・議論の補足説明（フォロー）を行います。		
履修条件・留意点	本演習に参加するにあたっては、２０２６年度 S コースの行政書士講座または宅建士講座へ毎回参加すること、２０２６年度行政書士または宅建士試験受験予定者向けに開講される法学特別講義を一緒に履修すること、行政書士受験予定者は、行政救済法Ⅰの講義を一緒に履修することをいずれも条件とする。 民法総則Ⅰ、物権法Ⅰ、債権総論Ⅰ、債権各論Ⅰ、家族法Ⅰの各授業を履修していること、または一緒に履修することを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政書士試験または宅建士試験の合格に必要な知識（条文や専門用語の意味内容を含む。）を理解して、習得し、これを説明することができる。 行政書士または宅建士の試験科目（分野）である民法、行政法などを中心に、基本的な知識を習得して、重要な裁判例の具体的事案を理解した上で、これを活かして、当該具体的な事案に即した妥当な解決策を検討、発表することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等につき、演習中において、適宜、解説や講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	演習中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
参考書	演習中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	法学部指定六法を必ず持参すること。 正当な理由のない欠席、遅刻、演習中の私語、演習と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とし、違反者に対しては厳しく対応する。 ２０２６年度の行政書士試験または宅建士試験の合格を目指し、意欲を持って積極的に演習に取り組む姿勢がある者の参加を求めます。 そのため、本演習の履修者選考においては、必要に応じて個人面談を実施し、資格取得や演習参加に対する意思確認を行い、熱意がある者を優先します。 演習の内容については、受講生の希望に応じて柔軟に検討します。希望があれば、裁判所、法務局などの見学、弁護士、司法書士などのゲストスピーカーの招致、セミ宿泊研修、懇親会、学園祭への出店なども実施可能です。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス・演習内容・卒業研究に向けた各自の担当テーマを考える。 なお、演習計画・内容は、受講者の皆さんと共に、協議し、その希望に応じて、柔軟に変更することがあります。	【事前学修】自分が挑戦する資格内容・希望する卒業研究テーマ（出来れば複数）を検討し、演習で発表できるよう準備する。 【事後学修】自分が挑戦するすることになった資格に関して配布された資料を確認し、今後の受験計画を立案するとともに、担当することになった卒業研究のテーマに関する文献、裁判例を探し、報告のための準備を行う。	4 時間
第２回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（１）	【事前学修】資格試験合格に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4 時間
第３回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（２）	【事前学修】資格試験合格に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4 時間
第４回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（３）	【事前学修】資格試験合格に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4 時間
第５回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（４）	【事前学修】資格試験合格に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4 時間
第６回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（５）	【事前学修】資格試験合格に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4 時間
第７回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（６）	【事前学修】資格試験合格に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて	4 時間

			準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	
第8回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（7）	【事前学修】資格試験合格に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4時間
第9回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（8）	【事前学修】資格試験合格に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4時間
第10回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（9）	【事前学修】資格試験合格に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4時間
第11回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（10）	【事前学修】資格試験合格に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4時間
第12回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（11）	【事前学修】資格試験合格に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4時間
第13回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（12）	【事前学修】資格試験合格に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4時間
第14回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（13）	【事前学修】資格試験合格に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4時間
第15回	オンデマンド	春学期のまとめ	【予習】事前に配布された資料を読み、自らが挑む資格試験に関して、確認しておきたい内容を検討、準備する。 【復習】オンデマンド動画を視聴して、配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。疑問点があれば、アンケート欄を利用して、教員に質問する。	4時間

科目名	演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	兪　珏根	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	労働問題や労働現場の実態について判例を検討する		
授業の目的及び概要	労働法は労働者の一生，企業の存立に関わる問題で具体的な利害関係に対して実際に生じた争いを解決する実定法であります。法解釈は社会情勢と密接に関連してありますので労働法を学ぶには具体的事例の検討が重要だと思います。演習では、労働契約法、労働基準法など個別的労働関係を題材として、重要判例を「労働判例百選」などを中心に，実際の労働現場でどのような利益対立があり，それに対して労働法がどのように解釈されて結論が導かれたのか等々，演習を通じて皆さんと討論しながら理解を深めたいと思います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	基本的な労働判例における利害関係，争点，具体的処理とその妥当性の検討等を通じて実務演習における応用を学ぶことができます		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告のやり方やレジュメ作成については、初回及び 2 回の授業で指導します。重要判例についてテーマを決め、演習授業の前に事案の概要，争点，事実認定、判断根拠，判定理由順に発表してもらい、その後，担当教授のコメント、学生たちの質疑応答の時間をとり結論を出します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	書名：『ケースブック労働法第 4 版』、著者名：荒木尚志・奥田香子、有斐閣　2019 年 書名：『労働判例百選　第 10 版』、著者名：村中孝史・荒木尚志、有斐閣　2022 年	ISBN	9784641144743
参考書	書名：『判例労働法入門第 7 版』、著者名：野田進外多数、有斐閣　2021 年	ISBN	9784641243477

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	50
その他の内容	0

この科目の受講にあたって
・法学部指定六法を持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器の使用は厳禁。 ・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。 ・演習は労働法を題材に、労働問題の解決能力を修得し、法理論と関連事例などの多様なテーマについて討論を楽しみながら勉強する。 ・雇用関係と労使関係に対する探究は将来的に就労活動にも対応できるような知識になる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	ガイダンス・自己紹介、発表担当者の決める。	【予習】シラバシを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直す。	4 時間
第２回	対面	主題：国鉄札幌駅事件 - 懲戒権	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第３回	対面	主題：ネスレ日本懲戒解雇事件 - 懲戒権の行使濫用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第４回	対面	主題：小田急電鉄事件 - 私生活の非行	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第５回	対面	主題：敬愛学園事件事件 - 解雇の合理性	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第６回	対面	主題：日本航空事件 - 整理解雇	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第７回	対面	主題：フォセコ・ジャパン・リミテット事件 - 競業避止義務	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第８回	対面	主題：津田電機計器事件 - 定年と継続雇用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第９回	対面	主題：川崎市水道局事件 - 職場のいじめ	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１０回	対面	主題：時事通信社事件 - 年次有給休暇	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１１回	対面	主題：札幌中央労基署長事件 - 通勤災害	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１２回	対面	主題：名古屋グィツ労組事件 - 組合の分裂	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１３回	対面	主題：国鉄団交拒否事件 - 団体交渉対象	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１４回	対面	主題：大阪運輸振興事件 - 契約期間の途中解約	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括まとめ	総合的に整理する。	4 時間

科目名	演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	石尾　賢二	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法財産法の判例学習		
授業の目的及び概要	民法の法律問題の中で基礎的な問題を学ぶ。分野は財産法を中心とする。 財産法分野における重要な判例を取り上げ、事実関係を分析し、問題点を明らかにし、裁判所の判断を検討する。 授業において各担当者が個々の判決について検討・報告し、その後、全員で議論する。 集団での討論によって問題解決を図ることを目的とし、報告者の適切な問題提起と報告を受けた者の適切に意見表明の促進を意図する。 これらのことを通して様々に部門での自主的な問題解決能力が促進されることを企図する。自主的な勉学は各種試験のためにも役立つものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1.財産法に関する基本的な事項、発展的な事項について理解し、判断することができる。 2.財産法に関する事例において、事案を正確に把握し、問題点を整理し、裁判所の判断を的確に説明できる。 3.報告者は検討したことを授業で適切に報告することができる。 4.報告者以外の者は報告に対して適切に自分の意見を述べることができる。 5.各人の意見表明を受けて適切な結論を導く方法を探求する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員は報告者のレジュメについて事前に質疑を受け、事後に意見を述べる。授業での議論について意見を述べる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①民法判例百選Ⅰ　総則・物権 第 9 版，見佳男・道垣内 弘人編，有斐閣，2023 年 ②民法判例百選Ⅱ債権(第 9 版)，窪田充見・森田宏樹編，有斐閣，2023 年	ISBN	①9784641115620 ②9784641115637
参考書	事前に指示した判例について検討するために、各種判例集(民集、判例時報、判例タイムズ)、判例百選が有用である。これらはデータベースでも利用できる。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	取り上げる判決については、民法判例百選の中で、法人の目的と団体の性質、権利能力なき社団の取引上の債務、公序良俗ホステス保証、９４条２項の類推適用、９４条２項・１１０条の類推適用、動機の錯誤、代理権濫用、白紙委任状と代理権授与表示、外形信頼と民法１０９条

	等の法理、民法１１０条の正当理由の判断、代表理事の代表権の制限と民法１１０条、177 条の変動原因の範囲、177 条の第三者の範囲、即時取得、共有者の権利主張方法、共同所有類型における固有権、制限種類債権の特定、公務員に対する国の安全配慮義務、契約交渉破棄における責任、契約締結説明義務違反に基づく損害賠償、履行補助者の過失、契約解除した場合の損害額算定時期、履行不能の場合の損害額算定時期等から選択

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 自己紹介から始めます。 その後、ゼミの方法を説明し、取り上げる判決を紹介し、各人の担当を決定する。 1 回目のゼミで今後の内容を決定する。	予定判例について一通り目を通しておいてください。	4 時間
第２回	対面	２回目の授業はまず教員が報告し、全員で議論を実施する。テーマは前回示したものの中の余ったものの中の一つになる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第３回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第４回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第５回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第６回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第７回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第８回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第９回	オンデマンド	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１０回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１１回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１２回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間

第１３回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１４回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１５回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間

科目名	演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	渡邉　康行	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法の基本判例を読む		
授業の目的及び概要	憲法に関する基本判例を詳しく読むことによって、法曹特別演習で行う事例演習の基礎を固めることを目的としています。 卒業論文の作成にとっても、授業で取り上げたテーマを題材として選択すれば、比較的容易に作業を進めることができると思います。		
履修条件・留意点	憲法、行政法などの公法系基本科目を履修済みであることが強く望まれます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主たる判例に関連する判例・学説を調査することができる能力、それらを精読する能力、それを基に自分の意見を作り、他人に対して説明する能力、報告者の見解を的確に理解し、それとは異なった観点を提示する能力などを養う。それらを通じて、法科大学院既修者入試試験を突破できる程度の学力を身に着ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業のなかで解説・講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストとしては、判決文や論文などを配布します。 憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第８版），有斐閣，2025 は必携です。	ISBN	9784641213449 9784641213456
参考書	本演習担当者の体系書として、渡辺・宍戸・松本・工藤『憲法Ⅰ〔第２版〕』(2023 年)、『憲法Ⅱ　総論・統治（第２版）』(2025 年)（いずれも日本評論社）があります。これらは現在、司法試験や国家公務員総合職試験などの受験生にとって定番の基本書となっているものです。	ISBN	978-4-535-52711-9 978-4-535-52479-8

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
法曹・行政職公務員・研究者など、将来法律に関係する職業を志望している、意欲の高い学生が履修することを想定しています。法学部の方針として、法曹特別演習受講者はこの演習を履修することが強く推奨されています。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の進め方などのガイダンス。報告の担当の決定など。	自分が報告したいテーマについて、予めいくつか候補を考えておく。	１時間

第２回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第３回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第４回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第５回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第６回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第７回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第８回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第９回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１０回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１１回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１２回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１３回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１４回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの授業のまとめ	これまでの授業内容を復習する。	4 時間

科目名	演習ⅡＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	堂山　健	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	国際取引法と英文契約		
授業の目的及び概要	国際取引法を理解するために、みんなで英文契約の読解・作成に挑戦します。 公開されている実際の国際取引契約書等を課題として指定し、各自で和訳・英訳を試みていただき、それに基づき、討議・講評します。 必要に応じて、英米法などの外国法についての解説を行います。		
履修条件・留意点	訳の作成にあたって補助的に機械翻訳やＡＩを利用することは許可しますので、英語が得意である必要はありません。ただし、英語に興味がある必要はあります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際取引法、英文契約の概要、条文の文言や専門用語の意味について理解し、説明することができる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・国境を超えた取引等に関わる法律問題について、授業で学修した知識を活かし、妥当な結論を導くことができる。【ＤＰ２】 ・法律文章の読み方、書き方および法的思考法を理解し、自ら運用することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	訳文等の報告に対し、コメントを通じて適切なフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・辞書等を持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器（ＰＣやスマホなど）の使用は厳禁。違反者に対しては厳しく対応する。 （ただし、PC は辞書引き、ノート等のために必要な限度で利用することは認める。）

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス	・第一回で指定した英文契約を確認し、その内容をどのように翻訳、報告するか検討すること（4 時間程度）。	4 時間
第２回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返	4 時間

			りを行う（2 時間程度）。	
第３回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第４回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第５回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第６回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第７回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第８回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第９回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第１０回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第１１回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第１２回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第１３回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第１４回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	振り返り	・授業で扱った契約書や配布資料に事前に目を通すこと（4 時間程度）。	4 時間

科目名	演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉川　貴代	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	総合計画に基づく地方自治体（市町村）の政策形成		
授業の目的及び概要	地方自治体では、法律や条例を適正に運用することが基本です。一方で、各地方自治体を取り巻く環境や人口規模には大きな違いがあり、それぞれが最少経費で最大効果をするように、政策を形成しています。多くの地方自治体では、その政策形成の柱となる「総合計画」を策定しています。2011 年の地方自治体一部改正により、市町村では基本構想（総合計画）の策定の義務付けは廃止されましたが、多くの市町村では総合計画を策定し、その計画に基づき、政策を形成し、多種多様な事業を実施しています。この授業では、総合計画策定の意義、総合計画による PDCA、行政内部の総合調整機能、住民との協働、主要な政策における課題とその対応などについて学びます。		
履修条件・留意点	この授業は、公務員志望者向けです。 自治体の政策は多種多様ですので、地域共生論を履修し、福祉・教育に関する内容を深めることを推奨します。 公務員特別演習を履修することを推奨します。 都市計画や環境等の各分野については、ゲストスピーカー（実務家）を招きますので、都合により授業の内容変更や順番が入れ替わることがあります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・文献（特に、地方自治体の計画書）を読み説くことができる。 ・レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッション等ができる。 ・自治体の政策形成、自治体による違いを調査、理解し、発表することができる。 ・実務家の話を直接聞くことで、地方自治体における政策形成と実践を学ぶことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表等については授業中に講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特定の教科書は指定せず、資料等は授業で紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日本の地方政府, 曽我謙悟, 中公新書, 2019 年 ②もしもわたしが「株式会社流山市」の人事部長だったら, 手塚純子, 木楽舎, 2020 年 ③実践ダイバーシティこおりやまと私　微力は無力じゃない, 阿部のり子, 生活思想社, 2024 年 ④はにわマラソン いっちょマラソンで町おこしや！, 蓮見恭子, 双葉文庫, 2024 年 ⑤コミュニティ自治の未来図　共創に向けた地域人財づくりへ, 大杉覚, ぎょうせい, 2021 年 ⑥これからの地方自治の教科書　改訂版,　大森彌, ・大杉覚,　第一法規,　2021 年 ⑦公務員という仕事, 村木厚子, ちくまプリマー新書, 2020 年 ⑧公務員のすすめ　世の中を変える地方自治体の仕事, 泉房穂, 小学館新書, 2025 年	ISBN	①9784121025371 ②9784863241503 ③9784916112347 ④9784575528145 ⑤9784324110171 ⑥9784474076990 ⑦9784480683762 ⑧9784098254903
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	１．行政の各分野の学習では、フィールドワークを実施することがあります（授業時間外になる場合もあります）。 ２．授業中のマナー 授業は Forms の回答などの場合を除き、スマートフォンの使用は禁止します。 ３．他科目の履修 地域共生論、地方自治論、地方自治法、政治学に関する科目、公務員特別演習の履修を推奨する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス この授業で学ぶことの概要 市町村総合計画について	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料等をもとに復習する。（２時間）	２時間
第２回	対面	市町村総合計画の意義１ ・市町村総合計画の法的位置づけ ・計画の構造 ・計画策定のプロセス ・自治体政策の全体像	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料等をもとに復習する。（２時間）	２時間
第３回	対面	自治体総合計画の意義２ ・環境政策を学ぶ（ゲストスピーカー）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料等をもとに復習する。（２時間）	２時間
第４回	対面	自治体総合計画の意義３ ・都市計画を学ぶ（ゲストスピーカー）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料等をもとに復習する。（２時間）	２時間
第５回	対面	自治体総合計画の意義４ ・住宅政策を学ぶ（ゲストスピーカー）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料等をもとに復習する。（２時間）	２時間
第６回	対面	自治体総合計画の意義５ ・産業政策を学ぶ（ゲストスピーカー）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料等をもとに復習する。（２時間）	２時間
第７回	対面	自治体総合計画の意義６ ・危機管理を学ぶ（ゲストスピーカー）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料等をもとに復習する。（２時間）	２時間
第８回	対面	自治体総合計画の意義７ ・各分野の振り返り（２～６） ・プレゼンテーション	事前学習：プレゼンテーションの準備をする。（２時間） 事後学習：プレゼンテーションで教員や他の学生から得たコメントをもとに復習する。（２時間）	２時間
第９回	対面	自治体総合計画の意義８ ・総合計画に基づくＰＤＣＡを理解する。	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料等をもとに復習する。（２時間）	２時間
第１０回	対面	自治体総合計画の意義９ ・自治体比較（都道府県、市区町村）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料等をもとに復習する。（２時間）	２時間
第１１回	対面	自治体総合計画の意義１０ ・総合計画の策定プロセスと住民の参画（政令指定都市又は中核市）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料等をもとに復習する。（２時間）	２時間

第１２回	対面	自治体総合計画の意義１１ ・総合計画の策定プロセスと住民の参画（一般市又は町村）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料等をもとに復習する。（２時間）	2 時間
第１３回	対面	政策形成演習１ ・政策提案に向けての準備	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料等をもとに復習する。（２時間）	2 時間
第１４回	対面	政策形成演習２ ・政策提案のテーマ設定（ゲストスピーカー） ・調査準備	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料等をもとに復習する。（２時間）	2 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の振り返り	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料等をもとに復習する。（２時間）	2 時間

科目名	演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	古田　隆	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政策法務を学んで 、法律を使いこなす公務員を目指す		
授業の目的及び概要	政策実現のために立法、争訟、法執行などを検討する取組みを政策法務というが、特にこのうちの立法法務をこの演習で学ぶ。 条例の立案や法制執務などに関する書籍を全員で読んだ後、グループで条例案を立案し、その案を全員で議論する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・他の者の見解等を十分に聴き、検討し、意見を述べるようになること。 ・文献などを読解する能力を得ること。 ・報告資料の作成、プレゼンテーション能力、政策立案能力を得ること。 ・論理的な思考を身につけること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告やレジュメの内容に対するアドバイス等を演習中に行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、指定都市職員として 39 年間勤務し、部長級まで務め、条例等審査、不服審査、訴訟などの自治体法務に通算 24 年携わったほか、行財政改善、社会福祉法人の監査等の分野において政策形成に関与した。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	「 Ｑ＆Ａ実践法制執務－条例立案者が悩まないための精選 90 問」，長谷川彰一，ぎょうせい，2025 年	ISBN	978-4-324-11474-2
参考書	「 新訂ワークブック法制執務第２版」，法制執務研究会（編），ぎょうせい，2018 年	ISBN	978-4-324-10388-3

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・授業は原則出席すること。積極的に参加することを期待している。 ・担当教員は、地方公共団体（指定都市）に 39 年間勤務し、そのうち通算 24 年間法務（条例等の審査、行政不服申立て、訴訟等）を担当したほか、コンプライアンス、法人監査等も担当した。こうした実務経験も交えて授業を進めるので、公務員の仕事や、法務を通じた政策実現などに興味がある学生の履修を期待する。 ・文献を調べたり読んだり、発表を行うことなどは楽ではないが、公務員等になるには必要なスキルである。楽しみながら取り組もう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	演習全体のオリエンテーション。自己紹介、グループ分け、演習の進め方等についてのガイダンスを行う。	【事後学修】行政法全般にわたって書籍で予習をしておく。（２時間） 【事後学修】報告対象の内容を検討する。（２時間）	４時間
第２回	対面	各グループで立案する条例のテーマの決定	【事前学修】テーマに係る資料等を調査する。（２時間） 【事後学修】資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第３回	対面	立案に備えて教科書の輪読（１）	【事前学修】教科書の該当ページを読む。（２時間） 【事後学修】レジュメ・教科書等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第４回	対面	立案に備えて教科書の輪読（２）	【事前学修】教科書の該当ページを読む。（２時間） 【事後学修】レジュメ・教科書等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第５回	対面	立案に備えて教科書の輪読（３）	【事前学修】教科書の該当ページを読む。（２時間） 【事後学修】レジュメ・教科書等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第６回	対面	立案に備えて教科書の輪読（４）	【事前学修】教科書の該当ページを読む。（２時間） 【事後学修】レジュメ・教科書等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第７回	対面	立案に備えて教科書の輪読（５）	【事前学修】教科書の該当ページを読む。（２時間） 【事後学修】レジュメ・教科書等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第８回	対面	立案に備えて教科書の輪読（６）	【事前学修】教科書の該当ページを読む。（２時間） 【事後学修】レジュメ・教科書等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第９回	対面	立案に備えて教科書の輪読（７）	【事前学修】教科書の該当ページを読む。（２時間） 【事後学修】レジュメ・教科書等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１０回	対面	立案に備えて教科書の輪読（８）	【事前学修】教科書の該当ページを読む。（２時間） 【事後学修】レジュメ・教科書等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１１回	対面	立案に備えて教科書の輪読（９）	【事前学修】教科書の該当ページを読む。（２時間） 【事後学修】レジュメ・教科書等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１２回	対面	立案に備えて教科書の輪読（10）	【事前学修】教科書の該当ページを読む。（２時間） 【事後学修】レジュメ・教科書等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１３回	対面	立案に備えて教科書の輪読（11）	【事前学修】教科書の該当ページを読む。（２時間） 【事後学修】レジュメ・教科書等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１４回	対面	立案に備えて教科書の輪読（12）	【事前学修】教科書の該当ページを読む。（２時間） 【事後学修】レジュメ・教科書等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ	【事前学修】全ての資料等をに目を通しておく。（２時間） 【事後学修】全ての資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間

科目名	演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中久保　寛幸	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察活動と法　～警察活動における判断基準と実務手続き～		
授業の目的及び概要	警察活動の現状とその法手続きについて理解することを目的としています。 警察における各種の職務執行に関する現状や必要な基礎的知識を修得し、その法的手続きについての限界や適法性等について研究をします。		
履修条件・留意点	履修希望者は、選考を行います。選考方法(基準)は①この演習を希望する理由、②志望進路（警察等)、③前年度授業への参加度・取組度(出席率や成績等を含む)としています。 秋学期(演習ⅡB)実施の学生研究発表大会への出場を推奨し、出場者については加点対象とします。 警察法令概論、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、少年法などの科目履修を推奨します。 公務員特別演習ⅡA・B の履修を強く推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①警察活動がどのような規定に基づき、どのように行われているのかを理解し、説明することができる。 ②警察活動に関する適法事例、違法事例の詳細について研究・理解し、説明することができる。 ③日常発生する事件・事故等に対する警察活動の適法性について、自らの意見を法的根拠や判例に基づいて説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義　第４版,津田隆好,東京法令出版，2019 年 ②実例中心捜査法解説　第４版　－捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門－，幕田英雄，東京法令出版，2019 年 ③刑事訴訟法講義　第 7 版，池田修・前田雅英，東京大学出版会，2022 年 ④注釈警察官職務執行法　５訂版，古谷洋一，立花書房，2021 年 ⑤警察行政法解説　第 3 版，田村正博，東京法令出版，2022 年 ⑥新版　警察行政概論，金山泰介，三恵社，2025 年	ISBN	①9784809013959 ②9784809013973 ③9784130323963 ④9784803722314 ⑤9784809014444 ⑥9784866939964

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	40
	中間試験	0

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	公安職を目指す学生が即戦力として活躍できる人材になるためには、現場活動の基礎や法的根拠を学び、自ら進んで考えることにより、判断力・行動力を身に付けることが最も重要です。私のこれまでの経験を活かし、犯罪捜査を始めとする警察活動で要求される知識や技能、その法的根拠や判例に基づく判断基準などを伝えたいと考えています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業方針等の説明を行い、発表グループの編成を行います。 各グループごとの研究テーマについて討議と選定を行います。	【予習】シラバスを確認し、春学期の取組みについてまとめておく。関心のある過去の事件・判例について調べておく。 【復習】研究課題に関する関係法令、判例等について見直しておく。	4 時間
第２回	対面	「テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題」を行います。 テーマ選定理由等について発表します。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第３回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第４回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第５回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担③」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第６回	対面	「研究テーマの中間発表準備と役割分担①」　を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、捜査手続きの適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4 時間
第７回	対面	「研究テーマの中間発表準備と役割分担②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、捜査手続きの適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4 時間
第８回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	4 時間
第９回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備①」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間

第１０回	対面	「研究課題の集約とプレゼン準備②」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第１１回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備③」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第１２回	オンデマンド	課題提出	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第１３回	対面	「研究結果の発表と全体討議①」を行います。	【予習】発表に関する分担の確認とリハーサルをしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4 時間
第１４回	対面	「研究結果の発表と全体討議②」を行います。	【予習】発表に関する分担の確認とリハーサルをしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4 時間
第１５回	対面	春学期の振り返りと総括を行います。	【予習】春学期の自身の学修結果について、発表できるようにまとめをしておく。 【復習】春学期の自身の学修結果に関して総括をしておく。	4 時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	孟　慶廉	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法判例の分析と関連制度の研究		
授業の目的及び概要	本演習では、民法財産法分野における重要判例を素材として、判例の理解と民法制度の体系的理解を深めることを目的とする。 授業では主として『民法判例百選Ⅱ債権〔第 9 版〕』に掲載された判例を取り上げる。各回の担当者は、判例の分析だけでなく、当該判例に関連する民法制度の概要についても説明を行う。具体的には、①関連する民法制度の説明（条文・制度趣旨）②判例の事実関係③争点の整理④裁判所の判断（判旨）⑤判例の意義・評価を整理して報告する。 その後、参加者全員で討論を行い、判例の意義および制度の理解を深める。 このような判例研究を通じて、民法の基本的理解を深めるとともに、法的思考能力、問題分析能力、および論理的説明能力の向上を目指す。		
履修条件・留意点	本演習を履修するにあたり、民法財産法の全分野について基礎的な知識を有していることが望ましい。特に債権に関する基本的事項について理解していることが期待される。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①民法財産法に関する基本制度を理解することができる。 ②判例の事実関係を正確に把握し、法律問題を整理することができる。 ③裁判所の判断を論理的に説明することができる。 ④判例の意義について自らの意見を形成し、他者と議論することができる。 ⑤レジュメ作成および口頭報告を通じて、法的議論を適切に表現する能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員は、報告者のレジュメについて事前に質問や相談を受け付け、必要に応じて助言を行う。発表後には、報告内容および授業での議論について講評を行い、理解を深めるためのコメントを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	民法判例百選Ⅱ債権〔第 9 版〕，窪田充見・森田宏樹編，有斐閣，2023 年	ISBN	978-4641115637
参考書	必要に応じて以下を参照する。 ①最高裁判所民事判例集 ②判例時報 ③判例タイムズ ④各種判例データベース ⑤民法に関する基本書・判例解説書	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講に	取り上げる判例については、『民法判例百選Ⅱ債権〔第 9 版〕』に掲載された判例の中から選定

あたって	する。 具体的には、契約締結上の過失、履行補助者の過失、契約解除と損害賠償、債権譲渡、弁済による代位、不当利得、不法行為など、民法債権法に関する重要判例を素材として検討する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス ゼミの目的および進め方の説明を行う。自己紹介の後、取り上げる判例の概要を紹介し、担当者を決定する。	今後取り上げる予定の判例について、『民法判例百選』を参照し、事前に一通り目を通しておくこと。	4 時間
第２回	対面	教員によるモデル報告 判例研究の方法およびレジュメ作成の方法を示すため、教員が判例についてモデル報告を行う。その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	4 時間
第３回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	4 時間
第４回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	4 時間
第５回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	4 時間
第６回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	4 時間
第７回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	4 時間
第８回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み	4 時間

			直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	
第９回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	４時間
第１０回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	４時間
第１１回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	４時間
第１２回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	４時間
第１３回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	４時間
第１４回	対面	第１回の授業で決定した担当順に従い、担当者が判例および当該判例に関連する制度について報告を行い、その後、全員で討論を行う。	事前に当該判決を読み、『民法判例百選』を参照して全体の議論を把握するとともに、当該判例に関連する制度についても条文や基本文献を用いて確認し、自分の意見をまとめておく。 事後には、授業での議論を踏まえて再度判決を読み直し、関連制度の理解も含めて問題点を整理し、意見をまとめ直すこと。	４時間
第１５回	オンデマンド	総括 これまで扱った判例を整理し、民法制度の理解を総括する。	事前にこれまで扱った判例および関連制度について整理しておくこと。 事後には授業での総括的議論を踏まえ、判例および関連制度の理解を体系的に整理すること。	４時間

科目名	演習Ⅱ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	杉本　拓海	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	色々な刑法を学ぼう		
授業の目的及び概要	【目的】 なんとなくダラダラ過ごしても、一生懸命に打ち込んでも、大学生活なんてあっという間に過ぎていきます。大学生活ってチュートリアルみたいなものだと思います。教員が補助して導いてくれるし、本気で挑戦して失敗しても怒られない。ただ、チュートリアルで獲得した能力は本編（社会人）に引き継がれるし、人生はオートセーブでリセットも不可なので、ダラダラと過ごしてスキップしちゃうのは後々を考えると怖いな、とも思います。大学生活が、人生で一番能力を伸ばすことができる期間です。 なので、この演習では特別刑法に本気で取り組むことを通して、基礎的な能力を向上させたいと思います。具体的には、刑事法の基本的理解の獲得に加え、論理的思考力、調査能力、読解能力、報告・伝達能力（いわゆるコミュニケーション能力）、突破力といった今後の人生で必要となる基本的な能力を涵養することを目的とします。 【概要】 刑法には、刑法典に定められる教義の刑法のほかにも、さまざまな法律において定められる特別刑法があります。本演習では、特別刑法、中でも医事刑法と経済刑法の基本的事項と重要判例について、２年かけて学ぶことで、現代社会を取り巻くさまざまな刑法の一定の理解をめざします。 特別刑法については、誰しもが初学者であるため、基本的な考え方を適宜レクチャーしながら進めていきます。 刑法については、近年の重要判例解説（重判）に掲載されている判例についての報告をしてもらいます。 4 年生における演習Ⅲにおいては、卒業論文を提出してもらいます。 【その他】 楽しくて良い雰囲気ゼミにしたいと思います。		
履修条件・留意点	・適宜皆さんの希望に沿って変更を加えることがあります。 ・刑法総論、刑法各論の知識が必要となります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑事法の体系的理解を獲得する ・刑事法を学問として探求するための基礎力を身につける ・事案を分析し、判例の射程を検討する能力を身につける ・他者と共同し、報告を遂行する能力を身につける ・調査・報告・討論といった、研究のための基礎的能力を獲得する 【ＤＰ１】【ＤＰ２】【ＤＰ３】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に口頭でのフィードバックを実施します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは特に指定しませんが、刑法の基本書を各自準備してください。 経済刑法と医事刑法の参考書については、演習の中で適宜紹介します。 最新版の六法は毎回必ず持参してください	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	50
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・4 年次に卒業論文を執筆してもらいます。卒論のテーマを早い段階から意識しておいてください ・報告者ではない人も、事前にレジュメや判例等の資料を熟読して臨んでください ・毎週の楽しみになるようなゼミにしていきましょう！ ・本気で取り組むと少ししんどいかもしれませんが、その分突破したときのやりがいと成長がありますので、がんばりましょう。大切なのは意地と根性です。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【ガイダンス】 今後の進め方の相談・確認 各回の報告の担当者の決定	刑法を一通り復習しておいてください。	4 時間
第２回	対面	【次回以降の報告の準備】 今後の授業進行のための基本的な事項の確認・個別対応など	授業時間中に確認・相談したことをもとに、各自でも準備を進めておいてください。	4 時間
第３回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第４回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第５回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第６回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第７回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間

第８回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第９回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１０回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１１回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１２回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１３回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ・テキスト等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１４回	オンデマンド	【振り返り】 内容面についての振り返りを行い、適宜解説を加えます	【予習】 テキストの中で、苦戦した部分について読み返しておいてください。 【復習】 授業内容を復習し、知識の定着を図ってください。	4 時間
第１５回	対面	【まとめと総括】 演習・報告を振り返り、修得した内容について議論します。	【復習】 テキスト及び報告レジュメを見返し、知識の定着を図ってください。	4 時間

科目名	演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	上林　大	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法に基づく警察活動　　～犯罪捜査に求められるもの～		
授業の目的及び概要	警察活動（主として犯罪捜査）に対する基本的な心構えや法的手続きなどについて理解することを目的としています。 犯罪捜査は、他人の悪事を摘発する仕事であり、それだけに、捜査官には常に公正、誠実な態度が求められるほか、刑事訴訟法等に規定されている権限や手続きを遵守することが求められます。そのため、実際の犯罪現場における捜査の現状や捜査に必要な基礎的知識を修得し、適正な犯罪捜査について研究します。		
履修条件・留意点	学修効果の観点から、警察行政概論又は警察法令概論を履修しているか、一緒に履修することをつよく推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①捜査の端緒（捜査機関が犯罪を疑うきっかけとなる情報等）となるものは何か、それを元に犯罪捜査はどのように行われているかを理解し、説明することができる。 ②捜査を進める上でその根拠となる各種法令（刑事訴訟法等）について研究・理解し、説明することができる。 ③捜査手続きに関する適法性・違法性の判断基準（過去の判例に基づく）について理解し、自らの見解を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシート等での質疑や研究課題のレポートには、原則として次回授業で回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配付します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義　第４版、津田隆好、東京法令出版、2019 年４月 ②実例中心捜査法解説　第４版　－捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門－、幕田英雄、東京法令出版、2019 年４月 ③刑事訴訟法講義　第７版、池田修。前田雅英、東京大学出版会、2022 年７月	ISBN	① 9784809013959 ② 9784809013973 ③ 9784130323963

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・法学部指定六法を必ず持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の私的使用は厳禁（演習課題の検討時に

	調べ物等をする際のみ使用を許可する)。違反者に対しては厳しく対応する。 ・治安情勢や警察事案に関するニュース・報道に関心を持ち、本講義内容と関連させて記事等の内容を見聞すること。 ・ある特定の犯罪が発生したとき、その被害者や関係者は勿論、広く国民からも捜査に対し大きな期待が寄せられる。そのため警察官は誰もが捜査官としての自覚と誇りを持ち、どのような事件に直面してもこれを適切に処理し、解決していくだけの捜査能力を身につける必要がある。本演習では、公安職を目指す学生が捜査官に求められる職務倫理や心構え、捜査に求められる法的知識や実務能力などを身につけた即戦力の人材となれるようサポートを図るものとする。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の目的、授業概要の説明等、ガイダンスを行います。 秋学期の授業方針の説明を行い、各発表グループを編成し、以降の授業の進め方について意思統一を図ります。 各発表グループごとの研究テーマを選定します。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第２回	対面	研究テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題について、検討を行います。 テーマ選定理由等について発表します。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第３回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第４回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第５回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究の分担③」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間

第６回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第７回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第８回	対面	「研究テーマの中間発表準備と研究の役割分担③」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第９回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１０回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１１回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	２時間
第１２回	対面	「研究結果の集約とプレゼンテーション準備②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには	２時間

			１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	
第１３回	対面	「研究結果の発表と全体討議①」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第１４回	対面	「研究結果の発表と全治討議②」を行います。	事前学修：レジュメ、六法の関係法令等の該当箇所を事前に読み、課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、授業時に教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：授業で演習班別に課題の検討及び発表を行い、その後教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、次回の授業時に教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間
第１５回	オンデマンド	秋学期の振り返りと総括を行います。	事前学修：レジュメ、六法と照らし合わせしながらレジュメやノートを確認し、春学期の各課題の内容を把握するとともに疑問点があれば整理し、コメントシート、メール等で教員に質問する。これには１時間を要する。 事後学修：春学期に実施した演習班別の課題検討・発表及び教員が補足説明した内容をノート、レジュメ等の該当箇所を再読して確認する。理解が不十分なところがあれば、コメントシート、メール等で教員に説明する。これには１時間を要する。	2 時間

科目名	演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	企業（会社・個人事業）に関わる法的問題を考える。		
授業の目的及び概要	私たちは、生きていくために働く。自分一人でモノ作りなどして働く者もいれば、プロスポーツ選手もいるし、自ら起業して人を雇う者、会社を立ち上げて経営する者、会社に就職して働く者、さまざまである。ただ、その周りには、必ず誰かが存在し、トラブルや法的問題が生じることが少なくない。 　大雑把にいえば、そのようなビジネスに関わる法的問題に関心を寄せ、それらを検討・分析・議論し、一定の結論に導き、それを報告することにより、今後の人生に活かすことができることを目的とする。 　演習は、受け身ではなく、自分で考え、疑問があれば質問し、自由に見解を述べることが最も重要であり、それこそが将来にも役立つ。 　演習の進め方は（１）ビジネスシーンで起こりうる事件を題材に、個人またはグループで検討し、報告する。 （２）報告者以外のメンバーも同じ題材を学修し、質疑やディスカッションを積極的に行う。 　演習の人数規模やメンバーの興味関心により、進め方は柔軟に変更する。		
履修条件・留意点	演習は、自分自身で学修することはもちろんのこと、他者の報告・発表を聞き、議論に参加することが重要である。 この点で、講義科目とは異なる。 したがって、欠席が多い場合、たとえ自分自身の報告等がきちんとされたとしても、 演習科目の目標到達点に達しないものと判断される場合があることに留意する必要がある。 原則として全部の演習に参加することが求められる。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・積極的に自分の意見を述べることができる。 ・企業に関する基礎的な法的知識を獲得することができる。 ・報告資料の作成、プレゼンテーション能力を獲得することができる。 ・論理的・発展的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表・報告内容については、レジュメ等を含めて授業内において、修正・アドバイスを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。	ISBN	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	50
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	ゼミは、仲間とともに楽しく有意義な時間を過ごす素晴らしい機会です。ただ、ダラダラと楽しむのではなく、ゼミ生の皆さんが「自分自身を鍛える」ため、毎週決まった時間に集まる楽しい勉強会としたい。 メリハリをつけて一緒に頑張りましょう。 積極的・意欲的に楽しく学修しようと考える皆さんの参加をお待ちしています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、春学期の総括、授業の進め方・報告方法の説明、報告者の決定。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第２回	対面	判例の検索方法・レジュメの作成方法・報告方法の再確認。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第３回	対面	受講生による報告と議論（１）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第４回	対面	受講生による報告と議論（２）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第５回	対面	受講生による報告と議論（３）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第６回	対面	受講生による報告と議論（４）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第７回	対面	受講生による報告と議論（５）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第８回	対面	受講生による報告と議論（６）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第９回	対面	受講生による報告と議論（７）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１０回	対面	受講生による報告と議論（８）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１１回	対面	受講生による報告と議論（９）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１２回	対面	受講生による報告と議論（10）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授	4 時間

			業で得た知識等を確認すること。	
第１３回	対面	受講生による報告と議論（11）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１４回	対面	受講生による報告と議論（12）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	今年度の総括。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間

科目名	演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	堂山　健	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	国際取引法と英文契約		
授業の目的及び概要	国際取引法を理解するために、みんなで英文契約の読解・作成に挑戦します。 公開されている実際の国際取引契約書等を課題として指定し、各自で和訳・英訳を試みていただき、それに基づき、討議・講評します。 必要に応じて、英米法などの外国法についての解説を行います。		
履修条件・留意点	訳の作成にあたって補助的に機械翻訳やＡＩを利用することは許可しますので、英語が得意である必要はありません。ただし、英語に興味がある必要はあります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・国際取引法、英文契約の概要、条文の文言や専門用語の意味について理解し、説明することができる。【ＤＰ１】【ＤＰ４】 ・国境を超えた取引等に関わる法律問題について、授業で学修した知識を活かし、妥当な結論を導くことができる。【ＤＰ２】 ・法律文章の読み方、書き方および法的思考法を理解し、自ら運用することができる。【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	訳文等の報告に対し、コメントを通じて適切なフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・辞書等を持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器（ＰＣやスマホなど）の使用は厳禁。違反者に対しては厳しく対応する。 （ただし、PC は辞書引き、ノート等のために必要な限度で利用することは認める。）

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス	・第一回で指定した英文契約を確認し、その内容をどのように翻訳、報告するか検討すること（4 時間程度）。	4 時間
第２回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返	4 時間

			りを行う（2 時間程度）。	
第３回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第４回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第５回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第６回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第７回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第８回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第９回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第１０回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第１１回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第１２回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第１３回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第１４回	対面	翻訳報告・討議	・授業で扱う契約書や配布資料に事前に目を通すこと。報告担当者は、翻訳等を行う（２時間程度）。 ・授業後には、授業で学んだ内容やポイントの振り返りを行う（2 時間程度）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	振り返り	・授業で扱った契約書や配布資料に事前に目を通すこと（4 時間程度）。	4 時間

科目名	演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	坂上　文一	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法律系資格挑戦演習　宅建、行政書士資格取得を目指そう！		
授業の目的及び概要	（目的） 本演習は、２０２６年１０月１８日（予定）の宅建士試験合格または同年１１月８日（予定）の行政書士試験合格を目指す者を対象として、各試験の過去問演習に加えて、民事及び行政に関する主要な最高裁判例などを題材として、担当教員の約２７年間における裁判官としての実務経験を踏まえた事実認定の手法（方法）、法律上の問題点（争点）に対する検討のあり方を教示、指導し、本演習を履修することにより、社会に出て、民事紛争に関わった際、その問題の本質を理解し、具体的な事案に即した妥当な解決を図る能力を身に付けることを目指します。 ４年生の演習Ⅲとあわせて２年間の演習の成果として、各自が調査、研究、報告した成果をまとめたゼミ報告レポート集（卒業研究に相当するもの）を完成させることを目標とします。 （概要） 初回の演習時にガイダンスを行い、２回目以降の演習内容を決定します。演習の運営としては、基本的には、受講生の方々に分担して行ってもらいます。 担当教員は、適宜、受講生の質疑応答・議論の補足説明（フォロー）を行います。		
履修条件・留意点	本演習に参加するにあたっては、２０２６年度 S コースの行政書士講座または宅建士講座へ毎回参加すること、２０２６年度行政書士または宅建士試験受験予定者向けに開講される法学特別講義を一緒に履修すること、行政書士受験予定者は、行政救済法Ⅰの講義を履修していることをいずれも条件とする。 民法総則Ⅰ、物権法Ⅰ、債権総論Ⅰ、債権各論Ⅰ、家族法Ⅰの各授業を履修していること、または一緒に履修することを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政書士試験または宅建士試験の合格に必要な知識（条文や専門用語の意味内容を含む。）を理解して、習得し、これを説明することができる。 行政書士または宅建士の試験科目（分野）である民法、行政法などを中心に、基本的な知識を習得して、重要な裁判例の具体的事案を理解した上で、これを活かして、当該具体的な事案に即した妥当な解決策を検討、発表することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等につき、演習中において、適宜、解説や講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	演習中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
参考書	演習中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	法学部指定六法を必ず持参すること。 正当な理由のない欠席、遅刻、演習中の私語、演習と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とし、違反者に対しては厳しく対応する。 ２０２６年度の行政書士試験または宅建士試験の合格を目指し、意欲を持って積極的に演習に取り組む姿勢がある者の参加を求めます。 そのため、本演習の履修者選考においては、必要に応じて個人面談を実施し、資格取得や演習参加に対する意思確認を行い、熱意がある者を優先します。 演習の内容については、受講生の希望に応じて柔軟に検討します。希望があれば、裁判所、法務局などの見学、弁護士、司法書士などのゲストスピーカーの招致、セミ宿泊研修、懇親会、学園祭への出店なども実施可能です。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（１４）	【事前学修】自分が挑戦する資格内容・希望する卒業研究テーマ（出来れば複数）を検討し、演習で発表できるよう準備する。 【事後学修】自分が挑戦するすることになった資格に関して配布された資料を確認し、今後の受験計画を立案するとともに、担当することになった卒業研究のテーマに関する文献、裁判例を探し、報告のための準備を行う。	4 時間
第２回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（１５）	【事前学修】資格試験合格に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4 時間
第３回	対面	資格試験合格に向けた課題に取り組む（１６）	【事前学修】資格試験合格に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4 時間
第４回	対面	卒業研究に向けた課題に取り組む（１）	【事前学修】卒業研究に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4 時間
第５回	対面	卒業研究に向けた課題に取り組む（２）	【事前学修】卒業研究に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4 時間
第６回	対面	卒業研究に向けた課題に取り組む（３）	【事前学修】卒業研究に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	4 時間
第７回	対面	卒業研究に向けた課題に取り組む（４）	【事前学修】卒業研究に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備	4 時間

			する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	
第８回	対面	卒業研究に向けた課題に取り組む（５）	【事前学修】卒業研究に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	４時間
第９回	対面	卒業研究に向けた課題に取り組む（６）	【事前学修】卒業研究に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	４時間
第１０回	対面	卒業研究に向けた課題に取り組む（７）	【事前学修】卒業研究に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	４時間
第１１回	対面	卒業研究に向けた課題に取り組む（８）	【事前学修】卒業研究に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	４時間
第１２回	対面	卒業研究に向けた課題に取り組む（９）	【事前学修】卒業研究に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	４時間
第１３回	対面	卒業研究に向けた課題に取り組む（１０）	【事前学修】卒業研究に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	４時間
第１４回	対面	卒業研究に向けた課題に取り組む（１１）	【事前学修】卒業研究に向けた事前課題に取り組み、演習時に教員に質問する内容を整理、まとめて準備する。 【事後学修】演習で行った内容を再度、復習確認して、知識定着を図る。理解が不十分なところがあれば、次回の演習時に教員に質問する。	４時間
第１５回	オンデマンド	秋学期のまとめ	【予習】事前に配布された資料を読み、その内容に関して、確認しておきたい事項を検討、準備する。 【復習】オンデマンド動画を視聴して、配布資料等を読み直し、演習で学修した内容を再度、確認する。疑問点があれば、アンケート欄を利用して、教員に質問する。	４時間

科目名	演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	兪　珏根	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	労働問題や労働現場の実態について判例を検討する		
授業の目的及び概要	労働法は労働者の一生，企業の存立に関わる問題で具体的な利害関係に対して実際に生じた争いを解決する実定法であります。法解釈は社会情勢と密接に関連してありますので労働法を学ぶには具体的事例の検討が重要だと思います。演習では、労働契約法、労働基準法など個別的労働関係を題材として、重要判例を「労働判例百選」などを中心に，実際の労働現場でどのような利益対立があり，それに対して労働法がどのように解釈されて結論が導かれたのか等々，演習を通じて皆さんと討論しながら理解を深めたいと思います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	基本的な労働判例における利害関係，争点，具体的処理とその妥当性の検討等を通じて実務演習における応用を学ぶことができます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告のやり方やレジュメ作成については、初回及び 2 回の授業で指導します。重要判例についてテーマを決め、演習授業の前に事案の概要，争点，事実認定、判断根拠，判定理由順に発表してもらい、その後，担当教授のコメント、学生たちの質疑応答の時間をとり結論を出します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『ケースブック労働法第 4 版』，荒木尚志・奥田香子，有斐閣，2019 年 ②『労働判例百選　第 10 版』，村中孝史・荒木尚志，有斐閣，2022 年	ISBN	①9784641144743 ②9784641115576
参考書	書名：『判例労働法入門第 7 版』、著者名：野田進外多数、有斐閣 2021 年	ISBN	9784641243477

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	50
その他の内容	0

この科目の受講にあたって
・法学部指定六法を持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器の使用は厳禁。 ・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。 ・演習は労働法を題材に、労働問題の解決能力を修得し、法理論と関連事例などの多様なテーマについて討論を楽しみながら勉強する。 ・雇用関係と労使関係に対する探究は将来的に就労活動にも対応できるような知識になる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	ガイダンス・自己紹介、発表担当者の決まる。	【予習】シラバスを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直す。	4 時間
第２回	対面	主題：みちのく銀行事件 - 労働契約の変更	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第３回	対面	主題：山口観光事件 - 懲戒権行使の濫用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第４回	対面	主題：下関商業高校事件 - 勧誘退職	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第５回	対面	主題：関西電力（ロッカー撮影）事件 - 労働者の人権	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第６回	対面	主題：トナミ運輸事件 - 内部告発	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第７回	対面	主題：エッソ石油事件 - チィック・オフ	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第８回	対面	主題：平尾事件 - 労働協約の効力	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第９回	対面	主題：朝日災海上保険（高田）事件 - 労働協約の拡張適用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１０回	対面	主題：御国ハイヤー事件 - ピケッティング	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１１回	対面	主題：丸島水門製作所事件 - ロックアウトの正当性	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１２回	対面	主題：済生会中央病院事件 - 支配介入	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１３回	対面	主題：第二鳩タクシー事件 - 不当労働行為の救済命令	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１４回	対面	主題：中労委（西神テトラパック）事件 - 不利益取り扱い	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括まとめ	総合的に整理する	4 時間

科目名	演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石尾　賢二	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法財産法の判例研究		
授業の目的及び概要	民法の法律問題の中で基礎的な問題、発展的な問題を学ぶ。分野は財産法を中心とする。 財産法分野における重要な判例を取り上げ、事実関係を分析し、問題点を明らかにし、裁判所の判断を検討する。 授業において各担当者が個々の判決について検討・報告し、その後、全員で議論する。 集団での討論によって問題解決を図ることを目的とし、報告者の適切な問題提起と報告を受けた者の適切に意見表明の促進を意図する。 これらのことを通して様々に部門での自主的な問題解決能力が促進されることを企図する。自主的な勉学は各種試験のためにも役立つものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1.財産法に関する基本的な事項、発展的な事項について理解し、判断することができる。 2.財産法に関する事例において、事案を正確に把握し、問題点を整理し、裁判所の判断を的確に説明できる。 3.報告者は検討したことを授業で適切に報告することができる。 4.報告者以外の者は報告に対して適切に自分の意見を述べることができる。 5.各人の意見表明を受けて適切な結論を導く方法を探求する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員は報告者のレジュメについての事前に質疑を受け、事後に意見を述べ。授業での議論について意見を述べる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	窪田充見・森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ（第 9 版）』（有斐閣、2023 年）	ISBN	ISBN-13 ： 978-4641115637
参考書	事前に指示した判例について検討するために、各種判例集（民集、判例時報、判例タイムズ）、判例百選が有用である。これらはデータベースでも利用できる。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	取り上げる判決については、民法判例百選Ⅱの中の特定物債権と詐害行為取消権、第三者の債権侵害と不法行為、買主の引取義務、債権譲渡の対抗要件の構造、詐称代理人と債権の準占有者、指名債権の二重譲渡と民法４７８条、弁済による代位、差押えと相殺、付随的債務の不履行と解除、民法５６１条による解除と買主の使用利益の返還義務、売買後に規制された土壌汚染と瑕疵、不特定物の売買と瑕疵担保、売買契約の無効と立替払契約の効力、制限超過利息を

	任意に支払った場合と貸金業法４３条、正当事由と建物賃借人の事情、信頼関係破壊の法理、サブリースと賃料減額請求、誤振込金の返還請求と預金債権、転用物訴権、騙取金銭による弁済と不当利得、第三者に交付された貸付金の返還不動産譲渡担保の実行、集合動産の譲渡担保、集合債権の譲渡担保、抵当権の物上代位―債権譲渡との優劣、法定地上権―１番抵当権設定時に土地と建物の所有者が異なっていた場合等

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 自己紹介から始めます。 その後、ゼミの方法を説明し、取り上げる判決を紹介し、各人の担当を決定する。	民法判例百選で取り上げる判例について一通り見ておいてください。	4 時間
第２回	対面	２回目の授業はまず教員が報告し、全員で議論を実施する。テーマは前回示したものの中の余ったものの中の一つになる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第３回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第４回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第５回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第６回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第７回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第８回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第９回	オンデマンド	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１０回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１１回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１２回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間

第１３回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１４回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１５回	対面	担当の順番は、一番最初に提示したテーマの順番となる。	事前に当該判決を読み、民法判例百選を読み、全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間

科目名	演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	渡邉　康行	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法の基本判例を読む		
授業の目的及び概要	憲法に関する基本判例を詳しく読むことによって、法曹特別演習で行う事例演習の基礎を固めることを目的としています。 卒業論文の作成にとっても、授業で取り上げたテーマを題材として選択すれば、比較的容易に作業を進めることができると思います。		
履修条件・留意点	憲法、行政法などの公法系基本科目を履修済みであることが強く望まれます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主たる判例に関連する判例・学説を調査することができる能力、それらを精読する能力、それを基に自分の意見を作り、他人に対して説明する能力、報告者の見解を的確に理解し、それとは異なった観点を提示する能力などを養う。それらを通じて、法科大学院既修者入試試験を突破できる程度の学力を身に着ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業のなかで解説・講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストとしては、判決文や論文などを配布します。 憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第８版），有斐閣，2025 は必携です。	ISBN	9784641213449 9784641213456
参考書	本演習担当者の体系書として、渡辺・宍戸・松本・工藤『憲法Ⅰ〔第２版〕』(2023 年)、『憲法Ⅱ　総論・統治（第２版）』(2025 年)（いずれも日本評論社）があります。これらは現在、司法試験や国家公務員総合職試験などの受験生にとって定番の基本書となっているものです。	ISBN	978-4-535-52711-9 978-4-535-52479-8

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
法曹・行政職公務員・研究者など、将来法律に関係する職業を志望している、意欲の高い学生が履修することを想定しています。法学部の方針として、法曹特別演習受講者はこの演習を履修することが強く推奨されています。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業の進め方などのガイダンス。報告の担当の決定など。	自分が報告したいテーマについて、予めいくつか候補を考えておく。	１時間

第２回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第３回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第４回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第５回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第６回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第７回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第８回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第９回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１０回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１１回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１２回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１３回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１４回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、配布された資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの授業のまとめ	これまでの授業内容を復習する。	4 時間

科目名	演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	西村　剛輝	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	刑法各論の重要判例について理解を深める。		
授業の目的及び概要	本演習では、受講生が刑法総論の基礎的な内容を修得していることを前提に、刑法に関する判例および学説の発展的内容を扱います。具体的には、以下のようなことを考えております。佐伯仁志＝橋爪隆編『刑法判例百選Ⅱ各論〔第８版〕』(2020 年）に掲載されている判例の中から、重要なものをいくつか取り上げて、受講生全員で検討します。その際には、当該判例の判断構造を正確に読み解くことはもちろん、学説を参照することで当該判例の思想的背景にも深入りし、日本の刑事司法制度全体における当該判例の位置づけを明らかにすることを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑法各論の重要判例の位置づけを把握することができる。 ・判例に対する学説からの評価を理解することができる。 ・以上の２点について、言葉によって説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	討議について、授業内で講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定教科書はありませんが、授業内で適宜、文献を案内します。	ISBN	なし。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	100
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
【教員からのメッセージ】 この授業では、毎授業で受講生に発言を求めます。毎授業前に、取り扱う判例やその評釈類（事前に指示します）を読んできてください。それを踏まえて、授業での発言に際しては、権威にとらわれない、大胆かつ自由な発想を期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【オリエンテーション】 ・春学期の内容を振り返ります。 ・演習の進め方を説明します。 ・取り上げる判例を決定します。	【事前学修】 ・刑法各論の内容のうち、興味・関心のある分野を考えてきてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間

第２回	対面	【判例研究①】 ・背任罪に関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第３回	対面	【判例研究①つづき】 ・第２回授業で取り上げた判例と関連する判例を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第４回	対面	【判例研究①つづき】 ・第２回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第５回	対面	【判例研究②】 ・同時傷害の特例に関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第６回	対面	【判例研究②つづき】 ・第５回授業で取り上げた判例と関連する判例を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第７回	対面	【判例研究②つづき】 ・第５回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第８回	対面	【判例研究③】 ・文書偽造罪に関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第９回	対面	【判例研究③つづき】 ・第８回授業で取り上げた判例と関連する判例を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第１０回	対面	【判例研究③つづき】 ・第８回で取り上げた判例に関する評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第１１回	対面	【判例研究④】 ・賄賂罪に関する重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第１２回	対面	【判例研究④つづき】 ・第 11 回授業で取り上げた判例と関連する判例・評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第１３回	対面	【判例研究⑤】 ・危険運転関連の重要判例を読み解きます。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第１４回	対面	【判例研究④つづき】 ・第 13 回で取り上げた判例と関連する判例・評釈を検討します。	【事前学修】 ・事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】 ・授業内で指定された課題に取り組んでください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総まとめ ・今学期の学修内容について、総復習を行います。	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間

科目名	演習ⅡB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉川　貴代	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	総合計画に基づく地方自治体（市町村）の政策形成		
授業の目的及び概要	地方自治体では、法律や条例を適正に運用することが基本です。一方で、各地方自治体を取り巻く環境や人口規模には大きな違いがあり、それぞれが最少経費で最大効果をするように、政策を形成しています。多くの地方自治体では、その政策形成の柱となる「総合計画」を策定しています。2011 年の地方自治体一部改正により、市町村では基本構想（総合計画）の策定の義務付けは廃止されましたが、多くの市町村では総合計画を策定し、その計画に基づき、政策を形成し、多種多様な事業を実施しています。この授業では、総合計画策定の意義、総合計画による PDCA、行政内部の総合調整機能、住民との協働、主要な政策における課題とその対応などについて学びます。		
履修条件・留意点	この授業は、公務員志望者向けです。 自治体の政策は多種多様ですので、地域共生論を履修し、福祉・教育に関する内容を深めることを推奨します。 公務員特別演習を履修することを推奨します。 各分野については、ゲストスピーカー（実務家）を招きますので、都合により授業の内容変更や順番が入れ替わることがあります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・文献（特に、地方自治体の計画書）を読み説くことができる。 ・レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッション等ができる。 ・自治体の政策形成、自治体による違いを調査、理解し、発表することができる。 ・実務家の話を直接聞くことで、地方自治体における政策形成と実践を学ぶことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表等については授業中に講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特定の教科書は指定せず、資料等は授業で紹介します。	ISBN	なし
参考書	①日本の地方政府, 曽我謙悟, 中公新書, 2019 年 ②もしもわたしが「株式会社流山市」の人事部長だったら, 手塚純子, 木楽舎, 2020 年 ③実践ダイバーシティこおりやまと私　微力は無力じゃない, 阿部のり子, 生活思想社, 2024 年 ④はにわマラソン いっちょマラソンで町おこしや！, 蓮見恭子, 双葉文庫, 2024 年 ⑤コミュニティ自治の未来図　共創に向けた地域人財づくりへ, 大杉覚, ぎょうせい, 2021 年 ⑥これからの地方自治の教科書　改訂版，大森彌，・大杉覚，　第一法規，2021 年 ⑦公務員という仕事, 村木厚子, ちくまプリマー新書, 2020 年 ⑧公務員のすすめ　世の中を変える地方自治体の仕事, 泉房穂, 小学館新書, 2025 年	ISBN	①9784121025371 ②9784863241503 ③9784916112347 ④9784575528145 ⑤9784324110171 ⑥9784474076990 ⑦9784480683762 ⑧9784098254903
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	

	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	１．行政の各分野の学習では、フィールドワークを実施することがあります（授業時間外になる場合もあります）。 ２．授業中のマナー 授業は Forms の回答などの場合を除き、スマートフォンの使用は禁止します。 ３．他科目の履修 地域共生論、地方自治論、地方自治法、政治学に関する科目、公務員特別演習の履修を推奨する。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス ・秋学期の学習内容	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	２時間
第２回	対面	政策形成演習３ ・政策提案のプレゼンテーション ・相互評価	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	２時間
第３回	対面	政策形成演習４ ・政策提案のプレゼンテーション ・相互評価	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	２時間
第４回	対面	政策形成演習５ ・政策提案のプレゼンテーション ・ゲストスピーカー（自治体担当者）による講評	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	２時間
第５回	対面	政策形成演習６ ・政策提案のプレゼンテーション ・講評を受けての修正検討	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	２時間
第６回	対面	市町村総合計画の実際１２ ・自治体内の総合調整機能（行財政改革等）（ゲストスピーカー）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	２時間
第７回	対面	市町村総合計画の実際１３ ・自治体内の総合調整機能（人事行政）（ゲストスピーカー）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	２時間
第８回	対面	市町村総合計画の実際１４ ・自治体内の総合調整機能（自治体財政）（ゲストスピーカー）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	２時間
第９回	対面	市町村総合計画の実際１５ ・シティプロモーション、観光（ゲストスピーカー）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	２時間
第１０回	対面	市町村総合計画の実際１６ ・コミュニティ政策（ゲストスピーカー）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	２時間
第１１回	対面	市町村総合計画の実際１７ ・地域福祉政策と社会福祉協議会（ゲストスピーカー）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	２時間
第１２回	対面	市町村総合計画の実際１８ ・各分野の振り返り（１２～１７） ・プレゼンテーション	事前学習：プレゼンテーションの準備をする。（２時間） 事後学習：プレゼンテーションで教員や他の学生から得たコメントをもとに復習する。（２時間）	２時間

第１３回	対面	市町村総合計画の実際１９ ・行政評価１	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	2 時間
第１４回	対面	市町村総合計画の実際２０ ・行政評価２	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	2 時間
第１５回	オンデマンド	秋学期のまとめ	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	2 時間

科目名	演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	古田　隆	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	政策法務を学んで 、法律を使いこなす公務員を目指す		
授業の目的及び概要	政策実現のために立法、争訟、法執行などを検討する取組みを政策法務というが、特にこのうちの立法法務をこの演習で学ぶ。 条例の立案や法制執務などに関する書籍を全員で読んだ後、グループで条例案を立案し、その案を全員で議論する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・他の者の見解等を十分に聴き、検討し、意見を述べるようになること。 ・文献などを読解する能力を得ること。 ・報告資料の作成、プレゼンテーション能力、政策立案能力を得ること。 ・論理的な思考を身につけること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告やレジュメの内容に対するアドバイス等を演習中に行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、指定都市職員として 39 年間勤務し、部長級まで務め、条例等審査、不服審査、訴訟などの自治体法務に通算 24 年携わったほか、行財政改善、社会福祉法人の監査等の分野において政策形成に関与した。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	「 Ｑ＆Ａ実践法制執務－条例立案者が悩まないための精選 90 問」，長谷川彰一，ぎょうせい，2025 年	ISBN	978-4-324-11474-2
参考書	「 新訂ワークブック法制執務第２版」，法制執務研究会（編），ぎょうせい，2018 年	ISBN	978-4-324-10388-3

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・授業は原則出席すること。積極的に参加することを期待している。 ・担当教員は、地方公共団体（指定都市）に 39 年間勤務し、そのうち通算 24 年間法務（条例等の審査、行政不服申立て、訴訟等）を担当したほか、コンプライアンス、法人監査等も担当した。こうした実務経験も交えて授業を進めるので、公務員の仕事や、法務を通じた政策実現などに興味がある学生の履修を期待する。 ・文献を調べたり読んだり、発表を行うことなどは楽ではないが、公務員等になるには必要なスキルである。楽しみながら取り組もう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	演習全体のオリエンテーション。演習の進め方等についてのガイダンスを行う。	【事後学修】行政法全般にわたって書籍で予習をしておく。（２時間） 【事後学修】報告対象の内容を検討する。（２時間）	４時間
第２回	対面	各グループでの条例案の立案（１）	【事前学修】テーマに係る資料等を調査する。（２時間） 【事後学修】資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第３回	対面	各グループでの条例案の立案（２）	【事前学修】テーマに係る資料等を調査する。（２時間） 【事後学修】資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第４回	対面	各グループの条例案の報告（１）	【事前学修】テーマに係る資料等を調査する。（２時間） 【事後学修】討議結果を踏まえて再検討し、資料等で得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第５回	対面	各グループの条例案の報告（２）	【事前学修】テーマに係る資料等を調査する。（２時間） 【事後学修】討議結果を踏まえて再検討し、資料等で得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第６回	対面	各グループの条例案の報告（３）	【事前学修】テーマに係る資料等を調査する。（２時間） 【事後学修】討議結果を踏まえて再検討し、資料等で得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第７回	対面	各グループの条例案の報告（４）	【事前学修】テーマに係る資料等を調査する。（２時間） 【事後学修】討議結果を踏まえて再検討し、資料等で得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第８回	対面	各グループの条例案の報告（５）	【事前学修】テーマに係る資料等を調査する。（２時間） 【事後学修】討議結果を踏まえて再検討し、資料等で得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第９回	対面	各グループの条例案の報告（６）	【事前学修】テーマに係る資料等を調査する。（２時間） 【事後学修】討議結果を踏まえて再検討し、資料等で得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１０回	対面	各グループの条例案の報告（７）	【事前学修】テーマに係る資料等を調査する。（２時間） 【事後学修】討議結果を踏まえて再検討し、資料等で得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１１回	対面	各グループの条例案の報告（８）	【事前学修】テーマに係る資料等を調査する。（２時間） 【事後学修】討議結果を踏まえて再検討し、資料等で得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１２回	対面	各グループの条例案の報告（９）	【事前学修】テーマに係る資料等を調査する。（２時間） 【事後学修】討議結果を踏まえて再検討し、資料等で得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１３回	対面	各グループの条例案の報告（10）	【事前学修】テーマに係る資料等を調査する。（２時間） 【事後学修】討議結果を踏まえて再検討し、資料等で得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１４回	対面	各グループの条例案の報告（11）	【事前学修】テーマに係る資料等を調査する。（２時間） 【事後学修】討議結果を踏まえて再検討し、資料等で得た知識等を確認する。（２時間）	４時間
第１５回	オンデマンド	秋学期のまとめ	【事前学修】全ての資料等をに目を通しておく。（２時間）	４時間

			【事後学修】全ての資料等を読み直し、得た知識等を確認する。（２時間）	

科目名	演習ⅡB	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中久保　寛幸	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察活動と法　～警察活動における判断基準と実務手続き～		
授業の目的及び概要	警察活動の現状とその法手続きについて理解することを目的としています。 警察における各種の職務執行に関する現状や必要な基礎的知識を修得し、その法的手続きについての限界や適法性等について研究をします。		
履修条件・留意点	原則として、演習ⅡA の本クラス履修生とします。 学生研究発表大会への出場を推奨し、出場者については加点対象とします。 警察法令概論、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、少年法などの科目履修を推奨します。 公務員特別演習ⅡA・B の履修を強く推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①警察活動がどのような規定に基づき、どのように行われているのかを理解し、説明することができる。 ②警察活動に関する適法事例、違法事例の詳細について研究・理解し、説明することができる。 ③日常発生する事件・事故等に対する警察活動の適法性について、自らの意見を法的根拠や判例に基づいて説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義　第４版，津田隆好，東京法令出版，2019 年 ②実例中心捜査法解説　第４版　－捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門－，幕田英雄，東京法令出版，2019 年 ③刑事訴訟法講義　第 7 版，池田修・前田雅英，東京大学出版会，2022 年 ④注釈警察官職務執行法　５訂版，古谷洋一，立花書房，2021 年 ⑤警察行政法解説　第 3 版，田村正博，東京法令出版，2022 年 ⑥新版　警察行政概論，金山泰介，三恵社，2025 年	ISBN	①9784809013959 ②9784809013973 ③9784130323963 ④9784803722314 ⑤9784809014444 ⑥9784866939964

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	30
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	10
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	公安職を目指す学生が即戦力として活躍できる人材になるためには、現場活動の基礎や法的根拠を学び、自ら進んで考えることにより、判断力・行動力を身に付けることが最も重要です。私のこれまでの経験を活かし、犯罪捜査を始めとする警察活動で要求される知識や技能、その法的根拠や判例に基づく判断基準などを伝えたいと考えています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	秋学期の授業方針等の説明を行い、発表グループの再編成を行います。 各グループごとの研究テーマについて討議・選定を行い、選定したテーマと選定理由を発表します。	【予習】春学期の総括を基に秋学期の取組みについてまとめておく。関心のある過去の事件・判例について調べておく。 【復習】研究課題に関する関係法令、判例等について見直しておく。	4 時間
第２回	対面	争点の絞り込み、課題の調査等を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きのどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第３回	対面	「調査・研究の分担、各調査・研究の実施と各資料の作成①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きの適法性、違法性についても検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第４回	対面	「調査・研究の分担、各調査・研究の実施と各資料の作成②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。捜査手続きの適法性、違法性についても検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第５回	対面	「研究テーマの中間発表」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について、十分に理解し説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	4 時間
第６回	対面	「各調査・研究の実施と各資料の作成・修正①」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容について理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評についいて再度検討し、修正しておく。	4 時間
第７回	対面	「各調査・研究の実施と各資料の作成・修正②」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容について理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第８回	対面	研究発表大会出場者による「最終発表(リハーサル)①」を行います。	【予習】発表内容等の確認とリハーサルをしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4 時間
第９回	対面	研究発表大会出場者は「研究結果の振返りと資料の修正①」を行います。 非出場者は「研究課題の集約とプレゼン準備①」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容について理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第１０回	対面	研究発表大会出場者は「研究結果の振返りと資料の修正②」を行います。 非出場者は「研究課題の集約とプレゼン準備②」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容について理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検	4 時間

			討し、修正しておく。	
第１１回	対面	研究発表大会出場者は「研究結果の振返りと資料の修正③」を行います。 非出場者は「研究課題の集約とプレゼン準備③」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第１２回	オンデマンド	課題提出	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第１３回	対面	「研究結果の発表と全体討議①」を行います。	【予習】発表に関する分担の確認とリハーサルをしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4 時間
第１４回	対面	「研究結果の発表と全体討議②」を行います。	【予習】発表に関する分担の確認とリハーサルをしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4 時間
第１５回	対面	秋学期の振り返りと総括を行います。	【予習】秋学期の自身の学修結果について、発表できるようにまとめをしておく。 【復習】秋学期の自身の学修結果に関して総括をしておく。	4 時間

科目名	演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	渡邉　康行	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	卒業論文を執筆する。		
授業の目的及び概要	各自の設定した卒業論文のテーマについて、繰り返し、進展の状況を報告する。最終的には卒業論文として完成させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主たる判例に関連する判例・学説を調査することができる能力、それらを精読する能力、それを基に自分の意見を作り、他人に対して説明する能力、報告者の見解を的確に理解し、それとは異なった観点を提示する能力などを養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業のなかで解説・講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特になし。	ISBN	なし。
参考書	授業のなかで紹介します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	憲法Ⅰ、憲法Ⅱ（人権）、憲法Ⅱ（統治）を履修することを求めます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第２回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第３回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第４回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間

第５回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第６回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第７回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第８回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第９回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１０回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１１回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１２回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１３回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１４回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの授業のまとめ	これまでの授業を復習する。	4 時間

科目名	演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	坂上　文一	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民事及び行政の裁判に関する研究　裁判実務の視点から		
授業の目的及び概要	（目的） 本演習は、民事及び行政に関する主要な最高裁判例などを題材として、担当教員の約２７年間における裁判官としての実務経験を踏まえた事実認定の手法（方法）、法律上の問題点（争点）に対する検討のあり方を教示、指導し、本演習を履修することにより、社会に出て、民事紛争に関わった際、その問題の本質を理解し、具体的な事案に即した妥当な解決を図る能力を身に付けることを目指します。 ３年生の演習Ⅱとあわせて２年間の演習の成果として、各自が調査、研究、報告した成果をまとめたゼミ報告レポート集（卒業研究に相当するもの）を完成させることを目標とします。 （概要） 初回の授業時にガイダンスを行い、２回目以降の授業内容（報告担当者、報告対象とする判例等）を決定します。 演習の運営としては、基本的には、受講生の方々に分担して行ってもらいます。 担当教員は、適宜、受講生の質疑応答・議論の補足説明（フォロー）を行います。		
履修条件・留意点	学修効果の観点から、民法総則Ⅰ、物権法Ⅰ、債権総論Ⅰ、債権各論Ⅰ、家族法Ⅰ、民事訴訟法Ⅰ及び行政救済法Ⅰの各講義を履修していることを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．自ら関心のあるテーマに関する法制度・改正の具体的な内容について調べ、説明することができる。 ２．関連する裁判例や学説を調査・分析して、説明することができる。 ３．民法に関する基本問題を含む、民事紛争の解決手段・方法についても理解を深め、これを活かして、具体的事案につき、妥当な結論を導くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告のやり方やレジュメの作成方法については適宜、演習中において、助言、指導します。 報告内容等につき、授業中において、適宜、解説や講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	演習中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
参考書	演習中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	法学部指定六法を必ず持参すること。 正当な理由のない欠席、遅刻、演習中の私語、演習と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁、違反者に対しては厳しく対応する。 演習での積極的、自発的な参加、発言を求めます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス・担当テーマを考える。 報告担当の決定。	【事前学修】自分が希望する担当テーマ（出来れば、複数）を検討、抽出する。演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】自分が担当することになったテーマに関する文献、裁判例を探し、事後の報告のための準備を行う。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	4 時間
第２回	対面	今後の報告・議論の方法に関する指導	【事前学修】自分が希望する担当テーマ（出来れば、複数）を検討、抽出するし、事前に配布された資料を読み、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】自分が担当することになったテーマに関する文献、裁判例を探し、事後の報告のための準備を行うとともに、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	4 時間
第３回	対面	担当者による報告・議論（１）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	4 時間
第４回	対面	担当者による報告・議論（２）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	4 時間
第５回	対面	担当者による報告・議論（３）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	4 時間
第６回	対面	担当者による報告・議論（４）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	4 時間
第７回	対面	担当者による報告・議論（５）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	4 時間

第８回	対面	担当者による報告・議論（６）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	４時間
第９回	対面	担当者による報告・議論（７）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	４時間
第１０回	対面	担当者による報告・議論（８）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	４時間
第１１回	対面	担当者による報告・議論（９）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	４時間
第１２回	対面	担当者による報告・議論（１０）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	４時間
第１３回	対面	担当者による報告・議論（１１）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	４時間
第１４回	対面	担当者による報告・議論（１２）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	４時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ	【事前学修】事前配布された資料を読んで、疑問点がないか確認する。 【事後学修】オンデマンド動画を視聴した上で、配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	４時間

科目名	演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	大場　史朗	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法学・政治学の総合的演習（１）：研究テーマの設定		
授業の目的及び概要	本演習は、法学および政治学の基礎的知識を踏まえ、現代社会の諸問題を多角的に分析する力を養うことを目的とする。具体的には、文献講読や判例・政策事例の検討、討論・発表等を通じて、法的思考と政治的視座を相互に関連づけながら、問題発見力・論理的思考力・表現力の向上を図る。さらに、主体的かつ協働的な学修を通じて、実践的な課題解決能力の涵養を目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）法学・政治学の基本的な概念等を理解し、説明することができる。 （２）法学・政治学に関する精確な現状分析をすることができる。 （３）具体的事案に即して人権侵害の有無を判断できる能力を身につける。 （４）相手の意見を尊重し、それに対して自分の意見を言うことができる。 （５）チームワークを身に付けることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業中に解説及び講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しない。	ISBN	なし
参考書	授業内で適宜指示する。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この演習では受講生の自主性が重要となる。３年次までの学修を基礎として、法学・政治学の研究テーマの設定を目標として学修を進めることを予定している。 情報検索・文献収集の方法、論文の書き方、判例の読み方等もあわせて学習する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、授業の進め方などのレクチャー ＊授業計画は柔軟に変更することがあります	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第２回	対面	受講生による報告と議論（１）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。	4 時間

			【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	
第３回	対面	受講生による報告と議論（２）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第４回	対面	受講生による報告と議論（３）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第５回	対面	受講生による報告と議論（４）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第６回	対面	受講生による報告と議論（５）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第７回	対面	受講生による報告と議論（６）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第８回	対面	受講生による報告と議論（７）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第９回	対面	受講生による報告と議論（８）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第１０回	対面	受講生による報告と議論（９）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第１１回	対面	受講生による報告と議論（１０）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第１２回	対面	受講生による報告と議論（１１）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第１３回	対面	受講生による報告と議論（１２）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第１４回	対面	受講生による報告と議論（１３）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第１５回	オンデマンド	研究テーマに関するレポート作成・提出	演習内での議論・指摘を踏まえて、研究テーマに関するレポートを提出してください。	４時間

科目名	演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	手嶋　豊	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法・財産法分野の最高裁判例の検討		
授業の目的及び概要	民法に関する最高裁判決のうち、重要と思われるものを選んで検討し、民法・財産法の理解を確かなものにすることを目的とする。		
履修条件・留意点	民法・財産法は、全体を俯瞰することで理解が進む側面がある。可能な限り早く、民法全体を学ぶことをお勧めするが、本演習はその助けとなりうるものである。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・民法・財産法に関する基礎知識を確かなものとし、演習を通じて、共同報告や質疑応答を実施できる、実践的な経験を得ること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・報告・レジュメに対する講評・アドバイスを演習中に行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	該当しない
参考書	指定しない。	ISBN	該当しない。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	目標をもって、積極的に民法を学ぼうという意欲のある皆さんの参加を期待している。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	演習全体のオリエンテーション。演習の進め方、自己紹介、担当判決の割当て、到達目標等についてのガイダンス。	事前学修：民法全体について、総復習をしておく。3 時間。 事後学修：報告を担当する判決について調査を始める。1 時間。	4 時間
第２回	対面	教員が判決を報告し、それをもとに参加者全員で討論する。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第３回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。	4 時間

		める。	事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	
第４回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第５回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第６回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第７回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第８回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第９回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１０回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１１回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１２回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１３回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１４回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間

第１５回	オンデマンド	これまで取り上げられた判決を振り返り、判例に関する知識を確かなものとする。	事前学修：演習で取り上げた判決の事実関係・判旨を再度読み返す。1 時間。 事後学修：演習で取り上げられた判決の民法上の位置づけについて確認する。3 時間。	4 時間

科目名	演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	兪　珏根	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	#NAME?		
授業の目的及び概要	労働法は労働者の一生，企業の存立に関わる問題で具体的な利害関係に対して実際に生じた争いを解決する実定法であります。法解釈は社会情勢と密接に関連してありますので労働法を学ぶには具体的事例の検討が重要だと思います。演習では、労働契約法、労働基準法など個別的労働関係を題材として、重要判例を「労働判例百選」などを中心に，実際の労働現場でどのような利益対立があり，それに対して労働法がどのように解釈されて結論が導かれたのか等々，演習を通じて皆さんと討論しながら理解を深めたいと思います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	－基本的な労働判例における利害関係，争点，具体的処理とその妥当性の検討等を通じて実務演習における応用を学ぶことにする。 －進路指導を相談する。論文の書き方に対して指導する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告のやり方やレジュメ作成については、初回及び 2 回の授業で指導する。重要判例についてテーマを決め、演習授業の前に事案の概要，争点，事実認定、判断根拠，判定理由順に発表してもらい、その後，担当教授のコメント、学生たちの質疑応答の時間をとり結論を出す。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	荒木尚志・奥田香子『ケースブック労働法第 4 版』有斐閣 2019 年 村中孝史・荒木尚志『労働判例百選　第 10 版』 有斐閣 2022 年	ISBN	9784641144743 9784641115576C9432
参考書	野田進外多数『判例労働法入門第 7 版』有斐閣 2021 年	ISBN	9784641243477

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	50
その他の内容	0

この科目の受講にあたって
・法学部指定六法を持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器の使用は厳禁。 ・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。 ・演習は労働法を題材に、労働問題の解決能力を修得し、法理論と関連事例などの多様なテーマについて討論を楽しみながら勉強する。 ・雇用関係と労使関係に対する探究は将来的に就労活動にも対応できるような知識になる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	ガイダンス・自己紹介、発表担当者の決める。	【予習】シラバシを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直す。	4 時間
第２回	対面	主題：個別的労働関係における使用者 - 黒川建設事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第３回	対面	主題：ネスレ日本懲戒解雇事件 - 懲戒権の行使濫用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第４回	対面	主題：小田急電鉄事件 - 私生活の非行	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第５回	対面	主題：労働基本権の制限 - 全農林警職法事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第６回	対面	主題：日本航空事件 - 整理解雇	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第７回	対面	主題：フォセコ・ジャパン・リミテット事件 - 競業避止義務	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第８回	対面	主題：津田電機計器事件 - 定年と継続雇用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第９回	対面	主題：川崎市水道局事件 - 職場のいじめ	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１０回	対面	主題：採用の内定 - 大日本印刷事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１１回	対面	主題：札幌中央労基署長事件 - 通勤災害	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１２回	対面	主題：人格権の尊重 - 関西電力事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１３回	対面	主題：国鉄団交拒否事件 - 団体交渉対象	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１４回	対面	主題：プライバシー保護 - 社会医療法人天神会事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括まとめ	総合的に整理する。	4 時間

科目名	演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉原　裕樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法判例研究		
授業の目的及び概要	３年時秋学期と同様に、双方向・多方向型にて、憲法に関する判例研究を行う。 毎回、担当教員が事前に判例を指定し、受講生全員があらかじめその判例について予習してきたうえで、授業時には、担当教員が受講生を指名して、判例の内容等について質問する（双方向・多方向型）。これにより、判例の理解を深める。		
履修条件・留意点	この科目の単位を取得するためには、担当教員が事前に指定した判例を予習したうえで、授業に継続的に出席し、授業内容に取り組む必要がある。 授業に継続的に出席しない場合や、授業に出席しても判例の予習ができていない場合には、この科目の単位を取得することはできない。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主要な憲法判例について理解している。【ＤＰ１】【ＤＰ２】 そのうえで、理解した内容を的確に口頭で説明し、他者と討議することができる。【ＤＰ３】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向・多方向型のやりとりにより、憲法判例に関する受講生の理解を確認する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しない。	ISBN	テキストは使用しない。
参考書	①憲法判例（第９版），戸松秀典ほか編著，有斐閣，2025 年 ②憲法判例百選１・２（第８版），長谷部恭男ほか編，有斐閣，2025 年 ③憲法（第３版），渋谷秀樹，有斐閣，2017 年 ④憲法（第８版），辻村みよ子，日本評論社，2025 年 ⑤日本国憲法論（第２版），佐藤幸治，成文堂，2020 年	ISBN	①9784641228894 ②9784641213449　， 9784641213456 ③9784641227231 ④9784535529038 ⑤9784792306724

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	95
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	5
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	毎回、担当教員が事前に指定した判例を、十分に予習する必要がある。 判例の予習にあたっては、①事案の概要、②憲法解釈上の争点、③当該争点に関する裁判所の判断、を意識することが重要である。 卒業論文の指導は、憲法に関する内容であれば可能である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第２回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第３回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第４回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第５回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第６回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第７回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第８回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第９回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１０回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１１回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１２回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１３回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１４回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括と課題の指摘 これまでの授業内容を振り返り、今後の学修に向けた課題を指摘する。	これまでの内容を復習する。	4 時間

科目名	演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	石尾　賢二	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	卒論準備		
授業の目的及び概要	法律問題の中から自分が問題と思う問題を見つける。 その問題について扱った文献を調べる。判例があれば判例を調べる。 調べた結果、自らの意見を明確にして、報告する。 議論を実施し、その結果を結論に反映する。 卒論を完成させる。 集団での討論によって問題解決を図ることを目的とし、報告者の適切な問題提起と報告を受けた者の適切に意見表明の促進を意図する。 これらのことを通して様々な部門での自主的な問題解決能力が促進されることを企図する。自主的な勉学は各種試験のためにも役立つものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 社会問題について問題点の基本的な事項について理解し、判断することができる。 2. 報告者は検討したことを授業で適切に報告することができる。 3. 報告者以外の者は報告に対して適切に自分の意見を述べることができる。 4. 各人の意見表明を受けて適切な結論を導く方法を探求する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員は報告者のレジュメについての事前に質疑を受け、事後に意見を述べ。授業での議論について意見を述べる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	各種判例集(民集、判例時報、判例タイムズ)、判例百選が有用である。これらはデータベースでも利用できる。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	80
その他の内容	0

この科目の受講にあたって
積極的な姿勢を重視します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス	皆さんからの意見を中心に進めます。	4 時間

		ゼミの方法を説明する。		
第２回	対面	２回目の授業はまず教員が報告し、全員で議論を実施する。	事前に資料を読む。	4 時間
第３回	対面	担当の順番は学生が決定する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第４回	対面	担当の順番による報告となる。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第５回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第６回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第７回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第８回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第９回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第１０回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第１１回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第１２回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第１３回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第１４回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間
第１５回	オンデマンド	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を踏まえて自ら再度、問題点を整理し、意見をまとめる。	4 時間

科目名	演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	杉本　拓海	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	判例・事例を通して刑事法を学ぼう		
授業の目的及び概要	【目的】 なんとなくダラダラ過ごしても、一生懸命に打ち込んでも、大学生活なんてあっという間に過ぎていきます。大学生活ってチュートリアルみたいなものだと思います。教員が補助して導いてくれるし、本気で挑戦して失敗しても怒られない。ただ、チュートリアルで獲得した能力は本編（社会人）に引き継がれるし、人生はオートセーブでリセットも不可なので、ダラダラと過ごしてスキップしちゃうのは後々を考えると怖いな、とも思います。大学生活が、人生で一番能力を伸ばすことができる期間です。 なので、この演習では刑法・刑事訴訟法に本気で取り組むことを通して、基礎的な能力を向上させたいと思います。具体的には、刑事法の体系的理解の獲得に加え、論理的思考力、調査能力、読解能力、報告・伝達能力（いわゆるコミュニケーション能力）、突破力といった今後の人生で必要となる基本的な能力を涵養することを目的とします。とりわけ、「判例を読む能力」を涵養することを目指します。 【概要】 刑事法は、手続法である刑事訴訟法と実定法である刑法からなります。本演習では、刑事訴訟法の重要判例と刑法の重要判例の両方を２年かけて学ぶことで、刑事法全体の理解をめざします。 4 年生における演習Ⅲでは、卒業論文の執筆を一つの目標として学習を進めていきます。各自の研究テーマそれに沿って調査し、報告をしてもらいます。 担当者の報告をもとに、受講生同士の議論を中心にゼミを進めていき、ときに担当教員からの疑問に答えることで、刑法をより深く理解できるようにします。 【その他】 楽しくて良い雰囲気ゼミにしたいと思います。		
履修条件・留意点	・適宜皆さんの希望に沿って変更を加えることがあります。 ・刑法総論、刑法各論の知識が必要となります。それぞれの科目の履修を強く推奨します		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑事法の体系的理解を獲得する ・刑事法を学問として探求するための基礎力を身につける ・事案を分析し、判例の射程を検討する能力を身につける ・他者と共同して報告を遂行する能力を身につける ・調査・報告・討論といった、研究のための基礎的能力を獲得する 【ＤＰ１】【ＤＰ２】【ＤＰ３】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に口頭でのフィードバックを実施します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	特に指定しませんが、刑法および刑事訴訟法の基本書を一冊ずつ準備しておいてください。	ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
	成果発表（口頭・実技）	50

	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・卒業論文を執筆してください。卒業後の記念と思い出になります ・報告者ではない人も、事前にレジュメ等を熟読した上で臨んでください ・毎週の楽しみになるようなゼミにしていきましょう！ ・本気で取り組むと少ししんどいかもしれませんが、その分突破したときのやりがいと成長がありますので、がんばりましょう。大切なのは意地と根性です。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【ガイダンス】 今後の進め方の相談・確認 各回の報告の担当者の決定	刑法を一通り復習しておいてください。	4 時間
第２回	対面	【次回以降の報告の準備】 今後の授業進行のための基本的な事項の確認・個別対応など	授業時間中に確認・相談したことをもとに、各自でも準備を進めておいてください。	4 時間
第３回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第４回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第５回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第６回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第７回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第８回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間

第9回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第１０回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第１１回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第１２回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第１３回	対面	報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第１４回	オンデマンド	【振り返り】 内容面についての振り返りを行い、適宜解説を加えます	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4時間
第１５回	対面	【まとめと総括】 演習・報告を振り返り、修得した内容について議論します。	【復習】 報告レジュメを見返し、知識の定着を図ってください。	4時間

科目名	演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	企業（会社・個人事業）に関わる法的問題を考える。		
授業の目的及び概要	私たちは、生きていくために働く。自分一人でモノ作りなどして働く者もいれば、プロスポーツ選手もいるし、自ら起業して人を雇う者、会社を立ち上げて経営する者、会社に就職して働く者、さまざまである。ただ、その周りには、必ず誰かが存在し、トラブルや法的問題が生じることが少なくない。 　大雑把にいえば、そのようなビジネスに関わる法的問題に関心を寄せ、それらを検討・分析・議論し、一定の結論に導き、それを報告することにより、今後の人生に活かすことができることを目的とする。 　演習は、受け身ではなく、自分で考え、疑問があれば質問し、自由に見解を述べることが最も重要であり、それこそが将来にも役立つ。 　演習の進め方は（１）ビジネスシーンで起こりうる事件を題材に、個人またはグループで検討し、報告する。 （２）報告者以外のメンバーも同じ題材を学修し、質疑やディスカッションを積極的に行う。 　演習の人数規模やメンバーの興味関心により、進め方は柔軟に変更する。 　上記の報告を卒業研究として成果物とすることを目標とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・積極的に自分の意見を述べることができる。 ・企業に関する基礎的な法的知識を獲得することができる。 ・報告資料の作成、プレゼンテーション能力を獲得することができる。 ・論理的・発展的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表・報告内容については、レジュメ等を含めて授業内において、修正・アドバイスを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。	ISBN	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、授業の進め方・報告方法の説明、報告者の決定。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第２回	オンデマンド	判例の検索方法・レジュメの作成方法・報告方法の再確認。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第３回	対面	受講生による報告と議論（１）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第４回	対面	受講生による報告と議論（２）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第５回	対面	受講生による報告と議論（３）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第６回	対面	受講生による報告と議論（４）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第７回	対面	受講生による報告と議論（５）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第８回	対面	受講生による報告と議論（６）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第９回	対面	受講生による報告と議論（７）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１０回	対面	受講生による報告と議論（８）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１１回	対面	受講生による報告と議論（９）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１２回	対面	受講生による報告と議論（10）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１３回	対面	受講生による報告と議論（11）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１４回	対面	受講生による報告と議論（12）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。	4 時間

			【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	
第１５回	対面	受講生による報告と議論（13)、春学期の総括。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間

科目名	演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	大島　一悟	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法重要課題の研究		
授業の目的及び概要	民法の特定課題に関する卒業研究のため、研究対象とするテーマを選定し、関連する資料・文献を集め、基本的な研究を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．研究テーマとして、自身が関心のある民法の課題を選定できる。 ２．自身が選定したテーマについて基本的な研究を行い、レポートを作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	作成したレポートや授業中に発表した研究成果については、授業中や授業外の時間に講評やより良いレポートにするためのアドバイスを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	各自の研究テーマに応じて適宜アドバイスを行うため、テキストは指定しません。	ISBN	なし
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜アドバイスを行うため、参考書は指定しません。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	作成する研究レポートは、秋学期の卒業研究に生かせるよう、充実したもの仕上げてもらいたい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ゼミの運営方法の説明を行った後、各自の研究テーマを決定し、各回の報告担当者を決定する。	事前に３年次までに学修した民法上の課題や論点のうち、関心があるものについて学修し、卒業研究のテーマを考えておく。 事後に自身の報告日までの研究スケジュールをたて、報告日の報告に向けた資料収集などの準備を始める。	4 時間
第２回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応	4 時間

			答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	
第３回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第４回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第５回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第６回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第７回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第８回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第９回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第１０回	オンデマンド	課題レポートを提出することで、第 10 回授業に振り替える。	レポート課題の内容や提出方法等については、ラーニングポータル等で案内するので、課題の内容を確認し、作成して提出すること。	4 時間
第１１回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。	4 時間

			事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	
第１２回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第１３回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第１４回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間
第１５回	対面	全参加者が、春学期の研究成果を報告し、研究レポートを作成して提出する。	事前に自身の卒業研究レポートを作成し、準備をしたうえで当日報告する。 事後に報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業研究レポートの修正を行う。	4 時間

科目名	演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	石川　英樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察と法～警察官の判断基準と行動原理～		
授業の目的及び概要	・　第一線で単独執行を求められることのある警察官の法的根拠に基づく判断基準と行動原理を修得する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・　警察官職務執行法を学び警察官を主体とする職務権限の範囲と限界等第一線で単独執行を求められることのある警察官として必要な基本的知識等を習得できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・次回授業でコメントシートを紹介し、質問への回答や補足説明を行い、理解を深めます。 ・授業で発表、討議した研究結果はその都度授業で担当教員から実学に直結する講評をコメントします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	担当教員は奈良県警察本部にて、３６年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	・　指定しません。 ・　教員から研究発表課題を事前に提示します。	ISBN	なし。
参考書	・　指定しません。 ・　教員から研究課題を事前に提示します。	ISBN	なし。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・　治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道である。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。 ・　しかし警察官として３６年間勤務した私が確信しているのは、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援していることです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。

	・　「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・　春学期の授業方針の説明を行い、発表グループを編成、受講生の意思統一を構築する。 ・　授業計画は必要性、受講生の希望等により変更することがある。 ・　担当教員が警察官職務執行法の概要を説明する。 ・　担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示する。	警察官職務執行法についてあらかじめ概要について読了し理解をしておくこと。 担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、提示された課題について関係条文、判例を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第２回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第３回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第４回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第５回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第６回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で発表、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで研究、討議した、警察官職務執行法に関する小テストを行うので、復習しておくこと。	4 時間
第７回	対面	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として前半の自身の学修結果に関する総括をしておくこと。	4 時間
第８回	対面	前半の総括を実施し、後半の演習に反映する。	授業の総括結果を復習しておくこと。 担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第９回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第１０回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間

第１１回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第１２回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第１３回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで討議した、警察官職務執行法に関する小テストを行うので、予習しておくこと。	4 時間
第１４回	オンデマンド	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として春学期の自身の学修結果に関する総括をしておくこと。	4 時間
第１５回	対面	春学期の演習を振り返り総括を行う。	復習として春学期の自身の学修結果に関して総括し、ノートに整理しておくこと。	4 時間

科目名	演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中久保　寛幸	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察活動と法　～警察活動における判断基準と実務手続き～		
授業の目的及び概要	警察活動の現状とその法手続きについて理解することを目的としています。 警察における各種の職務執行に関する現状や必要な基礎的知識を修得し、その法的手続きについての限界や適法性等について研究をします。		
履修条件・留意点	原則として、演習ⅡA・B の本クラス履修生とします。 公務員特別演習ⅢA・B の履修を強く推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①警察活動がどのような規定に基づき、どのように行われているのかを理解し、説明することができる。 ②警察活動に関する適法事例、違法事例の詳細について研究・理解し、説明することができる。 ③日常発生する事件・事故等に対する警察活動の適法性について、自らの意見を法的根拠や判例に基づいて説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義　第４版，津田隆好，東京法令出版，2019 年 ②実例中心捜査法解説　第４版　－捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門－，幕田英雄，東京法令出版，2019 年 ③刑事訴訟法講義　第 7 版，池田修・前田雅英，東京大学出版会，2022 年 ④注釈警察官職務執行法　５訂版，古谷洋一，立花書房，2021 年 ⑤警察行政法解説　第 3 版，田村正博，東京法令出版，2022 年 ⑥新版　警察行政概論，金山泰介，三恵社，2025 年	ISBN	①9784809013959 ②9784809013973 ③9784130323963 ④9784803722314 ⑤9784809014444 ⑥9784866939964

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	公安職を目指す学生が即戦力として活躍できる人材になるためには、現場活動の基礎や法的根拠を学び、自ら進んで考えることにより、判断力・行動力を身に付けることが最も重要です。私のこれまでの経験を活かし、犯罪捜査を始めとする警察活動で要求される知識や技能、その法的根拠や判例に基づく判断基準などを伝えたいと考えています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業方針の説明を行います。 研究テーマの検討と選定を行います。	【予習】学期のはじめにあたり、各自の取組みについてまとめておく。関心のある過去の事件・判例について調べておく。 【復習】研究課題に関する関係法令、判例等について見直しておく。	4 時間
第２回	対面	「テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題」を行います。 テーマ選定理由等について発表します。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第３回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第４回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第５回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究③」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第６回	対面	「研究結果の中間発表準備①」　を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、警察活動の適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4 時間
第７回	対面	「研究結果の中間発表準備②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、警察活動の適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4 時間
第８回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	4 時間
第９回	対面	「研究課題の集約とプレゼン準備①」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第１０回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備②」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検	4 時間

			討し、修正しておく。	
第１１回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備③」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第１２回	オンデマンド	課題提出	【予習】発表内容等の確認とリハーサルをしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4 時間
第１３回	対面	「研究結果の発表と全体討議」を行います。	【予習】発表内容等の確認とリハーサルをしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4 時間
第１４回	対面	「研究発表のまとめ」を行います。	【予習】各発表結果の再確認をしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点等を再検討しておく。	4 時間
第１５回	対面	学期の振り返りと総括を行います。	【予習】自身の学修結果について、発表できるようにまとめをしておく。 【復習】自身の学修結果に関して総括をしておく。	4 時間

科目名	演習ⅢＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	渡邉　康行	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	卒業論文を執筆する。		
授業の目的及び概要	各自の設定した卒業論文のテーマについて、繰り返し、進展の状況を報告する。最終的には卒業論文として完成させる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主たる判例に関連する判例・学説を調査することができる能力、それらを精読する能力、それを基に自分の意見を作り、他人に対して説明する能力、報告者の見解を的確に理解し、それとは異なった観点を提示する能力などを養う。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業のなかで解説・講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特になし。	ISBN	なし。
参考書	授業のなかで紹介します。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	30
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	憲法Ⅰ、憲法Ⅱ（人権）、憲法Ⅱ（統治）を履修することを求めます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第２回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第３回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第４回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間

第５回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第６回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第７回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第８回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第９回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１０回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１１回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１２回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１３回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１４回	対面	履修者による報告	報告者はレジュメを作成して、報告する。担当者以外の受講生は、報告テーマに関する資料を事前に熟読し、討論に参加できるように準備する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの授業のまとめ	これまでの授業を復習する。	4 時間

科目名	演習ⅢＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	坂上　文一	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民事及び行政の裁判に関する研究　裁判実務の視点から		
授業の目的及び概要	（目的） 本演習は、民事及び行政に関する主要な最高裁判例などを題材として、担当教員の約２７年間における裁判官としての実務経験を踏まえた事実認定の手法（方法）、法律上の問題点（争点）に対する検討のあり方を教示、指導し、本演習を履修することにより、社会に出て、民事紛争に関わった際、その問題の本質を理解し、具体的な事案に即した妥当な解決を図る能力を身に付けることを目指します。 ３年生の演習Ⅱとあわせて２年間の演習の成果として、各自が調査、研究、報告した成果をまとめたゼミ報告レポート集（卒業研究に相当するもの）を完成させることを目標とします。 （概要） 初回の授業時にガイダンスを行い、２回目以降の授業内容（報告担当者、報告対象とする判例等）を決定します。 演習の運営としては、基本的には、受講生の方々に分担して行ってもらいます。 担当教員は、適宜、受講生の質疑応答・議論の補足説明（フォロー）を行います。		
履修条件・留意点	学修効果の観点から、民法総則Ⅰ、物権法Ⅰ、債権総論Ⅰ、債権各論Ⅰ、家族法Ⅰ、民事訴訟法Ⅰ及び行政救済法Ⅰの各講義を履修していることを強く推奨する。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．自ら関心のあるテーマに関する法制度・改正の具体的な内容について調べ、説明することができる。 ２．関連する裁判例や学説を調査・分析して、説明することができる。 ３．民法に関する基本問題を含む、民事紛争の解決手段・方法についても理解を深め、これを活かして、具体的事案につき、妥当な結論を導くことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告のやり方やレジュメの作成方法については適宜、演習中において、助言、指導します。 報告内容等につき、授業中において、適宜、解説や講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	演習中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし
参考書	演習中において、適宜、紹介、説明する予定である。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	法学部指定六法を必ず持参すること。 正当な理由のない欠席、遅刻、演習中の私語、演習と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁、違反者に対しては厳しく対応する。 演習での積極的、自発的な参加、発言を求めます。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス・担当テーマを考える。 報告担当の決定。	【事前学修】自分が希望する担当テーマ（出来れば、複数）を検討、抽出する。演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】自分が担当することになったテーマに関する文献、裁判例を探し、事後の報告のための準備を行う。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	4 時間
第２回	対面	今後の報告・議論の方法に関する指導	【事前学修】自分が希望する担当テーマ（出来れば、複数）を検討、抽出するし、事前に配布された資料を読み、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】自分が担当することになったテーマに関する文献、裁判例を探し、事後の報告のための準備を行うとともに、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	4 時間
第３回	対面	担当者による報告・議論（１）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	4 時間
第４回	対面	担当者による報告・議論（２）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	4 時間
第５回	対面	担当者による報告・議論（３）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	4 時間
第６回	対面	担当者による報告・議論（４）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	4 時間
第７回	対面	担当者による報告・議論（５）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	4 時間

第８回	対面	担当者による報告・議論（６）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	４時間
第９回	対面	担当者による報告・議論（７）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	４時間
第１０回	対面	担当者による報告・議論（８）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	４時間
第１１回	対面	担当者による報告・議論（９）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	４時間
第１２回	対面	担当者による報告・議論（１０）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	４時間
第１３回	対面	担当者による報告・議論（１１）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	４時間
第１４回	対面	担当者による報告・議論（１２）	【事前学修】担当者が事前に作成し、配布された資料を読み、自らも当該資料に関して質問、議論したい内容を検討して、演習時における教員への質問事項を準備する。 【事後学修】配布資料等を読み直し、演習で学んだことを再確認する。疑問点があれば、次回、演習時に教員に対して質問する。	４時間
第１５回	オンデマンド	秋学期のまとめ	【事前学修】事前配布された資料を読んで、疑問点がないか確認する。 【事後学修】オンデマンド動画を視聴した上で、配付資料等を読み直し、演習で学んだことを確認する。	４時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	大場　史朗	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法学・政治学の総合的演習（２）：研究レポートの提出		
授業の目的及び概要	本演習は、法学および政治学の基礎的知識を踏まえ、現代社会の諸問題を多角的に分析する力を養うことを目的とする。具体的には、文献講読や判例・政策事例の検討、討論・発表等を通じて、法的思考と政治的視座を相互に関連づけながら、問題発見力・論理的思考力・表現力の向上を図る。さらに、主体的かつ協働的な学修を通じて、実践的な課題解決能力の涵養を目指す。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）法学・政治学の基本的な概念等を理解し、説明することができる。 （２）法学・政治学に関する精確な現状分析をすることができる。 （３）具体的事案に即して人権侵害の有無を判断できる能力を身につける。 （４）相手の意見を尊重し、それに対して自分の意見を言うことができる。 （５）チームワークを身に付けることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告内容等については、授業中に解説及び講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しない。	ISBN	なし
参考書	授業内で適宜指示する。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	この演習では受講生の自主性が重要となる。３年次までの学修を基礎として、法学・政治学の研究テーマの設定を目標として学修を進めることを予定している。 情報検索・文献収集の方法、論文の書き方、判例の読み方等もあわせて学習する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、授業の進め方などのレクチャー ＊授業計画は柔軟に変更することがあります。	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第２回	対面	受講生による報告と議論（１）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。	4 時間

			【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	
第３回	対面	受講生による報告と議論（２）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第４回	対面	受講生による報告と議論（３）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第５回	対面	受講生による報告と議論（４）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第６回	対面	受講生による報告と議論（５）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第７回	対面	受講生による報告と議論（６）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第８回	対面	受講生による報告と議論（７）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第９回	対面	受講生による報告と議論（８）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第１０回	対面	受講生による報告と議論（９）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第１１回	対面	受講生による報告と議論（１０）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第１２回	対面	受講生による報告と議論（１１）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第１３回	対面	受講生による報告と議論（１２）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第１４回	対面	受講生による報告と議論（１３）	【予習】担当教員が指示した資料等を事前に読んできてください。 【復習】レジュメ・資料を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	４時間
第１５回	オンデマンド	研究テーマに関するレポート作成・提出	演習内での議論・指摘を踏まえて、研究テーマに関するレポートを提出してください。	４時間

科目名	演習ⅢＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	手嶋　豊	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法・財産法分野の最高裁判例の検討		
授業の目的及び概要	ⅢA に引き続き、民法に関する最高裁判決のうち、重要と思われるものを選んで検討し、民法・財産法の理解を確かなものにすることを目的とする。判例の学習は、実体法が実社会においてどのように運用されているかを知るうえで必須であり、これにより、それまで積み上げてきた民法の学習を理論面と実務面の両側面から立体的に体得できることが期待できる。民事判例には長文に及ぶものも少なくなく、選択された判決を、読みこなし説明できるようになるのは容易ではないが、この授業を通じて、民事判例を基礎とした法的思考の技法の一端を身に着けることができる。こうした技法の体得は、法学部卒業生に求められる社会の要請に合致するものである。		
履修条件・留意点	民法・財産法は、全体を俯瞰することで理解が進む側面がある。可能な限り早く、民法全体を学ぶことをお勧めするが、本演習はその助けとなりうるものである。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・民法・財産法に関する基礎知識を確かなものとし、演習を通じて、共同報告や質疑応答を実施できる、実践的な経験を得ること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・報告・レジュメに対する講評・アドバイスを演習中に行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。	ISBN	該当しない
参考書	指定しない。	ISBN	該当しない。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	
	目標をもって、積極的に民法を学ぼうという意欲のある皆さんの参加を期待している。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	演習全体のオリエンテーション。演習の進め方、自己紹介、担当判決の割当て、到達目標等についてのガイダンス。	事前学修：民法全体について、総復習をしておく。3 時間。 事後学修：報告を担当する判決について調査を始める。1 時間。	4 時間
第２回	対面	第一回に割り当てられた報告者が判決を報告し、それを全員で討論する。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認を	4 時間

			しておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	
第３回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第４回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第５回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第６回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第７回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第８回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第９回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１０回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１１回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１２回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１３回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位	4 時間

			置づけについて確認しておく。3 時間。	
第１４回	対面	第 1 回目に割り当てられた報告者が判決を取り上げ、報告する。それをもとに参加者全員で議論して当該判決への理解を深める。	事前学修：当日に取り上げられる予定の判決の事実関係・判旨を読み、問題点がどこにあるのか、確認をしておく。1 時間。 事後学修：報告された判決を再度読み返し、判決の位置づけについて確認しておく。3 時間。	4 時間
第１５回	オンデマンド	これまで取り上げられた判決を振り返り、判例に関する知識を確かなものとする。	事前学修：演習で取り上げた判決の事実関係・判旨を再度読み返す。1 時間。 事後学修：演習で取り上げられた判決の民法上の位置づけについて確認する。3 時間。	4 時間

科目名	演習ⅢＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	兪　珏根	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	－労働問題や労働現場の実態について判例を検討する。 －進路指導及び論文指導		
授業の目的及び概要	労働法は労働者の一生，企業の存立に関わる問題で具体的な利害関係に対して実際に生じた争いを解決する実定法である。法解釈は社会情勢と密接に関連してありますので労働法を学ぶには具体的事例の検討が重要である。演習では、労働契約法、労働基準法など個別的労働関係を題材として、重要判例を「労働判例百選」などを中心に，実際の労働現場でどのような利益対立があり，それに対して労働法がどのように解釈されて結論が導かれたのか等々，演習を通じて皆さんと討論しながら理解を深めたい。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	－基本的な労働判例における利害関係，争点，具体的処理とその妥当性の検討等を通じて実務演習における応用を学ぶことができる。 －論文の書き方を指導		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告のやり方やレジュメ作成については、初回及び 2 回の授業で指導する。重要判例についてテーマを決め、演習授業の前に事案の概要，争点，事実認定、判断根拠，判定理由順に発表してもらい、その後，担当教授のコメント、学生たちの質疑応答の時間をとり結論を出す。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『ケースブック労働法第 4 版』，荒木尚志・奥田香子，有斐閣，2019 年 ②『労働判例百選　第 10 版』，村中孝史・荒木尚志，有斐閣，2022 年	ISBN	①9784641144743 ②9784641115576
参考書	特定しない。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	50
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・法学部指定六法を持参すること。 ・私語、授業と無関係な電子機器の使用は厳禁。 ・本授業では多くの条文・判例を取扱うため、予習および復習を充分にしなければならない。 ・演習は労働法を題材に、労働問題の解決能力を修得し、法理論と関連事例などの多様なテーマについて討論を楽しみながら勉強する。 ・雇用関係と労使関係に対する探究は将来的に就労活動にも対応できるような知識になる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス・自己紹介、発表担当者の決まる。	【予習】シラバスを確認する 【復習】レジュメ・配付資料を読み直す。	4 時間
第２回	対面	主題：セクシュアルハラスメント - 福岡セクシュアルハラスメント事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第３回	対面	主題：山口観光事件 - 懲戒権行使の濫用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第４回	対面	主題：就業規則の法的性質 - 秋北バス事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第５回	対面	主題：関西電力（ロッカー撮影）事件 - 労働者の人権	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第６回	対面	主題：就業規則の不利益変更の拘束力 - 第四銀行事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第７回	対面	主題：労働時間の概念 三菱重工長崎造船所事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第８回	対面	主題：平尾事件 - 労働協約の効力	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第９回	対面	主題：朝日災海上保険（高田）事件 - 労働協約の拡張適用	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１０回	対面	主題：年次有給休暇権の法的性質 - 白石営林署事件	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１１回	対面	主題：丸島水門製作所事件 - ロックアウトの正当性	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１２回	対面	主題：済生会中央病院事件 - 支配介入	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１３回	対面	主題：第二鳩タクシー事件 - 不当労働行為の救済命令	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１４回	対面	主題：中労委（西神テトラパック）事件 - 不利益取り扱い	【予習】取扱う判例を読んでおく 【復習】レジュメ・配付資料を読み直し、授業で学んだことを確認する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括まとめ	総合的に整理する	4 時間

科目名	演習ⅢＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉原　裕樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	憲法判例研究		
授業の目的及び概要	双方向・多方向型にて、憲法に関する判例研究を行う。 毎回、担当教員が事前に判例を指定し、受講生全員があらかじめその判例について予習してきたうえで、授業時には、担当教員が受講生を指名して、判例の内容等について質問する（双方向・多方向型）。これにより、判例の理解を深める。		
履修条件・留意点	この科目の単位を取得するためには、担当教員が事前に指定した判例を予習したうえで、授業に継続的に出席し、授業内容に取り組む必要がある。 授業に継続的に出席しない場合や、授業に出席しても判例の予習ができていない場合には、この科目の単位を取得することはできない。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	主要な憲法判例について理解している。【ＤＰ１】【ＤＰ２】 そのうえで、理解した内容を的確に口頭で説明し、他者と討議することができる。【ＤＰ３】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	双方向・多方向型のやりとりにより、憲法判例に関する受講生の理解を確認する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、2012 年に弁護士資格を取得したのち、弁護士として執務し、憲法訴訟のほか、民事裁判・刑事裁判等の弁護士経験を有している。また、弁護士会の役職として、日本弁護士連合会憲法問題対策本部 幹事・大阪弁護士会 憲法問題特別委員会 副委員長・大阪弁護士会常議員などを歴任してきた。本科目では、これらの弁護士実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しない。	ISBN	テキストは使用しない。
参考書	①憲法判例（第９版），戸松秀典ほか編著，有斐閣，2025 年 ②憲法判例百選１・２（第８版），長谷部恭男ほか編，有斐閣，2025 年 ③憲法（第３版），渋谷秀樹，有斐閣，2017 年 ④憲法（第８版），辻村みよ子，日本評論社，2025 年 ⑤日本国憲法論（第２版），佐藤幸治，成文堂，2020 年	ISBN	①9784641228894 ②9784641213449　， 9784641213456 ③9784641227231 ④9784535529038 ⑤9784792306724

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	95
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	5
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	毎回、担当教員が事前に指定した判例を、十分に予習する必要がある。 判例の予習にあたっては、①事案の概要、②憲法解釈上の争点、③当該争点に関する裁判所の判断、を意識することが重要である。 卒業論文の指導は、憲法に関する内容であれば可能である。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第２回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第３回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第４回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第５回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第６回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第７回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第８回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第９回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１０回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１１回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１２回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１３回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１４回	対面	判例研究	取り扱う判例を予習する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総括と課題の指摘 これまでの授業内容を振り返り、今後の学修に向けた課題を指摘する。	これまでの内容を復習する。	4 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石尾　賢二	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	卒論準備		
授業の目的及び概要	春学期に考察した法律問題の考察を深める。 文献を調べる。判例があれば判例を調べる。 調べた結果、自らの意見を明確にして、報告する。 議論を実施し、その結果を結論に反映する。 卒論を完成させる。 集団での討論によって問題解決を図ることを目的とし、報告者の適切な問題提起と報告を受けた者の適切に意見表明の促進を意図する。 これらのことを通して様々な部門での自主的な問題解決能力が促進されることを企図する。自主的な勉学は各種試験のためにも役立つものである。 ることを企図する。自主的な勉学は各種試験のためにも役立つものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 社会問題について問題点の基本的な事項について理解し、判断することができる。 2. 報告者は検討したことを授業で適切に報告することができる。 3. 報告者以外の者は報告に対して適切に自分の意見を述べることができる。 4. 各人の意見表明を受けて適切な結論を導く方法を探求する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	教員は報告者のレジュメについての事前に質疑を受け、事後に意見を述べ。授業での議論について意見を述べる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	各種判例集(民集、判例時報、判例タイムズ)、判例百選が有用である。これらはデータベースでも利用できる。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	80
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	積極的な姿勢が重要です。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	ガイダンス ゼミの方法を説明する。	皆さんからの意見を中心に進めます。	4 時間
第２回	対面	２回目の授業はまず教員が報告し、全員で議論を実施する。	事前に資料を読む。	4 時間
第３回	対面	担当の順番は学生が決定する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第４回	対面	担当の順番による報告となる。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第５回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第６回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第７回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第８回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第９回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１０回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１１回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１２回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１３回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１４回	対面	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間
第１５回	オンデマンド	担当の順番は、一番最初に提示する。	事前にレジュメを作り、報告し、議論する。全体の議論を把握し、個別に必要な文献を調べ、自分の意見をまとめておく。事後には議論を踏まえて自ら再度判決を読み、問題点を整理し、再度意見をまとめる。	4 時間

科目名	演習Ⅲ B	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	杉本　拓海	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	判例・事例を通して刑事法を学ぼう		
授業の目的及び概要	【目的】 なんとなくダラダラ過ごしても、一生懸命に打ち込んでも、大学生活なんてあっという間に過ぎていきます。大学生活ってチュートリアルみたいなものだと思います。教員が補助して導いてくれるし、本気で挑戦して失敗しても怒られない。ただ、チュートリアルで獲得した能力は本編（社会人）に引き継がれるし、人生はオートセーブでリセットも不可なので、ダラダラと過ごしてスキップしちゃうのは後々を考えると怖いな、とも思います。大学生活が、人生で一番能力を伸ばすことができる期間です。 なので、この演習では刑法・刑事訴訟法に本気で取り組むことを通して、基礎的な能力を向上させたいと思います。具体的には、刑事法の体系的理解の獲得に加え、論理的思考力、調査能力、読解能力、報告・伝達能力（いわゆるコミュニケーション能力）、突破力といった今後の人生で必要となる基本的な能力を涵養することを目的とします。とりわけ、「判例を読む能力」を涵養することを目指します。 【概要】 刑事法は、手続法である刑事訴訟法と実定法である刑法からなります。本演習では、刑事訴訟法の重要判例と刑法の重要判例の両方を２年かけて学ぶことで、刑事法全体の理解をめざします。 4 年生における演習Ⅲでは、卒業論文の執筆を一つの目標として学習を進めていきます。各自の研究テーマそれに沿って調査し、報告をしてもらいます。 担当者の報告をもとに、受講生同士の議論を中心にゼミを進めていき、ときに担当教員からの疑問に答えることで、刑法をより深く理解できるようにします。 【その他】 楽しくて良い雰囲気ゼミにしたいと思います。		
履修条件・留意点	・適宜皆さんの希望に沿って変更を加えることがあります。 ・刑法総論、刑法各論の知識が必要となります。それぞれの科目の履修を強く推奨します。 ・オンデマンド回は状況に応じて順番が前後することがあります。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑事法の体系的理解を獲得する ・刑事法を学問として探求するための基礎力を身につける ・事案を分析し、判例の射程を検討する能力を身につける ・他者と共同して報告を遂行する能力を身につける ・調査・報告・討論といった、研究のための基礎的能力を獲得する 【ＤＰ１】【ＤＰ２】【ＤＰ３】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に口頭でのフィードバックを実施します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	特に指定しませんが、刑法および刑事訴訟法の基本書を一冊ずつ準備しておいてください。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	

	成果発表（口頭・実技）	50
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	・卒業論文を執筆してください。卒業後の記念と思い出になります ・報告者ではない人も、事前にレジュメ等を熟読した上で臨んでください ・毎週の楽しみになるようなゼミにしていきましょう！ ・本気で取り組むと少ししんどいかもしれませんが、その分突破したときのやりがいと成長がありますので、がんばりましょう。大切なのは意地と根性です。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【ガイダンス】 今後の進め方の相談・確認 各回の報告の担当者の決定	刑事法を一通り復習しておいてください。	4 時間
第２回	対面	【次回以降の報告の準備】 今後の授業進行のための基本的な事項の確認・個別対応など	授業時間中に確認・相談したことをもとに、各自でも準備を進めておいてください。	4 時間
第３回	対面	卒論報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第４回	対面	卒論報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第５回	対面	卒論報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第６回	対面	卒論報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第７回	対面	卒論報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第８回	対面	卒論報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】	4 時間

			レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	
第９回	対面	卒論報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１０回	対面	卒論報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１１回	対面	卒論報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１２回	対面	卒論報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１３回	対面	卒論報告と質疑およびディスカッション	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１４回	オンデマンド	【振り返り】 内容面についての振り返りを行い、適宜解説を加えます	【予習】 担当教員が指示した資料等を事前に熟読してください。 【復習】 レジュメ等を読み直し、授業で得た知識等を確認してください。	4 時間
第１５回	対面	【まとめと総括】 演習・報告を振り返り、修得した内容について議論します。	【復習】 報告レジュメを見返し、知識の定着を図ってください。	4 時間

科目名	演習ⅢＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	企業（会社・個人事業）に関わる法的問題を考える。		
授業の目的及び概要	私たちは、生きていくために働く。自分一人でモノ作りなどして働く者もいれば、プロスポーツ選手もいるし、自ら起業して人を雇う者、会社を立ち上げて経営する者、会社に就職して働く者、さまざまである。ただ、その周りには、必ず誰かが存在し、トラブルや法的問題が生じることが少なくない。 　大雑把にいえば、そのようなビジネスに関わる法的問題に関心を寄せ、それらを検討・分析・議論し、一定の結論に導き、それを報告することにより、今後の人生に活かすことができることを目的とする。 　演習は、受け身ではなく、自分で考え、疑問があれば質問し、自由に見解を述べることが最も重要であり、それこそが将来にも役立つ。 　演習の進め方は（１）ビジネスシーンで起こりうる事件を題材に、個人またはグループで検討し、報告する。 （２）報告者以外のメンバーも同じ題材を学修し、質疑やディスカッションを積極的に行う。 　演習の人数規模やメンバーの興味関心により、進め方は柔軟に変更する。 　上記の報告を卒業研究として成果物とすることを目標とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・積極的に自分の意見を述べることができる。 ・企業に関する基礎的な法的知識を獲得することができる。 ・報告資料の作成、プレゼンテーション能力を獲得することができる。 ・論理的・発展的思考力を身につけることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表・報告内容については、レジュメ等を含めて授業内において、修正・アドバイスを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。	ISBN	テキスト・参考書については、授業内で適宜案内する。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、春学期の総括、授業の進め方・報告方法の説明、報告者の決定。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第２回	オンデマンド	判例の検索方法・レジュメの作成方法・報告方法の再確認。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第３回	対面	受講生による報告と議論（１）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第４回	対面	受講生による報告と議論（２）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第５回	対面	受講生による報告と議論（３）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第６回	対面	受講生による報告と議論（４）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第７回	対面	受講生による報告と議論（５）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第８回	対面	受講生による報告と議論（６）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第９回	対面	受講生による報告と議論（７）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１０回	対面	受講生による報告と議論（８）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１１回	対面	受講生による報告と議論（９）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１２回	対面	受講生による報告と議論（10）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１３回	対面	受講生による報告と議論（11）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間
第１４回	対面	受講生による報告と議論（12）	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。	4 時間

			【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	
第１５回	対面	受講生による報告と議論（13)、今年度の総括。	【予習】担当教員が指示したテキスト等に目を通しておくこと。 【復習】テキスト・レジュメ・資料等を読み直し、授業で得た知識等を確認すること。	4 時間

科目名	演習ⅢＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	大島　一悟	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法重要課題の研究		
授業の目的及び概要	春学期の演習ⅢA で作成した研究レポートを参考にしながら卒業研究を行い、論文を作成する。また、完成した論文をまとめたゼミ論文集の作成を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	自身が選定したテーマについて、問題設定をしたうえで、資料を集め、分析を行い、論文を作成する。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	作成したレポートや授業中に発表した研究成果については、授業中や授業外の時間に講評やより良いレポートにするためのアドバイスを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	各自の研究テーマに応じて適宜アドバイスを行うため、テキストは指定しません。	ISBN	なし
参考書	各自の研究テーマに応じて適宜アドバイスを行うため、参考書は指定しません。	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	授業時の報告の際に得られたヒントや参加者の質問から得た視点などを今後の研究に生かすように心がけ、より良い論文に仕上げてほしい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ゼミの運営方法の説明を行った後、各自の研究テーマを決定し、各回の報告担当者を決定する。	事前に春学期の作成した卒業研究レポートを修正し、卒業論文作成に向けた準備をしておく。 事後に自身の報告日までの研究スケジュールをたて、報告日の報告に向けた卒業研究（卒業論文）の準備を始める。	4 時間
第２回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間

第３回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第４回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第５回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第６回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第７回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第８回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第９回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第１０回	オンデマンド	研究発表大会へ参加することで、第 10 回授業に振り替える。発表者として参加しない者は、発表を参観し、レポートを作成して提出する。	研究発表大会への参加によるため、参加後、レポートを提出する。提出するレポートの形式等については、ラーニングポータル等で案内する。	4 時間
第１１回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第１２回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応	4 時間

			答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	
第１３回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第１４回	対面	報告担当者は、研究の進捗状況を説明し、研究成果をレジュメで報告する。その後、全参加者で質疑応答・討論を行う。	報告担当者は、事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。報告担当者以外は、自身の卒業研究を計画的に進めておく。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究の参考にするとともに、報告や質疑応答の内容を参考に、自身の卒業論文の修正を行う。	4 時間
第１５回	対面	全参加者が、秋学期の研究成果を報告し、論文を作成して提出する。ゼミ論文集の作成についての打ち合わせも行う。	事前に自身の卒業研究（卒業論文）を作成し、準備をしたうえで当日報告する。 事後に今回の報告内容と質疑応答の復習を行い、自身の卒業研究を完成させる。	4 時間

科目名	演習ⅢＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石川　英樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察と法～警察官の判断基準と行動原理～		
授業の目的及び概要	・　第一線で単独執行を求められることのある警察官の法的根拠に基づく判断基準と行動原理を修得する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・　警察官職務執行法を学び警察官を主体とする職務権限の範囲と限界等第一線で単独執行を求められることのある警察官として必要な基本的知識等を習得できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・次回授業でコメントシートを紹介し、質問への回答や補足説明を行い、理解を深めます。 ・授業で発表、討議した研究結果はその都度授業で担当教員から実学に直結する講評をコメントします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	担当教員は奈良県警察本部にて、３６年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	・　指定しません。 ・　教員から研究発表課題を事前に提示します。	ISBN	なし。
参考書	・　指定しません。 ・　教員から研究発表課題を事前に提示します。	ISBN	なし。

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	・　治安を担う職業を志望するにあたって憧れと不安が交錯している学生諸君、公務員の道は奉仕の道である。時には怖がられ、疎まれ、そして時々感謝され、その行動には国民の様々な声が聞こえます。 ・　しかし警察官として３６年間勤務した私が確信しているのは、多くの国民が「声の小さい多数派」であり、治安の任にあたる者を信頼し、応援していることです。その人達のたった一つの命と財産、安全・安心を守る仕事に「誇りと使命感」を持って最後まで駆け抜ける志を抱く君たちの「夢を支え」、君たちが「現実」にアタックしゴールしてくれることを願って止みません。

	・　「人の悲しみを自分の悲しみ」と感じ、「人の喜びを自分の喜び」と受け止め、被害に苦しみ困り果てている人に正面から向き合い、手を差し伸べ、人の役に立つ仕事にやりがいを感じる君達と共に学んでいきたいと思います。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・　秋学期の授業方針の説明を行い、発表グループを再編成、受講生の意思統一を構築する。 ・　授業計画は必要性、受講生の希望等により変更することがある。 ・　担当教員が警察官職務執行法の概要を再説明する。 ・　担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、提示された課題について関係条文、判例を予習し理解を深めておくこと。	警察官職務執行法の概要について再度予習をしておくこと。 担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、提示された課題について関係条文、判例を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第２回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第３回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第４回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第５回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第６回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで研究、討議した、警察官職務執行法に関する小テストを行うので、復習しておくこと。	4 時間
第７回	対面	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として前半の自身の学修結果に関する総括をしておくこと。	4 時間
第８回	対面	前半の総括を実施し、後半の演習に反映する。	授業の総括結果を復習しておくこと。 担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第９回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第１０回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係	4 時間

		・　各学生はコメントシートを作成、提出。	条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	
第１１回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと	4 時間
第１２回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。担当教員が警察官職務執行法に関する次回の研究発表課題を提示するので、関係条文、判例等を予習し理解を深めておくこと。	4 時間
第１３回	対面	・　発表グループが調査研究結果を発表後、全員で討論。最後に担当教員が講評を加える。 ・　各学生はコメントシートを作成、提出。	授業で研究、討議した課題についてノートに整理して復習しておくこと。 次回授業において、これまで討議した、警察官職務執行法に関する小テストを行うので、予習しておくこと。	4 時間
第１４回	オンデマンド	小テスト実施。	小テストに関して理解不足な点を検証し復習しておくこと。予習として秋学期の自身の学修結果に関する総括をしておくこと。	4 時間
第１５回	対面	秋学期の演習を振り返り総括を行う。	復習として春、秋学期の自身の学修結果に関して総括し、ノートを再度整理しておくこと。	4 時間

科目名	演習ⅢＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中久保　寛幸	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	警察活動と法　～警察活動における判断基準と実務手続き～		
授業の目的及び概要	警察活動の現状とその法手続きについて理解することを目的としています。 警察における各種の職務執行に関する現状や必要な基礎的知識を修得し、その法的手続きについての限界や適法性等について研究をします。		
履修条件・留意点	原則として、演習ⅢA の本クラス履修生とします。 公務員特別演習ⅢA・B の履修を強く推奨します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①警察活動がどのような規定に基づき、どのように行われているのかを理解し、説明することができる。 ②警察活動に関する適法事例、違法事例の詳細について研究・理解し、説明することができる。 ③日常発生する事件・事故等に対する警察活動の適法性について、自らの意見を法的根拠や判例に基づいて説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により資料を配布します。	ISBN	なし
参考書	①警察官のための刑事訴訟法講義　第４版, 津田隆好, 東京法令出版，2019 年 ②実例中心捜査法解説　第４版　－捜査手続き・証拠法の詳説と公判手続入門－, 幕田英雄, 東京法令出版, 2019 年 ③刑事訴訟法講義　第 7 版，池田修・前田雅英，東京大学出版会，2022 年 ④注釈警察官職務執行法　５訂版，古谷洋一，立花書房，2021 年 ⑤警察行政法解説　第 3 版, 田村正博, 東京法令出版, 2022 年 ⑥新版　警察行政概論，金山泰介，三恵社，2025 年	ISBN	①9784809013959 ②9784809013973 ③9784130323963 ④9784803722314 ⑤9784809014444 ⑥9784866939964

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	

	その他の内容	
この科目の受講にあたって	公安職を目指す学生が即戦力として活躍できる人材になるためには、現場活動の基礎や法的根拠を学び、自ら進んで考えることにより、判断力・行動力を身に付けることが最も重要です。私のこれまでの経験を活かし、犯罪捜査を始めとする警察活動で要求される知識や技能、その法的根拠や判例に基づく判断基準などを伝えたいと考えています。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	授業方針の説明を行います。 研究テーマの検討と選定を行います。	【予習】学期のはじめにあたり、各自の取組みについてまとめておく。関心のある過去の事件・判例について調べておく。 【復習】研究課題に関する関係法令、判例等について見直しておく。	4 時間
第２回	対面	「テーマや争点の絞り込み方法、その問題点や課題」を行います。 テーマ選定理由等について発表します。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第３回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究①」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第４回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第５回	対面	「研究テーマの絞り込みと研究③」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べておく。警察活動のどの部分に焦点を当てるか検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例について再確認しておく。	4 時間
第６回	対面	「研究結果の中間発表準備①」　を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、警察活動の適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4 時間
第７回	対面	「研究結果の中間発表準備②」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文や判例について調べ、警察活動の適法性、違法性について検討しておく。 【復習】研究テーマやその焦点に関する条文や判例とその適法性、違法性について再確認しておく。	4 時間
第８回	対面	「研究結果の中間発表と全体討議」を行います。	【予習】研究テーマに関する条文、判例等について十分に理解し説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について検討しておく。	4 時間
第９回	対面	「研究課題の集約とプレゼン準備①」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第１０回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備②」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検	4 時間

			討し、修正しておく。	
第１１回	対面	「研究結果の集約とプレゼン準備③」を行います。	【予習】検討・修正が必要な部分・内容についてよく理解し、その経緯や理由について説明できるようにしておく。 【復習】発表内容に関する指摘、講評について再度検討し、修正しておく。	4 時間
第１２回	オンデマンド	課題提出	【予習】発表内容等の確認とリハーサルをしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4 時間
第１３回	対面	「研究結果の発表と全体討議」を行います。	【予習】発表内容等の確認とリハーサルをしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点を検討し修正しておく。	4 時間
第１４回	対面	「研究発表のまとめ」を行います。	【予習】各発表結果の再確認をしておく。 【復習】指摘や講評に関して、改善点等を再検討しておく。	4 時間
第１５回	対面	学期の振り返りと総括を行います。	【予習】自身の学修結果について、発表できるようにまとめをしておく。 【復習】自身の学修結果に関して総括をしておく。	4 時間

科目名	卒業研究	開講年度	2026 年度春学期
担当者	演習ⅢA・B 担当教員	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	4 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	卒業論文の作成		
授業の目的及び概要	３年次に選んだ自身の所属ゼミの専攻分野からテーマを設定し、講義科目で学修した知識や分析手法・思考法に基づき、演習をはじめとした各科目で身につけた情報収集力、文献理解力、文章力、分析力、課題解決能力、ICT スキル等を十全に発揮し、4 年間にわたる法学に関する学びの集大成として卒業論文を作成します。 　法学部の卒業論文は、①問い、②論証、③結論の形式を備えた法学・政治学に関する論文（を基本）とし、「判例研究・判例評釈」も含めるものとします。 　卒業論文の執筆を通して、法学を中心とする専門知識を深め、社会で活躍するために必要な諸課題を洞察・解決する力が身につきます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	卒業論文に相応しい水準で、①問い、②論証、③結論の形式を備えた法学・政治学に関する論文を作成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	論文の添削・指導を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	—	ISBN	—
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	100
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	演習Ⅱ・Ⅲでの報告と教員の指導をもとに、卒業論文を完成させます。作成の方法、合格要件等については、「卒業論文執筆要領」を参照してください。 　卒業研究に取り組む経験は、大学における学びに限らず、就業後にも役に立つものです、こうした取り組みを本格的に「学術的」な観点で行うことができる機会は人生の中でも稀少です。 　この機会を十全に活用して、卒業論文を完成させることができれば、大学 4 年間の象徴的な成果として誇ることができる作品を残すことができるだけでなく、自身の飛躍的な成長にもつながります。 　大学生活の「総仕上げ」として、これまでに身に付けたあらゆるスキルを発揮して、素晴らしい卒業論文を執筆されることを期待します。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	―	―	6 時間
第２回	対面	―	―	6 時間
第３回	対面	―	―	6 時間
第４回	対面	―	―	6 時間
第５回	対面	―	―	6 時間
第６回	対面	―	―	6 時間
第７回	対面	―	―	6 時間
第８回	対面	―	―	6 時間
第９回	対面	―	―	6 時間
第１０回	対面	―	―	6 時間
第１１回	対面	―	―	6 時間
第１２回	対面	―	―	6 時間
第１３回	対面	―	―	6 時間
第１４回	対面	―	―	6 時間
第１５回	対面	―	―	6 時間

科目名	法曹特別入門演習	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	杉本　拓海	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法曹志望者のための事例演習への導入		
授業の目的及び概要	本演習は、主に、法科大学院進学・裁判所事務官（総合職）・法制局職員などの法律科目の論述式試験が課される進路を目指す受講生を対象とする演習科目です。 民法・憲法・刑法などの事例問題に直面したとき、どのように書けばいいのかわからないといった経験や、「法的三段で書けばいいとは聞くけど、具体的にどう書けばいいの？」、「具体的な事実を摘示して評価してあてはめるとか言われてもわからん」など、思うところは色々とあると思います。 本演習では、具体的な事例問題を通じて法的三段論法や、規範の定立、あてはめなどを理解し、実際に使うことができる能力といった、法曹としての問題解決能力の基礎的部分の修得を目指します。		
履修条件・留意点	本演習では、受講生が事例問題に対する答案等の課題を毎回の講義までにこなし、講義後に書き直してくることが必須となりますので、通常の講義科目よりも負担が重いことは理解して履修するようにしてください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	事例問題に取組むための基礎的な素養を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	希望に応じて受講生の答案に対してコメント（あるいは添削）をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しない。	ISBN	テキストは指定しない。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	80
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって
答案は、とりあえず書いてみないことには書けるようにはなりません。最初はできなくて当たり前なので、躊躇わずに挑戦していきましょう。 思うように書けないというもどかしさや苦しさを感じることもあると思いますが、基本的にほとんどみんなが通る道です。授業中に間違えた分だけ成長がありますので、積極的に取り組んで発言していきましょう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【ガイダンス】 ・自己紹介、ゼミの進行方法についての確	【予習／復習】 前期の民法及び憲法の基本的な事柄について復習し	4 時間

		認等を行います。	ておく。	
第２回	オンデマンド	【基本的事項についての確認】 ・法律学の試験を受ける上で意識すべき基本的事項（答案構成、配点、ナンバリング、いわゆる「特定答案」等）についての確認を行います。	【復習】 授業内容について、授業を聞いていない他人に説明できるようになる。	1 時間
第３回	対面	【法的三段論法を意識しよう】 ・具体的な事例問題を通じて、法的三段論法についての基礎的なことを確認します	【予習】 レジュメを読み、事例について検討する。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った範囲で答案を書き直す。	4 時間
第４回	対面	【法的三段論法を使いこなそう】 ・具体的な事例問題を通じて、法的三段論法を用いた文章作成が可能となるよう訓練します。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討する。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った範囲で答案を書き直す。	4 時間
第５回	対面	【問題を提起しよう】 ・具体的な事例問題を通じて、いわゆる「問題提起」とは何か、「問題提起」にどのようにつなげるのかについて確認します。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討する。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った範囲で答案を書き直す。	4 時間
第６回	対面	【規範を定立しよう】 ・具体的な事例問題を通じて、いわゆる「規範定立」とは何か、「規範定立」にどのようにつなげるのかについて確認します。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討する。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った範囲で答案を書き直す。	4 時間
第７回	対面	【あてはめをしよう】 ・具体的な事例問題を通じて、いわゆる「あてはめ」とは何か、具体的な事実をどのように処理すれば「あてはめ」をしたことになるのかについて確認します。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討する。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った範囲で答案を書き直す。	4 時間
第８回	対面	【授業内容の振り返り】 ・今まで扱ってきた問題の答案を、実際に最後まで通して書いてみることで、この授業までの内容の定着を図ります。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討する。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った範囲で答案を書き直す。	4 時間
第９回	対面	【民法の基礎】 ・具体的な事例問題を通じて、刑法の事案を解決する際に必要な基本的な知識等についての確認を行います。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討し、答案を書く。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った事案の答案を書く。	4 時間
第１０回	対面	【刑法の基礎】 ・具体的な事例問題を通じて、憲法の事案を解決する際に必要な基本的な知識等についての確認を行います。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討し、答案を書く。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った事例の答案を書く。	4 時間
第１１回	対面	【憲法の基礎】 ・具体的な事例問題を通じて、憲法の事案を解決する際に必要な基本的な知識等についての確認を行います。	【予習】 レジュメを読み、事例について検討し、答案を書く。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った事例の答案を書く。	4 時間
第１２回	対面	【事例演習・民法】 ・この回までに修得した知識等を駆使し、民法の事例問題に取り組みます。	【予習】 これまでのレジュメを読み直した上で、事例について検討し、答案を書く。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った事例の答案を書く。	5 時間
第１３回	対面	【事例演習・刑法】 ・この回までに修得した知識等を駆使し、刑法の事例問題に取り組みます。	【予習】 これまでのレジュメを読み直した上で、事例について検討し、答案を書く。 【復習】	5 時間

			授業内容を確認し、授業で扱った事例の答案を書く。	
第１４回	対面	【事例演習・憲法】 ・この回までに修得した知識等を駆使し、憲法の事例問題に取り組みます。	【予習】 これまでのレジュメを読み直した上で、事例について検討し、答案を書く。 【復習】 授業内容を確認し、授業で扱った事例の答案を書く。	5 時間
第１５回	対面	【事例演習・補論】 ・事例演習の書き直し等を経て生じた受講生の疑問等を全員で共有し、解決していきます。場合によっては、奨学生試験の合同解説授業をもって本回とし、第 14 回と順番が前後する可能性があります。	【復習】 いままでの講義を振り返り、答案を書き直してみる。	4 時間

科目名	法曹特別演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	杉本　拓海	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法曹志望者のための刑法事例演習（基礎編）		
授業の目的及び概要	主に法曹志望の学生を対象に、刑法の事例演習を通じて、法的思考力および文章作成力の養成を目指します。法科大学院進学のために必要な基本知識および答案作成技法の修得が目標です。授業では、刑法総論について一通り学修していることを前提に、事例問題を素材として、法律答案の作成、教員との質疑、受講生同士のディスカッション等を行います。小テストやレポート、発表が課される場合もあります。		
履修条件・留意点	本授業の進行予定はあくまでも予定であり、みなさんの学修状況や希望に応じて適宜修正を加えていきます。そのため、必ずしもシラバスに予定されている通りの進行になるとは限らないことにご留意ください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑法に関する基本知識を正しく理解し、事例に適用することができる。 ・法的思考を身に付け、具体的事例について一定の解決を示すことができる。 ・法的文章の基本的作法を身に付け、自らの考えを説得的に表現することができる。 【ＤＰ１】【ＤＰ２】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業内で作成された答案について、希望に応じて添削して返却します。 ・発表やレポートについて、授業内で講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①基本刑法Ⅰ総論〔第 3 版〕，大塚裕史・十河太朗・塩谷毅・豊田兼彦，日本評論社，2019 年 ②徹底チェック刑法，嶋矢貴之・小池信太郎・品田智史・遠藤聡太，有斐閣，2022 年 ※言うまでもなく、六法（紙媒体に限る）は、毎回持参してください。	ISBN	①9784535523838 ②9784641139541
参考書	【判例集】 ①刑法判例百選Ⅰ総論〔第 8 版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年 ②刑法判例百選Ⅱ各論〔第 8 版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年 【学習参考書】 ③応用刑法Ⅰ総論，大塚裕史，日本評論社，2023 年 ※その他の参考書については、授業内で適宜紹介します。 ④刑法論述ハンドブックⅠ総論，大塚裕史，弘文堂，2025 年 ※話題になっている書籍ですが、みなさんの学修段階では使い方が難しいかもしれないので購入前に担当教員に相談してください。	ISBN	①9784641115507 ②9784641115514 ③9784535523852 ④9784335360473

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	担当教員が、自身の経験・知識に基づき、法曹志望者の学修をサポートします。日々の学修や進路に関する悩みがあれば、相談してください。 法律の事例問題が解けるようになるためには、相当量の学修が必要です。本演習の予習・復習にも多くの時間を割く必要があることに留意してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス ・自己紹介 ・本演習の目的、進め方 ・法曹への道のり	【事前学修】自己紹介の内容を考えてきてください。事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第２回	対面	法律の学修方法（１） ・法律答案の作成技法（法的三段論法を含む） ・学修スケジュール ・テキスト読解	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第３回	対面	法律の学修方法（２） ・事案分析の方法 ・問題点の抽出・発見・言語化 ・定義・規範の重要性 ・事実の評価と当てはめ	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第４回	対面	刑法答案の作成技法 ・犯罪論体系 ・犯罪成立要件の検討方法 ・罪数論 ・刑法総論と刑法各論 ・主要な争点の抽出	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第５回	対面	刑法事例演習（１） ・因果関係 ・不作為犯	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第６回	対面	刑法事例演習（２） ・故意 ・錯誤	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第７回	対面	刑法事例演習（３） ・過失犯 ・被害者の同意	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第８回	対面	確認テスト（１） この回までの内容の定着度を確認します。	【事前学修】この回までの内容を復習してきてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第９回	対面	刑法事例演習（４） ・正当防衛 ・過剰防衛	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第１０回	対面	刑法事例演習（５） ・未遂犯	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間

第１１回	対面	刑法事例演習（６） ・間接正犯 ・共同正犯	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第１２回	対面	刑法事例演習（７） ・共犯の諸問題	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第１３回	対面	確認テスト（２） この回までの内容の定着度を確認します。	【事前学修】この回までの内容を復習してきてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第１４回	対面	刑法事例演習（８） ・総合問題	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総まとめ ・今学期の学修内容について、総復習します。	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間

科目名	法曹特別演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	手嶋　豊	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	民法の知識の運用力および答案作成力の修得・向上		
授業の目的及び概要	・本演習は、法科大学院進学を目指す学生を対象として、民法の知識を正確に運用して答案を作成する能力を修得することを目的とする。 ・演習では、事前に提示される論述問題について予習し、演習の時間中に答案を作成する。作成後、各自の答案を全員で検討することを通じて、論点の抽出方法(問題文の読み方)、要件と効果の正確な理解、事実へのあてはめ、表現方法などを学修するという形で進める。演習で扱う論述問題は、公開されている法科大学院入試問題の過去問や演習教材をベースに作成し、原則として 30 分～40 分程度で解答できる問題とする。受講生には、予習と復習をしっかり行うことが求められる。なお、演習は、正課授業の進捗状況に留意しながら進める予定である。		
履修条件・留意点	・原則として、奨励奨学生選抜試験を受験すること。 ・物権法Ⅰ・Ⅱ、債権総論Ⅰ・Ⅱ、債権各論Ⅰ・Ⅱ、家族法Ⅰ・Ⅱを並行して履修すること。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・与えられた事例問題から論点を発見し、根拠条文(要件・効果)と制度趣旨、根拠条文に関する判例法理を説明できる。 ・根拠条文の要件に対応する事実を発見し、それを要件に当てはめることができる。 ・法的三段論法に従って明確な結論が示された、正確な日本語を駆使した答案を作成できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・受講生の作成した答案に対しては、コメントまたは添削を行う。 ・授業時間外の質問等に対しては、対面、オンライン（メールやラーニングポータルなど)、オフィスアワーで対応する。また、全員で共有した方がよいと思われる質問については、質問者の承諾を得たうえで共有する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定の教科書は使用しない。各自が使用している教科書を授業時に持参すること。必要に応じてレジュメと資料を配布する。	ISBN	なし
参考書	１.『民法判例百選Ⅰ〔第９版〕』潮見佳男ほか、有斐閣、2023 年２月 ２.『民法判例百選Ⅱ〔第９版〕』窪田充見ほか編、有斐閣、2023 年２月	ISBN	１. 978-4-641-11562-0 ２. 978-4-641-11563-7

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	・受講生全員とのミーティングを定期的に実施し、学習の進捗状況を確認するとともに、受講生からの相談等にも応じる。 ・予習と復習をしっかり行うこと。

	・学修の際には、常に条文を参照すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス：授業の進め方と学習上の留意点について説明する。 答案作成 ・事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには３時間を要する。	5 時間
第２回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには３時間を要する。	5 時間
第３回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには３時間を要する。	5 時間
第４回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには３時間を要する。	5 時間
第５回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには３時間を要する。	5 時間
第６回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには３時間を要する。	5 時間
第７回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには３時間を要する。	5 時間
第８回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには３時間を要する。	5 時間
第９回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには２時間を要する。	5 時間

		図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには３時間を要する。	
第１０回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには３時間を要する。	5 時間
第１１回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには３時間を要する。	5 時間
第１２回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには３時間を要する。	5 時間
第１３回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには３時間を要する。	5 時間
第１４回	対面	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに答案の作成方法を学修する。	・事前学修：事前に提示された論述問題の論点、根拠条文、判例学説の状況について予習しておく。これには２時間を要する。 ・事後学修：論述問題に関する知識を定着させるとともに、自分の答案の改善点などを確認する。これには３時間を要する。	5 時間
第１５回	オンデマンド	これまでの学修を振返り、演習参加者各人の今後の学習の進め方についての課題を検討する機会とする。	・事前学修：これまでの演習課題を振返り、民法学習において足りない・不足している領域や課題をリストアップする。これには４時間を要する。 ・事後学修：これまでの授業内容を振り返り、弱点強化のために必要な今後の学修計画を立てる。これには２時間を要する。	6 時間

科目名	法曹特別演習ＩＣ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	渡邉　康行	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	実務法曹志望者のための憲法事例演習		
授業の目的及び概要	本演習は、法科大学院進学などを目指す２年生を対象とする演習科目です。毎回憲法に関する基礎知識を確認したうえで事例問題について答案を作成し、また事例について全員で議論することを通じて、法的思考力および文章作成力を養うことを目的としています。		
履修条件・留意点	憲法Ⅰ、憲法Ⅱ（人権）、憲法Ⅱ（統治）を履修済みであることを求めます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	法科大学院既修者試験、または予備試験に合格するために必要な程度の、判例・学説の知識、事案検討能力、答案作成能力が身についている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	受講生が作成した答案については、コメントおよび添削などを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない予定です。	ISBN	なし
参考書	①憲法判例百選Ⅰ〔第８版〕，長谷部恭男ほか編，有斐閣，2025 年 ②憲法判例百選Ⅱ〔第８版〕，長谷部恭男ほか編，有斐閣，2025 年 ③憲法Ⅰ　基本権〔第２版〕，渡辺・宍戸・松本・工藤，日本評論社，2023 年 ④憲法Ⅱ　総論・統治〔第２版〕，渡辺・宍戸・松本・工藤，日本評論社，2025 年	ISBN	①978-4-641-21344-9 ②978-4-641-21345-6 ③978-4-535-52711-9 ④978-4-535-52826-0

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 事例問題演習	予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。 復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第２回	対面	事例問題演習	予習として、事前に告知された課題について、各自の	6 時間

			教科書、判例百選などを精読して準備する。 復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	
第３回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第４回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第５回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第６回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第７回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第８回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第９回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第１０回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第１１回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第１２回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第１３回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第１４回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ	予習として、各自が書いた答案を読み直す。未提出の答案があれば提出する。	6 時間

科目名	法曹特別演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	金　亮完	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法曹志望者のための民法事例演習（発展編） 民法の知識の運用力および答案作成力の修得・向上		
授業の目的及び概要	本演習は、法科大学院既修者課程への進学を目指す学生（法曹志望の学生）を対象として、２年次までに学修した民法の知識を正確に運用して、事例演習を通じて、法的思考力および文章作成力の養成（答案を作成する能力を修得すること）を目的とする。 演習は、事前に提示される民法の論述問題(法科大学院入試過去問や演習教材から作成したもので、30 分～40 分程度で書ける問題とする。)の答案を演習中に作成する。 作成の後、各自が作成した答案を全員で検討することを通じて、論点の抽出方法、要件と効果の正確な理解と表現方法を学修するという形で進める。受講生は予習と復習をしっかり行うことが求められる。 法科大学院を受験するうえで３年次は非常に大事な時期である。本演習を通じて、受講生が自信をもって答案が作成できるようになることを期待する。		
履修条件・留意点	本演習の履修申込みをし、許可された者を対象とする。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　与えられた事例問題から論点(法律問題)を発見し、根拠条文(要件・効果)と制度趣旨、根拠条文に関する判例法理を説明することができる。 ②　与えられた事例問題から①の規範に対応する事実を発見し、当てはめることができる。 ③　法的三段論法に従って明確な結論(効果)を示した、正確な日本語を駆使した答案を作成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	①　受講生の作成した答案に対しては、コメントまたは添削を行う。 ②　授業時間外の質問等に対しては、対面・オンライン(メールやラーニングポータルなど)・オフィスアワーで対応する。 　　また、質問の内容と回答は全員で共有する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定の教科書は使用しない。 各自が使用している教科書・六法を授業時に持参すること。	ISBN	なし
参考書	①民法判例百選Ⅰ〔第９版〕, 潮見佳男ほか編, 有斐閣, 2023 年 ②民法判例百選Ⅱ〔第９版〕, 窪田充見ほか編, 有斐閣, 2023 年	ISBN	①　978-4-641-11562-0 ②　978-4-641-11563-7

成績評価の方法・基準		
	授業への積極的な参加度・取組み	50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	

この科目の受講にあたって	法学部指定六法を必ず持参すること。 正当な理由のない欠席、遅刻、演習中の私語、演習と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とし、違反者に対しては厳しく対応する。 ①　適宜、受講生とのミーティングを実施し、学習の進捗状況を確認するとともに、受講生からの相談等にも応じる。 ②　予習も重要であるが、復習をしっかり行うこと。 ③　自習の際には、常に条文を参照すること。 ④　予習、復習で指示された課題（論文問題の答案作成）は必ず行い、指定された期限までに提出すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス（今後の本演習での学修計画について説明すると共に、本演習受講、法科大学院進学に向けたの心構え、勉強方法、計画の立案方法、論文作成方法等を指導・説明する。）	本演習開始までに、各自の現在の学修進度にあわせて、今後の学修計画を立案し、ガイダンスにおいて説明や質問が出来るように準備しておく。 本演習終了後、再度、今後の学修計画を再検討し、ガイダンスで得た内容を確認しておく。	4 時間
第２回	対面	民法論述問題（起案・採点後・解説講義・質疑応答）１	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	4 時間
第３回	対面	民法論述問題（起案・採点後・解説講義・質疑応答）２	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	4 時間
第４回	対面	民法論述問題（起案・採点後・解説講義・質疑応答）３	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	4 時間
第５回	対面	民法論述問題（起案・採点後・解説講義・質疑応答）４	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	4 時間
第６回	対面	民法論述問題（起案・採点後・解説講義・質疑応答）５	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	4 時間
第７回	対面	民法論述問題（起案・採点後・解説講義・質疑応答）６	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。	4 時間

			本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	
第８回	対面	民法論述問題（起案・採点後・解説講義・質疑応答）７	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	4 時間
第９回	対面	民法論述問題（起案・採点後・解説講義・質疑応答）８	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	4 時間
第１０回	対面	民法論述問題（起案・採点後・解説講義・質疑応答）９	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	4 時間
第１１回	対面	民法論述問題（起案・採点後・解説講義・質疑応答）10	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	4 時間
第１２回	対面	民法論述問題（起案・採点後・解説講義・質疑応答）11	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	4 時間
第１３回	対面	民法論述問題（起案・採点後・解説講義・質疑応答）12	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	4 時間
第１４回	対面	民法論述問題（起案・採点後・解説講義・質疑応答）13	事前に提示される論述問題の答案を演習中に作成する。 答案作成後、教員との質疑応答と全員での議論により知識の定着を図るとともに、答案の作成方法を学修する。 本演習終了後、各自の進度にあわせて、答案内容や演習で学修した内容の復習を行う。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の総復習	事前に配布された資料を事前に読み、わからない点がないか確認しておく。 オンデマンド動画視聴後、配布資料を読み直し、学修内容に関する知識の定着を図る。	4 時間

科目名	法曹特別演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	杉本　拓海	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	法曹志望者のための刑法事例演習（発展編）		
授業の目的及び概要	法曹志望の学生を対象に、刑法の事例演習を通じて、法的思考力および文章作成力の養成を目指します。法科大学院進学のために必要な知識の補強および答案作成技術の強化が目標です。授業では、刑法総論・刑法各論について一通り学修していることを前提に、事例問題を素材として、法律答案の作成、教員との質疑、受講生同士のディスカッション等を行います。小テストやレポート、発表が課される場合もあります。		
履修条件・留意点	シラバスの進行予定はあくまでも予定です。実際の学修状況や学生の希望に応じて適宜変更がある点ご留意ください。 予習と復習では、復習に重点を置いてください（１：３程度）。 答案作成時間は予習時間に含まれません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・刑法に関する重要事項を正しく理解し、事例に適用することができる。 ・法的思考を身に付け、具体的事例について一定の解決を示すことができる。 ・法的文章の基本的作法を身に付け、自らの考えを説得的に表現することができる。 【ＤＰ１】【ＤＰ２】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・授業内で作成された答案について、希望に応じて添削して返却します。 ・発表やレポートについて、授業内で講評します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①基本刑法Ⅰ総論〔第 3 版〕，大塚裕史・十河太朗・塩谷毅・豊田兼彦，日本評論社，2019 年 ②基本刑法Ⅱ各論〔第 4 版〕，大塚裕史・十河太朗・塩谷毅・豊田兼彦，日本評論社，2024 年 ※言うまでもなく、六法（紙媒体に限る）は、毎回持参してください。	ISBN	①9784535523838 ②9784535528185
参考書	【判例集】 ①刑法判例百選Ⅰ総論〔第 8 版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年 ②刑法判例百選Ⅱ各論〔第 8 版〕，佐伯仁志・橋爪隆編，有斐閣，2020 年 【演習書】 ③徹底チェック刑法，嶋矢貴之・小池信太郎・品田智史・遠藤聡太，有斐閣，2022 年 【学習参考書】 ④応用刑法Ⅰ総論，大塚裕史，日本評論社，2023 年 ※その他の参考書については、授業内で適宜紹介します。	ISBN	①9784641115507 ②9784641115514 ③9784641139541 ④9784535523852

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0

	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	担当教員が、自身の経験・知識に基づき、法曹志望者の学修をサポートします。日々の学修や進路に関する悩みがあれば、相談してください。 授業前の時間に問題を配布しますので、取りに来て授業開始までに答案を作成してください。印刷して授業時に配布します。 法律の事例問題が解けるようになるためには、相当量の学修が必要です。本演習の予習・復習にも多くの時間を割く必要があることに留意してください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス ・本演習の目的、進め方 ・法曹への道のり	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	2 時間
第２回	対面	法律の学修方法 ・刑法答案の作成技法 ・学修スケジュール ・テキスト読解	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第３回	対面	刑法事例演習（１） ・窃盗罪	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第４回	対面	刑法事例演習（２） ・強盗罪	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第５回	対面	刑法事例演習（３） ・詐欺罪 ・恐喝罪	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第６回	対面	刑法事例演習（４） ・横領罪	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第７回	対面	確認テスト（１） この回までの定着度を確認します。	【事前学修】この回までの内容を復習してきてください。 【後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第８回	対面	刑法事例演習（５） ・背任罪 ・盗品等関与罪	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第９回	対面	刑法事例演習（６） ・放火罪	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第１０回	対面	刑法事例演習（７） ・文書偽造罪	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第１１回	対面	確認テスト（２） この回までの内容の定着度を確認します。	【事前学修】この回までの内容を復習してきてください。	4 時間

			【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	
第１２回	対面	刑法事例演習（８） ・総合問題（１）	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第１３回	対面	刑法事例演習（９） ・総合問題（２）	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間
第１４回	対面	刑法事例演習（１０） ・総合問題（３）	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	2 時間
第１５回	オンデマンド	総まとめ ・今学期の学修内容について、総復習します。	【事前学修】事前に配布する資料を読んできてください。 【事後学修】授業内で指示された課題に取り組んでください。	4 時間

科目名	法曹特別演習ⅡC	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	渡邉　康行	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	実務法曹志望者のための憲法事例演習		
授業の目的及び概要	本演習は、法科大学院進学などを目指す３年生を対象とする演習科目です。毎回憲法に関する基礎知識を確認したうえで事例問題について答案を作成し、また事例について全員で議論することを通じて、法的思考力および文章作成力を養うことを目的としています。		
履修条件・留意点	憲法Ⅰ、憲法Ⅱ（人権）、憲法Ⅱ（統治）、法曹特別演習ⅠC を履修済みであることを求めます。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	法科大学院既修者試験、または予備試験に合格するために必要な程度の、判例・学説の知識、事案検討能力、答案作成能力が身についている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	受講生が作成した答案については、コメントおよび添削などを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しない予定です。	ISBN	なし
参考書	①憲法判例百選Ⅰ〔第８版〕，長谷部恭男ほか編，有斐閣，2025 年 ②憲法判例百選Ⅱ〔第８版〕，長谷部恭男ほか編，有斐閣，2025 年 ③憲法Ⅰ　基本権〔第２版〕，渡辺・宍戸・松本・工藤，日本評論社，2023 年 ④憲法Ⅱ　総論・統治〔第２版〕，渡辺・宍戸・松本・工藤，日本評論社，2025 年	ISBN	①978-4-641-21344-9 ②978-4-641-21345-6 ③978-4-535-52711-9 ④978-4-535-52826-0

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	70
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 事例問題演習	予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。 復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第２回	対面	事例問題演習	予習として、事前に告知された課題について、各自の	6 時間

			教科書、判例百選などを精読して準備する。 復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	
第３回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第４回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第５回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第６回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第７回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第８回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第９回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第１０回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第１１回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第１２回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第１３回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱った事例問題を再検討すると共に、不足していたと感じた基本知識を教科書・判例百選などで確認する。 予習として、事前に告知された課題について、各自の教科書、判例百選などを精読して準備する。	6 時間
第１４回	対面	事例問題演習	復習として、授業で扱われた事例問題を再検討し、答案を作成する。	6 時間
第１５回	オンデマンド	授業のまとめ	予習として、各自が書いた答案を読み直す。未提出の答案があれば提出する。	6 時間

科目名	法曹特別演習Ⅲ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	杉本　拓海	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	事例演習を通じた問題解決能力の涵養		
授業の目的及び概要	本演習は、主に、法科大学院進学を目指す 4 年生を対象とする演習科目です。 本演習では、3 年生までに培ってきた基礎的知識や応用力を、答案作成において十分に反映させることができるようになることを目標とします（したがって、各科目において基礎知識が身についていることが前提となります。不安がある場合には各自補充してください）。 本演習の進行としては、作成した自身の答案の記述について、どうしてその記述に至ったのか、口頭で説得的に説明することを求めます。その説明を通じて、自身の答案の記述に自覚的になり、過不足のない答案を作成する能力を向上させていくことが狙いです。		
履修条件・留意点	本演習では、受講生が事例問題に対する答案等の課題を毎回の講義までにこなし、講義後に書き直してくることが必須となりますので、通常の講義科目よりも負担が重いことは理解して履修するようにしてください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 法的問題点を発見することができる。【ＤＰ１】【ＤＰ２】 ② 問題を解決するために適切な条文をあげ、その制度趣旨・関連する判例法理について説明することができる。【ＤＰ１】【ＤＰ２】【ＤＰ４】 ③ 問題文から上記②の規範に対応する事実を発見し、その事実を適切に評価することで規範にあてはめることができる。【ＤＰ２】【ＤＰ４】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フィードバックの方法 受講生の答案に対してコメント（あるいは添削）をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員のうち坂上教授は、1992 年に司法試験（旧司法試験）に合格した後、1995 年から 2022 年まで 27 年間、裁判所において裁判官の仕事に従事し、建築、労働、医療過誤などの民事訴訟事件を中心に多くの裁判（執行、保全、破産事件を含む。）を担当してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しない。	ISBN	テキストは指定しない。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	90
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	10
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって
学習効果等の観点から、科目の順番が入れ替わることがあります。 また、シラバスにおける授業内容は基本的な進行であり、科目の特性・担当教員によって最適な方法が異なりうるため、適宜変更を加えることがあります。

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の

	形式			学修時間
第１回	対面	【ガイダンス・事例問題の検討（刑事系）①】 （担当教員　杉本拓海） ・自己紹介、ゼミの進行方法についての確認を行います。 ・その後、刑事法の演習を行います。	【予習／復習】 答案作成にあたって前提となる基本的な事柄について、各自で補充しておいてください。	4 時間
第２回	オンデマンド	【基本的事項についての確認・事例問題の検討（刑事系）②】（オンデマンド） （担当教員　杉本拓海） ・事例問題を解き、答案を作成する上で注意すべきポイントについて確認します。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。 授業内容について、授業を聞いていない他人に説明できるようになる。	4 時間
第３回	対面	【事例問題の検討（公法系）①】 （担当教員　渡邉康行） ・学生は、教員の指名に応じて事案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第４回	対面	【事例問題の検討（公法系）②】 （担当教員　渡邉康行） ・学生は、教員の指名に応じて事案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第５回	対面	【事例問題の検討（民事系）①】 （担当教員　手嶋豊） ・学生は、教員の指名に応じて事案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第６回	対面	【事例問題の検討（民事系）②】 （担当教員　手嶋豊） ・学生は、教員の指名に応じて事案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第７回	対面	【事例問題の検討（民事系）③】 （担当教員　手嶋豊） ・学生は、教員の指名に応じて事案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第８回	対面	【事例問題の検討（刑事系）③】 （担当教員　杉本拓海） ・学生は、教員の指名に応じて事案について口頭で説明します。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間

		・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。		
第９回	対面	【事例問題の検討（刑事系）④】 （担当教員　杉本拓海） ・学生は、教員の指名に応じて事案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第１０回	対面	【事例問題の検討（民事系）④】 （担当教員　坂上文一） ・学生は、教員の指名に応じて事案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第１１回	対面	【事例問題の検討（民事系）⑤】 （担当教員　坂上文一） ・学生は、教員の指名に応じて事案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第１２回	対面	【事例問題の検討（民事系）⑥】 （担当教員　坂上文一） ・学生は、教員の指名に応じて事案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第１３回	対面	【事例問題の検討（公法系）③】 （担当教員　渡邉康行） ・学生は、教員の指名に応じて事案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第１４回	対面	【事例問題の検討（公法系）④】 （担当教員　渡邉康行） ・学生は、教員の指名に応じて事案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間
第１５回	対面	【事例問題の検討（刑事系）⑤・総まとめ】 （担当教員　杉本拓海） ・学生は、教員の指名に応じて事案について口頭で説明します。 ・上記説明に基づき、質疑応答・討論を行	【予習】 授業で取り扱う問題の答案を作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、答案を作成し直す。	4 時間

		います。 ・議論について、教員から口頭でフィードバックを行います。		

科目名	公務員特別演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	漆畑　貴久	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公務員（行政職）の仕事を理解し、公務員採用試験に向けての実力を高める。		
授業の目的及び概要	全体の奉仕者である公務員の仕事を理解し、行政職公務員に求められる基礎的な素養を身につけ、公務員試験に向けて準備を進めることができる。 １人口減少社会がもたらす影響をはじめ国や自治体の課題について調べ、ディスカッション、グループワーク、論述対策を行う。 ２求められる人物像、業務に必要な知識、能力について、公表されている計画書等を用いて研究する。 ３近年重視されている SPI など職種を越えて要求される知的能力を身につける。 ４現職公務員やゲスト講師による合同授業を通じて、現場の課題について理解を深める。 ５公務就職支援室との連携により、 SPI 基礎力の育成、インターンシップによる早期の就業体験、自主学習サークルへの参加促進に取り組む。		
履修条件・留意点	公務就職支援室を有効活用すること。 志望する公務員試験や資格取得に必要な S コースを受講すること。 ゲストスピーカーを招く授業については、都合により実施時期や内容を変更することがある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政職公務員（国家公務員、地方公務員）の仕事を理解し、公務員に求められる様々な能力を高めるとともに、インターンシップなどの体験などを通じ、エントリーシートの作成ができる。 卒業後に公務員として活躍するために、公務員が全体の奉仕者として働くことの意義を学ぶとともに、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて傾聴力、協調性、コミュニケーション能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題は、授業中に口頭でフィードバックを行うか、あるいは添削をして返却を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論，北村亘ほか，有斐閣ストウディア，2024 年 ③新版〔第２版〕現代の行政,森田朗,第一法規,2022 年 ④これからの地方自治の教科書　改訂版，大森彌，・大杉覚，第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕，大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥地方公務員の仕事と制度がこれ一冊でしっかりわかる教科書,一般社団法人公務員研究協会,技術評論社,2025 年 ⑦公務員という仕事,村木厚子,ちくまプリマー新書,2020 年 ⑧公務員のすすめ　世の中を変える地方自治体の仕事,泉房穂,小学館新書,2025 年 ⑨公務員になりたい！ベテラン公務員が教えるお役所就職ガイド,秋田将人,星海社新書,2023 年 ⑩2027 年度版　公務員試験　現職人事が書いた「公務	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784474077003 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784297152222 ⑦9784480683762 ⑧9784098254903 ⑨9784065309520 ⑩9784788978126

	員になりたい人へ」の本, 大賀英徳, 実務教育出版, 2025年 ⑪公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著）		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	１．授業の内容 公務員は全体の奉仕者として国民、住民のため全力を尽くさなければならない仕事です。「公務員は安定しているから」という志望理由では採用試験を突破することはできません。近年の公務員試験は人物重視であり、公務員の仕事を理解していること、心身ともにタフで積極的に行動できる人材が求められています。そのため、この授業では、公務員の仕事について理解し、志望先を定め、志望理由を明確に述べることができるように学習を重ねます。そのために、国や地方自治体に関する内容に関する講義、グループディスカッションなどを行います。 ２．授業中のマナー 授業は Forms の回答などを除き、スマートフォンの使用は禁止します。 ３．他科目の履修 地方公務員（行政職）をめざす場合は、事務職が一般的ですが、一部の自治体では福祉職の採用も行われています。福祉職での受験は、社会福祉主事任用資格（３科目主事）の要件を満たす必要がありますので、行政法（行政法総論１及び２で１科目カウント）、心理学、心理学概説、社会学、社会学概説、倫理学、経済学入門のうち３科目の単位を取得すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業概略の説明	事前学習：自分の志望する地方自治体などについて調べる。自己紹介の準備をする。(2 時間) 事後学習：自分の長所短所、なぜ公務員を目指すのか、公務員になって何をしたいのかを考える。(2 時間)	4 時間
第２回	対面	公務員試験のしくみについて学習（合同授業） 目標を設定し、合格までの学習計画（自治体等のインターンシップを含む）を立てる。	事前学習：指定する文献を事前に読む（2 時間） 事後学習：受験した自治体等の試験を調べる（2 時間）	4 時間
第３回	対面	国家公務員と地方公務員の違いについての講演会（合同授業） ・国家公務員の仕事紹介 ・地方公務員（行政職）の仕事紹介	事前学習：指定する文献を読む（2 時間） 事後学習：授業配布資料を使って復習する（2 時間）	4 時間
第４回	対面	SPI 模試	事前学習：SPI について調べる（2 時間） 事後学習：模試の答え合わせを行い、解けなかった設問を中心に復習する。(2 時間)	4 時間
第５回	対面	行政の課題をテーマとしたグループディスカッション	事前学習：あらかじめ指定したテーマについて調べる（2 時間） 事後学習：グループディスカッションの振り返り、テーマに関する資料を読み返す（２時間）	4 時間
第６回	対面	公務員と防災１（合同授業） ゲストスピーカーによる講演 地方自治体における災害対策、発災時における公務員の仕事を学ぶ	事前学習：指定する文献を読む。(2 時間) 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。(2 時間)	4 時間

第7回	対面	公務員と防災２（合同授業） ゲストスピーカーによるワークショップ 地方自治体における災害対策、発災時における公務員の仕事を学ぶ	事前学習：指定する文献を読む。(2 時間) 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。(2 時間)	4 時間
第8回	対面	エントリーシートについての学習 ・エントリーシートの作成 ・学生間の相互評価	事前学習：自分が志望する省庁や自治体のホームページをみて、業務内容、求められる職員像や行政課題を調べる（2 時間） 事後学習：授業で作成したエントリーシートをもとに改良を加える（2 時間）	4 時間
第9回	対面	個人面接についての学習 ・模擬面接を行う（相互観察）	事前学習：志望する自治体等を想定し、志望理由を事前に考え、書きだす。(2 時間) 事後学習：相互観察で得たコメントをもとに、模擬面接を振り返る。(2 時間)	4 時間
第１０回	対面	小論文についての学習 ・制限時間内に小論文を書く ・学生間で相互評価を行う	事前学習：指定されたテーマに関する情報を収集する。(2 時間) 事後学習：相互評価で得たコメント、教員からの指導内容をもとに振り返りを行う。(2 時間)	4 時間
第１１回	対面	公務員試験対策（国家公務員、地方公務員） 近年の採用試験実施状況などをもとに、今後の学習計画を立てる。	事前学習： 受験を考えている公務員試験について調べる。(2 時間) 事後学習：具体的な学習計画を立てる（2 時間）	4 時間
第１２回	対面	国家公務員又は地方公務員の仕事１（合同授業） 現職の国家公務員又は地方公務員をゲストスピーカーとして招き、具体的な仕事内容についての講演を聴く。	事前学習：ゲストスピーカーが所属する機関について調べる。(2 時間) 事後学習：ゲストスピーカーの資料と講義内容についてまとめ、振り返りを行う。（２時間）	4 時間
第１３回	対面	国家公務員又は地方公務員の仕事２（合同授業） 現職の国家公務員又は地方公務員をゲストスピーカーとして招き、具体的な仕事内容についての講演を聴く。	事前学習：ゲストスピーカーが所属する機関について調べる。(2 時間) 事後学習：ゲストスピーカーの資料と講義内容についてまとめ、振り返りを行う。（２時間）	4 時間
第１４回	対面	志望する機関や自治体についての調査 ・調査方法の理解 ・調査事項（仕事内容、求められる人材像など） 秋学期に志望理由についてのプレゼンをできるように準備をする。	事前学習：志望する機関や自治体について調べる（2 時間） 事後学習：志望理由を明確に述べることができるように整理する。(2 時間)	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ 志望する機関や自治体への訪問	事前学習：訪問先について調べる（2 時間）。 事後学習：訪問した内容ついてレポ―トとしてまとめる（2 時間）。	4 時間

科目名	公務員特別演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉川　貴代	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公務員（行政職）の仕事を理解し、公務員採用試験に向けての実力を高める。		
授業の目的及び概要	全体の奉仕者である公務員の仕事を理解し、行政職公務員に求められる基礎的な素養を身につけ、公務員試験に向けて準備を進めることができる。 １人口減少社会がもたらす影響をはじめ国や自治体の課題について調べ、ディスカッション、グループワーク、論述対策を行う。 ２求められる人物像、業務に必要な知識、能力について、公表されている計画書等を用いて研究する。 ３近年重視されている SPI など職種を越えて要求される知的能力を身につける。 ４現職公務員やゲスト講師による合同授業を通じて、現場の課題について理解を深める。 ５公務就職支援室との連携により、 SPI 基礎力の育成、インターンシップによる早期の就業体験、自主学習サークルへの参加促進に取り組む。		
履修条件・留意点	公務就職支援室を有効活用すること。 志望する公務員試験や資格取得に必要な S コースを受講すること。 ゲストスピーカーを招く授業については、都合により実施時期や内容を変更することがある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政職公務員（国家公務員、地方公務員）の仕事を理解し、公務員に求められる様々な能力を高めるとともに、インターンシップなどの体験などを通じ、エントリーシートの作成ができる。 卒業後に公務員として活躍するために、公務員が全体の奉仕者として働くことの意義を学ぶとともに、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて傾聴力、協調性、コミュニケーション能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題は、授業中に口頭でフィードバックを行うか、あるいは添削をして返却を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論， 北村亘ほか， 有斐閣ストウディア，2024 年 ③新版〔第２版〕現代の行政,森田朗,第一法規,2022 年 ④これからの地方自治の教科書　改訂版， 大森彌，・大杉覚， 第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕， 大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥地方公務員の仕事と制度がこれ一冊でしっかりわかる教科書,一般社団法人公務員研究協会,技術評論社,2025 年 ⑦公務員という仕事,村木厚子,ちくまプリマー新書,2020 年 ⑧公務員のすすめ　世の中を変える地方自治体の仕事,泉房穂,小学館新書,2025 年 ⑨公務員になりたい！ベテラン公務員が教えるお役所就職ガイド,秋田将人,星海社新書,2023 年	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784474077003 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784297152222 ⑦9784480683762 ⑧9784098254903 ⑨9784065309520 ⑩9784788978126

	⑩2027 年度版　公務員試験　現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本, 大賀英徳, 実務教育出版, 2025 年 ⑪公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著）		

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	

この科目の受講にあたって	１．授業の内容 公務員は全体の奉仕者として国民、住民のため全力を尽くさなければならない仕事です。「公務員は安定しているから」という志望理由では採用試験を突破することはできません。近年の公務員試験は人物重視であり、公務員の仕事を理解していること、心身ともにタフで積極的に行動できる人材が求められています。そのため、この授業では、公務員の仕事について理解し、志望先を定め、志望理由を明確に述べることができるように学習を重ねます。そのために、国や地方自治体に関する内容に関する講義、グループディスカッションなどを行います。 ２．授業中のマナー 授業は Forms の回答などを除き、スマートフォンの使用は禁止します。 ３．他科目の履修 地方公務員（行政職）をめざす場合は、事務職が一般的ですが、一部の自治体では福祉職の採用も行われています。福祉職での受験は、社会福祉主事任用資格（３科目主事）の要件を満たす必要がありますので、行政法（行政法総論１及び２で１科目カウント）、心理学、心理学概説、社会学、社会学概説、倫理学、経済学入門のうち３科目の単位を取得すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業概略の説明	事前学習：自分の志望する地方自治体などについて調べる。自己紹介の準備をする。(2 時間) 事後学習：自分の長所短所、なぜ公務員を目指すのか、公務員になって何をしたいのかを考える。(2 時間)	4 時間
第２回	対面	公務員試験のしくみについて学習（合同授業） 目標を設定し、合格までの学習計画（自治体等のインターンシップを含む）を立てる。	事前学習：指定する文献を事前に読む（2 時間） 事後学習：受験した自治体等の試験を調べる（2 時間）	4 時間
第３回	対面	国家公務員と地方公務員の違いについての講演会（合同授業） ・国家公務員の仕事紹介 ・地方公務員（行政職）の仕事紹介	事前学習：指定する文献を読む（2 時間） 事後学習：授業配布資料を使って復習する（2 時間）	4 時間
第４回	対面	SPI 模試	事前学習：SPI について調べる（2 時間） 事後学習：模試の答え合わせを行い、解けなかった設問を中心に復習する。(2 時間)	4 時間
第５回	対面	行政の課題をテーマとしたグループディスカッション	事前学習：あらかじめ指定したテーマについて調べる（2 時間） 事後学習：グループディスカッションの振り返り、テーマに関する資料を読み返す（２時間）	4 時間
第６回	対面	公務員と防災１（合同授業） ゲストスピーカーによる講演 地方自治体における災害対策、発災時における公務員の仕事を学ぶ	事前学習：指定する文献を読む。(2 時間) 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。(2 時間)	4 時間

第7回	対面	公務員と防災２（合同授業） ゲストスピーカーによるワークショップ 地方自治体における災害対策、発災時における公務員の仕事を学ぶ	事前学習：指定する文献を読む。(2 時間) 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。(2 時間)	4 時間
第8回	対面	エントリーシートについての学習 ・エントリーシートの作成 ・学生間の相互評価	事前学習：自分が志望する省庁や自治体のホームページをみて、業務内容、求められる職員像や行政課題を調べる（2 時間） 事後学習：授業で作成したエントリーシートをもとに改良を加える（2 時間）	4 時間
第9回	対面	個人面接についての学習 ・模擬面接を行う（相互観察）	事前学習：志望する自治体等を想定し、志望理由を事前に考え、書きだす。(2 時間) 事後学習：相互観察で得たコメントをもとに、模擬面接を振り返る。(2 時間)	4 時間
第１０回	対面	小論文についての学習 ・制限時間内に小論文を書く ・学生間で相互評価を行う	事前学習：指定されたテーマに関する情報を収集する。(2 時間) 事後学習：相互評価で得たコメント、教員からの指導内容をもとに振り返りを行う。(2 時間)	4 時間
第１１回	対面	公務員試験対策（国家公務員、地方公務員） 近年の採用試験実施状況などをもとに、今後の学習計画を立てる。	事前学習： 受験を考えている公務員試験について調べる。(2 時間) 事後学習：具体的な学習計画を立てる（2 時間）	4 時間
第１２回	対面	国家公務員又は地方公務員の仕事１（合同授業） 現職の国家公務員又は地方公務員をゲストスピーカーとして招き、具体的な仕事内容についての講演を聴く。	事前学習：ゲストスピーカーが所属する機関について調べる。(2 時間) 事後学習：ゲストスピーカーの資料と講義内容についてまとめ、振り返りを行う。（２時間）	4 時間
第１３回	対面	国家公務員又は地方公務員の仕事２（合同授業） 現職の国家公務員又は地方公務員をゲストスピーカーとして招き、具体的な仕事内容についての講演を聴く。	事前学習：ゲストスピーカーが所属する機関について調べる。(2 時間) 事後学習：ゲストスピーカーの資料と講義内容についてまとめ、振り返りを行う。（２時間）	4 時間
第１４回	対面	志望する機関や自治体についての調査 ・調査方法の理解 ・調査事項（仕事内容、求められる人材像など） 秋学期に志望理由についてのプレゼンをできるように準備をする。	事前学習：志望する機関や自治体について調べる（2 時間） 事後学習：志望理由を明確に述べることができるように整理する。(2 時間)	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ 志望する機関や自治体への訪問	事前学習：訪問先について調べる（2 時間）。 事後学習：訪問した内容ついてレポ―トとしてまとめる（2 時間）。	4 時間

科目名	公務員特別演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	古田　隆	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公務員（行政職）の仕事を理解し、公務員採用試験に向けての実力を高める。		
授業の目的及び概要	全体の奉仕者である公務員の仕事を理解し、行政職公務員に求められる基礎的な素養を身につけ、公務員試験に向けて準備を進めることができる。 １人口減少社会がもたらす影響をはじめ国や自治体の課題について調べ、ディスカッション、グループワーク、論述対策を行う。 ２求められる人物像、業務に必要な知識、能力について、公表されている計画書等を用いて研究する。 ３近年重視されている SPI など職種を越えて要求される知的能力を身につける。 ４現職公務員やゲスト講師による合同授業を通じて、現場の課題について理解を深める。 ５公務就職支援室との連携により、 SPI 基礎力の育成、インターンシップによる早期の就業体験、自主学習サークルへの参加促進に取り組む。		
履修条件・留意点	公務就職支援室を有効活用すること。 志望する公務員試験や資格取得に必要な S コースを受講すること。 ゲストスピーカーを招く授業については、都合により実施時期や内容を変更することがある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政職公務員（国家公務員、地方公務員）の仕事を理解し、公務員に求められる様々な能力を高めるとともに、インターンシップなどの体験などを通じ、エントリーシートの作成ができる。卒業後に公務員として活躍するために、公務員が全体の奉仕者として働くことの意義を学ぶとともに、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて傾聴力、協調性、コミュニケーション能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題は、授業中に口頭でフィードバックを行うか、あるいは添削をして返却を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、指定都市職員として 39 年間勤務し、部長級まで務め、条例等審査、不服審査、訴訟などの自治体法務に通算 24 年携わったほか、行財政改善、社会福祉法人の監査等の分野において政策形成に関与した。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	特に指定しない。	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論， 北村亘ほか， 有斐閣ストウディア，2024 年 ③新版〔第２版〕現代の行政,森田朗,第一法規,2022 年 ④これからの地方自治の教科書　改訂版， 大森彌，・大杉覚， 第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕， 大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥地方公務員の仕事と制度がこれ一冊でしっかりわかる教科書,一般社団法人公務員研究協会,技術評論社,2025 年 ⑦公務員という仕事,村木厚子,ちくまプリマー新書,2020 年 ⑧公務員のすすめ　世の中を変える地方自治体の仕事,泉房穂,小学館新書,2025 年 ⑨公務員になりたい！ベテラン公務員が教えるお役所	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784474077003 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784297152222 ⑦9784480683762 ⑧9784098254903 ⑨9784065309520 ⑩9784788978126

	就職ガイド, 秋田将人, 星海社新書, 2023 年 ⑩2027 年度版　公務員試験　現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本, 大賀英徳, 実務教育出版, 2025 年 ⑪公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著）		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	１．授業の内容 公務員は全体の奉仕者として国民、住民のため全力を尽くさなければならない仕事です。「公務員は安定しているから」という志望理由では採用試験を突破することはできません。近年の公務員試験は人物重視であり、公務員の仕事を理解していること、心身ともにタフで積極的に行動できる人材が求められています。そのため、この授業では、公務員の仕事について理解し、志望先を定め、志望理由を明確に述べることができるように学習を重ねます。そのために、国や地方自治体に関する内容に関する講義、グループディスカッションなどを行います。 ２．授業中のマナー 授業は Forms の回答などを除き、スマートフォンの使用は禁止します。 ３．他科目の履修 地方公務員（行政職）をめざす場合は、事務職が一般的ですが、一部の自治体では福祉職の採用も行われています。福祉職での受験は、社会福祉主事任用資格（３科目主事）の要件を満たす必要がありますので、行政法（行政法総論１及び２で１科目カウント）、心理学、心理学概説、社会学、社会学概説、倫理学、経済学入門のうち３科目の単位を取得すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 授業概略の説明	事前学習：自分の志望する地方自治体などについて調べる。自己紹介の準備をする。(2 時間) 事後学習：自分の長所短所、なぜ公務員を目指すのか、公務員になって何をしたいのかを考える。(2 時間)	4 時間
第２回	対面	公務員試験のしくみについて学習（合同授業） 目標を設定し、合格までの学習計画（自治体等のインターンシップを含む）を立てる。	事前学習：指定する文献を事前に読む（2 時間） 事後学習:受験した自治体等の試験を調べる(2 時間)	4 時間
第３回	対面	国家公務員と地方公務員の違いについての講演会（合同授業） ・国家公務員の仕事紹介 ・地方公務員（行政職）の仕事紹介	事前学習：指定する文献を読む（2 時間） 事後学習：授業配布資料を使って復習する（2 時間）	4 時間
第４回	対面	SPI 模試	事前学習：SPI について調べる（2 時間） 事後学習:模試の答え合わせを行い、解けなかった設問を中心に復習する。(2 時間)	4 時間
第５回	対面	行政の課題をテーマとしたグループディスカッション	事前学習：あらかじめ指定したテーマについて調べる（2 時間） 事後学習:グループディスカッションの振り返り、テーマに関する資料を読み返す（２時間）	4 時間
第６回	対面	公務員と防災１（合同授業） ゲストスピーカーによる講演 地方自治体における災害対策、発災時にお	事前学習：指定する文献を読む。(2 時間) 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。(2 時間)	4 時間

		ける公務員の仕事を学ぶ		
第７回	対面	公務員と防災２（合同授業） ゲストスピーカーによるワークショップ 地方自治体における災害対策、発災時における公務員の仕事を学ぶ	事前学習：指定する文献を読む。(2 時間) 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。(2 時間)	4 時間
第８回	対面	エントリーシートについての学習 ・エントリーシートの作成 ・学生間の相互評価	事前学習：自分が志望する省庁や自治体のホームページをみて、業務内容、求められる職員像や行政課題を調べる（2 時間） 事後学習：授業で作成したエントリーシートをもとに改良を加える（2 時間）	4 時間
第９回	対面	個人面接についての学習 ・模擬面接を行う（相互観察）	事前学習：志望する自治体等を想定し、志望理由を事前に考え、書きだす。(2 時間) 事後学習：相互観察で得たコメントをもとに、模擬面接を振り返る。(2 時間)	4 時間
第１０回	対面	小論文についての学習 ・制限時間内に小論文を書く ・学生間で相互評価を行う	事前学習：指定されたテーマに関する情報を収集する。(2 時間) 事後学習：相互評価で得たコメント、教員からの指導内容をもとに振り返りを行う。(2 時間)	4 時間
第１１回	対面	公務員試験対策（国家公務員、地方公務員） 近年の採用試験実施状況などをもとに、今後の学習計画を立てる。	事前学習： 受験を考えている公務員試験について調べる。(2 時間) 事後学習：具体的な学習計画を立てる（2 時間）	4 時間
第１２回	対面	国家公務員又は地方公務員の仕事１（合同授業） 現職の国家公務員又は地方公務員をゲストスピーカーとして招き、具体的な仕事内容についての講演を聴く。	事前学習：ゲストスピーカーが所属する機関について調べる。(2 時間) 事後学習：ゲストスピーカーの資料と講義内容についてまとめ、振り返りを行う。(２時間)	4 時間
第１３回	対面	国家公務員又は地方公務員の仕事２（合同授業） 現職の国家公務員又は地方公務員をゲストスピーカーとして招き、具体的な仕事内容についての講演を聴く。	事前学習：ゲストスピーカーが所属する機関について調べる。(2 時間) 事後学習：ゲストスピーカーの資料と講義内容についてまとめ、振り返りを行う。(２時間)	4 時間
第１４回	対面	志望する機関や自治体についての調査 ・調査方法の理解 ・調査事項（仕事内容、求められる人材像など） 秋学期に志望理由についてのプレゼンをできるように準備をする。	事前学習：志望する機関や自治体について調べる（2 時間） 事後学習：志望理由を明確に述べることができるように整理する。(2 時間)	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ 志望する機関や自治体への訪問	事前学習：訪問先について調べる（2 時間）。 事後学習：訪問した内容ついてレポ―トとしてまとめる（2 時間）。	4 時間

科目名	公務員特別演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	上林　大	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。		
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合

	はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律①　憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律②　地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第８回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由①　職種別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第９回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由②　組織別の志望理	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるよ	4 時間

		由）	うにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第１０回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己 PR）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　ガクチカ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　PREP 法）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　エントリーシート、面接カードとは）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	オンデマンド	課題提出 （課題例　志望理由、自己 PR、ガクチカ等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中久保　寛幸	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。		
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と

	自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律①　憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律②　地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第８回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由①　職種別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深	4 時間

			めておく。	
第９回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由②　組織別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己 PR）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　ガクチカ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　PREP 法）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　エントリーシート、面接カードとは）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	オンデマンド	課題提出 （課題例　志望理由、自己 PR、ガクチカ等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	雑喉　浩久	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。		
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対して

	は厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律①　憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律②　地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第８回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由①　職種別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間

第９回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由②　組織別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己 PR）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　ガクチカ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　PREP 法）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　エントリーシート、面接カードとは）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	オンデマンド	課題提出 （課題例　志望理由、自己 PR、ガクチカ等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	雑喉　浩久	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。		
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対して

	は厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律①　憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律②　地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第８回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由①　職種別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間

第９回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由②　組織別の志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己 PR）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　ガクチカ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　PREP 法）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　エントリーシート、面接カードとは）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	オンデマンド	課題提出 （課題例　志望理由、自己 PR、ガクチカ等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	漆畑　貴久	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公務員（行政職）の仕事を理解し、公務員採用試験に向けての実力を高める。		
授業の目的及び概要	全体の奉仕者である公務員の仕事を理解し、行政職公務員に求められる基礎的な素養を身につけ、公務員試験に向けて準備を進めることができる。 １国や自治体の置かれた状況や課題について調べ、ディスカッションやディベート、グループワーク、論述対策を行う。 ２求められる人物像、業務に必要な知識、能力について理解し、志望先のエントリーシートの作成を行う。 ３近年重視されている SPI など職種を越えて要求される知的能力を身につける。 ４現職公務員やゲスト講師による合同授業を通じて、現場の課題について理解を深める。 ５公務就職支援室との連携により、 SPI 基礎力の育成、インターンシップによる早期の就業体験、自主学習サークルへの参加促進に取り組む。		
履修条件・留意点	公務就職支援室を有効活用すること。 志望する公務員試験や資格取得に必要な S コースを受講すること。 ゲストスピーカーを招く授業については、都合により実施時期や内容を変更することがある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政職公務員（国家公務員、地方公務員）の仕事を理解し、公務員に求められる様々な能力を高めるとともに、インターンシップなどの体験などを通じ、エントリーシートの作成ができる。 卒業後に公務員として活躍するために、公務員が全体の奉仕者として働くことの意義を学ぶとともに、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて傾聴力、協調性、コミュニケーション能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題は、授業中に口頭でフィードバックを行うか、あるいは添削をして返却を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論， 北村亘ほか， 有斐閣ストウディア，2024 年 ③新版〔第２版〕現代の行政,森田朗,第一法規,2022 年 ④これからの地方自治の教科書　改訂版， 大森彌，・大杉覚， 第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕， 大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥地方公務員の仕事と制度がこれ一冊でしっかりわかる教科書,一般社団法人公務員研究協会,技術評論社,2025 年 ⑦公務員という仕事,村木厚子,ちくまプリマー新書,2020 年 ⑧公務員のすすめ　世の中を変える地方自治体の仕事,泉房穂,小学館新書,2025 年 ⑨公務員になりたい！ベテラン公務員が教えるお役所就職ガイド,秋田将人,星海社新書,2023 年 ⑩2027 年度版　公務員試験　現職人事が書いた「公務	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784474077003 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784297152222 ⑦9784480683762 ⑧9784098254903 ⑨9784065309520 ⑩9784788978126

	員になりたい人へ」の本, 大賀英徳, 実務教育出版, 2025年 ⑪公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著）		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	１．授業の内容 公務員は全体の奉仕者として国民、住民のため全力を尽くさなければならない仕事です。「公務員は安定しているから」という志望理由では採用試験を突破することはできません。近年の公務員試験は人物重視であり、公務員の仕事を理解していること、心身ともにタフで積極的に行動できる人材が求められています。そのため、この授業では、公務員の仕事について理解し、志望先を定め、志望理由を明確に述べることができるように学習を重ねます。そのために、国や地方自治体に関する講義やグループディスカッションなどを行います。 ２．授業中のマナー 授業は Forms の回答などを除き、スマートフォンの使用は禁止します。 ３．他科目の履修 地方公務員（行政職）をめざす場合は、事務職が一般的ですが、一部の自治体では福祉職の採用も行われています。福祉職での受験は、社会福祉主事任用資格（３科目主事）の要件を満たす必要がありますので、行政法（行政法総論１及び２で１科目カウント）、心理学、心理学概説、社会学、社会学概説、倫理学、経済学入門のうち３科目の単位を取得すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 秋学期概略の説明 グループワーク	事前学習：志望する機関や自治体についての調査した内容をまとめる。(2 時間) 事後学習：次週のプレゼンの準備をする。(2 時間)	4 時間
第２回	対面	プレゼンテーション１ ・人前で発表する練習 ・プレゼンテーション技術の向上 ・志望する機関や自治体について説明する ・学生間で相互評価を行う	事前学習：プレゼンテーションの準備。(2 時間) 事後学習：教員及び学生間相互評価でもらったコメントをもとにプレゼンテーションを振り返る。(2 時間)	4 時間
第３回	対面	プレゼンテーション２ ・人前で発表する練習 ・プレゼンテーション技術の向上 ・志望する機関や自治体について説明する ・学生間で相互評価を行う	事前学習：プレゼンテーションの準備。(2 時間) 事後学習：教員及び学生間相互評価でもらったコメントをもとにプレゼンテーションを振り返る。(2 時間)	4 時間
第４回	対面	ＳＰＩ模試	事前学習：SPI の問題集等で自習する。(2 時間) 事後学習：模試の答え合わせを行い、解けなかった設問を中心に復習する。(2 時間)	4 時間
第５回	対面	地方自治体の仕事を知る１（合同授業） ・地方自治体の人事制度について学ぶ ・ゲストスピーカーによる講演	事前学習：指定する文献を読む。(2 時間) 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。(2 時間)	4 時間
第６回	対面	地方自治体の仕事を知る２（合同授業） ・地方自治体の政策形成について学ぶ ・ゲストスピーカーによる講演	事前学習：指定する文献を読む。(2 時間) 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。(2 時間)	4 時間
第７回	対面	地方自治体の仕事を知る３（合同授業）	事前学習：指定する文献を読む。(2 時間)	4 時間

		・基礎自治体（市区町村）と広域自治体（都道府県）の違いを学ぶ	事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	
第８回	対面	公務員試験対策１ ・国家公務員試験対策（筆記試験） ・地方公務員試験対策（行政課題の理解及び人物重視型試験）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第９回	対面	公務員試験対策２ ・国家公務員試験対策（筆記試験） ・地方公務員試験対策（行政課題の理解及び人物重視型試験）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１０回	対面	公務員試験対策３ ・国家公務員試験対策（筆記試験） ・地方公務員試験対策（行政課題の理解及び人物重視型試験）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１１回	対面	公務員試験対策４ ・国家公務員試験対策（筆記試験） ・地方公務員試験対策（行政課題の理解及び人物重視型試験）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１２回	対面	公務員試験対策５ ・国家公務員試験対策（筆記試験） ・地方公務員試験対策（行政課題の理解及び人物重視型試験）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１３回	対面	公務員試験対策６（合同授業） ・面接試験対策 ・ゲストスピーカーによる講演、実技指導	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１４回	対面	公務員試験対策７（合同授業） ・面接試験対策 ・ゲストスピーカーによる講演、実技指導	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１５回	オンデマンド	秋学期のまとめ ３年生に向けての準備（学習計画など）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間

科目名	公務員特別演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	古田　隆	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公務員（行政職）の仕事を理解し、公務員採用試験に向けての実力を高める。		
授業の目的及び概要	全体の奉仕者である公務員の仕事を理解し、行政職公務員に求められる基礎的な素養を身につけ、公務員試験に向けて準備を進めることができる。 １国や自治体の置かれた状況や課題について調べ、ディスカッションやディベート、グループワーク、論述対策を行う。 ２求められる人物像、業務に必要な知識、能力について理解し、志望先のエントリーシートの作成を行う。 ３近年重視されている SPI など職種を越えて要求される知的能力を身につける。 ４現職公務員やゲスト講師による合同授業を通じて、現場の課題について理解を深める。 ５公務就職支援室との連携により、 SPI 基礎力の育成、インターンシップによる早期の就業体験、自主学習サークルへの参加促進に取り組む。		
履修条件・留意点	公務就職支援室を有効活用すること。 志望する公務員試験や資格取得に必要な S コースを受講すること。 ゲストスピーカーを招く授業については、都合により実施時期や内容を変更することがある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政職公務員（国家公務員、地方公務員）の仕事を理解し、公務員に求められる様々な能力を高めるとともに、インターンシップなどの体験などを通じ、エントリーシートの作成ができる。 卒業後に公務員として活躍するために、公務員が全体の奉仕者として働くことの意義を学ぶとともに、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて傾聴力、協調性、コミュニケーション能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題は、授業中に口頭でフィードバックを行うか、あるいは添削をして返却を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、指定都市職員として 39 年間勤務し、部長級まで務め、条例等審査、不服審査、訴訟などの自治体法務に通算 24 年携わったほか、行財政改善、社会福祉法人の監査等の分野において政策形成に関与した。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論， 北村亘ほか， 有斐閣ストウディア，2024 年 ③新版〔第２版〕現代の行政,森田朗,第一法規,2022 年 ④これからの地方自治の教科書　改訂版， 大森彌，・大杉覚， 第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕， 大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥地方公務員の仕事と制度がこれ一冊でしっかりわかる教科書,一般社団法人公務員研究協会,技術評論社,2025 年 ⑦公務員という仕事,村木厚子,ちくまプリマー新書,2020 年 ⑧公務員のすすめ　世の中を変える地方自治体の仕事,泉房穂,小学館新書,2025 年 ⑨公務員になりたい！ベテラン公務員が教えるお役所	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784474077003 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784297152222 ⑦9784480683762 ⑧9784098254903 ⑨9784065309520 ⑩9784788978126

	就職ガイド, 秋田将人, 星海社新書, 2023 年 ⑩2027 年度版　公務員試験　現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本, 大賀英徳, 実務教育出版, 2025 年 ⑪公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著）		

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	

この科目の受講にあたって	１．授業の内容 公務員は全体の奉仕者として国民、住民のため全力を尽くさなければならない仕事です。「公務員は安定しているから」という志望理由では採用試験を突破することはできません。近年の公務員試験は人物重視であり、公務員の仕事を理解していること、心身ともにタフで積極的に行動できる人材が求められています。そのため、この授業では、公務員の仕事について理解し、志望先を定め、志望理由を明確に述べることができるように学習を重ねます。そのために、国や地方自治体に関する講義やグループディスカッションなどを行います。 ２．授業中のマナー 授業は Forms の回答などを除き、スマートフォンの使用は禁止します。 ３．他科目の履修 地方公務員（行政職）をめざす場合は、事務職が一般的ですが、一部の自治体では福祉職の採用も行われています。福祉職での受験は、社会福祉主事任用資格（３科目主事）の要件を満たす必要がありますので、行政法（行政法総論１及び２で１科目カウント）、心理学、心理学概説、社会学、社会学概説、倫理学、経済学入門のうち３科目の単位を取得すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 秋学期概略の説明 グループワーク	事前学習：志望する機関や自治体についての調査した内容をまとめる。(2 時間) 事後学習：次週のプレゼンの準備をする。(2 時間)	4 時間
第２回	対面	プレゼンテーション１ ・人前で発表する練習 ・プレゼンテーション技術の向上 ・志望する機関や自治体について説明する ・学生間で相互評価を行う	事前学習：プレゼンテーションの準備。(2 時間) 事後学習：教員及び学生間相互評価でもらったコメントをもとにプレゼンテーションを振り返る。(2 時間)	4 時間
第３回	対面	プレゼンテーション２ ・人前で発表する練習 ・プレゼンテーション技術の向上 ・志望する機関や自治体について説明する ・学生間で相互評価を行う	事前学習：プレゼンテーションの準備。(2 時間) 事後学習：教員及び学生間相互評価でもらったコメントをもとにプレゼンテーションを振り返る。(2 時間)	4 時間
第４回	対面	ＳＰＩ模試	事前学習：SPI の問題集等で自習する。(2 時間) 事後学習：模試の答え合わせを行い、解けなかった設問を中心に復習する。(2 時間)	4 時間
第５回	対面	地方自治体の仕事を知る１（合同授業） ・地方自治体の人事制度について学ぶ ・ゲストスピーカーによる講演	事前学習：指定する文献を読む。(2 時間) 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。(2 時間)	4 時間
第６回	対面	地方自治体の仕事を知る２（合同授業） ・地方自治体の政策形成について学ぶ ・ゲストスピーカーによる講演	事前学習：指定する文献を読む。(2 時間) 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。(2 時間)	4 時間

第７回	対面	地方自治体の仕事を知る３（合同授業） ・基礎自治体（市区町村）と広域自治体（都道府県）の違いを学ぶ	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第８回	対面	公務員試験対策１ ・国家公務員試験対策（筆記試験） ・地方公務員試験対策（行政課題の理解及び人物重視型試験）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第９回	対面	公務員試験対策２ ・国家公務員試験対策（筆記試験） ・地方公務員試験対策（行政課題の理解及び人物重視型試験）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１０回	対面	公務員試験対策３ ・国家公務員試験対策（筆記試験） ・地方公務員試験対策（行政課題の理解及び人物重視型試験）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１１回	対面	公務員試験対策４ ・国家公務員試験対策（筆記試験） ・地方公務員試験対策（行政課題の理解及び人物重視型試験）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１２回	対面	公務員試験対策５ ・国家公務員試験対策（筆記試験） ・地方公務員試験対策（行政課題の理解及び人物重視型試験）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１３回	対面	公務員試験対策６（合同授業） ・面接試験対策 ・ゲストスピーカーによる講演、実技指導	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１４回	対面	公務員試験対策７（合同授業） ・面接試験対策 ・ゲストスピーカーによる講演、実技指導	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１５回	オンデマンド	秋学期のまとめ ３年生に向けての準備（学習計画など）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間

科目名	公務員特別演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉川　貴代	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公務員（行政職）の仕事を理解し、公務員採用試験に向けての実力を高める。		
授業の目的及び概要	全体の奉仕者である公務員の仕事を理解し、行政職公務員に求められる基礎的な素養を身につけ、公務員試験に向けて準備を進めることができる。 １国や自治体の置かれた状況や課題について調べ、ディスカッションやディベート、グループワーク、論述対策を行う。 ２求められる人物像、業務に必要な知識、能力について理解し、志望先のエントリーシートの作成を行う。 ３近年重視されている SPI など職種を越えて要求される知的能力を身につける。 ４現職公務員やゲスト講師による合同授業を通じて、現場の課題について理解を深める。 ５公務就職支援室との連携により、 SPI 基礎力の育成、インターンシップによる早期の就業体験、自主学習サークルへの参加促進に取り組む。		
履修条件・留意点	公務就職支援室を有効活用すること。 志望する公務員試験や資格取得に必要な S コースを受講すること。 ゲストスピーカーを招く授業については、都合により実施時期や内容を変更することがある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	行政職公務員（国家公務員、地方公務員）の仕事を理解し、公務員に求められる様々な能力を高めるとともに、インターンシップなどの体験などを通じ、エントリーシートの作成ができる。 卒業後に公務員として活躍するために、公務員が全体の奉仕者として働くことの意義を学ぶとともに、グループワークなどのアクティブラーニングを通じて傾聴力、協調性、コミュニケーション能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された課題は、授業中に口頭でフィードバックを行うか、あるいは添削をして返却を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	指定しない	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論， 北村亘ほか， 有斐閣ストウディア，2024 年 ③新版〔第２版〕現代の行政,森田朗,第一法規,2022 年 ④これからの地方自治の教科書　改訂版， 大森彌，・大杉覚， 第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕， 大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥地方公務員の仕事と制度がこれ一冊でしっかりわかる教科書,一般社団法人公務員研究協会,技術評論社,2025 年 ⑦公務員という仕事,村木厚子,ちくまプリマー新書,2020 年 ⑧公務員のすすめ　世の中を変える地方自治体の仕事,泉房穂,小学館新書,2025 年 ⑨公務員になりたい！ベテラン公務員が教えるお役所就職ガイド,秋田将人,星海社新書,2023 年	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784474077003 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784297152222 ⑦9784480683762 ⑧9784098254903 ⑨9784065309520 ⑩9784788978126

	⑩2027 年度版　公務員試験　現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本, 大賀英徳, 実務教育出版, 2025 年 ⑪公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著）		

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	

この科目の受講にあたって	１．授業の内容 公務員は全体の奉仕者として国民、住民のため全力を尽くさなければならない仕事です。「公務員は安定しているから」という志望理由では採用試験を突破することはできません。近年の公務員試験は人物重視であり、公務員の仕事を理解していること、心身ともにタフで積極的に行動できる人材が求められています。そのため、この授業では、公務員の仕事について理解し、志望先を定め、志望理由を明確に述べることができるように学習を重ねます。そのために、国や地方自治体に関する講義やグループディスカッションなどを行います。 ２．授業中のマナー 授業は Forms の回答などを除き、スマートフォンの使用は禁止します。 ３．他科目の履修 地方公務員（行政職）をめざす場合は、事務職が一般的ですが、一部の自治体では福祉職の採用も行われています。福祉職での受験は、社会福祉主事任用資格（３科目主事）の要件を満たす必要がありますので、行政法（行政法総論１及び２で１科目カウント）、心理学、心理学概説、社会学、社会学概説、倫理学、経済学入門のうち３科目の単位を取得すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス 秋学期概略の説明 グループワーク	事前学習：志望する機関や自治体についての調査した内容をまとめる。(2 時間) 事後学習：次週のプレゼンの準備をする。(2 時間)	4 時間
第２回	対面	プレゼンテーション１ ・人前で発表する練習 ・プレゼンテーション技術の向上 ・志望する機関や自治体について説明する ・学生間で相互評価を行う	事前学習：プレゼンテーションの準備。(2 時間) 事後学習：教員及び学生間相互評価でもらったコメントをもとにプレゼンテーションを振り返る。(2 時間)	4 時間
第３回	対面	プレゼンテーション２ ・人前で発表する練習 ・プレゼンテーション技術の向上 ・志望する機関や自治体について説明する ・学生間で相互評価を行う	事前学習：プレゼンテーションの準備。(2 時間) 事後学習：教員及び学生間相互評価でもらったコメントをもとにプレゼンテーションを振り返る。(2 時間)	4 時間
第４回	対面	ＳＰＩ模試	事前学習：SPI の問題集等で自習する。(2 時間) 事後学習：模試の答え合わせを行い、解けなかった設問を中心に復習する。(2 時間)	4 時間
第５回	対面	地方自治体の仕事を知る１（合同授業） ・地方自治体の人事制度について学ぶ ・ゲストスピーカーによる講演	事前学習：指定する文献を読む。(2 時間) 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。(2 時間)	4 時間
第６回	対面	地方自治体の仕事を知る２（合同授業） ・地方自治体の政策形成について学ぶ ・ゲストスピーカーによる講演	事前学習：指定する文献を読む。(2 時間) 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。(2 時間)	4 時間

第７回	対面	地方自治体の仕事を知る３（合同授業） ・基礎自治体（市区町村）と広域自治体（都道府県）の違いを学ぶ	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第８回	対面	公務員試験対策１ ・国家公務員試験対策（筆記試験） ・地方公務員試験対策（行政課題の理解及び人物重視型試験）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第９回	対面	公務員試験対策２ ・国家公務員試験対策（筆記試験） ・地方公務員試験対策（行政課題の理解及び人物重視型試験）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１０回	対面	公務員試験対策３ ・国家公務員試験対策（筆記試験） ・地方公務員試験対策（行政課題の理解及び人物重視型試験）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１１回	対面	公務員試験対策４ ・国家公務員試験対策（筆記試験） ・地方公務員試験対策（行政課題の理解及び人物重視型試験）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１２回	対面	公務員試験対策５ ・国家公務員試験対策（筆記試験） ・地方公務員試験対策（行政課題の理解及び人物重視型試験）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１３回	対面	公務員試験対策６（合同授業） ・面接試験対策 ・ゲストスピーカーによる講演、実技指導	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１４回	対面	公務員試験対策７（合同授業） ・面接試験対策 ・ゲストスピーカーによる講演、実技指導	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間
第１５回	オンデマンド	秋学期のまとめ ３年生に向けての準備（学習計画など）	事前学習：指定する文献を読む。（2 時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2 時間）	4 時間

科目名	公務員特別演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中久保　寛幸	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。		
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ＩＡの本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と

	自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究①）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究②）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究③）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究④）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析①　マインドマップ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析②　あなたの強み、仕事にどう活かすか。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第８回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析③　あなたの弱み、どう克服した。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から	4 時間

			指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第９回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析④　失敗や挫折、どう乗り越えた。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑤　志望理由(職種)）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑥　志望理由(組織)）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑦　PREP 法）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑧　まとめ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	オンデマンド	課題提出 （課題例　エントリーシート、面接カード等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	上林　大	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。		
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ＩＡの本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合

	はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究①）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究②）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究③）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究④）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析①　マインドマップ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析②　あなたの強み、仕事にどう活かすか。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第８回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析③　あなたの弱み、どう克服した。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間

第９回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析④　失敗や挫折、どう乗り越えた。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑤　志望理由(職種)）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑥　志望理由(組織)）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑦　PREP 法）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑧　まとめ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	オンデマンド	課題提出 （課題例　エントリーシート、面接カード等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	雑喉　浩久	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。		
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ＩＡの本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対して

	は厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究①）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究②）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究③）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究④）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析①　マインドマップ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析②　あなたの強み、仕事にどう活かすか。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第８回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析③　あなたの弱み、どう克服した。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間

第９回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析④　失敗や挫折、どう乗り越えた。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑤　志望理由(職種)）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑥　志望理由(組織)）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑦　PREP 法）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑧　まとめ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	オンデマンド	課題提出 （課題例　エントリーシート、面接カード等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	雑喉　浩久	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公安職公務員として社会貢献する立志と求められる適性・資質の醸成。		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献する志を立て、そのために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織に求められる人物像、組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究と自己分析等により、社会人及び公安職公務員としての基礎力を養います。		
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ＩＡの本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対して

	は厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究①）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究②）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究③）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　組織研究④）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析①　マインドマップ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析②　あなたの強み、仕事にどう活かすか。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第８回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析③　あなたの弱み、どう克服した。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間

第９回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析④　失敗や挫折、どう乗り越えた。）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑤　志望理由(職種)）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑥　志望理由(組織)）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑦　PREP 法）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己分析⑧　まとめ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	オンデマンド	課題提出 （課題例　エントリーシート、面接カード等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	秋学期の総括	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	平阪　美穂	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	教員として必要な資質・能力、学校を取り巻く諸課題について理解を深めるとともに、教員採用試験の人物評価試験対策に取り組む。		
授業の目的及び概要	教職についての理解を深め、これからの時代に対応できる教員を目指す実践的な演習である。 現在の学校、子どもが抱える困難な課題の現状や背景への理解を深め、中央教育審議会答申や通知、国家・各自が志望する自治体などの教育振興基本計画等をふまえて、教員の役割、あるべき対応について考察する。 教育実習や学校ボランティアなどを念頭に、学校現場で行かせる能力を培う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　志望先を決め、教員採用試験に向けて、教員になるために必要な心構え、知識、論理的思考力、表現力、文章作成能力等の素養を身に付けている。 ②　学校、子どもを取り巻く諸課題について、基本データ等をふまえて理解し、それらに対する国や自治体の方針、対策について把握している。 ③　学校現場での様々な場面に対して、教員としてどのようにふるまい、対応すべきか理解し、実践しようとすることができる。 ④　教員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ⑤　教育問題、子どもを取り巻く問題に関心を持つようになり、教養を身に付けている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告に対する講評を行い、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料等を参照して、政策課題への理解を深めてください。	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や社会の動き・課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。 教職課程科目の履修とともに、その復習を怠らないように。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	オリエンテーション 志望する自治体の採用試験内容に基づき、学習計画を作成する。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2 時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対し的確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2 時間）。	4 時間
第２回	対面	採用試験の合格に向けて必要なことを理解する 教員を取り巻く環境、採用試験動向を踏まえ、学内の支援体制や今後取り組むべき事項を理解し、学修計画をたてる。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2 時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対し的確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2 時間）。	4 時間
第３回	対面	ＳＰＩ模擬テスト 授業内でＳＰＩ模擬テストを実施し、自身の現在位置と目標値を確認する。	事前に、過去問等を利用して試験問題の形式を理解し対策を進めておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	課題理解１　令和の日本型教育 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第５回	対面	課題理解２　教員の働き方改革　教員の資質能力の向上 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第６回	対面	課題理解３　教育の情報化 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第７回	対面	課題理解４　いじめ、不登校 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。 ※中間課題：今までの課題理解で取り上げた内容で、志望先の現状と課題点、解決案を考える（2 時間）。	6 時間
第８回	対面	課題理解５　子育て支援・児童虐待 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第９回	対面	課題理解６　学校安全・危機管理 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１０回	対面	課題理解７　特別支援教育 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１１回	対面	課題理解８　人権教育等 与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１２回	対面	課題理解９　学校と地域・保護者との連携	事前に、課題について自分なりの考えや取組方法を	4 時間

		与えられた課題に基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	まとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	
第１３回	対面	課題理解 10 総合演習・まとめ	事前に、これまで学習した政策課題について整理し、まとめておくこと（2 時間）。 復習として、講演の内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１４回	対面	仕事理解 1 外部講師による講演	事前に、講演テーマについて調べて、疑問点などを考えておくこと（2 時間）。 復習として、講演の内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する。	事前に、春学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 復習として、ゼミ仲間との意見交換した内容について整理確認し、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 ※期末課題：志望動機について（2 時間） ※夏に実施される公務員模試を受験する	6 時間

科目名	公務員特別演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	平阪　美穂	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公務員（行政職）の採用試験の受験先を決定し、各採用試験合格に必要な能力を高める。		
授業の目的及び概要	全体の奉仕者である公務員の仕事を理解したうえで、公務員試験合格に必要な能力を身に付ける。 １人口減少社会がもたらす影響をはじめ国や自治体の課題について調べ、ディスカッション、グループワーク、論述対策を行う。 ２志望先において、求められる人物像、業務に必要な知識・能力を把握し、エントリーシートに反映できるようにする。 ３公務就職支援室との連携により、各学生が受験を予定している試験に見合った学習計画を立てて、継続的に学習する習慣を身につける。		
履修条件・留意点	公務員試験の合格には、継続的な自学が必要です。そのため、志望する公務員試験に必要な Sコース受講や模擬試験やセミナーなどに積極的に参加すること。 ゲストスピーカーを招く授業については、都合により実施時期や内容を変更することがある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	＜基本的なインプットおよびグループディスカッション＞ ①公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、文書作成能力等を身につける。 ②公務員を取り巻く情勢について理解し、志望先の組織・自治体に関する基本データの把握、直面する諸課題に対しての理解ができるようになる。 ③公務員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ④地域社会・社会情勢に関心を持つようになり、教養を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告に対する講評を行い、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料等を参照して、政策課題への理解を深めてください。	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論， 北村亘ほか， 有斐閣ストウディア，2024 年 ③新版〔第２版〕現代の行政，森田朗，第一法規，2022 年 ④これからの地方自治の教科書　改訂版， 大森彌，・大杉覚， 第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕， 大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥地方公務員の仕事と制度がこれ一冊でしっかりわかる教科書，一般社団法人公務員研究協会，技術評論社，2025 年 ⑦公務員という仕事，村木厚子，ちくまプリマー新書，2020 年 ⑧公務員のすすめ　世の中を変える地方自治体の仕事，泉房穂，小学館新書，2025 年	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784474077003 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784297152222 ⑦9784480683762 ⑧9784098254903 ⑨9784065309520 ⑩9784788978126

	⑨公務員になりたい！ベテラン公務員が教えるお役所就職ガイド, 秋田将人, 星海社新書, 2023 年 ⑩2027 年度版　公務員試験　現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本, 大賀英徳, 実務教育出版, 2025 年 ⑪公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著）		

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	

この科目の受講にあたって	１．授業の内容 公務員は全体の奉仕者として国民、住民のため全力を尽くさなければならない仕事です。「公務員は安定しているから」という志望理由では採用試験を突破することはできません。近年の公務員試験は人物重視であり、公務員の仕事を理解していること、心身ともにタフで積極的に行動できる人材が求められています。そのため、個人面接、集団面接、グループディスカッションなどの練習を多く取り入れます。積極的な参加を期待します。 ２．授業中のマナー 授業は Forms の回答などの場合を除き、スマートフォンの使用は禁止します。 ３．他科目の履修 地域共生論、地方自治論、地方自治法、政治学に関する科目の履修を推奨する。 ４．社会福祉主事任用資格（３科目主事）の要件を満たす必要がありますので、行政法（行政法総論１及び２で１科目カウント）、心理学、心理学概説、社会学、社会学概説、倫理学、経済学入門のうち３科目の単位を取得すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	公務員が全体の奉仕者であること、公務員として働くことについての理解を改めて深める ・なぜ公務員なのか？公務員として働くことについての理解を深める ・公務員として求められる人材像について考える	事前学習：志望する機関や自治体における採用試験の内容を確認する。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習し、今後の試験対策を組み立てる。（２時間）	4 時間
第２回	対面	採用試験についての正しい理解と学習計画（合同授業）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	4 時間
第３回	対面	SPI 模試	事前学習：過去の SPI 模試や問題集を用いて練習する。（２時間） 事後学習：間違えたところを中心に復習する。（２時間）	4 時間
第４回	対面	公務員試験対策１ ・人物重視型対策（エントリーシート） ・筆記試験対策（教養試験）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	4 時間
第５回	対面	公務員試験対策２ ・人物重視型対策（エントリーシート） ・筆記試験対策（教養試験）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	4 時間
第６回	対面	公務員試験対策３ ・人物重視型対策（エントリーシート） ・筆記試験対策（教養試験）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	4 時間

第7回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解１） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（２時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（２時間）	4 時間
第8回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解２） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（２時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（２時間）	4 時間
第9回	対面	公務員採用試験における面接官の視点を学ぶ（合同授業） 外部講師による講演、ワークショップ	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	4 時間
第１０回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解３） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（２時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（２時間）	4 時間
第１１回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解４） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（２時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（２時間）	4 時間
第１２回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解５） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（２時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（２時間）	4 時間
第１３回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解６） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（２時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（２時間）	4 時間
第１４回	対面	公務員採用試験に関する講演会（合同授業） ゲストスピーカーによる講演、ワークショップ	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（２時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（２時間）	4 時間
第１５回	オンデ	春学期のまとめ	事前に、春学期全体を振り返り、自身の課題や今後の	4 時間

	マンド	志望する機関、自治体についての調査	就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 復習として、ゼミ仲間との意見交換した内容について整理確認し、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。	

科目名	公務員特別演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	古田　隆	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公務員（行政職）の採用試験の受験先を決定し、各採用試験合格に必要な能力を高める。		
授業の目的及び概要	全体の奉仕者である公務員の仕事を理解したうえで、公務員試験合格に必要な能力を身に付ける。 １人口減少社会がもたらす影響をはじめ国や自治体の課題について調べ、ディスカッション、グループワーク、論述対策を行う。 ２志望先において、求められる人物像、業務に必要な知識・能力を把握し、エントリーシートに反映できるようにする。 ３公務就職支援室との連携により、各学生が受験を予定している試験に見合った学習計画を立てて、継続的に学習する習慣を身につける。		
履修条件・留意点	公務員試験の合格には、継続的な自学が必要です。そのため、志望する公務員試験に必要な Sコース受講や模擬試験やセミナーなどに積極的に参加すること。 ゲストスピーカーを招く授業については、都合により実施時期や内容を変更することがある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	＜基本的なインプットおよびグループディスカッション＞ ①公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、文書作成能力等を身につける。 ②公務員を取り巻く情勢について理解し、志望先の組織・自治体に関する基本データの把握、直面する諸課題に対しての理解ができるようになる。 ③公務員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ④地域社会・社会情勢に関心を持つようになり、教養を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告に対する講評を行い、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、指定都市職員として 39 年間勤務し、部長級まで務め、条例等審査、不服審査、訴訟などの自治体法務に通算 24 年携わったほか、行財政改善、社会福祉法人の監査等の分野において政策形成に関与した。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料等を参照して、政策課題への理解を深めてください。	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論， 北村亘ほか， 有斐閣ストウディア，2024 年 ③新版〔第２版〕現代の行政，森田朗，第一法規，2022 年 ④これからの地方自治の教科書　改訂版， 大森彌，・大杉覚， 第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕， 大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥地方公務員の仕事と制度がこれ一冊でしっかりわかる教科書，一般社団法人公務員研究協会，技術評論社，2025 年 ⑦公務員という仕事，村木厚子，ちくまプリマー新書，2020 年	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784474077003 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784297152222 ⑦9784480683762 ⑧9784098254903 ⑨9784065309520 ⑩9784788978126

	⑧公務員のすすめ　世の中を変える地方自治体の仕事, 泉房穂, 小学館新書, 2025 年 ⑨公務員になりたい！ベテラン公務員が教えるお役所就職ガイド, 秋田将人, 星海社新書, 2023 年 ⑩2027 年度版　公務員試験　現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本, 大賀英徳, 実務教育出版, 2025 年 ⑪公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著）		

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	

この科目の受講にあたって	１．授業の内容 公務員は全体の奉仕者として国民、住民のため全力を尽くさなければならない仕事です。「公務員は安定しているから」という志望理由では採用試験を突破することはできません。近年の公務員試験は人物重視であり、公務員の仕事を理解していること、心身ともにタフで積極的に行動できる人材が求められています。そのため、個人面接、集団面接、グループディスカッションなどの練習を多く取り入れます。積極的な参加を期待します。 ２．授業中のマナー 授業は Forms の回答などの場合を除き、スマートフォンの使用は禁止します。 ３．他科目の履修 地域共生論、地方自治論、地方自治法、政治学に関する科目の履修を推奨する。 ４．社会福祉主事任用資格（３科目主事）の要件を満たす必要がありますので、行政法（行政法総論１及び２で１科目カウント）、心理学、心理学概説、社会学、社会学概説、倫理学、経済学入門のうち３科目の単位を取得すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	公務員が全体の奉仕者であること、公務員として働くことについての理解を改めて深める ・なぜ公務員なのか？公務員として働くことについての理解を深める ・公務員として求められる人材像について考える	事前学習：志望する機関や自治体における採用試験の内容を確認する。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習し、今後の試験対策を組み立てる。（２時間）	4 時間
第２回	対面	採用試験についての正しい理解と学習計画（合同授業）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	4 時間
第３回	対面	SPI 模試	事前学習：過去の SPI 模試や問題集を用いて練習する。（２時間） 事後学習：間違えたところを中心に復習する。（２時間）	4 時間
第４回	対面	公務員試験対策１ ・人物重視型対策（エントリーシート） ・筆記試験対策（教養試験）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	4 時間
第５回	対面	公務員試験対策２ ・人物重視型対策（エントリーシート） ・筆記試験対策（教養試験）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	4 時間
第６回	対面	公務員試験対策３ ・人物重視型対策（エントリーシート）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	4 時間

		・筆記試験対策（教養試験）		
第7回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解１） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（２時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（２時間）	4 時間
第8回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解２） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（２時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（２時間）	4 時間
第9回	対面	公務員採用試験における面接官の視点を学ぶ（合同授業） 外部講師による講演、ワークショップ	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	4 時間
第１０回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解３） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（２時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（２時間）	4 時間
第１１回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解４） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（２時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（２時間）	4 時間
第１２回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解５） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（２時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（２時間）	4 時間
第１３回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解６） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（２時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（２時間）	4 時間
第１４回	対面	公務員採用試験に関する講演会（合同授業） ゲストスピーカーによる講演、ワークショップ	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（２時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（２時間）	4 時間

第１５回	オンデマンド	春学期のまとめ 志望する機関、自治体についての調査	事前に、春学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 復習として、ゼミ仲間との意見交換した内容について整理確認し、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉川　貴代	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公務員（行政職）の採用試験の受験先を決定し、各採用試験合格に必要な能力を高める。		
授業の目的及び概要	全体の奉仕者である公務員の仕事を理解したうえで、公務員試験合格に必要な能力を身に付ける。 １人口減少社会がもたらす影響をはじめ国や自治体の課題について調べ、ディスカッション、グループワーク、論述対策を行う。 ２志望先において、求められる人物像、業務に必要な知識・能力を把握し、エントリーシートに反映できるようにする。 ３公務就職支援室との連携により、各学生が受験を予定している試験に見合った学習計画を立てて、継続的に学習する習慣を身につける。		
履修条件・留意点	公務員試験の合格には、継続的な自学が必要です。そのため、志望する公務員試験に必要な Sコース受講や模擬試験やセミナーなどに積極的に参加すること。 ゲストスピーカーを招く授業については、都合により実施時期や内容を変更することがある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	＜基本的なインプットおよびグループディスカッション＞ ①公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、文書作成能力等を身につける。 ②公務員を取り巻く情勢について理解し、志望先の組織・自治体に関する基本データの把握、直面する諸課題に対しての理解ができるようになる。 ③公務員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ④地域社会・社会情勢に関心を持つようになり、教養を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告に対する講評を行い、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 配布資料等を参照して、政策課題への理解を深めてください。	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論， 北村亘ほか， 有斐閣ストウディア，2024 年 ③新版〔第２版〕現代の行政,森田朗,第一法規,2022 年 ④これからの地方自治の教科書　改訂版， 大森彌，・大杉覚， 第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕， 大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥地方公務員の仕事と制度がこれ一冊でしっかりわかる教科書,一般社団法人公務員研究協会,技術評論社,2025 年 ⑦公務員という仕事,村木厚子,ちくまプリマー新書,2020 年 ⑧公務員のすすめ　世の中を変える地方自治体の仕	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784474077003 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784297152222 ⑦9784480683762 ⑧9784098254903 ⑨9784065309520 ⑩9784788978126

	事, 泉房穂, 小学館新書, 2025 年 ⑨公務員になりたい！ベテラン公務員が教えるお役所就職ガイド, 秋田将人, 星海社新書, 2023 年 ⑩2027 年度版　公務員試験　現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本, 大賀英徳, 実務教育出版, 2025 年 ⑪公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著）		

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	

この科目の受講にあたって	１．授業の内容 公務員は全体の奉仕者として国民、住民のため全力を尽くさなければならない仕事です。「公務員は安定しているから」という志望理由では採用試験を突破することはできません。近年の公務員試験は人物重視であり、公務員の仕事を理解していること、心身ともにタフで積極的に行動できる人材が求められています。そのため、個人面接、集団面接、グループディスカッションなどの練習を多く取り入れます。積極的な参加を期待します。 ２．授業中のマナー 授業は Forms の回答などの場合を除き、スマートフォンの使用は禁止します。 ３．他科目の履修 地域共生論、地方自治論、地方自治法、政治学に関する科目の履修を推奨する。 ４．社会福祉主事任用資格（３科目主事）の要件を満たす必要がありますので、行政法（行政法総論１及び２で１科目カウント）、心理学、心理学概説、社会学、社会学概説、倫理学、経済学入門のうち３科目の単位を取得すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	公務員が全体の奉仕者であること、公務員として働くことについての理解を改めて深める ・なぜ公務員なのか？公務員として働くことについての理解を深める ・公務員として求められる人材像について考える	事前学習：志望する機関や自治体における採用試験の内容を確認する。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習し、今後の試験対策を組み立てる。（２時間）	4 時間
第２回	対面	採用試験についての正しい理解と学習計画（合同授業）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	4 時間
第３回	対面	SPI 模試	事前学習：過去の SPI 模試や問題集を用いて練習する。（２時間） 事後学習：間違えたところを中心に復習する。（２時間）	4 時間
第４回	対面	公務員試験対策１ ・人物重視型対策（エントリーシート） ・筆記試験対策（教養試験）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	4 時間
第５回	対面	公務員試験対策２ ・人物重視型対策（エントリーシート） ・筆記試験対策（教養試験）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	4 時間
第６回	対面	公務員試験対策３ ・人物重視型対策（エントリーシート） ・筆記試験対策（教養試験）	事前学習：指定する文献を読む。（２時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（２時間）	4 時間

第7回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解1） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（2時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（2時間）	4時間
第8回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解2） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（2時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（2時間）	4時間
第9回	対面	公務員採用試験における面接官の視点を学ぶ（合同授業） 外部講師による講演、ワークショップ	事前学習：指定する文献を読む。（2時間） 事後学習：授業配布資料をもとに復習する。（2時間）	4時間
第10回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解3） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（2時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（2時間）	4時間
第11回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解4） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（2時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（2時間）	4時間
第12回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解5） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（2時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（2時間）	4時間
第13回	対面	公務員試験対策（行政課題についての理解6） ・行政課題を理解し、志望先について調べて、自分の考えを述べることができるようにする。 ・グループディスカッションの技術力を高める。 ・テーマはあらかじめ指定する。	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（2時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（2時間）	4時間
第14回	対面	公務員採用試験に関する講演会（合同授業） ゲストスピーカーによる講演、ワークショップ	事前学習：あらかじめ指定するテーマについて、志望する機関・自治体での取り組みを調べる。（2時間） 事後学習：授業でのディスカッションや配布資料をもとに復習する（2時間）	4時間
第15回	オンデ	春学期のまとめ	事前に、春学期全体を振り返り、自身の課題や今後の	4時間

	マンド	志望する機関、自治体についての調査	就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 復習として、ゼミ仲間との意見交換した内容について整理確認し、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。	

科目名	公務員特別演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	石川　英樹	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	担当教員は奈良県警察本部にて、３６年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	20

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律①　憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律②　地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間

第８回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由①　職種別の志望動機）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第９回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由②　自治体別・組織別志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己 PR）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　ガクチカ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　PREP 法）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　エントリーシート、面接カードとは）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	オンデマンド	課題提出 （課題例　志望理由、自己 PR、ガクチカ等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中久保　寛幸	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と

	自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律①　憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律②　地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第８回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由①　職種別の志望動機）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深	4 時間

			めておく。	
第９回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由②　自治体別・組織別志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己 PR）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　ガクチカ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　PREP 法）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　エントリーシート、面接カードとは）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	オンデマンド	課題提出 （課題例　志望理由、自己 PR、ガクチカ等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅡＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	雑喉　浩久	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対して

	は厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律①　憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律②　地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第８回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由①　職種別の志望動機）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間

第９回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由②　自治体別・組織別志望理由）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己 PR）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　ガクチカ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　PREP 法）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　エントリーシート、面接カードとは）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	オンデマンド	課題提出 （課題例　志望理由、自己 PR、ガクチカ等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅡA	開講年度	2026 年度春学期
担当者	上林　大	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織に求められる人物像への自己分析結果や諸課題に関する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合

	はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	春学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 自己紹介 志望先アンケート等	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　社会人としての基礎的素養２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律①　憲法、警察法、消防法等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員に関する法律②　地公法：公務員の基本事項・義務・権利等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員という仕事、求められる人物像）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　公務員を目指す学生に必要なこと）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第８回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由①　職種別の志望動機）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第９回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　志望理由②　自治体別・組織別	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるよ	4 時間

		志望理由）	うにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第１０回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　自己 PR）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　ガクチカ）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　PREP 法）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	社会人・公安職としての課題の理解 （課題例　エントリーシート、面接カードとは）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	オンデマンド	課題提出 （課題例　志望理由、自己 PR、ガクチカ等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を文章化・言語化できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	春学期の総括	【予習】各自が春学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	松元　利男	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	教員として必要な資質・能力、学校を取り巻く諸課題について理解を深めるとともに、教員採用試験の人物評価試験対策の基本的な内容に取り組む		
授業の目的及び概要	教職についての理解を深め、これからの時代に対応できる教員を目指す実践的な演習である。現在の学校、子どもが抱える困難な課題の現状や背景への理解を深め、中央教育審議会答申や通知、国家・各自が志望する自治体などの教育振興基本計画等をふまえて、教員の役割、あるべき対応について考察する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　志望先を決め、教員採用試験に向けて、教員になるために必要な心構え、知識、論理的思考力、表現力、文章作成能力等の素養を身に付けている。 ②　学校、子どもを取り巻く諸課題について、基本データ等をふまえて理解し、それらに対する国や自治体の方針、対策について把握している。 ③　学校現場での様々な場面に対して、教員としてどのようにふるまい、対応すべきか理解し、実践しようとすることができる。 ④　教員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ⑤　教育問題、子どもを取り巻く問題に関心を持つようになり、教養を身に付けている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、エントリーシート、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、小学校教諭免許を有しており、公立小学校にて 30 年以上勤務してきた。現在は学校長に就任しており、小学校道徳の教科書の編集及び教師用指導書の執筆も行っている。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	①秋学期授業における取り組みについて説明する。 ②個人面談を行う。 ③公務員として働くことについての理解を再確認する。 ④春学期および夏休みを振り返り、自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき、各人で学習計画（試験日までの科目別の計画）を作成する。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2 時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対し的確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2 時間）。	4 時間
第２回	対面	教員を取り巻く環境、試験動向をふまえ、学内の支援体制や、今後取り組むべき事項を理解し、学習計画を立てる。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第３回	対面	教育改革について テーマに基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	志望動機を考える１（志望動機を作成する） 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募先を一つ選択し、志望動機を作成する。	事前に、応募先について調べ、各自志望動機を作成する準備をしておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理すること（2 時間）。	4 時間
第５回	対面	志望動機を考える２（志望動機を深める） 応募先の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気付き、改善を行う。	事前に、前回指摘をうけたアドバイスをもとに、各自志望動機を深める準備をしておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理すること（2 時間）。	4 時間
第６回	対面	実践トレーニング（集団面接①） 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第７回	対面	実践トレーニング（個人面接①） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第８回	対面	実践トレーニング（個人面接②） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。 ※中間課題（2 時間）	6 時間
第９回	対面	社会情勢理解①（小論文・面接対策） 小論文・面接対策として、時事問題についての理解を深める。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１０回	対面	社会情勢理解②（小論文・面接対策） 小論文・面接対策として、教育問題についての理解を深める。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１１回	対面	実践トレーニング（グループディスカッション） 社会情勢理解を踏まえた教育課題について、グループディスカッションを行う。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間

第１２回	対面	実践トレーニング（集団面接②） 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第１３回	対面	実践トレーニング（個人面接③） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第１４回	対面	実践トレーニング（個人面接④） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ 秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する。 ※期末レポート（面接カード作成）	事前に、秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や教員採用試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 復習として、１年間の演習の内容を振り返り、採用試験までの期間で重点的に取り組むべき課題を明らかにし、自身の課題や今後の就職活動や教員採用試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 ※期末課題：面接カード作成（2 時間） ※夏に実施される公務員模試を受験する。	6 時間

科目名	公務員特別演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	平阪　美穂	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公務員（行政職）の採用試験合格に必要な能力を高める。		
授業の目的及び概要	全体の奉仕者である公務員の仕事を理解したうえで、公務員試験合格に必要な能力を身に付ける。 １人口減少社会がもたらす影響をはじめ国や自治体の課題について調べ、ディスカッション、グループワーク、論述対策を行う。 ２志望先において、求められる人物像、業務に必要な知識・能力を把握し、エントリーシートに反映できるようにする。 ３公務就職支援室との連携により、各学生が受験を予定している試験に見合った学習計画を立てて、継続的に学習する習慣を身につける。		
履修条件・留意点	公務員試験の合格には、継続的な自学が必要です。そのため、志望する公務員試験に必要な Sコース受講や模擬試験やセミナーなどに積極的に参加すること。 ゲストスピーカーを招く授業については、都合により実施時期や内容を変更することがある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	＜具体的な志望先を決めた上での、本番想定・実践中心＞ ①公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、文書作成能力等を身につける。 ②公務員を取り巻く情勢について理解し、志望先の組織・自治体に関する基本データの把握、直面する諸課題に対しての理解ができるようになる。 ③公務員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ④地域社会・社会情勢に関心を持つようになり、教養を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、エントリーシート、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しない。 政府や地方自治体が発行する資料等を必要に応じて用いる。	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論，北村亘ほか，有斐閣ストウディア，2024 年 ③新版〔第２版〕現代の行政，森田朗，第一法規，2022 年 ④これからの地方自治の教科書　改訂版，大森彌，・大杉覚，第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕，大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥地方公務員の仕事と制度がこれ一冊でしっかりわかる教科書，一般社団法人公務員研究協会，技術評論社，2025 年 ⑦公務員という仕事，村木厚子，ちくまプリマー新書，2020 年 ⑧公務員のすすめ　世の中を変える地方自治体の仕	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784474077003 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784297152222 ⑦9784480683762 ⑧9784098254903 ⑨9784065309520 ⑩9784788978126

	事, 泉房穂, 小学館新書, 2025 年 ⑨公務員になりたい！ベテラン公務員が教えるお役所就職ガイド, 秋田将人, 星海社新書, 2023 年 ⑩2027 年度版　公務員試験　現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本, 大賀英徳, 実務教育出版, 2025 年 ⑪公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著）		

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	

この科目の受講にあたって	１．授業の内容 公務員は全体の奉仕者として国民、住民のため全力を尽くさなければならない仕事です。「公務員は安定しているから」という志望理由では採用試験を突破することはできません。近年の公務員試験は人物重視であり、公務員の仕事を理解していること、心身ともにタフで積極的に行動できる人材が求められています。そのため、個人面接、集団面接、グループディスカッションなどの練習を多く取り入れます。積極的な参加を期待します。 ２．授業中のマナー 授業は Forms の回答などの場合を除き、スマートフォンの使用は禁止します。 ３．他科目の履修 地域共生論、地方自治論、地方自治法、政治学に関する科目の履修を推奨する。 ４．社会福祉主事任用資格（３科目主事）の要件を満たす必要がありますので、行政法（行政法総論１及び２で１科目カウント）、心理学、心理学概説、社会学、社会学概説、倫理学、経済学入門のうち３科目の単位を取得すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	春学期の振り返り･秋学期学習計画の策定 春学期および夏休みの体験を振り返り、自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき学習計画を立て、自身に必要な取り組む必要がある事項を整理する。	事前学習：自分の志望先の採用試験内容について調べる（2 時間）。 事後学習：試験内容に対し的確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと(2 時間)。	4 時間
第２回	対面	公務員試験の現状を理解し、2027 年度試験のエントリーに向けた準備を行う。	事前学習：志望する機関や自治体の職員採用試験を調べる。（２時間） 事後学習：エントリー、試験実施時期を見込んでスケジュールを組む。（２時間）	4 時間
第３回	対面	SPI 模試	事前学習：これまでに学習した問題集や SPI 模擬試験等を復習すること（2 時間）。 事後学習：苦手分野を理解し、苦手克服のための対策をすること（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	公務員試験対策（個人面接練習１） ・志望動機 ・相互観察	事前学習：第１志望の機関又は自治体を想定し、面接カードを作成して提出する。（２時間） 事後学習：教員及び学生からのコメントをもとに復習する。（２時間）	4 時間
第５回	対面	公務員試験対策（個人面接練習２） ・自分の長所と短所 ・相互観察	事前学習：第１志望の機関又は自治体を想定し、面接カードを作成して提出する。（２時間） 事後学習：教員及び学生からのコメントをもとに復習する。（２時間）	4 時間

第６回	対面	公務員試験対策（集団面接練習１） ・志望動機とやりたい仕事 ・相互観察	事前学習：第１志望の機関又は自治体を想定し、面接カードを作成して提出する。（２時間） 事後学習：教員及び学生からのコメントをもとに復習する。（２時間）	４時間
第７回	対面	公務員試験対策（集団面接練習２） ・学生時代に力を入れたことと自身の成長 ・相互観察	事前学習：第１志望の機関又は自治体を想定し、面接カードを作成して提出する。（２時間） 事後学習：教員及び学生からのコメントをもとに復習する。（２時間）	４時間
第８回	対面	公務員試験対策（行政課題についてのグループディスカッション１） ・テーマは前週に指定する ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策１） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第９回	対面	公務員試験対策（行政課題についてのグループディスカッション２） ・テーマは前週に指定する ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策２） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１０回	対面	公務員試験対策（行政課題についてのグループディスカッション３） ・テーマは前週に指定する ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策３） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１１回	対面	公務員試験対策（個人面接対策） ・志望する自治体について知っていること ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策４） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１２回	対面	公務員試験対策（個人面接対策） ・志望する自治体の課題と対応策 ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策５） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１３回	対面	公務員試験対策（集団面接対策） ・希望する部署とその理由 ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策６） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１４回	対面	公務員試験対策（行政課題についてのグループディスカッション４） ・テーマは前週に指定する ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策７） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１５回	オンデマンド	まとめ 秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験のために必要な学習内容を固める。	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間

科目名	公務員特別演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉川　貴代	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公務員（行政職）の採用試験合格に必要な能力を高める。		
授業の目的及び概要	全体の奉仕者である公務員の仕事を理解したうえで、公務員試験合格に必要な能力を身に付ける。 １人口減少社会がもたらす影響をはじめ国や自治体の課題について調べ、ディスカッション、グループワーク、論述対策を行う。 ２志望先において、求められる人物像、業務に必要な知識・能力を把握し、エントリーシートに反映できるようにする。 ３公務就職支援室との連携により、各学生が受験を予定している試験に見合った学習計画を立てて、継続的に学習する習慣を身につける。		
履修条件・留意点	公務員試験の合格には、継続的な自学が必要です。そのため、志望する公務員試験に必要な Sコース受講や模擬試験やセミナーなどに積極的に参加すること。 ゲストスピーカーを招く授業については、都合により実施時期や内容を変更することがある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	＜具体的な志望先を決めた上での、本番想定・実践中心＞ ①公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、文書作成能力等を身につける。 ②公務員を取り巻く情勢について理解し、志望先の組織・自治体に関する基本データの把握、直面する諸課題に対しての理解ができるようになる。 ③公務員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ④地域社会・社会情勢に関心を持つようになり、教養を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、エントリーシート、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しない。 政府や地方自治体が発行する資料等を必要に応じて用いる。	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論， 北村亘ほか， 有斐閣ストウディア，2024 年 ③新版〔第２版〕現代の行政，森田朗，第一法規，2022 年 ④これからの地方自治の教科書　改訂版， 大森彌，・大杉覚， 第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕， 大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥地方公務員の仕事と制度がこれ一冊でしっかりわかる教科書，一般社団法人公務員研究協会，技術評論社，2025 年 ⑦公務員という仕事，村木厚子，ちくまプリマー新書，2020 年 ⑧公務員のすすめ　世の中を変える地方自治体の仕	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784474077003 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784297152222 ⑦9784480683762 ⑧9784098254903 ⑨9784065309520 ⑩9784788978126

	事, 泉房穂, 小学館新書, 2025 年 ⑨公務員になりたい！ベテラン公務員が教えるお役所就職ガイド, 秋田将人, 星海社新書, 2023 年 ⑩2027 年度版　公務員試験　現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本, 大賀英徳, 実務教育出版, 2025 年 ⑪公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著）		

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	

この科目の受講にあたって	１．授業の内容 公務員は全体の奉仕者として国民、住民のため全力を尽くさなければならない仕事です。「公務員は安定しているから」という志望理由では採用試験を突破することはできません。近年の公務員試験は人物重視であり、公務員の仕事を理解していること、心身ともにタフで積極的に行動できる人材が求められています。そのため、個人面接、集団面接、グループディスカッションなどの練習を多く取り入れます。積極的な参加を期待します。 ２．授業中のマナー 授業は Forms の回答などの場合を除き、スマートフォンの使用は禁止します。 ３．他科目の履修 地域共生論、地方自治論、地方自治法、政治学に関する科目の履修を推奨する。 ４．社会福祉主事任用資格（３科目主事）の要件を満たす必要がありますので、行政法（行政法総論１及び２で１科目カウント）、心理学、心理学概説、社会学、社会学概説、倫理学、経済学入門のうち３科目の単位を取得すること。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	春学期の振り返り･秋学期学習計画の策定 春学期および夏休みの体験を振り返り、自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき学習計画を立て、自身に必要な取り組む必要がある事項を整理する。	事前学習：自分の志望先の採用試験内容について調べる（2 時間）。 事後学習：試験内容に対し的確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと(2 時間)。	4 時間
第２回	対面	公務員試験の現状を理解し、2027 年度試験のエントリーに向けた準備を行う。	事前学習：志望する機関や自治体の職員採用試験を調べる。（２時間） 事後学習：エントリー、試験実施時期を見込んでスケジュールを組む。（２時間）	4 時間
第３回	対面	SPI 模試	事前学習：これまでに学習した問題集や SPI 模擬試験等を復習すること（2 時間）。 事後学習：苦手分野を理解し、苦手克服のための対策をすること（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	公務員試験対策（個人面接練習１） ・志望動機 ・相互観察	事前学習：第１志望の機関又は自治体を想定し、面接カードを作成して提出する。（２時間） 事後学習：教員及び学生からのコメントをもとに復習する。（２時間）	4 時間
第５回	対面	公務員試験対策（個人面接練習２） ・自分の長所と短所 ・相互観察	事前学習：第１志望の機関又は自治体を想定し、面接カードを作成して提出する。（２時間） 事後学習：教員及び学生からのコメントをもとに復習する。（２時間）	4 時間

第６回	対面	公務員試験対策（集団面接練習１） ・志望動機とやりたい仕事 ・相互観察	事前学習：第１志望の機関又は自治体を想定し、面接カードを作成して提出する。（２時間） 事後学習：教員及び学生からのコメントをもとに復習する。（２時間）	４時間
第７回	対面	公務員試験対策（集団面接練習２） ・学生時代に力を入れたことと自身の成長 ・相互観察	事前学習：第１志望の機関又は自治体を想定し、面接カードを作成して提出する。（２時間） 事後学習：教員及び学生からのコメントをもとに復習する。（２時間）	４時間
第８回	対面	公務員試験対策（行政課題についてのグループディスカッション１） ・テーマは前週に指定する ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策１） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第９回	対面	公務員試験対策（行政課題についてのグループディスカッション２） ・テーマは前週に指定する ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策２） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１０回	対面	公務員試験対策（行政課題についてのグループディスカッション３） ・テーマは前週に指定する ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策３） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１１回	対面	公務員試験対策（個人面接対策） ・志望する自治体について知っていること ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策４） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１２回	対面	公務員試験対策（個人面接対策） ・志望する自治体の課題と対応策 ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策５） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１３回	対面	公務員試験対策（集団面接対策） ・希望する部署とその理由 ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策６） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１４回	対面	公務員試験対策（行政課題についてのグループディスカッション４） ・テーマは前週に指定する ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策７） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１５回	オンデマンド	まとめ 秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験のために必要な学習内容を固める。	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間

科目名	公務員特別演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	古田　隆	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	公務員（行政職）の採用試験合格に必要な能力を高める。		
授業の目的及び概要	全体の奉仕者である公務員の仕事を理解したうえで、公務員試験合格に必要な能力を身に付ける。 １人口減少社会がもたらす影響をはじめ国や自治体の課題について調べ、ディスカッション、グループワーク、論述対策を行う。 ２志望先において、求められる人物像、業務に必要な知識・能力を把握し、エントリーシートに反映できるようにする。 ３公務就職支援室との連携により、各学生が受験を予定している試験に見合った学習計画を立てて、継続的に学習する習慣を身につける。		
履修条件・留意点	公務員試験の合格には、継続的な自学が必要です。そのため、志望する公務員試験に必要な Sコース受講や模擬試験やセミナーなどに積極的に参加すること。 ゲストスピーカーを招く授業については、都合により実施時期や内容を変更することがある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	＜具体的な志望先を決めた上での、本番想定・実践中心＞ ①公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、文書作成能力等を身につける。 ②公務員を取り巻く情勢について理解し、志望先の組織・自治体に関する基本データの把握、直面する諸課題に対しての理解ができるようになる。 ③公務員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ④地域社会・社会情勢に関心を持つようになり、教養を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、エントリーシート、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、指定都市職員として 39 年間勤務し、部長級まで務め、条例等審査、不服審査、訴訟などの自治体法務に通算 24 年携わったほか、行財政改善、社会福祉法人の監査等の分野において政策形成に関与した。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しない。 政府や地方自治体が発行する資料等を必要に応じて用いる。	ISBN	なし
参考書	①基礎からわかる論文の書き方，小熊英二，講談社現代新書，2022 年 ②地方自治論， 北村亘ほか， 有斐閣ストウディア，2024 年 ③新版〔第２版〕現代の行政，森田朗，第一法規，2022 年 ④これからの地方自治の教科書　改訂版， 大森彌，・大杉覚， 第一法規，2021 年 ⑤社会とつながる行政法入門〔第 2 版〕， 大橋洋一，有斐閣，2021 年 ⑥地方公務員の仕事と制度がこれ一冊でしっかりわかる教科書，一般社団法人公務員研究協会，技術評論社，2025 年 ⑦公務員という仕事，村木厚子，ちくまプリマー新	ISBN	①9784065280867 ②9784641151215 ③9784474077003 ④9784474076990 ⑤9784641228207 ⑥9784297152222 ⑦9784480683762 ⑧9784098254903 ⑨9784065309520 ⑩9784788978126

	書, 2020 年 ⑧公務員のすすめ　世の中を変える地方自治体の仕事, 泉房穂, 小学館新書, 2025 年 ⑨公務員になりたい！ベテラン公務員が教えるお役所就職ガイド, 秋田将人, 星海社新書, 2023 年 ⑩2027 年度版　公務員試験　現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本, 大賀英徳, 実務教育出版, 2025 年 ⑪公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著）		

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
	成果発表（口頭・実技）	20
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	１．授業の内容 公務員は全体の奉仕者として国民、住民のため全力を尽くさなければならない仕事です。「公務員は安定しているから」という志望理由では採用試験を突破することはできません。近年の公務員試験は人物重視であり、公務員の仕事を理解していること、心身ともにタフで積極的に行動できる人材が求められています。そのため、個人面接、集団面接、グループディスカッションなどの練習を多く取り入れます。積極的な参加を期待します。 ２．授業中のマナー 授業は Forms の回答などの場合を除き、スマートフォンの使用は禁止します。 ３．他科目の履修 地域共生論、地方自治論、地方自治法、政治学に関する科目の履修を推奨する。 ４．社会福祉主事任用資格（３科目主事）の要件を満たす必要がありますので、行政法（行政法総論１及び２で１科目カウント）、心理学、心理学概説、社会学、社会学概説、倫理学、経済学入門のうち３科目の単位を取得すること。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	春学期の振り返り・秋学期学習計画の策定 春学期および夏休みの体験を振り返り、自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき学習計画を立て、自身に必要な取り組む必要がある事項を整理する。	事前学習：自分の志望先の採用試験内容について調べる（2 時間）。 事後学習：試験内容に対し的確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと(2 時間)。	4 時間
第２回	対面	公務員試験の現状を理解し、2027 年度試験のエントリーに向けた準備を行う。	事前学習：志望する機関や自治体の職員採用試験を調べる。（２時間） 事後学習：エントリー、試験実施時期を見込んでスケジュールを組む。（２時間）	4 時間
第３回	対面	SPI 模試	事前学習：これまでに学習した問題集や SPI 模擬試験等を復習すること（2 時間）。 事後学習：苦手分野を理解し、苦手克服のための対策をすること（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	公務員試験対策（個人面接練習１） ・志望動機 ・相互観察	事前学習：第１志望の機関又は自治体を想定し、面接カードを作成して提出する。（２時間） 事後学習：教員及び学生からのコメントをもとに復習する。（２時間）	4 時間
第５回	対面	公務員試験対策（個人面接練習２） ・自分の長所と短所 ・相互観察	事前学習：第１志望の機関又は自治体を想定し、面接カードを作成して提出する。（２時間） 事後学習：教員及び学生からのコメントをもとに復	4 時間

			習する。（２時間）	
第６回	対面	公務員試験対策（集団面接練習１） ・志望動機とやりたい仕事 ・相互観察	事前学習：第１志望の機関又は自治体を想定し、面接カードを作成して提出する。（２時間） 事後学習：教員及び学生からのコメントをもとに復習する。（２時間）	４時間
第７回	対面	公務員試験対策（集団面接練習２） ・学生時代に力を入れたことと自身の成長 ・相互観察	事前学習：第１志望の機関又は自治体を想定し、面接カードを作成して提出する。（２時間） 事後学習：教員及び学生からのコメントをもとに復習する。（２時間）	４時間
第８回	対面	公務員試験対策（行政課題についてのグループディスカッション１） ・テーマは前週に指定する ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策１） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第９回	対面	公務員試験対策（行政課題についてのグループディスカッション２） ・テーマは前週に指定する ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策２） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１０回	対面	公務員試験対策（行政課題についてのグループディスカッション３） ・テーマは前週に指定する ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策３） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１１回	対面	公務員試験対策（個人面接対策） ・志望する自治体について知っていること ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策４） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１２回	対面	公務員試験対策（個人面接対策） ・志望する自治体の課題と対応策 ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策５） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１３回	対面	公務員試験対策（集団面接対策） ・希望する部署とその理由 ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策６） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１４回	対面	公務員試験対策（行政課題についてのグループディスカッション４） ・テーマは前週に指定する ・相互観察 公務員試験対策（筆記試験対策７） ※履修生の志望先に応じて実施する	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間
第１５回	オンデマンド	まとめ 秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験のために必要な学習内容を固める。	事前学習：指定する資料を事前に読む。（２時間） 事後学習：授業の内容を復習する。（２時間）	４時間

科目名	公務員特別演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	上林　大	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ⅡＡの本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織から求められる人物像に関する自己分析結果、情勢や諸課題に対する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック（公務就職支援室等編著） ②警察白書（警察庁ホームページ） ③消防白書（総務省消防庁ホームページ） ④防衛白書（防衛省ホームページ） ⑤犯罪白書（法務省ホームページ）　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合

	はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。志望先の絞り込みと採用試験に関する情報の収集をしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：志望動機１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：志望動機２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：強み、長所）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：失敗への対応、挫折時の克服）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：小論文１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：小論文２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第８回	オンデマンド	課題提出 （課題例　小論文等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見をまとめておく。 【復習】提出した課題等について、担当教員から指示・指導・添削等に基づいて自己検証し、理解を深めておく。	4 時間
第９回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：面接全般）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにして	4 時間

			おく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	
第１０回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：服装・姿勢・態度）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：入室・着席・退室等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：答弁要領１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：答弁要領２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　採用試験準備について）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	秋学期の総括、就活に向けた休暇中の取り組み	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石川　英樹	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ⅡＡの本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織から求められる人物像に関する自己分析結果、情勢や諸課題に対する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	担当教員は奈良県警察本部にて、３６年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20

	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。志望先の絞り込みと採用試験に関する情報の収集をしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：志望動機１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：志望動機２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：強み、長所）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：失敗への対応、挫折時の克服）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：小論文１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：小論文２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深	4 時間

			めておく。	
第８回	オンデマンド	課題提出 （課題例　小論文等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見をまとめておく。 【復習】提出した課題等について、担当教員から指示・指導・添削等に基づいて自己検証し、理解を深めておく。	4 時間
第９回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：面接全般）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：服装・姿勢・態度）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：入室・着席・退室等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：答弁要領１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：答弁要領２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　採用試験準備について）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	秋学期の総括、就活に向けた休暇中の取り組み	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中久保　寛幸	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ⅡＡの本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織から求められる人物像に関する自己分析結果、情勢や諸課題に対する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と

	自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。志望先の絞り込みと採用試験に関する情報の収集をしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：志望動機１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：志望動機２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：強み、長所）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：失敗への対応、挫折時の克服）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：小論文１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：小論文２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第８回	オンデマンド	課題提出 （課題例　小論文等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見をまとめておく。 【復習】提出した課題等について、担当教員から指示・指導・添削等に基づいて自己検証し、理解を深め	4 時間

			ておく。	
第９回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：面接全般）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：服装・姿勢・態度）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：入室・着席・退室等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：答弁要領１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：答弁要領２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　採用試験準備について）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	秋学期の総括、就活に向けた休暇中の取り組み	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	雑喉　浩久	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。		
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ⅡＡの本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題、求められる人物像等を理解する。 ③　志望先組織から求められる人物像に関する自己分析結果、情勢や諸課題に対する意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対して

	は厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	秋学期授業の概要等について 採用試験までのスケジュール、採用試験日程等について 春学期及び夏季休暇の振り返りと秋学期の目標やスケジュールの設定について 志望先アンケート等の実施	【予習】事前にシラバスを確認して授業概要を把握しておく。志望先の絞り込みと採用試験に関する情報の収集をしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第２回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：志望動機１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：志望動機２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：強み、長所）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　自己分析：失敗への対応、挫折時の克服）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：小論文１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：小論文２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第８回	オンデマンド	課題提出 （課題例　小論文等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見をまとめておく。 【復習】提出した課題等について、担当教員から指示・指導・添削等に基づいて自己検証し、理解を深めておく。	4 時間

第９回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：面接全般）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：服装・姿勢・態度）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：入室・着席・退室等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：答弁要領１）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　人物評価：答弁要領２）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	対面	公安職志望者としての課題の理解 （課題例　採用試験準備について）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	対面	秋学期の総括、就活に向けた休暇中の取り組み	【予習】各自が秋学期の総括の整理を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】総括結果について、担当教員から指示・指導された事項を基にノート等にまとめ、面接試験、論文試験に対応出来るようにしておく。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	松元　利男	配当年次	3
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	教員として必要な資質・能力、学校を取り巻く諸課題について理解を深めるとともに、教員採用試験の人物評価試験対策の基本的な内容に取り組む		
授業の目的及び概要	教職についての理解を深め、これからの時代に対応できる教員を目指す実践的な演習である。現在の学校、子どもが抱える困難な課題の現状や背景への理解を深め、中央教育審議会答申や通知、国家・各自が志望する自治体などの教育振興基本計画等をふまえて、教員の役割、あるべき対応について考察する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　志望先を決め、教員採用試験に向けて、教員になるために必要な心構え、知識、論理的思考力、表現力、文章作成能力等の素養を身に付けている。 ②　学校、子どもを取り巻く諸課題について、基本データ等をふまえて理解し、それらに対する国や自治体の方針、対策について把握している。 ③　学校現場での様々な場面に対して、教員としてどのようにふるまい、対応すべきか理解し、実践しようとすることができる。 ④　教員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ⑤　教育問題、子どもを取り巻く問題に関心を持つようになり、教養を身に付けている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、エントリーシート、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、小学校教諭免許を有しており、公立小学校にて 30 年以上勤務してきた。現在は学校長に就任しており、小学校道徳の教科書の編集及び教師用指導書の執筆も行っている。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	①秋学期授業における取り組みについて説明する。 ②個人面談を行う。 ③公務員として働くことについての理解を再確認する。 ④春学期および夏休みを振り返り、自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき、各人で学習計画（試験日までの科目別の計画）を作成する。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2 時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対し的確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2 時間）。	4 時間
第２回	対面	教員を取り巻く環境、試験動向をふまえ、学内の支援体制や、今後取り組むべき事項を理解し、学習計画を立てる。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第３回	対面	教育改革について テーマに基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	志望動機を考える１（志望動機を作成する） 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募先を一つ選択し、志望動機を作成する。	事前に、応募先について調べ、各自志望動機を作成する準備をしておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理すること（2 時間）。	4 時間
第５回	対面	志望動機を考える２（志望動機を深める） 応募先の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気付き、改善を行う。	事前に、前回指摘をうけたアドバイスをもとに、各自志望動機を深める準備をしておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理すること（2 時間）。	4 時間
第６回	対面	実践トレーニング（集団面接①） 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第７回	対面	実践トレーニング（個人面接①） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第８回	対面	実践トレーニング（個人面接②） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。 ※中間課題（2 時間）	6 時間
第９回	対面	社会情勢理解①（小論文・面接対策） 小論文・面接対策として、時事問題についての理解を深める。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１０回	対面	社会情勢理解②（小論文・面接対策） 小論文・面接対策として、教育問題についての理解を深める。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１１回	対面	実践トレーニング（グループディスカッション） 社会情勢理解を踏まえた教育課題について、グループディスカッションを行う。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間

第１２回	対面	実践トレーニング（集団面接②） 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第１３回	対面	実践トレーニング（個人面接③） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第１４回	対面	実践トレーニング（個人面接④） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ 秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する。 ※期末レポート（面接カード作成）	事前に、秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や教員採用試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 復習として、１年間の演習の内容を振り返り、採用試験までの期間で重点的に取り組むべき課題を明らかにし、自身の課題や今後の就職活動や教員採用試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 ※期末課題：面接カード作成（2 時間） ※夏に実施される公務員模試を受験する。	6 時間

科目名	公務員特別演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	松元　利男	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	教員として必要な資質・能力、学校を取り巻く諸課題について理解を深めるとともに、教員採用試験の人物評価試験対策に取り組む		
授業の目的及び概要	教職についての理解を深め、これからの時代に対応できる教員を目指す実践的な演習である。教員採用試験に向けて、具体的な問題や事例に対して具体的に考え、行動できるようになる。現在の学校、子どもが抱える困難な課題の現状や背景への理解を深め、中央教育審議会答申や通知、国家・各自が志望する自治体などの教育振興基本計画等をふまえて、教員の役割、あるべき対応について考察する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　教員採用試験に向けて、計画的に取り組み、知識、論理的思考力、表現力、文章作成能力等の教員に必要な素養を身に付けている。 ②　学校、子どもを取り巻く諸課題について、現状を正しく理解し、それらに対する国や自治体の方針、対策について把握している。 ③　学校現場での様々な場面に対して、教員として様々な協力関係を築き、対応する必要性を理解し、実践することができる。 ④　教育問題、子どもを取り巻く問題に関心を持つようになり、教養を身に付けている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、エントリーシート、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、小学校教諭免許を有しており、公立小学校にて 30 年以上勤務してきた。現在は学校長に就任しており、小学校道徳の教科書の編集及び教師用指導書の執筆も行っている。本科目では、教職課程に関わる教員としての豊富な経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。	ISBN	なし
参考書	授業中に紹介します。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	毎日新聞記事等をよく読み、教育だけでなく、時事問題や行政の動き・社会的な課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	①春学期授業における取り組みについて説明する。 ②個人面談を行う。 ③公務員として働くことについての理解を再確認する。 ④これまでの学修を振り返り、自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき、各人で学習計画（試験日までの科目別の計画）を作成する。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2 時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対し的確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2 時間）。	4 時間
第２回	対面	自分のこれまでの取り組みを振り返り、学習計画を立てる。教員を取り巻く環境、試験動向をふまえ、学内の支援体制や、今後取り組むべき事項を理解する。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第３回	対面	教育改革について これまでの学修の中から関連した内容を整理する。 テーマに基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	志望動機を考える１（志望動機を作成する） 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募先を一つ選択し、志望動機を作成する。 内容を簡単にまとめたり、詳細に説明できるように整理する。	事前に、応募先について調べ、各自志望動機を作成する準備をしておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理すること（2 時間）。	4 時間
第５回	対面	志望動機を考える２（志望動機を深める） 応募先の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気付き、改善を行う。たがいに問題点を指摘するだけでなく、より良いものに改善することをめざす。	事前に、前回指摘をうけたアドバイスをもとに、各自志望動機を深める準備をしておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理すること（2 時間）。	4 時間
第６回	対面	実践トレーニング（集団面接①） 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第７回	対面	実践トレーニング（個人面接①） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第８回	対面	実践トレーニング（個人面接②） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。 ※中間課題（2 時間）	6 時間
第９回	対面	社会情勢理解①（小論文・面接対策） これまでの学修の中から関連した内容を整理する。 小論文・面接対策として、時事問題についての理解を深める。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１０回	対面	社会情勢理解②（小論文・面接対策） これまでの学修の中から関連した内容を整理する。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容	4 時間

		小論文・面接対策として、教育問題についての理解を深める。	を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	
第１１回	対面	実践トレーニング（グループディスカッション） 社会情勢理解を踏まえた教育課題について、グループディスカッションを行う。 自分の長所・短所を整理して取り組むようにする。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１２回	対面	実践トレーニング（集団面接②） 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。 自分の長所・短所を整理して取り組むようにする。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第１３回	対面	実践トレーニング（個人面接③） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。 自分の長所・短所を整理して取り組むようにする。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第１４回	対面	実践トレーニング（個人面接④） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。 自分の長所・短所を整理して取り組むようにする。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ 学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する。 ※期末レポート（面接カード作成）	事前に、学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や教員採用試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 復習として、１年間の演習の内容を振り返り、採用試験までの期間で重点的に取り組むべき課題を明らかにし、自身の課題や今後の就職活動や教員採用試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 ※期末課題：面接カード作成（2 時間） ※夏に実施される公務員模試を受験する。	6 時間

科目名	公務員特別演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉川　貴代	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	目指す公務員になるために		
授業の目的及び概要	間近に迫った公務員採用試験に向けて、公務員になるための心構えについて確認するとともに、公務員特別演習Ⅱで学んだ知識等について整理確認し、採用試験の合格を目指す実践的な演習である。 各自が志望する国家・地方自治体などの各種計画・方針や施策に関する調査研究に基づき、面接対策、小論文対策等を実施する。 各自の進路についての個別相談を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本年の公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、論理的思考力、表現力、文書作成能力等の素養を身につけ、採用試験合格を目指す。 志望する国の組織・地方自治体に関する基礎的なデータを把握し、国・地方自治体が直面する諸課題に対して、その解決策を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、レポート・小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、市役所職員として 36 年間勤務し、政策企画部長やこども若者部長等を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	30
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	
	日ごろから新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき、各人で自身の学習状況について確認する。 個人面談を行う。	志望先の試験科目を具体的に把握し、面談の結果に基づき、計画に沿った学修状況となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2 時間）。	4 時間

			公務員制度の概略について把握しておくこと(2 時間)。	
第２回	対面	グループディスカッション対策① 与えられた課題に対してグループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	グループディスカッションにおいて、自身の発言内容、与えられた役割を果たしたか否か等について反省し（2 時間)、次回に向けた改善点を整理しておくこと（2 時間)。	4 時間
第３回	対面	グループディスカッション対策② 与えられた課題に対してグループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	前回の反省を踏まえ、自身の発言内容、与えられた役割を果たしたか否か等について確認し（2 時間)、本番に向けた最終調整を行っておくこと（2 時間)。	4 時間
第４回	対面	集団面接対策① 5、6 人のグループに分け、模擬集団面接を実施する。全員で意見交換を行う。	各自が自身の発言内容や立ち振る舞いについて確認し（2 時間)、次回に向けて反省点を整理しておくこと（2 時間)。	4 時間
第５回	対面	集団面接対策② 5、6 人のグループに分け、模擬集団面接を実施する。全員で意見交換を行う。	前回の反省を踏まえ、自身の発言内容、立ち振る舞い等について確認し（2 時間)、本番に向けた最終調整を行っておくこと（2 時間)。	4 時間
第６回	対面	小論文対策① 志望先別に与えられた課題について、1500 字程度の小論文を各自で作成する。	与えられた課題について、事前に必要なデータや論文構成等について確認しておくこと。	4 時間
第７回	対面	小論文対策①（振り返り） 各自が作成した小論文について発表し、全員で意見交換する。	意見交換した内容について整理確認し（2 時間)、自分の論文について修正を行っておくこと。修正した論文はマイノートに登録し提出すること（2 時間)。	4 時間
第８回	対面	小論文対策② 志望先別に与えられた課題について、1500 字程度の小論文を各自で作成する。	与えられた課題について、事前に必要なデータや論文構成等について確認しておくこと。	4 時間
第９回	対面	小論文対策②（振り返り） 各自が作成した小論文について発表し、全員で意見交換する。	意見交換した内容について整理確認し（2 時間)、自分の論文について修正を行っておくこと。修正した論文はマイノートに登録し提出すること（2 時間)。	4 時間
第１０回	対面	個人面接対策① 1 回 15 分程度の模擬面接を実施する。	事前に、自己紹介やＰＲなど、発言内容を考えておくこと（2 時間)。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間)。	4 時間
第１１回	対面	個人面接対策② 1 回 15 分程度の模擬面接を実施する。	事前に、前回の模擬面接における反省点、修正点について確認し、整理しておくこと（2 時間)。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間)。	4 時間
第１２回	対面	個人面接対策③ 1 回 15 分程度の模擬面接を実施する。	事前に、前回の模擬面接における反省点、修正点について確認し、整理しておくこと（2 時間)。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間)。	4 時間
第１３回	対面	総合対策① 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	これまでの演習内容を振り返り、直前対策として必要な事項を把握しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	総合対策② 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	試験本番に向けて、小論文、面接等の対策内容について、最終確認を行うこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総合対策③ 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	試験本番に向けて、小論文、面接等の対策内容について、最終確認を行うこと。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	目指す公務員になるために		
授業の目的及び概要	間近に迫った公務員採用試験に向けて、公務員になるための心構えについて確認するとともに、公務員特別演習Ⅱで学んだ知識等について整理確認し、採用試験の合格を目指す実践的な演習である。 各自が志望する国家・地方自治体などの各種計画・方針や施策に関する調査研究に基づき、面接対策、小論文対策等を実施する。 各自の進路についての個別相談を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本年の公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、論理的思考力、表現力、文書作成能力等の素養を身につけ、採用試験合格を目指す。 志望する国の組織・地方自治体に関する基礎的なデータを把握し、国・地方自治体が直面する諸課題に対して、その解決策を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、レポート・小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	30
その他の内容	0

この科目の受講にあたって
日ごろから新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき、各人で自身の学習状況について確認する。 個人面談を行う。	志望先の試験科目を具体的に把握し、面談の結果に基づき、計画に沿った学修状況となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2 時間）。	4 時間

			公務員制度の概略について把握しておくこと(2 時間)。	
第２回	対面	グループディスカッション対策① 与えられた課題に対してグループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	グループディスカッションにおいて、自身の発言内容、与えられた役割を果たしたか否か等について反省し（2 時間)、次回に向けた改善点を整理しておくこと（2 時間)。	4 時間
第３回	対面	グループディスカッション対策② 与えられた課題に対してグループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	前回の反省を踏まえ、自身の発言内容、与えられた役割を果たしたか否か等について確認し（2 時間)、本番に向けた最終調整を行っておくこと（2 時間)。	4 時間
第４回	対面	集団面接対策① 5、6 人のグループに分け、模擬集団面接を実施する。全員で意見交換を行う。	各自が自身の発言内容や立ち振る舞いについて確認し（2 時間)、次回に向けて反省点を整理しておくこと（2 時間)。	4 時間
第５回	対面	集団面接対策② 5、6 人のグループに分け、模擬集団面接を実施する。全員で意見交換を行う。	前回の反省を踏まえ、自身の発言内容、立ち振る舞い等について確認し（2 時間)、本番に向けた最終調整を行っておくこと（2 時間)。	4 時間
第６回	対面	小論文対策① 志望先別に与えられた課題について、1500 字程度の小論文を各自で作成する。	与えられた課題について、事前に必要なデータや論文構成等について確認しておくこと。	4 時間
第７回	対面	小論文対策①（振り返り） 各自が作成した小論文について発表し、全員で意見交換する。	意見交換した内容について整理確認し（2 時間)、自分の論文について修正を行っておくこと。修正した論文はマイノートに登録し提出すること（2 時間)。	4 時間
第８回	対面	小論文対策② 志望先別に与えられた課題について、1500 字程度の小論文を各自で作成する。	与えられた課題について、事前に必要なデータや論文構成等について確認しておくこと。	4 時間
第９回	対面	小論文対策②（振り返り） 各自が作成した小論文について発表し、全員で意見交換する。	意見交換した内容について整理確認し（2 時間)、自分の論文について修正を行っておくこと。修正した論文はマイノートに登録し提出すること（2 時間)。	4 時間
第１０回	対面	個人面接対策① 1 回 15 分程度の模擬面接を実施する。	事前に、自己紹介やＰＲなど、発言内容を考えておくこと（2 時間)。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間)。	4 時間
第１１回	対面	個人面接対策② 1 回 15 分程度の模擬面接を実施する。	事前に、前回の模擬面接における反省点、修正点について確認し、整理しておくこと（2 時間)。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間)。	4 時間
第１２回	対面	個人面接対策③ 1 回 15 分程度の模擬面接を実施する。	事前に、前回の模擬面接における反省点、修正点について確認し、整理しておくこと（2 時間)。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間)。	4 時間
第１３回	対面	総合対策① 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	これまでの演習内容を振り返り、直前対策として必要な事項を把握しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	総合対策② 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	試験本番に向けて、小論文、面接等の対策内容について、最終確認を行うこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総合対策③ 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	試験本番に向けて、小論文、面接等の対策内容について、最終確認を行うこと。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	石川　英樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。		
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。 原則として、公務員特別演習ＩＡ・B、同ⅡＡ・B の公安クラス未履修者は履修できません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③　志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④　志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	担当教員は奈良県警察本部にて、３６年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	20
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、志望先アンケート等 人物評価対策：小論文１	【予習】事前にシラバスを確認し、授業概要を把握しておくこと。志望先組織の過去の問題等を確認し、自分の意見をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第２回	対面	人物評価対策：小論文２	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第３回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード１	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第４回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード２	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第５回	対面	人物評価対策：集団面接・個人面接（概要）	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第６回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領１）、小論文（再１） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第７回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領２）、小論文（再２） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第８回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領３）、小論文（再３） １次試験等合格者、再受験者に対応した課	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から	4 時間

		題を提示して対策を実施します。	指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	
第９回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領４）、小論文（再４） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１０回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領５）、小論文（再５） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１１回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領６）、小論文（再６） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１２回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領７）、小論文（再７） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１３回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領８）、小論文（再８） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１４回	対面	人物評価対策：時事問題等	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の総括と今後の課題 （課題提出等）	【予習】これまでの成功や失敗など、自己の検証結果をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、今後の計画を立てること。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	上林　大	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。		
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。 原則として、公務員特別演習ⅠA・B、同ⅡA・B の公安クラス未履修者は履修できません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③　志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④　志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。

	日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、志望先アンケート等 人物評価対策：小論文１	【予習】事前にシラバスを確認し、授業概要を把握しておくこと。志望先組織の過去の問題等を確認し、自分の意見をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第２回	対面	人物評価対策：小論文２	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第３回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード１	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第４回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード２	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第５回	対面	人物評価対策：集団面接・個人面接（概要）	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第６回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領１）、小論文（再１） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第７回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領２）、小論文（再２） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第８回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領３）、小論文（再３） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第９回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領４）、小論文（再４） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深め	4 時間

			るとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	
第１０回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領５）、小論文（再５） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１１回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領６）、小論文（再６） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１２回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領７）、小論文（再７） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１３回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領８）、小論文（再８） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１４回	対面	人物評価対策：時事問題等	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の総括と今後の課題 （課題提出等）	【予習】これまでの成功や失敗など、自己の検証結果をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、今後の計画を立てること。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中久保　寛幸	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。		
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。 原則として、公務員特別演習ⅠA・B、同ⅡA・B の公安クラス未履修者は履修できません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③　志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④　志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、志望先アンケート等 人物評価対策：小論文１	【予習】事前にシラバスを確認し、授業概要を把握しておくこと。志望先組織の過去の問題等を確認し、自分の意見をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第２回	対面	人物評価対策：小論文２	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第３回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード１	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第４回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード２	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第５回	対面	人物評価対策：集団面接・個人面接（概要）	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第６回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領１）、小論文（再１） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第７回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領２）、小論文（再２） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第８回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領３）、小論文（再３） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第９回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領４）、小論文（再４）	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。	4 時間

		１次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	
第１０回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領５）、小論文（再５） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１１回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領６）、小論文（再６） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１２回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領７）、小論文（再７） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１３回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領８）、小論文（再８） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１４回	対面	人物評価対策：時事問題等	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の総括と今後の課題 （課題提出等）	【予習】これまでの成功や失敗など、自己の検証結果をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、今後の計画を立てること。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅢＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	雑喉　浩久	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G3	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究等を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。		
履修条件・留意点	履修希望者については、選考を行います。 選考方法(基準)は、①志望理由、②志望進路、③前年度授業への参加度、取組度(出席率や成績等を含む)とします。 原則として、公務員特別演習ⅠA・B、同ⅡA・B の公安クラス未履修者は履修できません。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③　志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④　志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足説明を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講に	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーシ

あたって	ョンを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス、志望先アンケート等 人物評価対策：小論文１	【予習】事前にシラバスを確認し、授業概要を把握しておくこと。志望先組織の過去の問題等を確認し、自分の意見をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第２回	対面	人物評価対策：小論文２	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第３回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード１	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第４回	対面	人物評価対策：エントリーシート、面接カード２	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第５回	対面	人物評価対策：集団面接・個人面接（概要）	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第６回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領１）、小論文（再１） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第７回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領２）、小論文（再２） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第８回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領３）、小論文（再３） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第９回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領４）、小論文（再４） １次試験等合格者、再受験者に対応した課	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から	4 時間

		題を提示して対策を実施します。	指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	
第１０回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領５）、小論文（再５） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１１回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領６）、小論文（再６） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１２回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領７）、小論文（再７） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１３回	対面	人物評価対策：集団面接、個人面接（入退室・答弁要領８）、小論文（再８） １次試験等合格者、再受験者に対応した課題を提示して対策を実施します。	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１４回	対面	人物評価対策：時事問題等	【予習】志望先組織の過去の課題等を事前に確認し、自己の意見等をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、理解を深めるとともに、自己の意見等の検証と修正を行うこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	春学期の総括と今後の課題 （課題提出等）	【予習】これまでの成功や失敗など、自己の検証結果をまとめておくこと。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づき、今後の計画を立てること。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅢＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	高田　尚彦	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	目指す公務員になるために		
授業の目的及び概要	すでに始まっている、または間近に迫った公務員採用試験に向けて、公務員になるための心構えについて確認するとともに、公務員特別演習ⅢA で学んだ知識等について整理確認し、採用試験の合格を目指す実践的な演習である。 各自が志望する国家・地方自治体などの各種計画・方針や施策に関する調査研究に基づき、面接対策、小論文対策等を実施する。 各自の進路についての個別相談を行う。		
履修条件・留意点	履修者の公務員試験の受験状況に応じて、適宜授業内容を変更することがある。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	本年度後半の公務員行政職採用試験に向けて、公務員になるために必要な心構え、知識、論理的思考力、表現力、文書作成能力等の素養を身につけ、採用試験合格を目指す。 志望する国の組織・地方自治体に関する基礎的なデータを把握し、国・地方自治体が直面する諸課題に対して、その解決策を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、レポート・小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	30
その他の内容	0

この科目の受講にあたって
日ごろから新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	自分が志望する国や地方自治体の採用試験内容に基づき、各人で自身の学習状況について確認する。 個人面談を行う。	志望先の試験科目を具体的に把握し、面談の結果に基づき、計画に沿った学修状況となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2 時間）。	4 時間

			公務員制度の概略について把握しておくこと(2 時間)。	
第２回	対面	グループディスカッション対策① 与えられた課題に対してグループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	グループディスカッションにおいて、自身の発言内容、与えられた役割を果たしたか否か等について反省し（2 時間)、次回に向けた改善点を整理しておくこと（2 時間)。	4 時間
第３回	対面	グループディスカッション対策② 与えられた課題に対してグループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	前回の反省を踏まえ、自身の発言内容、与えられた役割を果たしたか否か等について確認し（2 時間)、本番に向けた最終調整を行っておくこと（2 時間)。	4 時間
第４回	対面	集団面接対策① 5、6 人のグループに分け、模擬集団面接を実施する。全員で意見交換を行う。	各自が自身の発言内容や立ち振る舞いについて確認し（2 時間)、次回に向けて反省点を整理しておくこと（2 時間)。	4 時間
第５回	対面	集団面接対策② 5、6 人のグループに分け、模擬集団面接を実施する。全員で意見交換を行う。	前回の反省を踏まえ、自身の発言内容、立ち振る舞い等について確認し（2 時間)、本番に向けた最終調整を行っておくこと（2 時間)。	4 時間
第６回	対面	小論文対策① 志望先別に与えられた課題について、1500 字程度の小論文を各自で作成する。	与えられた課題について、事前に必要なデータや論文構成等について確認しておくこと。	4 時間
第７回	対面	小論文対策①（振り返り） 各自が作成した小論文について発表し、全員で意見交換する。	意見交換した内容について整理確認し（2 時間)、自分の論文について修正を行っておくこと。修正した論文はマイノートに登録し提出すること（2 時間)。	4 時間
第８回	対面	小論文対策② 志望先別に与えられた課題について、1500 字程度の小論文を各自で作成する。	与えられた課題について、事前に必要なデータや論文構成等について確認しておくこと。	4 時間
第９回	対面	小論文対策②（振り返り） 各自が作成した小論文について発表し、全員で意見交換する。	意見交換した内容について整理確認し（2 時間)、自分の論文について修正を行っておくこと。修正した論文はマイノートに登録し提出すること（2 時間)。	4 時間
第１０回	対面	個人面接対策① 1 回 15 分程度の模擬面接を実施する。	事前に、自己紹介やＰＲなど、発言内容を考えておくこと（2 時間)。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間)。	4 時間
第１１回	対面	個人面接対策② 1 回 15 分程度の模擬面接を実施する。	事前に、前回の模擬面接における反省点、修正点について確認し、整理しておくこと（2 時間)。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間)。	4 時間
第１２回	対面	個人面接対策③ 1 回 15 分程度の模擬面接を実施する。	事前に、前回の模擬面接における反省点、修正点について確認し、整理しておくこと（2 時間)。 復習として、面接官から受けたアドバイスや指摘内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間)。	4 時間
第１３回	対面	総合対策① 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	これまでの演習内容を振り返り、直前対策として必要な事項を把握しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	総合対策② 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	試験本番に向けて、小論文、面接等の対策内容について、最終確認を行うこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	総合対策③ 各自の試験日に合わせて、面接における発言内容、小論文等について最終確認し、必要な調整を行う。	試験本番に向けて、小論文、面接等の対策内容について、最終確認を行うこと。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅢＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	平阪　美穂	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	教員として必要な資質・能力、学校を取り巻く諸課題について理解を深めるとともに、学校現場での実践や教員採用試験の人物評価試験対策に取り組む		
授業の目的及び概要	教職についての理解を深め、これからの時代に対応できる教員を目指す実践的な演習である。現在の学校、子どもが抱える困難な課題の現状や背景への理解を深め、中央教育審議会答申や通知、国家・各自が志望する自治体などの教育振興基本計画等をふまえて、教員の役割、あるべき対応について考察する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　志望先を決め、教員採用試験に向けて、教員になるために必要な心構え、知識、論理的思考力、表現力、文章作成能力等の素養を身に付けている。 ②　学校、子どもを取り巻く諸課題について、基本データ等をふまえて理解し、それらに対する国や自治体の方針、対策について把握している。 ③　学校現場での様々な場面に対して、教員としてどのようにふるまい、対応すべきか理解し、実践しようとすることができる。 ④　学校現場での実践、教員採用試験に向けてのモチベーションを高め、自ら必要な準備を理解し、対策を進めることができる。 ⑤　教育問題、子どもを取り巻く問題に関心を持つようになり、教養を身に付けている。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の発表や報告、模擬面接に対する講評を行い、エントリーシート、レポート、小論文は添削後にコピーを返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。 国や様々な自治体の総合計画、マスタープラン等を必要に応じて参照します。	ISBN	なし
参考書		ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	40
授業期間中の小テスト、レポート課題等	40
成果発表（口頭・実技）	20
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	
	毎日新聞記事等をよく読み、時事問題や行政の動き・行政課題等について、積極的に情報収集等を行ってください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間

第１回	対面	①秋学期授業における取り組みについて説明する。 ②個人面談を行う。 ③公務員として働くことについての理解を再確認する。 ④春学期および夏休みを振り返り、自分が志望した自治体の教育実践や、採用試験内容に基づき、各人で今後の学習計画を作成する。	事前に、自分の志望先の採用試験内容について調べておくこと（2 時間）。 復習として、面談の結果に基づき、個々の試験科目に対し的確な計画となっているかについて再検討し、必要に応じて修正を行うこと（2 時間）。	4 時間
第２回	対面	教員を取り巻く環境、試験動向をふまえ、学内の支援体制や、今後取り組むべき事項を理解し、学習計画を立てる。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第３回	対面	教育改革について テーマに基づき、グループディスカッションを実施し、グループごとに討議した内容をまとめ、発表するとともに、全員で討議する。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第４回	対面	志望動機を考える１（志望動機を作成する） 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募先を一つ選択し、志望動機を作成する。	事前に、応募先について調べ、各自志望動機を作成する準備をしておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理すること（2 時間）。	4 時間
第５回	対面	志望動機を考える２（志望動機を深める） 応募先の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気付き、改善を行う。	事前に、前回指摘をうけたアドバイスをもとに、各自志望動機を深める準備をしておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理すること（2 時間）。	4 時間
第６回	対面	実践トレーニング（集団面接①） 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第７回	対面	実践トレーニング（個人面接①） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第８回	対面	実践トレーニング（個人面接②） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。 ※中間課題（2 時間）	6 時間
第９回	対面	社会情勢理解①（小論文・面接対策） 小論文・面接対策として、時事問題についての理解を深める。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１０回	対面	社会情勢理解②（小論文・面接対策） 小論文・面接対策として、教育問題についての理解を深める。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１１回	対面	実践トレーニング（グループディスカッション） 社会情勢理解を踏まえた教育課題について、グループディスカッションを行う。	事前に、テーマについて自分なりの考えや取組方法をまとめておくこと（2 時間）。 復習として、指摘を受けた事項やアドバイスの内容を振り返り、各自整理しておくこと（2 時間）。	4 時間
第１２回	対面	実践トレーニング（集団面接②） 「集団面接」の実践練習を通して、集団面	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。	4 時間

		接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	復習として、意見交換した内容を整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	
第１３回	対面	実践トレーニング（個人面接③） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第１４回	対面	実践トレーニング（個人面接④） 「個人面接」の実践練習を通して、個人面接の意図や評価ポイントを理解するとともに、対話力を身につける。	事前に、自己紹介やＰＲなど、基礎的な事項について発言内容を考えておくこと（2 時間）。 復習として、アドバイスや指摘を受けたことを整理確認し、次回に向けて自分の発言内容について修正等を行っておくこと（2 時間）。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ 秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や公務員試験に向けて、今後するべきことについて整理する。 ※期末レポート（面接カード作成）	事前に、秋学期全体を振り返り、自身の課題や今後の就職活動や教員採用試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 復習として、１年間の演習の内容を振り返り、採用試験までの期間で重点的に取り組むべき課題を明らかにし、自身の課題や今後の就職活動や教員採用試験に向けて、今後するべきことについて整理する（2 時間）。 ※期末課題：面接カード作成（2 時間） ※実施される予定の模試などを受験する。	6 時間

科目名	公務員特別演習ⅢＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	石川　英樹	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。		
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ⅢA の本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③　志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④　志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	担当教員は奈良県警察本部にて、３６年間警察官として勤務し、調査官・監察官・地域指導室長など、第一線を始め管理部門での実務経験と警察庁近畿管区警察局監察課への出向などの警察行政における人事、業務管理・企画立案及び服務・業務指導、若手警察官の育成、指導に従事してきた。 本科目では、こうした実務経験を活かして、警察官・消防官などの公安職に必要とされる職務倫理や心構え、実務で要求される知識技能など、事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	0

	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	20
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	秋学期授業の進め方 受験結果、今後の試験日程と受験予定等の再確認	【予習】受験結果、今後の試験日程等に基づき、自身の今後の就活、受験予定について十分に検討しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、今後の方針を決定する。	4 時間
第２回	対面	就業力向上と人物評価対策１ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	就業力向上と人物評価対策２ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	就業力向上と人物評価対策３ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	就業力向上と人物評価対策４ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	就業力向上と人物評価対策５ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	就業力向上と人物評価対策６ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。	4 時間

		「課題例　組織課題、時事問題等」	【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	
第８回	対面	就業力向上と人物評価対策７ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第９回	対面	即戦力としての人材への成長１ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業先組織に関連する基本的な法令」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１０回	対面	即戦力としての人材への成長２ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業先組織に関連する基本的な法令２」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１１回	対面	即戦力としての人材への成長３ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業に向けての決意・覚悟等１」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１２回	対面	即戦力としての人材への成長４ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業に向けての決意・覚悟等２」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１３回	対面	即戦力としての人材への成長５ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業に向けての決意・覚悟等３」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１４回	対面	即戦力としての人材への成長６ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　後輩に向けて（受験の成功と失敗、後輩に伝えたいこと等）」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１５回	オンデマンド	大学４年間の総括等 （課題提出等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を表明できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項等に基づいて振り返りを行い、社会人としての将来設計を立てる。	４時間

科目名	公務員特別演習ⅢＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	上林　大	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。		
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ⅢA の本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③　志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④　志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署長や警察学校の校長を歴任してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と

	自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	秋学期授業の進め方 受験結果、今後の試験日程と受験予定等の再確認	【予習】受験結果、今後の試験日程等に基づき、自身の今後の就活、受験予定について十分に検討しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、今後の方針を決定する。	4 時間
第２回	対面	就業力向上と人物評価対策１ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	就業力向上と人物評価対策２ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	就業力向上と人物評価対策３ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	就業力向上と人物評価対策４ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	就業力向上と人物評価対策５ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	就業力向上と人物評価対策６ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第８回	対面	就業力向上と人物評価対策７ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から	4 時間

			指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	
第９回	対面	即戦力としての人材への成長１ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業先組織に関連する基本的な法令」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第１０回	対面	即戦力としての人材への成長２ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業先組織に関連する基本的な法令２」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第１１回	対面	即戦力としての人材への成長３ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業に向けての決意・覚悟等１」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第１２回	対面	即戦力としての人材への成長４ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業に向けての決意・覚悟等２」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第１３回	対面	即戦力としての人材への成長５ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業に向けての決意・覚悟等３」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第１４回	対面	即戦力としての人材への成長６ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　後輩に向けて(受験の成功と失敗、後輩に伝えたいこと等)」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第１５回	オンデマンド	大学４年間の総括等 (課題提出等)	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を表明できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項等に基づいて振り返りを行い、社会人としての将来設計を立てる。	4 時間

科目名	公務員特別演習ⅢＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中久保　寛幸	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。		
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ⅢA の本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③　志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④　志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、管理官・調査官・署長などに従事して、経験を積み重ねてきた。本科目では、実務経験を活かし、職種に必要な法律解釈や業務の理解、職務倫理や心構え、実務で要求される知識・技能などを教授し、実際の事例を交えつつ解説する実践的な授業を展開する。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。 日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	秋学期授業の進め方 受験結果、今後の試験日程と受験予定等の再確認	【予習】受験結果、今後の試験日程等に基づき、自身の今後の就活、受験予定について十分に検討しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、今後の方針を決定する。	4 時間
第２回	対面	就業力向上と人物評価対策１ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	就業力向上と人物評価対策２ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	就業力向上と人物評価対策３ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	就業力向上と人物評価対策４ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	就業力向上と人物評価対策５ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	就業力向上と人物評価対策６ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間

第８回	対面	就業力向上と人物評価対策７ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第９回	対面	即戦力としての人材への成長１ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業先組織に関連する基本的な法令」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１０回	対面	即戦力としての人材への成長２ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業先組織に関連する基本的な法令２」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１１回	対面	即戦力としての人材への成長３ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業に向けての決意・覚悟等１」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１２回	対面	即戦力としての人材への成長４ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業に向けての決意・覚悟等２」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１３回	対面	即戦力としての人材への成長５ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業に向けての決意・覚悟等３」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１４回	対面	即戦力としての人材への成長６ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　後輩に向けて（受験の成功と失敗、後輩に伝えたいこと等）」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１５回	オンデマンド	大学４年間の総括等 （課題提出等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を表明できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項等に基づいて振り返りを行い、社会人としての将来設計を立てる。	４時間

科目名	ＩＣＴ特別演習ＩＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩田　順敬	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	プログラミングやデジタルコンテンツの作成といった ICT や AI に関する実習を通して、高度な情報スキルを修得する。		
授業の目的及び概要	・ICT 特別演習全体のテーマは ICT(Information and Communication Technology：情報通信技術)に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響（「実学としての経済学」の観点）や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。		
履修条件・留意点	IT パスポート資格の取得、さらにはその上位資格の取得を志す受講生を募る。ICT 特別演習での勉強を通して情報系資格への受験意志のある学生に受講を限定する。 講義中に、プログラミング実習、Web ページ作成実習、SQL 実習、デジタルコンテンツ作成実習を行う。情報技術と芸術の融合、情報技術を用いたデータの可視化、インターネットを用いた情報発信に興味がある学生を募る。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・情報系国家資格の取得のための勉強を通して、ICT に関する幅広い知識を修得する。IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、高度情報技術者試験への合格を目指す。基本情報技術者試験科目 B への対策を念頭に置いて、プログラミング言語 Python を基礎から学修しプログラミング技能を身につける。 ・国家資格の他にも、民間情報系資格として Python エンジニア認定試験、G 検定、データサイエンティスト検定（リテラシーレベル）、オラクル認定資格への合格を目指す受講者も受け入れる。 ・知識偏重の学修にならないように、ICT や AI に関する実習も行うことで、ICT に関する実用能力も養う。実際に、プログラミング実習（Python）， SQL 実習、生成 AI 実習、Web ページ作成実習、IoT 実習（デジタル作品作成実習）を行う。希望に応じて、学修した内容をもとにしてビジネスコンテスト等へ出場する学生をサポートする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	第 1 回目の講義で、個別に面談を行い、それぞれの目標に即したテキストを指定する。	ISBN	該当なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	春学期に受講登録をして 1 年間受講するという通年受講を基本とする。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ・ガイダンス	【予習】シラバスの内容を確認しておくこと。 【復習】各自、第 1 回目に指定された教科書を第 2 回目の講義までに購入しておくこと	4 時間
第２回	対面	・ストラテジ分野１ ・プログラミング実習１	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第３回	対面	・ストラテジ分野２ ・プログラミング実習２	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第４回	対面	・ストラテジ分野３ ・プログラミング実習３	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第５回	対面	・マネジメント分野１ ・生成 AI 実習１	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第６回	対面	・マネジメント分野２ ・生成 AI 実習２	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第７回	対面	・マネジメント分野３ ・生成 AI 実習３	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第８回	対面	・テクノロジ分野１ ・SQL 実習１	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第９回	対面	・テクノロジ分野 2 ・SQL 実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間

第１０回	対面	・テクノロジ分野 3 ・Webpage 作成実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第１１回	対面	・テクノロジ分野４ ・Webpage 作成実習２	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第１２回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジ分野総合１ ・デジタル作品作成実習１	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくとよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第１３回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジ分野総合２ ・デジタル作品作成実習２	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくとよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第１４回	対面	プレゼンテーション 作成した作品の発表会	【予習】パワーポイントを使ったプレゼンテーションファイルを作成 【復習】自身の発表についての良かった点と悪かった点、他の人の発表についての良かった点と悪かった点の振り返り	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド講義：課題を提出 資料と動画を配布する。	【復習】オンデマンド課題で学んだ技術を、これまでに作成したデジタルコンテンツに反映させると良い。	4 時間

科目名	ＩＣＴ特別演習ＩＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩田　順敬	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	プログラミングやデジタルコンテンツの作成といった ICT や AI に関する実習を通して、高度な情報スキルを修得する。		
授業の目的及び概要	・ICT 特別演習全体のテーマは ICT(Information and Communication Technology：情報通信技術)に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響（「実学としての経済学」の観点）や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。		
履修条件・留意点	IT パスポート資格の取得、さらにはその上位資格の取得を志す受講生を募る。ICT 特別演習での勉強を通して情報系資格への受験意志のある学生に受講を限定する。 講義中に、プログラミング実習、Web ページ作成実習、SQL 実習、デジタルコンテンツ作成実習を行う。情報技術と芸術の融合、情報技術を用いたデータの可視化、インターネットを用いた情報発信に興味がある学生を募る。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・情報系国家資格の取得のための勉強を通して、ICT に関する幅広い知識を修得する。IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、高度情報技術者試験への合格を目指す。基本情報技術者試験科目 B への対策を念頭に置いて、プログラミング言語 Python を基礎から学修しプログラミング技能を身につける。 ・国家資格の他にも、民間情報系資格として Python エンジニア認定試験、G 検定、データサイエンティスト検定（リテラシーレベル）、オラクル認定資格への合格を目指す受講者も受け入れる。 ・知識偏重の学修にならないように、ICT や AI に関する実習も行うことで、ICT に関する実用能力も養う。実際に、プログラミング実習（Python）， SQL 実習、生成 AI 実習、Web ページ作成実習、IoT 実習（デジタル作品作成実習）を行う。希望に応じて、学修した内容をもとにしてビジネスコンテスト等へ出場する学生をサポートする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	第 1 回目の講義で、個別に面談を行い、それぞれの目標に即したテキストを指定する。	ISBN	該当なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	春学期に受講登録をして 1 年間受講するという通年受講を基本とする。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ・ガイダンス	【予習】シラバスの内容を確認しておくこと。 【復習】各自、第 1 回目に指定された教科書を第 2 回目の講義までに購入しておくこと	4 時間
第２回	対面	・ストラテジ分野１ ・プログラミング実習１	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第３回	対面	・ストラテジ分野２ ・プログラミング実習２	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第４回	対面	・ストラテジ分野３ ・プログラミング実習３	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第５回	対面	・マネジメント分野１ ・生成 AI 実習１	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第６回	対面	・マネジメント分野２ ・生成 AI 実習２	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第７回	対面	・マネジメント分野３ ・生成 AI 実習３	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第８回	対面	・テクノロジ分野１ ・SQL 実習１	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第９回	対面	・テクノロジ分野 2 ・SQL 実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間

第１０回	対面	・テクノロジ分野 3 ・Webpage 作成実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第１１回	対面	・テクノロジ分野４ ・Webpage 作成実習２	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第１２回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジ分野総合１ ・デジタル作品作成実習１	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくとよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第１３回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジ分野総合２ ・デジタル作品作成実習２	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくとよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第１４回	対面	プレゼンテーション 作成した作品の発表会	【予習】パワーポイントを使ったプレゼンテーションファイルを作成 【復習】自身の発表についての良かった点と悪かった点、他の人の発表についての良かった点と悪かった点の振り返り	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド講義：課題を提出 資料と動画を配布する。	【復習】オンデマンド課題で学んだ技術を、これまでに作成したデジタルコンテンツに反映させると良い。	4 時間

科目名	ＩＣＴ特別演習ⅡＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岩田　順敬	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	プログラミングやデジタルコンテンツの作成といった ICT や AI に関する実習を通して、高度な情報スキルを修得する。		
授業の目的及び概要	・ICT 特別演習全体のテーマは ICT(Information and Communication Technology：情報通信技術)に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響（「実学としての経済学」の観点）や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。		
履修条件・留意点	IT パスポート資格の取得、さらにはその上位資格の取得を志す受講生を募る。ICT 特別演習での勉強を通して情報系資格への受験意志のある学生に受講を限定する。 講義中に、プログラミング実習、Web ページ作成実習、SQL 実習、デジタルコンテンツ作成実習を行う。情報技術と芸術の融合、情報技術を用いたデータの可視化、インターネットを用いた情報発信に興味がある学生を募る。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・情報系国家資格の取得のための勉強を通して、ICT に関する幅広い知識を修得する。IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、高度情報技術者試験への合格を目指す。基本情報技術者試験科目 B への対策を念頭に置いて、プログラミング言語 Python を基礎から学修しプログラミング技能を身につける。 ・国家資格の他にも、民間情報系資格として Python エンジニア認定試験、G 検定、データサイエンティスト検定（リテラシーレベル）、オラクル認定資格への合格を目指す受講者も受け入れる。 ・知識偏重の学修にならないように、ICT や AI に関する実習も行うことで、ICT に関する実用能力も養う。実際に、プログラミング実習（Python）， SQL 実習、生成 AI 実習、Web ページ作成実習、IoT 実習（デジタル作品作成実習）を行う。希望に応じて、学修した内容をもとにしてビジネスコンテスト等へ出場する学生をサポートする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	第 1 回目の講義で、個別に面談を行い、それぞれの目標に即したテキストを指定する。	ISBN	該当なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	春学期に受講登録をして 1 年間受講するという通年受講を基本とする。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ・ガイダンス	【予習】シラバスの内容を確認しておくこと。 【復習】各自、第 1 回目に指定された教科書を第 2 回目の講義までに購入しておくこと	4 時間
第２回	対面	・ストラテジ分野１ ・プログラミング実習１	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第３回	対面	・ストラテジ分野２ ・プログラミング実習２	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第４回	対面	・ストラテジ分野３ ・プログラミング実習３	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第５回	対面	・マネジメント分野１ ・生成 AI 実習１	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第６回	対面	・マネジメント分野２ ・生成 AI 実習２	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第７回	対面	・マネジメント分野３ ・生成 AI 実習３	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第８回	対面	・テクノロジ分野１ ・SQL 実習１	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第９回	対面	・テクノロジ分野 2 ・SQL 実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間

第１０回	対面	・テクノロジ分野 3 ・Webpage 作成実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第１１回	対面	・テクノロジ分野４ ・Webpage 作成実習２	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第１２回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジ分野総合１ ・デジタル作品作成実習１	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくとよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第１３回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジ分野総合２ ・デジタル作品作成実習２	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくとよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第１４回	対面	プレゼンテーション 作成した作品の発表会	【予習】パワーポイントを使ったプレゼンテーションファイルを作成 【復習】自身の発表についての良かった点と悪かった点、他の人の発表についての良かった点と悪かった点の振り返り	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド講義：課題を提出 資料と動画を配布する。	【復習】オンデマンド課題で学んだ技術を、これまでに作成したデジタルコンテンツに反映させると良い。	4 時間

科目名	ＩＣＴ特別演習ⅡＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岩田　順敬	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	プログラミングやデジタルコンテンツの作成といった ICT や AI に関する実習を通して、高度な情報スキルを修得する。		
授業の目的及び概要	・ICT 特別演習全体のテーマは ICT(Information and Communication Technology：情報通信技術)に関する知識と技能の修得であり、計 2 年間(4 学期)の ICT 特別演習全体を通して、現代社会を支える ICT を理解しそれを活用できる能力を身につけることを授業の目的とする。就業力育成の観点からも、ICT に関する総合的知識と技能があらゆる業種・職種で不可欠となっている。ICT がもたらす経済への影響（「実学としての経済学」の観点）や ICT を利用したサービスの法的性質を理解する上でも本授業の受講は有益である。		
履修条件・留意点	IT パスポート資格の取得、さらにはその上位資格の取得を志す受講生を募る。ICT 特別演習での勉強を通して情報系資格への受験意志のある学生に受講を限定する。 講義中に、プログラミング実習、Web ページ作成実習、SQL 実習、デジタルコンテンツ作成実習を行う。情報技術と芸術の融合、情報技術を用いたデータの可視化、インターネットを用いた情報発信に興味がある学生を募る。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・情報系国家資格の取得のための勉強を通して、ICT に関する幅広い知識を修得する。IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、高度情報技術者試験への合格を目指す。基本情報技術者試験科目 B への対策を念頭に置いて、プログラミング言語 Python を基礎から学修しプログラミング技能を身につける。 ・国家資格の他にも、民間情報系資格として Python エンジニア認定試験、G 検定、データサイエンティスト検定（リテラシーレベル）、オラクル認定資格への合格を目指す受講者も受け入れる。 ・知識偏重の学修にならないように、ICT や AI に関する実習も行うことで、ICT に関する実用能力も養う。実際に、プログラミング実習（Python）， SQL 実習、生成 AI 実習、Web ページ作成実習、IoT 実習（デジタル作品作成実習）を行う。希望に応じて、学修した内容をもとにしてビジネスコンテスト等へ出場する学生をサポートする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適時教室内を巡回しながら質問に答えていく。また理解度試験の解説を行うなどのフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	第 1 回目の講義で、個別に面談を行い、それぞれの目標に即したテキストを指定する。	ISBN	該当なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	20
授業期間中の小テスト、レポート課題等	60
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	春学期に受講登録をして 1 年間受講するという通年受講を基本とする。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	※演習形式の授業であるので授業計画はあくまで「計画」であることに留意すること。 ・ガイダンス	【予習】シラバスの内容を確認しておくこと。 【復習】各自、第 1 回目に指定された教科書を第 2 回目の講義までに購入しておくこと	4 時間
第２回	対面	・ストラテジ分野１ ・プログラミング実習１	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第３回	対面	・ストラテジ分野２ ・プログラミング実習２	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第４回	対面	・ストラテジ分野３ ・プログラミング実習３	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第５回	対面	・マネジメント分野１ ・生成 AI 実習１	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第６回	対面	・マネジメント分野２ ・生成 AI 実習２	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第７回	対面	・マネジメント分野３ ・生成 AI 実習３	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第８回	対面	・テクノロジ分野１ ・SQL 実習１	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第９回	対面	・テクノロジ分野 2 ・SQL 実習 2	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間

第１０回	対面	・テクノロジ分野 3 ・Webpage 作成実習 1	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第１１回	対面	・テクノロジ分野４ ・Webpage 作成実習２	【予習】教科書の練習問題を現状の知識で解いてみるとよい。 【復習】勉強した範囲について、過去問道場サイトの問題に取り組むこと。 範囲を指定して 20 問解いてみることが望ましい。	4 時間
第１２回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジ分野総合１ ・デジタル作品作成実習１	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくとよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第１３回	対面	・ストラテジ・マネジメント・テクノロジ分野総合２ ・デジタル作品作成実習２	【予習】教科書を使って、これまでに勉強した範囲を総復習しておくとよい。 【復習】不正解だった問題について、過去問道場サイトの解説などを利用して確実な理解を目指す。	4 時間
第１４回	対面	プレゼンテーション 作成した作品の発表会	【予習】パワーポイントを使ったプレゼンテーションファイルを作成 【復習】自身の発表についての良かった点と悪かった点、他の人の発表についての良かった点と悪かった点の振り返り	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド講義：課題を提出 資料と動画を配布する。	【復習】オンデマンド課題で学んだ技術を、これまでに作成したデジタルコンテンツに反映させると良い。	4 時間

科目名	日本史概説Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	久米　高史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	日本史(前近代史)の概論（原始・古代から近世後期まで）		
授業の目的及び概要	日本列島が誕生する原始時代から江戸時代後期までの日本史の概説講義を行います。各時代の基礎的事項と日本史全体の流れを理解することを目的とし、社会科教員にとって必須である基本的知識とその運用法を学修します。		
履修条件・留意点	特にありませんが、社会科教員を目指すという強い意志を持って受講してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・原始・古代から近世中期までの日本史の基本的な流れを完全に理解し、それぞれの時代の特徴について説明できるようになる。 ・必須となる歴史用語についても、きちんと説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎講授業終了後にラーニングポータルより小テストを実施し、理解度をチェックします。 ・翌週の授業で小テストの講評を行い、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『概論　日本歴史』，佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜(編)，吉川弘文館，2000 年	ISBN	ISBN　9784642077101
参考書	特にありません。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	日本史は、小学校、中学校、高等学校で繰り返し学習する教科ですが、大学入試までの基礎事項の暗記を中心とした学習とは異なり、大学では各時代の様々な現象を総合し、時代と時代のつながりを論理的に捉えることが重視されます。また世界史の中の日本史という観点も踏まえて、歴史の理解を現代社会に対する洞察力、理解力にフィードバックするという意識も持ち合わせてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・授業の概要・成績評価などについての説明。 ・テキストⅠ＝古代：第１章 古代国家の成立	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 １　旧石器時代から縄文時代にかけての日本と東アジアについて ２　弥生時代の日本と東アジアについて	4 時間

		1 原始の日本列島		
第2回	対面	テキストⅠ＝古代：第1章 古代国家の成立 2 倭王権の伸長 3 古代国家への歩み ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 倭王権から大和政権への展開について 2 大王権力の伸長と東アジアの動向について 3 推古朝の政治と外交について	4時間
第3回	対面	テキストⅠ＝古代：第1章 古代国家の成立 3 古代国家への歩み ② 古代:第2章 律令国家の形成と展開 1 律令国家の形成	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 大化の改新と改新政治について 2 天智朝に至る過程と対外関係について 3 壬申の乱について 4 天武・持統朝における中央集権化について 5 律令国家の成立と律令政治について	4時間
第4回	対面	テキストⅠ＝古代：第2章 律令国家の形成と展開 2 律令国家の成熟と展開	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 聖武朝の政治と社会について 2 奈良朝政争史について 3 平安京遷都に至る過程について	4時間
第5回	対面	テキストⅠ＝古代：第3章 摂関政治と地方社会 1 摂関政治の展開と外交・文化 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 桓武～嵯峨朝の政治と藤原北家の台頭について 2 延喜・天暦の治について	4時間
第6回	対面	テキストⅠ＝古代：第3章 摂関政治と地方社会 1 摂関政治の展開と外交・文化 ② 2 地方支配の転換	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 摂関政治確立に至る過程とその政治について 2 土地制度史の変遷について	4時間
第7回	対面	テキストⅠ＝古代：第3章 摂関政治と地方社会 3 武士と荘園 Ⅱ＝中世：第1章 中世社会の成立と展開 1 院政の成立と平氏の台頭 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 武士の台頭と院政の展開について 2 保元・平治の乱と平氏政権の誕生について	4時間
第8回	対面	テキストⅡ＝中世：第1章 中世社会の成立と展開 1 院政の成立と平氏の台頭 ② 2 武家政権の確立 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 平氏政権の展開～滅亡について 2 鎌倉幕府の成立になついて	4時間
第9回	対面	テキストⅡ＝中世：第1章 中世社会の成立と展開 2 武家政権の確立 ② 3 鎌倉後期の政治と社会	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 執権政治の成立とその展開について 2 得宗権力の確立と元寇について 3 農村社会の変容と御家人の窮乏について 4 鎌倉幕府の滅亡について	4時間
第10回	対面	テキストⅡ＝中世：第2章 内乱と一揆の時代 1 南北朝の内乱 2 室町時代の政治と社会 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 室町幕府の成立と南北朝の争乱の展開について 2 足利義満による南北朝の合一と幕府権力の強化について 3 日明勘合貿易について	4時間
第11回	対面	テキストⅡ＝中世：第2章 内乱と一揆の時代 2 室町時代の政治と社会 ② 3 中世後期のアジアと日本	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 惣村の展開と土一揆・国一揆 2 中世の琉球・朝鮮・蝦夷地と倭寇について	4時間
第12回	対面	テキストⅡ＝中世：第2章 内乱と一揆の時代	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 応仁の乱から室町幕府の崩壊過程について	4時間

		4 戦国大名の時代 Ⅲ＝近世：第１章 幕藩体制の確立 1 織豊政権	2 戦国大名と家臣団、戦国大名の領国経営について 3 織田信長の登場から豊臣秀吉による天下統一について	
第１３回	対面	テキストⅢ＝近世：第１章 幕藩体制の確立 2 江戸幕府の成立と鎖国 3 幕藩体制の確立	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 豊臣政権の崩壊から徳川家康による江戸幕府成立に至る過程について 2 家康から家光に至る武断政治期の政治と外交について	4 時間
第１４回	対面	テキストⅢ＝近世：第１章 幕藩体制の確立 4 元禄・享保の文化と幕政 テキストⅢ＝近世：第２章 幕藩体制の動揺と解体 1 幕藩体制の動揺と対応 2 幕藩体制の本格的危機と対応	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1 元禄期の政治・経済・社会について 2 ８代将軍吉宗による享保の改革について 3 田沼時代について 4 老中松平定信による寛政の改革について 5 老中水野忠邦による天保の改革について	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンド授業により、これまでの 14 回の講義を振り返るとともに、期末試験への対策について解説します。	動画をしっかりと視聴し、必要な事項はレジュメに書き込むなどして理解を深め、試験対策を万全なものとしてください。	4 時間

科目名	日本史概説Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	久米　高史	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	日本史(近現代史)の概論（近世末期から 1990 年代まで）		
授業の目的及び概要	幕末開港期から 1990 年代までの日本史の概説講義を行います。各時代の基礎的事項と日本史全体の流れを理解することを目的とし、社会か教員にとって必須である基本的知識とその運用法を学修します。		
履修条件・留意点	特にありませんが、社会科教員を目指すという強い意志を持って受講してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・幕末開港期から 1990 年代までの日本史の基本的な流れを完全に理解し、それぞれの時代の特徴について説明できるようになる。 ・必須となる歴史用語についても、きちんと説明できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・毎講授業終了後に Learning Portal より小テストを実施し、理解度をチェックします。 ・小テストの講評は翌週の授業で行い、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	『概論　日本歴史』，佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜(編)，　吉川弘文館，　2000 年	ISBN	ISBN　9784642077101
参考書	特にありませんが、必要な場合は授業の中で提示します。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	10
授業期間中の小テスト、レポート課題等	30
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	60
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	日本史は、小学校、中学校、高等学校で繰り返し学習する教科ですが、大学入試までの基礎事項の暗記を中心とした学習とは異なり、大学では各時代の様々な現象を総合し、時代と時代のつながりを論理的に捉えることが重視されます。また世界史の中の日本史という観点も踏まえて、歴史の理解を現代社会に対する洞察力、理解力にフィードバックするという意識も持ち合わせてください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	・授業の全体像や成績評価の基準などについて。 ・テキストⅢ＝近世：第２章 幕藩体制の動揺と解体	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 １　なぜ日本は開国しなければならなかったのかについて ２　開国による貿易の開始は、日本の社会と政治に	4 時間

		3　開国と幕藩体崩壊崩壊	どのような影響を及ぼしたのかについて	
第２回	対面	・テキストⅣ＝近代：第１章 近代国家の成立 1　明治政府の成立 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1　版籍奉還や廃藩置県など明治初年度の政治改革の内容とその影響について 2　地租改正や新貨条例など明治初年度の経済改革の内容とその影響について	4 時間
第３回	対面	・テキストⅣ＝近代：第１章 近代国家の成立 1　明治政府の成立 ②	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1　岩倉遣外使節に始まる明治前期の初期外交について 2　学制、徴兵令などの欧米流の近代的制度の導入とその影響について	4 時間
第４回	対面	・テキストⅣ＝近代：第１章 近代国家の成立 2　自由民権運動と政党 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1　自由民権運動の展開から政党の結成に至るまでの過程について 2　大隈財政と明治十四年の政変について	4 時間
第５回	対面	・テキストⅣ＝近代：第１章 近代国家の成立 2　自由民権運動と政党 ②	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1　松方デフレと激化事件について 2　松方財政とその後の企業勃興、さらに 1890 年恐慌について	4 時間
第６回	対面	・テキストⅣ＝近代：第１章 近代国家の成立 3　帝国憲法と初期議会 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1　大日本帝国憲法成立に至るまでの過程について 2　初期議会の動向について	4 時間
第７回	対面	・テキストⅣ＝近代：第１章 近代国家の成立 3　帝国憲法と初期議会 ②	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1　明治初期の日清関係・日朝関係について 2　日清戦争開戦に至るまで経緯について	4 時間
第８回	対面	・テキストⅣ＝近代：　第２章 政党政治の発展と社会運動 1　立憲政友会の成立と日清戦後の社会 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1　初の植民地獲得と三国干渉について 2　日清戦後経営について 3　第一次大隈内閣の崩壊から立憲政友会の結成・旧自由党系の合流について	4 時間
第９回	対面	・テキストⅣ＝近代：第２章 政党政治の発展と社会運動 1　立憲政友会の成立と日清戦後の社会 ② 2　大正政変前後 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1　日清戦争後の社会運動について 2　桂園時代とはどのような時代であったかについて 2　韓国併合に至る過程について	4 時間
第１０回	対面	・テキストⅣ＝近代：第２章 政党政治の発展と社会運動 2　大正政変前後 ② 3　普選･治安維持法体制の成立 ①	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1　大正政変に至る過程について 2　シーメンス事件について 3　第一次世界大戦下の日本の政治・外交について 4　大戦景気とはどのようなものであったかについて 5　米騒動と社会運動の発展について 6　原敬内閣の誕生からワシントン体制に至る過程について	4 時間
第１１回	対面	・テキストⅣ＝近代：第２章 政党政治の発展と社会運動 3　普選･治安維持法体制の成立 ② 第３章　アジア太平洋戦争 1　恐慌の時代と政党内閣制 2　協調外交	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 1　戦後恐慌と震災恐慌について 2　護憲三派内閣の誕生と普通選挙法・治安維持法の成立過程について 3　憲政会内閣から立憲政友会の田中義一内閣への政治動向について 4　３の原因である対欧米・対中国の外交方針について	4 時間

		から積極外交へ ①		
第１２回	対面	・テキストⅣ＝近代：第３章 アジア太平洋戦争 ２ 協調外交から積極外交へ ② ３ 軍部の台頭 ４ 二･二六事件と近衛新体制運動 ５ 日中戦争からアジア太平洋戦争へ	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 １ 1920 年代の一連の恐慌と金解禁について ７ 二・二六事件から日中戦争に至る過程について ２ 世界恐慌・昭和恐慌と日本の農村について ８ 日本の南進と対米英欄開戦について ３ 憲政会内閣から立憲政友会の田中義一内閣への政治動向について ９ 戦局の悪化と敗戦について ４ ロンドン海軍軍縮条約と協調外交の終わりについて ５ 満州事変から満州国建国に至る過程について ６ 高橋財政について	4 時間
第１３回	対面	・テキストⅤ＝現代：第１章 戦後改革	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 １ 敗戦直後の極度のインフレと金融緊急措置令について ２ GHQ による農地改革と財閥解体 ３ 敗戦後の政党政治の復活について ４ アメリカの占領政策の転換について	4 時間
第１４回	対面	・テキストⅤ＝現代：第２章 復興と高度経済成長	以下の点について、特に理解を深めておくこと。 １ 朝鮮戦争と講和に続く高度経済成長の開始について ２ 高度経済成長の実態について	4 時間
第１５回	オンデマンド	オンデマンドで講義により、これまで 14 回の授業の振り返りを行うとともに、学期末試験のポイントを解説します。	動画の講義をレジュメを参照しながら視聴し、ポイントをレジュメに書き込むなどして、試験準備を行ってください。	4 時間

科目名	外国史Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	穴井　佑	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	近世イギリスの歴史的な展開を理解する。		
授業の目的及び概要	本講義は、近代への過渡期となる近世イギリスの歴史的展開を、研究史上の論争にも留意しつつ学ぶことで、一面的な歴史理解ではなく、物事を多面的に捉える歴史学の基本的な視座の養成に努めるものである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、近世から近代へと至るイギリスの歴史的展開を学び、その基礎的な知識を得ることで、近代という時代の特徴や成り立ちを説明できるようになる。 第二に、一面的な歴史理解ではなく、近世・近代イギリス史に関する研究史上の論争にも留意することで、歴史的なものの見方や、バランスのとれた批判的精神を涵養する。 第三に、授業の内容を明瞭かつ論理的にまとめる能力、多様な史資料・図像を分析する能力を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業後にレスポンスシートを執筆してもらいます。各授業では、それに対する応答をしたうえで、講義を行っていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特になし。	ISBN	なし
参考書	①論点・西洋史学、金澤周作監修、ミネルヴァ書房、2020 年 ②よくわかるイギリス近現代史、君塚直隆編、ミネルヴァ書房、2018 年	ISBN	①9784623087792 ②9784623083183

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	20
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	本科目は教職科目ともなっています。将来、中学校や高等学校などの教員として歴史教育にたずさわる可能性もあることを自覚して講義に臨んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【ガイダンス、異文化としての近世イングランド】 どのように授業を進めていくかを説明す	【予習】高校までの世界史の教科書などを振り返っておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、近世社会の歴史を学	4 時間

		るとともに、現在の私たちの世界観や価値観とは大きな隔たりがある近世社会の歴史を学ぶためのガイダンスを行う。	ぶ上で必要な世界観についての理解を深める。	
第２回	対面	【イングランドの宗教改革①】 イングランドの宗教改革の概説を理解する。	【予習】参考書②8－11 頁を事前に読んでおく。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第３回	対面	【イングランドの宗教改革②】 イングランド宗教改革に関する研究の変遷と論争を理解する。これによって、複数の異なる歴史観が存在することを理解し、多角的な物事の見方を身につける。	【予習】前回のレジュメをよく読んで、イングランド宗教改革の概説を確認しておく。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第４回	対面	【初期スチュアート朝の財政問題】 チューダー朝以来の財政構造が破綻していたこと、チャールズ 1 世期にはその改革が試みられるもとん挫し、内戦／革命へと至る問題が準備されたことを学ぶ。	【予習】参考書①148－149 頁、参考書②16－17 頁を事前に読んでおく。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第５回	対面	【内戦、三王国戦争、革命？】 かつて「ピューリタン革命」と呼ばれることが一般的であった 17 世紀半ばの政治的な大変動をめぐる研究史を題材に、複数の異なる歴史観が存在することを理解し、多角的な物事の見方を身につける。	【予習】参考書①170－171 頁、参考書②17－21 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第６回	対面	【近世イングランドの貧困対策】 近世イングランドにおいて、貧困が社会問題として認識されるようになり、それへの対策が模索されたことを学ぶ。	【予習】貧困とは何か、自分なりに考えを整理してきてください。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第７回	対面	【ウィンスタンリと近世イングランドの入会地／権】 入会地（commons and wastes）を利用することで貧民の窮状を救おうとしたウィンスタンリについて学ぶ。	【予習】辞典や英語辞書などを用いて commons や wastes、入会地や入会権の意味を調べておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。第 8 回の授業時に行う中間テストに向けたポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけてること。	5 時間
第８回	対面	【中間テスト】 第 1 回～第 7 回の授業範囲で中間テストを行う。 【1665 年のペスト大流行】 1665 年のロンドンにおけるペスト大流行を題材として、前近代の社会と現代社会の相違について考えを深める。	【予習】新型コロナウィルスに翻弄され続けてきた 2020 年以来の現代世界の状況を振り返っておくこと。第 7 回の授業時に中間テストに向けたポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけてくること。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	5 時間
第９回	対面	【1666 年のロンドン大火】 1666 年のロンドン大火を事例に、災害後の都市復興や都市の水事情について理解を深める。	【予習】参考書②24－25 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第１０回	対面	【王位継承排除危機と名誉革命】 「長い 18 世紀」のイギリスにおける統治体制を決定づけることとなる名誉革命に対する理解を深める。	【予習】参考書②28－33 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第１１回	対面	【「投資社会」の拡大と南海泡沫事件】 18 世紀におけるイギリスの金融市場の拡大について学ぶ。	【予習】参考書②44－45 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考	4 時間

			文献を精読する。	
第１２回	対面	【都市の消費文化】 18 世紀イギリスにおける都市化の進展と、それにともなう消費文化の発展について学ぶ。	【予習】参考書①202－203 頁、参考書②58－59 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第１３回	対面	【風刺画から見る 18 世紀のイギリス社会】 ウィリアム・ホーガースとジェームズ・ギルレイの風刺画から 18 世紀イギリス社会を学ぶ。	【予習】第 12 回のレジュメを読んで、内容を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第１４回	対面	【民衆の政治文化】 民衆の政治文化、「モラル・エコノミー」という観点から 18 世紀イギリスにおける食糧暴動について理解する。	【予習】参考書①196－197 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	【まとめと総括】 定期試験に向けて授業を総括する動画教材をオンデマンドで配信する。	【予習】これまでのレジュメを読んで、学んできた内容を整理すること。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に、これまでの学修内容の総復習を行うこと。	5 時間

科目名	外国史Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	畑野　吉則	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	６世紀までの中国における歴史・社会・文化の形成と展開		
授業の目的及び概要	新石器時代末期から魏晋南北朝時代に至るまで（紀元前 2000 年頃～6 世紀）の中国史を概観する。 各王朝の成立と変遷を通時的にたどりながら、①王朝制の形成過程、②支配構造の変遷、③行政システムの展開という３つの観点に着目する。 これらの視点を通じて、中国王朝の歴史的展開を体系的に理解し、中国史に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）中国の諸制度および文化がどのように生まれ、歴史の中でいかに変容してきたのかを理解するとともに、それらが東アジア諸地域に与えた多様な影響について理解する。 （２）中国を中心とする歴史事象について、原因と結果の相互関係を整理し、論理的な文章で論述できるようになる。 （３）６世紀までの中国史に関する基礎的な知識を学ぶとともに、中国の影響を受けてきた日本の歴史・文化を、東アジアという広域的視点から評価できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	毎回レジュメを配布します	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	（１）毎回の授業内容に即したコメントシートあるいは簡易アンケートの提出を求めます。内容は成績評価の対象とします。 （２）授業期間中に、授業の理解度を確認する内容の小テスト（あるいはミニレポート）を複数回実施します。 （３）期末試験は論述形式を予定しています。毎回配布するレジュメをもとに復習し、準備をおこなってください。 （４）授業中に、私語、無断退出、不正出席等、授業運営を妨げる行為が認められた場合は、減点の対象とします。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンスⅠ ― 中国史を学ぶために	【予習】シラバスの内容を事前に読んでおくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第２回	対面	新石器時代 ― 農耕社会の形成と古典文明	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第３回	対面	殷・周王朝 ― 中国王朝のはじまりと「中原」の形成	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第４回	対面	春秋時代 ― 封建制の崩壊と覇者体制	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第５回	対面	戦国時代 ― 封建制から県制へ	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第６回	対面	諸子百家 ― 中国古代の思想と学問	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第７回	対面	秦王朝 ― 始皇帝の統一と中央集権国家の形成	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第８回	対面	前漢王朝 ① ― 秦の滅亡と漢の建国	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第９回	対面	前漢王朝 ② ― 武帝の治世と対外政策	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第１０回	対面	中国古代の文書行政	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第１１回	対面	後漢王朝 ― 王莽・新の簒奪と漢王朝の再興	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第１２回	対面	「三国志」の時代 ― 三国鼎立と地方社会の萌芽	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第１３回	対面	魏晋南北朝時代 ① ― 漢族と胡族の対立と融合	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間
第１４回	対面	魏晋南北朝時代 ② ― 多元化と多様化の時代	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4時間

第１５回	オンデマンド	まとめ ― 中国王朝と遊牧国家：農耕民族と遊牧民族 第１回から第 14 回までのテーマを総括する	【予習】これまでの授業レジュメを整理し、授業内容を総括しておくこと。 【復習】ノートを整理し、期末試験に備えること。	4 時間

科目名	外国史Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	穴井　佑	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	イギリスを中心にして、16－20 世紀にいたるまでの世界の歴史的な展開を学ぶことで、現代社会の成り立ちについての理解を深める。		
授業の目的及び概要	本講義では、現在の私たちの生活や価値観にも大きな影響を及ぼしている近代イギリスの歴史的展開を概説する。その際に、イギリスが世界各地に植民地を有し、また自由貿易体制を世界規模で拡大しようとしたことに着目することで、現代世界の成り立ちについての理解を深めていく。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	第一に、世界各地に植民地を拡大し、やがて大英帝国を築き上げていったイギリスの歴史を通して、西洋近代の世界規模での影響を検討することで、現代社会の成り立ちについての理解を深める。第二に、一つの歴史的な事柄に対する多様な研究のあり方を紹介することで物事を多角的かつ批判的にとらえる歴史的な思考を身につける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業後にレスポンスシートを執筆してもらいます。各授業では、それに対する応答をしたうえで、講義を行っていきます。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特になし。	ISBN	なし
参考書	①論点・西洋史学、金澤周作監修、ミネルヴァ書房、2020 年 ②よくわかるイギリス近現代史、君塚直隆編、ミネルヴァ書房、2018 年	ISBN	①9784623087792 ②9784623083183

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	20
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	本科目は教職科目ともなっています。将来、中学校や高等学校などの教員として歴史教育にたずさわる可能性もあることを自覚して講義に臨んでください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【ガイダンス、近代の西洋について学ぶことの意味】 どのように授業を進めていくかを説明す	【予習】参考書①のｉ－vi頁を読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、近代西洋の歴史を学ぶ上で必要な準備をする。	4 時間

		るとともに、近代西洋の歴史を学ぶことの意義について自分なりに考えていくためのガイダンスを行います。		
第２回	対面	【覇権をめぐる闘争①：ポルトガル、スペイン】 ポルトガルとスペインがヨーロッパの外へと拡張をはじめていく要因と過程を学びます。	【予習】参考書①の 126ー131 頁、194ー195 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第３回	対面	【覇権をめぐる闘争②：オランダ】 オランダが近代世界システムにおける覇権を掌握していく過程を学びます。	【予習】参考書①の 134ー137、194ー195 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第４回	対面	【覇権をめぐる闘争③：イギリス】 近代世界システムにおける覇権がオランダからイギリスへと移っていく過程を学びます。	【予習】参考書①の 178ー179 頁と、参考書②48ー51、56ー57 頁を事前に読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第５回	対面	【イギリスによる環大西洋経済圏の確立】 環大西洋世界における優位を築いたイギリスが、大西洋奴隷貿易を土台として環大西洋経済圏を確立していった過程を学びます。	【予習】事前に参考書①の 192ー193 頁と、第 4 回のレジュメをよく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第６回	対面	【奴隷貿易および奴隷制の廃止】 イギリスが奴隷貿易および奴隷制を廃止していく過程を、人道主義的な観点と経済的な観点から学びます。	【予習】第 5 回のレジュメを読んで、内容を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第７回	対面	【産業革命と生活水準論争】 イギリスにおける産業革命についての理解を深めるとともに、経済や社会の変動が人びとの生活にもたらした変化を学びます。	【予習】参考書①188ー194 頁、参考書②52ー53 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。第 8 回の授業時に行う中間テストに向けてポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけること。	5 時間
第８回	対面	【中間テスト】 第 1 回～第 7 回の授業範囲で中間テストを行う。 【清朝と大英帝国】 清朝に対して自由貿易を求め、アヘン戦争などの武力衝突に至った歴史事象から、イギリス帝国についての理解を深めます。	【予習】参考書②62ー65 頁を事前によく読んでおくこと。第 7 回の授業時に中間テストに向けたポイント解説を行うので、その内容をきちんと身につけてくること。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	5 時間
第９回	対面	【奴隷制廃止と国際労働市場の変容】 前半で奴隷制が廃止された後の奴隷たちの処遇を、後半で奴隷にかわる労働力について、中国人移民労働者を事例に学びます。	【予習】第 5－6 回のレジュメを読んで、内容を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第１０回	対面	【帝国主義の時代】 イギリスを帝国主義的な政策を題材にし、帝国主義の時代についての理解を深めます。また、日本における帝国主義研究の変遷についても学びます。	【予習】参考書①230－231 頁、240－243 頁、参考書②84－85 頁、90－91 頁を事前によく読んでおくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間
第１１回	対面	【イギリス帝国の危機：自由貿易か保護貿易か】 19 世紀末イギリスの経済的、軍事的な地位低下への危機感から生じた自由貿易政策の再検討について学ぶことで、イギリス	【予習】第 8 回、第 10 回のレジュメを読んで、内容を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4 時間

		帝国と近現代世界の歴史に関する理解を深めます。		
第１２回	対面	【ヘゲモニー国家が提供する国際公共財】19世紀末以降のイギリスにおいて経済的・軍事的な地位低下への危機感が見られた一方で、世界経済のフレームワークやインフラの構築を通してイギリスが依然として世界規模で多大な影響力を維持し続けたことを学びます。	【予習】第8回、第10回、第11回のレジュメをよく読んで、イギリス帝国について知識を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第１３回	対面	【イギリス帝国内の移民】 駒形丸事件を中心に近現代イギリスにおける移民について学びます。	【予習】第8回、第10回、第11回、第12回のレジュメをよく読んで、イギリス帝国について知識を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第１４回	対面	【現代イギリスの多文化・多民族・多宗教】 世界の各地に植民地を有した帝国という歴史が、現代イギリスの多文化・多民族・多宗教的な状況を作りだしていることを学び、近現代の歴史と現代社会との結びつきについての理解を深めます。	【予習】第8回、第10回、第11回、第12回、第13回のレジュメをよく読んで、イギリス帝国について知識を整理しておくこと。 【復習】レジュメをよく読んで、内容についての理解を深める。特に関心を持ったトピックに関して、参考文献を精読する。	4時間
第１５回	オンデマンド	【まとめと総括】 定期試験に向けて授業を総括する動画教材をオンデマンドで配信します。	【予習】これまでのレジュメを読んで、学んできた内容を整理すること。 【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、ラーニングポータル上で配布する資料を中心に、これまでの学修内容の総復習を行うこと。	4時間

科目名	外国史Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	畑野　吉則	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	20 世紀初頭までの中国における歴史・社会・文化の形成と展開		
授業の目的及び概要	本講義では、隋王朝の成立から清末に至るまで（6 世紀～20 世紀初頭）の中国史を概観する。各王朝の成立と変遷を通時的にたどりながら、①中国王朝と征服王朝の対立構造、②中国史と同時代世界史との関係、③伝統中国と現代中国との連続性および相違点という３つの観点に着目する。 これらの視点を通じて、中国史を長期的・広域的な文脈のなかで理解し、現代中国を歴史的に捉えるための基礎的な知識を習得することを目的とする。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	（１）伝統中国において形成された諸制度および文化が、近代以降の中国社会に与えた多様な影響について理解する。 （２）中国を中心とする歴史事象について、原因と結果の相互関係を整理し、論理的な文章で論述できるようになる。 （３）20 世紀初頭までの中国史に関する基礎的な知識を学ぶとともに、中国の影響を受けてきた日本の歴史・文化を、東アジアという広域的視点から評価できるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	コメントシートは翌週の授業で紹介し、質問への回答や補足説明をします。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	毎回レジュメを配布します	ISBN	なし
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	50
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	（１）毎回の授業内容に即したコメントシートあるいは簡易アンケートの提出を求めます。内容は成績評価の対象とします。 （２）授業期間中に、授業の理解度を確認する内容の小テスト（あるいはミニレポート）を複数回実施します。 （３）期末試験は論述形式を予定しています。毎回配布するレジュメをもとに復習し、準備をおこなってください。 （４）授業中に、私語、無断退出、不正出席等、授業運営を妨げる行為が認められた場合は、減点の対象とします。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンスⅡ ― 伝統中国と現代中国	【予習】シラバスの内容を事前に読んでおくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第２回	対面	隋王朝 ― 天下の再統一	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第３回	対面	唐王朝 ① ― 律令国家の形成	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第４回	対面	唐王朝 ② ― 世界帝国の衰退	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第５回	対面	古代日本における唐文化の受容 ― 正倉院と聖武天皇	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第６回	対面	宋王朝 ① ― 北宋による中国の再統一	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第７回	対面	宋王朝 ② ― 征服王朝と宋の南遷	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第８回	対面	元王朝 ① ― モンゴル帝国の形成	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第９回	対面	元王朝 ② ― 元王朝の中国支配とその社会	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１０回	対面	明王朝 ① ― 明初の南北同等支配	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	明王朝 ② ― 永楽帝の世界秩序と北虜南倭の時代	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１２回	対面	明王朝 ③ ― 中華帝国の再構築と崩壊	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	清王朝 ① ― 「華夷変態」と大清帝国	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	清王朝 ② ― 中国の近代化と 19 世紀のアジア	【予習】授業概要およびキーワードを事前に知らせるので、調べておくこと。 【復習】授業レジュメに基づき、授業で学んだことの論点をノートに整理しておくこと。	4 時間

第１５回	オンデマンド	まとめ ― 中華民国と中華人民共和国 第１回から第 14 回までのテーマを総括する	【予習】これまでの授業レジュメを整理し、授業内容を総括しておくこと。 【復習】ノートを整理し、期末試験に備えること。	4 時間

科目名	人文地理学Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岡田　良平	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	人文地理学の基本的な見方・考え方		
授業の目的及び概要	この授業は人文地理学の基本的な見方について具体的なトピックの紹介を通じて学びます。現在，高校では「地理総合」が必修化されました。それをふまえてこの授業では高校地理の内容にも立ち返りながら進めます。春学期では，文化地理学，言語地理学，社会地理学，都市地理学，経済地理学，地理教育学について学びます。この授業を通じて，地理学の多角的な見方・考え方を通して見える地域の社会・経済・文化的な変容や影響について学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を受講することによって学生は，以下の能力を身につけることができます。 １．人文地理学の基本的な見方・考え方を身につけることができる。 ２．事象を通して地域に関する具体的なトピックを提示することによって，授業で取り上げられている内容が日常の社会生活に密着していることを認識することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。担当教員に E -mail やディスカッションで適宜、質問等をして下さい。また、15 回目の学修において寄せられた質問等について解説します。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に「学修のまとめ・ふりかえりシート」を配布し、そこから出題されます。解答も掲載されていますので「学修のまとめ・ふりかえりシート」で確認しましょう。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。自作の PowerPoint スライド、添付資料を活用します。	ISBN	なし
参考書	レジュメで作成した引用文献の形で紹介する予定です。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	100
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	成績・評価について。 ①各回では小テストを実施する。小テストは評価の 20%です。なお、小テストは全 15 回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全 15 回中 12 回以上の回答がない場合（4 回以上回答していない）は、学修到達度確認テストの試験の得点に関わらず単位取得ができません。 ②第７回、第 15 回の学修後は学修到達度確認テストを行う。計 2 回のテストは評価の 80%です。2 回いずれもテストを受験していない場合は、12 回以上の小テストの受験があっても単位

	取得ができません。 成績は 12 回以上の小テストの回答及び計 2 回の学修到達度確認テストの結果を総合して評価を行う。全 15 回の小テスト及び学修到達度確認テストにおいてテスト中に試験を中断したり、インターネットを遮断してしまうと web の設定上、再度試験は受けられません。そのため、出席確認となる小テストも未受験となり欠席扱いとなります。また、学修到達度確認テストも未受験となり、計 2 回の学修到達度確認テストを受験していない場合も単位取得ができません。こうしたテストの受験不備による出席扱い、再受験の依頼する問い合わせには対応しません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	オリエンテーション 講義の進め方、内容、計画、留意事項の説明 人文地理学 人文地理学の基本的な見方･考え方について学修します。文化地理学，言語地理学，社会地理学，都市地理学，経済地理学，地理教育学について学びます。この授業を通じて，地理学の多角的な見方･考え方を通して見える地域の社会･経済･文化的な変容や影響について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第２回	オンデマンド	文化地理学：麺の文化地理と地誌 私たちの生活で麺類は切っても切り離せません。うどん、そば、パスタ、ラーメン、焼きそばなど調理方法まで含めれば、多種多様です。これらの麺文化の背景には小麦など穀物の生産が欠かせません。講義では、中国を中心に東アジア、東南アジアへと麺文化が波及していった麺文化の系統性や文化史を通して、東アジアや東南アジア全体における文化地理学的視点から麺と地域性について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第３回	オンデマンド	文化地理学：魚醤･発酵の分布圏ー東南アジア・東アジアの食文化ー 東南アジアから東アジア地域の発酵食品、とりわけ魚醤と地域性ついて考察します。日本の食生活では魚醤と言われてもピンとこないかもしれません。調味料として有名なのはナンプラーです。しかし、そのルーツ、製造過程を見ていくと東南アジアから東アジアにかけて広がる「魚醤文化圏」が見えてきます。麺の文化地理学は中国を中心とした広がりでしたが、東南アジアを中心とした東アジアにわたる河川や海洋圏での広がりとして考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第４回	オンデマンド	文化地理学：ご当地グルメの背景と味覚の境界線 現在ではメディアの影響、コンビニや EC の発達によって気軽にご当地グルメを味わえるようになりました。特に「B 級グルメ」は、複数の書籍･SNS での情報もあり、観光資源となっている場合もあります。しかし、実際にはそれだけではなく、家庭料理での材料や味付けの違いといったものまであります。学修では、いくつかのご当地グルメを事例に、それらの地域の自然環境や歴史的な背景、地域差等について学修	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んで復習すること。	4 時間

		します。		
第５回	オンデマンド	言語地理学：方言と地域性 一般的な感覚では、方言は国語の分野での研究となります。しかし、地理学や地誌学ではこうした他分野の領域も地域性を表すテーマとして取り上げることができます。明治時代以降、近代国家の建設において統一した教育政策は最重要課題のひとつでした。現代では、方言は地域の独自性やアイデンティティを示すものとして認識され、地域のまちおこしや観光資源の重要なコンテンツとして認識されています。学修では、方言周圏論や方言の位置付けの変化、まちおこしの事例紹介、方言や言葉、地域そのものに対する人々のまなざしの変容について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間
第６回	オンデマンド	言語地理学：大阪の方言に見る地域差 私たちが日常的に使っている話し言葉には方言が含まれています。特に「関西弁」は全国的に有名です。学修では、大阪を事例にしながら大阪の各地で使われている方言の特徴や違いについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間
第７回	オンデマンド	農村地理学：農村社会の地理学 現代の日本の農村では人口減少・少子高齢化の傾向が著しいです。学修では、戦後の農村社会の変容や農業の変貌について概観し、現在の農村問題や農村政策について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第８回	オンデマンド	漁業地理学：漁業と地理学 日本は周辺を海に囲まれ、河川や湖も多数ある地理的環境から漁業が非常に盛んでした。しかし、第二次世界大戦以降、食文化の変化に伴って、水産物や水産加工物の消費量が激減しています。学修では、日本の漁業を取り巻く現状と大阪府の深日（ふけ）漁業協同組合の取り組みについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第９回	オンデマンド	社会地理学：環境循環社会：ラオスの農村社会を事例に ラオスは文化圏として世界で唯一のモチ米を主食とする文化圏です。また、昆虫食などが文化的に根付いた地域でもあります。ラオスの農村社会を事例に自然環境と人との環境循環型社会の在り方について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１０回	オンデマンド	地理教育学：地理的学習の重要性と地理総合に向けて 高校で「地理総合」が必修化されました。今後、地歴科の教員になるためには地理の指導が重要になってきます。残念ながら、現状では高校では地理の指導ができる教員は十分ではなく、地理総合必修化には大きな課題が残されています。学修では、小学校から高校までの地理的な学習を系統的に考察し、各段階における課題について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１１回	オンデ	経済地理学：教育問題と地理学	予習：不要	4 時間

	マンド	家計に占める一人当たりの教育費は年々、増加しています。少子化による学区の統廃合、無計画な開発による特定の地域や地区の学校のマンモス校化、幼少期からの有名な学校への「お受験」等、教育問題は単なる学校や教育委員会における問題ではなく、地域の社会経済的な課題として認識しなければなりません。学修では、いくつかの地域を事例に学校の統廃合や学区制度における課題ついて考察します。	復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	
第１２回	オンデマンド	経済地理学：地域資源とまちづくり 現在、多くの自治体が人口減少・少子高齢化という課題を抱え、地域資源を活用したまちづくりを実施しています。また、近年では地域活性化に関する関心も高く、大学生でも人気の学修や進路先として位置付けられています。学修では、いくつかの自治体の事例を考察し、地域資源の活用に関する成果と課題について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１３回	オンデマンド	都市地理学：日本の都市問題 日本は人口減少という課題に直面する一方で、東京・大阪・名古屋の三代都市圏では過密という課題があります。他方、地方の都市部では中心市街地の空洞化、ドーナツ化という課題があります。学修では、基本的な都市問題について事例を挙げながら考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１４回	オンデマンド	都市地理学：都市とプロ野球 日本では、三大都市圏を中心に都市部にプロ野球チームが本拠地を置いています。日本では明治時代以降、学校や企業がシンボルとして「野球」を位置付け、その後、職業野球（プロ野球）として人気を博してきました。いわば、プロ野球は都市文化のひとつとして位置付けることができます。プロ野球の球団史からみえる地域性や社会経済の発展について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	学修のまとめ 各回ごとの学修を振り返り、人文地理学的な見方・考え方について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

科目名	人文地理学Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岡田　良平	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	人文地理学の基本的な見方・考え方		
授業の目的及び概要	この授業は人文地理学の基本的な見方について具体的なトピックの紹介を通じて学びます。現在，高校では「地理総合」が必修化されました。それをふまえてこの授業では高校地理の内容にも立ち返りながら進めます。春学期では，文化地理学，言語地理学，社会地理学，都市地理学，経済地理学，地理教育学について学びます。この授業を通じて，地理学の多角的な見方・考え方を通して見える地域の社会・経済・文化的な変容や影響について学修します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	この授業を受講することによって学生は，以下の能力を身につけることができます。 １．人文地理学の基本的な見方・考え方を身につけることができる。 ２．事象を通して地域に関する具体的なトピックを提示することによって，授業で取り上げられている内容が日常の社会生活に密着していることを認識することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。担当教員に E -mail やディスカッションで適宜、質問等をして下さい。また、15 回目の学修において寄せられた質問等について解説します。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に「学修のまとめ・ふりかえりシート」を配布し、そこから出題されます。解答も掲載されていますので「学修のまとめ・ふりかえりシート」で確認しましょう。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。自作の PowerPoint スライド、添付資料を活用します。	ISBN	なし
参考書	レジュメで作成した引用文献の形で紹介する予定です。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	100
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	成績・評価について。 ①各回では小テストを実施する。小テストは評価の 20%です。なお、小テストは全 15 回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全 15 回中 12 回以上の回答がない場合（4 回以上回答していない）は、学修到達度確認テストの試験の得点に関わらず単位取得ができません。 ②第７回、第 15 回の学修後は学修到達度確認テストを行う。計 2 回のテストは評価の 80%です。2 回いずれもテストを受験していない場合は、12 回以上の小テストの受験があっても単位

	取得ができません。 成績は 12 回以上の小テストの回答及び計 2 回の学修到達度確認テストの結果を総合して評価を行う。全 15 回の小テスト及び学修到達度確認テストにおいてテスト中に試験を中断したり、インターネットを遮断してしまうと web の設定上、再度試験は受けられません。そのため、出席確認となる小テストも未受験となり欠席扱いとなります。また、学修到達度確認テストも未受験となり、計 2 回の学修到達度確認テストを受験していない場合も単位取得ができません。こうしたテストの受験不備による出席扱い、再受験を依頼する問い合わせには対応しません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	人文地理学の基本的な見方･考え方について学修します。工業地理学，農業地理学，観光地理学，交通地理学，歴史地理学，地図学，風景論・空間論について学びます。この授業を通じて，地理学の多角的な見方･考え方を通して見える地域の社会･経済･文化的な変容や影響について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第２回	オンデマンド	工業地理学：日本・ヨーロッパ・アメリカの諸地域における工業地帯の変化 国家の近代化において「工業」は非常に重要です。工場が集積することで、そこに労働者が集まり、その労働者が飲食や居住するためのまちが形成されます。このように工業は都市化と密接に関係しています。学修では、日本・ヨーロッパ・アメリカの工業地帯の変遷について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第３回	オンデマンド	工業地理学：日本における工業の変化 日本の工業の特色と工業の変化に自動車産業を事例として考察しながら学修を深めます。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第４回	オンデマンド	地図学：世界の地図の歴史 地図にはその時代の世界観が表現されます。学修では、いくつかの国の地図の歴史について概観し、時代とともにそれぞれの国の人々がどのように異文化の世界を見てきたのか、考えていたのかについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んで復習すること。	4 時間
第５回	オンデマンド	地図学：ヨーロッパから見た異世界 地図にはその時代の世界観が表現されます。学修では、中世のヨーロッパの人たちが作成した地図を中心に、誤った情報、思い込み、そうあってほしいと思う願望などから作られた地図について考察をします。言い換えれば、非科学的、うその地図ともいえるでしょうが、当時としてはそれが最新の情報でもありました。こうした時代を経て、近代地理学が誕生します。時代とともにそれぞれの国の人々がどのように異文化の世界を見てきたのか、考えていたのかについて考察します	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間
第６回	オンデマンド	観光地理学：観光学の定義と観光地の課題 観光は人がその地を訪れることによって成立する産業です。また、旅行者は訪問した土地ならではの楽しみ方を求めています。そのため他の産業とは違い、観光産業	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間

		はその地域の第一次、第二次・第三次産業の全てに波及することから経済効果が高く、どの国や地域でも観光政策に力を入れています。学修では、観光学の基本的な考え方やその課題について学び、いくつかの事例を紹介しながら地理的なアプローチによる観光について考察します。		
第７回	オンデマンド	観光地理学：沖縄を事例に 沖縄県はその立地的な特性から長年、日本本土から多くの観光客の「目的地」として観光産業が発展してきました。しかし、近年は、東アジアや東南アジアから「近くて安いリゾート地」として認識されています。また、「目的地」であった立場から、ハブ空港としての機能を強化し、中継地としての機能もあります。学修では沖縄の観光産業について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第８回	オンデマンド	環境地理学 地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会の実現について学修を深めます。近年、SDGs（持続可能な社会）の概念が広く一般に知られるようになり、環境問題への関心がとても高まっています。身近な環境問題を考えるだけでなく、世界規模、地球規模での環境問題について学修を深めることで、より環境に対する理解を深めます。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第９回	オンデマンド	歴史地理学　アメリカの産業とメジャーリーグ スポーツ大国アメリカという側面からメジャーリーグを事例に、地理的な考察を行う。チーム名や本拠地とするスタジアム、フランチャイズにしている都市との関係など、アメリカの国技であるベースボールから都市の産業の盛衰・人口移動の歴史から地域性について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１０回	オンデマンド	歴史地理学：城郭と城下町 日本には複数の城下町が存在しています。こうした城下町では城郭を設計する段階で、城下町の都市計画も並行して考えられています。今昔マップも活用しながら複数の城下町の都市計画や特徴について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１１回	オンデマンド	歴史地理学　「風土をいかに読み解くか～なぜ秀吉は伏見に城を築いたのか～」 歴史地理学的な視点から風土に関する学修を深めます。なぜ豊臣秀吉が伏見に城を築いたのかという観点から、交通・産業について地理的特徴から考察を行います。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１２回	オンデマンド	歴史地理学：ならまち・岸和田市・貝塚市の歴史地理 事例としてならまち、岸和田市、貝塚市を取り上げます。特定の地域の地誌を事例として取り上げ、古代から現代まで考察します。学修を通して、地理的な見方・考え方の実践例として捉え、自身の興味・関心のある地域での調査等に役立てるようにし	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

		ましょう。		
第１３回	オンデマンド	交通地理学：交通機関の発達と時間利用の変化 交通機関の発達は地域の様相やつながりを大きく変化させます。学修では、道路、鉄道、空路、水上輸送に関する事例から交通機関の発展と衰退によって、産業がどのように変化していったのかについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１４回	オンデマンド	空間論・風景論 地理学は空間を扱う研究領域です。同じ家庭・地域に住んでいても個人によって空間認識は異なります。また、同一人物であっても生活環境や年齢の違いによって空間認識は変化していきます。学修では、住環境や生活空間の変化とその背景、日常生活における空間や風景の見方・考え方についても考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	学修のまとめ 各回ごとの学修を振り返り、人文地理学的な見方・考え方について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

科目名	自然地理学Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	目代　邦康	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	気候・水文現象に関する基本的な科学的理解とそれらと人との関係		
授業の目的及び概要	気候現象や水文現象とは何か，どのような要素から成り立ち，どのような歴史的変化をたどってきたのか．そして，気候現象や水文現象が他の自然現象（地形や植生）や人間生活にどのように影響を与えているのか（生活・文化，災害）など，水圏・気圏に関わる自然地理学的内容の基礎から応用まで解説する．		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地球における気候・水文現象について，それらを地理学的に捉え，理解でき，説明することができる。また，気候・水文現象と人間生活との関係を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の授業に関して，質問があれば，メールで送ってください。授業の内容についての質問は，追加の動画で解答，解説をします。 最終試験の，授業支援システム（Learning Portal）に解答と講評を掲載します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	自然地理学概論 （地理学基礎シリーズ 2），高橋日出男・小泉武栄，朝倉書店，2008 年	ISBN	9784254168174
参考書	学んでみると気候学はおもしろい，日下博幸，ベレ出版，2013 年	ISBN	9784860643621

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	100
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	ガイダンス：授業の計画，進め方，留意事項などの説明	授業前に，自然地理学，気候学，水文学とはどのような学問なのかをテキストを読んで大枠を把握する． 授業後に，授業内容を振り返り，ノートを整理する．	2.5 時間
第２回	オンデマンド	気候要素（気温・降水）	授業前に，テキスト 2 章を読んでおく． 授業後に，授業内容を振り返り，ノートを整理する．	4 時間
第３回	オンデ	気候要素（気圧・湿度）	授業前に，テキスト 3 章を読んでおく．	4 時間

	マンド		授業後に，授業内容を振り返り，ノートを整理する.	
第４回	オンデマンド	熱収支と大気大循環	授業前に，テキスト 4 章 1～4 を読んでおく. 授業後に，授業内容を振り返り，ノートを整理する.	4 時間
第５回	オンデマンド	気候区分	授業前に，テキスト 3 章を読んでおく. 授業後に，授業内容を振り返り，ノートを整理する.	4 時間
第６回	オンデマンド	モンスーン	授業前に，テキスト 4 章 5 を読んでおく. 授業後に，授業内容を振り返り，ノートを整理する.	4 時間
第７回	オンデマンド	都市気候	授業前に，テキスト 5 章 1 を読んでおく. 授業後に，授業内容を振り返り，ノートを整理する.	4 時間
第８回	オンデマンド	地域スケールの気候	授業前に，テキスト 5 章 2，3 を読んでおく. 授業後に，授業内容を振り返り，ノートを整理する.	4 時間
第９回	オンデマンド	日本の気候	授業前に，テキスト 6 章を読んでおく. 授業後に，授業内容を振り返り，ノートを整理する.	4 時間
第１０回	オンデマンド	地質時代の気候変動	授業前に，テキスト 7 章を読んでおく. 授業後に，授業内容を振り返り，ノートを整理する.	4 時間
第１１回	オンデマンド	地球温暖化	授業前に，テキスト 15 章 1 を読んでおく. 授業後に，気候変動に関する課題レポートを行い，期日までに提出する.	4 時間
第１２回	オンデマンド	水の循環・水資源	授業前に，テキスト 13 章を読んでおく. 授業後に，授業内容を振り返り，ノートを整理する.	4 時間
第１３回	オンデマンド	気象災害	授業前に，テキスト 14 章 3 を読んでおく. 授業後に，授業内容を振り返り，ノートを整理する.	4 時間
第１４回	オンデマンド	地球規模の環境問題	授業前に，テキスト 15 章 2，3 を読んでおく. 授業後に，授業内容を振り返り，ノートを整理する.	4 時間
第１５回	オンデマンド	この授業のまとめ	授業前に，これまでのノートを見直し，分からなかったところをまとめておく. 授業後に，授業内容を振り返り，ノートを整理する.	5.5 時間

科目名	自然地理学Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	目代　邦康	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	地形や土壌・植生に関する基本的な科学的知識ならびにそれらと人との関係についての理解		
授業の目的及び概要	地形やそれを構成する土壌や地質，またその上に成立する植生とは何か，どのような要素から成り立ち，どのような歴史的変化をたどってきたのか．そして，地形や土壌，植生が人間生活にどのように影響を与えているのか（生活・文化，災害）など，地圏・生物圏に関わる自然地理学的内容の基礎から応用まで解説する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地球における地形・土壌・植生について，それらを物質収支と歴史的側面から捉え，説明することができる。また，地形・土壌・植生といった自然現象と人間生活との関係を説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内容に関する質問があれば，メールで送ってください。それについて追加の講義動画で解答，解説をします。 定期試験については，試験終了後に Learning Portal で解説を公開します.		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	地理学基礎シリーズ 2 自然地理学概論，高橋日出男・小泉武栄，朝倉書店，2008	ISBN	9784254168174
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	100
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	ガイダンス：授業の計画，進め方，留意事項などの説明	授業前に，身の回りにある地形，土壌，植生について，中学，高校までの学習内容を思い出し，整理しておく． 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する.	2.5 時間
第２回	オンデマンド	世界と日本の大地形	授業前に，8 章を読んでおく． 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する.	4 時間

第３回	オンデマンド	日本列島の地質と地形	授業前に，8 章を読んでおく． 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する．	4 時間
第４回	オンデマンド	第四紀と氷河時代	授業前に，9 章を読んでおく． 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する．	4 時間
第５回	オンデマンド	隆起山地・火山の地形	授業前に，10 章を読んでおく． 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する．	4 時間
第６回	オンデマンド	授業前に，10，11 章を読んでおく． 平野・丘陵地の地形	授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する．	4 時間
第７回	オンデマンド	変動地形	授業前に，10 章を読んでおく． 授業後に授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する．	4 時間
第８回	オンデマンド	河川と湖沼の地形	授業前に，11 章を読んでおく． 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する．	4 時間
第９回	オンデマンド	海の地形	授業前に，11 章を読んでおく． 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する．	4 時間
第１０回	オンデマンド	植生地理学	授業前に，12 章を読んでおく． 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する．	4 時間
第１１回	オンデマンド	地生態学・生態系サービス	授業前に，12 章を読んでおく． 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する．	4 時間
第１２回	オンデマンド	自然の恵みと開発	授業前に，事前配付資料を読んでおく． 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する．	4 時間
第１３回	オンデマンド	自然災害：地震災害	授業前に，14 章を読んでおく． 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する．	4 時間
第１４回	オンデマンド	自然災害：水害	授業前に，14 章を読んでおく． 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する．	4 時間
第１５回	オンデマンド	自然災害：火山災害・斜面災害 この授業のまとめ	授業前に，14 章を読んでおく．また，これまでのノートを見直し，分からなかったところをまとめておく． 授業後に，授業内容を振り返りノートを整理する．	5.5 時間

科目名	地誌Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	岡田　良平	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	世界の地誌と地域性		
授業の目的及び概要	世界地誌を中心とし、東アジア、東南アジア、南アジア、アフリカ、アングロアメリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ・ロシア、オセアニアから数か国を事例として、自然・気候・歴史・文化・産業・人口等について、多角的な視点から地域の形成過程を学び、特徴ある国や地域を社会問題と関連させながら考察していきます。そのなかで、地域性とは何か、地誌とは何かを考察できるようになることを目指す。学修の前半は国や地域ごとの地誌を学修し、地誌学の基礎的な見方・考え方を学びます。後半では、俯瞰的な視点を取り入れ、テーマや比較という観点から地誌の学修を深めます。また、教職の履修科目でもあることからどのように地域を生徒にとらえさせるのかについても適宜、考察していき、社会科や地歴科教員の素地の育成にも対応する。		
履修条件・留意点	教職資格取得希望者を主な対象としますが、それ以外の学生も履修できます。教員免許状（中学校「社会」及び高等学校「地理歴史」）取得希望者は、「地誌Ⅱ」もあわせて履修してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	地域を多角的に捉えながら、自然・気候・産業・歴史・文化等から地域性を精緻に探求できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。担当教員に E -mail やディスカッションで適宜、質問等をして下さい。また、15 回目の学修において寄せられた質問等について解説します。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に「学修のまとめ・ふりかえりシート」を配布し、そこから出題されます。解答も掲載されていますので「学修のまとめ・ふりかえりシート」で確認しましょう。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。自作の PowerPoint スライド、添付資料を活用します。	ISBN	なし
参考書	レジュメで作成した引用文献の形で紹介する予定です。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	100
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	成績・評価について。 ①各回では小テストを実施する。小テストは評価の 20%です。なお、小テストは全 15 回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全 15 回中 12 回以上の回答がない場合（4 回以上回答していない）は、学修到達度確認テストの試験の得点に関わらず単位取得ができませ

	ん。 ②第７回、第 15 回の学修後は学修到達度確認テストを行う。計 2 回のテストは評価の 80%です。2 回いずれもテストを受験していない場合は、12 回以上の小テストの受験があっても単位取得ができません。 成績は 12 回以上の小テストの回答及び計 2 回の学修到達度確認テストの結果を総合して評価を行う。全 15 回の小テスト及び学修到達度確認テストにおいてテスト中に試験を中断したり、インターネットを遮断してしまうと web の設定上、再度試験は受けられません。そのため、出席確認となる小テストも未受験となり欠席扱いとなります。また、学修到達度確認テストも未受験となり、計 2 回の学修到達度確認テストを受験していない場合も単位取得ができません。こうしたテストの受験不備による出席扱い、再受験を依頼する問い合わせには対応しません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	オリエンテーション 講義の進め方、内容、計画、留意事項の説明 地理学と地誌学 地理学における地誌学の位置づけ、地誌学の見方･考え方について考察します。また、地誌学は特定の地域の自然・歴史・文化・産業・人口等から総合的に分析し、地域の特徴を明らかにする分野です。自然環境と人文環境のつながりが重要な要素になります。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第２回	オンデマンド	中国の地誌 中国は面積でも世界 4 位、人口は世界２位という大国です。農業でもコメや小麦の生産量も世界１位、「世界の工場」とに表されるように産業用ロボットの稼働台数、造船の竣工量も世界１位です。こうした急速な経済成長は 1990 年代以降に中国全土に広がっていきました。こうした経済成長のプロセスを地域別に紐解きながら、産業構造や地域差について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第３回	オンデマンド	朝鮮半島　韓国の地誌 朝鮮半島･韓国を事例に自然･気候･歴史･文化･産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第４回	オンデマンド	東南アジアの地誌 東アジア全体の気候や文化の多様性を考察し自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴について学修します。16 世紀以降、香辛料を求めて東南アジアに進出したヨーロッパ人は、19 世紀の産業革命以降、東南アジア諸国の植民地支配を強めます。東南アジア諸国はイギリス、フランス、オランダ、スペイン、ポルトガル、アメリカ、日本の植民地支配の影響を受けつつ、それぞれの国や地域で独自の文化を形成しています。また、長い歴史の中で、華僑、インド、イスラムの文化も影響する複合社会です。こうした背景を国ごとに考察することで東南アジアの全体像にも理解を深めていきます。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んで復習すること。	4 時間
第５回	オンデマンド	タイの地誌 東南アジアの中で、タイを事例に取り上げ	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習するこ	4 時間

		ます。日本でも人気の海外旅行先であるタイ。首都バンコクのあるタイ中央部、世界的観光地プーケットのあるタイ南部、古都チェンマイがあるタイ北部などには多くの観光客が押し寄せます。しかし、タイ東北部は観光地も少なく、経済的にも貧しい地域とされてきました。講義では、タイ東北部のドンデーン村とその周辺の村を事例に、都市化に翻弄される都市近郊農村を考察します。	と。	
第６回	オンデマンド	南アジアの地誌 南アジアでは、インドを中心に取り上げます。インドは北はヒマラヤ山脈に接し、国内は 8 つの気候区分に分けられます。そのため、歴史や文化も多様性に富んでいます。2023 年にインドは中国を抜き、人口が 14 億 2860 万人となり世界 1 位となりました。2050 年には 16 億 7000 万人になると予想されており、地球の総人口の 2 割を占めると言われています。また、英語をベースにした理数教育が急速な経済成長を支えていると言われています。しかし、インドではヒンドゥー教とカースト制度によって、差別などの社会問題が顕在化しています。また、経済成長による国内の「南北問題」、都市部と農村部における経済格差も顕著になっています。インドは移民の国としても知られています。世界に広がるインド人社会についても学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間
第７回	オンデマンド	西アジア・中央アジアの地誌 西アジアと中央アジアの自然･気候･歴史･文化･産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。日常生活の中で日本とは縁があまりないと感じることもありますが、石油などの多くの天然資源の大半を輸入しています。また、近年はドバイなどに観光客が訪れています。こうした著しい経済成長の背景についても学修を深めます。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第８回	オンデマンド	アフリカの地誌 アフリカでは南アフリカ共和国を中心に複数の国を取り上げます。日本人の多くがアフリカに対する一般的なイメージとして「豊かな自然」や「野生動物」を思い浮かべます。しかし、気候の特徴から広大さ砂漠や熱帯と乾燥帯が併存する厳しい自然環境です。また、アフリカ各国では、歴史的背景からプランテーション依存型の経済、貧困、紛争の爪痕が色濃く残っています。「希望の大陸」と言われて久しいアフリカ大陸の各国に共通する社会問題とも関連させて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第９回	オンデマンド	ヨーロッパの地誌 ヨーロッパの地形と気候、民俗・宗教・言語を概観します。ヨーロッパには 50 の主権国家と 6 つ一部主権国家から成る大州です。この地域には主な言語は 14、宗教や	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

		民族も複雑かつ多様性に富んでいる。第二次世界大戦以降の東西冷戦では西側と東側に分かれ、ソ連の崩壊以降は、現在では EU を中心とした経済圏が存在している。自然・人文環境の多様性を知ることで、地誌の魅力と学修を深めていきます。		
第１０回	オンデマンド	オランダの地誌 オランダの自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの社会や文化の概観、地理的特徴について学修します。オランダは低地という地理的な特徴があります。国土の多くを排水による干拓で切り開いてきた歴史的背景があります。そうした自然環境を克服してきた国民性、ヨーロッパにおける水運・海運の要衝として経済成長してきた歴史的背景を考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１１回	オンデマンド	ロシアの地誌 ロシアは国内の 20%が他民族であり、バルト 3 国や中央アジア５ヵ国などの周辺諸国との結びつきも強い。ヨーロッパ・ロシアの全体像を俯瞰的な視点で把握することで、自然・人文環境の多様性を知ることで、地誌の魅力と学修を深めていきます。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１２回	オンデマンド	北アメリカ　アメリカ合衆国　カナダの地誌 アメリカ合衆国・カナダを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。アメリカは世界一の経済大国です。広大な面積を背景に、徹底的に効率化された大規模農業や畜産業があり世界の食糧基地とまでいわれています。また豊富な地下資源による鉱工業に加え、ICT や航空宇宙産業などの工業でも世界をリードしています。また、ファッションやエンターテイメント等の文化でも多くの影響を与えています。カナダは豊かな自然に恵まれ、比較的治安も良く、観光や留学先としても人気の国です。両国に共通するのは、奴隷や移民による多文化が背景にあり、それによる差別や社会問題を内包していることでしょう。多角的な視点からアングロアメリカについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１３回	オンデマンド	ラテンアメリカの地誌 ラテンアメリカの気候と地形、メキシコ合衆国、ブラジルを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。ラテンアメリカはインカやアステカ文明などに代表されるように古代から独自の社会を形成してきました。しかし、大航海時代の到来とともにヨーロッパ列強の植民地となり、スペインやポルトガルの言語や文化が色濃く残っています。政治的にも不安定な地域が多く、急速な経済成長が貧富の格差を広げ、無計画な開発によるアマゾンの原生林な	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

		どが深刻な自然環境の破壊にさらされている現状もあります。		
第１４回	オンデマンド	オセアニア　オーストラリア　ニュージーランドの地誌 オーストラリア、ニュージーランドを事例に自然・気候・歴史・文化・産業等を中心にそれぞれの概観や地理的特徴を考察します。オセアニア諸国、ハワイとも人気の観光地です。オーストラリアは「乾燥大陸」という別名を持ち、内陸部と西部のほとんどが砂漠と乾燥した気候になっています。また、豊富な地下資源を背景に、輸出産業が盛んです。ニュージーランドは牧畜業が盛んで、両国とも大陸の形成過程から独自の進化を遂げた生物が存在しています。オセアニア地域には数千を超える島々が散在しています。多くの国が現在は観光産業を中心にしていますが、植民地時代以降、砂糖産業や軍事基地としての側面もあります。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	地誌学とは何か 学修の総括を行います。第１回目で提示した地誌学とは何かという問いに対し、学修した内容を中心に地誌的な視点による地域理解や考察をふり返ります。その中で、地域調査においてミクロ・マクロ（ズームの調整）による視点に切り替えの重要性について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

科目名	地誌Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	岡田　良平	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義（オンデマンド）
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	日本地誌を網羅的かつ系統的に学ぶ。		
授業の目的及び概要	地誌学は，地理学のなかでも重要な分野のひとつであり，ある一定の広がりをもった地域（土地や場所）を総合的に理解し，その地域の特徴を把握する学問分野である。学修では，日本地誌を中心として，日本における各地域の自然環境・気候・人口・産業などから総合的に地域的特徴について考察する。		
履修条件・留意点	教職資格取得希望者を主な対象としますが、それ以外の学生も履修できます。教員免許状（中学校「社会」及び高等学校「地理歴史」）取得希望者は、「地誌Ⅰ」もあわせて履修してください。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	1. 日本の各地域の特徴を理解し考察することができる。 2. 地域の統計資料等から分析・考察し、地域の特徴を総合的に考察することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	本授業はオンデマンドで行います。担当教員に E -mail やディスカッションで適宜、質問等をして下さい。また、15 回目の学修において寄せられた質問等について解説します。試験については、授業支援システム（Learning Portal）に「学修のまとめ・ふりかえりシート」を配布し、そこから出題されます。解答も掲載されていますので「学修のまとめ・ふりかえりシート」で確認しましょう。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	特定のテキストは使用しません。自作の PowerPoint スライド、添付資料を活用します。	ISBN	なし
参考書	レジュメで作成した引用文献の形で紹介する予定です。	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	0
授業期間中の小テスト、レポート課題等	100
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	成績・評価について。 ①各回では小テストを実施する。小テストは評価の 20%です。なお、小テストは全 15 回の学修の習熟と出席状況を把握するものでもあります。全 15 回中 12 回以上の回答がない場合（4 回以上回答していない）は、学修到達度確認テストの試験の得点に関わらず単位取得ができません。 ②第７回、第 15 回の学修後は学修到達度確認テストを行う。計 2 回のテストは評価の 80%です。2 回いずれもテストを受験していない場合は、12 回以上の小テストの受験があっても単位取得ができません。

	成績は 12 回以上の小テストの回答及び計 2 回の学修到達度確認テストの結果を総合して評価を行う。全 15 回の小テスト及び学修到達度確認テストにおいてテスト中に試験を中断したり、インターネットを遮断してしまうと web の設定上、再度試験は受けられません。そのため、出席確認となる小テストも未受験となり欠席扱いとなります。また、学修到達度確認テストも未受験となり、計 2 回の学修到達度確認テストを受験していない場合も単位取得ができません。こうしたテストの受験不備による出席扱い、再受験を依頼する問い合わせには対応しません。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	オンデマンド	地理学・地誌学とは 日本地誌・世界の中の日本 地理学･地誌学の基本的な考え方について解説します。日本列島の自然環境・気候・風土などの地理的環境について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第２回	オンデマンド	沖縄 沖縄の地誌について学修します。沖縄は琉球王国として東アジアにおける中継貿易で栄えた独自の歴史・文化があります。気候も亜熱帯気候に属し、本土との気候や自然環境も大きくおこなっています。こうした世界でも有数の珊瑚礁があり、日本だけでなくアジアの各地から観光客が訪れています。こうした沖縄・南西諸島の自然・人口・産業等について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第３回	オンデマンド	九州地方 九州地方は温暖な気候を生かした農業が盛んな地域です。九州北部は東アジアとの近接性から古くから大陸との交流が盛んでした。明治時代以降は、石炭採掘に伴う工業地帯として栄え、日本の近代化に貢献しました。現在では福岡市を中心とした都市圏を形成しています。一方、南部では火山灰の土地で稲作に適していないため、畑作や畜産業が非常に盛んです。こうした地域差について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドの内容を読み返すこと。	4 時間
第４回	オンデマンド	中国地方・四国地方 中国地方と四国地方はよく「中国・四国地方」と一括りにされて呼ばれます。中国地方と四国地方の間には瀬戸内海が存在します。瀬戸内海はこれらの地域を「区別」する存在である一方、水運を通して両地域は密接に関係してきました。学修では、中国地方と四国地方の地誌的な特徴を概観し、その上で、両地域のつながりについて考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んで復習すること。	4 時間
第５回	オンデマンド	近畿地方 近畿地方は古代から都が置かれ、政治や文化の中心地でした。学修では、古代の人がどのように近畿を捉え、どういった地域に当たるのかを解説します。その上で、それぞれの地域の地誌的な特徴を概観し、近畿地方の地域差について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間
第６回	オンデマンド	鶴橋・コリアタウン 2000 年代以降、断続的に韓流ブームがあり、、多くの観光客が鶴橋・コリアタウンに観光に訪れています。近年では、修学旅	予習：不要 復習：該当する箇所のレジュメを読んで復習すること。	4 時間

		行や校外学習のコースにも組み込まれており、まちそのものが異文化理解の学習の場にもなっています。こうした鶴橋・コリアタウンの歴史的変遷や地域性について考察します。		
第７回	オンデマンド	ニュータウン：吹田市 吹田市はもともとは緑豊かな農村地帯でした。しかし、大阪市内へのアクセスの良さから阪急電車の敷設と宅地開発によって、郊外の住宅地として位置付けられました。第二次世界大戦後は、急増する人口の受け皿として千里ニュータウンが開発されました。学修では、ニュータウンの定義・開発過程・課題について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第８回	オンデマンド	八尾市 本学が位置する八尾市の自然･歴史･文化･産業について学修します。八尾市は江戸時代に行われた一大事業である「大和川付け替え工事」がターニングポイントになります。学修をより深めるために八尾駅前キャンパス周辺の開発についても学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第９回	オンデマンド	和歌山県・太地町 和歌山県･太地町は捕鯨のまちとして有名です。その歴史は古く、江戸時代から捕鯨を生業としており、戦後の食糧難の時代には、多くの日本人が鯨肉を食べてきました。しかし、世界的な捕鯨規制と文化的価値観の衝突から現在では、鯨肉は一般的ではなくなりました。学修では、捕鯨の歴史、捕鯨に関わる人々、食文化について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１０回	オンデマンド	中部地方 中部地方は太平洋側、山岳部、日本海側に分けられ、それぞれの様相は大きく異なります。太平洋側は名古屋を中心とした都市圏であり、日本最大の工業地帯です。山岳部は急峻な日本アルプスがあり、日本海側と合わせて世界有数の豪雪地帯です。学修ではそれぞれの地域の特徴について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１１回	オンデマンド	東京 東京は世界有数の経済都市です。経済や文化の中心地であり、ヒト・モノ・カネが一極集中しています。学修では、東京の都市化を概観し、一極集中をテーマに産業の集積や大学の立地について学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１２回	オンデマンド	関東地方 関東地方は首都圏という経済的な性格とそれ以遠の近郊農業の集積地という二面性を持っています。交通網が非常に発達した首都圏ではビジネス街、通勤・通学圏として人口が集中する一方で、以遠の地域ではコールドチェーンを生かした近郊農業が盛んです。こうした二面性を中心に多角的に学修します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１３回	オンデマンド	東北地方 東北地方は南北に長く、日本海側と太平洋	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

		側を含むことから多様な自然環境とそれを生かした文化が見られます。米と果樹をはじめとした農村、豊かな漁場を背景とした漁村の風景が広がる一方で、先端技術産業や自動車組立工場などの工業も多く立地しています。学修では、東北地方の多彩な気候と地形から東北地方の文化、産業について考察します。		
第１４回	オンデマンド	北海道地方 北海道の面積は日本全体の約 22%を占めることから、人口密度は日本で一番低い自治体です。北海道を代表する産業は農業や畜産業ですが、これらは明治時代以降の入植者らによって開拓されてきました。アイヌ文化、北海道の歴史を概観しつつ、気候や地形を生かした産業について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	学習のまとめ・レポートについての解説 各地方ごとの学習を振り返り、各地方や地域の独自性から地誌的な見方・考え方について考察します。	予習：不要 復習：該当する箇所のスライドを読んでおくこと。	4 時間

科目名	社会学概説	開講年度	2026 年度春学期
担当者	稲葉　渉太	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	社会学における基本的な考え方、理論、手法などについて学び、現代社会における諸課題について考える。		
授業の目的及び概要	・本講義は、社会学における入門講義として位置づけられるが、現代社会における様々なトピックや事象を取り上げ、社会学に関連する基本的な知識や研究スキルを幅広く学ぶことを目的とする。 ・どのように私たちの生活が社会とかかわっているのかを理解し、「人びとが人生で経験するできごと」（筒井・前田　2017：9）や関連する時事問題についてグループディスカッションやグループワークで検討する。 ・また授業の後半では、授業の前半の内容を踏まえて、私たちの生活が社会とかかわっているのか具体的な事例を用いたプレゼンテーションを行なってもらう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	ここでは、以下の 3 点を主な到達目標とする。 ①社会学の基本的なものの見方、考え方、社会学の基礎理論を学ぶ。 ②授業で身に付けた社会学的な見方から、日常生活における様々な社会現象を読み解き、考えることができる。 ③自身の身の回りのものごとについて、社会学的な視座から読み解き、自らの考えや意見を表現(発表・記述)することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・講義時に振り返りシート(感想シート)への記入をしてもらい、それに対してコメントを付して返却を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	①社会学入門，筒井淳也・前田泰樹，有斐閣，2017 年 ②社会学の力，友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留，有斐閣，2017 年	ISBN	①9784641150461 ②9784641174306

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	10
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	30
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	◇社会学概説の授業ガイダンス ・本講義の進め方や受講するにあたっての留意点(授業の内容や評価方法など)についての確認を行う。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4 時間
第２回	対面	◇社会的なものとしての自己（１） ※私たちが日常的に他人から期待される役割について社会学的に考える	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4 時間
第３回	対面	◇社会的なものとしての自己（2） ※私たちの性格やキャラについて社会学的な観点から考える	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4 時間
第４回	対面	◇社会的なものとしての自己（３） ※かけがえのないわたし・社会に還元できないわたしはどこにあるのか社会学的な観点から考える。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4 時間
第５回	対面	◇自分のふるまいと社会（１） ※日常における演技や普段のなにげないふるまいについて社会学的に考える。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4 時間
第６回	対面	◇自分のふるまいと社会（２） ※感情を表現することについて社会学的な観点から考える。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4 時間
第７回	対面	◇自分のふるまいと社会（３） ※個人の心の内側にあるとされる動機について社会学的な観点から考える。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4 時間
第８回	対面	◇中間総括 ※これまでの授業内容を一度総括し、授業後半で行ってもらうプレゼンテーションに向けた準備をすすめる。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4 時間
第９回	対面	◇準拠集団と自己アイデンティティ ※どのようなときに自分がどういった役割やキャラを用いているのか、準拠集団との関係で整理を行う。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4 時間
第１０回	対面	◇プレゼンテーション① ・これまで学んできた内容などを踏まえて個人発表を行う。 ・他の人の発表を聞いて、自分なりの考えや意見を具体的に述べる。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4 時間
第１１回	対面	◇プレゼンテーション② ・これまで学んできた内容などを踏まえて個人発表を行う。 ・他の人の発表を聞いて、自分なりの考えや意見を具体的に述べる。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4 時間
第１２回	対面	◇教育と社会 ※教育について社会学的な観点から考える	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4 時間
第１３回	対面	◇性別と社会 ※性別について、まずジェンダーとセクシャリティーについて整理したうえで、社会学的に考える。	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認しておく。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	4 時間
第１４回	対面	◇逸脱と社会	事前学習：シラバスの内容に目を通し、確認してお	4 時間

		※私たちの社会において逸脱とされるような現象（犯罪など）について社会学的な観点から考える。	く。 事後学習：講義の内容を授業資料ならびに、必要があれば参考書を読み、復習しておくこと。	
第１５回	オンデマンド	◇社会学の総括 ・これまで本講義で取り上げてきた内容を総括し、知識の定着を図る。 ・期末課題に向けた最終整理ならびに、期末課題を提出する上での注意点について述べる。	事前学習：第 1 回～第 14 回までの講義内容について基本事項を確認してくること。 事後学習：本講義全体で学んだ社会学の基本理論・専門用語などについて補足事項を調べ、ノートやデータに整理しておくこと。	4 時間

科目名	哲学概説Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	山口　尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	哲学の歴史と課題―古代・近代・現代		
授業の目的及び概要	西洋哲学史上の代表的な哲学者について基本的知識を身に付け、彼らの問題を内側から理解すること。また、古代哲学と近代哲学の特徴を全体として感じ取り、そのうえで現代を生きるわれわれにとっての哲学的課題を自ら問い尋ねてゆくこと。それがこの授業の目的です。 授業はプラトン、アリストテレス、デカルト、カント等の原典翻訳に即して進められますが、受講生には、なじみのない固有名詞や難解な概念・論証を単に情報としてインプットすることにとどまらず、哲学者たちの思考を追体験することで自分自身の思考のなかに血肉化することが期待されます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１）西洋哲学史上の代表的な哲学者について、固有名詞とその鍵概念を知り、その内容について説明できる ２）古代哲学と近代哲学について、それぞれの特徴と相互の差異を俯瞰的に把握し、それを論述できる ３）以上１）２）を踏まえつつ、現代の哲学的課題を自分なりに把握し、アプローチの仕方を提案できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・提出物をコメントつきで返却する		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『シグマベスト 理解しやすい倫理』，藤田正勝著，文栄堂，2023 年	ISBN	①978-4578244271
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	哲学とは何か	【予習】 シラバスを読んでくること。	4 時間

			【復習】 再度シラバスを読み、自身に履修に適した科目か確認すること。	
第２回	対面	ギリシア哲学	【予習】 教科書 pp. 40-44 を読んで、その内容に即した問い・疑問を 3 つ以上、用意してくること。 【復習】 返却した第１回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第３回	対面	プラトンとイデア論	【予習】 教科書 pp. 44-51 を読み、プラトンに関する内容をまとめたうえで、そのイデア論に対する賛否を自分なりに述べること。 【復習】 返却した第２回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第４回	対面	アリストテレスと哲学の体系	【予習】 教科書 pp.51-56 を読んで、その内容を踏まえつつ、古代ギリシア人の自然観・宇宙像について自分なりに調べてくること。 【復習】 返却した第３回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第５回	対面	アウグスティヌスとキリスト教	【予習】 教科書 pp. 57-70 を読んでキリスト教（思想）について大づかみに理解した上で、キリスト教徒が十字を切って祈ることの意味についてできるだけ詳しく調べてくること。 【復習】 返却した第４回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第６回	対面	コペルニクスと科学革命	【予習】 教科書 pp. 198-201 を参考に、「科学革命」について調べてくること。 【復習】 返却した第５回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第７回	対面	デカルト『方法序説』およびベーコン『ノヴム・オルガヌム』と学問の方法	【予習】 教科書 pp. 201-207 を読み、デカルトの演繹法とベーコンの帰納法についてまとめてくること。 【復習】 返却した第６回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第８回	対面	スピノザ『エチカ』およびライプニッツ『人間知性新論』と大陸合理論	【予習】 教科書 p.206「物心二元論」および、pp.209-210「合理論」について読み、「物心二元論」にどのような難問があるか考えてくること。 【復習】 返却した第７回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第９回	対面	ロック『人間知性論』およびヒューム『人間本性論』と英国経験論	【予習】 教科書 pp.208-209 を参考に、ジョン・ロックについて調べてくること。 【復習】 返却した第８回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１０回	対面	カント『純粋理性批判』と形而上学	【予習】	4 時間

			教科書 pp.220-225 を参考に、カントの「第一アンチノミー」について調べてくること。 【復習】 返却した第９回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	
第１１回	対面	コント『実証哲学講義』とフランス革命	【予習】 教科書 pp.248-249 を参考に、コントのフルネームと生涯について調べてくること。 【復習】 返却した第１０回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１２回	対面	ウィリアム・ジェームズ『プラグマティズム』から考える	【予習】 アメリカ人とはどのような人々か？　その国民性について自分なりに調べてくること。 【復習】 返却した第１１回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１３回	対面	ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』から考える	【予習】 「世界」とは何か？　自分なりに定義してみること。 【復習】 返却した第１２回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１４回	対面	サルトル『実存主義とは何か』から考える	【予習】 「ペーパーナイフ」について調べてくること。 【復習】 返却した第１３回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	哲学の歴史と課題――復習の講義動画を公開する（同時にレポート試験の課題を説明する）。	【復習】 これまでのワークシートと教科書の対応範囲について抜かりなく復習してくること。	4 時間

科目名	哲学概説Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	山口　尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	哲学の現代―社会理論・実存主義・分析哲学・構造主義・ヒューマニズム		
授業の目的及び概要	現代の哲学へ入門するため、この授業では社会理論・実存主義・分析哲学・構造主義・ヒューマニズムの思想を学びます。具体的には、マルクス、キェルケゴールやニーチェやハイデガー、ウィトゲンシュタイン、フーコー、シュヴァイツァーなどの思想を学びます。それぞれの哲学者がどのような問題関心のもと・何を・どのように論じているのか、じっくり腰を据えて考えてゆきましょう。。これによって自分たちの社会を作りあげている考え方を知ることができ、そこからこれからの社会を新たな世代が作り上げていくさいの足がかりを得ることができるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１）それぞれの思想について、その哲学史的文脈を理解し、他者に説明できる ２）それぞれの哲学者の問題意識と創意とを、テキストに内在的に理解し、他者に説明できる ３）以上１）２）を踏まえて、自身の解釈を提示できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・提出物はコメントを付して返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『シグマベスト　理解しやすい倫理』，藤田正勝著，文栄堂，2023 年	ISBN	①978-4578244271
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	西洋哲学史概観	【予習】 シラバスを読んでくること。 【復習】 再度シラバスを読み、自身の履修に適した科目か確認すること。	4 時間

第２回	対面	功利主義	【予習】 教科書 pp.　238-242 を読んで功利主義の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第１回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第３回	対面	マルクス	【予習】 教科書 pp. 242-248 を読んで、社会主義の思想について簡潔にまとめてくること。 【復習】 返却した第２回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第４回	対面	キェルケゴール	【予習】 教科書 pp. 255-257 を読んで、キェルケゴールの思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第３回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第５回	対面	ニーチェ	【予習】 教科書 pp. 257-259 を読んで、ニーチェの思想をまとめてくること 【復習】 返却した第４回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第６回	対面	ハイデガー	【予習】 教科書 pp. 260-262 を読んでハイデガーの思想をまとめてくること 【復習】 返却した第５回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第７回	対面	ヤスパースとサルトル	【予習】 教科書 pp. 259-264 を読んでヤスパースとサルトルの思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第６回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第８回	対面	フロイトとユング	【予習】 教科書 pp. 264-267 を読んでフロイトとユングの考えをまとめてくること。 【復習】 返却した第７回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第９回	対面	フランクフルト学派	【予習】 教科書 pp. 270-271 を読んでフランクフルト学派の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第８回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１０回	対面	アーレント	【予習】 教科書 p. 282 を読んでアーレントの思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第９回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１１回	対面	構造主義	【予習】 教科書 pp. 272-274 を読んで構造主義の思想をまとめてくること。	4 時間

			【復習】 返却した第１０回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	
第１２回	対面	ウィトゲンシュタイン	【予習】 教科書 pp. 269-270 を読んでウィトゲンシュタインの思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第１１回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１３回	対面	クーン	【予習】 教科書 p. 287 を読みクーンの思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第１２回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１４回	対面	ポスト構造主義	【予習】 教科書を読みポスト構造主義の思想をまとめてくること。 【復習 p. 274】 返却した第１３回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	現代のヒューマニズムー一復習の講義動画を公開する（同時にレポート試験の課題を説明する）。	【予習】 教科書 pp. 275-280 を読み現代のヒューマニズムの思想をまとめてくること。	4 時間

科目名	倫理学概説Ⅰ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	山口　尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	倫理思想の体得―中国思想と仏教から日本思想へ		
授業の目的及び概要	近代以前の日本の倫理思想はおもに中国思想と仏教を背景として展開してきました。本講義では、このふたつの伝統思想についての踏み込んだ理解のために、それぞれの思潮の思想家がどのような考えを提示したのかを確認します。そのうえで日本思想を学びます。これによって自分たちの社会を作りあげている考え方を知ることができ、そこからこれからの社会を新たな世代が作り上げていくさいの足がかりを得ることができるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１）中国思想および仏教の基本事項について理解し、他者に説明できる ２）古代から近世までの日本思想史の流れを理解し、他者に説明できる ３）古典が読まれてきた仕方を理解し、自らもその読解に参入できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・提出物は原則として次の回の授業冒頭に返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①シグマベスト　理解しやすい倫理，藤田正勝著，文栄堂，2023 年	ISBN	978-4578244271
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	1　「倫理」と「倫理学」の異同について 2　高校「倫理」と日本思想史について	【予習】 シラバスを読んでくること。 【復習】 再度シラバスを読み、自身の履修に適した科目か確認すること。	4 時間
第２回	対面	1　『論語』とはどのような書物か 2　『論語』はどのように読まれてきたか	【予習】 教科書を読み、自分なりに調べ、次の 3 点について考	4 時間

			えてくること。 ①『論語』とはどのような書物か？　②孔子とはどのような人物か？　③『論語』を読むとはどういうことか？ 【復習】 返却した第１回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	
第３回	対面	仏教の起源	【予習】 教科書を読み pp. 76-86 を読み、仏教の思想についてまとめてくること。 【復習】 返却した第２回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第４回	対面	仏教の広がり	【予習】 教科書を読み pp. 76-86 を読み、仏教の思想についてまとめてくること。 【復習】 返却した第３回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第５回	対面	朱子学と陽明学	【予習】 教科書 pp. 140-144 を読んで朱子学と陽明学についてまとめてくること。 【復習】 返却した第４回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第６回	対面	神道	【予習】 教科書 pp. 112-117 を読んで神道についてまとめてくること 【復習】 返却した第５回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第７回	対面	聖徳太子	【予習】 教科書 pp. 118-119 を読んで聖徳太子の思想についてまとめてくること 【復習】 返却した第６回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第８回	対面	最澄と空海	【予習】 教科書 pp. 120-122 を読んで最澄と空海の思想についてまとめてくること 【復習】 返却した第７回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第９回	対面	鎌倉新仏教（１）――法然・親鸞・一遍	【予習】 教科書 pp. 124-130 を読んで法然・親鸞・一遍の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第８回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１０回	対面	鎌倉新仏教（２）――栄西・道元・日蓮	【予習】 教科書 pp. 130-134 を読んで栄西・道元・日蓮の思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第９回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１１回	対面	林羅山・山崎闇斎・中江藤樹	【予習】 教科書 pp. 140-142 を読んで林羅山・山崎闇斎・中江	4 時間

			藤樹の思想をまとめてくること 【復習】 返却した第１０回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	
第１２回	対面	伊藤仁斎・山鹿素行・荻生徂徠	【予習】 教科書 pp.143-145 を読んで伊藤仁斎・山鹿素行・荻生徂徠について調べてくること。 【復習】 返却した第１１回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１３回	対面	明六社と福沢諭吉	【予習】 教科書 pp.154-156 を読んで明六社と福沢諭吉についてまとめてくること 【復習】 返却した第１２回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１４回	対面	西田幾多郎	【予習】 教科書 pp.163-164 を読んで西田幾多郎についてまとめてくること。 【復習】 返却した第１３回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	日本倫理思想史の振り返りーー復習の講義動画を公開する（同時にレポート試験の課題を説明する）。	【復習】 ノート等に即してこれまでの授業内容について細密に確認してくること。	4 時間

科目名	倫理学概説Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	山口　尚	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	倫理学の歴史と課題―青年期の心理と現代の課題		
授業の目的及び概要	倫理学の主要な立場について基本的知識を身に付け、それぞれの立脚点や相互の対立点を理解すること。また、そのうえで現代の応用倫理学の諸問題に触れ、われわれが直面している諸問題について倫理学的観点から考察を深めること。それがこの授業の目的です。。これによって、これからの社会を新たな世代が作り上げていくさいの足がかりを得ることができるでしょう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１）青年期の心理をめぐる諸問題を理解し、それを説明できる ２）現代の応用倫理学の諸問題について、事例を具体的に知り、１）の諸原理・諸原則と関連付けて捉えられる ３）とくに関心のある現代の問題について、倫理学的観点から論点を整理し、自身の立場を説得的に提示できる		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・提出物はコメントをつけて返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①シグマベスト 理解しやすい倫理，藤田正勝著，文栄堂，2023 年	ISBN	①978-4578244271
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	青年期の倫理と現代の課題	【予習】 シラバスを読んでくること。 【復習】 再度シラバスを読み、自身の履修に適した科目か確認すること。	4 時間

第２回	対面	人間とは何か	【予習】 教科書 pp. 11-15 を読んで、人間とは何かをめぐる思想をまとめてくること。 【復習】 返却した第１回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第３回	対面	欲求と防衛機制	【予習】 教科書第 1 章第 2 節を読んで欲求と防衛機制についてまとめてくること 【復習】 返却した第２回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第４回	対面	エリクソンとライフサイクル	【予習】 教科書第 1 章第 2 節を読んでエリクソンのライフサイクル理論についてまとめてくること。 【復習】 返却した第３回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第５回	対面	パーソナリティ	【予習】 教科書第 1 章第 2 節を読んでパーソナリティの心理学の要点をまとめてくること。 【復習】 返却した第４回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第６回	対面	青年期の課題	【予習】 教科書第 1 章第 2 節を読んで「青年期」とは何かについて自分なりの理解を形成しておくこと。 【復習】 返却した第５回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第７回	対面	生命の倫理（１）	【予習】 教科書 pp. 297-300 を読んで生命倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第 6 回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第８回	対面	生命の倫理（２）	【予習】 教科書 pp. 300-304 を読んで生命倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第 7 回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第９回	対面	環境の倫理（１）	【予習】 教科書 pp. 305-307 を読んで環境倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第 8 回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１０回	対面	環境の倫理（２）	【予習】 教科書 pp. 307-310 を読んで環境倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第 9 回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１１回	対面	家族をめぐる問題	【予習】 教科書 pp. 311-315 を読んで家族をめぐる問題について調べてくること。	4 時間

			【復習】 返却した第１０回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	
第１２回	対面	地域社会をめぐる問題	【予習】 教科書 pp. 316-317 を読んで地域社会をめぐる問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第１１回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１３回	対面	情報の倫理	【予習】 教科書 pp. 318-321 を読んで情報倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第１２回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１４回	対面	文化と宗教の問題	【予習】 教科書 pp. 322-324 を読んで情報倫理の問題についてまとめてくること 【復習】 返却した第１３回ワークシートを確認し、加除訂正を行うこと。	4 時間
第１５回	オンデマンド	平和をめぐる問題――復習の講義動画を公開する（同時にレポート試験の課題を説明する）。	【予習】 教科書 pp. 325-327 を読んで平和をめぐる問題についてまとめてくること	4 時間

科目名	宗教学概説	開講年度	2026 年度春学期
担当者	本多　真	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	この講義では、宗教の歴史的な流れを理解しつつ、グローバルな状況の中で宗教がどのように需要されているかについて学びます。		
授業の目的及び概要	宗教文化、宗教対話、宗教慣習に関心を持ちつつ、宗教をめぐる現象を客観的に理解／分析することのできる力を身に着けることを目指します。また宗教が社会とどう関わり、宗教のどういった側面が社会と反発するのかを知ることをとおして、身のまわりにある宗教や宗教的な風習との付き合い方に関心を向けることができるようになる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	宗教がどのような歴史を経て、今日どのような形で現存し、社会とどのように共存しているのか、その概要について理解することができるようになります。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	フロアから寄せられた質問にその場で答えます。また講評についても授業時に対応します。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	毎回、資料を準備します。	ISBN	特になし。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	50
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション：宗教について考える	・講義概要の説明。 ・あなたがイメージする宗教とはいったい何を指していますか。調べておいてください。 ・世界に宗教を信じる人はどのくらいいるのか、調べておいてください。	4 時間
第２回	対面	宗教のタイプ：一神教、多神教、無神論／民族宗教、世界宗教	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・どの宗教が「一神教」「多神教」「無神論」か、またそれらの宗教が「民族宗教」「世界宗教」のいずれに該当するか、調べておきましょう。	4 時間

第３回	対面	ユダヤ教について	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・ユダヤ教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第４回	対面	キリスト教について	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・キリスト教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第５回	対面	イスラム教について	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・イスラム教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第６回	対面	ヒンドゥー教について	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・ヒンドゥー教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第７回	対面	仏教について	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・仏教について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第８回	対面	神道について	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・神道について学びますので、事前学習をしてきてください。	4 時間
第９回	対面	日本人と宗教	・前回講義の内容を復習してきてください。 ・日本人の多くは「無宗教」でありながら、日本には無数の宗教施設があります。この謎に迫ります。 ・無数に存在する神社、寺院はどのように維持されているのか、インターネットなどで調べておきましょう。	4 時間
第１０回	対面	発表：自由論題①	・宗教について調べた内容を発表していただきます。	4 時間
第１１回	対面	発表：自由論題②	・宗教について調べた内容を発表していただきます。	4 時間
第１２回	対面	発表：自由論題③	・宗教について調べた内容を発表していただきます。	4 時間
第１３回	対面	宗教と社会課題①	・宗教は命をどう捉えるか、生命操作の現場に迫ります。 ・人工妊娠中絶、胃ろうなどの医療行為にどの宗教が反対意見なのか、調べておきましょう。	4 時間
第１４回	対面	宗教と社会課題②	・宗教と政治について考えます。 ・イスラエルとはどのような国か、調べておきましょう。	4 時間
第１５回	オンデマンド	講義総括	・前回講義の内容を復習してきてください。	4 時間

科目名	心理学概説	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	竹井　夏生	配当年次	234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	経済学部専門教育科目 法学部専門教育科目		
テーマ	子どもたちの育ちと学びに携わりたいと考える学生向けの教職科目としての心理学		
授業の目的及び概要	いじめ、不登校、偏差値教育、学校不信、家族のきずなの弱まり、社会不安の高まり―子どもたちを含め、私たちが育ち、学び、そして生きる環境は、内的にも外的にも、大きく揺らいでいるように思います。この科目では、主に教職に関心を持つ学生に向けて、心理学の観点から、私たちがよりよく育ち、学び、生きるための手掛かりを共に考えていくことを目的としています。		
履修条件・留意点	教職に関心を持つ学生に広く開かれています。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	・発達（育ち）の観点から、自己および他者理解を深め、教職に携わる上でのヒントを見出すことができる。 ・学習（学び）の観点から、人間を豊かにするための学びのあり方を考え、教職においてそれを実践するためのヒントを見出すことができる。 ・関係性（関わり）の観点から、他者の悩みや集団における困難を受け止め、洞察し、手立てを共に考えることのできる教師としての姿勢を育むことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	個別の質問については授業の前後、またはメールにて受け付ける。各回のコメントシートについては、授業内でできる限り取り上げながら受講生と問題意識を共有できるようにする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しない（こちらでレジュメを準備する）。	ISBN	なし
参考書	・以下を代表的な文献として講義の準備をしてくるので、関心のある受講生は直接手に取ってみるとよい。 ① エリクソンの人間学，西平直（著），東京大学出版会，1993 年 ② いじめのある世界に生きる君たちへ，中井久夫（著），中央公論新社，2016 年	ISBN	① 9784130161015 ② 9784120049217

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	10
成果発表（口頭・実技）	40
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	0
その他の内容	

この科目の受講にあたって	職業選択に自らの未解決の問題が反映されるとするならば、教職に関心を持つ学生は、育つこと、学ぶこと、そしてそれらを通して生きることに「くすぶり」を持っているのかもしれませんね。それはむしろ教職において大切な資産になるはずです。自らの内面に目を向けながら、それを通して子どもたちの育ちや学び、そして生きることに深く関わることのできるあり方を

	一緒に考えていきましょう。気軽に参加ください。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	教職科目としての心理学への導入 育ちや学びを支える教師に必要となる心理学について、全体像を示し導入を図る。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第２回	対面	心の育ちと発達（1） E.H.エリクソンの発達心理学について、特に学齢期の発達を中心に学ぶ。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第３回	対面	心の育ちと発達（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第４回	対面	心の育ちと発達（3） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第５回	対面	心の育ちと病い（1） 学齢期に見られる精神疾患や障害特性について、心の育ちや関係性といった観点から考える。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第６回	対面	心の育ちと病い（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第７回	対面	学ぶ理由と動機付け（1） 学習について、学びの意欲、主体性、内容、環境、受験勉強といった観点から考え、よりよい学びを支えるあり方について考える。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第８回	対面	学ぶ理由と動機付け（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第９回	対面	いじめの心理学（1） 「いじめ」についての深い洞察と、子どもを守る倫理観を持てるように、学校場面でのいじめについて考える。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に	4 時間

			触れてみること。	
第１０回	対面	いじめの心理学（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第１１回	対面	子どもの心と物語 子どもの育ちを「物語（narrative）」という観点から学ぶ。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第１２回	対面	カウンセリングへの導入 カウンセリング心理学を学ぶための導入として、提示する臨床素材をもとにして、自分自身のこれまでの育ち、学び、関わりについて振り返る取り組みを行う。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第１３回	対面	カウンセリング心理学（1） 教師に必要となるカウンセリングについて、その理論と実践を学ぶ。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第１４回	対面	カウンセリング心理学（2） 前回の内容を引き続き深めていく。	1. 配布したレジュメを各自振り返り、次回の講義に円滑に参加できるよう備えておくこと。 2. 講義で抱いた関心や疑問点などがあれば、次回の講義で質問できるようにしておくこと。 3. 関心のある学生は、レジュメで取り上げた文献に触れてみること。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめと展望 これまで学んだ内容を振り返り、その定着を図る。	学期を通して学んだことを総括すべく、これまで配布したレジュメ全体を振り返っておくこと。	4 時間

科目名	キャリア開発Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	笠田　真由美	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発Ａは、キャリア開発Ｂとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。 この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。 そして、これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。さらに、専門教育科目での学びを踏まえつつ、法学部生として身につけるべきキャリアスキルを涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発Ａの具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①キャリアの意味と領域を知り、働くことの意義と、職業が個人に及ぼす影響について理解する。 ②様々な職業を知り、自己の興味・適性と照らし合わせることで、関心を高める。 ③キャリアプランニングに着手し、自己のキャリア形成のため、大学生活の過ごし方を計画することができる。 ④自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ⑤学部の進路として想定される業界やその特色について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員のうち笠田講師は、ＣＤＡ（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	学就 BOOK（改訂第 6 版），日経 HR 編集部，2026 年	ISBN	978-4-296-13004-7
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。

	キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの学生生活を振り返る。	4 時間
第２回	オンデマンド	【自己理解】大学生活を考えよう① 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考える。	【予習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第３回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう② サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。特に、インターンシップや資格の魅力について知り、今後の学修計画を立てる。	【予習】学就 BOOK「8 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第４回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう③ キャリア理論（スーパーの理論）に基づいた客観的自己分析を行うことで、これまでの人生の棚卸を行い、今後の学修計画を考える。	【予習】学就 BOOK「8 章・9 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8 章・9 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第５回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう④ 論理的に考える力･書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。	【予習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力･書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己 PR を作成する。	【予習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第７回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第 6 回までの内容を復習する。	6 時間
第８回	対面	【職業理解】金融リテラシーの重要性について ファイナンシャルプランニングについて学び、お金・時間の使い方について理解を深める。	【予習】学就 BOOK「1 章・2 章」を事前に読んでおく。 【復習】配布された資料を読み直し、ファイナンシャルプランニングについて復習する。	4 時間
第９回	対面	【職業理解】就職活動について知る① 就活生を取り巻く社会を知り、新規学卒労働市場と就職活動の流れについて理解する。	【予習】学就 BOOK「11 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「11 章」、パワーポイント資料を読み直し、新規学卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4 時間
第１０回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 正規雇用・非正規雇用の違いを理解し、社会人基礎力についての理解を深める。	【予習】正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】配布された資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4 時間
第１１回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 就業力で求められる SPI 試験について理解し、具体的対策に向けて計画する。	【予習】SPI 試験に関する資料を読んでおく。 【復習】SPI 試験の自身の結果を踏まえて、自身がどのように対策を行うかを計画する。	4 時間
第１２回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。（学部コンテンツ×キャ	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間

		リア）		
第１３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。（学部コンテンツ×キャリア）	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】特別講演① ゲスト講師による特別講演を聞き「将来の進路と今後の大学生活」について知る。	【予習】講義内にて指示を受けた業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働く上で大切なこと・留意すべきポイントについて復習する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第 14 回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	キャリア開発Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	芳中　千裕	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発Ａは、キャリア開発Ｂとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。 この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。 そして、これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。さらに、専門教育科目での学びを踏まえつつ、法学部生として身につけるべきキャリアスキルを涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発Ａの具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①キャリアの意味と領域を知り、働くことの意義と、職業が個人に及ぼす影響について理解する。 ②様々な職業を知り、自己の興味・適性と照らし合わせることで、関心を高める。 ③キャリアプランニングに着手し、自己のキャリア形成のため、大学生活の過ごし方を計画することができる。 ④自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ⑤学部の進路として想定される業界やその特色について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	学就 BOOK（改訂第 6 版），日経 HR 編集部，2026 年	ISBN	978-4-296-13004-7
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもら

	う。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの学生生活を振り返る。	4 時間
第２回	オンデマンド	【自己理解】大学生活を考えよう① 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考える。	【予習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第３回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう② サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。特に、インターンシップや資格の魅力について知り、今後の学修計画を立てる。	【予習】学就 BOOK「8 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第４回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう③ キャリア理論（スーパーの理論）に基づいた客観的自己分析を行うことで、これまでの人生の棚卸を行い、今後の学修計画を考える。	【予習】学就 BOOK「8 章・9 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8 章・9 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第５回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう④ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。	【予習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己 PR を作成する。	【予習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第７回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第 6 回までの内容を復習する。	6 時間
第８回	対面	【職業理解】金融リテラシーの重要性について ファイナンシャルプランニングについて学び、お金・時間の使い方について理解を深める。	【予習】学就 BOOK「1 章・2 章」を事前に読んでおく。 【復習】配布された資料を読み直し、ファイナンシャルプランニングについて復習する。	4 時間
第９回	対面	【職業理解】就職活動について知る① 就活生を取り巻く社会を知り、新規学卒労働市場と就職活動の流れについて理解する。	【予習】学就 BOOK「11 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「11 章」、パワーポイント資料を読み直し、新規学卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4 時間
第１０回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 正規雇用・非正規雇用の違いを理解し、社会人基礎力についての理解を深める。	【予習】正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】配布された資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4 時間
第１１回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 就業力で求められる SPI 試験について理解し、具体的対策に向けて計画する。	【予習】SPI 試験に関する資料を読んでおく。 【復習】SPI 試験の自身の結果を踏まえて、自身がどのように対策を行うかを計画する。	4 時間
第１２回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。（学部コンテンツ×キャリア）	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第１３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成②	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。	4 時間

		学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。（学部コンテンツ×キャリア）	【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】特別講演① ゲスト講師による特別講演を聞き「将来の進路と今後の大学生活」について知る。	【予習】講義内にて指示を受けた業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働く上で大切なこと・留意すべきポイントについて復習する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第 14 回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	キャリア開発Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	笠田　真由美	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発Ａは、キャリア開発Ｂとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。 この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。 そして、これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。さらに、専門教育科目での学びを踏まえつつ、法学部生として身につけるべきキャリアスキルを涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発Ａの具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①キャリアの意味と領域を知り、働くことの意義と、職業が個人に及ぼす影響について理解する。 ②様々な職業を知り、自己の興味・適性と照らし合わせることで、関心を高める。 ③キャリアプランニングに着手し、自己のキャリア形成のため、大学生活の過ごし方を計画することができる。 ④自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ⑤学部の進路として想定される業界やその特色について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員のうち笠田講師は、ＣＤＡ（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	学就 BOOK（改訂第 6 版），日経 HR 編集部，2026 年	ISBN	978-4-296-13004-7
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。

	キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの学生生活を振り返る。	4 時間
第２回	オンデマンド	【自己理解】大学生活を考えよう① 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考える。	【予習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第３回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう② サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。特に、インターンシップや資格の魅力について知り、今後の学修計画を立てる。	【予習】学就 BOOK「8 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第４回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう③ キャリア理論（スーパーの理論）に基づいた客観的自己分析を行うことで、これまでの人生の棚卸を行い、今後の学修計画を考える。	【予習】学就 BOOK「8 章・9 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8 章・9 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第５回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう④ 論理的に考える力･書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。	【予習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力･書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己 PR を作成する。	【予習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第７回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第 6 回までの内容を復習する。	6 時間
第８回	対面	【職業理解】金融リテラシーの重要性について ファイナンシャルプランニングについて学び、お金・時間の使い方について理解を深める。	【予習】学就 BOOK「1 章・2 章」を事前に読んでおく。 【復習】配布された資料を読み直し、ファイナンシャルプランニングについて復習する。	4 時間
第９回	対面	【職業理解】就職活動について知る① 就活生を取り巻く社会を知り、新規学卒労働市場と就職活動の流れについて理解する。	【予習】学就 BOOK「11 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「11 章」、パワーポイント資料を読み直し、新規学卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4 時間
第１０回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 正規雇用・非正規雇用の違いを理解し、社会人基礎力についての理解を深める。	【予習】正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】配布された資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4 時間
第１１回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 就業力で求められる SPI 試験について理解し、具体的対策に向けて計画する。	【予習】SPI 試験に関する資料を読んでおく。 【復習】SPI 試験の自身の結果を踏まえて、自身がどのように対策を行うかを計画する。	4 時間
第１２回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。（学部コンテンツ×キャ	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間

		リア）		
第１３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。（学部コンテンツ×キャリア）	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】特別講演① ゲスト講師による特別講演を聞き「将来の進路と今後の大学生活」について知る。	【予習】講義内にて指示を受けた業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働く上で大切なこと・留意すべきポイントについて復習する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第 14 回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	キャリア開発Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	芳中　千裕	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発Ａは、キャリア開発Ｂとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。 この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。 そして、これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。さらに、専門教育科目での学びを踏まえつつ、法学部生として身につけるべきキャリアスキルを涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発Ａの具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①キャリアの意味と領域を知り、働くことの意義と、職業が個人に及ぼす影響について理解する。 ②様々な職業を知り、自己の興味・適性と照らし合わせることで、関心を高める。 ③キャリアプランニングに着手し、自己のキャリア形成のため、大学生活の過ごし方を計画することができる。 ④自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ⑤学部の進路として想定される業界やその特色について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	グループワーク		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	学就 BOOK（改訂第 6 版），日経 HR 編集部，2026 年	ISBN	978-4-296-13004-7
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもら

	う。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの学生生活を振り返る。	4 時間
第２回	オンデマンド	【自己理解】大学生活を考えよう① 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考える。	【予習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「4 章・5 章・6 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第３回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう② サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。特に、インターンシップや資格の魅力について知り、今後の学修計画を立てる。	【予習】学就 BOOK「8 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第４回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう③ キャリア理論（スーパーの理論）に基づいた客観的自己分析を行うことで、これまでの人生の棚卸を行い、今後の学修計画を考える。	【予習】学就 BOOK「8 章・9 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「8 章・9 章」、パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習する。	4 時間
第５回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう④ 論理的に考える力･書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。	【予習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力･書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ「伝わる日本語表現」について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己 PR を作成する。	【予習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「巻末特集スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第７回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第 6 回までの内容を復習する。	6 時間
第８回	対面	【職業理解】金融リテラシーの重要性について ファイナンシャルプランニングについて学び、お金・時間の使い方について理解を深める。	【予習】学就 BOOK「1 章・2 章」を事前に読んでおく。 【復習】配布された資料を読み直し、ファイナンシャルプランニングについて復習する。	4 時間
第９回	対面	【職業理解】就職活動について知る① 就活生を取り巻く社会を知り、新規学卒労働市場と就職活動の流れについて理解する。	【予習】学就 BOOK「11 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「11 章」、パワーポイント資料を読み直し、新規学卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4 時間
第１０回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 正規雇用・非正規雇用の違いを理解し、社会人基礎力についての理解を深める。	【予習】正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】配布された資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4 時間
第１１回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 就業力で求められる SPI 試験について理解し、具体的対策に向けて計画する。	【予習】SPI 試験に関する資料を読んでおく。 【復習】SPI 試験の自身の結果を踏まえて、自身がどのように対策を行うかを計画する。	4 時間
第１２回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。（学部コンテンツ×キャリア）	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第１３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成②	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。	4 時間

		学部での学びを通じて、自身の未来や社会の未来を考える。（学部コンテンツ×キャリア）	【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】特別講演① ゲスト講師による特別講演を聞き「将来の進路と今後の大学生活」について知る。	【予習】講義内にて指示を受けた業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働く上で大切なこと・留意すべきポイントについて復習する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第 14 回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	キャリア開発Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	黒原　杏衣	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発Ａは、キャリア開発Ｂとともに、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力とは、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力となる。 この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「社会理解、産業・企業理解、職業理解」をテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。 これらの理解を通じて、将来のキャリア形成に向けた自己の目標を設定し、学生時代に取り組むべき諸課題を認識する。 さらに、専門教育科目での学びを踏まえつつ、法学部生として身につけるべきキャリアスキルを涵養する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発Ａ（留学生クラス）の目標は以下のとおりである。 1. 自己理解を通じて日本に留学した志望理由を改めて認識し、希望進路の実現を目指して必要な知識を身に付ける。 2. 希望進路の実現に必要な日本語力を理解し、その向上に向けた具体的学修計画を立てることができる。 3.　日本の雇用環境を理解した上で、就活のスケジュールや手順に沿って行動することができる。 4.　企業が求める人材像を理解し、自己分析に基づいた最適な進路選択を行なうことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、人材採用コンサルティング企業での新卒・中途採用の営業、採用担当などの業務経験を有しており、現在はフリーランスとして独立し、採用コンサルティング・採用業務代行業、企業研修講師業など、多岐にわたる業務に従事している。国家資格キャリアコンサルタント所持者。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	改訂版　留学生のための就職内定ワークブック	ISBN	978-4820729907
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。

	キャリア形成科目は、大学卒業後、社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 ①時間厳守、②授業中の飲食禁止、③シチュエーションに適した服装、④私語や必要ない携帯端末操作の禁止、⑤机の上にカバンやコートを置かない、⑥許可なく離席しないことは最低限のルールとマナーである。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、注意してもやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス 異文化社会で学ぶこと① ・キャリアとは何か、本科目で何を学ぶかについてガイダンスを行う。 ・日本に留学してきた目的を改めて明確にする	【復習】授業内で使用した配布資料などを読み直し、改めてこれまでの学生生活と留学の目的を振り返りましょう。	4 時間
第２回	対面	【自己理解】異文化社会で学ぶこと② ・異なる言語、文化、社会の土地に来ています。人と出会ってどのように感じましたか。 ・異文化を学ぶ意味は何だと思いますか。	【予習】日本に留学してやってみたいこと、いままで思っていた日本像と違いはなにがあるか考え、書き出してくる。 【復習】挨拶や生活様式など自国文化との違いを考え、その理由も考える。	4 時間
第３回	対面	【自己理解】日本での大学生活を考えよう① ・私の日本語学修の意味 ・大学で必要な日本語力 ・日本語の力を向上させるための良い方法とはなにかについて考える ・勉強の困難を乗り越える方法 ・大学で勉強する際に困ったことがあったらどうすればいいかを考えよう ・先生に相談してみる（敬語を使って、アポを取る）	【予習】大学での授業を受けて、日本語の力についてどのような課題あると思いますか。 大学の授業で困っていることは何かを具体的にあげ、その原因を考えてくる。 【復習】日本語の力を向上させるための良い方法とはなにかについて考え、7 月の JLPT で合格についてすべきことを考えて、まとめる。困っている課題について、ではどのようにすれば解決できるのか、だれに相談すればよいのかを考える。自分の言葉でどのように伝えればよいのか考え記述してみる。	4 時間
第４回	対面	【自己理解】日本での大学生活を考えよう② ・日本の大学で学ぶということと将来の自分の姿を考える ・サークル・部活、インターンシップ、留学の魅力を知り、今後の大学生活を考える。 ・資格の魅力・大学で取れる資格について知り、学修計画を立てる	【予習】大学の授業と授業以外の学修には何があるのか、日本でとれる資格には何があるのかを考える。 【復習】日本への留学の目的を実現するために必要になる資格を挙げて、その取得計画を立てる。	4 時間
第５回	対面	【自己理解】日本での大学生活を考えよう③ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。	【予習】学就 BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】日本での大学生活を考えよう④ 就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。	【予習】学就 BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	6 時間
第７回	対面	【自己理解】日本での大学生活を考えよう⑤ 論理的に考える力・書く力等のポイントを理解する。就活で役立つ『伝わる日本語表現』について学び、表現する力を養う。自己理解に基づいた自己 PR を作成する。	【予習】学就 BOOK「スタディスキル」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「スタディスキル」を読み直し、文章作成のポイントについて復習する。	4 時間

第８回	対面	中間課題	【予習】中間課題に向けて、これまでの授業の内容を復習し、課題の準備をする。	4 時間
第９回	対面	【自己理解】将来の「キャリア」を考えよう ・卒業したあとのことを考えよう。進路は就職？進学？ ・どのようなスキル・能力が必要なのかを考えよう ・将来、どんな働き方をしたいですか？	【予習】「キャリア」という言葉の意味をまず調べる。留学した目的をもう一度ふりかえり、大学を卒業してなりたい「自分」を考える。 【復習】将来なりたい自分、活躍している自分にひつようなスキルはなにかを考える。	4 時間
第１０回	対面	【職業理解】就職活動について知る① ・日本の雇用環境について知る ・新規学卒労働市場と就職活動の流れを理解する。	【予習】Chapter1-1 を事前に読んでくる。自国での大学での学修と卒業そして就職活動の時期、雇用環境を調べる。 【復習】Chapter1-1、パワーポイント資料を読み直す。新規学卒労働市場と日本の就職活動制度とその流れを理解する。	4 時間
第１１回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 留学生の日本企業への就職事情	【予習】Chapter1-2 を事前に読んでおく。 【復習】Chapter1-2、パワーポイント資料を読み直し、新規学卒労働市場と就職活動の流れについて復習する。	4 時間
第１２回	対面	【職業理解】就職活動について知る③ 日本企業が求める留学生像 日本で就職するためには、何が必要かを知ろう。	【予習】Chapter1-3 を事前に読んでおく。正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 Chapter1-4 を事前に読んでおく。自分が将来なりたい人材とそれを実現するために必要なスキルを考える。 【復習】Chapter1-3、パワーポイント資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。	4 時間
第１３回	対面	【職業理解】就職活動について知る④ 日本の採用文化について知る 就職活動のスケジュールと準備	【予習】Chapter1-4 を事前に読んでおく。採用文化、正規雇用・非正規雇用の違いについて自身で調べ、理解を深める。 【復習】Chapter1-4、パワーポイント資料を読み直し、正規雇用・非正規雇用について復習する。また、日本における就職活動の開始とスケジュールから必要な準備とスキル取得時期を考える。	4 時間
第１４回	オンデマンド	【オンデマンド】【自己理解】進路実現に向けた大学生活を考えよう 先輩学生のインタビュー動画を通して、学生生活の過ごし方のポイントを理解する。学生時代に「やって良かったこと・やれば良かったこと」を知り、今後の大学生活を考えた上で、直近の夏休みをどのように過ごすべきか、計画を立てる	【復習】パワーポイント資料を読み直し、大学生活の取り組みについて復習し、夏休みの計画を立てる	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題	【予習】これまでの資料やメモを読み返し、留学の目的、自己理解と職業理解について理解を深める。 【復習】授業で計画した通りに夏休みを過ごす	4 時間

科目名	キャリア開発Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	笠田　真由美	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発 B は、キャリア開発 A に続き、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。 この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「様々な働き方を知る」「業界について考える」などをテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、将来のキャリアデザインをイメージしつつ、社会人として求められる能力とは何かを考え、その養成を図る。そのため、最新のキャリア事情を踏まえて、様々なワーク・課題に取り組みつつ、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的基礎力を養成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発 B の具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ②社会課題や業界・企業について、関心を持って情報収集ができる。 ③自身の将来や社会で働くことについて、関心を持って行動計画を立てることができる。 ④学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員のうち笠田講師は、ＣＤＡ（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	学就 BOOK（改訂第 6 版），日経 HR 編集部，2026 年	ISBN	978-4-296-13004-7
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。

	特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス 社会人基礎力診断＋企業動向を知る	【予習】学就 BOOK「10 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「10 章」、パワーポイント資料を読み直し、社会人基礎力について復習する。	4 時間
第２回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える① ビンゴゲームとディスカッションを通して、社会人基礎力について理解する。	【予習】社会人基礎力について調べ、ワークシートに記入する。 【復習】配布資料等を読み直し、社会人基礎力について再度確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える②（観察とディスカッション） 仕事の現場で奮闘する社会人の動画視聴を通して、仕事に向き合う姿勢や価値観について観察する。感想や意見などをグループでディスカッションすることで、社会人に求められる諸要素について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】動画およびワークシートを振り返り、社会人基礎力を身につけるためには何が必要かを確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】就職活動について知る① キャリア理論（ホランドの理論）に基づき、自身の価値観（興味・関心）を知り、職業との理解を深める。	【予習】学就 BOOK「10 章」を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 仕事観と働き方の変遷、多様な価値観に触れ、自身が大切にしたい生き方・働き方について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4 時間
第６回	オンデマンド	【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間
第７回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第 6 回までの内容を復習する。	6 時間
第８回	対面	【職業理解】「職種」「業種」について理解する 職種・業種の体系、内容について理解し、各自の興味・関心・強みと重ねながら、今後の進路について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し 「職種・業種」について再度確認する。	4 時間
第９回	対面	【職業理解】「業界」について考える①（サプライチェーンと産業） グループワークを通じて、業界間のつながりを理解する。	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4 時間
第１０回	対面	【職業理解】「業界」について考える②（サプライチェーンと産業） 前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ（サプライチェーンの観点解説など）	【予習】前回の授業で使用したワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4 時間
第１１回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による特別講演を聞き「企業が求める人材像」について考える。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間
第１２回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、進路を見据えた 2 年生からの学修計画について考える。（学部コース選択）	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習し、今後の学部コース選択について考える。	4 時間
第１３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成②	【予習】学就 BOOK「7 章・8 章・9 章」を事前に読んでおく。	4 時間

		先輩学生（企業内定者・公務員合格者）による特別講演を聞き「目指す進路に向けた今後の大学生活」について考える。	【復習】学就 BOOK「7 章・8 章・9 章」、講演資料を読み直し、成長する学生生活について復習する。	
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成③ 1 年間を振り返り、今後に向けた具体的学修計画を立てる。	【予習】学部での学修内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第 14 回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	キャリア開発Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	芳中　千裕	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発 B は、キャリア開発 A に続き、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。 この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「様々な働き方を知る」「業界について考える」などをテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、将来のキャリアデザインをイメージしつつ、社会人として求められる能力とは何かを考え、その養成を図る。そのため、最新のキャリア事情を踏まえて、様々なワーク・課題に取り組みつつ、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的基礎力を養成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発 B の具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ②社会課題や業界・企業について、関心を持って情報収集ができる。 ③自身の将来や社会で働くことについて、関心を持って行動計画を立てることができる。 ④学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	学就 BOOK（改訂第 6 版），日経 HR 編集部，2026 年	ISBN	978-4-296-13004-7
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス 社会人基礎力診断＋企業動向を知る	【予習】学就 BOOK「10 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「10 章」、パワーポイント資料を読み直し、社会人基礎力について復習する。	4 時間
第２回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える① ビンゴゲームとディスカッションを通して、社会人基礎力について理解する。	【予習】社会人基礎力について調べ、ワークシートに記入する。 【復習】配布資料等を読み直し、社会人基礎力について再度確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える②（観察とディスカッション） 仕事の現場で奮闘する社会人の動画視聴を通して、仕事に向き合う姿勢や価値観について観察する。感想や意見などをグループでディスカッションすることで、社会人に求められる諸要素について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】動画およびワークシートを振り返り、社会人基礎力を身につけるためには何が必要かを確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】就職活動について知る① キャリア理論（ホランドの理論）に基づき、自身の価値観（興味・関心）を知り、職業との理解を深める。	【予習】学就 BOOK「10 章」を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 仕事観と働き方の変遷、多様な価値観に触れ、自身が大切にしたい生き方・働き方について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4 時間
第６回	オンデマンド	【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間
第７回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第 6 回までの内容を復習する。	6 時間
第８回	対面	【職業理解】「職種」「業種」について理解する 職種・業種の体系、内容について理解し、各自の興味・関心・強みと重ねながら、今後の進路について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し 「職種・業種」について再度確認する。	4 時間
第９回	対面	【職業理解】「業界」について考える①（サプライチェーンと産業） グループワークを通じて、業界間のつながりを理解する。	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4 時間
第１０回	対面	【職業理解】「業界」について考える②（サプライチェーンと産業） 前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ（サプライチェーンの観点解説など）	【予習】前回の授業で使用したワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4 時間
第１１回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による特別講演を聞き「企業が求める人材像」について考える。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間
第１２回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、進路を見据えた 2 年生からの学修計画について考える。（学部コース選択）	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習し、今後の学部コース選択について考える。	4 時間
第１３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 先輩学生（企業内定者・公務員合格者）による特別講演を聞き「目指す進路に向けた今後の大学生活」について考える。	【予習】学就 BOOK「7 章・8 章・9 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「7 章・8 章・9 章」、講演資料を読み直し、成長する学生生活について復習する。	4 時間

第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成③ 1 年間を振り返り、今後に向けた具体的学修計画を立てる。	【予習】学部での学修内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第 14 回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	キャリア開発Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	笠田　真由美	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発 B は、キャリア開発 A に続き、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。 この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「様々な働き方を知る」「業界について考える」などをテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、将来のキャリアデザインをイメージしつつ、社会人として求められる能力とは何かを考え、その養成を図る。そのため、最新のキャリア事情を踏まえて、様々なワーク・課題に取り組みつつ、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的基礎力を養成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発 B の具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ②社会課題や業界・企業について、関心を持って情報収集ができる。 ③自身の将来や社会で働くことについて、関心を持って行動計画を立てることができる。 ④学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員のうち笠田講師は、ＣＤＡ（キャリア・デベロップメント・アドバイザー）の資格を有し、民間企業での業務経験に加え、大学・企業での研修を多数実施してきた。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	学就 BOOK（改訂第 6 版），日経 HR 編集部，2026 年	ISBN	978-4-296-13004-7
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。

	特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス 社会人基礎力診断＋企業動向を知る	【予習】学就 BOOK「10 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「10 章」、パワーポイント資料を読み直し、社会人基礎力について復習する。	4 時間
第２回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える① ビンゴゲームとディスカッションを通して、社会人基礎力について理解する。	【予習】社会人基礎力について調べ、ワークシートに記入する。 【復習】配布資料等を読み直し、社会人基礎力について再度確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える②（観察とディスカッション） 仕事の現場で奮闘する社会人の動画視聴を通して、仕事に向き合う姿勢や価値観について観察する。感想や意見などをグループでディスカッションすることで、社会人に求められる諸要素について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】動画およびワークシートを振り返り、社会人基礎力を身につけるためには何が必要かを確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】就職活動について知る① キャリア理論（ホランドの理論）に基づき、自身の価値観（興味・関心）を知り、職業との理解を深める。	【予習】学就 BOOK「10 章」を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 仕事観と働き方の変遷、多様な価値観に触れ、自身が大切にしたい生き方・働き方について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4 時間
第６回	オンデマンド	【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間
第７回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第 6 回までの内容を復習する。	6 時間
第８回	対面	【職業理解】「職種」「業種」について理解する 職種・業種の体系、内容について理解し、各自の興味・関心・強みと重ねながら、今後の進路について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し 「職種・業種」について再度確認する。	4 時間
第９回	対面	【職業理解】「業界」について考える①（サプライチェーンと産業） グループワークを通じて、業界間のつながりを理解する。	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4 時間
第１０回	対面	【職業理解】「業界」について考える②（サプライチェーンと産業） 前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ（サプライチェーンの観点解説など）	【予習】前回の授業で使用したワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4 時間
第１１回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による特別講演を聞き「企業が求める人材像」について考える。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間
第１２回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、進路を見据えた 2 年生からの学修計画について考える。（学部コース選択）	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習し、今後の学部コース選択について考える。	4 時間
第１３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成②	【予習】学就 BOOK「7 章・8 章・9 章」を事前に読んでおく。	4 時間

		先輩学生（企業内定者・公務員合格者）による特別講演を聞き「目指す進路に向けた今後の大学生活」について考える。	【復習】学就 BOOK「7 章・8 章・9 章」、講演資料を読み直し、成長する学生生活について復習する。	
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成③ 1 年間を振り返り、今後に向けた具体的学修計画を立てる。	【予習】学部での学修内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第 14 回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	キャリア開発Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	芳中　千裕	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発 B は、キャリア開発 A に続き、卒業後の生涯にわたる「生き方・学び方・働き方（＝キャリア）」を考えながら、社会人に求められる就業力を培う科目である。就業力は、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力である。 この授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を踏まえ、卒業後の進路選択で重要となる社会観と職業観を養成するため、「様々な働き方を知る」「業界について考える」などをテーマとして、課題に取り組むことで就業力を培う。そして、将来のキャリアデザインをイメージしつつ、社会人として求められる能力とは何かを考え、その養成を図る。そのため、最新のキャリア事情を踏まえて、様々なワーク・課題に取り組みつつ、コミュニケーション能力をはじめとする汎用的基礎力を養成する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発 B の具体的な到達目標は以下のとおりである。 ①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づき論理的に表現できる。 ②社会課題や業界・企業について、関心を持って情報収集ができる。 ③自身の将来や社会で働くことについて、関心を持って行動計画を立てることができる。 ④学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は採点し、翌週の授業にて総評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	学就 BOOK（改訂第 6 版），日経 HR 編集部，2026 年	ISBN	978-4-296-13004-7
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。 キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、私語がやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス 社会人基礎力診断＋企業動向を知る	【予習】学就 BOOK「10 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「10 章」、パワーポイント資料を読み直し、社会人基礎力について復習する。	4 時間
第２回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える① ビンゴゲームとディスカッションを通して、社会人基礎力について理解する。	【予習】社会人基礎力について調べ、ワークシートに記入する。 【復習】配布資料等を読み直し、社会人基礎力について再度確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】社会人基礎力について考える②（観察とディスカッション） 仕事の現場で奮闘する社会人の動画視聴を通して、仕事に向き合う姿勢や価値観について観察する。感想や意見などをグループでディスカッションすることで、社会人に求められる諸要素について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】動画およびワークシートを振り返り、社会人基礎力を身につけるためには何が必要かを確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】就職活動について知る① キャリア理論（ホランドの理論）に基づき、自身の価値観（興味・関心）を知り、職業との理解を深める。	【予習】学就 BOOK「10 章」を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【職業理解】就職活動について知る② 仕事観と働き方の変遷、多様な価値観に触れ、自身が大切にしたい生き方・働き方について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料等を読み直し、講義で得た知識を確認する。	4 時間
第６回	オンデマンド	【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間
第７回	対面	中間試験	【予習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第 6 回までの内容を復習する。	6 時間
第８回	対面	【職業理解】「職種」「業種」について理解する 職種・業種の体系、内容について理解し、各自の興味・関心・強みと重ねながら、今後の進路について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し 「職種・業種」について再度確認する。	4 時間
第９回	対面	【職業理解】「業界」について考える①（サプライチェーンと産業） グループワークを通じて、業界間のつながりを理解する。	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4 時間
第１０回	対面	【職業理解】「業界」について考える②（サプライチェーンと産業） 前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ（サプライチェーンの観点解説など）	【予習】前回の授業で使用したワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4 時間
第１１回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による特別講演を聞き「企業が求める人材像」について考える。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間
第１２回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成① 学部での学びを通じて、進路を見据えた 2 年生からの学修計画について考える。（学部コース選択）	【予習】学部での学修内容を見直し、学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習し、今後の学部コース選択について考える。	4 時間
第１３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成② 先輩学生（企業内定者・公務員合格者）による特別講演を聞き「目指す進路に向けた今後の大学生活」について考える。	【予習】学就 BOOK「7 章・8 章・9 章」を事前に読んでおく。 【復習】学就 BOOK「7 章・8 章・9 章」、講演資料を読み直し、成長する学生生活について復習する。	4 時間

第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びとキャリア形成③ 1 年間を振り返り、今後に向けた具体的学修計画を立てる。	【予習】学部での学修内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第 14 回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	キャリア開発Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	黒原　杏衣	配当年次	1
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G1	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	将来を見据えた学生生活の設計		
授業の目的及び概要	キャリア開発 B は、キャリア開発 A に続く科目であり、卒業後の「生き方・学び方・働き方」（＝キャリア）を考えながら、社会人として求められる就業力をさらに発展させることを目的としています。 授業では、日本の経済・社会情勢の変化やグローバル化の進展を背景に、卒業後の進路選択において重要な社会観と職業観を育むことを目指します。具体的には、「さまざまな働き方を知る」「業界について考える」といったテーマをもとに課題に取り組み、実践的な就業力を培います。 また、将来のキャリアデザインを描きながら、社会人として求められる能力について考察し、その能力を身につけるための学びを深めます。これには、最新のキャリア事情を取り入れたワーク課題を通じて、特にコミュニケーション能力などの汎用的基礎力を養成することが含まれます。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	キャリア開発 B（留学生）の目標は以下のとおりである。 1. 自己分析を通じて自分の強みと弱みを理解することができる。 2. これまでの日本との関わりから将来に自分がどうしたいのか考えることができる。 3. 企業が求めるコンピテンシーについて理解することができる。 4. 将来の進路に向けてキャリアプランを立てることができる。 5. 学部での学び（専門）を通じて、自らの強みを理解することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、人材採用コンサルティング企業での新卒・中途採用の営業、採用担当などの業務経験を有しており、現在はフリーランスとして独立し、採用コンサルティング・採用業務代行業、企業研修講師業など、多岐にわたる業務に従事している。国家資格キャリアコンサルタント所持者。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	改訂版　留学生のための就職内定ワークブック	ISBN	978-4820729907
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	授業を通じて、卒業後の進路に関する視野を広げ、将来のキャリアデザインについて積極的に取り組む姿勢・価値観を培うことを期待する。

	キャリア形成科目は、大学を出て社会で生きていくために必要な素養を身につける授業である。 社会では当たり前のルールとマナーを守り、積極的な授業参加が必要となる。 ①時間厳守、②授業中の飲食禁止、③シチュエーションに適した服装、④私語や必要ない携帯端末操作の禁止、⑤机の上にカバンやコートを置かない、⑥許可なく離席しないことは最低限のルールとマナーである。 特に、授業中の私語は他の受講生の迷惑になるので、注意してもやめられない場合は退室してもらう。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス ・社会人基礎力診断＋企業動向を知る ・キャリアとは何か　「内的キャリア」と「外的キャリア」を考える	【予習】Chapter2-1、Chapter2-2 を事前に読んでおく。 【復習】Chapter2-1、Chapter2-2、パワーポイント資料を読み直し、自分自身の「内的キャリア」と「外的キャリア」を考える。	4 時間
第２回	対面	【自己理解】自分を知る① ・自己分析とは ・自分を分析する観点を理解する。 ・人生曲線を作成してみる	【予習】Chapter2-3、Chapter2-4 を事前に読んでおく。自己分析の意義目的を理解する。 【復習】Chapter2-3、Chapter2-4、配布資料等を読み直し、人生曲線を完成させる。	4 時間
第３回	対面	【自己理解】自分を知る② ・自分史とは ・自分史の作成と分析	【予習】Chapter3-4、配布資料を事前に読んでおく。 【復習】Chapter3-4 およびワークシートを振り返り、自分史を完成させる。	4 時間
第４回	対面	【自分理解】自分を知る③ 「ジョハリの窓」から自分の姿を知る	【予習】Chapter3-4 を事前に読んでおく。作成した自分史から、自分にとっての強みは何かを考える。 【復習】Chapter3-4、配布資料等を読み直し、ジョハリの窓作成による自分の姿を確認する。	4 時間
第５回	対面	【自己理解】自分を知る④　コンピテンシーについて 企業がもとめる特性・資質について考える。	【予習】Chapter3-6、配布資料を事前に読んでおく。コンピテンシーという言葉の意味、使われ方を確認する。 【復習】Chapter3-6、配布資料等を読み直し、企業がもとめる特性・資質、人材について確認する。	4 時間
第６回	対面	【オンデマンド】【職業理解】特別講演① 働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンの基本的知識を習得する。	【予習】働き方改革やダイバーシティ＆インクルージョンについて事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間
第７回	対面	【自己理解】将来の自分を描く① 死ぬまでにしたいこと、人生の目標を考える 自分の未来の活躍を描き、人生設計を立てる	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】配布資料を読み直し、　「職種・業界」について再度確認する。	6 時間
第８回	対面	中間試験	【復習】これまでの学修についての中間試験を実施するので、第 6 回までの内容を復習する。	4 時間
第９回	対面	【自己理解」将来の自分を描く② 自分の未来の活躍を描き、人生設計を立てる	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4 時間
第１０回	対面	【自己理解】将来の自分を描く③ 日本の良いところ・悪いところを考える 自分と日本の関係史をつくる。	【予習】前回の授業で使用したワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4 時間
第１１回	対面	【職業理解】特別講演② ゲスト講師による「企業が求める人材像」について知る。	【予習】講義で扱われる業界について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、働き方について復習する。	4 時間
第１２回	対面	【職業理解】「業界」について考える① （ｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝと産業）グループワーク「チョコレートが消費者に届くまで」 グループワークを通じて、業界間のつなが	【予習】様々な業界の種類について事前に調べる。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、業界の働き方について復習する。	4 時間

		りを理解する。		
第１３回	対面	【職業理解】「業界」について考える② （ｻﾌﾟﾗｲﾁｪｰﾝと産業）　グループ発表 前回の取り組みのグループ発表及び講評・まとめ（サプライチェーンの観点を解説など）	【予習】前回の授業で使用したワークシートを提出（発表）できるよう事前準備をする。 【復習】グループ発表の振り返りと身の回りにある商品・サービスの業界間のつながりを検討し、理解を深める。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】学部での学びと自身のキャリアについて考えよう① 学部での学びを通じて、進路を見据えた 2 年生からの学修計画について考える。	【予習】学部での学習内容を見直し、学部での学びについて振り返る。 【復習】パワーポイント資料を読み直し、学部の学び・進路特性を踏まえた仕事について復習する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題	【予習】学期内の学修についての期末課題を授業内で実施するので、第 14 回までの内容を復習する。	4 時間

科目名	キャリアデザインＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	林　紫乃	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	自己理解及び業界・職種への理解を深め、卒業後のキャリアを設計する。		
授業の目的及び概要	この授業では、秋学期開講のキャリアデザインＢとともに、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目的とする。授業の目的を達成するために、講義をベースとしながらもペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、授業を進める。 授業の概要としては、まず、「働くことの意義」について自分なりの価値観を見出し、それを具体的な進路に結びつけて考える。次に、 社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集を行い、それに対する自身の考えを表現する。そして、「自己」について理解するとともに将来の目標を実現するために必要なことをまとめ、学部の進路として想定される業界についても、業界間のつながりや特色を理解したうえで他者へ説明する。さらに、SPI 対策の徹底（自主学習に取り組む）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
履修条件・留意点	―		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①「働くことの意義」について自分なりの価値観を見出し、それを具体的な進路に結びつけて考えることができる。 ②社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集を行い、それに対する自身の考えを表現することができる。 ③「自己」について理解するとともに、将来の目標を実現するために必要なことをまとめ、他者に説明することができる。 ④学部の進路として想定される業界について、業界間のつながりや特色を、理解し説明することができる。 ⑤SPI 対策の徹底（自主学習に取り組む）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	なし
参考書	業界地図（マイナビ発刊）（WEB 版）	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【職業理解】ガイダンス キャリアデザインに必要な素養･技能を修得することの意義を確認し、授業の概要を紹介する。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する①（自分の興味・関心・強みの認識） キャリア理論（ジョハリの窓、リフレーミング）に基づき、自己の経験を棚卸し、自己を分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する②（キャリアアンカー） キャリアアンカーチェックシートを用い、自己の価値観について分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する③（自己分析にどう向き合うか） 各種ツールを使って、自己の経験を棚卸し、自己を分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】「自己」を理解し表現する④（自分の興味・関心・強みの認識） 学部で学んだことを棚卸し、自己を分析し、他者に魅力的な人物として伝わるように説明する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】『「自己」を理解し表現する』まとめ ※中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第７回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える①（ダイバーシティ） 「働き方改革」や「ダイバーシティ」をテーマに、講義とグループワークを通じて考え、議論し発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える②（SDGs） 学部の主な進路先とこれからの企業選びのモノサシを理解し、各自の興味・関心、強みと重ねてみる。（SDGs）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第９回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える③（観察とディスカッション） 職場で奮闘する社会人の動画を視聴し、働くことの意義・価値観について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える④（特別講演） ゲストスピーカー／企業人による講話	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	オンデマンド	■オンデマンド■ 【職業理解】業界･企業研究入門①（業界･職種理解） 外部講師（マイナビ）による業界解説講義を受講し、各業界の特徴･動向を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【職業理解】業界研究入門②（グループワーク１） 興味関心のある業種毎にグループに分かれ、グループで特定の業界内企業の比較研究に取り組む。 特に当該企業の長所を的確に把握する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

第１３回	対面	【職業理解】業界研究入門③（グループワーク２） 前回につづき、グループワークを通して、特定の業界内企業の比較研究に取り組み、中間発表をする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】業界研究入門④（グループワーク３） 前回につづき、完成した業界内企業の比較研究成果を発表する。 特に当該企業の長所を的確に説明する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について総括し、夏休みに取り組むことを確認する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	キャリアデザインＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	林　紫乃	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	自己理解及び業界・職種への理解を深め、卒業後のキャリアを設計する。		
授業の目的及び概要	この授業では、秋学期開講のキャリアデザインＢとともに、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目的とする。授業の目的を達成するために、講義をベースとしながらもペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、授業を進める。 授業の概要としては、まず、「働くことの意義」について自分なりの価値観を見出し、それを具体的な進路に結びつけて考える。次に、 社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集を行い、それに対する自身の考えを表現する。そして、「自己」について理解するとともに将来の目標を実現するために必要なことをまとめ、学部の進路として想定される業界についても、業界間のつながりや特色を理解したうえで他者へ説明する。さらに、SPI 対策の徹底（自主学習に取り組む）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
履修条件・留意点	―		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①「働くことの意義」について自分なりの価値観を見出し、それを具体的な進路に結びつけて考えることができる。 ②社会課題や業界・企業について関心を持って情報収集を行い、それに対する自身の考えを表現することができる。 ③「自己」について理解するとともに、将来の目標を実現するために必要なことをまとめ、他者に説明することができる。 ④学部の進路として想定される業界について、業界間のつながりや特色を、理解し説明することができる。 ⑤SPI 対策の徹底（自主学習に取り組む）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	なし
参考書	業界地図（マイナビ発刊）（WEB 版）	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	30
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、課題に取り組むことを期待する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【職業理解】ガイダンス キャリアデザインに必要な素養･技能を修得することの意義を確認し、授業の概要を紹介する。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する①（自分の興味・関心・強みの認識） キャリア理論（ジョハリの窓、リフレーミング）に基づき、自己の経験を棚卸し、自己を分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する②（キャリアアンカー） キャリアアンカーチェックシートを用い、自己の価値観について分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【自己理解】「自己」を理解し表現する③（自己分析にどう向き合うか） 各種ツールを使って、自己の経験を棚卸し、自己を分析する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】「自己」を理解し表現する④（自分の興味・関心・強みの認識） 学部で学んだことを棚卸し、自己を分析し、他者に魅力的な人物として伝わるように説明する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】『「自己」を理解し表現する』まとめ ※中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第７回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える①（ダイバーシティ） 「働き方改革」や「ダイバーシティ」をテーマに、講義とグループワークを通じて考え、議論し発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える②（SDGs） 学部の主な進路先とこれからの企業選びのモノサシを理解し、各自の興味・関心、強みと重ねてみる。（SDGs）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第９回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える③（観察とディスカッション） 職場で奮闘する社会人の動画を視聴し、働くことの意義・価値観について考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	【職業理解】「働くことの意義」を考える④（特別講演） ゲストスピーカー／企業人による講話	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	オンデマンド	■オンデマンド■ 【職業理解】業界･企業研究入門①（業界･職種理解） 外部講師（マイナビ）による業界解説講義を受講し、各業界の特徴･動向を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【職業理解】業界研究入門②（グループワーク１） 興味関心のある業種毎にグループに分かれ、グループで特定の業界内企業の比較研究に取り組む。 特に当該企業の長所を的確に把握する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

第１３回	対面	【職業理解】業界研究入門③（グループワーク２） 前回につづき、グループワークを通して、特定の業界内企業の比較研究に取り組み、中間発表をする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】業界研究入門④（グループワーク３） 前回につづき、完成した業界内企業の比較研究成果を発表する。 特に当該企業の長所を的確に説明する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について総括し、夏休みに取り組むことを確認する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	キャリアデザインＡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	黒原　杏衣	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	日本企業への就職をめざす留学生が、自己理解・業界/企業研究・就活実践力を段階的に高め、「内定獲得」から「日本で働き続ける」キャリアを自律的に形成する。		
授業の目的及び概要	【P①】コミュニケーション力強化：「話す（やり取り）・話す（発表）」を毎回の授業に組み込む 【P②】就活スキル向上：履歴書（作成→添削→修正）反復練習・就活ミニテスト・ビジネスマナー・在留資格指導 【P③】幅広い学修機会：OB・OG ロールモデル活用・ガクチカ蓄積支援・課外活動の言語化 【P④】学内外支援行事との連動：インターンシップ・企業訪問体験、就活イベントなど就活材料に転換 【P⑤】長期キャリアビジョン：自己理解（ライフラインチャート・キャリアアンカー・RIASEC）活用・在留資格理解・早期離職防止・5～10 年後のキャリア設計		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．業界・企業研究の基礎的枠組みを理解し、自己の志望と結びつけて考えられる。 ２．社会課題や業界・企業について関心を高め、情報収集した内容を日本語で論理的に表現できる。 ３．授業内ワークを通じ『話す（やり取り・発表)』の機会を蓄積し、日常的な日本語コミュニケーション力を高める。【P①】 ４．日本の雇用形態・在留資格の基礎を理解し、業界研究ワークシートを作成・発表できる。【P⑤】 ５．自己分析（ライフラインチャート・キャリアアンカー・RIASEC）を用いて自己分析を行い、夏季インターンシップに向けた具体的な業界・企業の絞り込みと戦略を立てられる。【P②⑤】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、人材採用コンサルティング企業での新卒・中途採用の営業、採用担当などの業務経験を有しており、現在はフリーランスとして独立し、採用コンサルティング・採用業務代行業、企業研修講師業など、多岐にわたる業務に従事している。国家資格キャリアコンサルタント所持者。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック, 久保田学, 日本能率協会マネジメントセンター, 2022 年	ISBN	9784820729907
参考書	①　就職四季報 企業研究・インターンシップ版, 東洋経済新報社, 2027 年（図書館 DB で閲覧可） ②　会社四季報　業界地図, 東洋経済新報社, 2026 年（図書館 DB で閲覧可） ③　就職四季報 総合版, 東洋経済新報社, 2027-28 年度版（図書館 DB で閲覧可） ④　絶対内定 2027　自己分析とキャリアデザインの描き方, 杉村太郎他, ダイヤモンド社, 2025 年 ⑤　絶対内定 2027　エントリーシート・面接, 杉村太郎, ダイヤモンド, 2025 年 ⑥　絶対内定 2025-2027　インターシップ, 藤本 健司, ダイヤモンド社, 2023 年	ISBN	①　9784492974391 ②　9784492973356 ③　9784492971420 ④　9784478122297 ⑤　9784478122303 ⑥　9784478117552

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	日本就職を前提に、社会人・ビジネスパーソンとしての社会人基礎力を獲得しましょう。まず「遅刻をしない」「期限までに指定の方法で提出する」という基本的な習慣を身に着けることが出発点です。そのうえで、留学生であることの強み（多言語・多文化体験・異文化適応力）を活かした就活とは何かを考え、課題に取り組んでいきます。授業での学びは将来の進路選択において重要な指標となります。積極的に発言し、課題に主体的に取り組む姿勢を大切にしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	▶ 授業概要・到達目標・評価方法・年間スケジュールの説明	【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 説明内容を確認する。	2 時間
第２回	対面	Ch5-1 ▶ テーマ：業界を知る① 業界・企業研究とは何か ・夏季インターンシップのエントリー時期・方法①（概要） ▷【自己理解①】ライフラインチャート：人生の出来事・感情の起伏を書き出す【P⑤】	【事前学修】Ch5-1、配布資料を事前に読んでおく。業界研究、企業研究の意義を理解する。 【事後学修】Ch5-1、授業内で使用した配布資料等を読み直し、自分のやりたい仕事の業界を調べる。	4 時間
第３回	対面	Ch5-2（Ch6-2） ▶ テーマ：業界を知る② 業界研究の 3 つの視点 ・外国人雇用サービスセンターの情報を確認する ▷【自己理解②】ライフラインチャート完成：ターニングポイントと自分の価値観を言語化【P⑤】	【事前学修】Ch5-2、Ch6-2 配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch5-2、Ch6-2 授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した 3 つの視点をもとに興味ある業界の研究を行う。	4 時間
第４回	対面	Ch5-3（Ch6-3） ▶ テーマ：業界を知る③ 企業研究の視点① ・夏季インターンシップ応募準備②：応募書類（ES）の基本を学ぶ	【事前学修】Ch5-3（Ch6-3）、配布資料を事前に読んでおく。配布資料を事前に読んでおく。留学生を採用している業界、企業を調べる。 【事後学修】Ch5-3（Ch6-3）、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 身近にあるグローバル・ニッチ企業を調べ、それぞれの企業の価値を考える。	4 時間
第５回	対面	Ch5-3（Ch6-3） ▶ テーマ：業界を知る④ 企業研究の視点② ・夏季インターンシップ応募準備③：エントリーシートの下書きを作成する ▷【自己理解③】キャリアアンカー診断：働く上で自分が最も重視する価値観を確認する【P⑤】	【事前学修】Ch5-3（Ch6-3）、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch5-3（Ch6-3）、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 さらに興味ある企業を選んで分析し、ES を作成する。	4 時間
第６回	対面	中間課題	【事前学修】これまでの資料や教科書の内容を復習し中間課題の準備をする。 【事後学修】次回の授業範囲を調べておく。	6 時間
第７回	対面	Ch5-4 ▶ テーマ：業界を知る⑤ 職種研究とは	【事前学修】Ch5-4、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch5-4、授業内で使用した配布資料等を	4 時間

		・「業種（業界）」と「職種」の違いを整理し、主な職種を理解する ▷【自己理解④】RIASEC（六角形モデル）診断：自分の職業的興味タイプを確認する【P⑤】	読み直し、 習得した知識を確認する。	
第８回	対面	Ch5-5 ▶ テーマ：業界を知る⑥　日本企業の雇用形態・基礎編 ・正社員・契約社員・派遣社員の違いと特徴を理解する ・在留資格変更の重要ポイント：専攻と職種の一致が審査に影響することを理解する【P②⑤】	【事前学修】Ch5-5、配布資料を事前に読み、日本企業の雇用形態、採用形態を理解する。自国の雇用・採用システムと比較する。 【事後学修】Ch5-5、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 留学生が活躍する職種について詳しく調べる。	4 時間
第９回	オンデマンド	Ch5-5（続） ▶ テーマ：日本企業の雇用形態と在留資格（オンデマンド学習） ・「技術・人文知識・国際業務」ビザの取得要件を深く理解する	【事前学修】、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 雇用形態について自国と比較する。	4 時間
第１０回	対面	Ch5-5（続） ▶ テーマ：業界を知る⑥（続）　日本企業の雇用形態・実践編 ・業界別の雇用特性（製造業・IT・サービス業・商社等）を比較する	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	Ch5-6 ▶ テーマ：業界を知る⑦　業界研究の手順 ・業界研究 5 ステップを学ぶ ▷「ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）」の初稿を書き、日本語で言語化する練習【P③】	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、各業界の特徴・動向について理解を深める。	4 時間
第１２回	対面	Ch5-7 ▶ テーマ：業界を知る⑧　気になる業界を深く調べる ・業界調べワークシートを使い、自分が興味をもつ業界を詳しく調査する ▷「ガクチカ」反復練習：課外活動（アルバイト・サークル・ボランティア等）を日本語で言語化する【P③】	【事前学修】Ch5-7、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch5-7、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 ワークシートを完成する。	4 時間
第１３回	対面	Ch5-8 ▶ テーマ：業界を知る⑨　業界のつながり・周辺業界 ・気になる業界とその周辺業界・関連業界のつながりをワークシートで整理する ・OB・OG のキャリアパス紹介：多様な進路（大企業・中小・ベンチャー・海外勤務等）をロールモデルとして学ぶ【P③】	【事前学修】Ch5-8、配布資料を事前に読み、ワークシートを完成させる。 【事後学修】Ch5-8、まとめた内容の課題点などを整理して、知識の理解を深める。	4 時間
第１４回	対面	Ch5-9 ▶ テーマ：業界を知る⑩　春学期のまとめ・最終発表 ・春学期（第 2～13 回）の業界研究・企業研究の成果をワークシートに最終整理する	【事前学修】これまでの資料を読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	▶ 春学期まとめ・期末レポートの準備 ・春学期全体の振り返り：自己理解→業界研究→企業研究の連携を確認する	【事前学修】配布資料を事前に読ん期末課題の準備する。 【事後学修】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け	4 時間

		・期末レポート（志望業界・企業リスト＋選んだ理由）の準備	行動計画を立てる。	

科目名	キャリアデザインＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	林　紫乃	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	自己理解及び業界・職種への理解を深め、卒業後のキャリアを設計する。		
授業の目的及び概要	この授業では、春学期のキャリアデザイン A に続き、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目的とする。授業の目的を達成するために、講義をベースとしながらもペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、授業を進める。 授業の概要としては、春学期に実施した「自己分析・自己理解」を踏まえ、自身の長所・短所を客観的かつ印象的に他者に「自己表現」ができるようにする。また、同じく春学期に実施した「業界研究入門」を深化させ、社会課題や学部進路として想定された業界、業界間のつながり等の多角的な視点から、業界・企業の特長を捉えたうえで自身の希望進路を見出す。さらに、SPI 対策の徹底（経法 SPI 模試の受験）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について客観性も踏まえて、他者に印象に残るように表現できる。 ②自身の将来や進路選択に主体性を持てており、希望進路を実現するための計画について具体的に考えることができる。 ③将来の進路選択に前向きであり、困難があっても適切なサポートを受けながら前に進む事ができる。 ④学部の進路として想定される業界について、業界間のつながりや特色を、理解し説明することができる。 ⑤社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ⑥SPI 対策の徹底（経法 SPI 模試の受験）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	なし
参考書	業界地図（マイナビ発刊）（WEB 版）	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講に	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、

あたって	課題に取り組むことを期待する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス 夏休みの振り返りを行い、授業概要についてガイダンスを実施する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【就業力】実践トレーニング①ES対策（１）ガクチカ 自分の経験を整理し、「学生時代に力を入れたこと」を、読み手・聞き手に印象に残るよう、文章および口頭で表現する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【就業力】実践トレーニング①ES対策（２）自己 PR 自分の経験を整理し、「自己 PR」を、読み手・聞き手に印象に残るよう、文章および口頭で表現する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	オンデマンド	■オンデマンド■ 【就業力】実践トレーニング①ES対策（３）文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【就業力】実践トレーニング ES①ES 対策　まとめ ※中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第６回	対面	【職業理解】企業研究入門①（1）業界・企業動向調査 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方を学び、企業・インターンシップ情報収集のポイントを理解する。 〔ゲストスピーカー／企業人による講話〕を予定。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【職業理解】企業研究入門①（２）業界・職種を知る 学部特性を踏まえ、企業が求める人材像を知り、グループディスカッションなどを通じて、同業他社比較の重要性や職種を知り、情報収集の重要性を理解する。 〔ゲストスピーカー／企業人による講話〕を予定。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【職業理解】企業研究入門①（３）業界・職種を知る 学部特性を踏まえ、企業が求める人材像を知り、グループディスカッションなどを通じて、同業他社比較の重要性や職種を知り、情報収集の重要性を理解する。 〔ゲストスピーカー／企業人による講話〕を予定。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第９回	対面	【就業力】実践トレーニング②グループディスカッション対策（１）実践練習 「グループディスカッション」の実践練習を通して、グループディスカッションの進め方を理解し、採用評価につなげる発言が	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		できるようにする。		
第１０回	対面	【就業力】実践トレーニング②グループディスカッション対策（２）実践練習 「グループディスカッション」の実践練習を通して、グループディスカッションの進め方を理解し、採用評価につなげる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【就業力】実践トレーニング③筆記選考対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。経法 SPI 模試に取り組み、採用選考に向けた基礎力を固める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング④面接対策（１）簡潔な自己表現 自己分析、企業研究をもとに企業が求める人材像に沿って、簡潔に自己表現する力を養う。グループワークでの相互評価を通じて自身の課題に気づく。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング④面接対策（２）集団面接実践 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【就業力】実践トレーニング④面接対策（３）集団面接実践 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】１年間の授業を振り返り、３年次の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリアデザインＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	林　紫乃	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	自己理解及び業界・職種への理解を深め、卒業後のキャリアを設計する。		
授業の目的及び概要	この授業では、春学期のキャリアデザイン A に続き、自分の将来の生き方・働き方を自分の興味や強みなどを見極めながら考え描き、その未来像を実現するために必要な技能と態度・姿勢について身につけることを目的とする。授業の目的を達成するために、講義をベースとしながらもペアワークやグループワークを適宜採り入れながら、授業を進める。 授業の概要としては、春学期に実施した「自己分析・自己理解」を踏まえ、自身の長所・短所を客観的かつ印象的に他者に「自己表現」ができるようにする。また、同じく春学期に実施した「業界研究入門」を深化させ、社会課題や学部進路として想定された業界、業界間のつながり等の多角的な視点から、業界・企業の特長を捉えたうえで自身の希望進路を見出す。さらに、SPI 対策の徹底（経法 SPI 模試の受験）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について客観性も踏まえて、他者に印象に残るように表現できる。 ②自身の将来や進路選択に主体性を持てており、希望進路を実現するための計画について具体的に考えることができる。 ③将来の進路選択に前向きであり、困難があっても適切なサポートを受けながら前に進む事ができる。 ④学部の進路として想定される業界について、業界間のつながりや特色を、理解し説明することができる。 ⑤社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ⑥SPI 対策の徹底（経法 SPI 模試の受験）により、採用選考への参加を確保出来る基礎力を固める。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）については、翌週の授業で質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	なし
参考書	業界地図（マイナビ発刊）（WEB 版）	ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講に	この授業での学修は将来の進路選択において重要な指標となるため、授業内で積極的に発言し、

あたって	課題に取り組むことを期待する。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【自己理解】ガイダンス 夏休みの振り返りを行い、授業概要についてガイダンスを実施する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【就業力】実践トレーニング①ES対策（１）ガクチカ 自分の経験を整理し、「学生時代に力を入れたこと」を、読み手・聞き手に印象に残るよう、文章および口頭で表現する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【就業力】実践トレーニング①ES対策（２）自己 PR 自分の経験を整理し、「自己 PR」を、読み手・聞き手に印象に残るよう、文章および口頭で表現する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	オンデマンド	■オンデマンド■ 【就業力】実践トレーニング①ES対策（３）文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【就業力】実践トレーニング ES①ES 対策　まとめ ※中間課題	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第６回	対面	【職業理解】企業研究入門①（1）業界・企業動向調査 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方を学び、企業・インターンシップ情報収集のポイントを理解する。 〔ゲストスピーカー／企業人による講話〕を予定。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【職業理解】企業研究入門①（２）業界・職種を知る 学部特性を踏まえ、企業が求める人材像を知り、グループディスカッションなどを通じて、同業他社比較の重要性や職種を知り、情報収集の重要性を理解する。 〔ゲストスピーカー／企業人による講話〕を予定。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【職業理解】企業研究入門①（３）業界・職種を知る 学部特性を踏まえ、企業が求める人材像を知り、グループディスカッションなどを通じて、同業他社比較の重要性や職種を知り、情報収集の重要性を理解する。 〔ゲストスピーカー／企業人による講話〕を予定。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第９回	対面	【就業力】実践トレーニング②グループディスカッション対策（１）実践練習 「グループディスカッション」の実践練習を通して、グループディスカッションの進め方を理解し、採用評価につなげる発言が	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		できるようにする。		
第１０回	対面	【就業力】実践トレーニング②グループディスカッション対策（２）実践練習 「グループディスカッション」の実践練習を通して、グループディスカッションの進め方を理解し、採用評価につなげる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【就業力】実践トレーニング③筆記選考対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。経法 SPI 模試に取り組み、採用選考に向けた基礎力を固める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング④面接対策（１）簡潔な自己表現 自己分析、企業研究をもとに企業が求める人材像に沿って、簡潔に自己表現する力を養う。グループワークでの相互評価を通じて自身の課題に気づく。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング④面接対策（２）集団面接実践 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【就業力】実践トレーニング④面接対策（３）集団面接実践 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ・期末課題 これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】１年間の授業を振り返り、３年次の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリアデザインＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	黒原　杏衣	配当年次	2
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	講義
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	日本企業への就職をめざす留学生が、自己理解・業界/企業研究・就活実践力を段階的に高め、「内定獲得」から「日本で働き続ける」キャリアを自律的に形成する。		
授業の目的及び概要	【P①】コミュニケーション力強化：「話す（やり取り）・話す（発表）」を毎回の授業に組み込む 【P②】就活スキル向上：履歴書（作成→添削→修正）反復練習・就活ミニテスト・ビジネスマナー・在留資格指導 【P③】幅広い学修機会：OB・OG ロールモデル活用・ガクチカ蓄積支援・課外活動の言語化 【P④】学内外支援行事との連動：インターンシップ・企業訪問体験、就活イベントなど就活材料に転換 【P⑤】長期キャリアビジョン：自己理解（ライフラインチャート・キャリアアンカー・RIASEC）活用・在留資格理解・早期離職防止・5～10 年後のキャリア設計		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	１．就活で特に重要な『話す（やり取り）・話す（発表）』を実践的に行うことができる。【P①】 ２．就職活動の選考プロセスを理解し、履歴書・ES 作成→添削→修正のサイクルを実践できる。【P②】 ３．就活行事・キャリアセンター・外国人雇用サービスセンターを活用し、企業説明会・インターンシップへの参加と体験を就活材料として活用できる。【P④】 ４．ビジネスマナー・ビジネス日本語・在留資格変更の知識を定着させ、選考突破に応用できる。【P②⑤】 ５．自己分析を深め、「内定獲得」から「日本で働き続ける」中長期キャリアビジョンを描ける。【P⑤】		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）を課し、適宜授業にてフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、人材採用コンサルティング企業での新卒・中途採用の営業、採用担当などの業務経験を有しており、現在はフリーランスとして独立し、採用コンサルティング・採用業務代行業、企業研修講師業など、多岐にわたる業務に従事している。国家資格キャリアコンサルタント所持者。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック，久保田学，日本能率協会マネジメントセンター，2022 年	ISBN	9784820729907
参考書	①　就職四季報 企業研究・インターンシップ版，東洋経済新報社，2027 年（図書館 DB で閲覧可） ②　会社四季報　業界地図，東洋経済新報社，2026 年（図書館 DB で閲覧可） ③　就職四季報 総合版，東洋経済新報社，2027-28 年度版（図書館 DB で閲覧可） ④　絶対内定 2027　自己分析とキャリアデザインの描き方，杉村太郎他，ダイヤモンド社，2025 年 ⑤　絶対内定 2027　エントリーシート・面接，杉村太郎，ダイヤモンド，2025 年 ⑥　絶対内定 2025-2027　インターシップ，藤本 健司，ダイヤモンド社，2023 年	ISBN	①　9784492974391 ②　9784492973356 ③　9784492971420 ④　9784478122297 ⑤　9784478122303 ⑥　9784478117552

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	日本就職を前提に、社会人・ビジネスパーソンとしての社会人基礎力を獲得しましょう。まず「遅刻をしない」「期限までに指定の方法で提出する」という基本的な習慣を身に着けることが出発点です。そのうえで、留学生であることの強み（多言語・多文化体験・異文化適応力）を活かした就活とは何かを考え、課題に取り組んでいきます。授業での学びは将来の進路選択において重要な指標となります。積極的に発言し、課題に主体的に取り組む姿勢を大切にしてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	▶ 秋学期オリエンテーション：授業概要・到達目標・評価方法・年間スケジュールの説明 ▷外国人雇用サービスセンターの活用方法を確認	【事前学習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、すべきことを確認する。	2 時間
第２回	対面	Ch6-1 ▶ テーマ：企業と出会う①　企業研究の方法とタイミング ▷日本のビジネス習慣①：時間管理・報告・連絡・相談（報連相）の文化【P⑤】	【事前学修】Ch6-1、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch6-1、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	Ch6-2 ▶ テーマ：企業と出会う②　インターンシップとは ▷日本のビジネス習慣②：挨拶・自己紹介・お辞儀のマナーを体験する	【事前学修】Ch6-2、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch6-2、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	Ch6-3 ▶ テーマ：企業と出会う③　先輩の情報を活用する ▷ビジネス日本語①：アポイントメントメールの件名・書き出し・結語のマナー【P②】	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	Ch6-4 ▶ テーマ：企業と出会う④　プレエントリー ・プレエントリーとは何か、目的・注意点・適切なエントリー数を理解する ・ES「志望動機」の初稿を作成【P①②】	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	オンデマンド	▶ 特別課題①（オンデマンド）：職業理解・「働き方改革」「ダイバーシティ＆インクルージョン（D&I）」の基本知識を動画・資料で学ぶ	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 働き方改革・ダイバーシティ＆インクルージョンについて考えてくるる。	4 時間
第７回	対面	中間課題	【事前学習】これまでの授業内で使用した配布資料等を読み直し、 中間課題への準備をする 【事後学修】次回の授業範囲を調べておく	6 時間
第８回	対面	Ch7-1 ▶ テーマ：企業と出会う⑤　会社説明会・	【事前学修】Ch7-1、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch7-1、授業内で使用した配布資料等を	4 時間

		セミナー ▹ビジネスマナー①:説明会での言葉遣い・質問の仕方・服装・身だしなみ【P②】	読み直し、 留学生用セミナー開催情報をネット等で調べる。	
第９回	対面	Ch7-2　Ch7-3 ▶ テーマ:企業を知る・選ぶ①　企業を選ぶ 6 つの視点 ▹就活日本語クイズ（メール・電話・敬語の基本表現）	【事前学修】Ch7-2、Ch7-3、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch7-2、Ch7-3、授業内で使用した配布資料等を読み直し、興味ある企業 HP から得られる 6 つの視点で情報を調べる。	4 時間
第１０回	対面	Ch7-4 ▶ テーマ:企業を知る・選ぶ②　9 つの企業類型 ・経営視点（安定性・成長性）と職場視点（働きやすさ・キャリアパス）で企業を分類する	【事前学修】Ch7-4、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch7-4、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	Ch7-5 ▶ テーマ:企業を知る・選ぶ③　企業分析フレームワーク 3C 分析 ・3C 分析（Customer 顧客・Competitor 競合・Company 自社）の考え方を学ぶ	【事前学修】Ch7-5、配布資料を事前に読んでおく。専門科目で学んだ 3C 分析を復習する。 【事後学修】Ch7-5、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 興味ある企業を数社選択しフレームワーク（3C 分析）をおこなう。	4 時間
第１２回	対面	▶【職業理解】特別講演②　ゲスト講師による特別講演（予定） ・日本企業の採用方針・仕事内容の講演	【事前学修】Ch7-6、配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】Ch7-6、授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	▶【専門学習とキャリア】先輩学生（留学生 OB・OG）による就活経験談 ・多様なキャリアパスをロールモデルとして学ぶ:大企業・中小企業・起業・国際機関等【P③】	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】授業内で使用した配布資料等を読み直し、 習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	Ch7-6～7-9 ▶ テーマ:企業を知る・選ぶ④　業界・企業研究まとめ ・仕事選びの基準（条件・理念・成長・環境など）を自分の価値観と照らし合わせ整理する	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】これまで授業内で使用した配布資料等を読み直し、期末課題に向けた資料準備。	4 時間
第１５回	対面	秋学期まとめ・期末課題 全体振り返り:内定獲得に向けた今後のアクションプラン作成	【事前学修】配布資料を事前に読んでおく。 【事後学修】1 年間の授業を振り返り、３年次の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリア演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	孟　慶廉	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学院進学および大学院入試に必要な基礎的能力を養成すること。		
授業の目的及び概要	本授業は、大学院進学を希望する外国人留学生を対象とし、大学院入試に必要な基礎的能力を養成することを目的とする。具体的には、研究分野および専攻の選択方法、研究テーマの設定、研究計画書および志望理由書の作成方法などについて学ぶ。また、日本の大学院制度や出願手続を理解するとともに、研究内容を論理的に説明する能力を養う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 自身の関心分野に基づき研究テーマを設定できる。 ② 研究分野・研究科・指導教員について自分で調査できる。 ③ 研究計画書の基本構成を理解し作成できる。 ④ 研究予定の内容を論理的に説明できる。 ⑤ 大学院進学に向けた具体的な準備計画を立てることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	45
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	
	本科目の学修にあたっては、各回の課題に積極的に取り組み、期限内に提出することが不可欠である。これらの課題に継続して取り組むことにより、大学院進学に必要とされる汎用的基礎力を着実に身につけることができる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス・進路希望の確認 授業の目的・進め方を説明し、受講生の進路希望（大学院進学の希望分野や研究関心）を確認する。大学院進学に必要な準備の全体像を概観する。	復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	日本の大学院制度の理解	予習：	4 時間

		日本の大学院制度（研究科・専攻、修士課程・博士課程）の基本構造を学び、大学院進学の意義や研究活動の特徴について理解する。	配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	
第３回	対面	研究分野・専攻の選択方法 自分の関心分野を整理し、研究分野や専攻をどのように選択するかを考える。研究テーマおよび研究課題の方向性を検討する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	大学院・指導教員の探し方 大学院・研究科・指導教員の調査方法を学ぶ。大学院のウェブサイトや研究者情報の調べ方を理解する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	募集要項の読み方・出願準備 大学院の募集要項を読み、出願条件、提出書類、試験方法などを理解する。出願準備のスケジュールを確認する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	法学研究の特徴法学研究の基本的な特徴（法解釈学、判例研究、比較法研究など）を理解し、研究テーマの設定にどのように結びつくかを学ぶ。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第７回	対面	研究テーマの設定方法研究テーマの設定方法について学び、自身の関心分野に基づいて研究課題を検討する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	研究計画書の基本構成 研究計画書の基本構成（研究目的、問題意識、先行研究、研究方法、研究の意義）について学ぶ。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第９回	対面	研究計画書作成①（テーマ・問題意識） 研究テーマと研究目的を整理し、研究計画書の骨子を作成する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	研究計画書作成②（研究方法・意義） 研究方法および研究の意義を検討し、研究計画書の内容を具体化する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	志望理由書の作成 大学院志望理由書の構成を学び、志望大学院や指導教員との関係を整理する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	研究計画書の発表 受講生が研究計画を発表し、討論を通じて研究計画の改善点を検討する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	大学院入試の口頭試問対策 大学院入試における口頭試問の形式や質問例を学び、研究内容を説明する練習を行	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習：	4 時間

		う。	授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	
第１４回	対面	模擬面接・模擬口頭試問 模擬面接または模擬口頭試問を行い、研究計画の説明能力を向上させる。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ・研究計画書の提出 授業全体を振り返り、最終的な研究計画書を提出する。今後の大学院進学準備について整理する。	予習： 春学期の学修に関する期末課題（研究計画書の作成）を実施するので、第 14 回までの内容を復習する。 復習： 春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	キャリア演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	芳中　千裕	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【職業理解】企業研究入門　業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 リクナビ担当者の解説（教室 ZOOM 中継）のもと、「ガクチカ AI アシスタント」を操作し、自動生成された素案を自分でブラッシュアップしていく方法を習得する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。就活ナビサイト、「リクナビ」の登録を完了しておく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第７回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

第９回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を１社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。（経法 SPI の受験）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第 14 回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	キャリア演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	玉利　有紀子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、国家資格キャリアコンサルタント等を有し、各種求職者セミナーや企業内研修における講師として活動しており、幅広い世代を対象にしたキャリア支援活動の実績と経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	30
	【定期試験】レポート試験	0
	【定期試験】筆記試験（対面）	0

	その他（%）	40
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【職業理解】企業研究入門　業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 リクナビ担当者の解説（教室 ZOOM 中継）のもと、「ガクチカ AI アシスタント」を操作し、自動生成された素案を自分でブラッシュアップしていく方法を習得する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。就活ナビサイト、「リクナビ」の登録を完了しておく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第７回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシート	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		について、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。		
第９回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を１社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。（経法 SPI の受験）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第 14 回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	キャリア演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	林　紫乃	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講に	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課

あたって	題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【職業理解】企業研究入門　業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 リクナビ担当者の解説（教室 ZOOM 中継）のもと、「ガクチカ AI アシスタント」を操作し、自動生成された素案を自分でブラッシュアップしていく方法を習得する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。就活ナビサイト、「リクナビ」の登録を完了しておく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第７回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第９回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、	4 時間

		の意図を理解する。応募企業を１社選び、志望動機の作成を進める。	習得した知識を確認する。	
第１０回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。（経法 SPI の受験）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第 14 回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	キャリア演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	芳中　千裕	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【職業理解】企業研究入門　業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 リクナビ担当者の解説（教室 ZOOM 中継）のもと、「ガクチカ AI アシスタント」を操作し、自動生成された素案を自分でブラッシュアップしていく方法を習得する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。就活ナビサイト、「リクナビ」の登録を完了しておく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第７回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

第９回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を１社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。（経法 SPI の受験）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第 14 回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	キャリア演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	玉利　有紀子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することを目的とし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる。 ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持っており、ある程度自分で考え、対処ができる。又、必要な際は助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について、理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、国家資格キャリアコンサルタント等を有し、各種求職者セミナーや企業内研修における講師として活動しており、幅広い世代を対象にしたキャリア支援活動の実績と経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0

	その他（%）	40
	その他の内容	0
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。	【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【職業理解】企業研究入門　業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学ぶ。関心を持った企業へ実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数、企業や官公庁自治体を選定することについて、クラス内で発表する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて① 就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 リクナビ担当者の解説（教室 ZOOM 中継）のもと、「ガクチカ AI アシスタント」を操作し、自動生成された素案を自分でブラッシュアップしていく方法を習得する。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。就活ナビサイト、「リクナビ」の登録を完了しておく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第７回	対面	【就業力】文章表現力養成講座「読み手に伝わる文章を書こう」（特別講演） 報道記者や人事局などマスコミ業界で幅広い活躍経験をもつゲストスピーカーが、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第８回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシート	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		について、読み手・聞き手に印象に残るよう推敲する。		
第９回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 志望動機の評価ポイントを知り、採用者側の意図を理解する。応募企業を１社選び、志望動機の作成を進める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。（経法 SPI の受験）	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動、公務員試験準備に向けて、これからやるべきことについて整理する。 ※期末課題提出	【予習】春学期の学修に関する期末課題（エントリーシートの作成）を実施するので、第 14 回までの内容を復習する。 【復習】春学期の授業を振り返り、秋学期に向け行動計画を立てる。	4 時間

科目名	キャリア演習Ａ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	黒原　杏衣	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 A では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてグループワークを中心に授業を進める。この科目では、主に「自己分析」、「業界・企業研究」、「志望動機作成」に取り組む。 自己を客観的に捉え、論理的に表現する力を身に付けながら、企業研究や業界研究などを通じて産業への知識を深めることで、自らの強みと職業とをリンクさせる志望動機の素地を形成し、職業人となるための基礎力を養成する。 授業においては、双方向型実践型形式を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機アピール、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自分自身の長所や短所について、日本語で根拠や具体的な経験に基づいて説明ができる ②社会課題や業界・企業について主体的に研究・探索を行うと共に、多角的な視点を持って思考することができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略で対処ができ、自身の体験を基に周りに助言を求めることができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、留学生として求められる人材像を理解し説明することができる。 ⑥インターンシップに向けて具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、人材採用コンサルティング企業での新卒・中途採用の営業、採用担当などの業務経験を有しており、現在はフリーランスとして独立し、採用コンサルティング・採用業務代行業、企業研修講師業など、多岐にわたる業務に従事している。国家資格キャリアコンサルタント所持者。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック，久保田学，日本能率協会マネジメントセンター，2022 年	ISBN	9784820729907
参考書	①　就職四季報 企業研究・インターンシップ版，東洋経済新報社，2027 年（図書館 DB で閲覧可） ②　会社四季報　業界地図，東洋経済新報社，2026 年（図書館 DB で閲覧可） ③　就職四季報 総合版，東洋経済新報社，2027-28 年度版（図書館 DB で閲覧可） ④　絶対内定 2027　自己分析とキャリアデザインの描き方，杉村太郎他，ダイヤモンド社，2025 年 ⑤　絶対内定 2027　エントリーシート・面接，杉村太郎，ダイヤモンド，2025 年 ⑥　絶対内定 2025-2027　インターシップ，藤本 健	ISBN	①　9784492974391 ②　9784492973356 ③　9784492971420 ④　9784478122297 ⑤　9784478122303 ⑥　9784478117552

	司，ダイヤモンド社，2023 年		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	・本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動に必要な汎用的基礎力が着実に身に付いてくる。 ・なお、テキストは秋学期も使用する。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス 雇用情勢、採用活動スケジュール、授業の流れ等についてガイダンスを行い、自らの経験の棚卸に取り組む。 自己分析ワーク　ガクチカ①	【事後学修】テキスト該当箇所を読み復習。	2 時間
第２回	対面	【職業理解】企業研究入門　業界理解 企業の採用説明会動画を視聴し、業界理解を深める。グループワークを通して、業界・企業研究の方法や情報収集の重要性について理解する。 自己分析ワーク　ガクチカ②	【事前学習】興味のある業界・企業研究の方法や情報収集 【事後学修】収集した業界・企業の情報について、さらにふかく調べる	4 時間
第３回	対面	【職業理解】企業研究入門 企業の探し方、求人票の見方 ナビサイトを活用し、インターンシップ参加に向けて、企業の探し方と求人票の見方を学び、求人 NAVI を活用し、留学生を積極採用する企業情報と求人票を検索する。関心を持った企業へは実際にエントリーを行い、企業研究を行う。情報収集のポイントや調べ方を、実践を通して理解する。 業界研究ワークシート①／企業研究ワークシート①	【事前学習】ナビサイトのサイトの確認、登録をしておく 【事後学修】ワークシートの完成	4 時間
第４回	対面	【職業理解】インターンシップでターゲットにする業界・企業の選定 ターゲットにする業界を複数選定することについて、クラス内で発表する。 [OB・OG ローモデル紹介]、業界研究ワークシート②／企業研究ワークシート②	【事前学習】ターゲットにする企業を複数調べてくる 【事後学修】ワークシートの完成	4 時間
第５回	対面	【就業力】対象企業へのアプローチ／ディスカッション インターンシップを公募している企業ばかりではないため、志望企業が公募していない場合に、就活も睨んでどのような企業にどのようにアプローチすべきかを考える。 業界研究ワークシート③／企業研究ワークシート③	【事前学習】インターンシップのある企業、ない企業を調べてくる 【事後学修】ワークシートの完成	4 時間
第６回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて①	【事前学習】自分のこれまでの経験をまとめてくる 【事後学修】ワークシートの完成	4 時間

		就職活動で求められるエントリーシートの作成に向けて、自身の経験の棚卸し、言語化を行う。 ガクチカ・自己 PR 作成ワーク①		
第7回	対面	【自己理解】エントリーシートの作成に向けて② 就職活動で求められるエントリーシートについて日本語で読み手、聞き手に印象に残るような内容、話しかたを学ぶ ガクチカ・自己 PR 作成ワーク②	【事前学習】エントリーシートの推敲をすすめて、完成する 【事後学修】ワークシートの完成	4 時間
第8回	対面	【就業力】読み手に伝わる文章を書く 幅広い実務経験をもつ講師が、読み手に伝わる文章を書くためのポイントを具体的に解説する。 ※中間課題提出	【事前学習】中間課題に向けてこれまでの授業内容をふり返り準備する 【事後学修】次回の授業範囲を調べておく	6 時間
第9回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】実践トレーニング　グループディスカッション 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。 夏季インターンシップにエントリー	【事前学習】専攻（メジャー）をどのように将来生かすかを考えてくる 【事後学修】インターンシップのエントリーを完了する	4 時間
第１０回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】適性検査対策 採用試験で実施される適性検査について理解する。（経法 SPI の受験）	【事前学習】SPI の取り組み 【事後学修】SPI 復習	4 時間
第１１回	対面	在留資格変更の正確な理解	【事前学習】在留資格認定証明書の確認と卒業後の進路を考えてくる 【事後学修】志望進路と在留資格の種類を調べてくる	4 時間
第１２回	対面	【自己理解】志望動機を考える① 応募企業の選定と志望動機作成を進め、グループワークを通じて、作成した志望動機の足りない点や課題に気づき、改善を行う。	【事前学習】志望動機を作成してくる 【事後学修】作成した志望動機の足りない点や課題を補足し完成する	4 時間
第１３回	対面	【自己理解】志望動機を考える② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【事前学習】集団面接で必要なポイントを調べておく 【事後学修】エントリーする企業の入社試験を形式を調べる	4 時間
第１４回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接（WEB 含む）特有の雰囲気に慣れるとともに、日本語で簡潔に自己表現する力を養う。	【事前学習】面接トレーニングでの課題を踏まえ、話す練習をする。 【事後学修】面接での振る舞いや言葉遣いを確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ 春学期全体を振り返り、自身の課題への対応や今後の就職活動に向けて、これからやるべきことについて整理する。	【事前学習】これまでの授業内容、資料をふり返り、課題についてまとめてくる。 【事後学修】秋学期からのアクションプランを考える。	4 時間

科目名	キャリア演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	孟　慶廉	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	大学院進学および大学院入試に必要な基礎的能力を養成すること。		
授業の目的及び概要	本授業は、大学院進学を希望する外国人留学生を対象とし、大学院入試に必要な実践的能力を養成することを目的とする。前期の授業で検討した研究テーマおよび研究計画書を基礎として、研究課題の明確化、先行研究の整理、研究方法の検討などを行い、研究計画書の内容をより具体的かつ論理的に発展させる。また、研究内容の発表や質疑応答の演習を通じて、大学院入試における口頭試問や面接に対応できる能力を養う。さらに、志望理由書の作成や出願準備についても取り上げ、受講生が大学院進学に向けて必要な準備を計画的に進めることができるよう指導する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	① 自身の研究テーマおよび研究課題を明確にし、その学術的意義を説明することができる。 ② 先行研究を踏まえて研究計画を論理的に整理し、研究計画書を作成することができる。 ③ 志望理由書を作成し、志望大学院および指導教員との関係を説明することができる。 ④ 研究内容を口頭で説明し、質疑応答に適切に対応することができる。 ⑤ 大学院進学に向けた出願準備を主体的に進めることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）は、翌週の授業で返却し、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	45
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって
本科目の学修にあたっては、各回の課題に積極的に取り組み、期限内に提出することが不可欠である。これらの課題に継続して取り組むことにより、大学院進学に必要とされる汎用的基礎力を着実に身につけることができる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	ガイダンス・出願準備の確認 授業の目的と進め方を説明する。あわせて、大学院入試の時期や出願スケジュー	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習：	2 時間

		ル、必要書類などを確認し、受講生が早い段階から進学準備を進められるよう整理する。	授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	
第２回	対面	研究テーマの再検討 研究テーマを再検討し、研究課題をより明確にする。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	先行研究の整理 先行研究を整理し、研究課題との関係を検討する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	研究問題の明確化 研究目的や研究問題を明確にし、研究の方向性を整理する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	対面	研究方法の検討 研究テーマに応じた研究方法を検討する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	研究計画書の構成確認 研究計画書の構成を確認し、論理構成を整理する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	研究計画書作成① 研究計画書の内容を具体化する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第８回	対面	研究計画書作成② 研究計画書の論理構成を改善する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第９回	対面	研究計画書の発表① 研究計画を発表し、コメントを受ける。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	研究計画書の発表② 研究計画の発表を継続し、内容を改善する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	志望理由書の改善 志望理由書を作成・修正する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	研究プレゼンテーション 研究計画を口頭で説明する練習を行う。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した	4 時間

			知識を確認する。	
第１３回	対面	大学院入試の口頭試問対策 口頭試問の質問例を検討し、応答練習を行う。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	模擬口頭試問 大学院入試を想定した模擬口頭試問を行う。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	オンデマンド	まとめ・最終研究計画書の提出 授業全体を振り返り、最終的な研究計画書を提出する。	予習： 配布資料を事前に読んでおく。 復習： 授業全体を振り返り、大学院進学に向けた今後の研究計画および出願準備を整理する。	4 時間

科目名	キャリア演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	玉利　有紀子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、国家資格キャリアコンサルタント等を有し、各種求職者セミナーや企業内研修における講師として活動しており、幅広い世代を対象にしたキャリア支援活動の実績と経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門　企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第８回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。		
第９回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1 年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリア演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	芳中　千裕	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力

	が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門　企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第８回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるように	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		する。		
第９回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1 年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリア演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	林　紫乃	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門　企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第８回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

第９回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1 年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリア演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	芳中　千裕	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業での採用面接や新入社員の研修などの業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力

	が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門　企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第８回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるように	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		する。		
第９回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1 年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリア演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	玉利　有紀子	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。このうちこの科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。希望進路の実現には個人に合わせた事前準備が重要となるため、演習形式の授業を通じて就活準備を始めておくことで、自己理解や企業理解が進み、納得のいく就職活動を進めることができる。 授業において、双方向型実践型形式、課題解決型授業（PBL）を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機形成力、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか具体的且つ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動ができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略を持ち対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、求められる人材について理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、活動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、国家資格キャリアコンサルタント等を有し、各種求職者セミナーや企業内研修における講師として活動しており、幅広い世代を対象にしたキャリア支援活動の実績と経験を有している。本科目では、これらの実務経験を活かして、自己理解・社会理解・職業理解に関する具体的な指導を行う。		
テキスト	市販テキストは使用せず、動画の視聴やプリントを配付し、授業を進める。	ISBN	—
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	15
授業期間中の小テスト、レポート課題等	15
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	30
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	40
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動や公務員採用試験に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の取り組みを振り返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、実践力を高める。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	2 時間
第２回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる発言ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第５回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第６回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】企業研究入門　企業実務家から業界・職種を知る（特別講演） 学部特性に合わせた企業実務家による特別講演を行い、業界・職業理解と求められる人物像を知る。また、講演者の学生時代から現在までの職業観に触れることで、業界研究や同業他社比較などの情報収集の重要性を理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第７回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	6 時間
第８回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間

		自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。		
第９回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる自己表現ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１０回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１１回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】授業内で使用した配布資料等を読み直し、習得した知識を確認する。	4 時間
第１５回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【予習】配布資料を事前に読んでおく。 【復習】1 年間の授業を振り返り、今後の就職活動に備える。	4 時間

科目名	キャリア演習Ｂ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	黒原　杏衣	配当年次	34
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	希望進路の実現に向けて、就業力の向上をはかる。		
授業の目的及び概要	キャリア演習 B では、卒業後の進路を主体的かつ能動的に決定するために必要な就業力を養成することをねらいとし、演習の特性を活かしてワークを中心に授業を進める。この科目では、就職活動に際しての実践力養成を行うことを目的とする。 授業においては、双方向型実践型形式を行う。例えば、グループディスカッション、志望動機アピール、集団面接、個人面接など実践を通して学ぶ。 また、授業後半には、進路を決定した 4 年生が「キャリアメンター」として参画し、アドバイス等を行う。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①自身の強みを将来どのように活かしたいか日本語で具体的かつ効果的に述べることができる。 ②社会課題や業界・企業について、主体的に研究・探索し、思考を深めると共に自身の志望動機や将来のキャリア展望と結びつけて表現ができる。 ③自身の希望進路を実現するための計画について、自律的且つ具体的に考え、行動することができる。 ④困難に直面した際も自身で乗り越えるマインドや戦略で対処ができ、自身の体験談を基に周りに助言を行うことができる。 ⑤学部の進路として想定される業界の特色、留学生として求められる人材像を理解し、説明することができる。 ⑥就活本番に向けて、具体的に業界・企業を絞り、戦略を立てて、行動することができる。 ⑦就活で、採用評価につながる発言を行うことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出物（コメントシート等）等、質問への回答や補足説明をする。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、人材採用コンサルティング企業での新卒・中途採用の営業、採用担当などの業務経験を有しており、現在はフリーランスとして独立し、採用コンサルティング・採用業務代行業、企業研修講師業など、多岐にわたる業務に従事している。国家資格キャリアコンサルタント所持者。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	改訂版 留学生のための就職内定ワークブック，久保田学，日本能率協会マネジメントセンター，2022 年	ISBN	9784820729907
参考書	①　就職四季報 企業研究・インターンシップ版，東洋経済新報社，2027 年（図書館 DB で閲覧可） ②　会社四季報　業界地図，東洋経済新報社，2026 年（図書館 DB で閲覧可） ③　就職四季報 総合版，東洋経済新報社，2027-28 年度版（図書館 DB で閲覧可） ④　絶対内定 2027　自己分析とキャリアデザインの描き方，杉村太郎他，ダイヤモンド社，2025 年 ⑤　絶対内定 2027　エントリーシート・面接，杉村太郎，ダイヤモンド，2025 年 ⑥　絶対内定 2025-2027　インターシップ，藤本 健司，ダイヤモンド社，2023 年	ISBN	①　9784492974391 ②　9784492973356 ③　9784492971420 ④　9784478122297 ⑤　9784478122303 ⑥　9784478117552

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	30
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	本科目の学修にあたっては、課題への積極的取り組みと課題提出が不可欠である。これらの課題にしっかりと取り組んでいれば、就職活動に必要な汎用的基礎力、就業力が着実に身に付いてくる。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	【就業力】ガイダンス・夏休みの振り返り 夏休み中の活動をふり返り、今後の就職活動の目標とスケジュールを確認し、具体的な行動へと結びつける。 秋冬インターンシップにエントリーへの準備	【事後学修】インターンシップエントリーに向けて、ナビサイトの登録の確認、興味ある企業をリストアップ	4 時間
第２回	対面	【就活戦略】就活本番に向けて、インターンシップの参加経験を踏まえて、ターゲットを再設定する。 ターゲットにする業界、企業を、インターンシップ経験を踏まえて、再設定する。 秋冬インターンシップにエントリー（続）。	【事前学習】興味ある企業を絞り込み、インターンシップ内容を確認する 【事後学修】企業へのエントリーをおこなう。	4 時間
第３回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション① 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる日本語で発言ができるようにする。 秋冬インターンシップにエントリー（続）。	【事前学習】グループディスカッションでの課題を確認しておく 【事後学修】インターンシップエントリーを完了する	4 時間
第４回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解 】実践トレーニング　グループディスカッション② 学部特性に合わせ、採用選考で実施されるグループディスカッションのテーマを想定し、実践練習に取り組む。特に集団内で採用評価につながる日本語で発言ができるようにする。	【事前学習】グループディスカッションでの課題を確認しておく 【事後学修】役割、話し方の手順、テーマごとの話題の確認する	4 時間
第５回	オンデマンド	■オンデマンド■【就業力】特別講演：ビジネスマナーの基本（プロカメラマンによる「外見力」講座） プロの写真家が、動画選考や証明写真における表情・髪型等による印象の違いや、選考での印象面の重要性について講演を行う。業界・企業の特徴を踏まえ、外見力で自己表現する面白さ等について、具体的に解説する。	【事前学修】講義資料を読み、課題を解く 【事後学修】講義内容の復習	2 時間
第６回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接① 「集団面接」の実践練習を通して、集団面	【事前学修】テキスト該当箇所を読み予習・復習。 【事後学修】SPI 演習。	4 時間

		接特有の雰囲気に慣れるとともに、日本語で簡潔に自己表現する力を養う。特に集団内で採用評価につながる表現ができるようにする。 SPI 練習。		
第7回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接② 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。特に採用評価につながる表現ができるようにする。 SPI 練習。	【事前学習】テキスト該当箇所を読み予習・復習。 【事後学修】SPI 復習。	6 時間
第8回	対面	【専門を学ぶことによる自身の強みの理解】業界および企業研究を深め、また、職能、職種を知る。 SPI 練習。	【事前学習】テキスト該当箇所を読み予習・復習。 【事後学修】SPI 復習。	4 時間
第9回	対面	【職業理解】就職活動とキャリア これまでの学習を通じて得られた学びから、自身の希望進路を実現するために必要なことについて内省し、まとめる。 ※中間課題提出	【事前学習】テキスト該当箇所を読み予習 【事後学修】テキスト該当箇所を読み復習。	4 時間
第１０回	対面	【就業力】実践トレーニング　集団面接③ 「集団面接」の実践練習を通して、集団面接特有の雰囲気に慣れるとともに、簡潔に自己表現する力を養う。 採用評価につながる自己表現ができるようにする。 SPI 練習。	【事前学修】テキスト該当箇所を読み予習・復習。 【事後学修】SPI 復習。	4 時間
第１１回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接① 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。 SPI 練習。	【事前学習】テキスト該当箇所を読み予習・復習。 【事後学修】SPI 復習。	4 時間
第１２回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接② 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。 SPI 練習。	【事前学習】テキスト該当箇所を読み予習・復習。 【事後学修】SPI 復習。	4 時間
第１３回	対面	【就業力】実践トレーニング 個人面接③ 「個人面接」について、その意図や評価ポイントを理解する。実践練習を通して、個人面接における対話力をつける。特に採用評価につながる対話ができるようにする。 SPI 練習。	【事前学修】テキスト該当箇所を読み予習・復習。 【事後学修】SPI 復習。	4 時間
第１４回	対面	【職業理解】労働法について 内定後～入社まで、入社前後の基本的な労働に関する法律に関して理解する。 SPI 練習。	【事前学修】別途準備する資料を事前に読んでおく。 【事後学修】SPI 復習。	4 時間
第１５回	対面	まとめ これまで学修してきた内容について振り返りを行い、総括する。 ※期末課題提出	【事前学習】秋学期の学修に関する期末課題を実施するので、第 14 回までの内容を復習する。 【事後学修】2 月から 6 月にかけての内定獲得へのアクションプランを考える	4 時間

科目名	海外インターンシップ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	金　亮完	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	アメリカ、韓国、東南アジアでの就業体験を通じて異文化理解を深め、グローバルマインドを養う。		
授業の目的及び概要	海外インターンシップは、授業のない夏季休暇期間（８・９月）において、アメリカ、韓国、東南アジアにある企業等にて就業体験をするプログラムである。海外での実習を通じて将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成するとともに、グローバル人材で求められる素養や態度、価値観について理解を深める。海外の企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内での事前ガイダンス受講を必須とする。 授業の目的は、海外の企業・事業所等における就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を目指すことである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	海外の企業・事業所等における就業体験を行い、大学における学修と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、異文化社会における就業体験により、海外でのワークスタイル、海外勤務の職務特性、現地スタッフとの協働について理解を深め、グローバル人材で求められる素養や態度、価値観を培う。また、外国語コミュニケーション能力の向上、国際的視野の涵養、海外で活躍できるグローバル人材への準備、そして、最終的には日本国内外での広いフィールドで活躍することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	企業担当者によって、口頭や実習中に作成する日誌へのコメントで行われる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	指定テキストはありません。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	0
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	
その他の内容	

この科目の受講にあたって	海外現地での円滑なコミュニケーションには、一定レベルの外国語コミュニケーション能力が必要。そのため、派遣先の国に応じて研修前か研修後の TOEIC®（IP も可）あるいは TOPIK の受験を強く推奨する。 この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、海外インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、海外インターンシップは国内でのインターンシップと同様に、社会人としてのマナーが厳しく問われる。さらに、派遣先地域・国の治安状況は比較的安定しているものの、日本国内とは異なることを肝に銘じておくこと。そのため、プログラム全般において、緊張感を持って

	臨むこと。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション・ガイダンス 授業の目的、授業の進め方、成績評価の方法など、授業の概要を説明する。併せて、インターンシップの意義と目的について概要を説明する。	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。(30 分程度) 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。(30 分程度)	1 時間
第２回	対面	事前研修①（ビジネスマナー講座） ゲスト講師による講義とグループワークを通じて、ビジネス社会で求められる素養、ビジネスマナー、コミュニケーションスキルを養い、社会人にとって必要な素養・能力等を理解する。	【予習】事前学修として、社会人として求められる素養、ビジネスマナー、コミュニケーションスキルについて確認しておく。(30 分程度) 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。(30 分程度)	1 時間
第３回	対面	事前研修②（現地事情理解講座） ゲスト講師による講義を通じて渡航先の政治・経済事情、文化、歴史に関する理解を深める。	【予習】事前学修として、現地の歴史・文化・経済などの情報や治安に関する新聞・ニュースに接し、雇用や社会情勢に関心を高めておく。(30 分程度) 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。(30 分程度)	1 時間
第４回	対面	事前研修③（危機管理講座） 海外の治安状況を踏まえ、危機管理に対する基本事項を理解する。	【予習】事前学修として、現地の歴史・文化・経済などの情報や治安に関する新聞・ニュースに接し、雇用や社会情勢に関心を高めておく。(30 分程度) 【復習】事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。(30 分程度)	1 時間
第５回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習①（1 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30 分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30 分程度)	1 時間
第６回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習②（2 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30 分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30 分程度)	1 時間
第７回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習③（3 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30 分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30 分程度)	1 時間
第８回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習④（4 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30 分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30 分程度)	1 時間
第９回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑤（5 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30 分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習	1 時間

		を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30 分程度)	
第１０回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑥（6 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30 分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30 分程度)	1 時間
第１１回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑦（7 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30 分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30 分程度)	1 時間
第１２回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑧（8 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30 分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30 分程度)	1 時間
第１３回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑨（9 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30 分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。(30 分程度)	1 時間
第１４回	対面	海外インターンシップ派遣先企業等において実習⑩（10 日目） 海外インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身につけ、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。(30 分程度) 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。(30 分程度)	1 時間
第１５回	対面	レポート作成・提出 企業実習の総括を行うことで、海外インターンシップの成果と課題を認識する。	【予習】事前学習として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。(30 分程度) 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。(30 分程度)	1 時間

科目名	公務員特別演習ⅢＢ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	雑喉　浩久	配当年次	4
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	2 単位
グレード	G4	授業方法	演習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	「全体の奉仕者」として社会貢献ができ、即戦力として活躍できる人材の育成		
授業の目的及び概要	公安職を目指す学生が、「全体の奉仕者」として誇りと使命感をもって国家と社会に貢献できる人材、即戦力として活躍するために必要な心構え・知識・技能・素養を身に付けた人材へと成長することを目的としています。 志望先組織の研究、その組織を取り巻く情勢や諸課題に関する研究を通じて、それらに必要な課題解決能力、危機管理能力を重点的に養います。 また、採用試験合格者には即戦力としての人材への成長に重点をおいた指導を、再受験者には合格のための対策に重点をおいた指導を行います。		
履修条件・留意点	原則として、公務員特別演習ⅢA の本クラス履修生とします。 就職志望先の変更等によるクラス替えや履修取消については、担当教員との協議等により検討します。		
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	①　社会人、公安職公務員としての基礎的な素養を身に付ける。 ②　志望先組織の概要、それを取り巻く情勢や当面の諸課題を理解する。 ③　志望先組織の一員としての立場で、現状や課題について考える。 ④　志望先組織の国及び都道府県における諸課題に対して、自己の意見等を文章化、言語化できる力を身に付ける。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題研究の発表や実践的なワークの結果については、授業中に解説や講評を行います。 コメントシートへの質疑等については、次回授業で回答や補足を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、警察官として 38 年間勤務し、警察署副署長まで務めた実績を有する。また、警察学校において後進の教育経験も有している。本科目では、これら警察官の実務経験、警察学校での教育経験を生かした授業を行う。		
テキスト	テキストは指定しません。 必要により担当教員から資料等を適宜配布します。	ISBN	なし
参考書	①公務就職ナビブック(公務就職支援室等編著) ②警察白書(警察庁ホームページ) ③消防白書(総務省消防庁ホームページ) ④防衛白書(防衛省ホームページ) ⑤犯罪白書(法務省ホームページ)　　等	ISBN	なし

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	60
授業期間中の小テスト、レポート課題等	20
成果発表（口頭・実技）	0
中間試験	0
【定期試験】レポート試験	0
【定期試験】筆記試験（対面）	0
その他（%）	20
その他の内容	0

この科目の受講にあたって	敢えて厳しい職業を目指す学生が共に刺激し合い、励まし合いながら目標に向けてモチベーションを維持できるよう頑張っていきましょう。

	日ごろから新聞記事やニュースを注視し、治安情勢や志望先組織の動向等に関する情報収集と自身の意見を考えておきましょう。 ・私語、授業と無関係な電子機器（PC やスマホなど）の使用は厳禁とします。違反者に対しては厳しく対応します。なお、授業に関する調査・検討等で特に教員から使用許可があった場合はこの限りではありません。 ・各回授業の課題例については、担当教員により異なることがあります。 ・課題提出等(オンデマンド授業)については、諸般の事情により実施日を変更する場合があります。 ・現職の公安職公務員等外部講師を招聘することがあります。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	秋学期授業の進め方 受験結果、今後の試験日程と受験予定等の再確認	【予習】受験結果、今後の試験日程等に基づき、自身の今後の就活、受験予定について十分に検討しておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項をノート等にまとめ、今後の方針を決定する。	4 時間
第２回	対面	就業力向上と人物評価対策１ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第３回	対面	就業力向上と人物評価対策２ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第４回	対面	就業力向上と人物評価対策３ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第５回	対面	就業力向上と人物評価対策４ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第６回	対面	就業力向上と人物評価対策５ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第７回	対面	就業力向上と人物評価対策６ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　組織課題、時事問題等」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	4 時間
第８回	対面	就業力向上と人物評価対策７ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。	4 時間

		「課題例　組織課題、時事問題等」	【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	
第９回	対面	即戦力としての人材への成長１ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業先組織に関連する基本的な法令」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１０回	対面	即戦力としての人材への成長２ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業先組織に関連する基本的な法令２」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１１回	対面	即戦力としての人材への成長３ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業に向けての決意・覚悟等１」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１２回	対面	即戦力としての人材への成長４ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業に向けての決意・覚悟等２」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１３回	対面	即戦力としての人材への成長５ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　就業に向けての決意・覚悟等３」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１４回	対面	即戦力としての人材への成長６ 講義・グループ討議・グループワークによる研究等 「課題例　後輩に向けて（受験の成功と失敗、後輩に伝えたいこと等）」	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を発表できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導・添削された事項等に基づいて検証し、理解を深めておく。	４時間
第１５回	オンデマンド	大学４年間の総括等 （課題提出等）	【予習】担当教員から事前に示された課題等に関する研究を行い、自身の意見を表明できるようにしておく。 【復習】授業において得た情報や知識、担当教員から指示・指導された事項等に基づいて振り返りを行い、社会人としての将来設計を立てる。	４時間

科目名	インターンシップⅠ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	金　亮完	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	インターンシップ（就業体験学習）を通じて社会、働く意味、そして自分を知る。		
授業の目的及び概要	インターンシップでは、授業のない夏季休暇期間（８・９月）において、企業や地方公共団体などでの実習（＝就業体験）を行うもので、実習を通じて社会や職業への理解を深め、将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成する。企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内で事前のガイダンスもしくは研修を経て、インターンシップの意義・目的についての理解を深めた後、受入事業所において、1 週間（実働５日間）以上の実習を行う。実習終了後、体験レポートを作成することで、インターンシップでの成果と課題を認識する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	企業・団体・事業所等における一定期間の就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、主体的な職業選択に向けた動機づけを行うとともに、社会観・職業観を含む就業力を育成し、希望進路の実現に不可欠な就職活動に対する意識を高めることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	企業担当者によって、口頭や実習中に作成する日誌へのコメントで行われる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	指定テキストはありません。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	—
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	—
【定期試験】レポート試験	—
【定期試験】筆記試験（対面）	—
その他（%）	—
その他の内容	—

この科目の受講にあたって	＜重要＞この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、インターンシップは実習先において社会人としてのマナーが厳しく問われる。そのため、欠席・遅刻・早退は論外である。自覚して臨んでほしい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。	１時間

第２回	対面	事前研修	【予習】事前学修として、社会人としての素養・マナー・コミュニケーションスキルについて確認しておく。 【復習】事後学修として、事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。	1 時間
第３回	対面	インターンシップ派遣先等において実習①（1 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、その内容を業務報告として実習日誌を作成することで、業務の理解や社会のしくみ、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第４回	対面	インターンシップ派遣先等において実習②（2 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第５回	対面	インターンシップ派遣先等において実習③（3 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第６回	対面	インターンシップ派遣先等において実習④（4 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第７回	対面	インターンシップ派遣先等において実習⑤（5 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。	1 時間
第８回	対面	体験レポートの作成・提出 インターンシップ派遣先企業等にて行った就業体験について、体験レポートを作成し、インターンシップでの成果と課題を振り返り、社会人として必要なビジネススキル等について復習を行う。	【予習】事前学修として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。	6 時間

科目名	インターンシップⅡ	開講年度	2026 年度春学期
担当者	金　亮完	配当年次	1234
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/numbering.html	単位数	1 単位
グレード	G2	授業方法	実習
科目区分	法学部専門教育科目		
テーマ	インターンシップ（就業体験学習）を通じて社会、働く意味、そして自分を知る。		
授業の目的及び概要	インターンシップでは、授業のない夏季休暇期間（８・９月）において、企業や地方公共団体などでの実習（＝就業体験）を行うもので、実習を通じて社会や職業への理解を深め、将来の進路や職業の選択に向けた社会観・職業観を養成する。企業、団体、事業所等への派遣にあたっては、学内で事前のガイダンスもしくは研修を経て、インターンシップの意義・目的についての理解を深めた後、受入事業所において、1 週間（実働５日間）以上の実習を行う。実習終了後、体験レポートを作成することで、インターンシップでの成果と課題を認識する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	本科目と学位授与の方針（ＤＰ）との関連については、以下の URL から確認してください。 https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/taken/curriculummap.html		
学修の到達目標	企業・団体・事業所等における一定期間の就業体験を行い、大学における学習と社会での実習経験を結びつけることで、将来の社会的・職業的自立を意識できるようになる。さらに、主体的な職業選択に向けた動機づけを行うとともに、社会観・職業観を含む就業力を育成し、希望進路の実現に不可欠な就職活動に対する意識を高めることができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	企業担当者によって、口頭や実習中に作成する日誌へのコメントで行われる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	指定テキストはありません。
参考書		ISBN	

成績評価の方法・基準	
授業への積極的な参加度・取組み	50
授業期間中の小テスト、レポート課題等	—
成果発表（口頭・実技）	50
中間試験	—
【定期試験】レポート試験	—
【定期試験】筆記試験（対面）	—
その他（%）	—
その他の内容	—

この科目の受講にあたって	＜重要＞この科目を履修する際には、必ず、キャリアセンターで開催する説明会に参加して、インターンシップの基本的な意義目的について理解しておくこと。 なお、インターンシップは実習先において社会人としてのマナーが厳しく問われる。そのため、欠席・遅刻・早退は論外である。自覚して臨んでほしい。

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第１回	対面	イントロダクション	【予習】事前学修として、シラバス等の内容を確認しておく。 【復習】事後学修として、説明があった内容について再確認しておく。	1 時間

第２回	対面	事前研修	【予習】事前学修として、社会人としての素養・マナー・コミュニケーションスキルについて確認しておく。 【復習】事後学修として、事後学修として、講義とグループワークの内容について再確認しておく。	1 時間
第３回	対面	インターンシップ派遣先等において実習①（1 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、その内容を業務報告として実習日誌を作成することで、業務の理解や社会のしくみ、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第４回	対面	インターンシップ派遣先等において実習②（2 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第５回	対面	インターンシップ派遣先等において実習③（3 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第６回	対面	インターンシップ派遣先等において実習④（4 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、次の就業体験に活かしていく。	1 時間
第７回	対面	インターンシップ派遣先等において実習⑤（5 日目） インターンシップ派遣先企業等にて就業体験を行い、業務報告として実習日誌を作成することで、社会人としての行動規範を身に着け、ビジネスに関する基本的な素養を培う。	【予習】事前学修として、引き続き派遣先に関わる業界の最新動向や今後の展望などについて調べる。 【復習】事後学修として、就業体験結果について実習日誌にまとめ、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。	1 時間
第８回	対面	体験レポートの作成・提出 インターンシップ派遣先企業等にて行った就業体験について、体験レポートを作成し、インターンシップでの成果と課題を振り返り、社会人として必要なビジネススキル等について復習を行う。	【予習】事前学修として、これまでの実習内容の振り返りを行い、体験レポートの作成に活かす。 【復習】事後学修として、社会、働く意味、そして社会人としての自らのあり方について考える。	6 時間